

## 補足説明資料7－6

## 1. 必要な要員及び資源の算出方法

### 1.1 必要な要員の算出方法

蒸発乾固の発生防止対策及び拡大防止対策において、外的事象の「地震」を要因とした場合に必要な要員は、待機している要員を含めた場合の蒸発乾固への対処に関与している要員数、待機している要員を含めた各対策に関与している要員数を算出する。

外的事象の「地震」を条件として蒸発乾固が発生した場合、待機している要員を含めた蒸発乾固への対処に関与している要員数が最も多くなり141人である。外的事象の「地震」を条件として蒸発乾固が発生した場合、待機している要員を含めた蒸発乾固への対処に関与している要員数を第1. - 1図に「火山の影響」を条件として蒸発乾固が発生した場合、待機している要員を含めた蒸発乾固への対処に関与している要員数を第1. - 2図に示す。

待機している要員を含めた各対策に関与している要員数は、建屋対策班、建屋外対応班、実施責任者等から算出する。精製建屋における内部ループへの通水は建屋対策班（建屋内14班、15班、16班、17班、18班、23班、26班、27班）の16人、建屋外対応班（建屋外班員、燃料給油班1班～3班、建屋外1～8班）の19人及び実施責任者等（実施責任者、建屋対策班長、現場管理者、要員管理班、情報管理班、通信班長、建屋外対応班長、放射線対応班長、放射線対応班1～5班）の28人の合計63人となる。その他の建屋及び対策に係る要員も同様に算出する。第1. - 3図に精製建屋における内部ループへの通水に関与している要員数の算出例を示す。

第7.2-7図 精製建屋における地震を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (抜粋)

作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間(時:分)	所要時間			
					0:00	1:00	2:00	3:00
-	・現場準備確認 (屋内のアセスメントの確認及び可搬型循環装置の設置)	建屋内11班, 建屋内12班 建屋内13班	6	1:20	建屋内11, 12, 13班	→	→	→
AC 20	・影響種別確認	建屋内23班	2	1:00				
AC 21	・可搬型貯槽温度計設置及び貯槽等温度計測	建屋内14班, 建屋内15班	4	1:30				
AC 22	・内部ループへの通水準備 (可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 弁開閉)	建屋内14班, 建屋内15班	4	0:50				
AC 23	・内部ループへの通水実施 (弁操作, 漏えい確認, 内部ループ通水流量確認)	建屋内14班	2					
AC 24	・貯槽等温度計測	建屋内15班	2	0:30				
AC 受皿	・可搬型漏えい液受皿取付設置 (漏えい液受皿取付測定)	建屋内18班, 建屋内17班 建屋内19班	6	1:20				
AC 31	・計器監視 (貯槽等温度, 内部ループ通水流量, 排水流量)・可搬型発電機及び可搬型空気圧縮機等への燃料の補給	建屋内28班, 建屋内27班	4	-				

**建屋対策班：16人**

作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間(時:分)	所要時間			
					0:00	1:00	2:00	3:00
-	・実施責任者		1	-				
-	・進捗管理班		3	-				
-	・作業管理班		3	-				
-	・保安管理班		3	-				
-	・連携班		1	1:15				
-	・建屋外対応班		1	-				
計			16	-				

**建屋外対応班：16人**

作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間(時:分)	所要時間			
					0:00	1:00	2:00	3:00
計			28	-				
計 3	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (燃料補給用1班)	燃料補給班	1	-				
計 4	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (燃料補給用1班)	燃料補給班	1	-				
計 5	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (保安管理班1班)	燃料補給班	1	-				
計 6	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (保安管理班1班)	燃料補給班	1	-				
計 7	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (保安管理班1班)	燃料補給班	1	2:10				
計 8	・転送用ポンプロープから可搬型発電機用電源 (システム電源) への燃料の補給及び転送用ポンプロープの移動 (保安管理班1班)	燃料補給班	1	-				
外 1	・第1貯水槽から各層までのアセスメント (北側)	燃料補給班	2	0:35				
外 2	・第1貯水槽から各層までのアセスメント (南側)	燃料補給班	2	0:35				
外 3	・オイルロープの確認	建屋外班, 建屋外班	3	0:20				
外 4	・システム電源の燃料 (ガソリン) 補給	燃料補給班, 燃料補給班	2	1:00				

**実施責任者等：28人**

第1-3図 精製建屋における内部ループへの通水に関与している要員数の算出例

1.2 必要な水源の算出方法

貯槽等への注水によって消費される水量は、貯槽等に内包する高レベル廃液等の蒸発速度に対して、高レベル廃液等の沸騰までの時間余裕と冷却コイル等への通水開始までの時間の差の積である。

また、単位時間当たりの蒸発速度については、貯槽等に内包する高レベル廃液等の崩壊熱(貯槽等に内包する高レベル廃液等の崩壊熱密度と溶液量の積)を水の蒸発潜熱で除して算出する。

貯槽等への注水によって消費される水量

= 蒸発速度 × (冷却コイル等への通水開始までの時間)

－高レベル廃液等の沸騰までの時間余裕)

以上の条件で評価した結果、貯槽等への注水によって消費される水量は、合計約 26m<sup>3</sup>の水が必要である。

貯槽等への注水によって消費される各建屋での水量についての詳細を以下に示す。

前処理建屋	約 0 m <sup>3</sup>
分離建屋	約 1.4 m <sup>3</sup>
精製建屋	約 2.1 m <sup>3</sup>
ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋	約 0.2 m <sup>3</sup>
高レベル廃液ガラス固化建屋	約 23 m <sup>3</sup>
全建屋合計	約 26 m <sup>3</sup>

貯槽等への注水によって消費される水量 (=凝縮水の発生量) の詳細は、補足説明資料 7-8 に示すとおりである。

また、代替安全冷却水系と第 1 貯水槽間を循環させるために必要な水量は、約 3,000m<sup>3</sup>である。

### 1.3 必要な燃料の算出方法

蒸発乾固への対処に必要な燃料は、機器の 1 時間あたりの燃料消費量と燃料を必要とする機器の使用開始から対応時間 7 日間 (168 時間) までの時間の差 (使用時間) の積である。

蒸発乾固への対処で燃料 (軽油) を必要とする設備としては、可搬型中型移送ポンプ、可搬型発電機、可搬型空気圧縮機、軽油用タンクローリ、可搬型中型移送ポンプ運搬車、ホース展張車、運搬車及びホイールローダがある。

1 時間あたりの燃料消費量を第 1.3-1 表に示す。



第 1.3-1 表 各機器の 1 時間あたりの燃料消費量

機器名	台数	1 時間あたりの燃料消費量 (m <sup>3</sup> /h)
可搬型中型移送ポンプ	6	0.043
可搬型発電機	4	0.018
可搬型排気モニタリング用発電機	1	0.0013
可搬型空気圧縮機 (前処理建屋, 分離建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋)	3	0.01
可搬型空気圧縮機 (精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	1	0.008
軽油用タンクローリ	3	0.002
可搬型中型移送ポンプ運搬車	2	0.002
ホース展張車	2	0.002
運搬車	2 (9 <sup>※</sup> )	0.005
ホイールローダ	3	0.02

※外的事象の「火山の影響」想定

必要な燃料の量については、可搬型中型移送ポンプ、可搬型発電機及び可搬型空気圧縮機を共用する対策、建屋の中で、最も使用量が多くなるように算出する。(共用している中で使用開始が最も早いものをもとに必要な燃料の量を算出)

### 1.3.1 可搬型中型移送ポンプ

可搬型移送ポンプは、蒸発乾固の発生防止対策の内部ループへの通水と蒸発乾固の拡大防止対策の貯槽等への注水、冷却コイル等への通水及び凝縮器への通水で同じ可搬型移送ポンプを使用する。

貯水槽から建屋への水供給及び建屋から貯水槽への排水に使用する可搬型移送ポンプは、前処理建屋で 2 台、分離建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋で 2 台、高レベル廃液ガラス固化建屋で 2 台使用する。

外的事象の「地震」又は「火山の影響」の想定によらず、必要な燃料の量は変わらない。

必要燃料算出過程（外的事象の「地震」又は「火山の影響」想定）	合計
可搬型中型移送ポンプ（給水） 3台起動 （燃料消費率は保守的に定格出力運転時を想定） 前処理建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 142.9\text{h（運転時間）} = \text{約 } 6.2\text{m}^3$ 分離建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 166.9\text{h（運転時間）} = \text{約 } 7.2\text{m}^3$ 高レベル廃液ガラス固化建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 166.4\text{h（運転時間）} = \text{約 } 7.2\text{m}^3$	7日間の軽油消費量 約 $20\text{m}^3$
可搬型中型移送ポンプ（排水） 3台起動 （燃料消費率は保守的に定格出力運転時を想定） 前処理建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 132.5\text{h（運転時間）} = \text{約 } 5.8\text{m}^3$ 分離建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 159\text{h（運転時間）} = \text{約 } 6.9\text{m}^3$ 高レベル廃液ガラス固化建屋 $43\text{L/h（燃料消費率）} \times 151.5\text{h（運転時間）} = \text{約 } 6.6\text{m}^3$	7日間の軽油消費量 約 $20\text{m}^3$

### 1.3.2 可搬型発電機

可搬型発電機は、蒸発乾固の拡大防止対策の可搬型排風機の運転に使用する。

前処理建屋で1台、分離建屋で1台、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋で1台、高レベル廃液ガラス固化建屋で1台使用する。

また、主排気筒を介した大気中への放射性物質の放出状況の監視に必要な負荷への給電のために可搬型排気モニタリング用発電機（1台）を使用する。

外的事象の「地震」又は「火山の影響」の想定によらず、必要な燃料の量は変わらない。

必要燃料算出過程（外的事象の「地震」又は「火山の影響」想定）	合計
可搬型発電機（18L/h） 4台起動 前処理建屋 $18\text{L/h（燃料消費率）} \times 161.5\text{（運転時間）} = \text{約 } 2.9\text{m}^3$ 分離建屋 $18\text{L/h（燃料消費率）} \times 163.5\text{h（運転時間）} = \text{約 } 3.0\text{m}^3$ 精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋 $18\text{L/h（燃料消費率）} \times 163.5\text{h（運転時間）} = \text{約 } 3.0\text{m}^3$ 高レベル廃液ガラス固化建屋 $18\text{L/h（燃料消費率）} \times 165\text{h（運転時間）} = \text{約 } 3.0\text{m}^3$ 可搬型排気モニタリング用発電機 $1.3\text{L/h（燃料消費率）} \times 166.7\text{h（運転時間）} = \text{約 } 0.22\text{m}^3$	7日間の軽油消費量 約12m <sup>3</sup>

### 1.3.3 可搬型空気圧縮機

可搬型空気圧縮機は、重大事故等計装設備の可搬型液位計への圧縮空気の供給に使用する。

前処理建屋で1台、分離建屋で1台、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋で1台、高レベル廃液ガラス固化建屋で1台使用する。

外的事象の「地震」又は「火山の影響」の想定によらず、必要な燃料の量は変わらない。

必要燃料算出過程（外的事象の「地震」又は「火山の影響」想定）	合計
可搬型空気圧縮機 4台起動 前処理建屋 $10\text{L/h（燃料消費率）} \times 132\text{h（運転時間）} = \text{約 } 1.4\text{m}^3$ 分離建屋 $10\text{L/h（燃料消費率）} \times 162\text{h（運転時間）} = \text{約 } 1.7\text{m}^3$ 精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝理建屋 $8\text{L/h（燃料消費率）} \times 166.7\text{h（運転時間）} = \text{約 } 1.4\text{m}^3$ 高レベル廃液ガラス固化建屋 $10\text{L/h（燃料消費率）} \times 157.5\text{h（運転時間）} = \text{約 } 1.6\text{m}^3$	7日間の軽油消費量 約5.9m <sup>3</sup>

### 1.3.4 軽油用タンクローリ，可搬型中型移送ポンプ運搬車，ホース展張車， 運搬車及びホイールローダ

軽油用タンクローリ，可搬型中型移送ポンプ運搬車，ホース展張車，運搬車及びホイールローダは，燃料及び可搬型重大事故等対処設備の運搬及び設置並びにアクセスルートの整備に使用する。

外的事象の「地震」及び「火山の影響」の想定時に必要な燃料の量をそれぞれ下表に示す。

必要燃料算出過程（外的事象の「地震」想定）	合計
運搬等に必要な車両等 軽油用タンクローリ $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 168\text{h（運転時間）} \times 3\text{台} = \text{約 } 1.0\text{m}^3$ 可搬型中型移送ポンプ運搬車 $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 2.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.010\text{m}^3$ ホース展張車 $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 5.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.022\text{m}^3$ 運搬車 $5\text{L/h（燃料消費率）} \times 12.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.13\text{m}^3$ ホイールローダ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 168\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 3.4\text{m}^3$ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 3.7\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 0.074\text{m}^3$ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 3.7\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 0.074\text{m}^3$	7 日間の軽油消費量 約 $4.7\text{m}^3$

必要燃料算出過程（外的事象の「火山の影響」想定）	合計
運搬等に必要な車両等 軽油用タンクローリ $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 168\text{h（運転時間）} \times 3\text{台} = \text{約 } 1.0\text{m}^3$ 可搬型中型移送ポンプ運搬車 $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 2.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.010\text{m}^3$ ホース展張車 $2\text{L/h（燃料消費率）} \times 5.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.022\text{m}^3$ 運搬車 $5\text{L/h（燃料消費率）} \times 12.5\text{h（運転時間）} \times 2\text{台} = \text{約 } 0.13\text{m}^3$ $5\text{L/h（燃料消費率）} \times 1.4\text{h（運転時間）} \times 6\text{台} = \text{約 } 0.04\text{m}^3$ $5\text{L/h（燃料消費率）} \times 0.7\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 0.0034\text{m}^3$ ホイールローダ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 168\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 3.4\text{m}^3$ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 3.7\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 0.074\text{m}^3$ $20\text{L/h（燃料消費率）} \times 3.7\text{h（運転時間）} \times 1\text{台} = \text{約 } 0.074\text{m}^3$	7 日間の軽油消費量 約 $4.8\text{m}^3$

#### 1.4 必要な電源の算出方法

可搬型発電機については、蒸発乾固の拡大防止対策での可搬型排風機の運転に使用する。建屋間の共用については、精製建屋とウラン・プルトニウム混合脱硝建屋のみ共用している。

##### 1.4.1 前処理建屋可搬型発電機

前処理建屋可搬型発電機の電源負荷を積上げた結果は以下のとおりである。動的負荷である前処理建屋の可搬型排風機の起動時容量については、電動機の起動電流（7.5 kW以下の電動機については、全負荷電流の75%）を踏まえ容量を7.5倍とし、 $5.2 \text{ kVA} / \text{台} \times 1 \text{ 台} \times 7.5 = 39 \text{ kVA}$ と評価した。

可搬型排風機の起動時を考慮しても39 kVAであることから、可搬型発電機の容量である約80 kVAを超えることなく給電可能である。

(単位はkVA)

順番	対象機器	台数	定格容量	積上げ	起動時
1	可搬型排風機	1	5.2	5.2	39
合 計 (起動時は最高値を記載)				5.2	39
評 価			80 kVA以下		

##### 1.4.2 分離建屋可搬型発電機

分離建屋可搬型発電機の電源負荷を積上げた結果は以下のとおりである。動的負荷である分離建屋の可搬型排風機の起動時容量については、電動機の起動電流（7.5 kW以下の電動機については、全負荷電流の75%）を踏まえ容量を7.5倍とし、 $5.2 \text{ kVA} / \text{台} \times 1 \text{ 台} \times 7.5 = 39 \text{ kVA}$ と評価した。

可搬型排風機の起動時を考慮しても 39 k V A であることから、可搬型発電機の容量である約 80 k V A を超えることなく給電可能である。

(単位は k V A)

順番	対象機器	台数	定格容量	積上げ	起動時
1	可搬型排風機	1	5.2	5.2	39
合 計 (起動時は最高値を記載)				5.2	39
評 価			80 k V A 以下		

#### 1.4.3 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋可搬型発電機 (精製建屋と共用)

ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋可搬型発電機の電源負荷を積上げた結果は以下のとおりである。動的負荷である精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋に可搬型排風機の起動時容量については、電動機の起動電流 (7.5 kW 以下の電動機については、全負荷電流の 75%) を踏まえ容量を 7.5 倍とし、 $5.2 \text{ k V A} / \text{台} \times 1 \text{ 台} \times 7.5 = 39 \text{ k V A}$  と評価した。

可搬型排風機の 1 台運転中で、さらに 1 台が起動する場合は、約 45 k V A であることから、可搬型発電機の容量である約 80 k V A を超えることなく給電可能である。

(単位は k V A)

順番	対象機器	台数	定格容量	積上げ	起動時
1	可搬型排風機 (精製建屋)	1	5.2	5.2	39
2	可搬型排風機 (ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	1	5.2	10.4	44.2
合 計 (起動時は最高値を記載)				10.4	44.2
評 価			80 k V A 以下		

#### 1.4.4 高レベル廃液ガラス固化建屋可搬型発電機

高レベル廃液ガラス固化建屋可搬型発電機の電源負荷を積上げた結果は以下のとおりである。動的負荷である可搬型排風機の起動時容量については、電動機の起動電流（7.5 kW以下の電動機については、全負荷電流の75%）を踏まえ容量を7.5倍とし、 $5.2 \text{ kVA} / \text{台} \times 1 \text{ 台} \times 7.5 = 39 \text{ kVA}$ と評価した。

可搬型排風機の起動時を考慮しても39 kVAであることから、可搬型発電機の容量である約80 kVAを超えることなく給電可能である。

(単位はkVA)

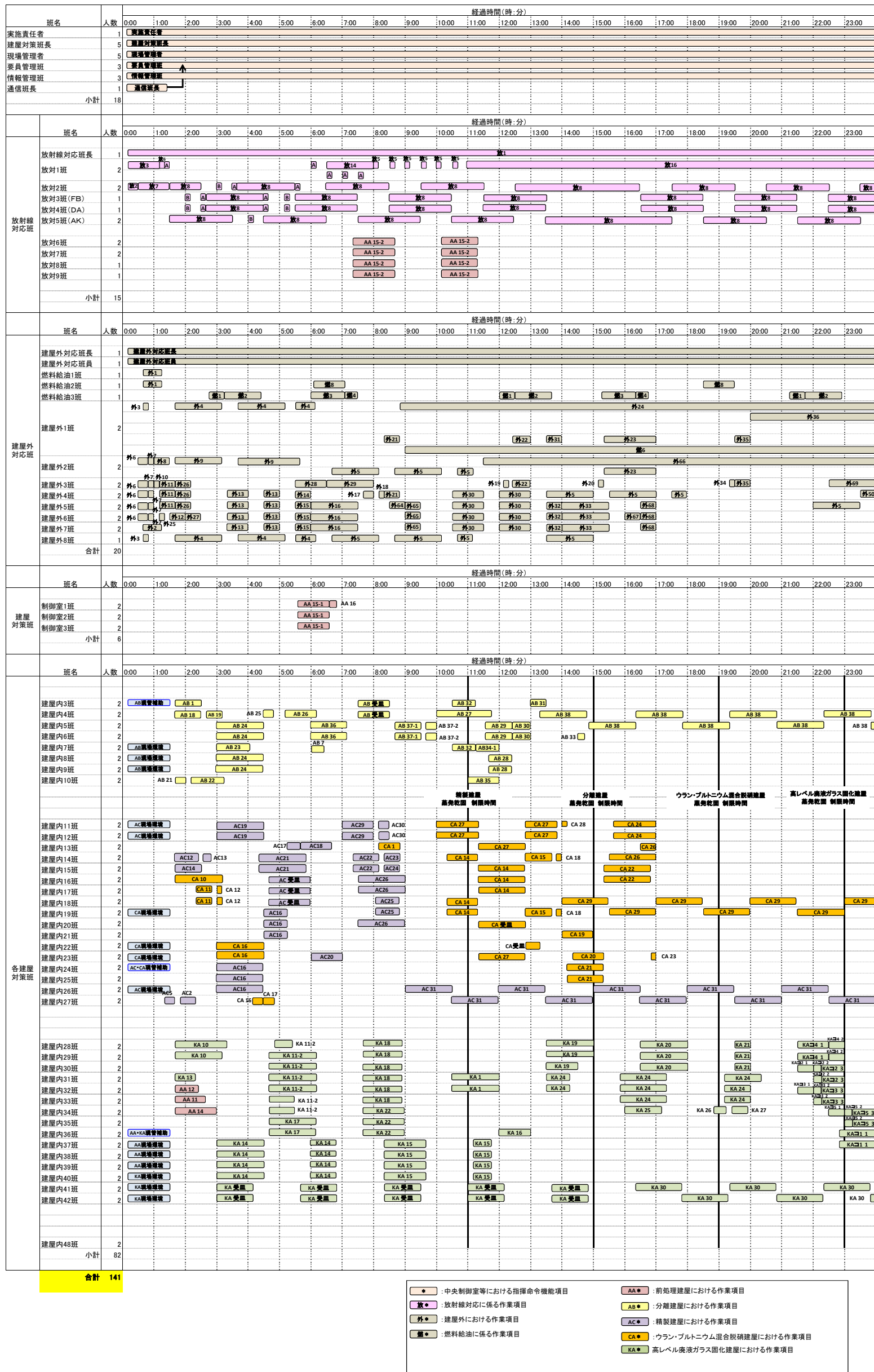
順番	対象機器	台数	定格容量	積上げ	起動時
1	可搬型排風機	1	5.2	5.2	39
合 計 (起動時は最高値を記載)				5.2	39
評 価			80 kVA以下		

#### 1.4.5 可搬型排気モニタリング用発電機

可搬型排気モニタリング用発電機の電源負荷を積上げた結果は以下のとおりである。対象負荷の積上げは約1.8 kVAであることから、可搬型発電機の容量である約3 kVAを超えることなく給電可能である。

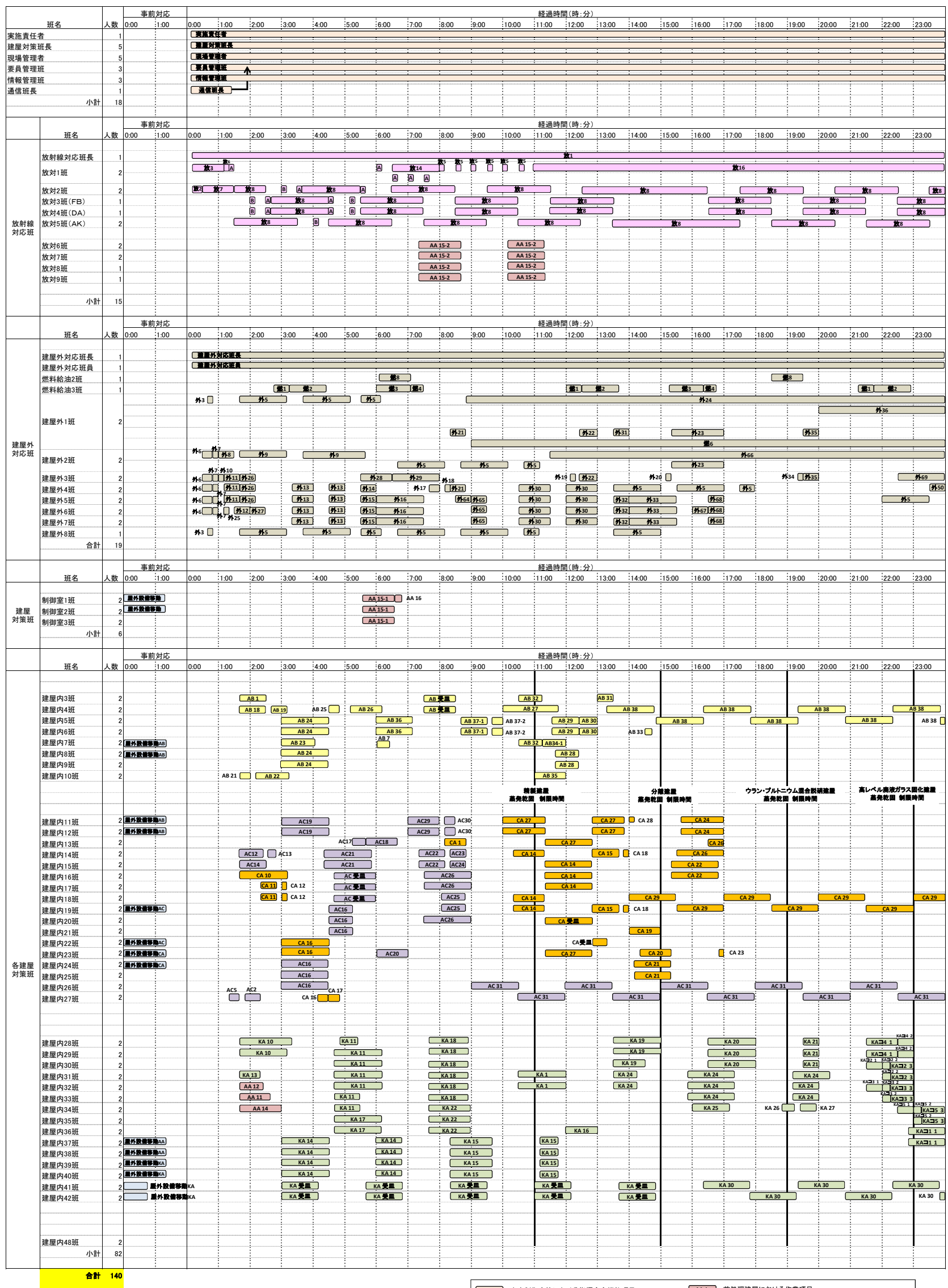
(単位はkVA)

順番	対象機器	台数	定格容量	積上げ	起動時
1	可搬型ガスモニタ	1	0.163	0.163	0.163
2	可搬型排気サンプリング設備	1	0.660	0.823	0.823
3	可搬型核種分析装置	1	0.250	1.073	1.073
4	可搬型トリチウム測定装置	1	0.500	1.573	1.573
5	可搬型排気モニタリング用データ伝送装置	1	0.150	1.723	1.723
合 計 (起動時は最高値を記載)				1.723	1.723
評 価			3 kVA以下		



第1. - 1 図 「地震」 を条件として蒸発乾固が発生した場合の対処要員





第1. - 2 図 「火山の影響」を条件として蒸発乾固が発生した場合の対処要員

令和 2 年 4 月 1 3 日 R5

## 補足説明資料 7 - 7

## 1. 蒸発乾固における事態の収束までの放出量評価

### 1.1 評価内容

冷却機能が喪失し，高レベル廃液等が沸騰に至ってから事態が収束するまでの放射性物質の大気中への放出量を評価する。沸騰停止までに気相部へ移行した放射性物質の全量が大気中へ放出されたものとして評価する。事態が収束するタイミングは，冷却機能の回復である冷却コイル等への通水開始時であり，放射性物質の放出が停止するものとする。

なお，評価対象建屋は蒸発乾固の発生を想定する前処理建屋，分離建屋，精製建屋，ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋である。

### 1.2 大気中への放射性物質の放出量評価

大気中への放射性物質の放出量は，重大事故等が発生する貯槽等に内包する放射性物質質量に対して，高レベル廃液等が沸騰を開始してから乾燥し固化に至るまでの期間のうち，放射性物質の放出に寄与する時間割合，高レベル廃液等の沸騰に伴い気相中に移行する放射性物質の割合，大気中への放出経路における低減割合を乗じて算出する。

また，評価した大気中への放射性物質の放出量にセシウム-137への換算係数を乗じて，大気中へ放出された放射性物質の放出量（セシウム-137換算）を算出する。

### 1.3 冷却コイル等への通水開始までの時間

各建屋とも貯槽等への注水，塔槽類廃ガス処理設備からセルへの導出経路の構築，凝縮器による発生した蒸気及び放射性物質の除去，可搬型フィルタ及び可搬型排風機を用いたセル排気系を代替する排気系による対応を優先して実施し，大気中への放射性物質の放出を抑制できる状態を整備してから，冷却コイル等への通水の作業に着手する。

冷却機能の喪失から冷却コイル等への通水開始までに要する時間は，第 1. - 1 表に示す通りである。

第 1. - 1 表 各建屋の冷却コイル等への通水完了時間

機器グループ	冷却機能の喪失から冷却コイル等への通水開始までの時間
前処理建屋内部ループ 1	46 時間 15 分
前処理建屋内部ループ 2	45 時間 00 分
分離建屋内部ループ 1	25 時間 55 分
分離建屋内部ループ 2	47 時間 40 分
分離建屋内部ループ 3	65 時間 45 分
精製建屋内部ループ 1	30 時間 40 分
精製建屋内部ループ 2	37 時間 30 分
ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋内部ループ	26 時間 20 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 1	37 時間 55 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 2	34 時間 35 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 3	36 時間 05 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 4	37 時間 35 分

#### 1.4 評価に用いる各種パラメータの設定

大気中への放射性物質の放出量を「1.2 大気中への放射性物質の放出量評価」の通りに算出する。また，算出に必要なパラメータは第 1. - 2 表に示す通りである。

第 1. - 2 表 放出量評価に必要なパラメータの設定

項目	パラメータ	
貯槽等に内包する放射性物質質量 (MAR)	貯槽等ごとに設定	
高レベル廃液等が沸騰を開始してから乾燥し固化に至るまでの期間のうち，放射性物質の放出に寄与する時間割合 (DR)	貯槽等ごとに設定	
高レベル廃液等の沸騰に伴い気相中に移行する放射性物質の割合 (ARF)	$5.0 \times 10^{-5}$	
大気中への放出経路における除染係数 (DF)	凝縮器	10
	経路上での沈着等	10
	高性能粒子フィルタ	$1.0 \times 10^5$

## 1.5 貯槽等に内包する放射性物質量の設定

貯槽等が内包する放射性物質量は，1日あたりに処理する使用済燃料の平均燃焼度  $45,000\text{MW d} / \text{t} \cdot \text{UPr}$ ，照射前燃料濃縮度  $4.5\text{wt}\%$ ，比出力  $38\text{MW} / \text{t} \cdot \text{UPr}$ ，冷却期間 15 年を基に算出した内蔵放射能に，使用済燃料の燃料仕様の変動に係る補正係数を考慮して平常運転時の最大値を算出し設定する。使用済燃料の燃料仕様の変動に係る補正係数を第 1. - 3 表に示す。

第 1. - 3 表 使用済燃料の燃料仕様の変動に係る補正係数

元素グループ	使用済燃料中の放射能 ( B q / t · U P r )		燃料仕様の変動に係る補正係数
	R u / R h	1.6 × 10 <sup>12</sup>	
その他 F P ※ 1	1.3 × 10 <sup>16</sup>		1.1
P u	α	1.7 × 10 <sup>14</sup>	2.0
	β	2.9 × 10 <sup>15</sup>	
A m , C m	1.8 × 10 <sup>14</sup>		2.7

※ 1 その他 F P とは、核分裂生成物のうち、K r - 85 ,  
I - 129 及び R u / R h を除いたものを示す。

※ 2 R u 及び R h の合算値を示す。

### 1.6 高レベル廃液等の沸騰に伴い気相中に移行する放射性物質の割合の設定

高レベル廃液等の沸騰に伴い気相中に移行する放射性物質の割合は、0.005%<sup>(1)</sup>とする。A R F の設定根拠については、「2. 沸騰状態における飛沫同伴移行割合について」で記載する。

### 1.7 大気中への放出経路における除染係数の設定

凝縮器による放射性エアロゾルの除染係数は、10 とする。また、放出経路上の構造物への沈着による放射性エアロゾルの除染係数は、10 とする。さらに、高性能粒子フィルタの放

放射性エアロゾルの除染係数<sup>(2)</sup>は、凝縮器による蒸気の凝縮により、高性能粒子フィルタが所定の性能を発揮できることから2段で $10^5$ とする。DFの設定根拠については、「3. 除染係数の設定について」で記載する。

#### 1.8 セシウム-137 換算係数

放射性物質のセシウム-137 換算係数は、IAEA-TECDOC-1162 に記載されている地表沈着した核種からのガンマ線による外部被ばく及び再浮遊核種の吸入による内部被ばくを考慮した50年間の実効線量への換算係数並びに吸入核種の化学形態を線量告示に適合させるために、プルトニウム等の一部の核種について、IAEA-TECDOC-<sup>(3)</sup>1162に記載の吸入摂取換算係数をICRP Publication<sup>(4)</sup>.72の吸入摂取換算係数で補正するために設定する「吸入核種の化学形態に係る補正係数」を用いて、以下の計算式により算出する。

また、セシウム-137 換算係数の算出過程を第1.4表に示す。

セシウム-137 換算係数

$$= (\text{ある核種のCF4換算係数}) / (\text{セシウム-137CF4換算係数}) \times (\text{吸入核種の化学形態に係る補正係数})$$



第 1. - 4 表 主要な核種のセシウム-137 換算係数

	IAEA-TECDOC- 1162 の CF <sub>4</sub> 換算係数 [A]	IAEA-TECDOC- 1162 の CF <sub>4</sub> 換算係数 (Cs 137 の値) [B]	吸入核種の化学形態 に係る補正係数 [C]	Cs 137 換算係数 ※1 [D] = [A] / [B] × [C]
	(mSv / (kBq · m <sup>-2</sup> ))	(mSv / (kBq · m <sup>-2</sup> ))	(-)	(-)
Sr 90	2.1E-02	1.3E-01	1.0	0.16
Ru 106	4.8E-03	1.3E-01		0.037
Cs 134	5.1E-02	1.3E-01		0.39
Cs 137	1.3E-01	1.3E-01		1.0
Ce 144	1.4E-03	1.3E-01		0.011
Eu 154	1.3E-01	1.3E-01		1.0
Pu 238	6.6E+00	1.3E-01		0.41
Pu 239	8.5E+00	1.3E-01	0.42	27
Pu 240	8.4E+00	1.3E-01	0.42	27
Pu 241	1.9E-01	1.3E-01	0.39	0.56
Am 241	6.7E+00	1.3E-01	0.45	23
Cm 242	5.9E-02	1.3E-01	0.88	0.40
Cm 244	2.8E+00	1.3E-01	0.47	10

注：放射平衡核種の子孫核種の寄与は，親核種に含む。

	IAEA-TECDOC- 1162 の吸入 摂取換算係数 [a]	ICRP Publication.72 の 吸入摂取 換算係数 (化学形態を考慮) [b]	吸入核種の化学形態に係る補正係数 [c] = [b] / [a]
	(Sv / Bq)	(Sv / Bq)	(-)
Pu 238	1.13E-04 ※2	4.6E-05	0.41
Pu 239	1.20E-04 ※2	5.0E-05	0.42
Pu 240	1.20E-04 ※2	5.0E-05	0.42
Pu 241	2.33E-06 ※2	9.0E-07	0.39
Am 241	9.33E-05	4.2E-05	0.45
Cm 242	5.93E-06	5.2E-06	0.88
Cm 244	5.73E-05	2.7E-05	0.47

※ 1 : 地表沈着した核種からの外部被ばく及び再浮遊核種の吸入による内部被ばくの 50 年間の実効線量を用いてセシウム-137 放出量に換算する係数

※ 2 : 化学形態としてキレートを想定

## 1.9 評価結果

冷却機能の喪失から蒸発乾固における事態の収束までの放射性物質の大気中への放出量（セシウム-137換算）の計算過程を第1. - 5 表から第1. - 9 表に，評価結果を第1. - 10表に示す。

第 1. - 10 表の結果から，放射性物質の放出量は事業指定基準規則第 28 条で要求されているセシウム-137 換算で 100 T B q を十分下回る。

さらに放出量評価の前提を第 1. - 1 図から第 1. - 5 図に示す。







第1. - 8表 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における事態の収束  
までの放出量（セシウム-137換算）の計算過程

蒸発乾固 対象貯槽等	核種Gr	MAR [Bq]	ARF [-]	LPF [-]	沸騰開始 時間 [h]	冷却コイル 等への過水 開始時間 [h]	沸騰継続時間 [h]	DR [-]	①	②	③=①×②	④=Σ③	⑤=Σ④
									放出量 [Bq]	セシウム-137 換算係数 [Bq/Bq]	放出量 (セシウム-137換算) [Bq]	機器総放出量 (セシウム-137換算) [TBq]	建屋総放出量 (セシウム-137換算) [TBq]
硝酸プルトニウム貯槽	Zr/Nb	0.00E+00							0.00E+00	3.41E-02	0.00E+00		
硝酸プルトニウム貯槽	Ru/Bh	2.08E+06							1.64E-06	1.84E-02	3.02E-08		
硝酸プルトニウム貯槽	Cs/Ba	4.04E+08							3.18E-04	5.13E-01	1.63E-04		
硝酸プルトニウム貯槽	Cs/Pz	8.47E+04							6.07E-08	5.35E-03	3.27E-10		
硝酸プルトニウム貯槽	Sr/Y	4.92E+08	5.00E-05	1.00E-07	19.1	26.3	46.0	1.57E-01	3.87E-04	8.08E-02	3.13E-05	2.18E-07	
硝酸プルトニウム貯槽	その他FP	6.36E+09							5.01E-03	4.87E-01	2.44E-03		
硝酸プルトニウム貯槽	Pu	1.56E+17							1.23E+05	1.76E+00	2.16E+05		
硝酸プルトニウム貯槽	Am/Cm	1.52E+14							1.20E+02	1.78E+01	2.13E+03		
硝酸プルトニウム貯槽	U	8.72E+07							6.87E-05	7.35E+00	5.05E-04		
硝酸プルトニウム貯槽	Np	0.00E+00							0.00E+00	3.41E-01	0.00E+00		
混合槽A	Zr/Nb	0.00E+00							0.00E+00	2.41E-02	0.00E+00		
混合槽A	Ru/Bh	1.29E+06							0.00E+00	1.84E-02	0.00E+00		
混合槽A	Cs/Ba	2.50E+08							0.00E+00	3.13E-01	0.00E+00		
混合槽A	Cs/Pz	5.25E+04							0.00E+00	5.35E-03	0.00E+00		
混合槽A	Sr/Y	3.04E+08	5.00E-05	1.00E-07	30.9	26.3	85.4	0.00E+00	0.00E+00	8.08E-02	0.00E+00	0.00E+00	2.18E-07
混合槽A	その他FP	3.93E+09							0.00E+00	4.87E-01	0.00E+00		
混合槽A	Pu	9.58E+16							0.00E+00	1.76E+00	0.00E+00		
混合槽A	Am/Cm	9.34E+13							0.00E+00	1.78E+01	0.00E+00		
混合槽A	U	2.58E+10							0.00E+00	7.35E+00	0.00E+00		
混合槽A	Np	4.35E+08							0.00E+00	3.41E-01	0.00E+00		
混合槽B	Zr/Nb	0.00E+00							0.00E+00	2.41E-02	0.00E+00		
混合槽B	Ru/Bh	1.29E+06							0.00E+00	1.84E-02	0.00E+00		
混合槽B	Cs/Ba	2.50E+08							0.00E+00	3.13E-01	0.00E+00		
混合槽B	Cs/Pz	5.25E+04							0.00E+00	5.35E-03	0.00E+00		
混合槽B	Sr/Y	3.04E+08	5.00E-05	1.00E-07	30.9	26.3	85.4	0.00E+00	0.00E+00	8.08E-02	0.00E+00	0.00E+00	
混合槽B	その他FP	3.93E+09							0.00E+00	4.87E-01	0.00E+00		
混合槽B	Pu	9.58E+16							0.00E+00	1.76E+00	0.00E+00		
混合槽B	Am/Cm	9.34E+13							0.00E+00	1.78E+01	0.00E+00		
混合槽B	U	2.58E+10							0.00E+00	7.35E+00	0.00E+00		
混合槽B	Np	4.35E+08							0.00E+00	3.41E-01	0.00E+00		

※LPF = 1 / DF

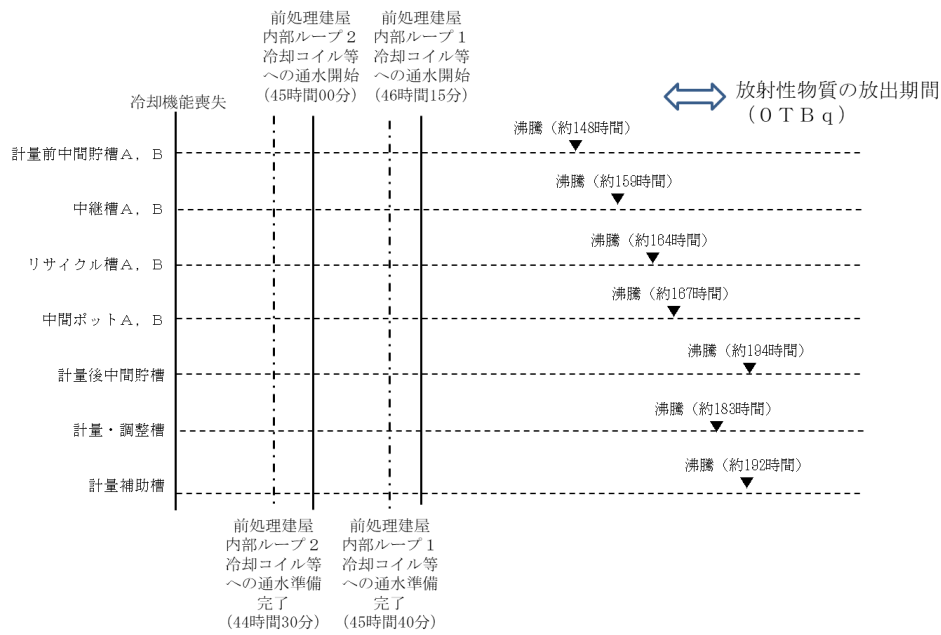


第 1. - 10 表 蒸発乾固における事態の収束までの放出量  
(セシウム-137 換算)

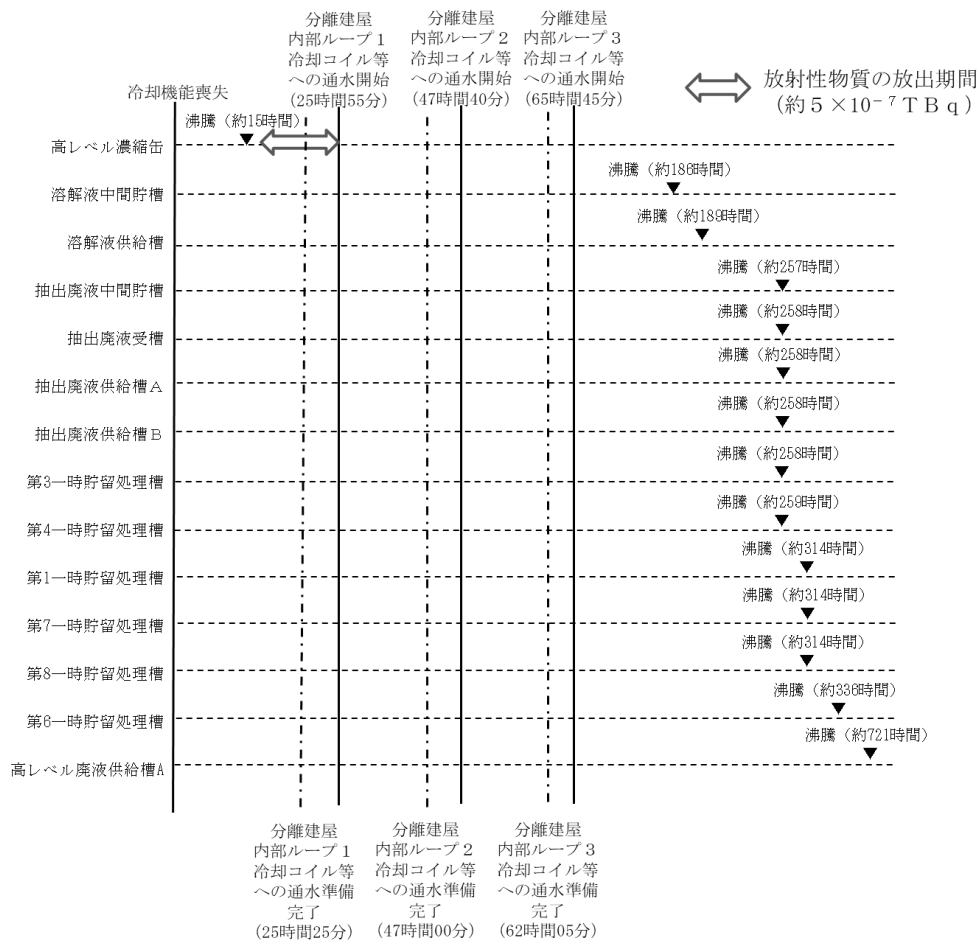
建屋	放出量 (セシウム-137 換算) [T B q]
前処理建屋	- ※
分離建屋	$5 \times 10^{-7}$
精製建屋	$5 \times 10^{-6}$
ウラン・プルトニウム 混合脱硝建屋	$3 \times 10^{-7}$
高レベル廃液 ガラス固化建屋	$4 \times 10^{-6}$
合計	$9 \times 10^{-6}$

※沸騰前までに全ての貯槽等で冷却コイル等への通水が完了するため、放射性物質の放出はない。

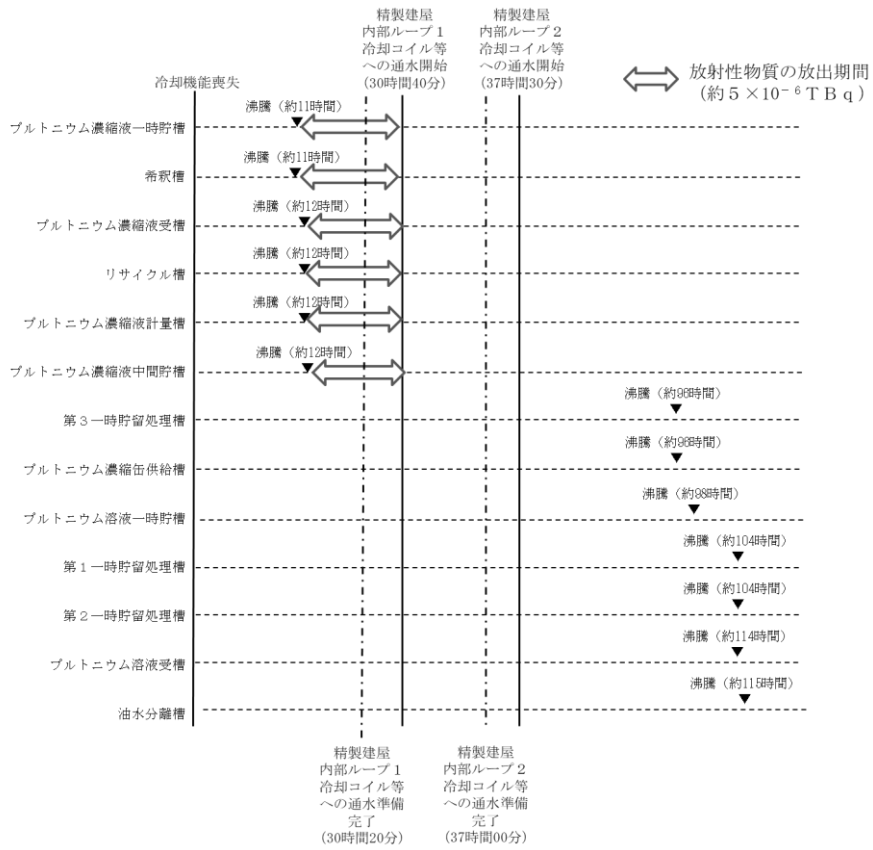




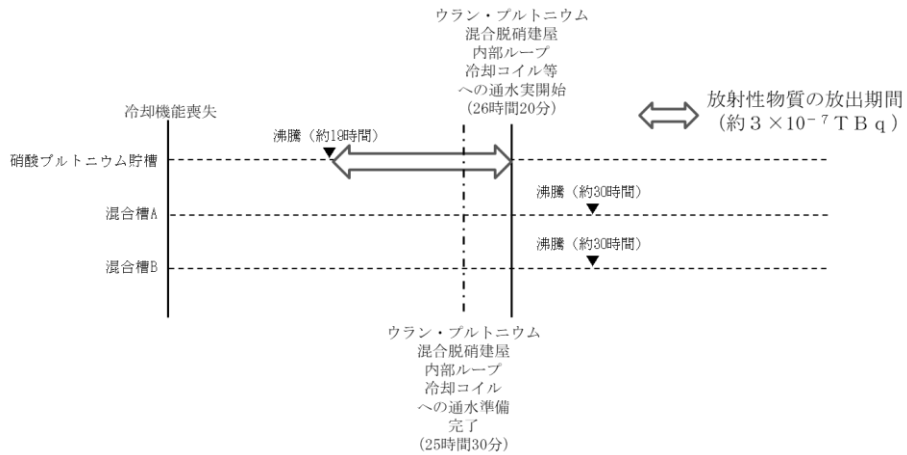
第 1. - 1 図 前処理建屋の放出量評価の前提



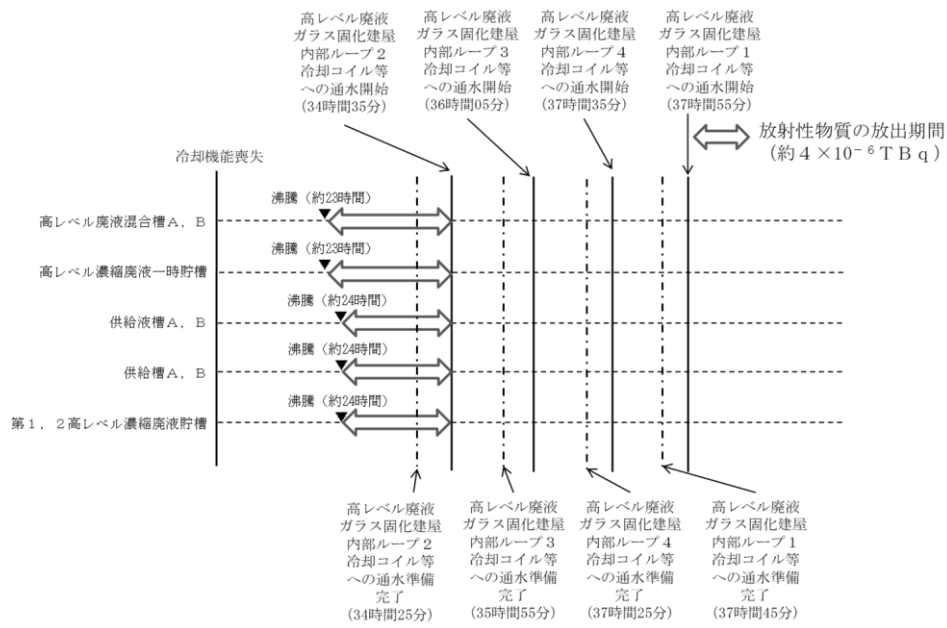
第 1. - 2 図 分離建屋の放出量評価の前提



第 1. - 3 図 精製建屋の放出量評価の前提



第 1. - 4 図 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の放出量評価の前提



第 1. - 5 図 高レベル廃液ガラス固化建屋の放出量評価の前提

## 2. 沸騰状態における飛沫同伴移行割合について<sup>(1)</sup>

### 2.1 移行割合の定義

冷却機能喪失に伴う崩壊熱による高レベル廃液等の沸騰時の、飛まつ同伴に起因する気相中への放射性物質の移行評価に用いる移行割合 A R F は、貯槽等内の全放射性物質質量 [ B q ] に対する貯槽等外部に移行した放射性物質質量 [ B q ] の割合として定義される。

$$\text{移行割合} = \frac{\text{貯槽等外部に移行した放射性物質質量 [ B q ]}}{\text{貯槽等内の全放射性物質質量 [ B q ]}}$$

### 2.2 移行割合の設定について

高レベル廃液等の沸騰に伴い気相中に移行する放射性物質の移行割合は、以下に示す試験の結果から、保守性を見込んだ値として 0.005% とする。

#### 2.2.1 小型試験

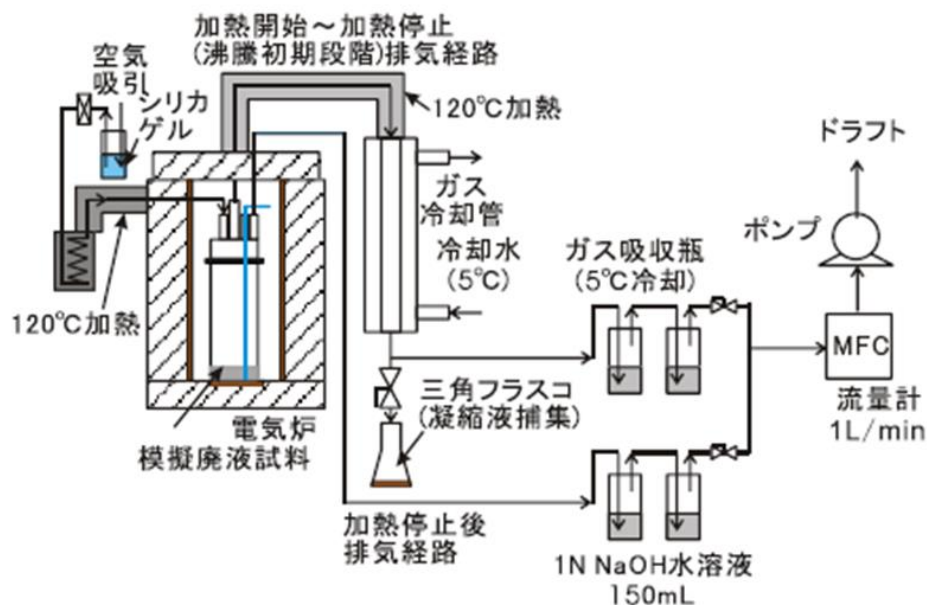
本試験では、蒸気流速を変化させて、溶液が 120℃ に至るまでの沸騰状態での飛まつ同伴による気相中への移行量を測定し、蒸気流速が外部移行割合に及ぼす影響を確認している。

電気炉内に設置した高さ約 0.3m、内径約 0.09m のフラスコ内で、模擬高レベル廃液 100mL を所定の流速 ( 1 ~ 2 c m / s ) となるように温度 120℃ まで蒸発させ、発生した蒸気により容器外部に運ばれた物質 (セシウム, ネオジウム) の量を測定することにより、外部移行割合 (容器外部に運ばれた物質質量 ÷ 初期存在量) を求めている。

流速は、時間ごとに回収した凝縮液量を元に、容器断面積及

び試料回収時間から算出した。

蒸気流速に対する外部移行割合の測定結果は第 2. - 1 表のとおりであり,流速によらず外部移行割合はほぼ一定の値となった。



第 2. - 1 図 小型試験の概略図

第 2. - 1 表 小型試験の結果

流速(cm/s)	外部移行割合※
約 1.1	$4.3 \times 10^{-5}$
約 1.4	$3.6 \times 10^{-5}$
約 1.6	$4.5 \times 10^{-5}$
約 1.7	$3.5 \times 10^{-5}$

## 2.2.2 工学規模試験

本試験では、高さ約 2 m，内径約 0.2m の円筒容器内で、模擬高レベル廃液 400m L を蒸気流速 1.1 c m / s で蒸発乾固させ、模擬高レベル廃液が 140℃ に到達するまでの間に、試料容器以降で捕集された物質の割合を測定している。また、本試験では、ブローにより流量 10 L / m i n で吸引が行われ、吸引に伴い、試験装置内の圧力を一定に保つため N<sub>2</sub> ガスが自動的に供給されるため、掃気 N<sub>2</sub> ガスに起因する放射性物質の移行も含まれる。試験で得られた移行割合を第 2. - 2 表に示す。

ここで、試験結果を実機に適用する場合には、容器の寸法が大きくなるにつれて移行割合に及ぼす壁面の影響が相対的に小さくなることを考慮する必要がある。このため、本試験では、壁面への付着量を極力低減するよう壁面を 150℃ 以上に加熱し、壁面での凝縮による還流及び熱泳動の影響を防止する考慮を払っている。

また、内壁（ライナー）に付着した物質量を測定した結果は液面近くでのみ付着が確認され、この付着量は第 2. - 2 図に示すとおり、全回収量の 4.4% であった。これは、蒸気と共に容器外部に移行できない粗大粒子が液面近くで跳ね、重力落下で沈降する過程で壁に付着したものと考えられる。

高さ約 0.8m の結果は本来移行割合とはならない粗大粒子の結果を含むおそれがあるが保守性を見込んだ A R F として採用している。

以上のことから、工学規模試験の結果を用いて実機に適用する移行割合を求めることは妥当であると考えられる。

第 2. - 2 表 工学規模試験の結果

高さ	ARF
約 0.8m	$3.7 \times 10^{-5}$
約 2m	$1.7 \times 10^{-5}$

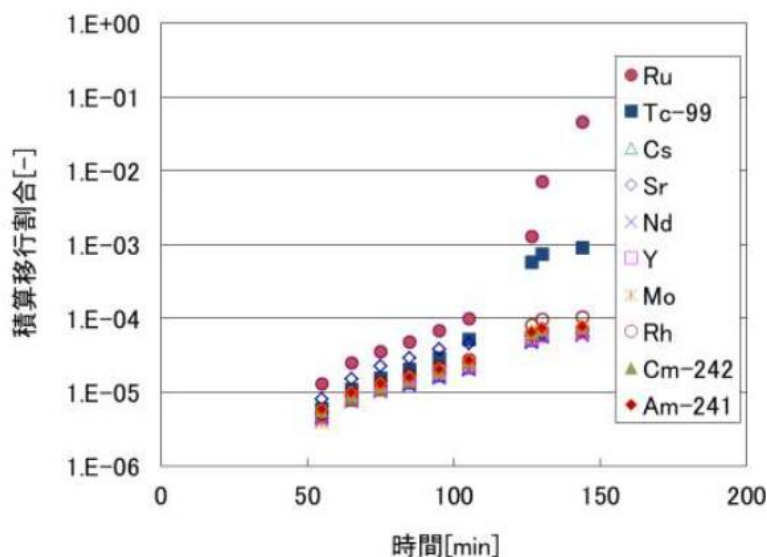


第 2. - 2 図 フィルタの高さを約 0.8m とした試験の回収割合

### 2.3 沸騰初期及び沸騰晩期における移行割合について

有効性評価で使用した移行割合は沸騰から乾燥し固化に至るまでの積算移行率を基に設定している。有効性評価においては、拡大防止対策である貯槽等への注水を継続して実施するため、沸騰初期の状態を維持している。しかし、沸騰初期と晩期で積算移行率に違いがある可能性があり、これに対し、小型 A R F 測定装置を用いて実廃液を 50W で 400℃ まで、また、100 W で 300℃ まで加熱し、捕集した凝縮液の分析により放射性物質の積算移行割合を測定した。試験結果の一例を第 2. - 3 図に示す。

積算移行割合の経時変化を見ると、難揮発性核種では、沸騰初期及び沸騰晩期における積算移行割合はほぼ一定であり、有意な差がみられないことから、有効性評価で設定した移行割合への影響はないと考えられる。



第 2. - 3 図 凝縮液の I C P - M S 分析結果  
( ~ 400℃ / 100W )



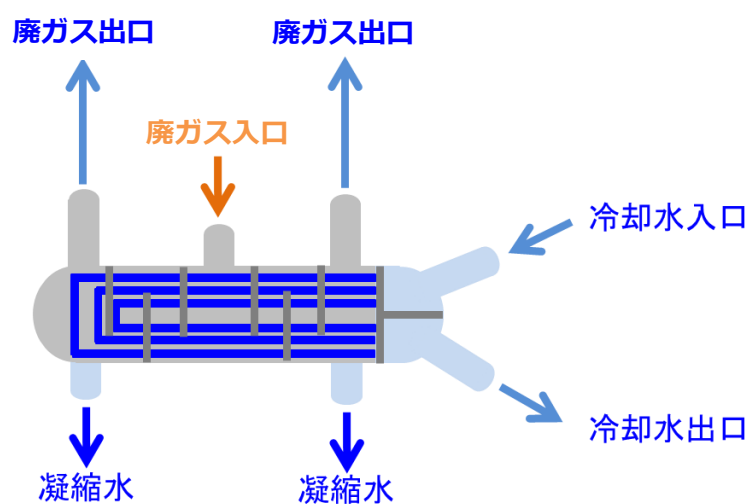
### 3. 除染係数の設定について

#### 3.1 凝縮器の除染係数の設定について

##### 3.1.1 凝縮器の概要

凝縮器の設計は以下のとおりである。

- ✓ 多管式熱交換器（シェル・アンド・チューブ型）
- ✓ 凝縮器出口排気温度を50℃以下にできる除熱能力を有する。



第 3. - 1 図 凝縮器の概要図

### 3.1.2 凝縮器の除染係数に係る文献

(5)  
文献では、高レベル廃液ガラス固化工程における廃ガス処理設備について、各国の設備の公開データを取り纏めており、その結果から廃ガス処理設備の粒子に対する除染係数を記している。

この結果を下表に示す。

本表では、粒子に対する除染係数は、凝縮器でD F 100～1000を期待できるとしている。

第 3. - 1 表 廃ガス処理設備の粒子に対する除染係数

TABLE 5  
TYPICAL DECONTAMINATION FACTORS ACROSS OFF-GAS CLEANUP DEVICES

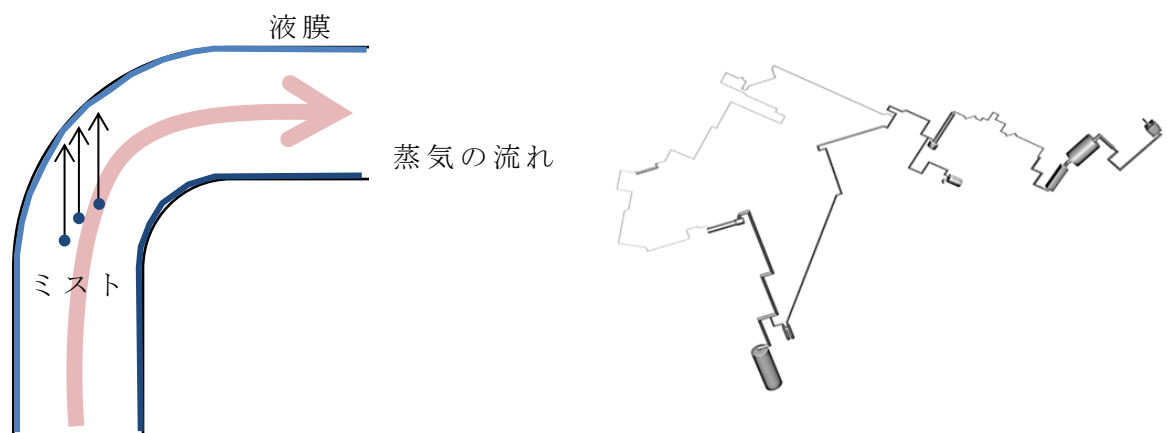
Component	DF			
	Particulates	Volatilized Ru	NO <sub>2</sub>	NO
Cyclone	10 <sup>a</sup>	1	1	1
Venturi Scrubber	100-600 <sup>a, b</sup>	10 <sup>a, b</sup>	2	1
Tube and Shell Condenser	10 <sup>2</sup> -10 <sup>3b</sup>	2x10 <sup>2a, b, h</sup>	2	1
NO <sub>x</sub> Absorber	10	10	5 <sup>i</sup>	1
Brink Fiber Mist Eliminator	10 <sup>2</sup>	1	1	1
Packed Spray Tower	10 <sup>3</sup>	10 <sup>2</sup>	4	1
NO <sub>x</sub> Converter	2	3.8x10 <sup>2d</sup>	10 <sup>2g</sup>	10 <sup>2g</sup>
Ruthenium Sorber: Silica Gel	8 <sup>a, c</sup>	10 <sup>3a, e</sup>	1	1
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> on Glass	2 <sup>j</sup>	(1 to 5)x10 <sup>2</sup>	1	1
Sintered Metal Filter	10 <sup>3f</sup>	1	1	1
HEPA Filter	10 <sup>3a</sup>	1	1	1

### 3.2 経路上における放射性エアロゾルの除染係数の設定について

#### 3.2.1 塔槽類廃ガス処理設備の除染係数に係る文献

文献では，除染係数について以下のとおり記している。

- ▶ 蒸発乾固の場合，放射性物質は蒸気とともに同伴するミスト（液滴）中に溶存している。
- ▶ ミストは気体に比べて質量が大きく，塔槽類廃ガス処理設備の配管の曲がり部等において慣性によりその多くが配管の内壁に衝突する。
- ▶ 配管内壁では放熱による蒸気の凝縮により液膜が形成されており，衝突したミスト中の放射性物質は液膜に吸収される。
- ▶ Walsh, S c h e a<sup>(6)</sup>による蒸発缶の研究によれば，初期のミスト濃度  $1000\text{mg}/\text{m}^3$  に対して，1回の直角衝突を通過した後のミスト濃度は  $10\text{mg}/\text{m}^3$  以下となることが報告されている。
- ▶ 蒸発乾固による発生するミストの濃度は約  $100\text{mg}/\text{m}^3$  であるため，1回の曲がり部における除染係数は最低でも10が想定される。
- ▶ 実際の塔槽類廃ガス処理設備には，数十箇所の曲がり部があるため，除染係数として10以上が期待できる。



第 3. - 2 図 ミストの慣性衝突のイメージ及び  
塔槽類廃ガス処理設備の例

### 3.2.2 セル及び換気系の構造的な特徴での除染係数

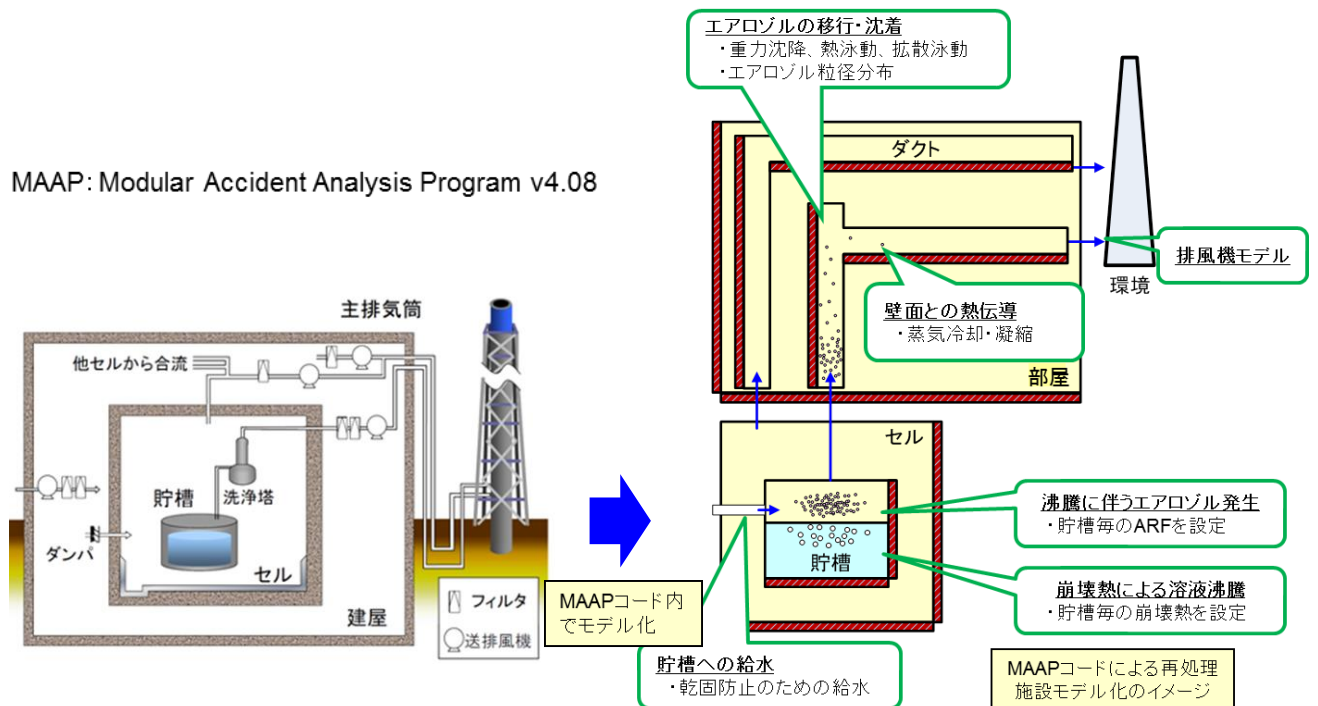
セル及び換気系における放射性エアロゾルの除染係数は、MAAPコードを用いて定量化が可能である。第3-3図にMAAPコードによるモデル化のイメージを示す。

以下に高レベル廃液ガラス固化建屋における評価例を示す。

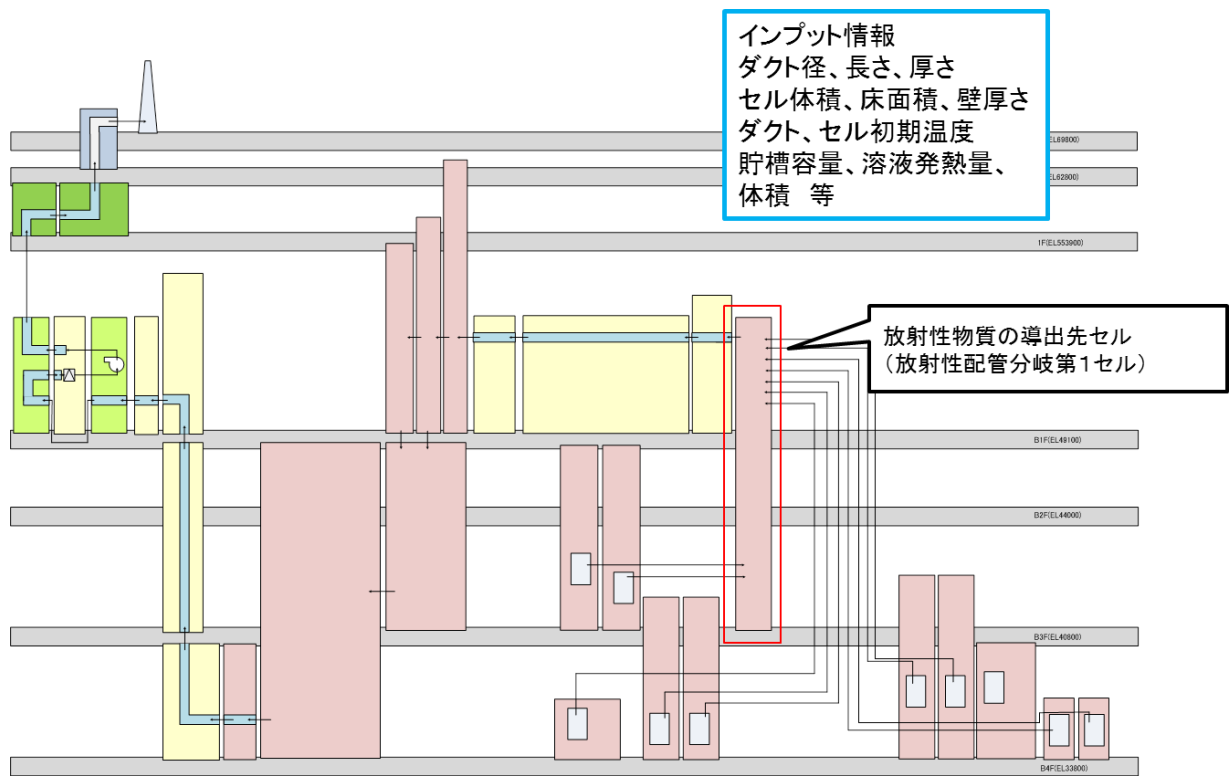
貯槽等から蒸気・エアロゾルが発生後、配管・ダクト・セルを経由して、大気中への放出に至るまでの移行挙動を計算し、主に以下のパラメータを評価する。

- ① 建屋の除染係数
- ② 建屋内の蒸気凝縮量分布

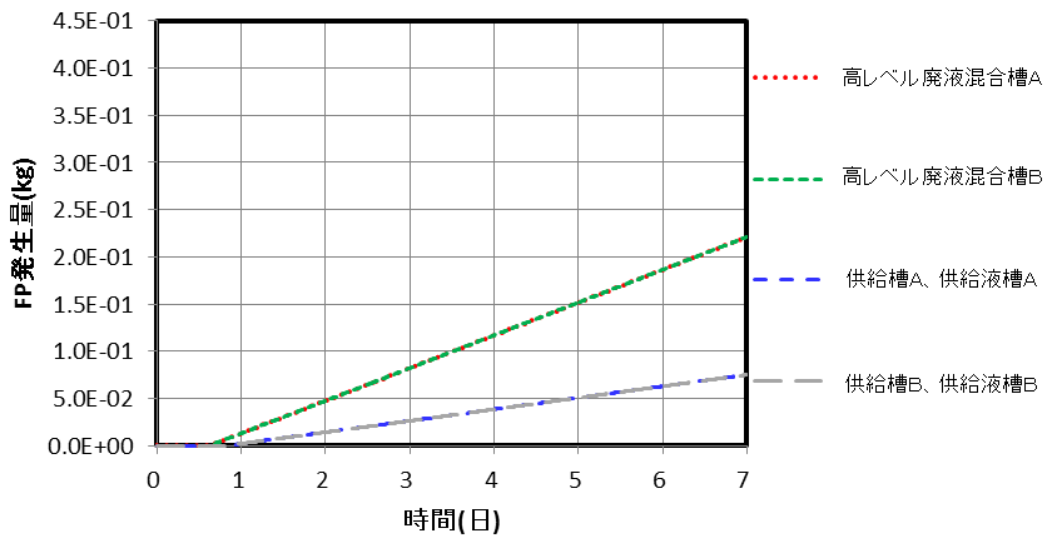
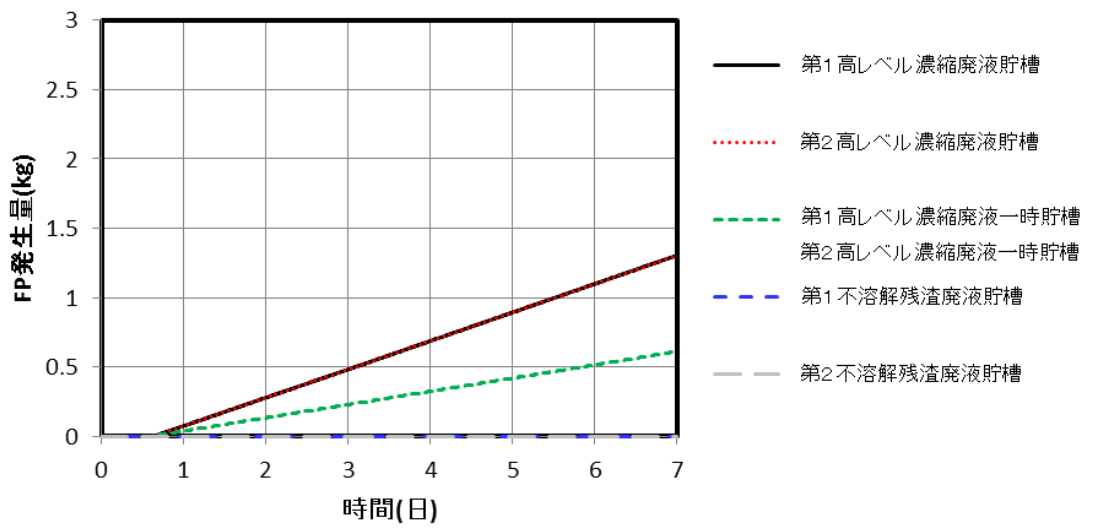
第3-4図に解析モデル、第3-5図及び第3-6図に評価結果を示す。



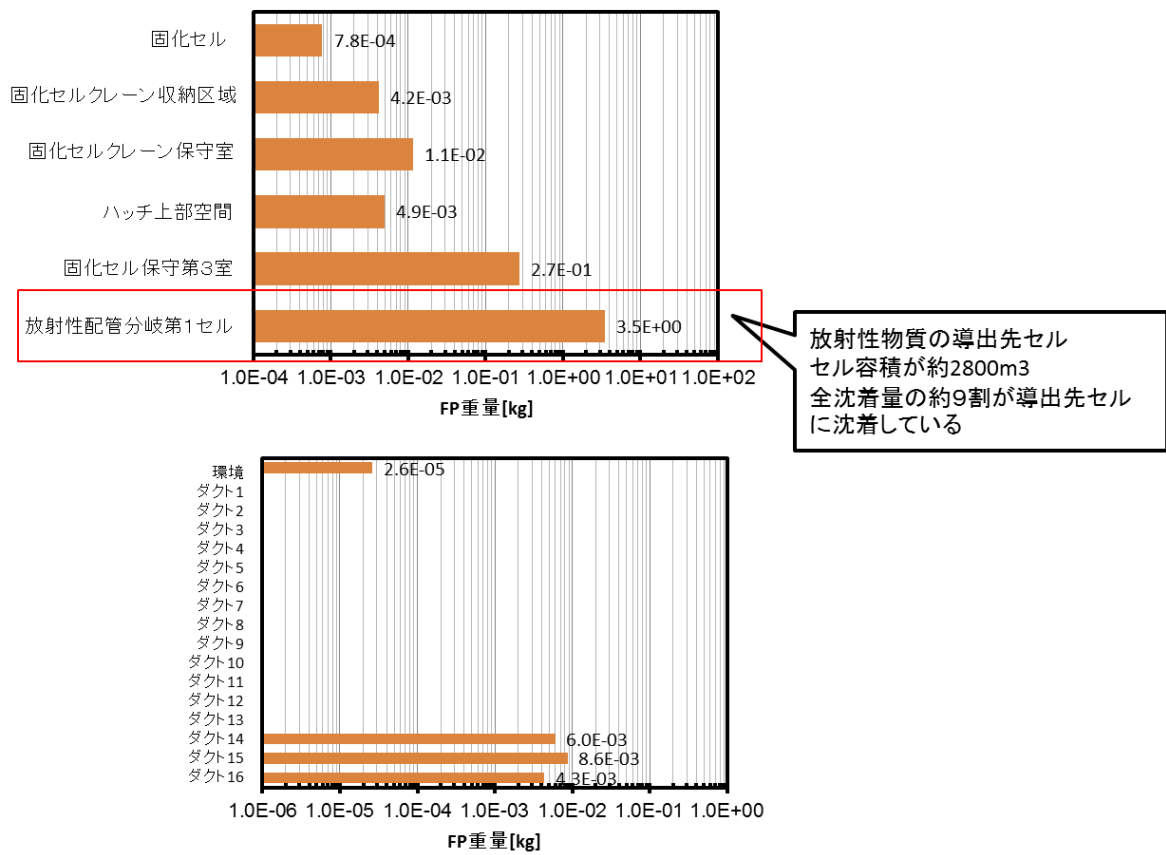
第3-3図 MAAPコードによるモデル化のイメージ



第 3. - 4 図 高レベル廃液ガラス固化建屋の解析モデル



第 3. - 5 図 FP 発生量

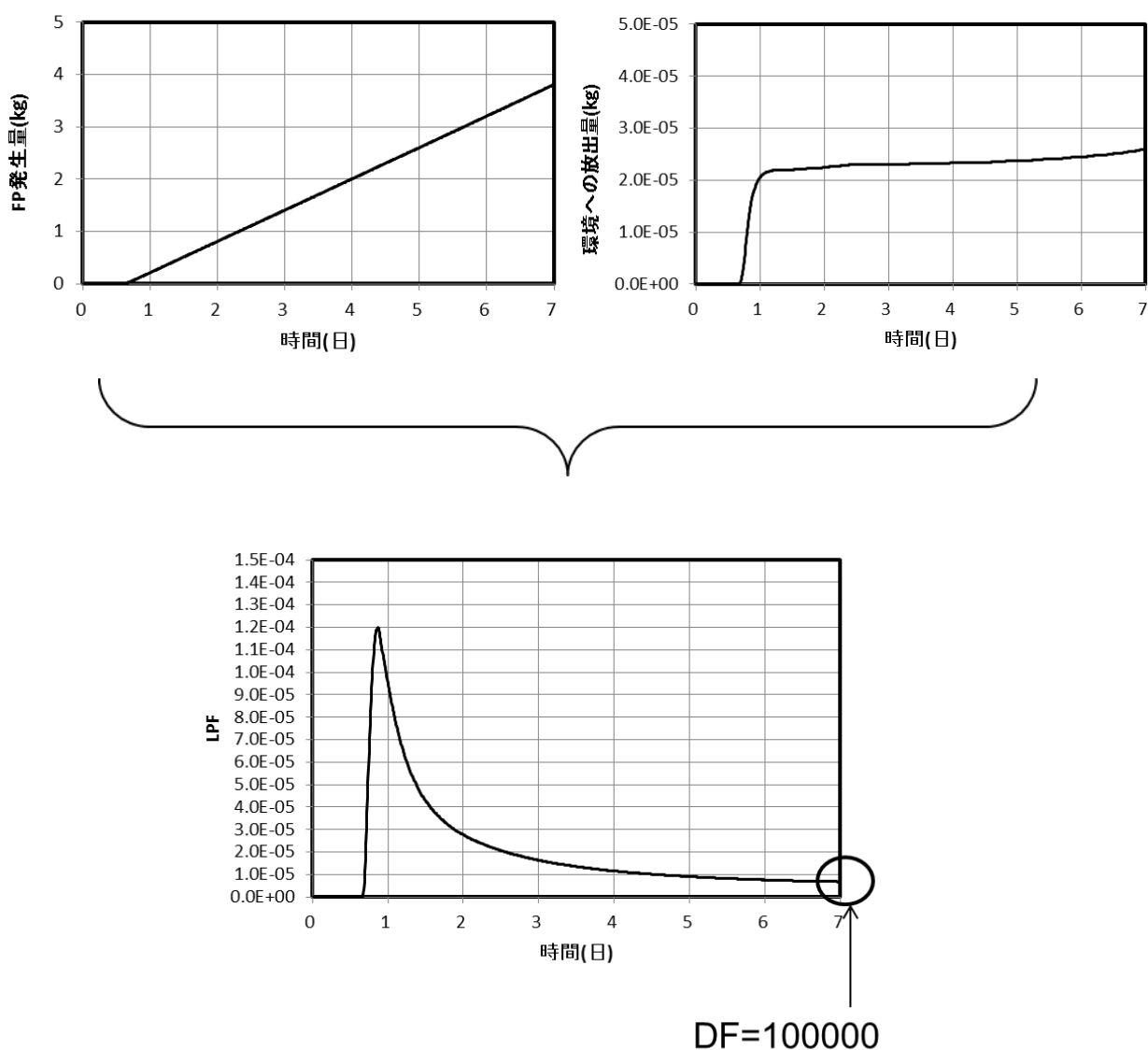


第 3. - 6 図 放出経路沈着量



【除染係数(7日目)】

セルへの沈着による除染係数が  $10^5$  であり，効果が大きいことがわかる。本評価では重力沈降の効果のみ考慮しており，静的に閉じ込める効果や慣性沈着の効果を織り込んでおらず，これらを考慮するとさらなる低減効果が期待できる。



第 3. - 7 図 移行率の経時変化

### 3.3 可搬型フィルタの除染係数の設定について

引用している試験条件及び蒸発乾固, 水素爆発への対処で除染係数は, フィルタ 1 段あたり 1000 を期待している可搬型フィルタの仕様は以下の通り同等であり, DF は適用可能である。

第 3. - 2 表 可搬型フィルタの仕様

項目	試験条件	実機条件 (可搬型フィルタ)	考察
ろ材	グラスファイバー	グラスファイバー	同一の素材であり適用可能である。
サイズ	幅-高さ-奥行き: 610-610-292(mm)	幅-高さ-奥行き: 610-610-約300(mm)	同様のサイズであり適用可能である。 (実機奥行きは構造図に記載ないため構造図から推測)
耐熱温度(°C)	200	180 (連続使用最高温度)	実機条件の温度に比べて、試験条件の耐熱温度が高いことから適用可能である。
定格風量(m <sup>3</sup> /h)	定格風量:2,000	約2,500	風量が異なる場合でも所定の除染効率を期待できることから適用可能である。
試験温度(°C)	25~45	50~100°C程度	試験に用いられているフィルタの最高使用温度を下回ることから適用可能である。
粒径	0.024~0.750µmで試験	エアロゾルの径は事象により異なるが、µmオーダーと想定	試験より0.13µm近辺で最もDFが低くなるが、この場合でもLPF10 <sup>-3</sup> に余裕があること、実機条件のエアロゾル径は0.13µmより大きいと想定されることから、適用可能と考える。

### 3.3.1 粒径について<sup>(7)</sup>

さまざまな粒径において除染係数 1000 を維持できている。

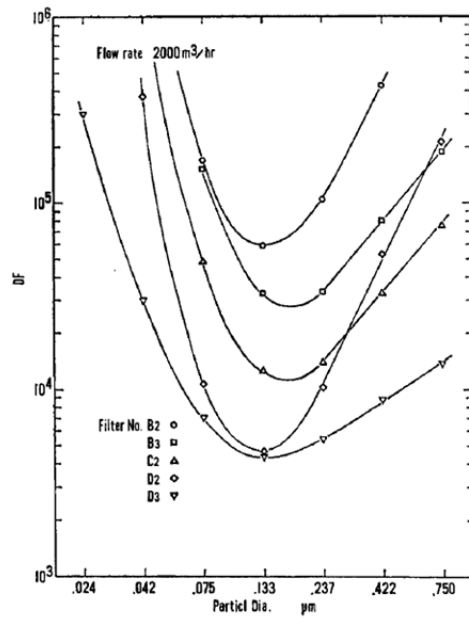


Fig. 3 Decontamination factor of HEPA filters measured by CNC/DB system

第 3. - 8 図 高性能粒子フィルタの粒径に対する除染係数

### 3.3.2 風量について<sup>(7)</sup>

さまざまな風量，粒径において除染係数 1000 を維持できている。

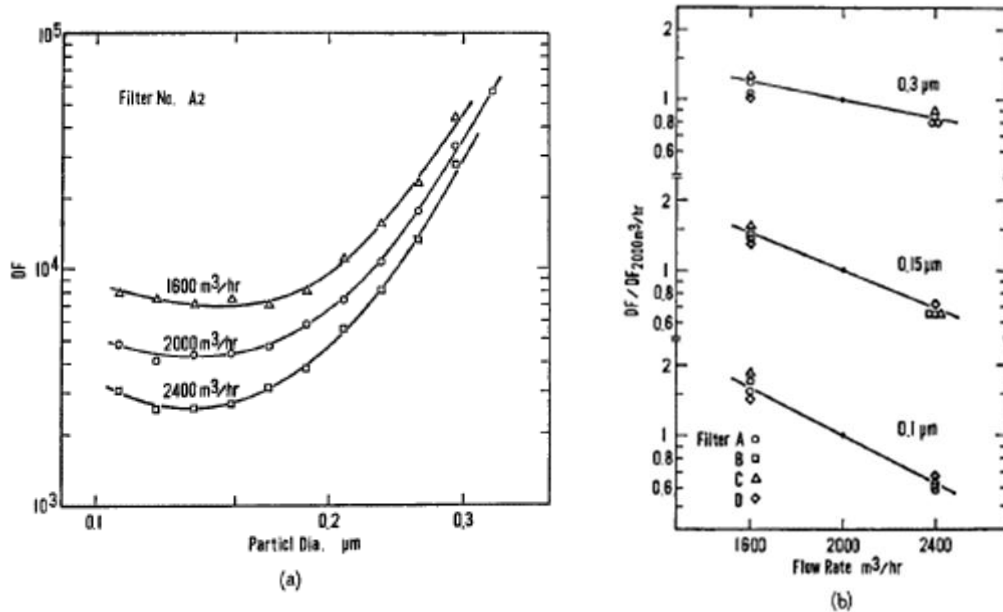


Fig. 5 (a), (b) Decontamination factor of HEPA filters as function of flow rate

第 3. - 9 図 高性能粒子フィルタの粒径及び風量に対する除染係数

### 3.4 ミストによる可搬型フィルタへの影響検討

高レベル廃液等の沸騰に伴い発生した蒸気は、凝縮器により凝縮されるが、水素爆発対策として実施する水素掃気空気に同伴する湿分は下流側へ流出する。

凝縮器は、廃ガス出口温度が50℃以下となるような除熱能力を有する設計とすることから、セルに導出される湿分は、第3. - 3表に示す50℃（飽和水蒸気量83 g / m<sup>3</sup>）の水素掃気空気に同伴する湿分となる。

また、セルに導出された水素掃気空気に同伴する湿分は、可搬型排風機により引き込まれる空気と混合する。可搬型排風機の容量を2400m<sup>3</sup> / h，引き込まれる空気の温度を0度（飽和水蒸気量4.9 g / m<sup>3</sup>），湿度を75%とした場合、引き込まれる空気に同伴する湿分は8.7 k g / hになる。

さらに、温度0℃の2400m<sup>3</sup> / hの空気に同伴できる湿分は11.7 k g / hであり、水素掃気空気に同伴する湿分と引き込まれる空気に同伴する湿分の合計が11.7 k g / hを超えなければミストの発生は無視することができる。第3. - 3表に示すとおり、前処理建屋、分離建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋については影響を無視することが出来る。

一方、高レベル廃液ガラス固化建屋については、凝縮器の除熱能力、水素掃気量及び引き込まれる空気温度設定の保守性から、高レベル廃液ガラス固化建屋においても大きな影響はないと考えられるが、蒸気発生量が多いことを考慮し、可搬型フィルタ上流にミスト除去を目的とした可搬型デミスタを設置することから、可搬型フィルタへ与える影響は無視することが出

来る。

第3. - 3表 ミストによる可搬型フィルタへの影響

建屋	水素掃気空気に 同伴する 湿分 (k g / h)	2400m <sup>3</sup> / h の空気に同伴 する湿分 (k g / h)	合計 (k g / h)
前処理建屋	2.6	8.7	11.3
分離建屋	2.9		11.6
精製建屋	1.3		10.0
ウラン・プルトニウム 混合脱硝建屋	0.4		9.1
高レベル 廃液ガラス固化建屋	18.3		27.0

#### 4. 参考文献

(1) 「再処理施設における放射性物質移行挙動に係る研究」運営管理グループ. 再処理施設における放射性物質移行挙動に係る研究報告書. 2014-02

(2) Science Applications International. Nuclear Fuel Cycle Facility Accident Analysis Handbook. United States Nuclear Regulatory Commission, 1998-03, NUREG/CR-6410.

(3) GENERIC PROCEDURES FOR ASSESSMENT AND RESPONSE DURING A RADIOLOGICAL EMERGENCY. IAEA, VIENNA, 2000 IAEA-TCDOC-1162

(4) ICRP. Age-dependent Doses to Members of the Public from Intake of Radionuclides : Part 5 Compilation of Ingestion and Inhalation Dose Coefficients. Annals of the ICRP, ICRP Publication 72. 1996, vol. 26, no. 1.

(5) J.D.Christian,D.T.Pence: “Critical Assessment of Method for Treating Airborne fluents from High-Level Waste Solidification Processes” PNL-2486(1977)

(6) “Sitting of fuel Reprocessing Plants and Waste Management Facilities”, ORNL-4451, 1970 (P8-45～)

(7) 尾崎誠, 金川昭. 高性能エアフィルタの苛酷時健全性試験, (I) DOP エアロゾルの捕集性能. 日本原子力学会誌. 1985, vol. 27, no. 7.

補足説明資料7－8



## 1. 凝縮水回収セルの漏えい液受皿等の凝縮水回収可能量について

高レベル廃液等の沸騰により発生した蒸気は、凝縮器において凝縮水となり、凝縮水回収先セルの漏えい液受皿等へ移送される。

本評価では、事態の収束までの凝縮水発生量が、凝縮水回収先セルの漏えい液受け皿等の容量を下回ることを確認する。

### 1.1 冷却コイル等への通水開始までの時間について

各建屋とも貯槽等への注水、塔槽類廃ガス処理設備からセルへの導出経路の構築、凝縮器による発生した蒸気及び放射性物質の除去、可搬型フィルタ及び可搬型排風機を用いた代替セル排気系による対応を優先して実施し、大気中への放射性物質の放出を抑制できる状態を整備してから、冷却コイル等への通水の作業に着手する。

冷却機能の喪失から冷却コイル等への通水開始までに要する時間は、第 1. - 1 表に示す通りである。

第 1. - 1 表 各建屋の冷却コイル等への通水開始時間

機器グループ	冷却機能の喪失から冷却コイル等への通水開始までの時間
前処理建屋内部ループ 1	46 時間 15 分
前処理建屋内部ループ 2	45 時間 00 分
分離建屋内部ループ 1	25 時間 55 分
分離建屋内部ループ 2	47 時間 40 分
分離建屋内部ループ 3	65 時間 45 分
精製建屋内部ループ 1	30 時間 40 分
精製建屋内部ループ 2	37 時間 30 分
ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋内部ループ	26 時間 20 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 1	37 時間 55 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 2	34 時間 35 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 3	36 時間 05 分
高レベル廃液ガラス固化建屋内部ループ 4	37 時間 35 分

## 1.2 冷却コイル等への通水開始までの凝縮水発生量について

凝縮水は、高レベル廃液等が沸騰し冷却コイル等への通水が開始されるまでの間で発生する。冷却コイル等への通水開始までの凝縮水発生量は、高レベル廃液等の蒸発速度から算出する。

各建屋の貯槽等の蒸発速度、沸騰までの時間余裕及び冷却コイル等への通水開始までの凝縮水発生量を第1. - 2表から第1. - 6表に示す。

第1. - 2表 前処理建屋の貯槽等の蒸発速度, 時間余裕及び凝縮水発生量

蒸発乾固 対象貯槽等	蒸発速度 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )	時間余裕 (h)	凝縮水 発生量 ( $\text{m}^3$ )	建屋 合計 ( $\text{m}^3$ )	凝縮水回 収先セル の漏えい 液受皿等 の容量 ( $\text{m}^3$ )
中継槽A	$6.8 \times 10^{-3}$	150	-※	-※	20
中継槽B	$6.8 \times 10^{-3}$	150	-※		
リサイクル槽A	$2.0 \times 10^{-3}$	160	-※		
リサイクル槽B	$2.0 \times 10^{-3}$	160	-※		
計量前中間貯槽A	$2.5 \times 10^{-2}$	140	-※		
計量前中間貯槽B	$2.5 \times 10^{-2}$	140	-※		
計量後中間貯槽	$1.9 \times 10^{-2}$	190	-※		
計量・調整槽	$1.9 \times 10^{-2}$	180	-※		
計量補助槽	$5.3 \times 10^{-3}$	190	-※		
中間ポットA	$1.3 \times 10^{-4}$	160	-※		
中間ポットB	$1.3 \times 10^{-4}$	160	-※		

※ 沸騰に至る前に冷却コイル等への通水が開始されるため、凝縮水は発生しない

第 1. - 3 表 分離建屋の貯槽等の蒸発速度, 時間余裕及び凝縮水発生量

蒸発乾固 対象貯槽等	蒸発速度 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )	時間 余裕 (h)	凝縮水 発生量 ( $\text{m}^3$ )	建屋 合計 ( $\text{m}^3$ )	凝縮水回 収先セル の漏えい 液受皿等 の容量 ( $\text{m}^3$ )
溶解液中間貯槽	$1.9 \times 10^{-2}$	180	—※	—※	22
溶解液供給槽	$4.5 \times 10^{-3}$	180	—※		
抽出廃液受槽	$7.1 \times 10^{-3}$	250	—※		
抽出廃液中間貯 槽	$9.4 \times 10^{-3}$	250	—※		
抽出廃液供給槽 A	$2.9 \times 10^{-2}$	250	—※		
抽出廃液供給槽 B	$2.9 \times 10^{-2}$	250	—※		
第 1 一時貯留処 理槽	$1.4 \times 10^{-3}$	310	—※		
第 8 一時貯留処 理槽	$1.7 \times 10^{-3}$	310	—※		
第 7 一時貯留処 理槽	$1.4 \times 10^{-3}$	310	—※		
第 3 一時貯留処 理槽	$9.4 \times 10^{-3}$	250	—※		
第 4 一時貯留処 理槽	$9.4 \times 10^{-3}$	250	—※		
第 6 一時貯留処 理槽	$5.7 \times 10^{-3}$	330	—※		
高レベル廃液供 給槽	$3.9 \times 10^{-3}$	720	—※	1.4	27
高レベル廃液濃 縮缶	$1.3 \times 10^{-1}$	15	1.4	1.4	27

※ 沸騰に至る前に冷却コイル等への通水が開始されるため、凝縮水は発生しない

第 1. - 4 表 精製建屋の貯槽等の蒸発速度, 時間余裕及び凝縮水発生量

蒸発乾固 対象貯槽等	蒸発速度 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )	時間 余裕 (h)	凝縮水 発生量 ( $\text{m}^3$ )	建屋 合計 ( $\text{m}^3$ )	凝縮水回 収先セル の漏えい 液受皿等 の容量 ( $\text{m}^3$ )
プルトニウム溶液 受槽	$1.4 \times 10^{-3}$	110	-※	2.1	5.3
油水分離槽	$1.4 \times 10^{-3}$	110	-※		
プルトニウム濃縮 缶供給槽	$4.6 \times 10^{-3}$	96	-※		
プルトニウム溶液 一時貯槽	$4.6 \times 10^{-3}$	98	-※		
プルトニウム濃縮 液受槽	$1.4 \times 10^{-2}$	12	$2.6 \times 10^{-1}$		
リサイクル槽	$1.4 \times 10^{-2}$	12	$2.6 \times 10^{-1}$		
希釈槽	$3.5 \times 10^{-2}$	11	$6.7 \times 10^{-1}$		
プルトニウム濃縮 液一時貯槽	$2.1 \times 10^{-2}$	11	$4.1 \times 10^{-1}$		
プルトニウム濃縮 液計量槽	$1.4 \times 10^{-2}$	12	$2.6 \times 10^{-1}$		
プルトニウム濃縮 液中間貯槽	$1.4 \times 10^{-2}$	12	$2.6 \times 10^{-1}$		
第 1 一時貯留処 理槽	$2.3 \times 10^{-3}$	100	-※		
第 2 一時貯留処 理槽	$2.3 \times 10^{-3}$	100	-※		
第 3 一時貯留処 理槽	$4.6 \times 10^{-3}$	96	-※		

※ 沸騰に至る前に冷却コイル等への通水が開始されるため、凝縮水は発生しない

第 1. - 5 表 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の貯槽等の  
蒸発速度, 時間余裕及び凝縮水発生量

蒸発乾固 対象貯槽等	蒸発速度 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )	時間 余裕 (h)	凝縮水 発生量 ( $\text{m}^3$ )	建屋 合計 ( $\text{m}^3$ )	凝縮水回 収先セル の漏えい 液受皿等 の容量 ( $\text{m}^3$ )
硝酸プルトニウム貯槽	$1.4 \times 10^{-2}$	19	0.11	0.11	17
混合槽 A	$8.6 \times 10^{-3}$	30	-※ 1		
混合槽 B	$8.6 \times 10^{-3}$	30	-※ 1		
一時貯槽	$1.4 \times 10^{-2}$	19	-※ 2		

※ 1 沸騰に至る前に冷却コイル等への通水が開始されるため、凝縮水は発生しない

※ 2 平常時は他の貯槽等の内包液を受け入れることができるよう、空き容量を確保している。

第 1. - 6 表 高レベル廃液ガラス固化建屋の貯槽等の  
蒸発速度, 時間余裕及び凝縮水発生量

蒸発乾固 対象貯槽等	蒸発速度 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )	時間余裕 (h)	凝縮水 発生量 ( $\text{m}^3$ )	建屋 合計 ( $\text{m}^3$ )	凝縮水回 収先セル の漏えい 液受皿等 の容量 ( $\text{m}^3$ )
第 1 高レベル濃 縮廃液貯槽	$6.3 \times 10^{-1}$	24	6.3	23	1300
第 2 高レベル濃 縮廃液貯槽	$6.3 \times 10^{-1}$	24	7.2		
第 1 高レベル濃 縮廃液一時貯槽	$1.5 \times 10^{-1}$	23	2.2		
第 2 高レベル濃 縮廃液一時貯槽	$1.5 \times 10^{-1}$	23	2.2		
高レベル廃液 共用貯槽	$6.3 \times 10^{-1}$	24	—※		
高レベル廃液混 合槽 A	$1.2 \times 10^{-1}$	23	1.8		
高レベル廃液 混合槽 B	$1.2 \times 10^{-1}$	23	1.8		
供給液槽 A	$3.0 \times 10^{-2}$	24	$4.0 \times 10^{-1}$		
供給液槽 B	$3.0 \times 10^{-2}$	24	$4.0 \times 10^{-1}$		
供給槽 A	$1.2 \times 10^{-2}$	24	$1.6 \times 10^{-1}$		
供給槽 B	$1.2 \times 10^{-2}$	24	$1.6 \times 10^{-1}$		

※ 平常時は他の貯槽等の内包液を受け入れることができるよう、空き容量を確保している。

## 補足説明資料 7-9



## 1. 貯槽等への注水による高レベル廃液等の温度への影響について

### 1.1 概要

貯槽等への注水は、高レベル廃液等の沸騰後に行う対策であり、注水による温度低下がどの程度、高レベル廃液等の状態に影響を与えるか検討を行う。

### 1.2 貯槽等への注水による高レベル廃液等の温度低下への寄与

貯槽等への注水により高レベル廃液等の温度を沸点未満に下げするためには、注水により投入される水が沸点に至るまでの熱量（顕熱）が、高レベル廃液等が有する自己崩壊熱より大きい必要があり、蒸発速度の約8倍以上の注水速度で注水しなければ、沸騰を抑制するほどの温度低下に寄与しない。

#### ① 高レベル廃液等の発熱量 $Q_1$ (J/s)

$$= \text{発熱密度 } g \text{ (W/m}^3\text{)} \times \text{体積 } V \text{ (m}^3\text{)}$$

#### ② 注水分の温度上昇に必要な熱量 $Q_2$ (J/s)

$$= M \text{ (kg/s)} \times C \text{ (J/kg} \cdot \text{K)} \times \Delta t \text{ (K)}$$

蒸発速度 $M$  (kg/s) : 注水速度 (kg/s) と等しいものとする。

水の比熱 $C$  (J/kg $\cdot$ K) : 4180 (J/kg $\cdot$ K) (水30°Cのとき)

温度上昇 $\Delta t$  (K) : 71K (29°Cから100°Cまで)

$$\textcircled{3} \text{ 蒸発速度 } M \text{ (kg/s)} = \frac{\textcircled{1} \text{ 高レベル廃液等の発熱量 } Q_1 \text{ (J/s)}}{\text{水の蒸発潜熱 } J \text{ (kJ/kg)}}$$

$$\text{水の蒸発潜熱 } J : 2257 \text{ kJ/kg (=2257000 J/kg)}$$

①②③より

$$\textcircled{4} Q_2 \text{ (J/s)} = \frac{g \text{ (W/m}^3\text{)} \times V \text{ (m}^3\text{)}}{J \text{ (kJ/kg)}} \times C \text{ (J/kg} \cdot \text{K)} \times \Delta t \text{ (K)}$$

①と④を比較すると

$$\frac{Q_1 \text{ (J/s)}}{Q_2 \text{ (J/s)}} = \frac{J \text{ (kJ/kg)}}{C \text{ (J/kg} \cdot \text{K)} \times \Delta t \text{ (K)}} = \frac{2257000 \text{ (J/kg)}}{4180 \text{ (J/kg} \cdot \text{K)} \times 71 \text{ (K)}} = 7.6049 \dots$$

$Q_1/Q_2$ は定数で求められるため、高レベル廃液等(崩壊熱密度)によらず一定である。また、 $Q_2$ が $Q_1$ を上回らないため、温度低下にはほとんど

寄与しない。

第1. - 1 表 各建屋の計算結果

建屋	建屋	機器名	崩壊熱密度 (W/m <sup>2</sup> )	溶液量 (m <sup>3</sup> )	崩壊熱量 (J/s) Q1	蒸発速度 (kg/s) M	水の比熱 (J/kgK) C	水の上昇温度 71K(29→100°C) Δt	注水した水を沸騰させる のに必要な熱量(J/s) Q2	Q1/Q2	
AA	前処理建屋	中継槽A/B	600	7	4200	1.86E-03	4180	71	552	7.6	
AA		リサイクル槽A/B	600	2	1200	5.32E-04	4180	71	158	7.6	
AA		不溶解残渣回収槽A/B	3.3	5	16.5	7.31E-06	4180	71	2	7.6	
AA		計量前中間貯槽A/B	600	25	15000	6.65E-03	4180	71	1972	7.6	
AA		計量後中間貯槽	460	25	11500	5.10E-03	4180	71	1512	7.6	
AA		計量・調整槽	460	25	11500	5.10E-03	4180	71	1512	7.6	
AA		計量補助槽	460	7	3220	1.43E-03	4180	71	423	7.6	
AA		中間ボットA/B	■	■	■	3.46E-05	4180	71	10	7.6	
AB		分離建屋	溶解液中間貯槽	460	25	11500	5.10E-03	4180	71	1512	7.6
AB	溶解液供給槽		460	6	2760	1.22E-03	4180	71	363	7.6	
AB	抽出廃液受槽		290	15	4350	1.93E-03	4180	71	572	7.6	
AB	抽出廃液中間貯槽		290	20	5800	2.57E-03	4180	71	763	7.6	
AB	抽出廃液供給槽A		290	60	17400	7.71E-03	4180	71	2288	7.6	
AB	抽出廃液供給槽B		290	60	17400	7.71E-03	4180	71	2288	7.6	
AB	第1一時貯留処理槽		290	3	870	3.85E-04	4180	71	114	7.6	
AB	第2一時貯留処理槽		■	■	■	4.63E-04	4180	71	137	7.6	
AB	第7一時貯留処理槽		■	■	■	3.60E-04	4180	71	107	7.6	
AB	第3一時貯留処理槽		290	20	5800	2.57E-03	4180	71	763	7.6	
AB	第4一時貯留処理槽		290	20	5800	2.57E-03	4180	71	763	7.6	
AB	第6一時貯留処理槽		■	■	■	1.54E-04	4180	71	46	7.6	
AB	高レベル廃液供給槽A		120	20	2400	1.06E-03	4180	71	316	7.6	
AB	高レベル廃液濃縮缶A		3600	22	79200	3.51E-02	4180	71	10414	7.6	
AC	精製建屋		プルトニウム溶液受槽	■	■	■	3.71E-04	4180	71	110	7.6
AC		油水分離槽	■	■	■	3.71E-04	4180	71	110	7.6	
AC		プルトニウム濃縮缶供給槽	930	3	2790	1.24E-03	4180	71	367	7.6	
AC		プルトニウム溶液一時貯槽	930	3	2790	1.24E-03	4180	71	367	7.6	
AC		プルトニウム濃縮液受槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6	
AC		リサイクル槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6	
AC		希釈槽	8600	2.5	21500	9.53E-03	4180	71	2827	7.6	
AC		プルトニウム濃縮液一時貯槽	8600	1.5	12900	5.72E-03	4180	71	1696	7.6	
AC		プルトニウム濃縮液計量槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6	
AC		プルトニウム濃縮液中間貯槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6	
AC		第1一時貯留処理槽	930	1.5	1395	6.18E-04	4180	71	183	7.6	
AC		第2一時貯留処理槽	930	1.5	1395	6.18E-04	4180	71	183	7.6	
AC		第3一時貯留処理槽	930	3	2790	1.24E-03	4180	71	367	7.6	
CA		ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋	硝酸プルトニウム貯槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6
CA			混合槽A	5300	1	5300	2.35E-03	4180	71	697	7.6
CA	混合槽B		5300	1	5300	2.35E-03	4180	71	697	7.6	
KA	高レベル廃液ガラス固化建屋	一時貯槽	8600	1	8600	3.81E-03	4180	71	1131	7.6	
KA		第1,第2高レベル濃縮廃液貯槽	3200	120	384000	1.70E-01	4180	71	50493	7.6	
KA		第1,第2高レベル濃縮廃液一時貯	3600	25	90000	3.99E-02	4180	71	11834	7.6	
KA		高レベル廃液共用貯槽	3200	120	384000	1.70E-01	4180	71	50493	7.6	
KA		高レベル廃液混合槽A, B	3600	20	72000	3.19E-02	4180	71	9468	7.6	
KA		供給液槽A, B	3600	5	18000	7.98E-03	4180	71	2367	7.6	
KA		供給槽A, B	3600	2	7200	3.19E-03	4180	71	947	7.6	
KA		第1,第2不溶解残渣廃液一時貯槽	3.3	5	16.5	7.31E-06	4180	71	2	7.6	
KA	第1,第2不溶解残渣廃液貯槽	1.5	70	105	4.65E-05	4180	71	14	7.6		

■については商業機密の観点から公開できません。

令和2年4月28日 R2

## 補足説明資料 7－12

	流量計		手動弁
	可搬型接続金具等		本設備以外の設備 (破線)
	可搬型中型移送ポンプ (水中ポンプ)		可搬型建屋外 ホース

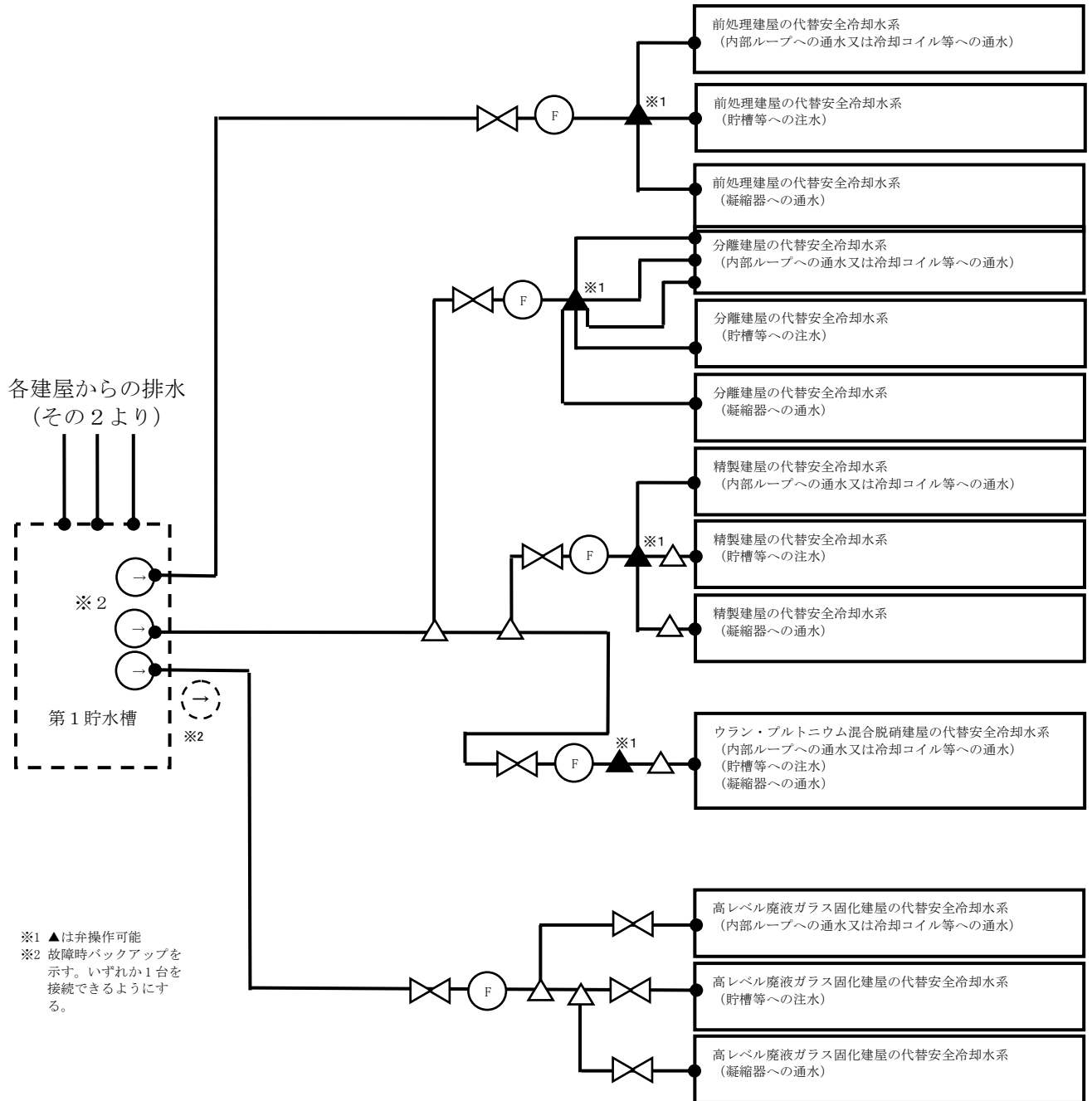


図1 冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための代替安全冷却水系の系統概要図 屋外 (その1)

	流量計		手動弁
	可搬型接続金具等		本設備以外の設備
	可搬型中型移送ポンプ (水中ポンプ)		可搬型建屋外ホース

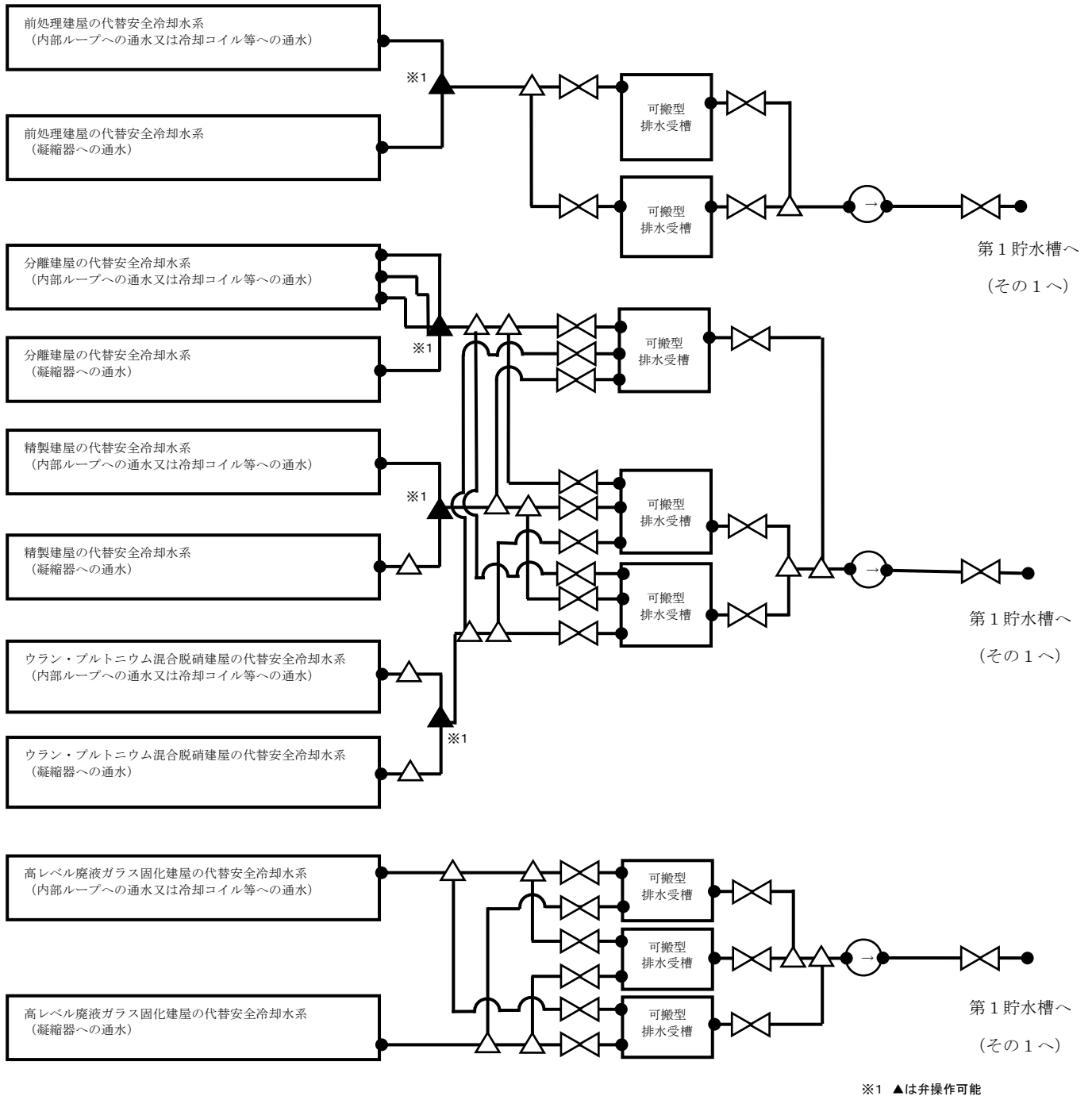
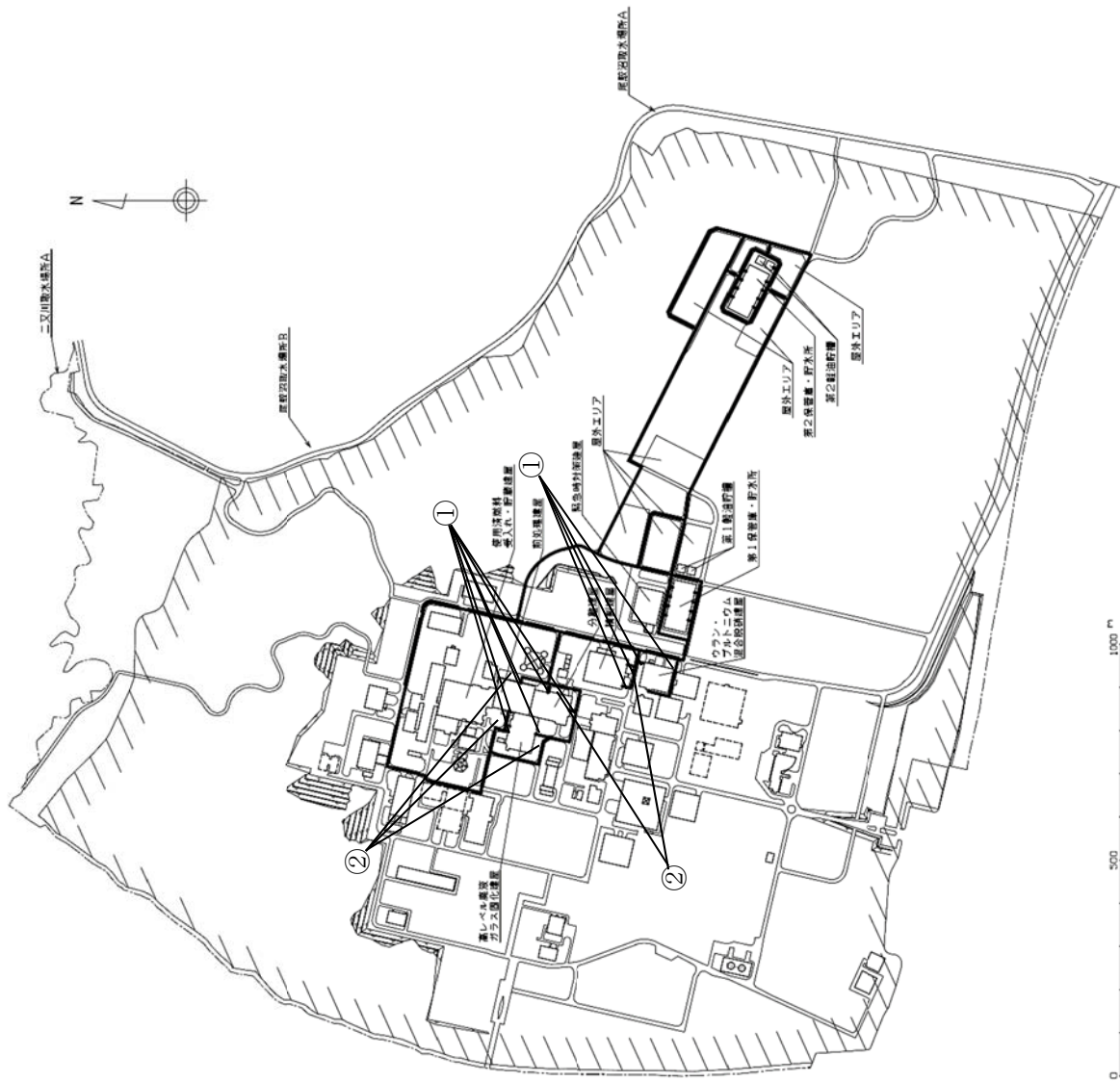


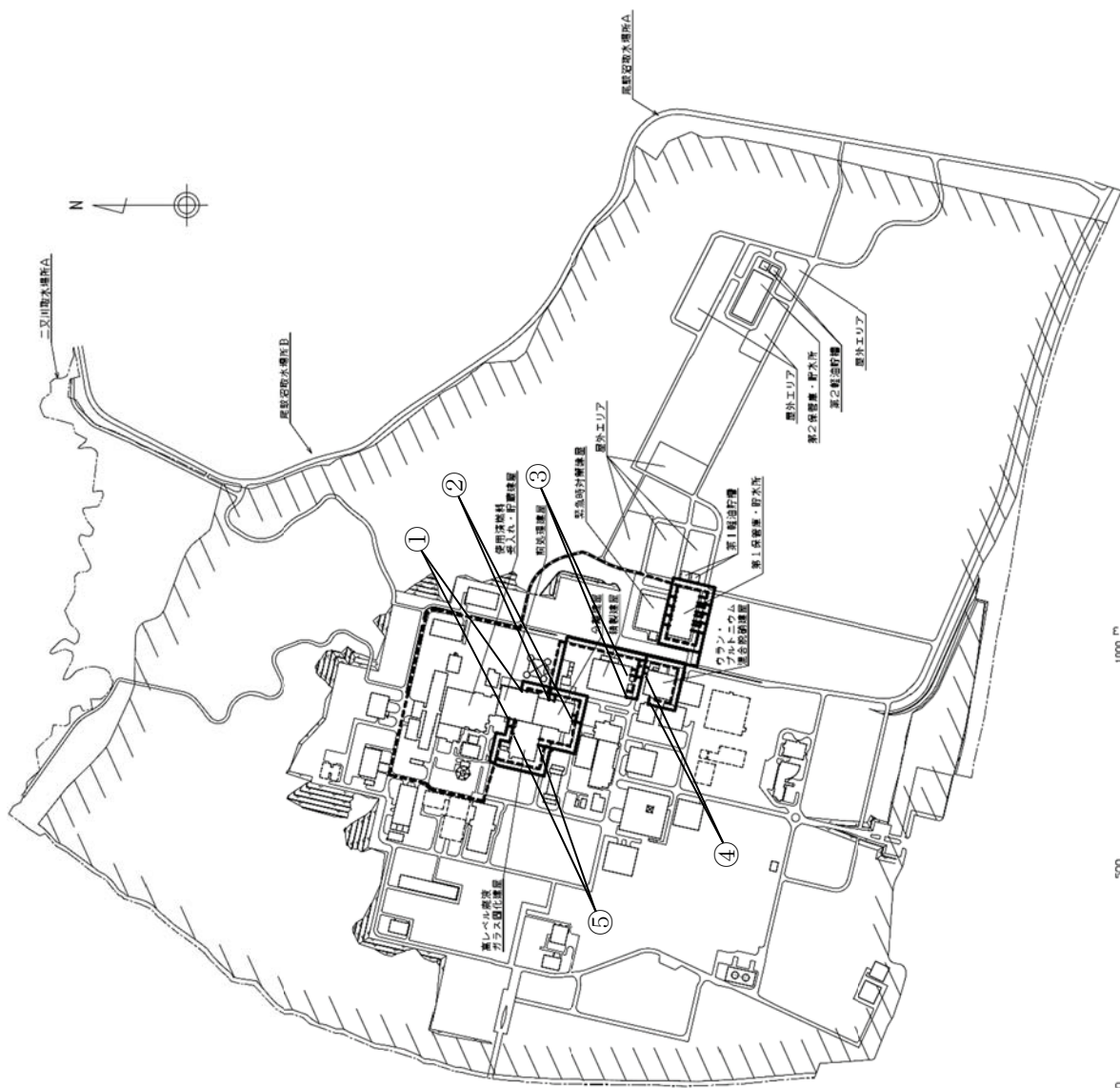
図1 冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための代替安全冷却水系の系統概要図 屋外(その2)



測定場所	監視項目
①	建屋給水流量
②	排水線量

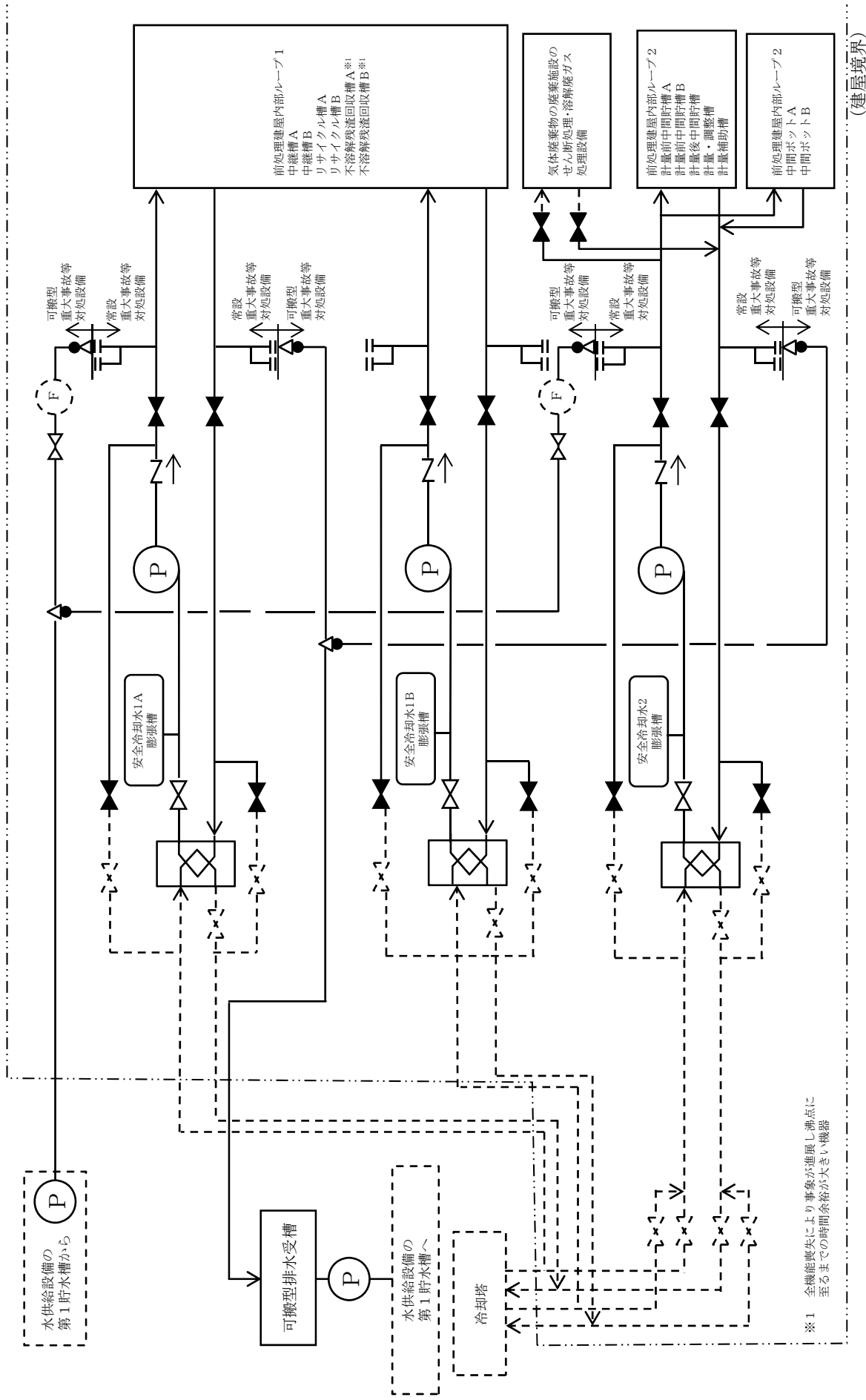
冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するためのアクセスルート 屋外

対象貯槽	接続口 (給水口及び排水口)
前処理建屋	①
分離建屋	②
精製建屋	③
ウラン・プルトニウム混合脱再建屋	④
高レベル廃液ガラス固化建屋	⑤



— : 敷設ルート

冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するためのホース敷設ルート 建屋外

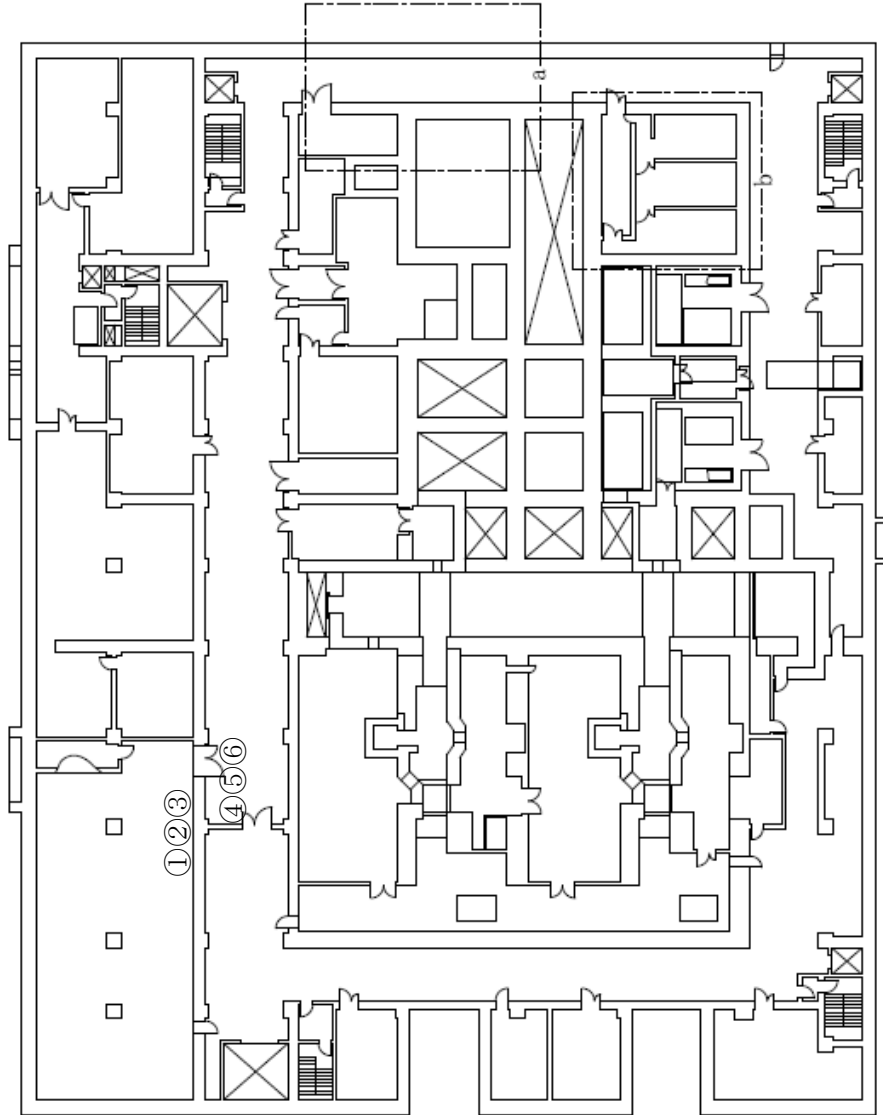


※1 全機能喪失により事象が進展し沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

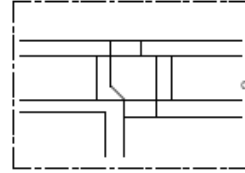
本図は、前処理建屋内部ループ1の2系統のうち1系統及び前処理建屋内部ループ2の第1接続口と前処理建屋内部ループ2の第2接続口に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の系統概要図 前処理建屋





機器グループ	機器名	内部ループ通水	内部ループ通水
前処理建屋 内部ループ1	中継槽A	第1接続口 (給水口及び排水口) 地下3階 ①若しくは②	第2接続口 (給水口及び排水口) 地下3階 ④若しくは⑤
	中継槽B	地下3階 ①若しくは②	地下3階 ④若しくは⑤
	リサイクル槽A	地下3階 ①若しくは②	地下3階 ④若しくは⑤
	リサイクル槽B	地下3階 ①若しくは②	地下3階 ④若しくは⑤
前処理建屋 内部ループ2	計量前中間貯槽A	地下3階 ①若しくは②	地下3階 ③
	計量前中間貯槽B	地下3階 ①若しくは②	
	計量後中間貯槽	地下3階 ①若しくは②	
	計量・調整槽	地下3階 ①若しくは②	
	計量補助槽	地下3階 ①若しくは②	
	中間ポットB	地下3階 ①若しくは②	



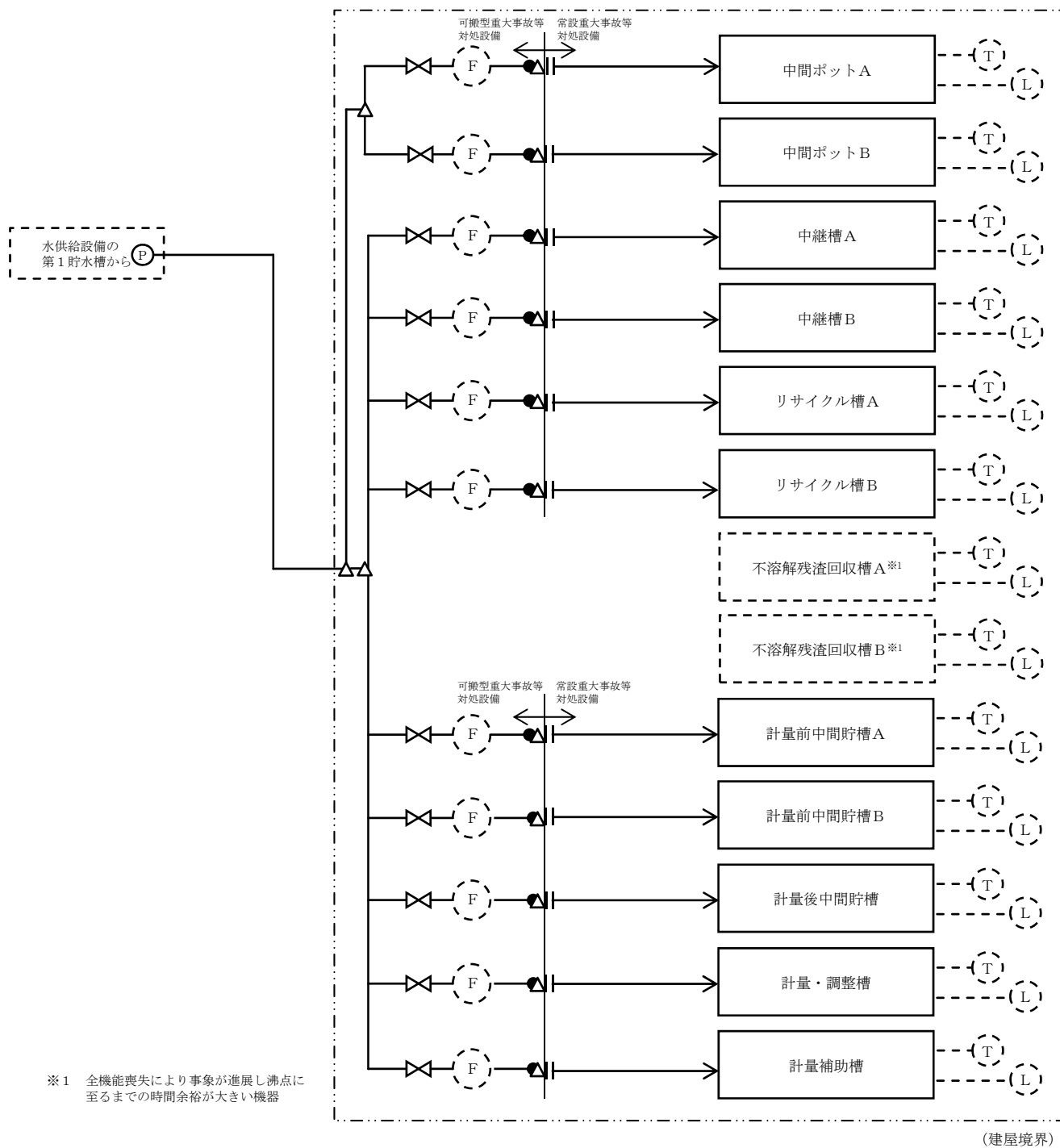
T.M.S.L.約+48,000



T.M.S.L.約+47,500

T.M.S.L.約+44,000

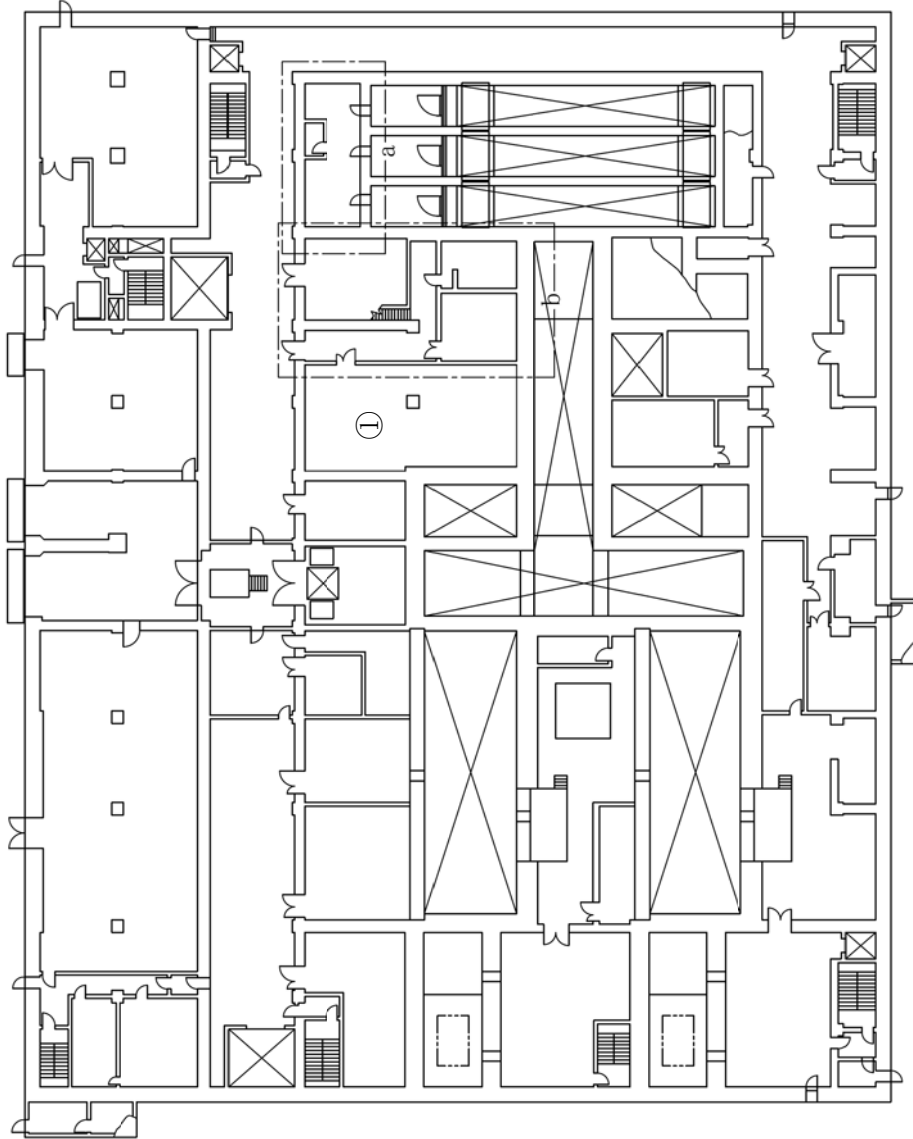
代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 前処理建屋（地下3階）



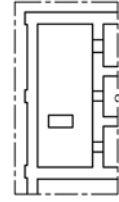
※1 全機能喪失により事象が進展し沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

本図は、第1接続口に接続した場合の例である。接続口毎に機器注水配管が異なるため、第2接続口から第4接続口に接続する場合は系統構成が異なる。また接続金具等の個数及び位置についても、ホース敷設ルートごとになる。

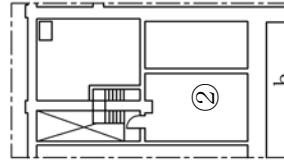
### 蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の系統概要図 前処理建屋



機器グループ	機器名	貯槽等注水 第1接続口	貯槽等注水 第2接続口	貯槽等注水 第3接続口	貯槽等注水 第4接続口
前処理建屋 内部ループ1	中継槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階①
	中継槽B	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階①
	リサイクル槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階②
	リサイクル槽B	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階②
	計量前中間貯槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階①
前処理建屋 内部ループ2	計量前中間貯槽B	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	計量後中間貯槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	計量・調整槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	計量補助槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	中間ボットA	地上3階③	地上3階④	地上3階⑤	地上3階⑥
	中間ボットB	地上3階③	地上3階④	地上3階⑤	地上3階⑥



T.M.S.L.約+58,000



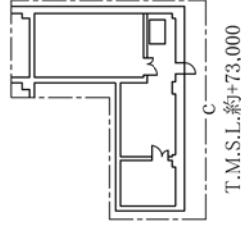
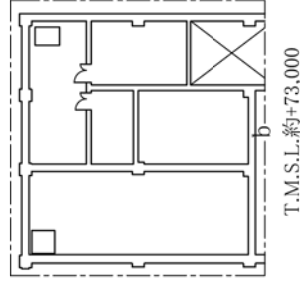
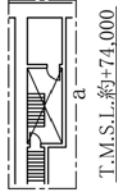
T.M.S.L.約+58,500

T.M.S.L.約+55,500

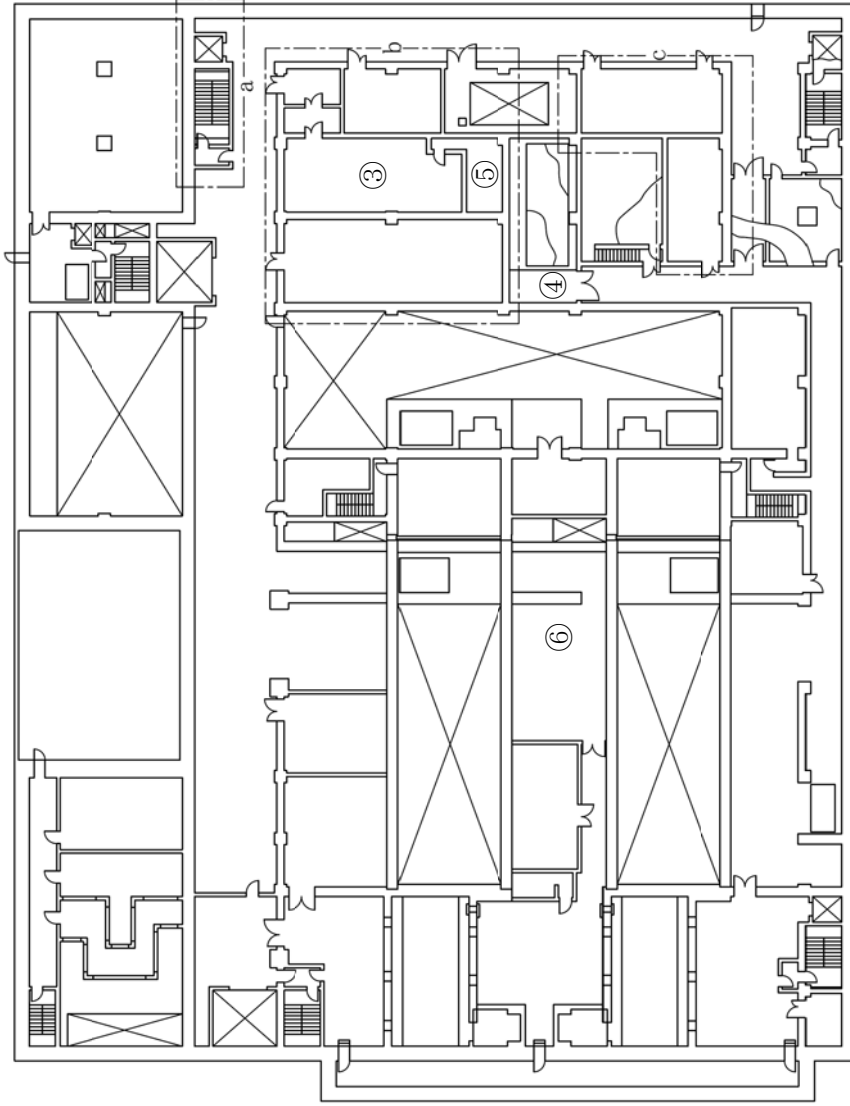
代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 前処理建屋（地上1階）



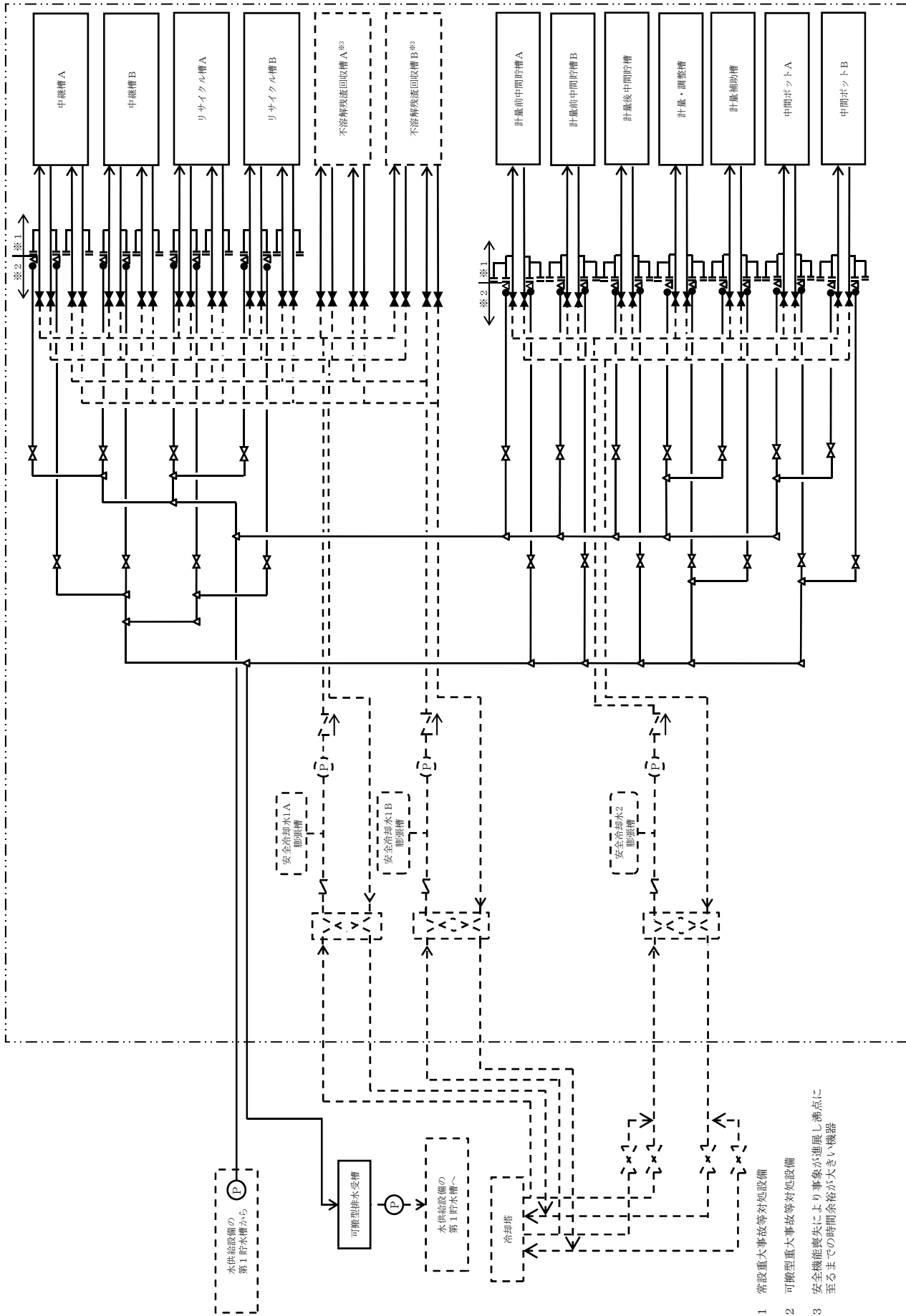
機器グループ	機器名	貯槽等注水			
		第1接続口	第2接続口	第3接続口	貯槽等注水
前処理建屋 内部グループ1	中継槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階①	第4接続口 地上1階①
	中継槽B	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階①
	リサイクル槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階②
	リサイクル槽B	地上1階①	地上3階④	地上1階①	地上1階①
	計量前中間貯槽A	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	計量後中間貯槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
前処理建屋 内部グループ2	計量・調整槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	計量補助槽	地上1階①	地上3階④	地上1階②	地上1階①
	中間ボットA	地上3階③	地上3階④	地上3階⑤	地上3階⑥
	中間ボットB	地上3階③	地上3階④	地上3階⑤	地上3階⑥



T.M.S.L.約+69,000



代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 前処理建屋（地上3階）



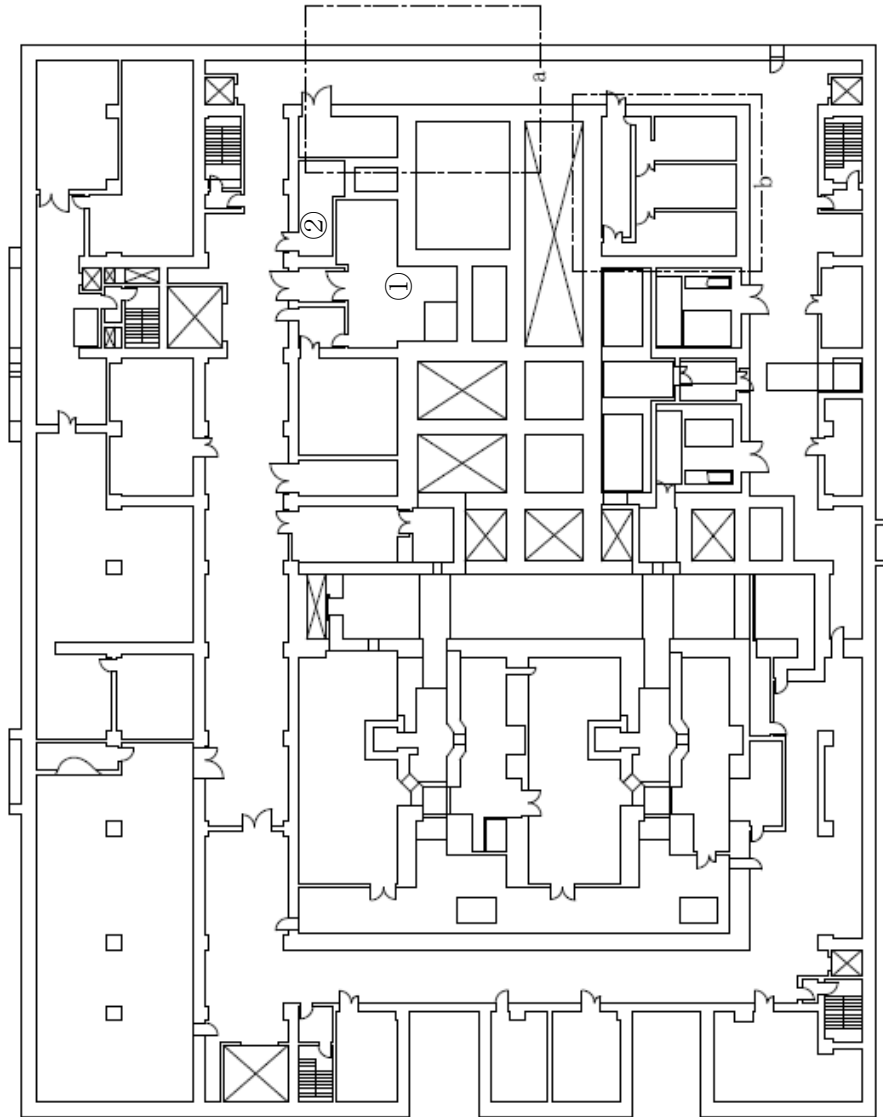
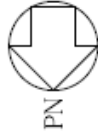
※1 常設重大事故等対処設備

※2 可搬型重大事故等対処設備

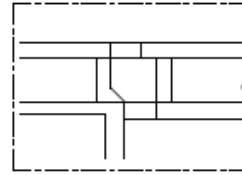
※3 安全機能喪失により事象が進展し沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

本図は、各貯槽の冷却コイル等の2系統のうち1系統の第1接続口の接続例である。第2接続口及び他の系統等に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

### 蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の系統概要図 前処理建屋



機器グループ	機器名	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)
前処理建屋 内部ルーフ1	中継槽A	地下1階 ③	地下1階 ④
	中継槽B	地下1階 ⑥	地下1階 ⑦
	リサイクル槽A	地下1階 ⑧	地下1階 ⑨
	リサイクル槽B	地下1階 ⑩	地下1階 ⑪
前処理建屋 内部ルーフ2	計量前中間貯槽A	地下1階 ⑫	地下1階 ⑬
	計量前中間貯槽B	地下1階 ⑭	地下1階 ⑮
	計量後中間貯槽	地下3階 ⑯	地下3階 ⑰
	計量・調整槽	地下1階 ⑱	地下1階 ⑲
	計量補助槽	地上1階 ⑳	地上1階 ㉑
	中間ボットA	地上1階 ㉒	地上1階 ㉓



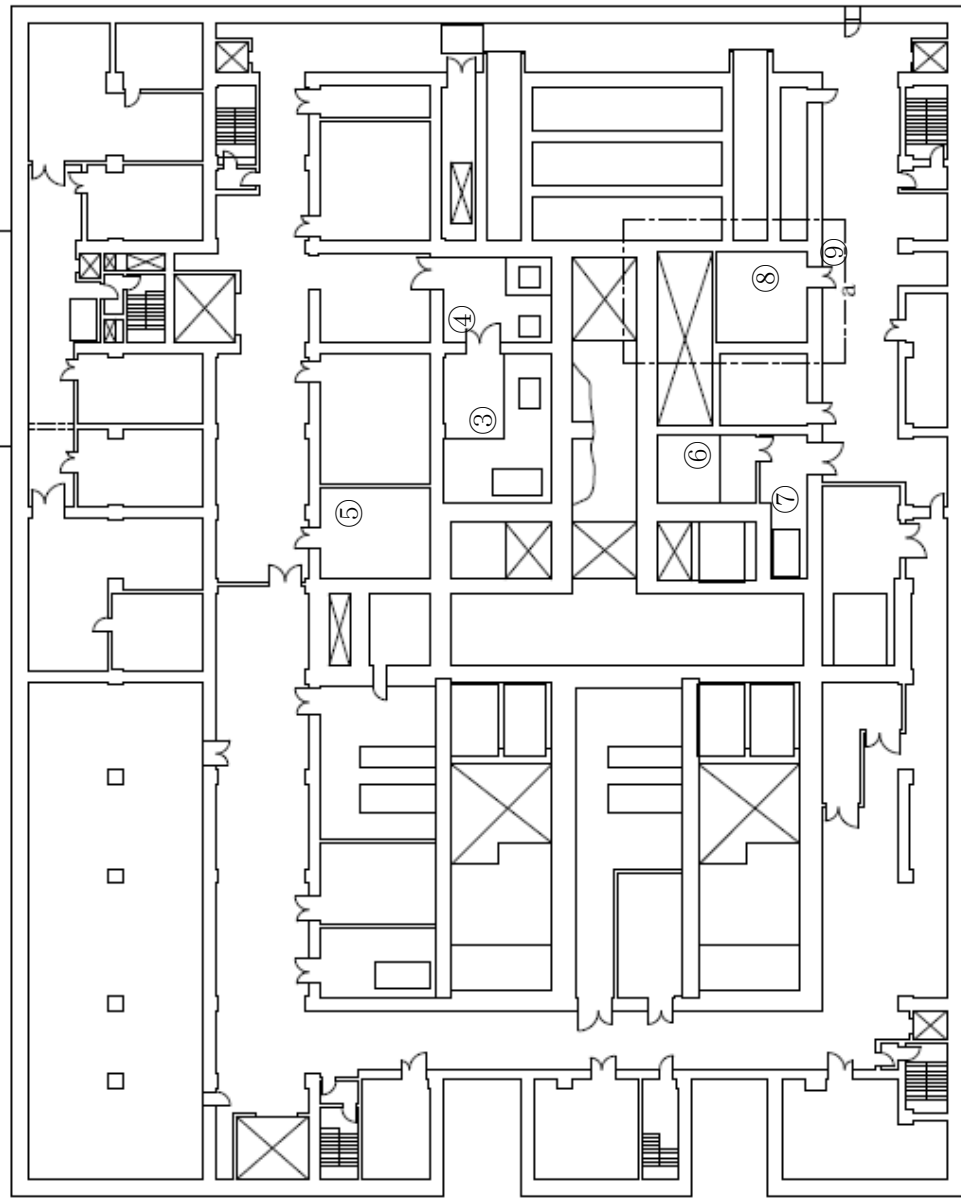
T.M.S.L.約+48,000



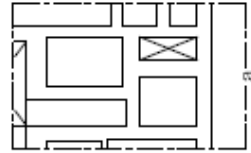
T.M.S.L.約+47,500

T.M.S.L.約+44,000

代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 前処理建屋（地下3階）



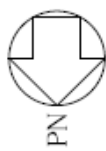
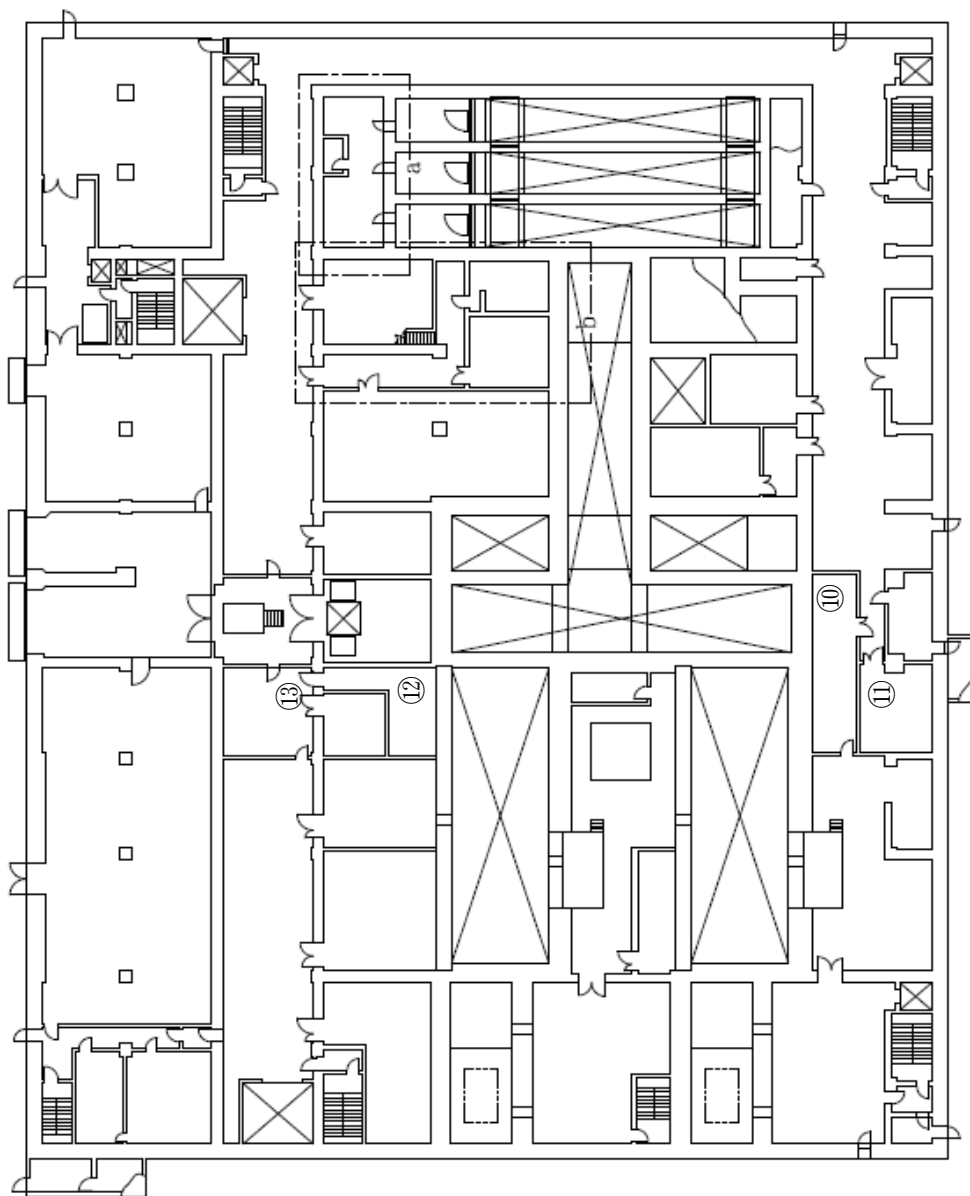
機器グループ	機器名	冷却コイル等加水 第1接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等加水 第2接続口 (給水口及び排水口)
前処理建屋 内部ループ1	中継槽 A	地下1階 ③	地下1階 ④
	中継槽 B	地下1階 ⑥	地下1階 ⑦
	リサイクル槽A	地下1階 ⑧	地下1階 ⑨
	リサイクル槽B	地下1階 ⑩	地下1階 ⑪
前処理建屋 内部ループ2	計量前中間貯槽A	地下1階 ⑫	地下1階 ⑬
	計量前中間貯槽B	地下1階 ⑭	地下1階 ⑮
	計量後中間貯槽	地下3階 ⑰	地下3階 ⑱
	計量・調整槽	地下1階 ⑲	地下1階 ⑳
	計量補助槽	地上1階 ㉑	地上1階 ㉒
	中間ボットA	地上1階 ㉓	地上1階 ㉔
	中間ボットB	地上1階 ㉕	地上1階 ㉖



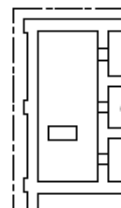
T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

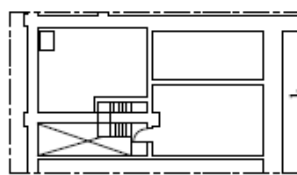
代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 前処理建屋（地下1階）



機器グループ	機器名	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)
前処理棟 内部ループ1	中継槽A	地下1階 ③	地下1階 ④
	中継槽B	地下1階 ⑥	地下1階 ⑦
	リサイクル槽A	地下1階 ⑧	地下1階 ⑨
	リサイクル槽B	地下1階 ⑩	地下1階 ⑪
前処理棟 内部ループ2	計量前中間貯槽A	地下1階 ⑫	地下1階 ⑬
	計量前中間貯槽B	地下1階 ⑭	地下1階 ⑮
	計量後中間貯槽	地下3階 ⑯	地下3階 ⑰
	計量・調整槽	地下1階 ⑱	地下1階 ⑲
	計量補助槽	地上1階 ⑳	地上1階 ㉑
	中間ボットA	地上1階 ㉒	地上1階 ㉓
中間ボットB	地上1階 ㉔	地上1階 ㉕	



T.M.S.L.約+58,000



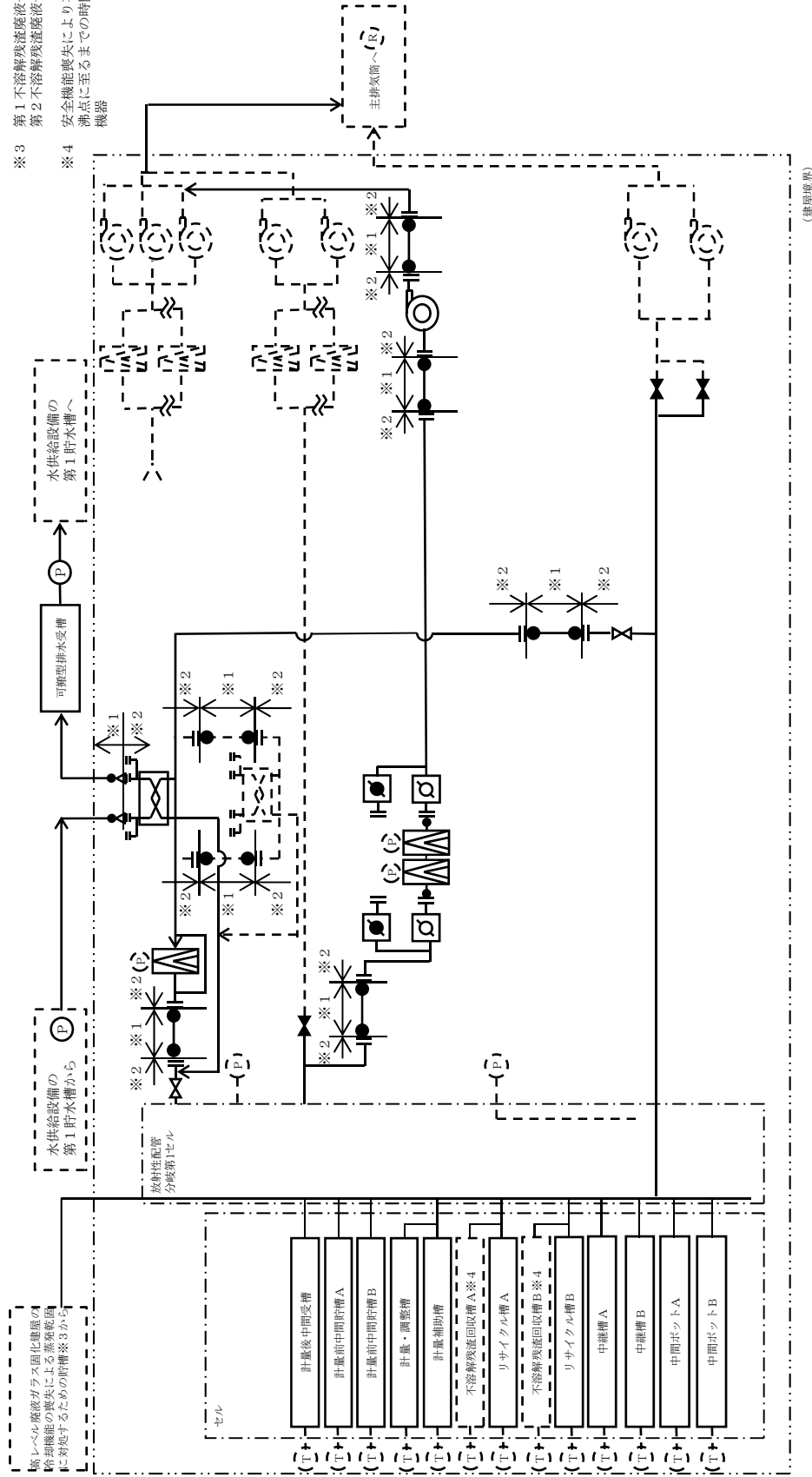
T.M.S.L.約+58,500

T.M.S.L.約+55,500

代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 前処理建屋（地上1階）

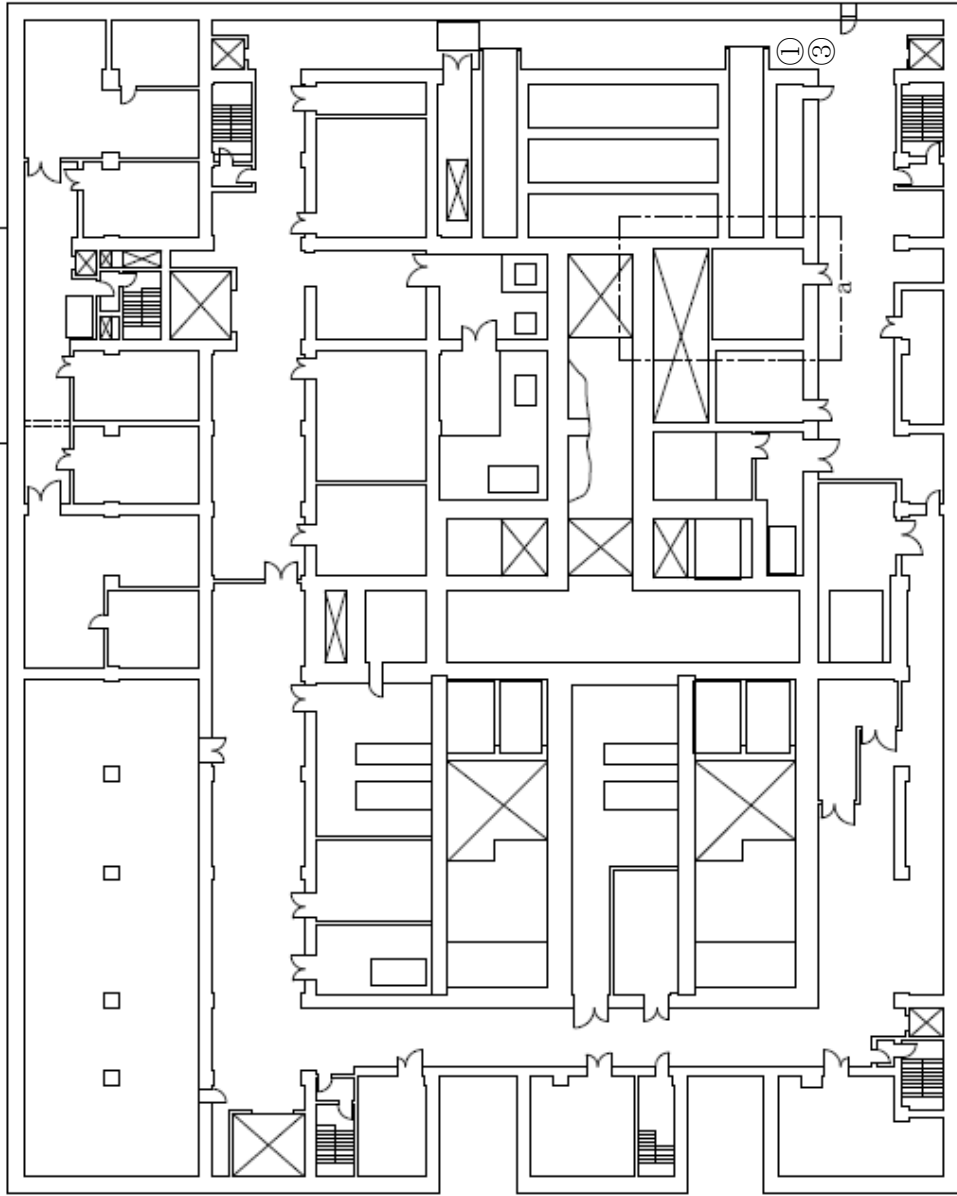
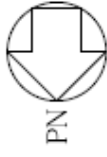


- ※1 可搬型重大事故等対処設備
- ※2 常設重大事故等対処設備
- ※3 第1不溶解残渣滞留一時貯槽  
第2不溶解残渣滞留一時貯槽
- ※4 安全機能喪失により事象が進展し、沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

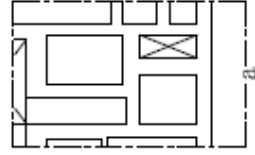


本図は、セル導出設備の凝縮器の第1接続口の接続例である。セル導出設備の凝縮器の第2接続口及び予備凝縮器に接続した場合は同様の系統である。

## 蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応）の系統概要図 前処理建屋



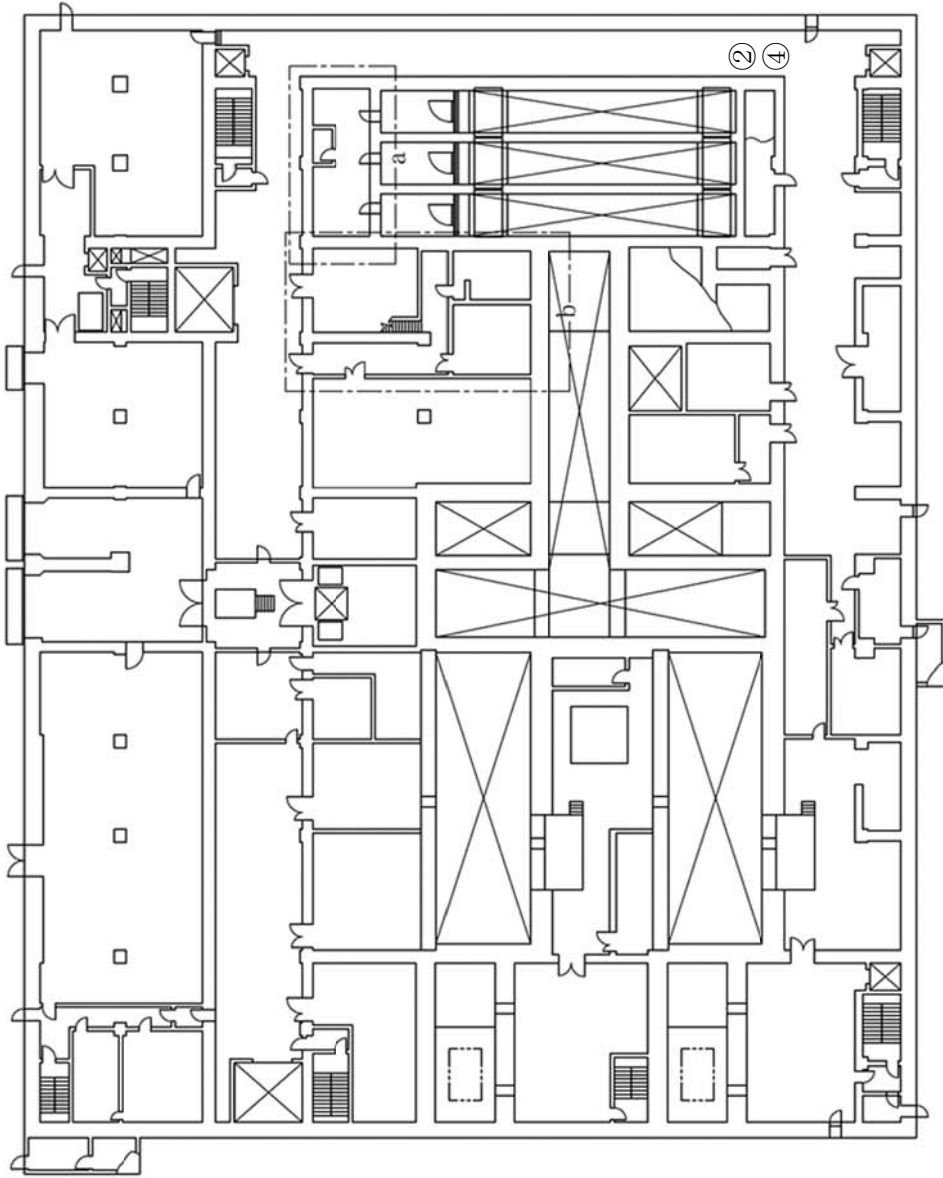
機器名	凝縮器通水	
	第1接続口 (給水口及び排水口)	第2接続口 (給水口及び排水口)
凝縮器	地下1階 ①	地上1階 ②
予備凝縮器	地下1階 ③	地上1階 ④



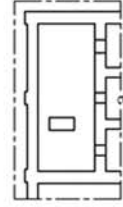
T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

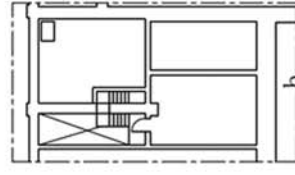
代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覽 前処理建屋（地下1階）



機器名	凝縮器通水	
	第1接続口 (給水口及び排水口)	第2接続口 (給水口及び排水口)
凝縮器	地下1階 ①	地上1階 ②
予備凝縮器	地下1階 ③	地上1階 ④



T.M.S.L.約+58,000



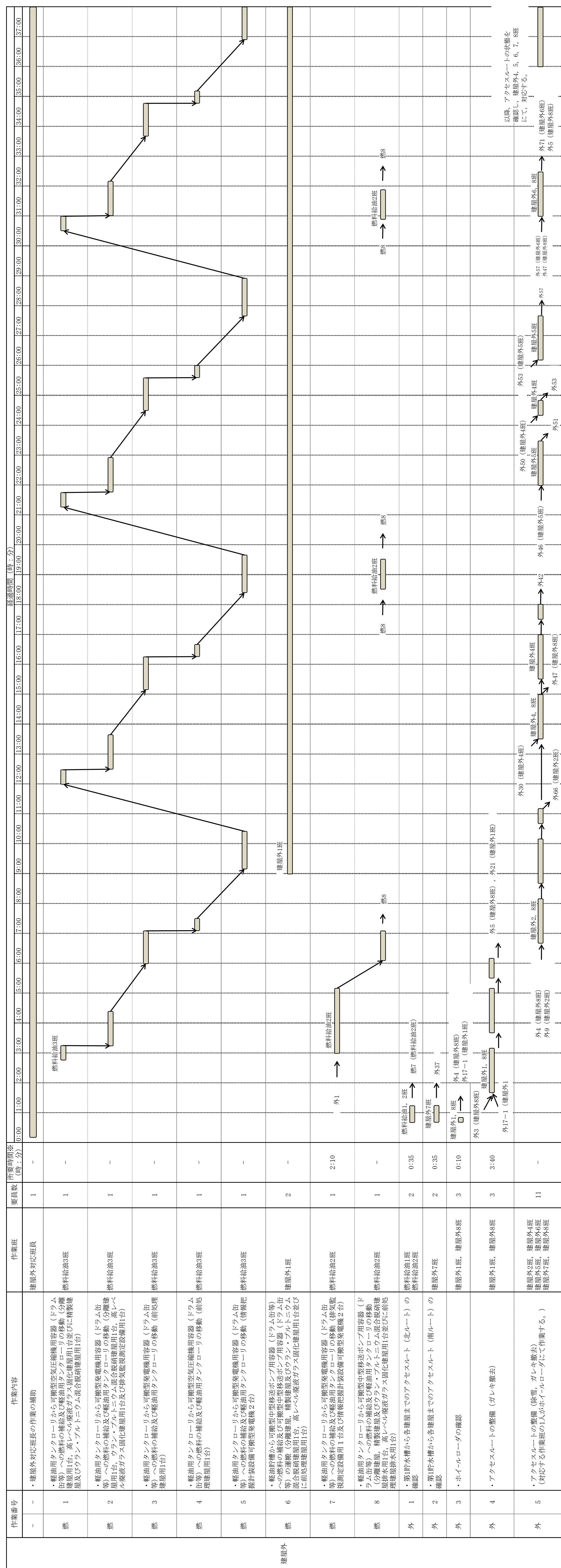
T.M.S.L.約+58,500

T.M.S.L.約+55,500

代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覽 前処理建屋（地上1階）







※：各作業内容の発動に必要な時間を示す。(複数回に分けて発動の場合は、作業時間の合計)

### 前処理建屋における地震を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その2)



作業番号	作業内容	作業班	要員数	作業時間(時:分)	経過時間(時:分)																																
					0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00
外 6	・使用する資機材の確認	建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	10	0:20																																	
外 7	・第1貯水取水準備	建屋外2班 建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	10	0:10																																	
外 8	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の運搬車で運搬する可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型圧力計、可搬型圧力計)	建屋外2班	2	0:30																																	
外 9	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の運搬車で運搬する可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型圧力計、可搬型圧力計)	建屋外2班	2	3:30																																	
外 10	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの取組	建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	2	0:10																																	
外 11	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの取組	建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	6	0:30																																	
外 12	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用のホース取組車で搬送する可搬型建屋外ホースの準備	建屋外6班	2	0:30																																	
外 13	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースの取組	建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	8	1:10																																	
外 14	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの取組	建屋外4班	2	0:30																																	
外 15	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースの取組	建屋外5班 建屋外6班	6	0:30																																	
外 16	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースの取組	建屋外5班 建屋外6班	6	1:30																																	
外 18	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースとの取組	建屋外4班	2	0:10																																	
外 19	・分棟建屋用の可搬型建屋外ホースと可搬型建屋外ホースとの取組	建屋外3班	2	0:10																																	
外 20	・ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースと可搬型建屋外ホースとの取組	建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	2	0:10																																	
外 21	・精製建屋への水の供給流量及び圧力の調整	建屋外4班	4	0:30																																	
外 22	・ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋への水の供給流量及び圧力の調整(必要に応じ精製建屋側も調整)	建屋外1班 建屋外3班	4	0:35																																	
外 23	・ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋への水の供給流量及び圧力の調整(必要に応じ分棟建屋側も調整)	建屋外1班 建屋外2班	4	1:40																																	
外 24	・分棟建屋、精製建屋及びウラン・プルトニウム混合脱硝建屋への水の供給及び状態監視(流量、圧力、第1貯水槽の水位)	建屋外1班	2	-																																	
外 25	・可搬型中型移送ポンプへの燃料の補給	建屋外6班	2	0:10																																	
外 26	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプ運搬車による可搬型中型移送ポンプの運搬	建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	6	0:30																																	
外 27	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプの設置及び起動確認	建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	2	0:30																																	
外 28	・高レベル廃液ガラス固化建屋用のホース取組車で搬送する可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型圧力計)	建屋外3班	2	1:00																																	
外 29	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の運搬車による可搬型建屋外ホースの取組(金具類、可搬型圧力計)	建屋外3班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	2	1:30																																	
外 30	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの取組	建屋外5班 建屋外6班	8	2:00																																	
外 31	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプの取組	建屋外1班	2	0:30																																	
外 32	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの状態確認	建屋外6班 建屋外7班	6	0:30																																	
外 33	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの取組	建屋外5班 建屋外6班 建屋外7班	6	1:30																																	
外 34	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの可搬型建屋外ホースとの取組	建屋外3班	2	0:10																																	
外 35	・高レベル廃液ガラス固化建屋への水の供給流量及び圧力の調整	建屋外1班 建屋外3班	4	0:30																																	
外 36	・高レベル廃液ガラス固化建屋への水の供給及び状態監視(流量、圧力、第1貯水槽の水位)	建屋外1班	2	-																																	

※：各作業内容の発端に必要時間を示す。(複数回に分けて発端の場合は、作業時間の合計)

### 前処理建屋における地震を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その3)







作業番号	作業班	所要時間 (時:分)	経過時間 (時:分)																																		
			0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00	33:00	34:00
-	実施責任者	-																																			
-	建設対策班長	5																																			
-	現場管理者	5																																			
-	要員管理班	3																																			
-	情報管理班	3																																			
-	通信班長	1																																			
-	建設対策班長	1																																			
放	放射線対策班長	1																																			

作業番号	作業内容	作業班	所要時間 (時:分)	経過時間 (時:分)																																	
				0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00	33:00
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	0:20	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:00	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	2:10	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	3:10	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:00	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	-	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:30	放																																	
放	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	-	放																																	

作業番号	作業内容	作業班	所要時間 (時:分)	経過時間 (時:分)																																	
				0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00	33:00
AA 19	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:30	放																																	
AA 22	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:10	放																																	
AA 20	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:00	放																																	
AA 21	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	0:30	放																																	
AA 23	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	0:40	放																																	
AA 受血	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	1:35	放																																	
AA 30	放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班 放射線対策班	放射線対策班	-	放																																	

※: 各作業内容の実施に必要な時間を示す。(積数回に分けて実施の場合)。

## 前処理建屋における火山を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その1)



作業番号	作業内容	作業班	要員数 (名)	所要時間 (時：分)	経過時間 (時：分)																																
					0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00
-	・ 建屋外対応班長の作業の補助	建屋外対応班員	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（分機用燃用1台） ・ 高レベル廃液ガラス固化建屋用1年並びに構築建屋及びウラン・プルトニウム混合廃液処理建屋用1台	燃料給油班	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（分機用燃用1台） ・ 高レベル廃液ガラス固化建屋用1台及び気象測定設備用1台	燃料給油班	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（前処理建屋用1台）	燃料給油班	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（前処理建屋用1台）	燃料給油班	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（情報把握計設置機可搬型空圧機2台）	燃料給油班	1	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（分機用燃用1台） ・ 高レベル廃液ガラス固化建屋用1年並びに構築建屋及びウラン・プルトニウム混合廃液処理建屋用1台	建屋外1班	2	-																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（情報把握計設置機可搬型空圧機2台）	燃料給油班	1	2:10																																	
燃	・ 燃料タンクローリから可搬型空圧圧縮機用容器（ドラム缶等）への燃料の補給及び燃料用タンクローリの移動（分機用燃用1台） ・ 高レベル廃液ガラス固化建屋用1年並びに構築建屋及びウラン・プルトニウム混合廃液処理建屋用1台	燃料給油班	1	-																																	
外	・ ホイールローダの確認	建屋外1班、建屋外8班	3	0:10																																	
外	・ アウトストアートの整備（除雪、除灰） （対応する作業班の入出ローラータンクにて作業する。）	建屋外1班 建屋外4班 建屋外5班 建屋外8班	13	-																																	

※：各作業内容の実施に必要な時間を示す。（複数回に分けて実施の場合は、作業時間の合計）

## 前処理建屋における火山を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目（その2）









作業番号	作業内容	作業班	要員数	経過時間(時:分)																							
				0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
AA 1	・可搬型貯槽液位計設置準備(可搬型建屋外ホース敷設)	建屋内22班, 建屋内23班	4	1:30																							
AA 4	・可搬型貯槽液位計設置準備(可搬型空気圧縮機起動)	建屋内24班, 建屋内25班	4	0:15																							
AA 24	・可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 漏えい確認	建屋内16班, 建屋内17班	4	1:00																							
AA 25	・可搬型貯槽液位計設置及び貯槽液位計測	建屋内13班, 建屋内14班 建屋内15班	6	1:10																							
AA 26	・貯槽等への注水実施, 漏えい確認等	建屋内28班	2	0:30																							
AA 27	・貯槽液位計測	建屋内29班	2	0:40																							
AA 28	・可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 隔離, 可搬型凝縮器出口排気温度計設置	建屋内16班, 建屋内17班	4	0:30																							
AA 29	・凝縮器への通水実施, 漏えい確認及び凝縮器通水流量監視	建屋内16班	2	0:40																							
AA 11	・ダンプ閉止	建屋内33班	2	1:00	放10 飲料機管理	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 12	・隔離弁の操作, 可搬型セル導出ユニット流量計設置, 可搬型凝縮器通水流量計設置	建屋内32班	2	0:45	放10 飲料機管理	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 14	・可搬型導出先セル圧力計設置, 可搬型ガス洗浄塔入口圧力計設置, 可搬型セル導出ユニット圧力計設置	建屋内34班	2	1:20	外電 遮断	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 15-1	・可搬型電源ケーブル敷設	制御室1班, 制御室2班 制御室3班	6	1:00	AG6 (制御室1班) AG2 (制御室2班) AG3 (制御室3班)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 15-2	・可搬型タクト, 可搬型フィルタ設置, 可搬型排風機設置	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	2:30	放11 (放対7, 8, 9班) 放12 (放対6班)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 16	・可搬型発電機起動	制御室1班	2	0:15	制御室1班	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
AA 17	・可搬型排風機起動準備	放対6班, 放対7班	4	0:15																							
AA 18	・可搬型導出先セル圧力計確認, 可搬型排風機起動	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	1:00																							
AA=1 1	・可搬型建屋内ホース等運搬(前処理建屋内部ループ1)	建屋内17班	2	0:50																							
AA=1 2	・冷却コイル等への通水準備(可搬型建屋内ホース敷設, 可搬型冷却コイル圧力計設置)(前処理建屋内部ループ1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	1:30																							
AA=1 3	・冷却コイル等の健全性確認(弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認)(前処理建屋内部ループ1)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班	6	1:10																							
AA=1 4	・冷却コイル等への通水実施(弁操作, 漏えい確認)(前処理建屋内部ループ1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	0:15																							
AA=2 1	・可搬型建屋内ホース等運搬(前処理建屋内部ループ2)	建屋内20班	2	1:20																							
AA=2 2	・冷却コイル等への通水準備(可搬型建屋内ホース敷設, 可搬型冷却コイル圧力計設置)(前処理建屋内部ループ2)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班, 建屋内25班	8	1:20																							
AA=2 3	・冷却コイル等の健全性確認(弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認)(前処理建屋内部ループ2)	建屋内13班, 建屋内14班 建屋内15班, 建屋内16班	8	1:30																							
AA=2 4	・冷却コイル等への通水実施(弁操作, 漏えい確認)(前処理建屋内部ループ2)	建屋内25班	2	0:30																							
AA 30	・壯麗監視(貯槽等温度, 貯槽等注水流量, 冷却コイル注水流量, 凝縮器出口排気温度, 凝縮器通水流量, 凝縮器排水流量, 代替セル排気系(アイソト)監視) ・可搬型発電機及び可搬型空気圧縮機等への燃料の補給	建屋内11班, 建屋内12班	4	-																							

※: 各作業内容の実施に必要な時間を示す。(複数回に分けて実施の場合は, 作業時間の合計)

前処理建屋における地震又は火山を想定した場合の貯槽等への注水, 冷却コイル等への通水, セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目(その1)

作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間 (時:分)	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00	33:00	34:00	35:00	36:00	37:00	38:00	39:00	40:00	41:00	42:00	43:00	44:00	45:00	46:00	47:00			
AA 1	・可搬型貯槽液位計設置準備(可搬型建屋外ホース敷設)	建屋内22班, 建屋内25班	4	1:30							AC=1 1 (建屋内23班) AC=2 2 (建屋内23班)	→	建屋内22, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内22, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内22, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内22, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内22, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内24, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内24, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内24, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内24, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	建屋内24, 25班 (可搬型貯槽液位計設置準備)
AA 4	・可搬型貯槽液位計設置準備(可搬型空気圧縮機起動)	建屋内24班, 建屋内25班	4	0:15									AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)	→	AA3 (可搬型貯槽液位計設置準備)
AA 24	・可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 漏えい確認	建屋内16班, 建屋内17班	4	1:00									AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)	→	AA20 (蒸気乾留発生防止)
AA 25	・可搬型貯槽液位計設置及び貯槽液位計測	建屋内13班, 建屋内14班 建屋内15班	6	1:10									AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)	→	AA19 (建屋内13班), AA21 (建屋内14班), AA23 (建屋内15班) (蒸気乾留発生防止)		
AA 26	・貯槽等への注水実施, 漏えい確認等	建屋内28班	2	0:30																											
AA 27	・貯槽液位計測	建屋内29班	2	0:40																											
AA 28	・可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 漏えい確認, 可搬型凝縮器出口排気速度計設置	建屋内16班, 建屋内17班	4	0:30																											
AA 29	・凝縮器への通水実施, 漏えい確認及び凝縮器通水流量監視	建屋内16班	2	0:40																											
AA 11	・ダンパ閉止	建屋内33班	2	1:00																											
AA 12	・隔離弁の操作, 可搬型セル導出ユニット流量計設置, 可搬型凝縮器通水流量計設置	建屋内32班	2	0:45																											
AA 14	・可搬型導出先セル圧力計設置, 可搬型腐ガス洗浄塔入口圧力計設置, 可搬型セル導出ユニットフィルタ差圧計設置	建屋内34班	2	1:20																											
AA 15-1	・可搬型電源ケーブル敷設	制御室1班, 制御室2班 制御室3班	6	1:00																											
AA 15-2	・可搬型ダクト, 可搬型フィルタ設置, 可搬型排風機設置	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	2:30																											
AA 16	・可搬型発電機起動	制御室1班	2	0:15																											
AA 17	・可搬型排風機起動準備	放対6班, 放対7班	4	0:15																											
AA 18	・可搬型導出先セル圧力計確認, 可搬型排風機起動	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	1:00																											
AA=1 1	・可搬型建屋内ホース等運搬(前処理建屋内部ループ 1)	建屋内17班	2	0:50																											
AA=1 2	・冷却コイル等への通水準備(可搬型建屋内部ループ 1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	1:30																											
AA=1 3	・冷却コイル等の健全性確認(弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認)(前処理建屋内部ループ 1)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班	6	1:10																											
AA=1 4	・冷却コイル等への通水実施(弁操作, 漏えい確認)(前処理建屋内部ループ 1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	0:15																											
AA=2 1	・可搬型建屋内ホース等運搬(前処理建屋内部ループ 2)	建屋内20班	2	1:20																											
AA=2 2	・冷却コイル等への通水準備(可搬型建屋内部ループ 2)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班, 建屋内25班	8	1:20																											
AA=2 3	・冷却コイル等の健全性確認(弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認)(前処理建屋内部ループ 2)	建屋内13班, 建屋内14班 建屋内15班, 建屋内16班	8	1:30																											
AA=2 4	・冷却コイル等への通水実施(弁操作, 漏えい確認)(前処理建屋内部ループ 2)	建屋内25班	2	0:30																											
AA 30	・計器監視(貯槽等温度, 貯槽等液位, 貯槽等注水流量, 冷却コイル通水流量, 凝縮器出口排気温度, 凝縮器通水流量, 凝縮器回収セル液位, 代替セル排気系(フィルタ差圧)) ・可搬型発電機及び可搬型空気圧縮機等への燃料の補給	建屋内11班, 建屋内12班 建屋内12班, 建屋内13班	4	-																											

※：各作業内容の実施に必要な時間を示す。(複数回に分けて実施の場合は、作業時間の合計)

前処理建屋における地震又は火山を想定した場合の貯槽等への注水, 冷却コイル等への通水, セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その2)



作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間 (時：分)	経過時間 (時：分)	48:00	49:00	50:00	51:00	52:00	53:00	54:00	55:00	56:00	57:00	58:00	59:00	60:00	61:00	62:00	63:00	64:00	65:00	66:00	67:00	68:00	69:00	70:00
AA 1	可搬型貯槽液位計設置準備 (可搬型建屋外ホース敷設)	建屋内22班, 建屋内23班	4	1:30																								
AA 4	可搬型貯槽液位計設置準備 (可搬型空気圧縮機起動)	建屋内24班, 建屋内25班	4	0:15																								
AA 24	可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 漏えい確認	建屋内16班, 建屋内17班	4	1:00																								
AA 25	可搬型貯槽液位計設置及び貯槽液位計測	建屋内13班, 建屋内15班	6	1:10																								
AA 26	貯槽等への注水実施, 漏えい確認等	建屋内28班	2	0:30																								
AA 27	貯槽液位計測	建屋内29班	2	0:40																								
AA 28	可搬型建屋内ホース敷設, 接続, 漏れ, 可搬型凝縮器出口排気温度計設置	建屋内16班, 建屋内17班	4	0:30																								
AA 29	凝縮器への通水実施, 漏えい確認及び凝縮器通水流量監視	建屋内16班	2	0:40																								
AA 11	ダンパ閉止	建屋内33班	2	1:00																								
AA 12	漏れ等の操作, 可搬型セル導出ユニット流量計設置, 可搬型凝縮器通水流量計設置	建屋内32班	2	0:45																								
AA 14	可搬型導出先セル圧力計設置, 可搬型廃ガス洗浄塔入口圧力計設置, 可搬型セル導出ユニット圧力計設置	建屋内34班	2	1:20																								
AA 15-1	可搬型電源ケーブル敷設	制御室1班, 制御室2班 制御室3班	6	1:00																								
AA 15-2	可搬型ダクト, 可搬型フィルタ設置, 可搬型排風機設置	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	2:30																								
AA 16	可搬型発電機起動	制御室1班	2	0:15																								
AA 17	可搬型排風機起動準備	放対6班, 放対7班	4	0:15																								
AA 18	可搬型導出先セル圧力計確認, 可搬型排風機起動	放対6班, 放対7班 放対8班, 放対9班	6	1:00																								
AA=1 1	可搬型建屋内ホース等運搬 (前処理建屋内部ループ 1)	建屋内17班	2	0:50																								
AA=1 2	冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内ホース敷設, 可搬型冷却コイル圧力計設置) (前処理建屋内部ループ 1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	1:30																								
AA=1 3	冷却コイル等の健全性確認 (弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認) (前処理建屋内部ループ 1)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班	6	1:10																								
AA=1 4	冷却コイル等への通水実施 (弁操作, 漏えい確認) (前処理建屋内部ループ 1)	建屋内20班, 建屋内21班	4	0:15																								
AA=2 1	可搬型建屋内ホース等運搬 (前処理建屋内部ループ 2)	建屋内20班	2	1:20																								
AA=2 2	冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内ホース敷設, 可搬型冷却コイル圧力計設置) (前処理建屋内部ループ 2)	建屋内22班, 建屋内23班 建屋内24班, 建屋内25班	8	1:20																								
AA=2 3	冷却コイル等の健全性確認 (弁操作, 漏えい確認, 冷却コイル圧力確認) (前処理建屋内部ループ 2)	建屋内13班, 建屋内14班 建屋内15班, 建屋内16班	8	1:30																								
AA=2 4	冷却コイル等への通水実施 (弁操作, 漏えい確認) (前処理建屋内部ループ 2)	建屋内25班	2	0:30																								
AA 30	計器監視 (貯槽等液位, 貯槽等注水流量, 冷却コイル通水流量, 凝縮器出口排気温度, 凝縮器通水流量, 凝縮器出口セル液位, 代替セル排気系フィルタ差圧) 可搬型発電機及び可搬型空気圧縮機等への燃料の補給	建屋内11班, 建屋内12班	4	-																								

※: 各作業内容の実施に必要な時間を示す。(複数回に分けて実施の場合は, 作業時間の合計)

前処理建屋における地震又は火山を想定した場合の貯槽等への注水, 冷却コイル等への通水, セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その3)

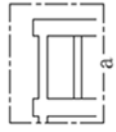
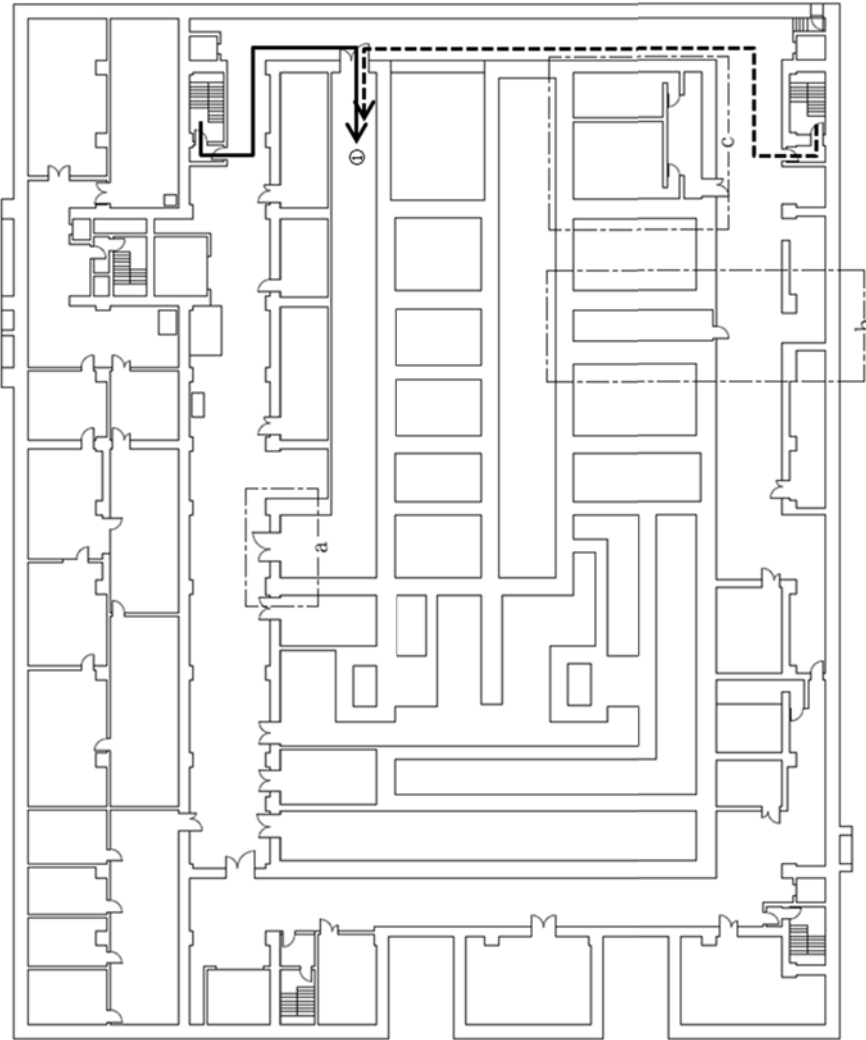


測定場所	監視項目
①	貯槽等温度 (①+型補助槽)

→ : アクセスルート 東

- -> : アクセスルート 西

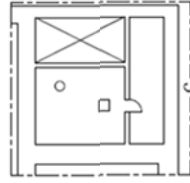
□ : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



T.M.S.L.約+40,000



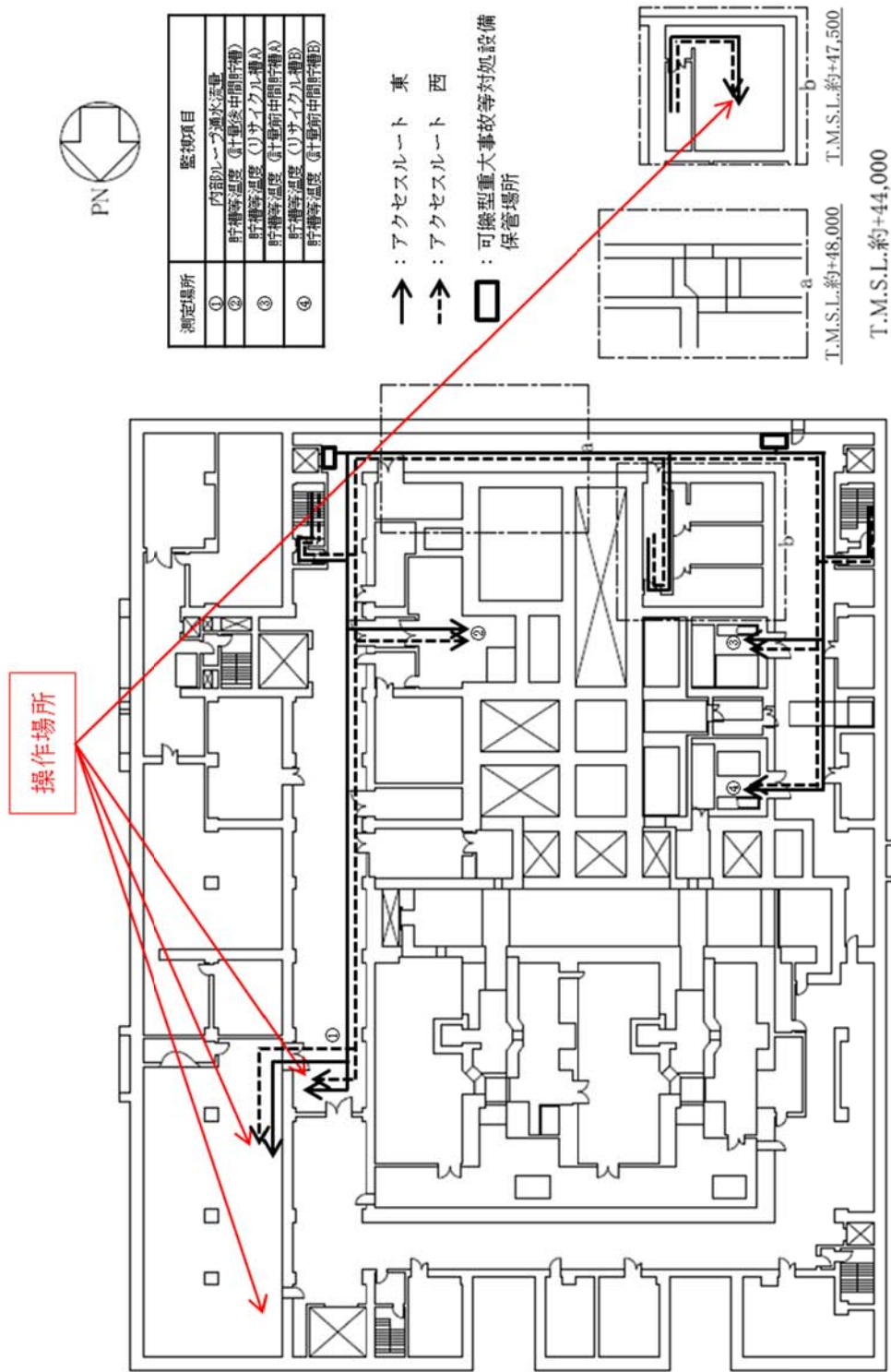
T.M.S.L.約+41,000



T.M.S.L.約+41,500

T.M.S.L.約+37,000

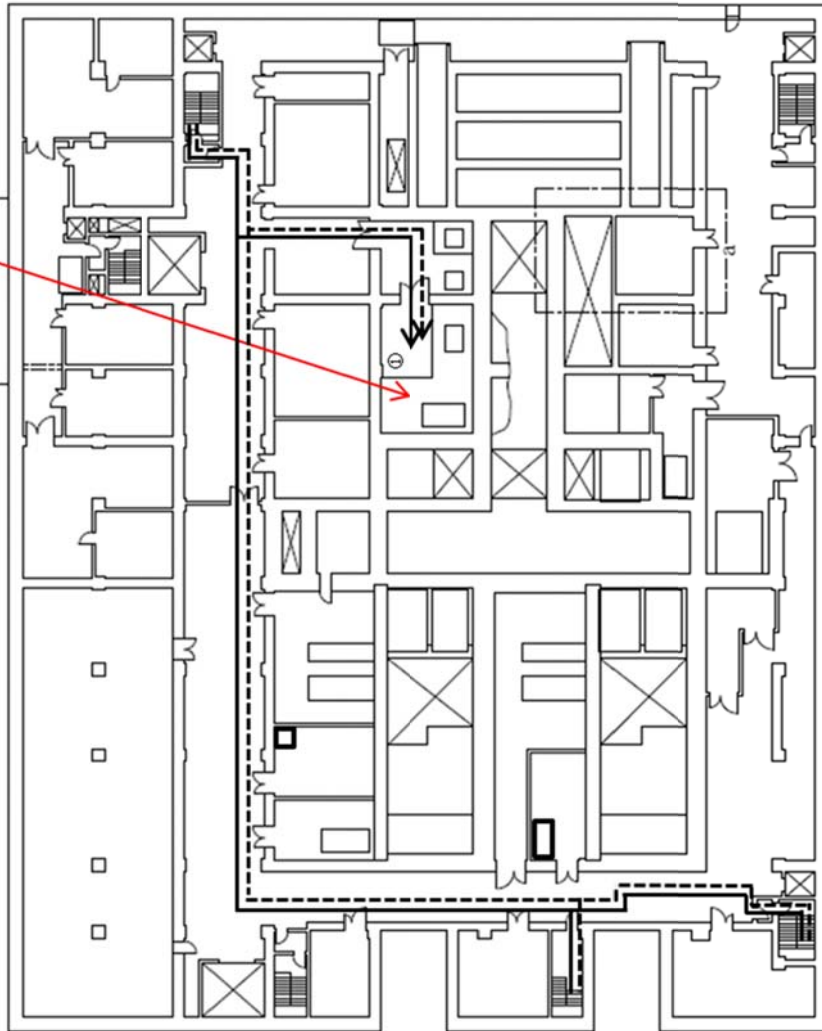
蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 前処理建屋 (地下4階)



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 前処理建屋（地下3階）

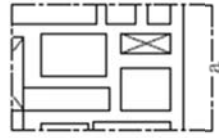


操作場所



測定場所	監視項目
①	貯蔵室温度 (中継室A)
	貯蔵室温度 (中継室B)
	貯蔵室温度 (中継室C)

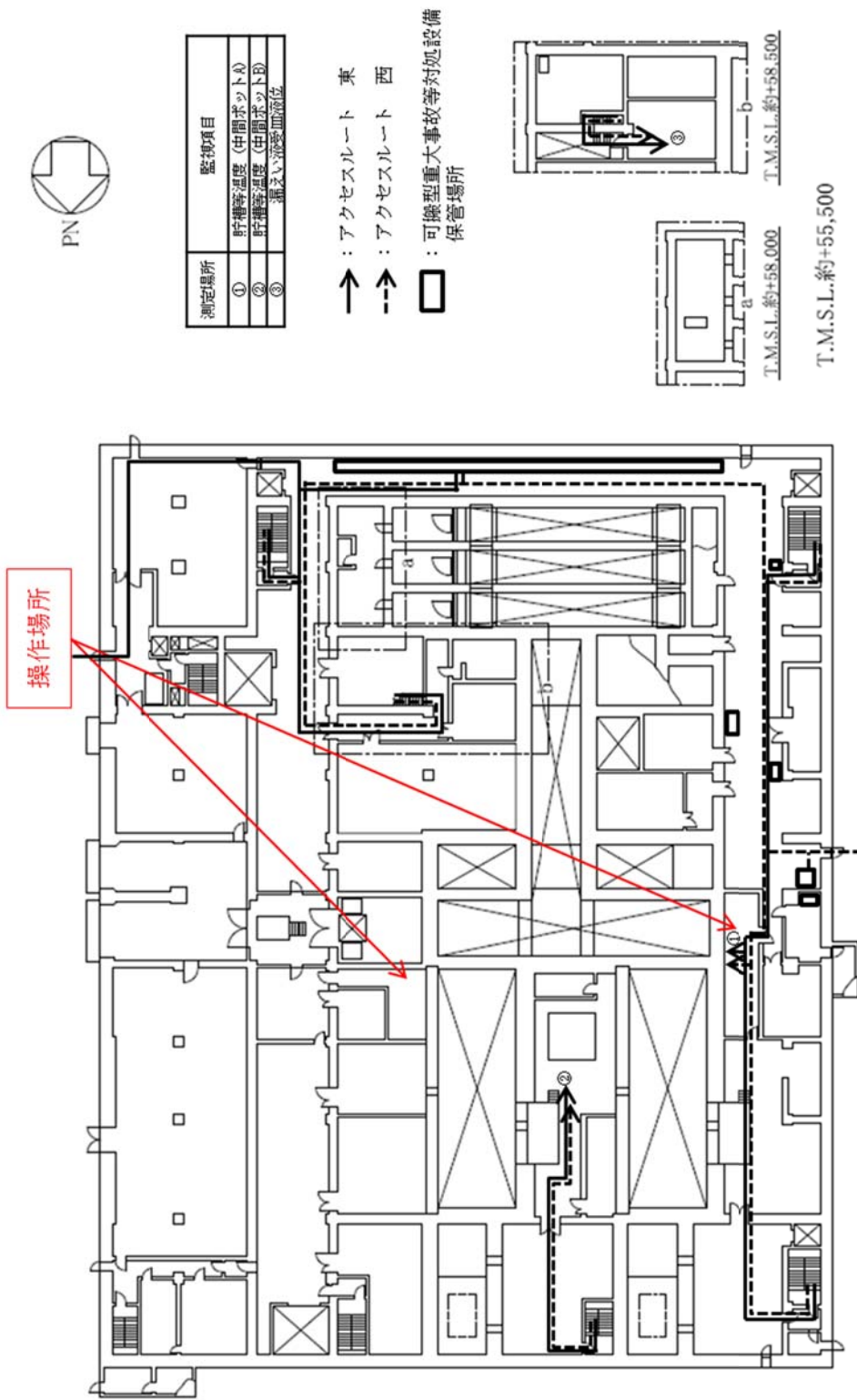
- ↑ : アクセスルート 東
- ⇨ : アクセスルート 西
- : 可換型重大事故等対応設備 保管場所



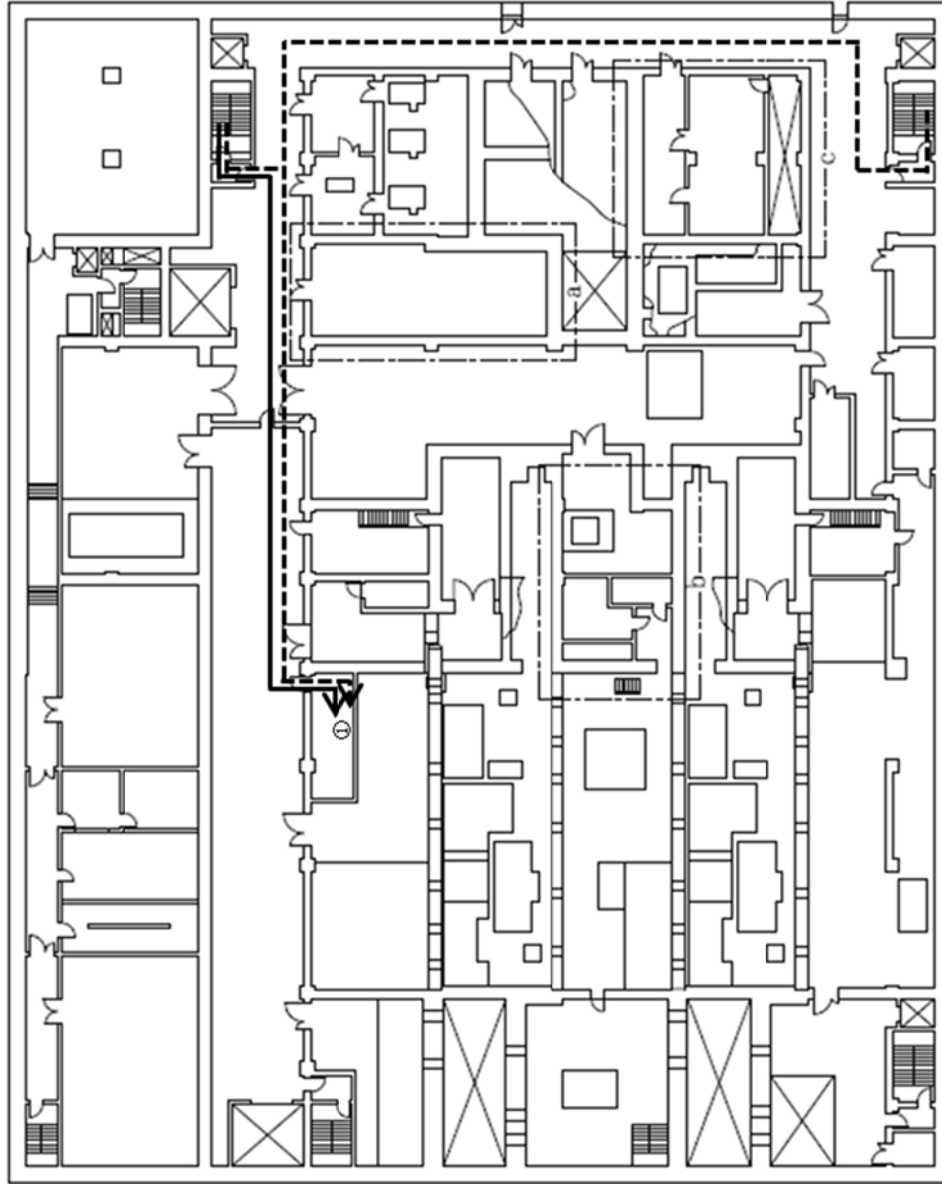
T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 前処理建屋 (地下1階)



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 前処理建屋（地上1階）



測定場所	監視項目
①	膨張槽液位

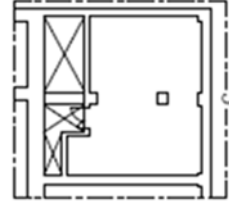
→ : アクセスルート 東

- -> : アクセスルート 西

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+65,500



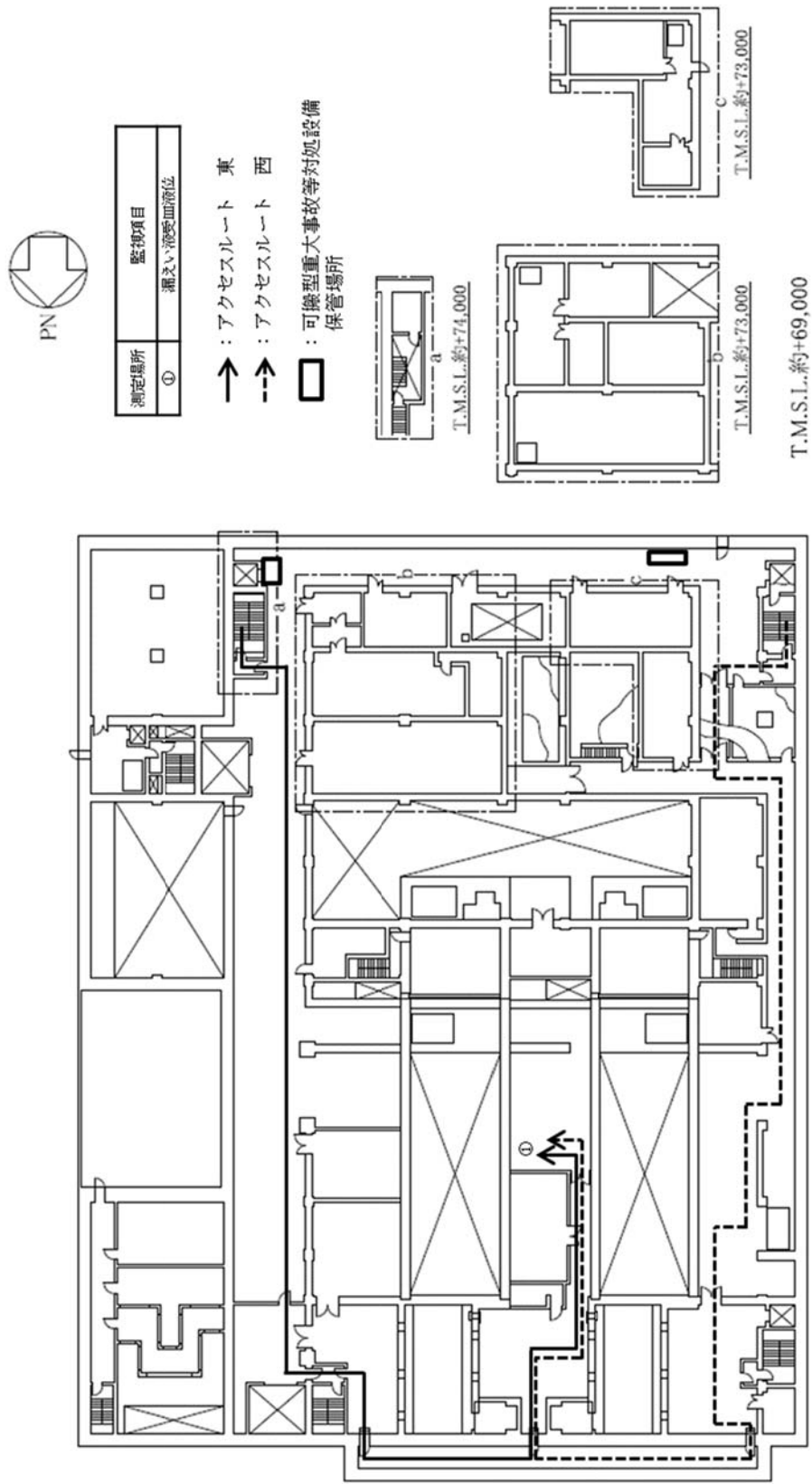
T.M.S.L.約+65,500



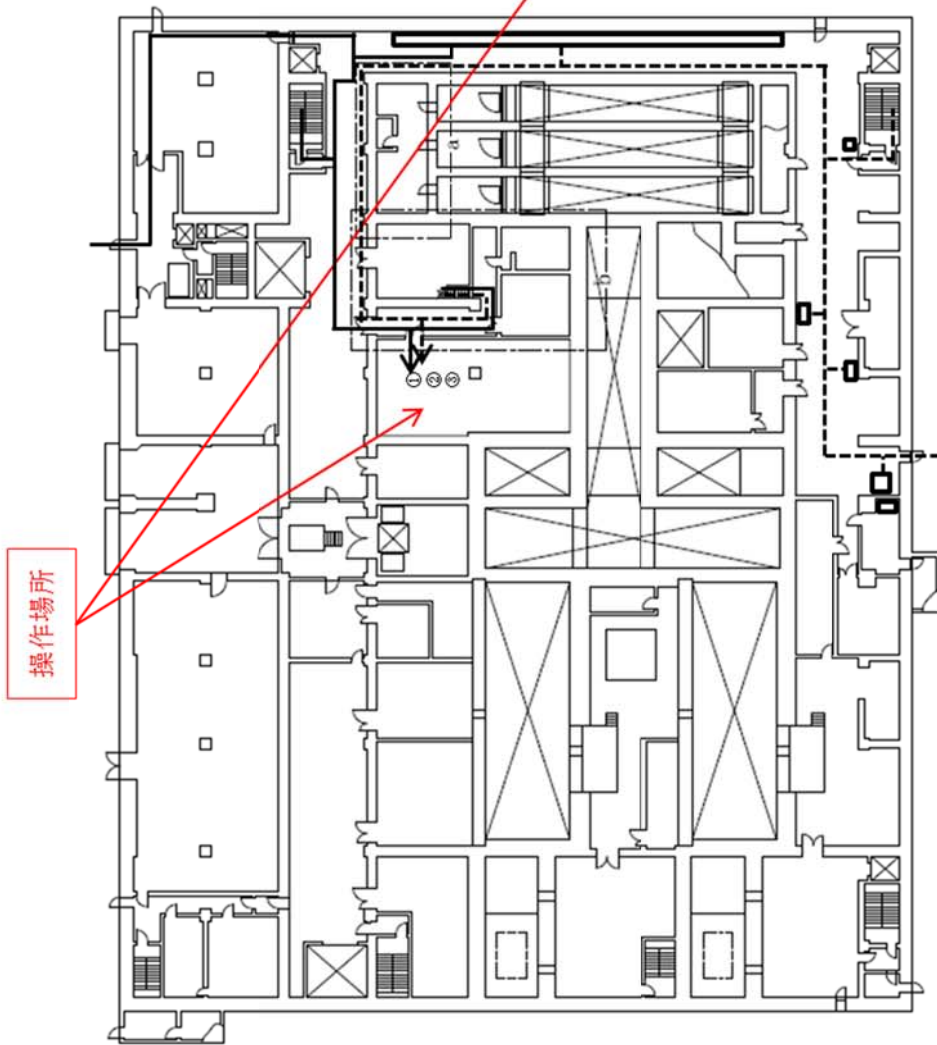
T.M.S.L.約+65,500

T.M.S.L.約+62,000

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 前処理建屋（地上2階）



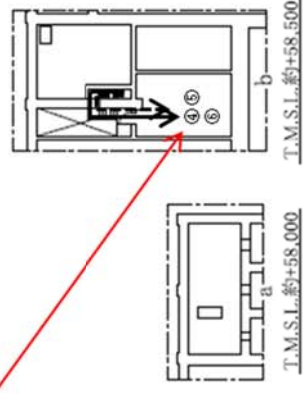
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 前処理建屋（地上3階）



測定場所	監視項目	
	①	貯槽等注水流量 (中継槽A)
貯槽等注水流量 (中継槽B)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)		
②	貯槽等注水流量 (中継槽A)	
	貯槽等注水流量 (中継槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)	
③	貯槽等注水流量 (中継槽A)	
	貯槽等注水流量 (中継槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)	

測定場所	監視項目	
	④	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽E)		
貯槽等注水流量 (1)サイクル槽F)		
⑤	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽E)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽F)	
⑥	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽A)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽B)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽C)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽D)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽E)	
	貯槽等注水流量 (1)サイクル槽F)	

- : アクセスルート 東
- -> : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



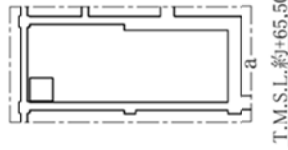
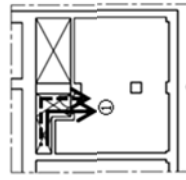
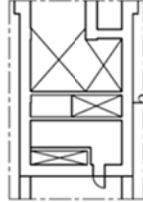
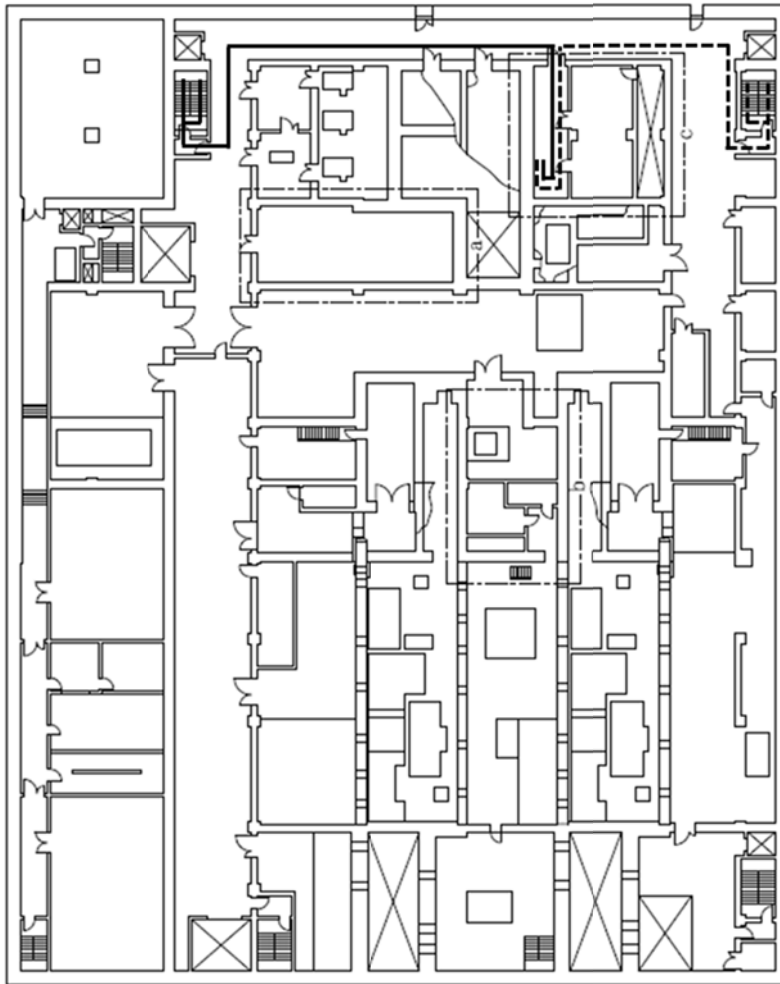
蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート (前処理建屋 (地上1階))



測定場所	監視項目
①	貯槽等液位 (中継構A) 貯槽等液位 (中継構B)

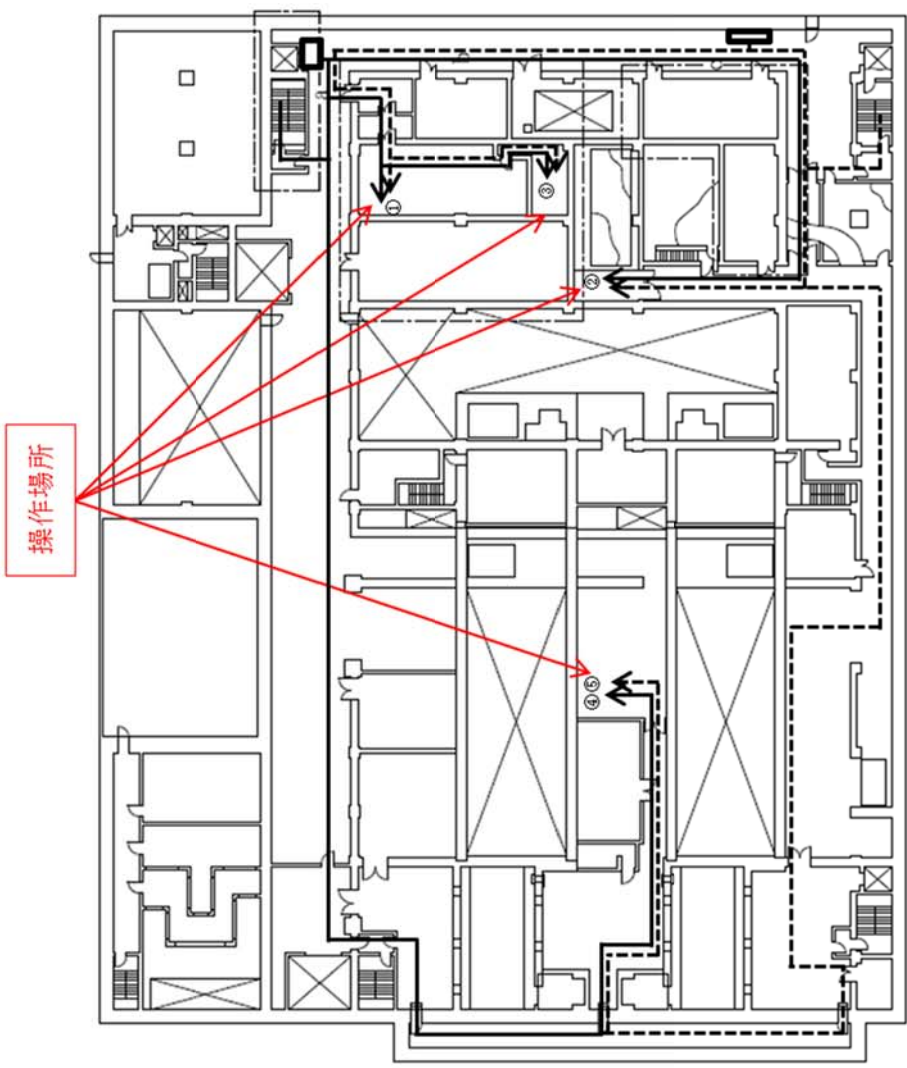
↑ : アクセスルート 東  
 ↑ : アクセスルート 西

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所

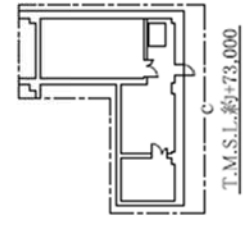
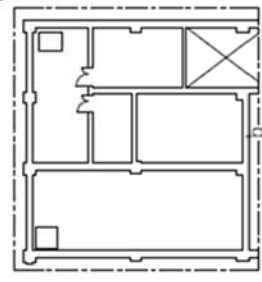
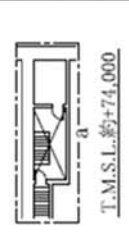


T.M.S.L.約+62,000

蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート  
 前処理建屋 (地上2階)



測定場所	監視項目
①	貯槽等液位流量 (中間ボットA)
	貯槽等液位流量 (中間ボットB)
	貯槽等液位流量 (中間ボットA)
	貯槽等液位流量 (中間ボットB)
	貯槽等液位流量 (中間ボットA)
②	貯槽等液位流量 (中継槽A)
	貯槽等液位流量 (中継槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
③	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
④	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽B)
	貯槽等液位流量 (1)サイクル槽A)
⑤	貯槽等液位 (中間ボットA)
	貯槽等液位 (中間ボットB)
	貯槽等液位 (中間ボットA)
	貯槽等液位 (中間ボットB)
	貯槽等液位 (中間ボットA)

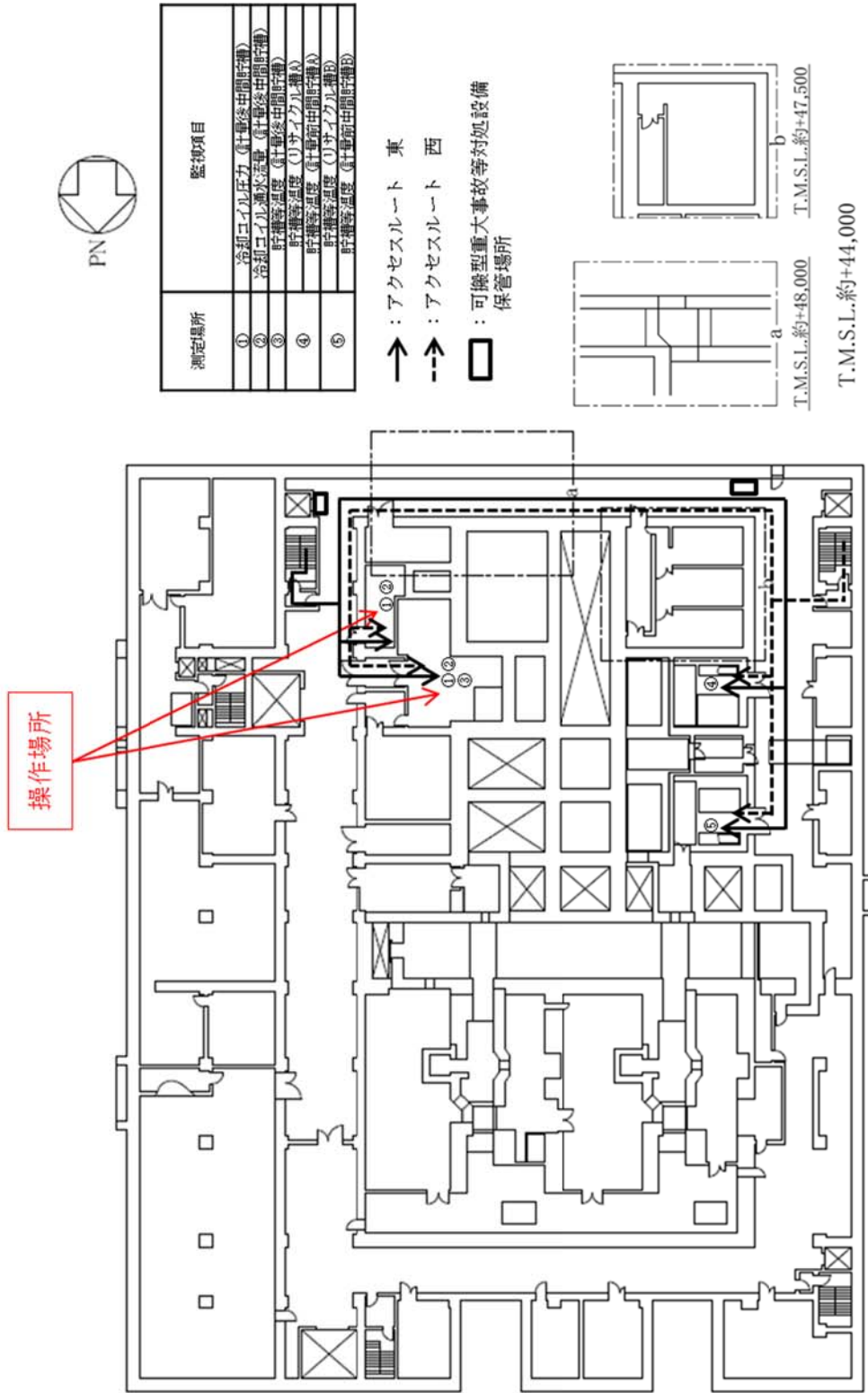


T.M.S.L.約+73,000

T.M.S.L.約+69,000

蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 前処理建屋 (地上3階)



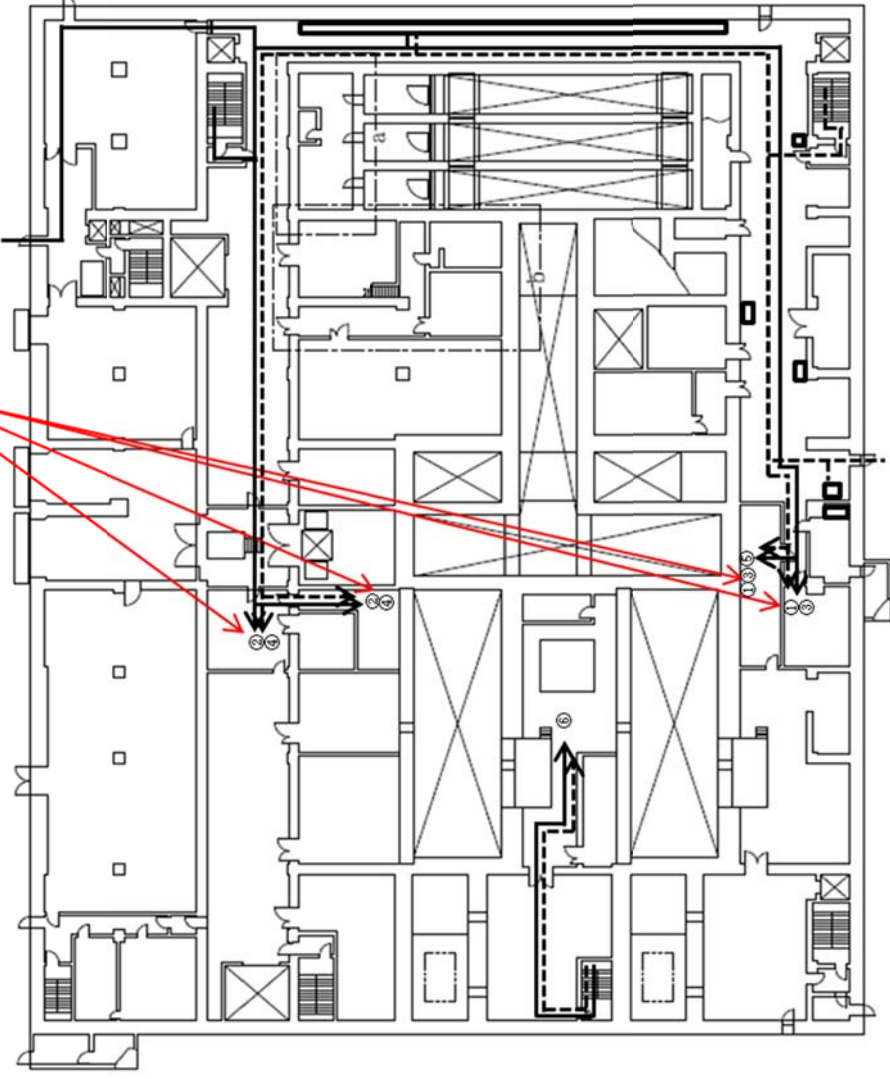


蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル等への通水による冷却) のアクセスルート 前処理建屋 (地下3階)



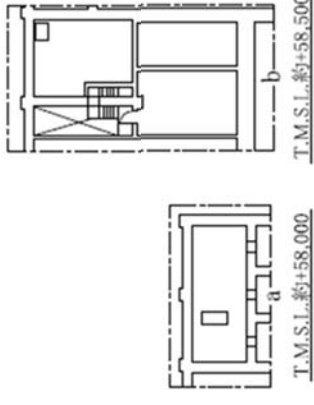


操作場所



測定場所	監視項目
①	冷却コイル圧力 (中間ポット内)
②	冷却コイル圧力 (中間ポット内)
③	冷却コイル通水流量 (中間ポット内)
④	冷却コイル通水の濁率 (中間ポット内)
⑤	冷却コイル通水の濁率 (中間ポット内)
⑥	貯槽露点温度 (中間ポット内)

- : アクセスルート 東
- - - : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



T.M.S.L.約+55,500

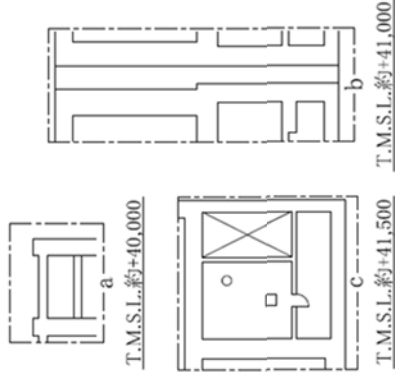
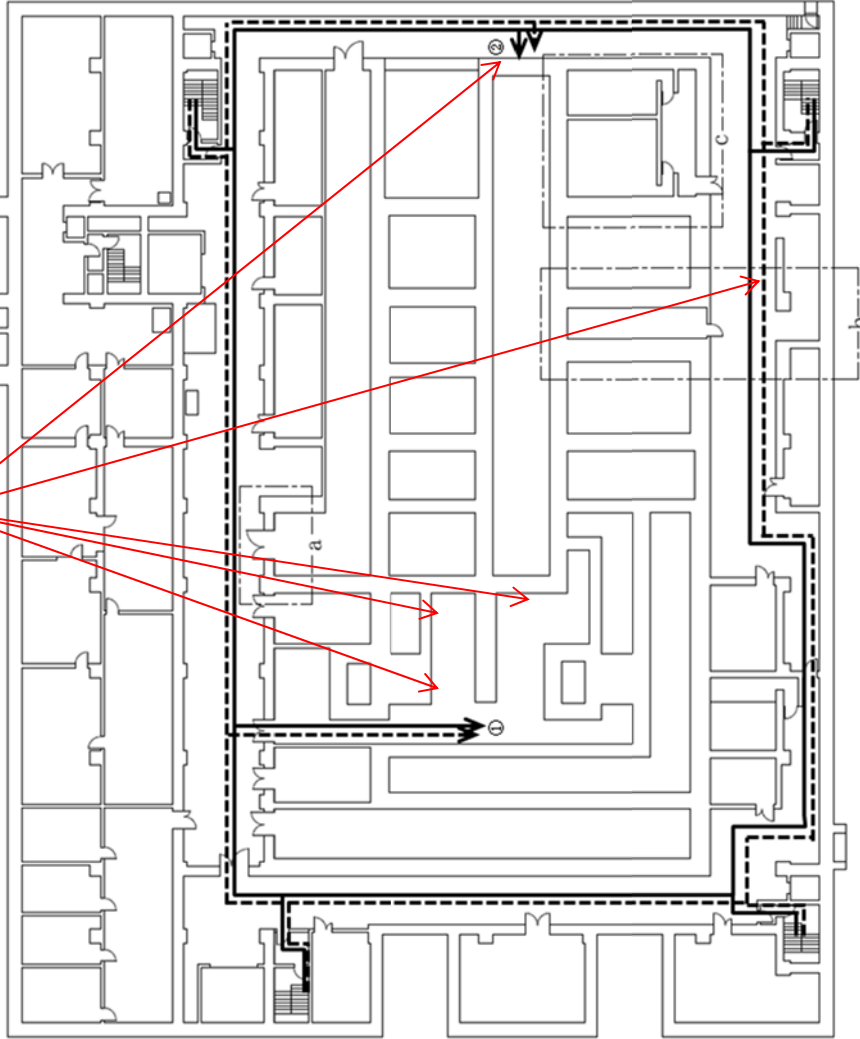
蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル等への通水による冷却) のアクセスルート 前処理建屋 (地上1階)

操作場所



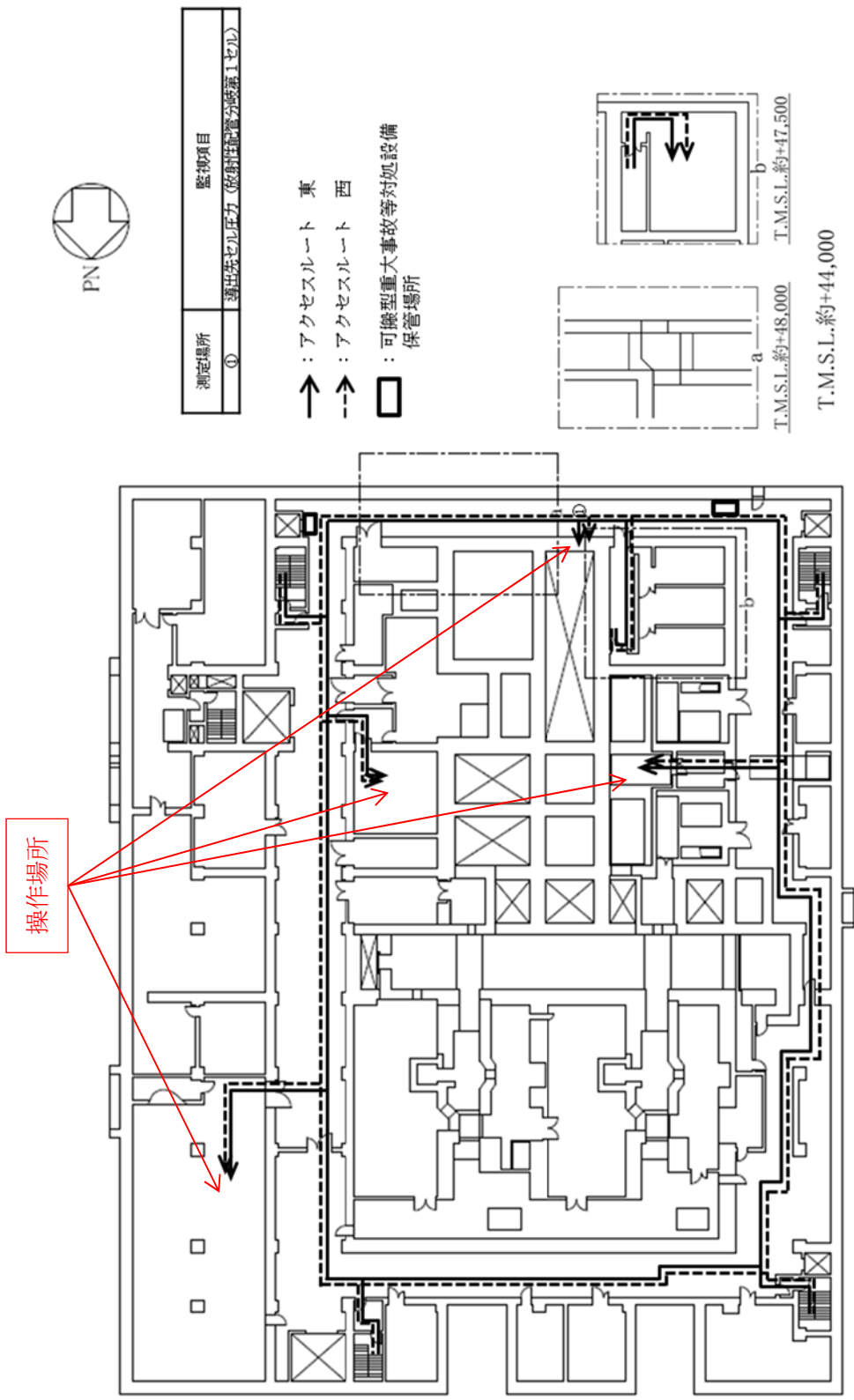
測定場所	監視項目
①	導出セル圧力 (放射配管分岐直上セル)
②	導出セル圧力 (放射配管分岐直下セル)

- : アクセスルート 東
- -> : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備 保管場所

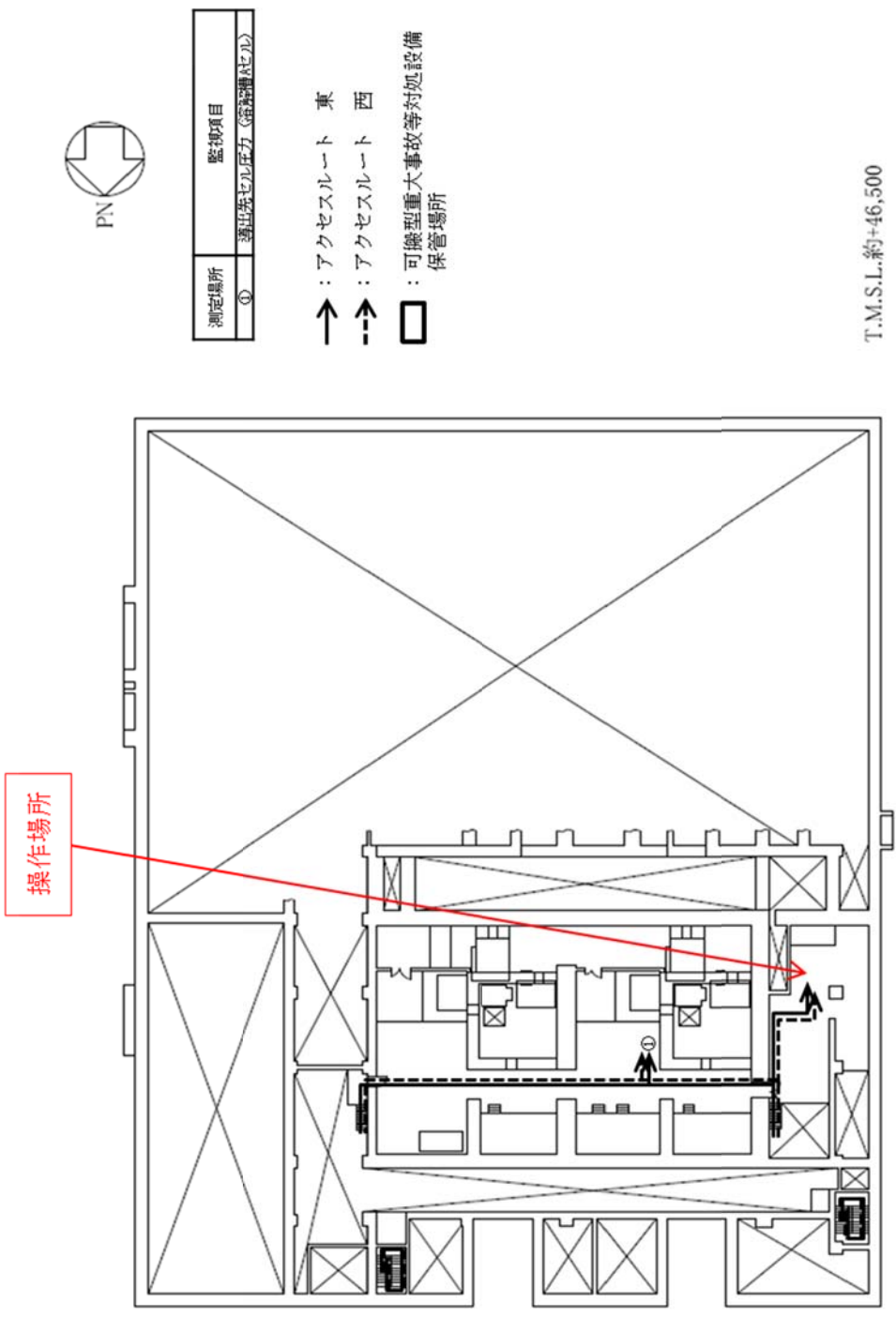


T.M.S.L.約+37,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート 前処理建屋（地下4階）



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート 前処理建屋（地下3階）



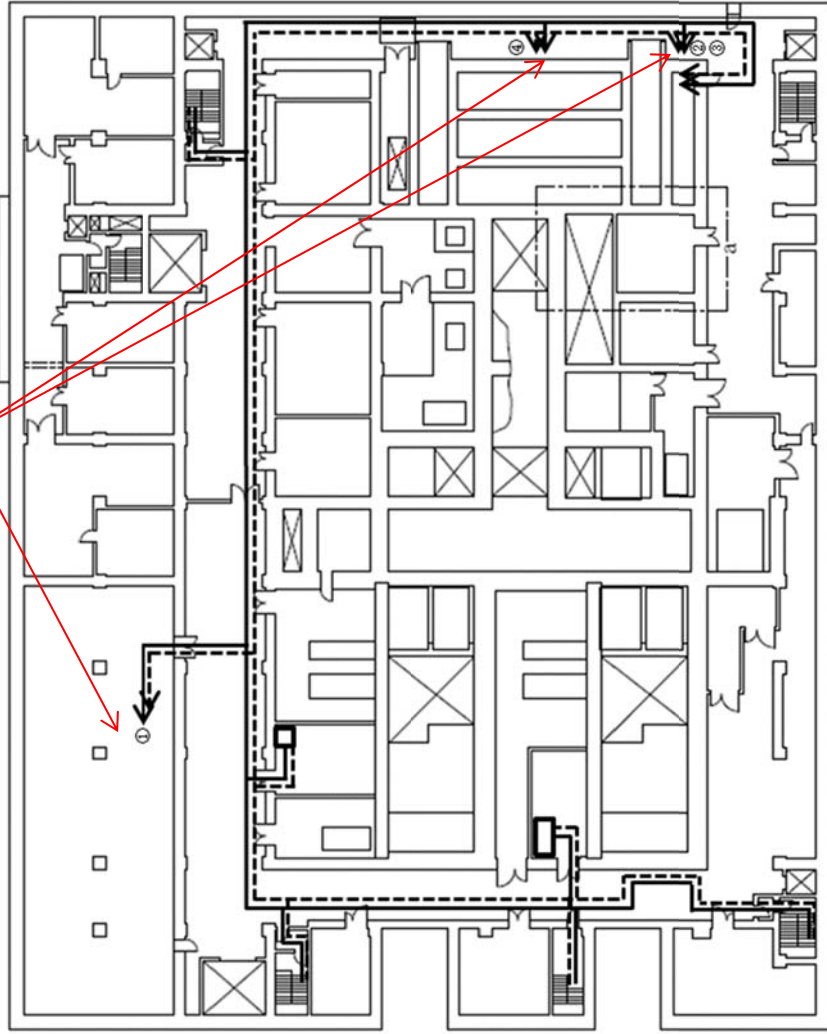
測定場所	監視項目
①	導出セル圧力 (常運転時)

- ↑ : アクセスルート 東
- ↑- : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

T.M.S.L.約+46,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 前処理建屋（地下2階）

操作場所



測定場所	監視項目
①	代替セル排気ホイルダ室圧
②	蒸発器出口排気温度
③	蒸発器通水流量
④	セル導出ホイルダ室圧

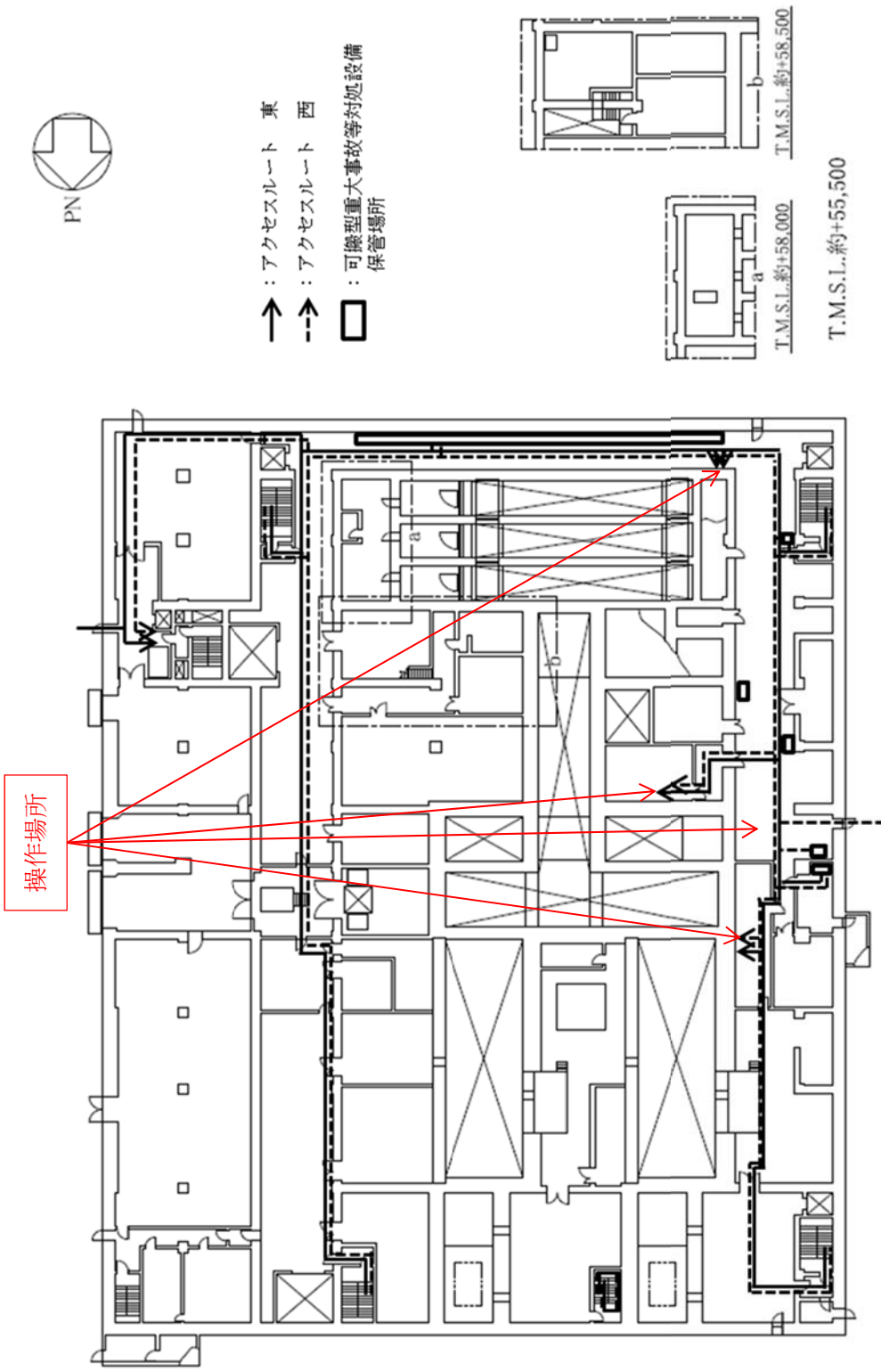
- : アクセスルート 東
- -> : アクセスルート 西
- : 可換型重大事故等対応設備  
保管場所



T.M.S.L.約+54,000

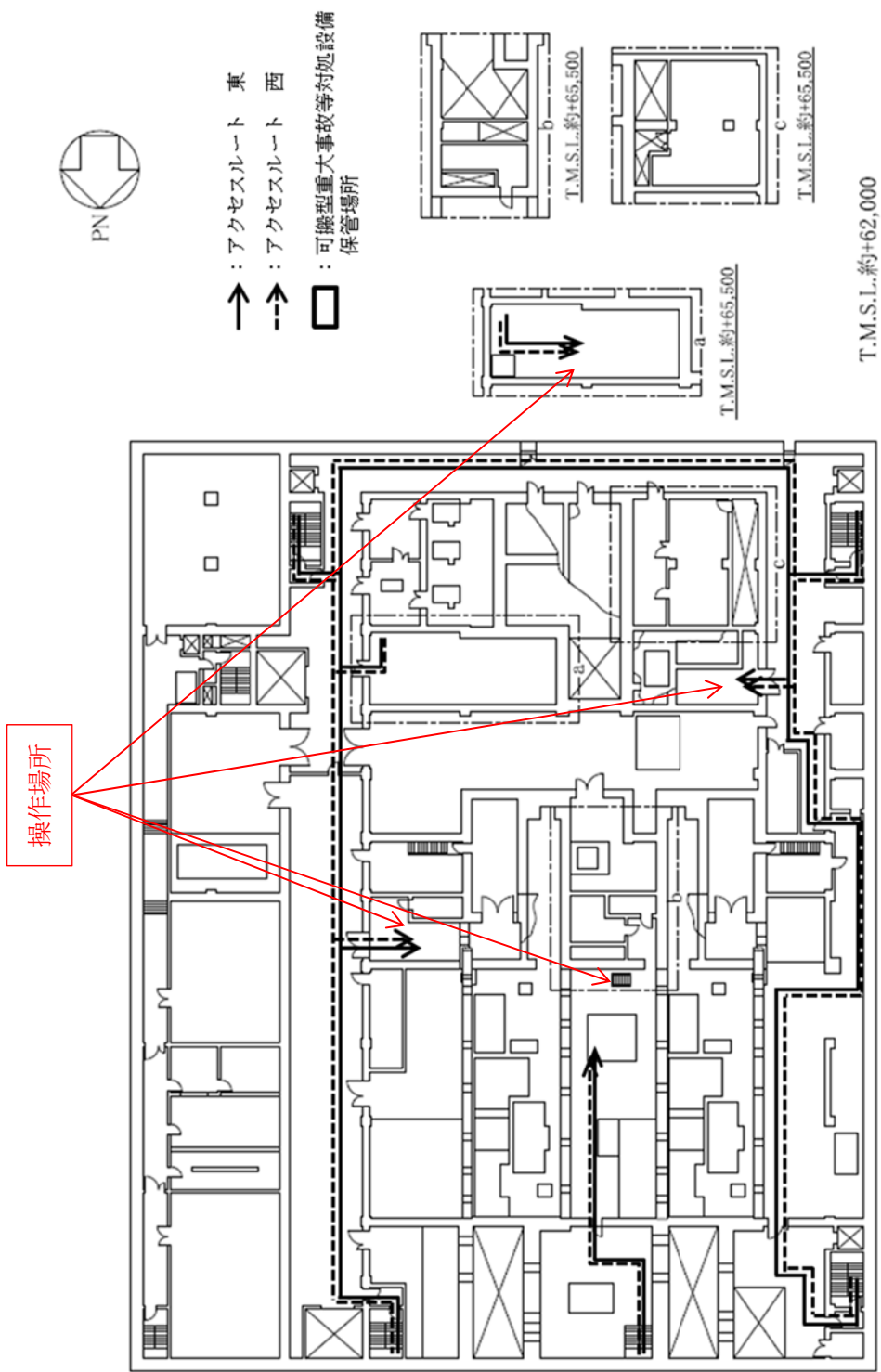
T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 前処理建屋（地下1階）



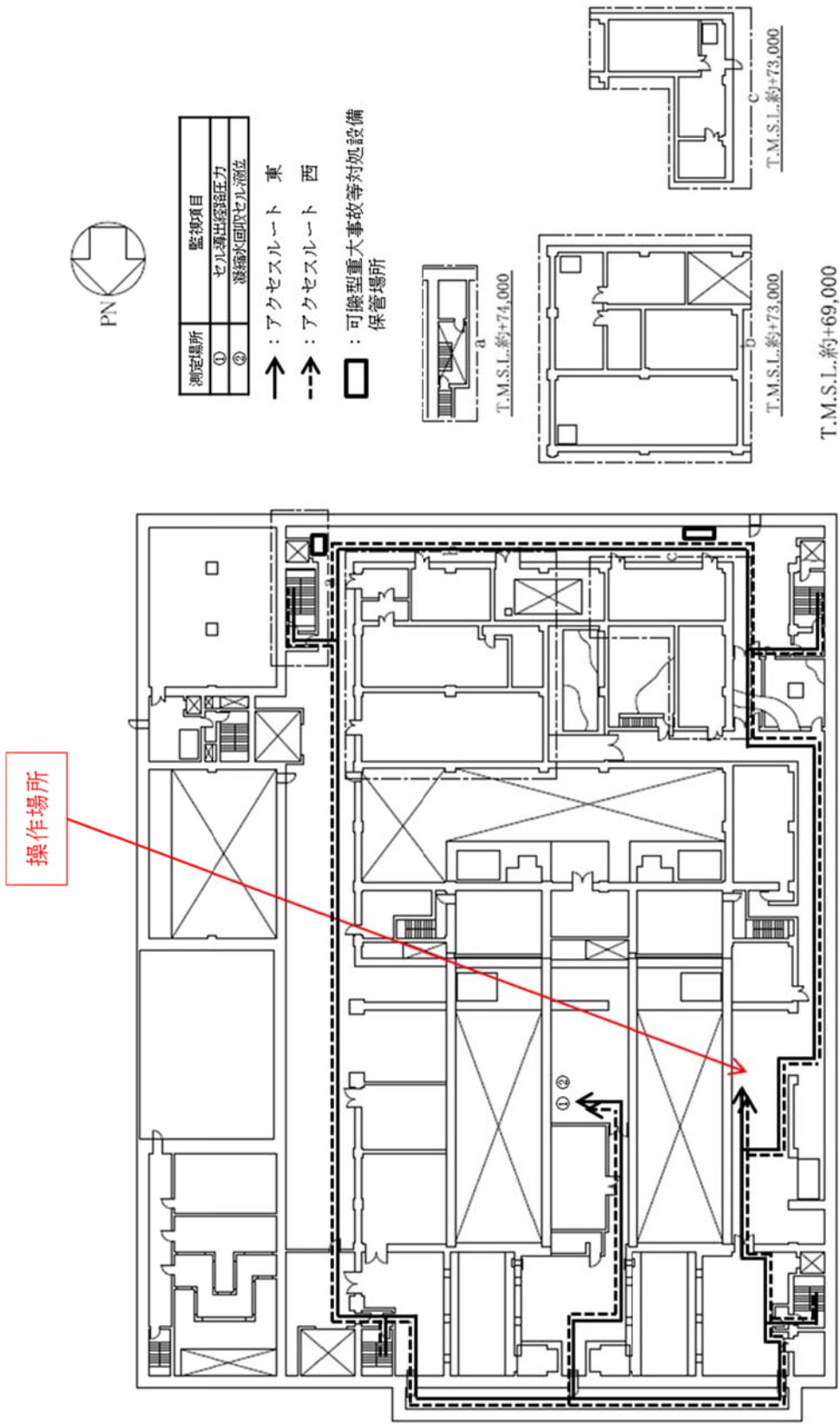
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 のアクセスルート 前処理建屋（地上1階）





蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 のアクセスルート 前処理建屋（地上2階）

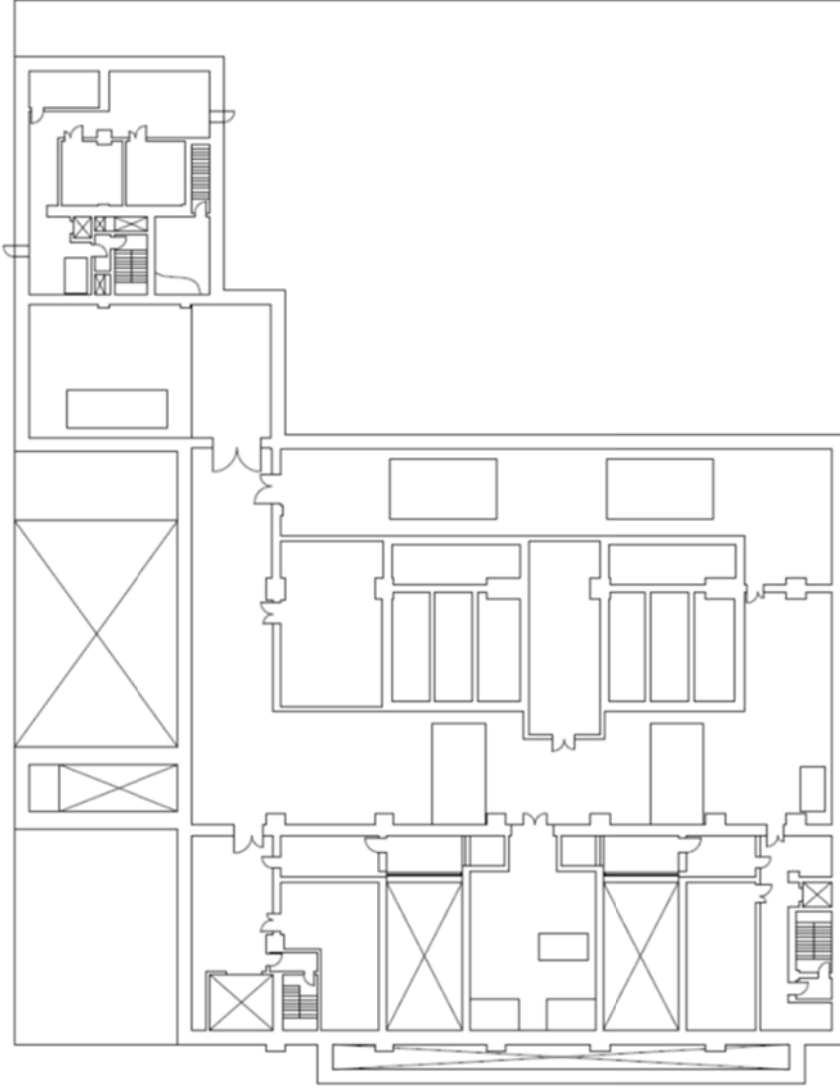




蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート 前処理建屋（地上3階）



- ↑ : アクセスルート 東
- ⇨ : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

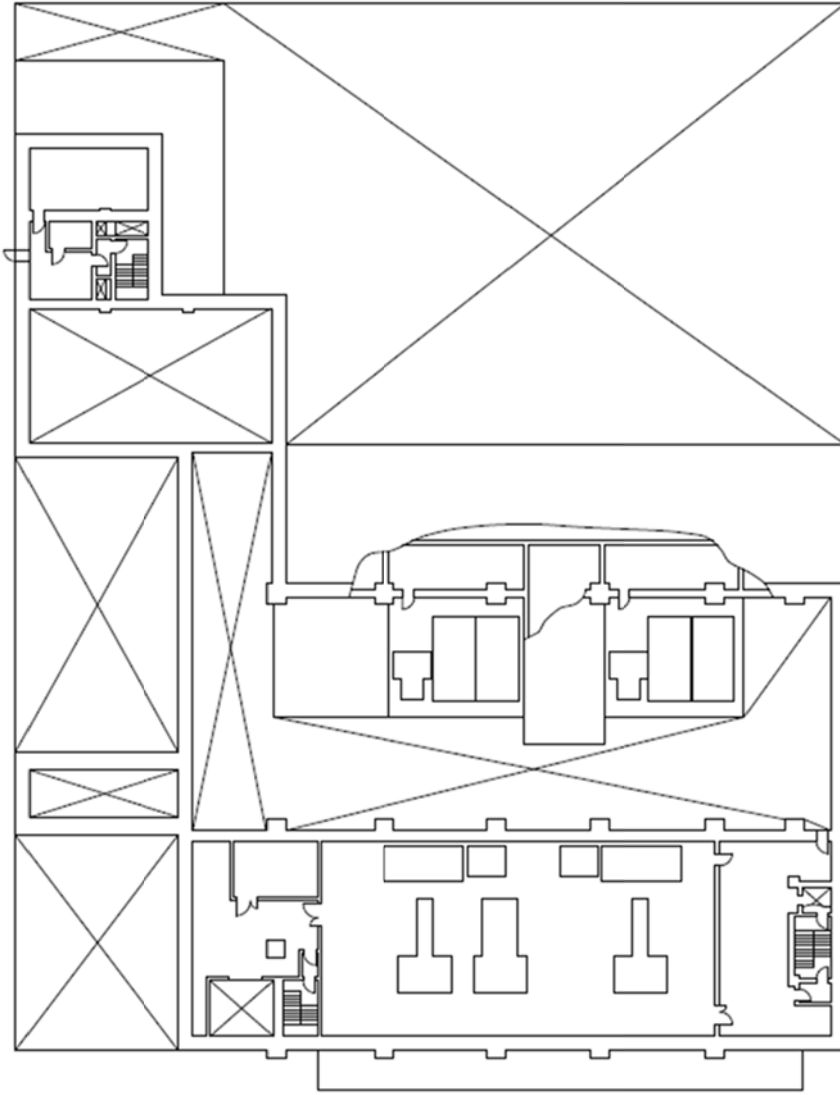


T.M.S.L.約+74,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 前処理建屋（地上4階）

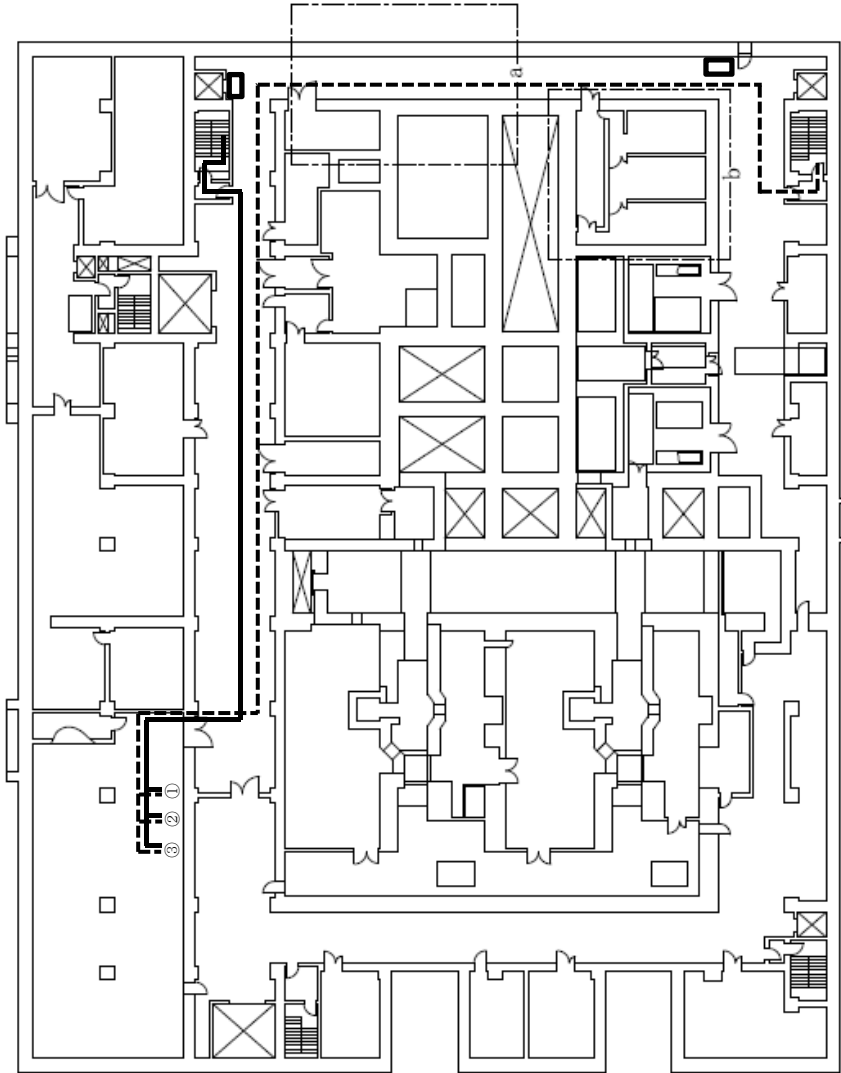
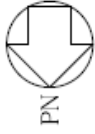


- ↑ : アクセスルート 東
- ↑-↓ : アクセスルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+80,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 前処理建屋（地上5階）

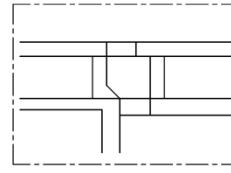


対象貯槽	接続口 (給水口及び排水口)
中継槽 A	① 若しくは ②
中継槽 B	
リサイクル槽 A	③
リサイクル槽 B	
不溶解残渣回収槽 A※1	
不溶解残渣回収槽 B※1	
中間ポット A	
中間ポット B	
計量前中間貯槽 A	
計量前中間貯槽 B	
計量後中間貯槽	
計量・調整槽	
計量補助槽	

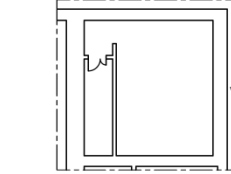
— : 敷設ルート 東

- - - : 敷設ルート 西

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
供養場所



T.M.S.L.約+48,000

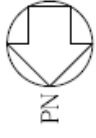


T.M.S.L.約+47,500

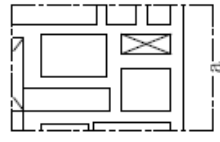
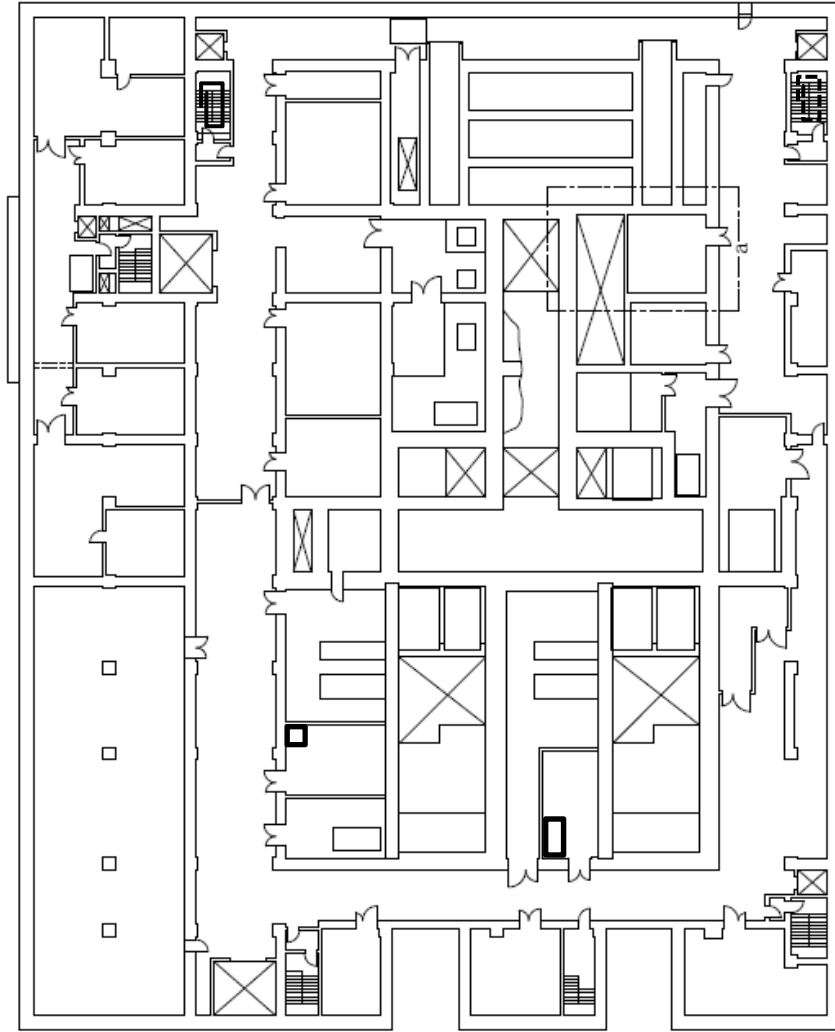
T.M.S.L.約+44,000

※1 安全機能喪失により事象が進展し沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地下3階）



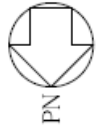
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



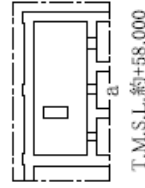
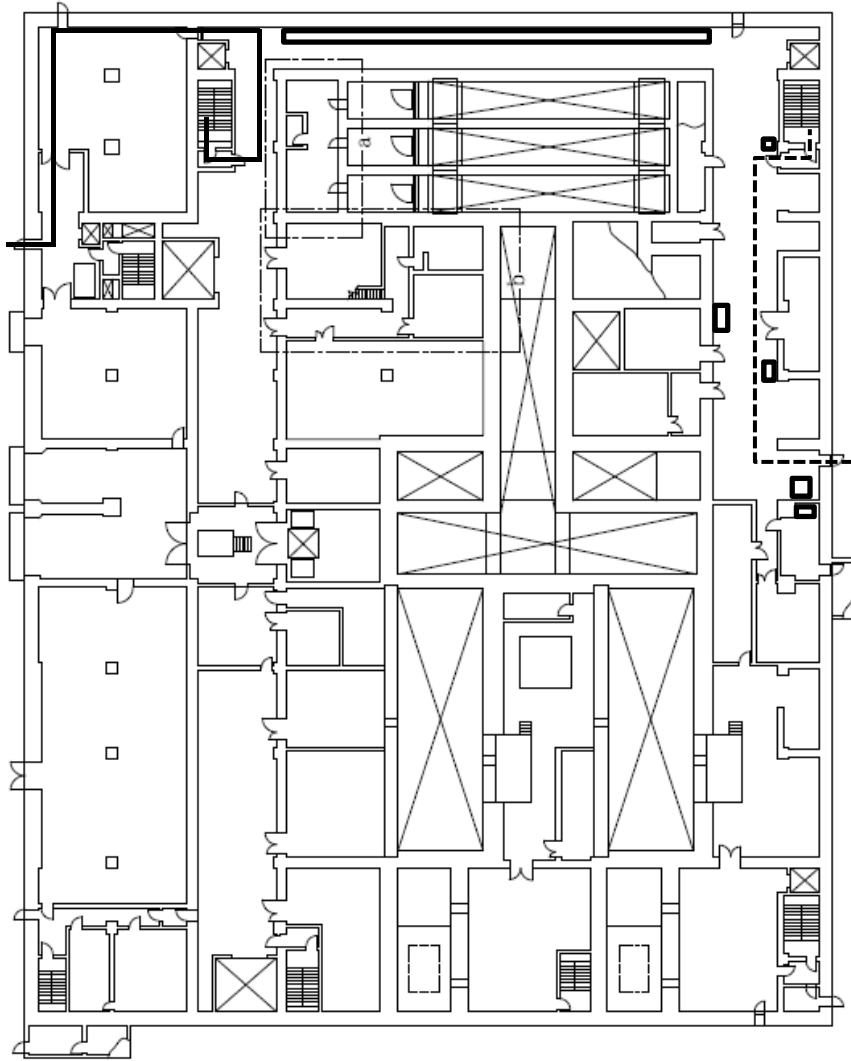
T.M.S.I.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

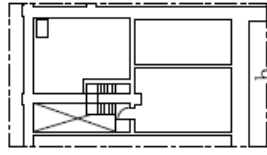
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地下1階）



- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



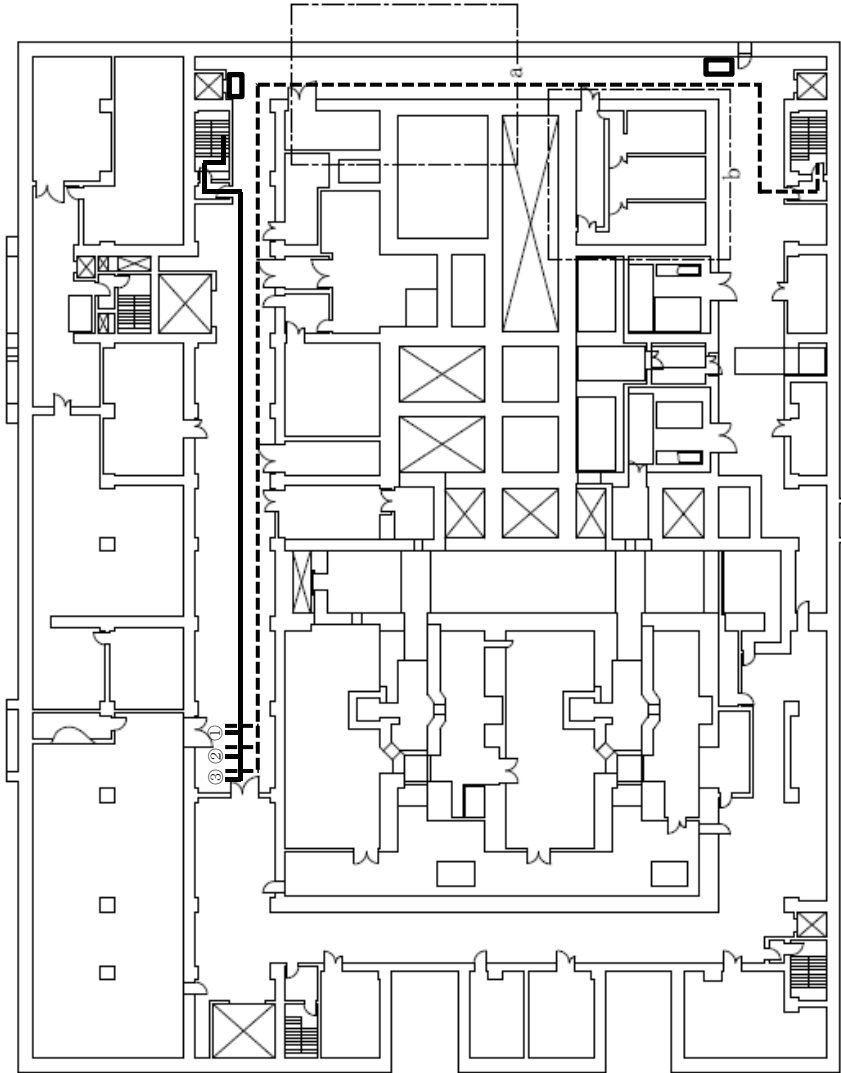
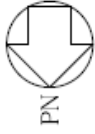
T.M.S.L.約+58,000



T.M.S.L.約+58,500

T.M.S.L.約+55,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地上1階）



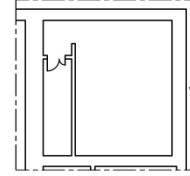
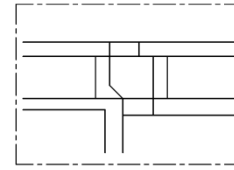
※1 安全機能喪失により事象が進展し沸点に至るまでの時間余裕が大きい機器

対象貯槽	接続口 (給水口及び排水口)
中継槽 A	① 若しくは ②
中継槽 B	
リサイクル槽 A	③
リサイクル槽 B	
不溶解残渣回収槽 A ※1	③
不溶解残渣回収槽 B ※1	
中間ポット A	③
中間ポット B	
計量前中間貯槽 A	③
計量前中間貯槽 B	
計量後中間貯槽	③
計量・調整槽	
計量補助槽	③

— : 敷設ルート 東

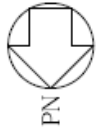
- - - : 敷設ルート 西

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
供音場所

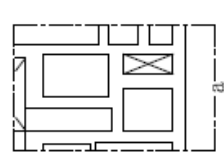
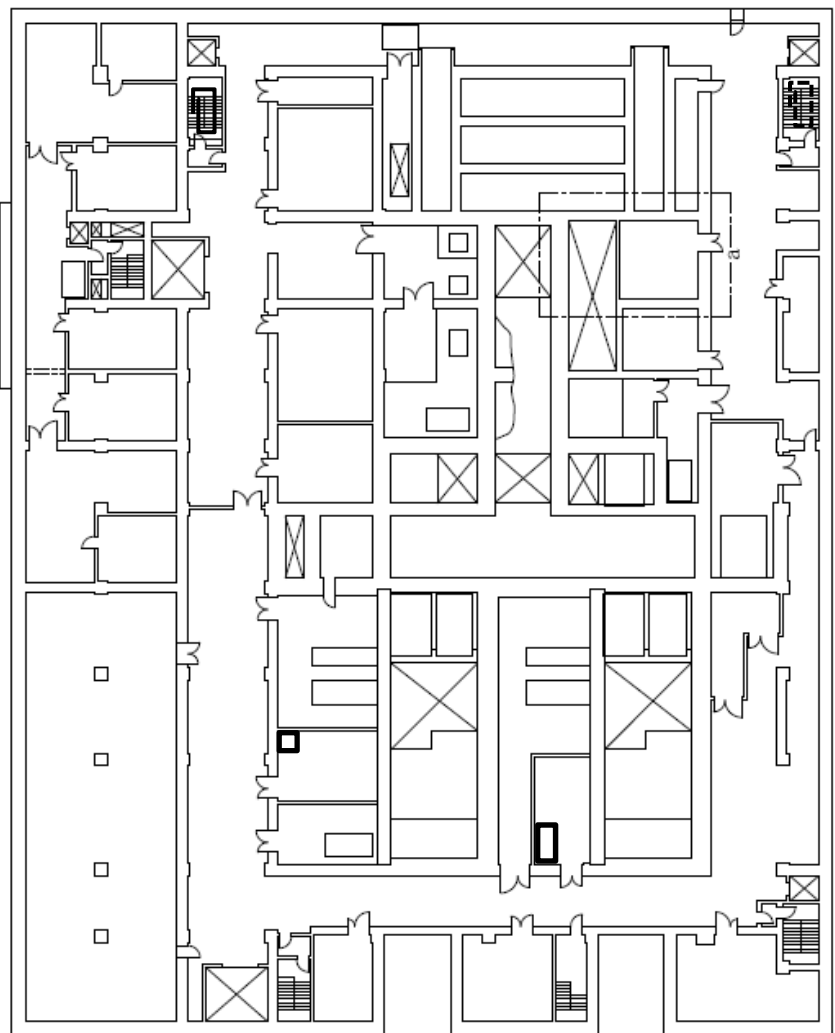


T.M.S.L.約+44,000

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地下3階）



- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

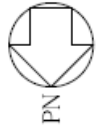


T.M.S.I.約+54,000

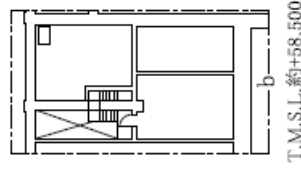
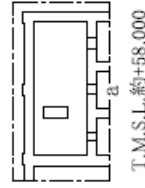
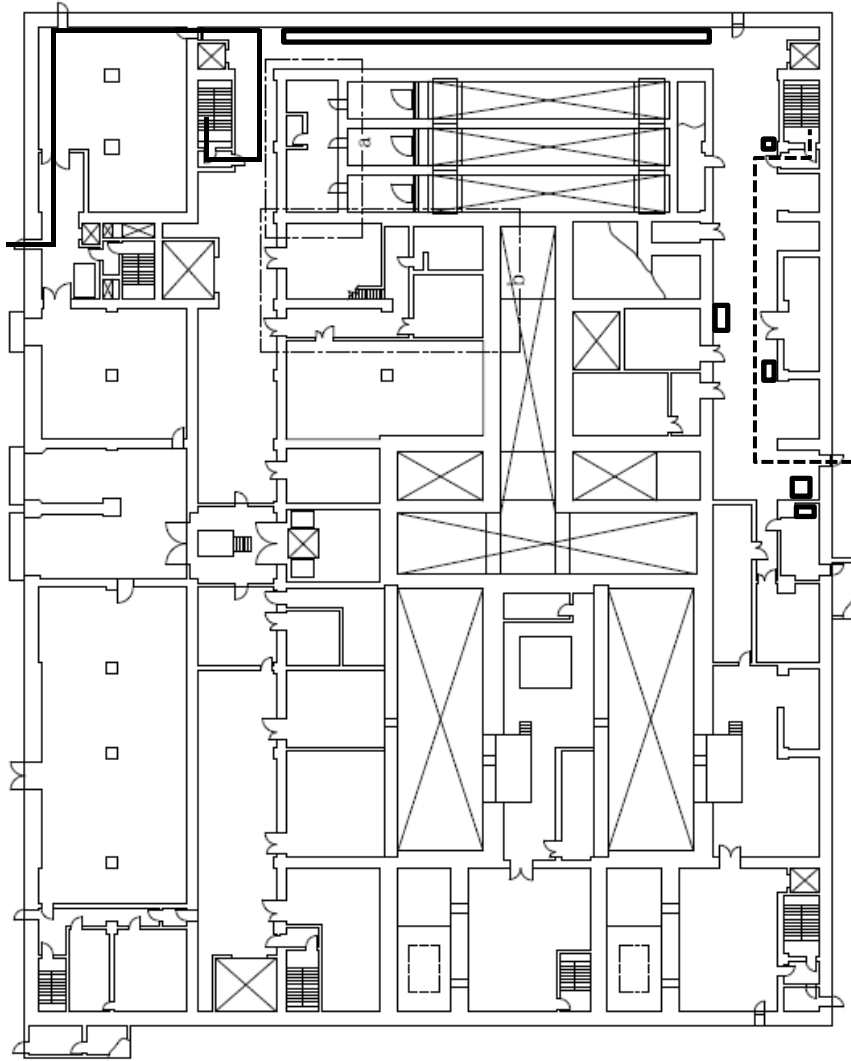
T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地下1階）



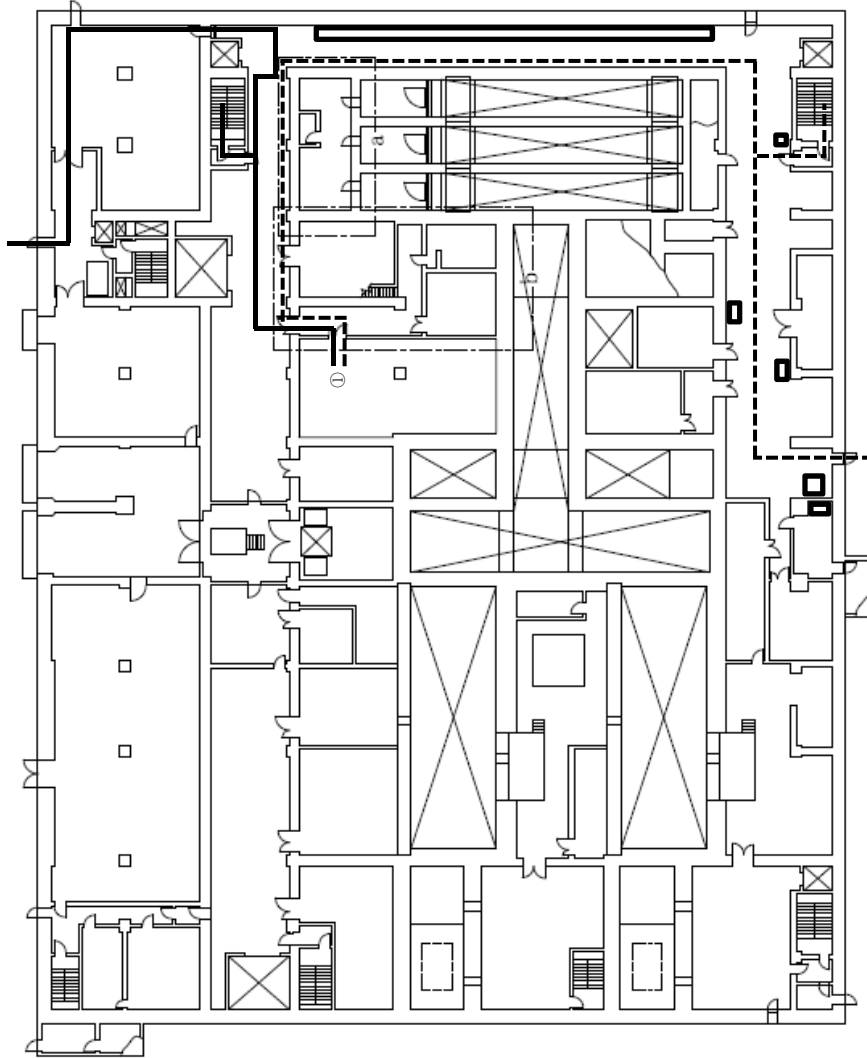
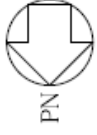


- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



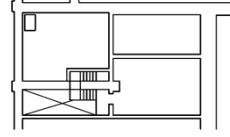
T.M.S.L.約+55,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地上1階）



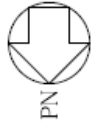
対象貯槽	接続口
計量前中間貯槽 A	①
計量前中間貯槽 B	
リサイクル槽 A	
リサイクル槽 B	
計量後中間貯槽	
計量・調整槽	
計量補助槽	
中継槽 A	
中継槽 B	

- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



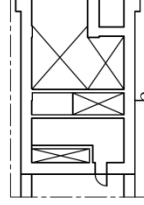
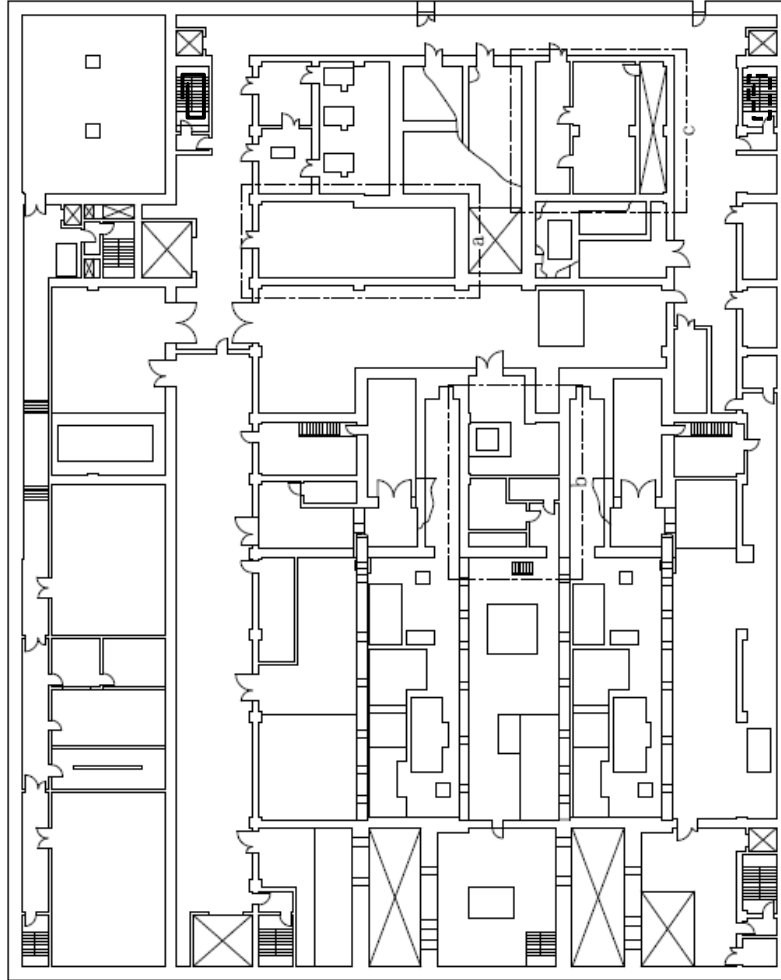
T.M.S.L.約+58,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地上1階）

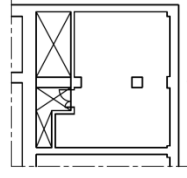


- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西

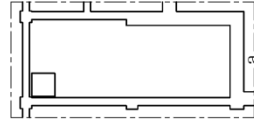
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+65,500



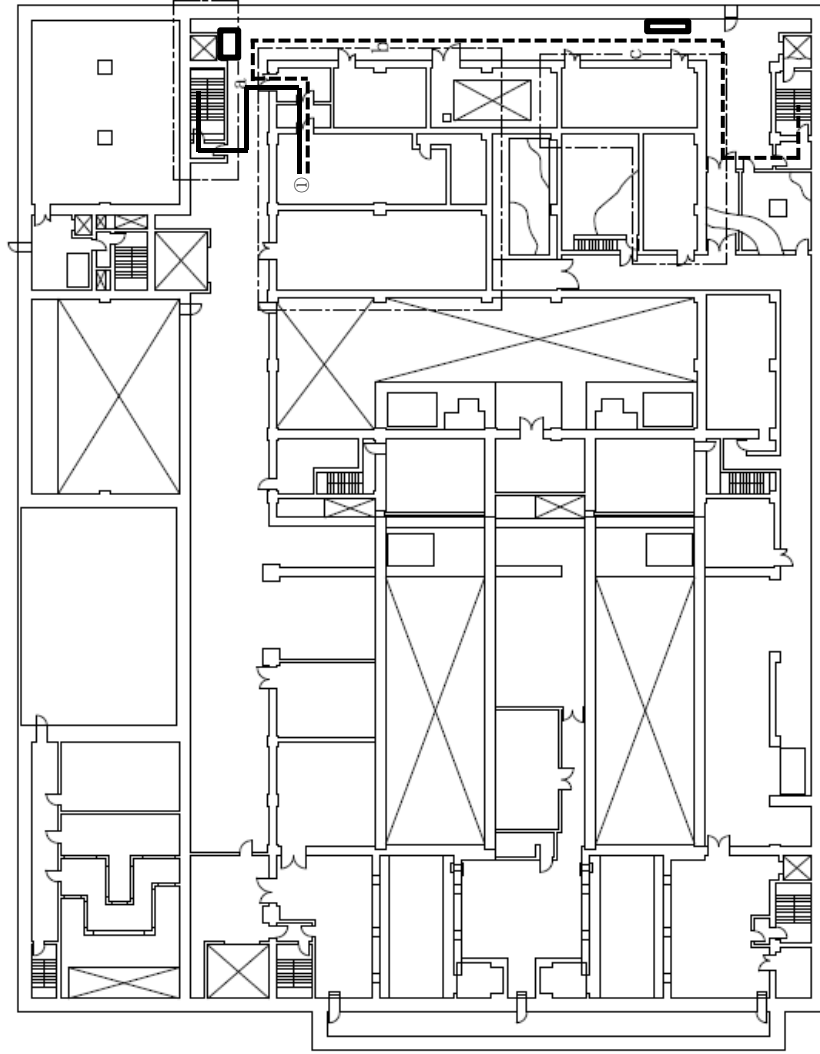
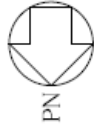
T.M.S.L.約+65,500



T.M.S.L.約+65,500

T.M.S.L.約+62,000

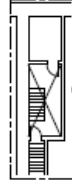
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地上2階）



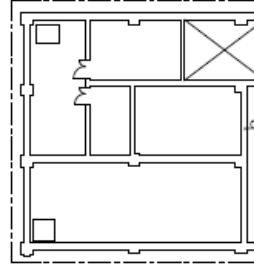
対象貯槽	接続口
中間ポットA	①
中間ポットB	

— : 敷設ルートを 東  
 - - - : 敷設ルートを 西

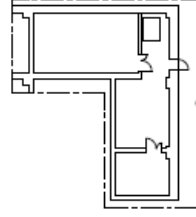
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所



T.M.S.L.約+74,000



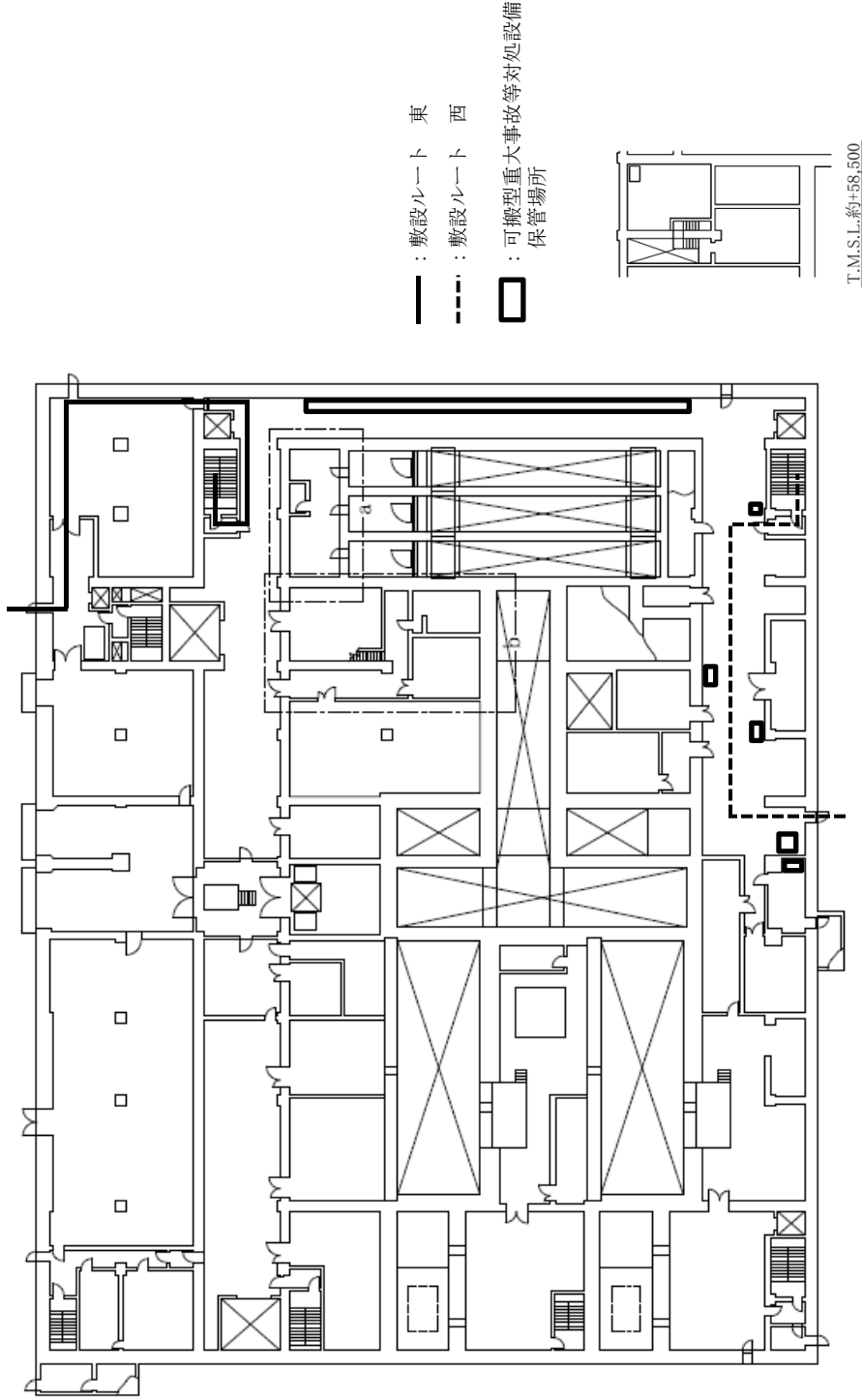
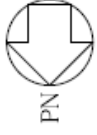
T.M.S.L.約+73,000



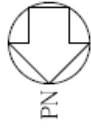
T.M.S.L.約+73,000

T.M.S.L.約+69,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルートを  
 前処理建屋（第1接続口）（地上3階）

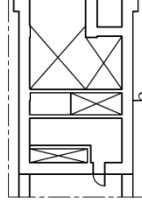
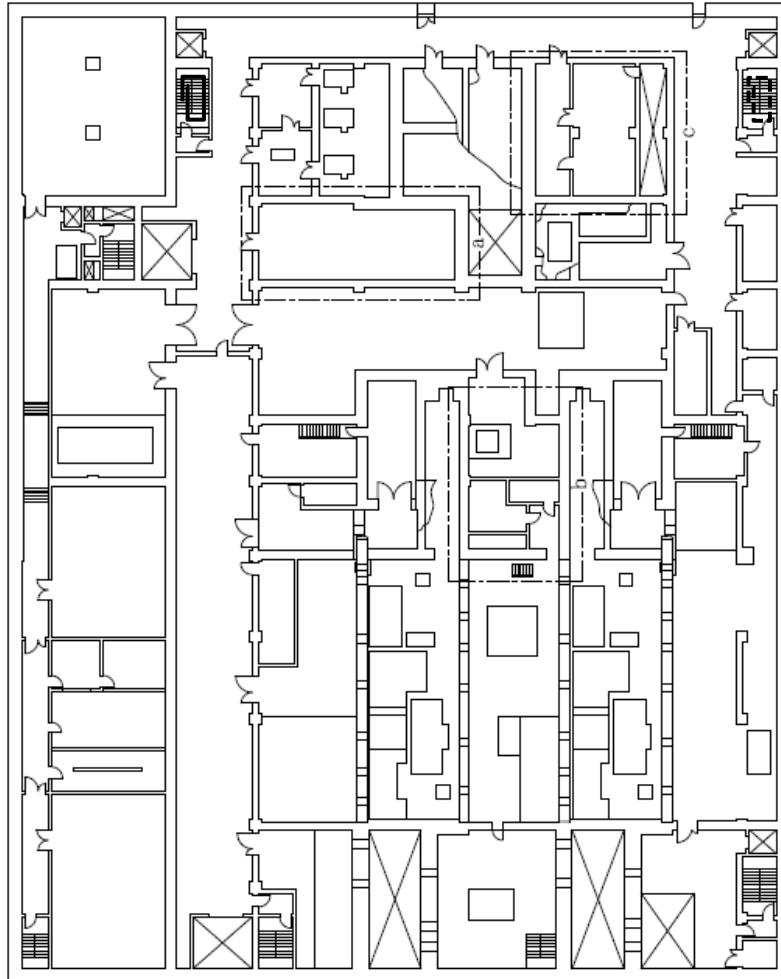


蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地上1階）

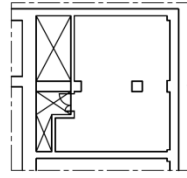


— : 敷設ルート 東  
 - - - : 敷設ルート 西

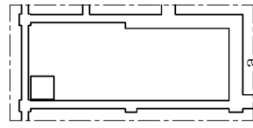
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所



T.M.S.L.約+65,500



T.M.S.L.約+65,500



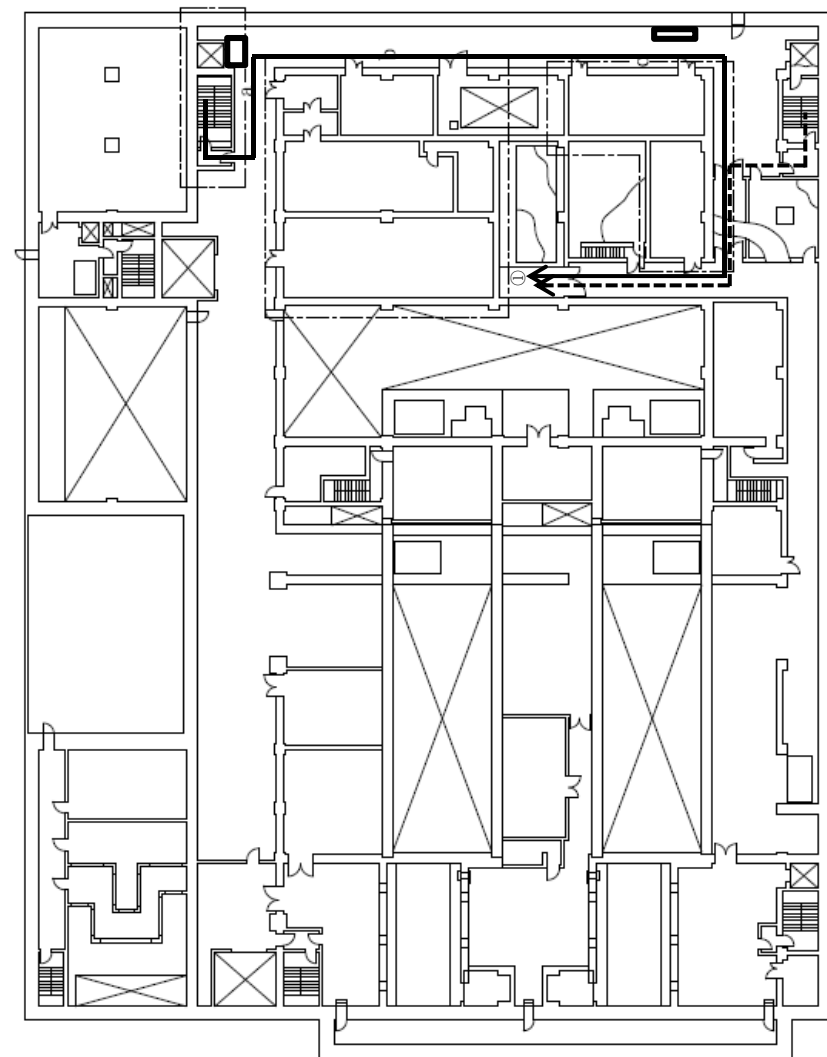
T.M.S.L.約+65,500

T.M.S.L.約+62,000

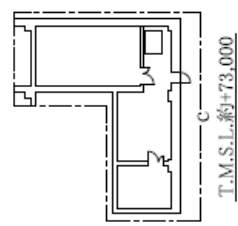
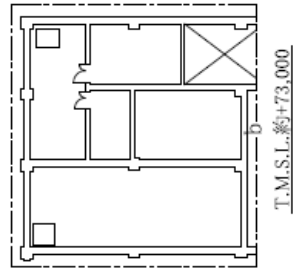
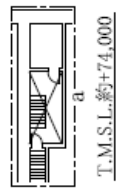
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
 前処理建屋（第2接続口）（地上2階）



- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

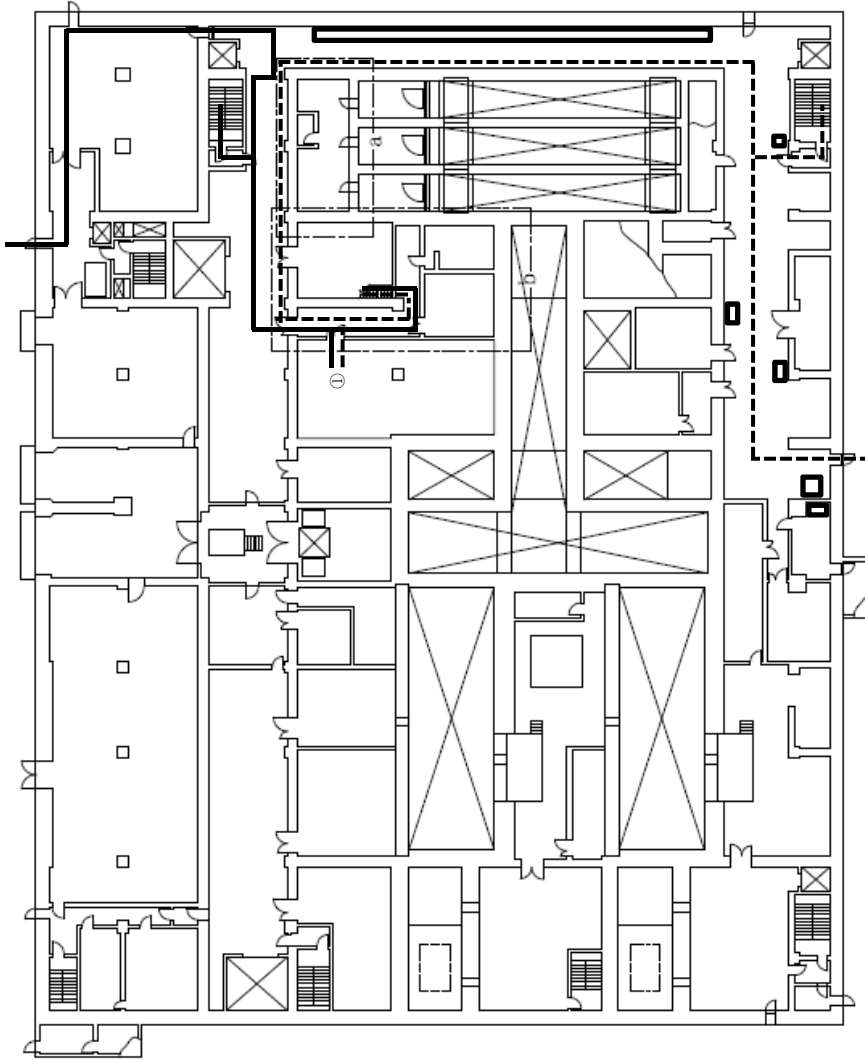
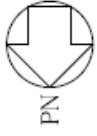


対象貯槽	接続口
中間ポットA	①
中間ポットB	
リサイクル槽A	
リサイクル槽B	
計量前中間貯槽A	
計量前中間貯槽B	
計量後中間貯槽	
計量・調整槽	
計量補助槽	
中継槽A	
中継槽B	



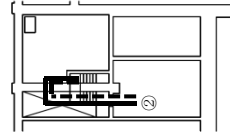
T.M.S.L. 約+69,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地上3階）



対象貯槽	接続口
中継槽A	①
中継槽B	
リサイクル槽A	②※1
リサイクル槽B	
計量前中間貯槽A	
計量前中間貯槽B	
計量後中間貯槽	
計量・調整槽	
計量補助槽	

- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

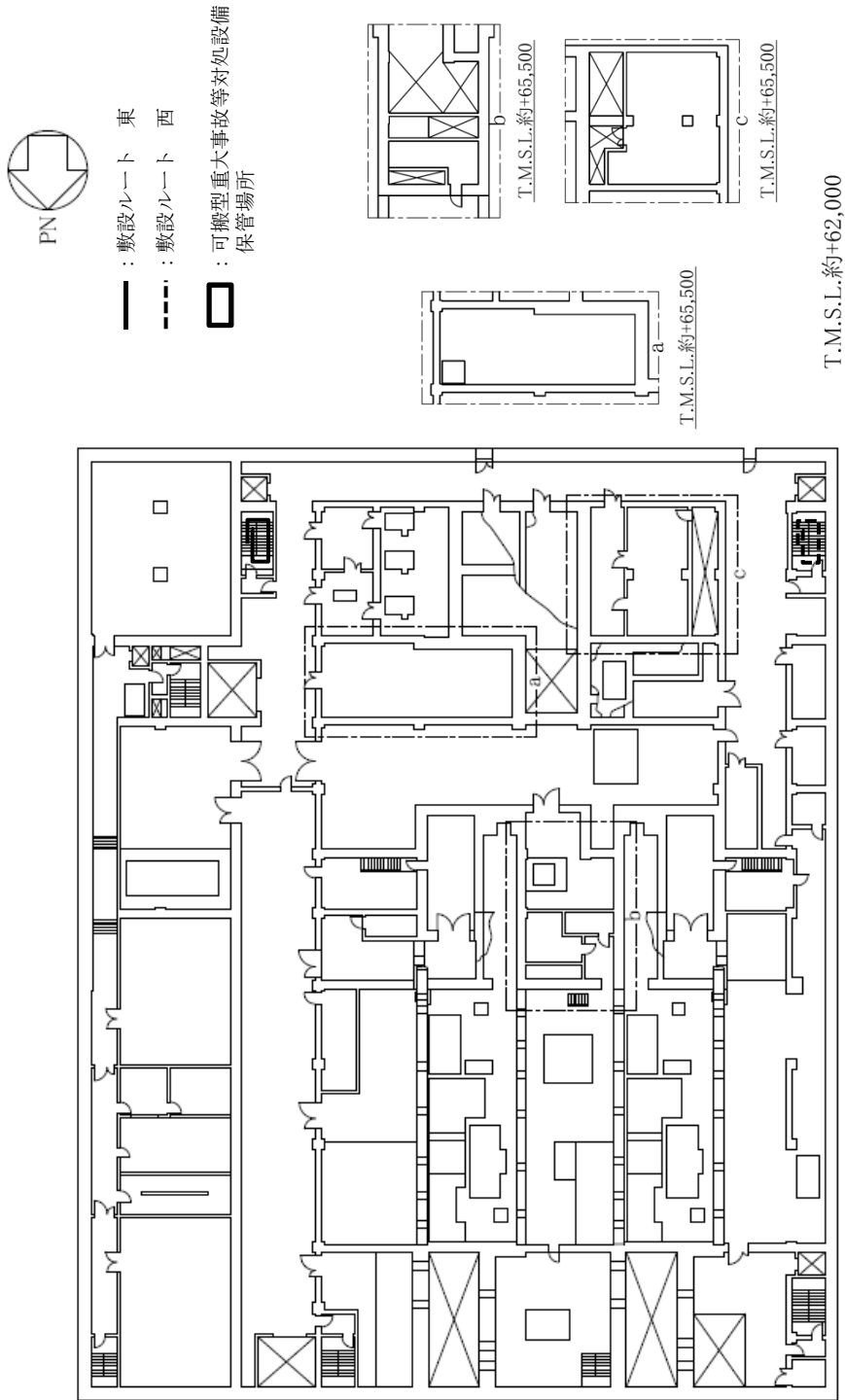


T.M.S.L.約+58,500

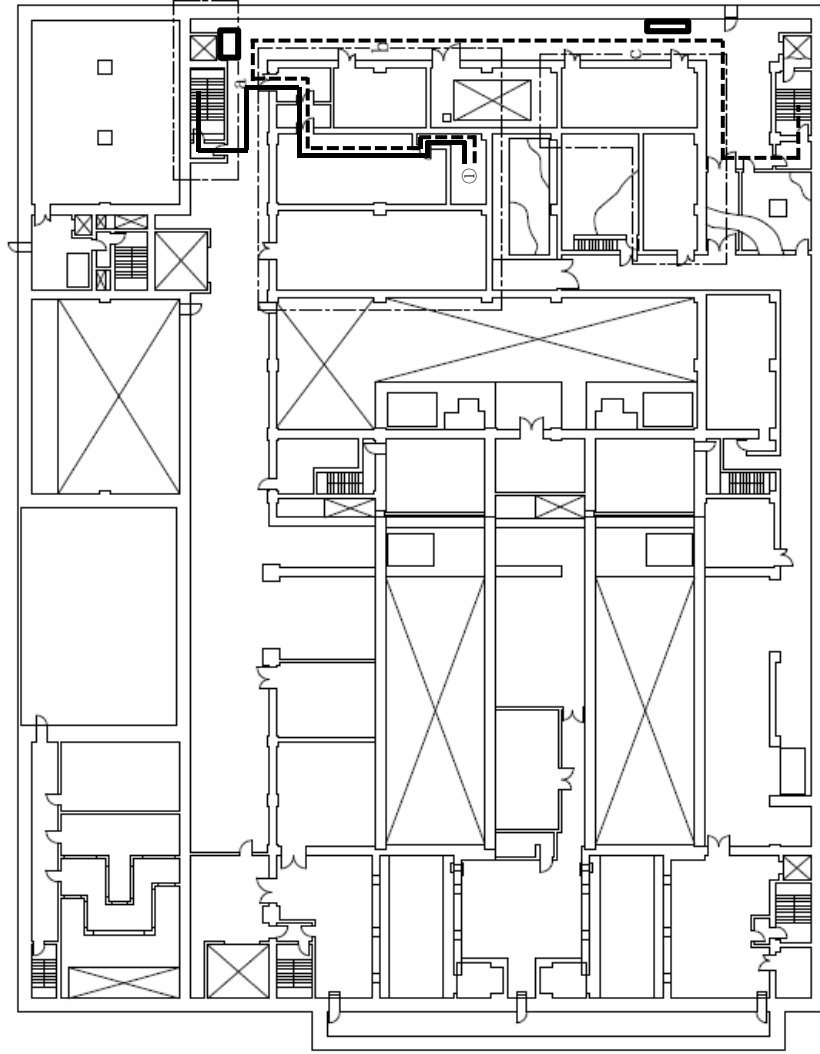
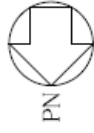
※1 水素曝発の拡大防止対策の設備を兼用する接続口

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第3接続口）（地上1階）

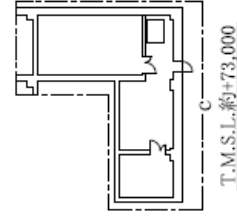
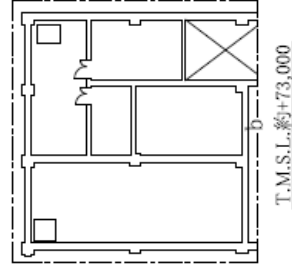
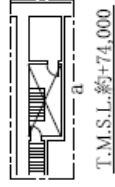




蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第3接続口）（地上2階）



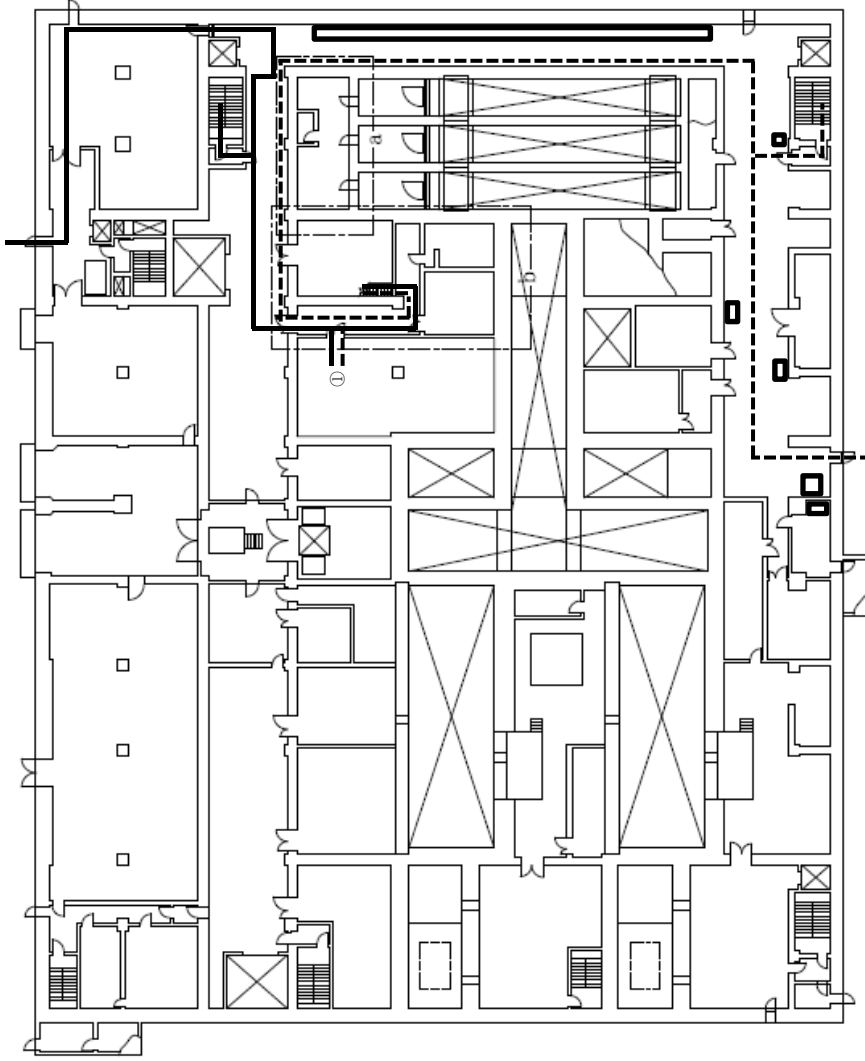
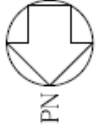
対象貯槽	接続口
中間ポットA	①
中間ポットB	



- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

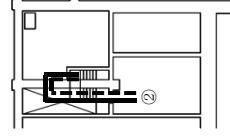
T.M.S.L.約+69,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第3接続口）（地上3階）



対象貯槽	接続口	
中継槽 A	①※1	
中継槽 B		
計量前中間貯槽 A		
計量前中間貯槽 B		
計量後中間貯槽		
計量・調整槽		
計量補助槽		
リサイクル槽 A		②
リサイクル槽 B		

- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



T.M.S.L.約+58,500

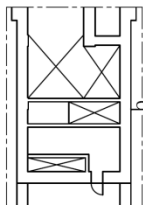
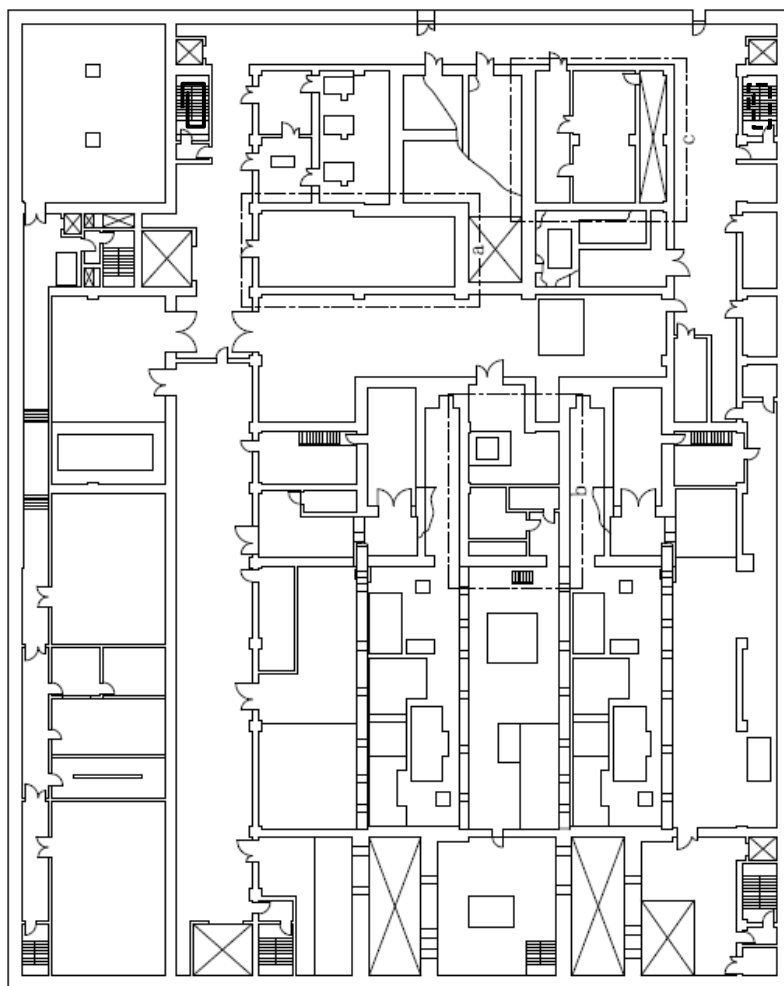
※1 水素曝発の拡大防止対策の設備を兼用する接続口

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第4接続口）（地上1階）

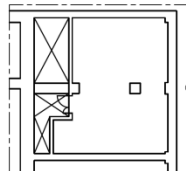


— : 敷設ルート 東  
 - - - : 敷設ルート 西

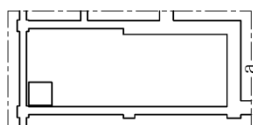
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所



T.M.S.L.約+65,500



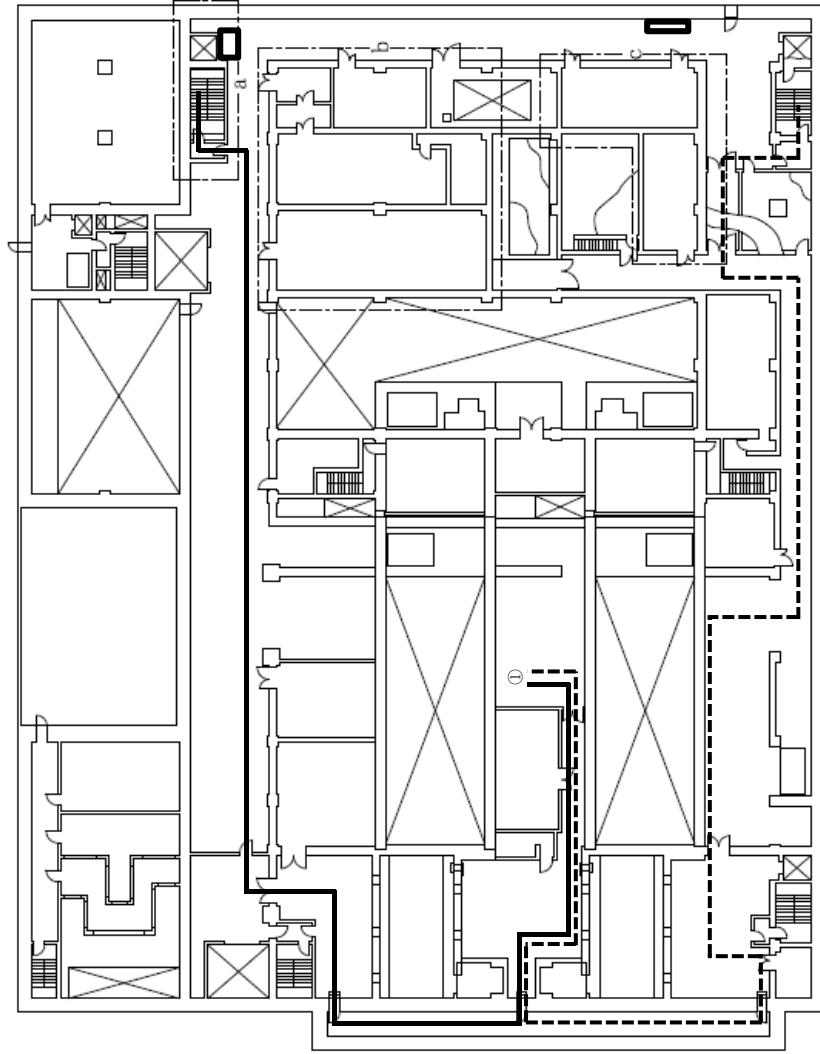
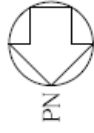
T.M.S.L.約+65,500



T.M.S.L.約+65,500

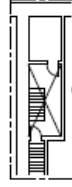
T.M.S.L.約+62,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
 前処理建屋（第4接続口）（地上2階）

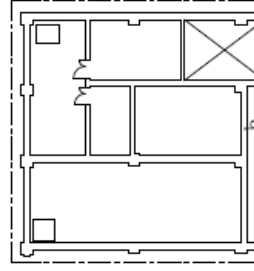


対象貯槽	接続口
中間ポットA	①
中間ポットB	

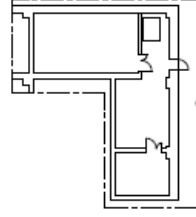
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+74,000



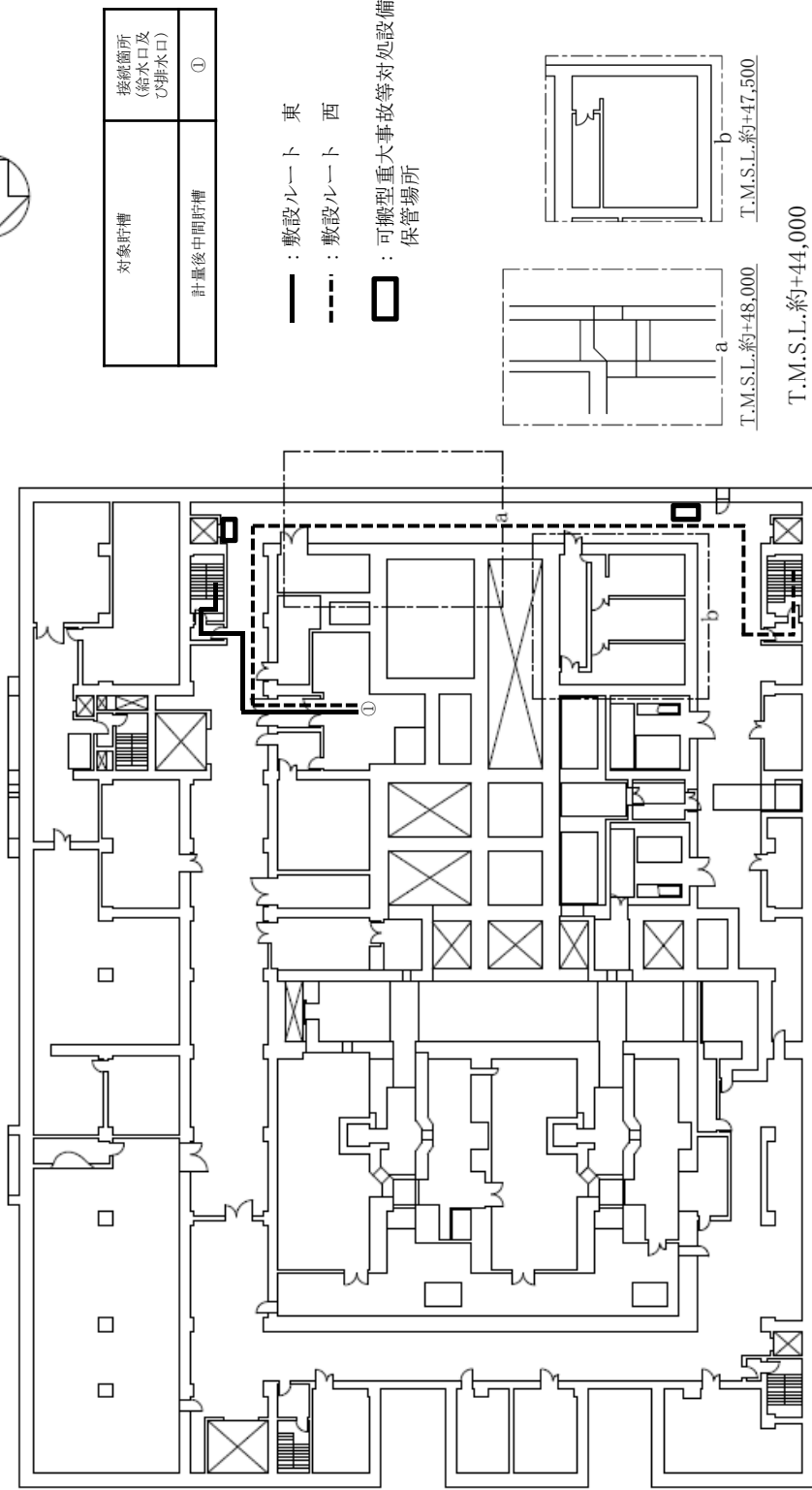
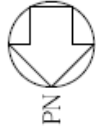
T.M.S.L.約+73,000



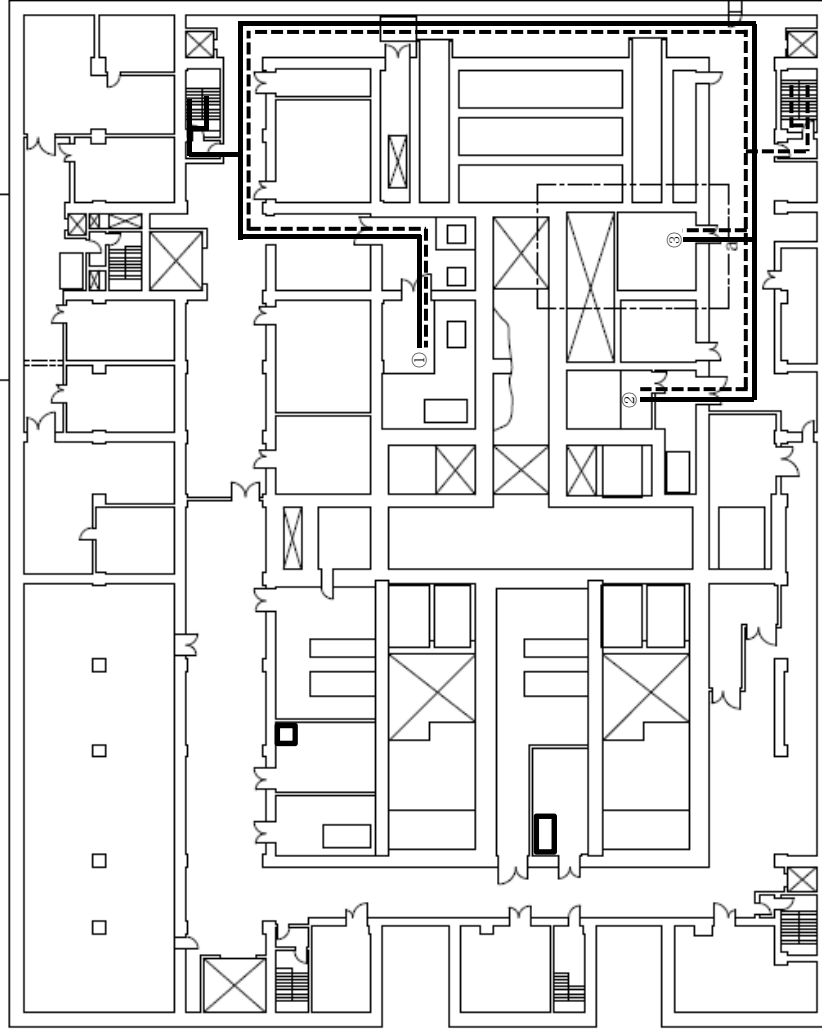
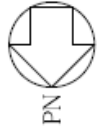
T.M.S.L.約+73,000

T.M.S.L.約+69,000

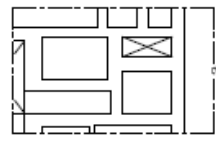
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第4接続口）（地上3階）



蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート前処理建屋（第1接続口）（地下3階）



対象貯槽	接続口 (給水口及び排水口)
中継槽 A	①
中継槽 B	
計量・調整槽	
計量補助槽	②
計量前中間貯槽 A	
リサイクル槽 A	③
計量前中間貯槽 B	
リサイクル槽 B	

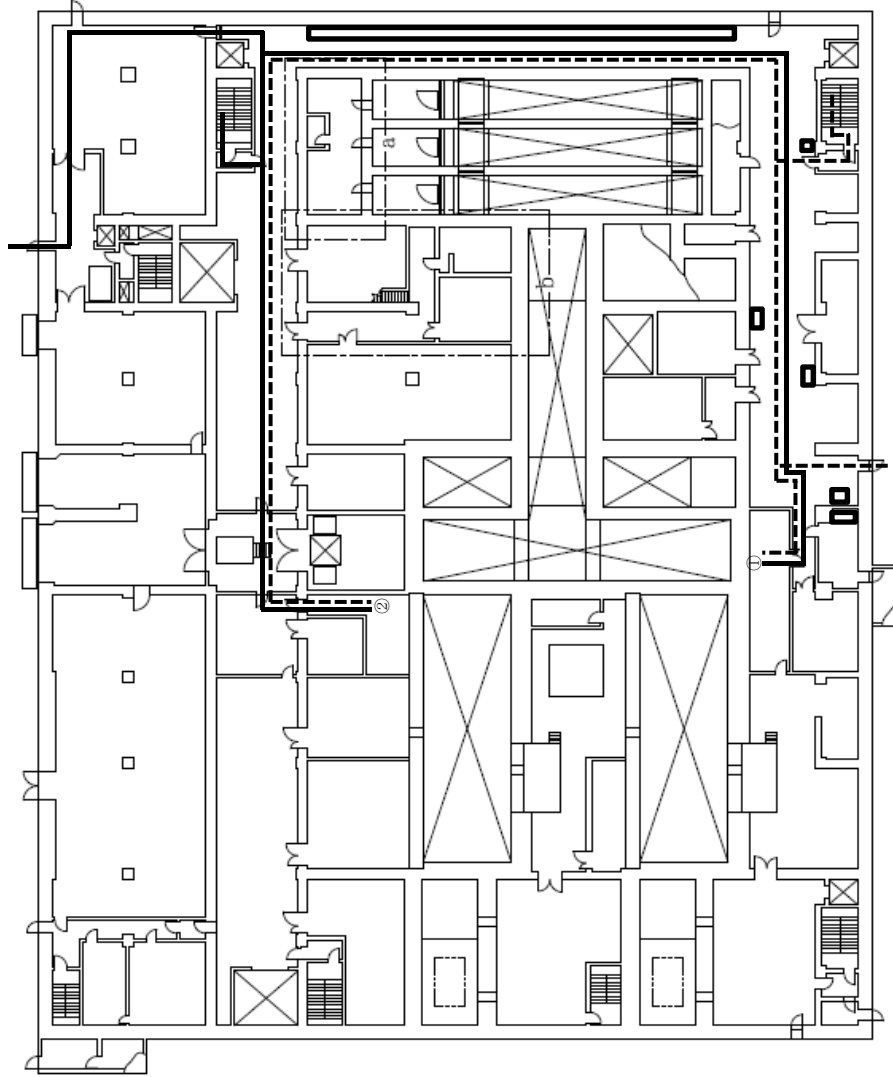
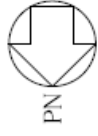


T.M.S.L. 約+54,000

T.M.S.L. 約+51,000

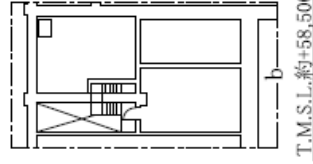
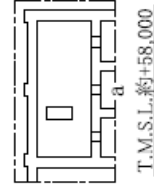
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地下1階）



対象貯槽	接続箇所 (給水口及び排水口)
中間ポットA	①
中間ポットB	②

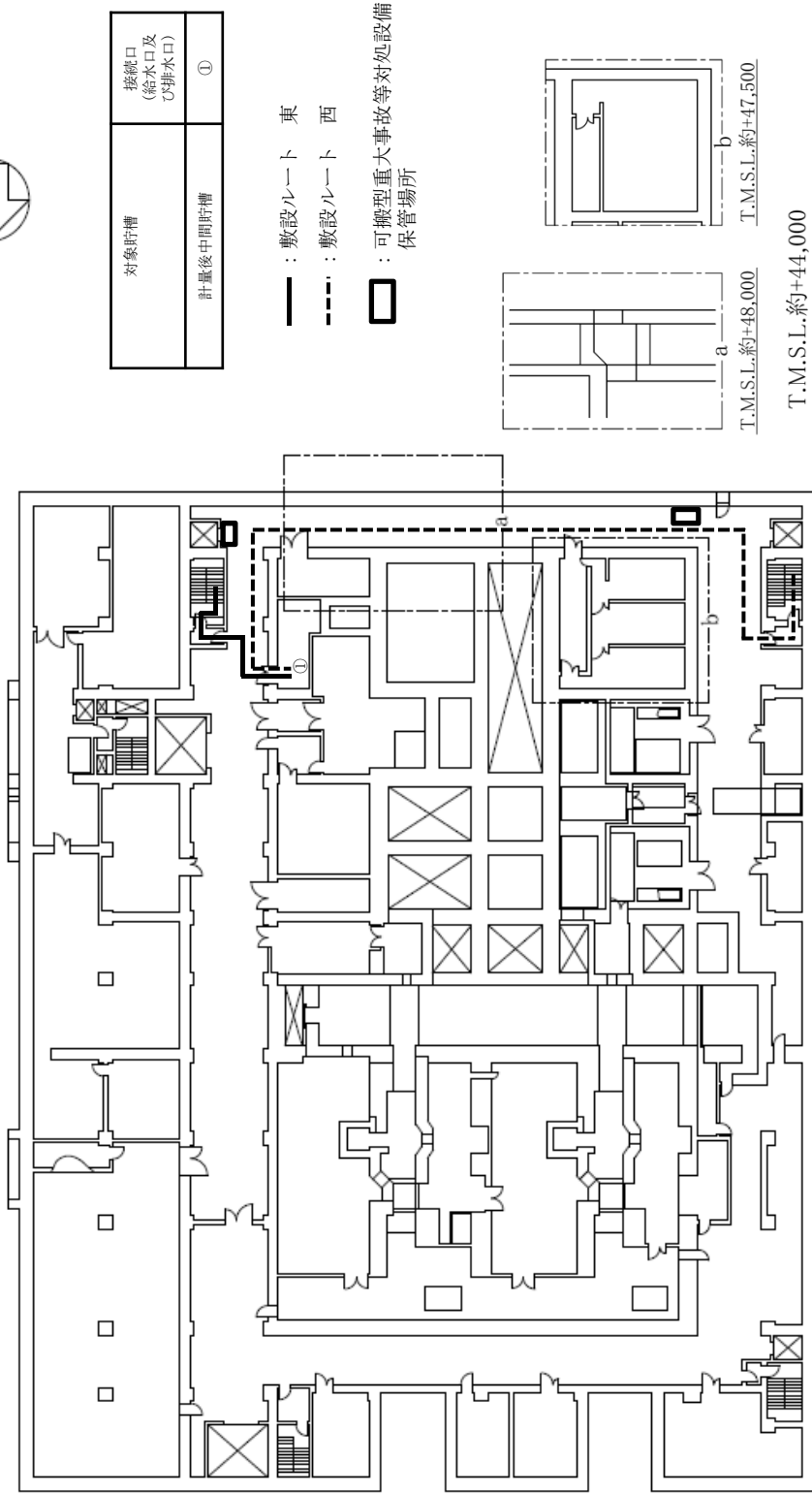
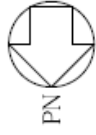
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



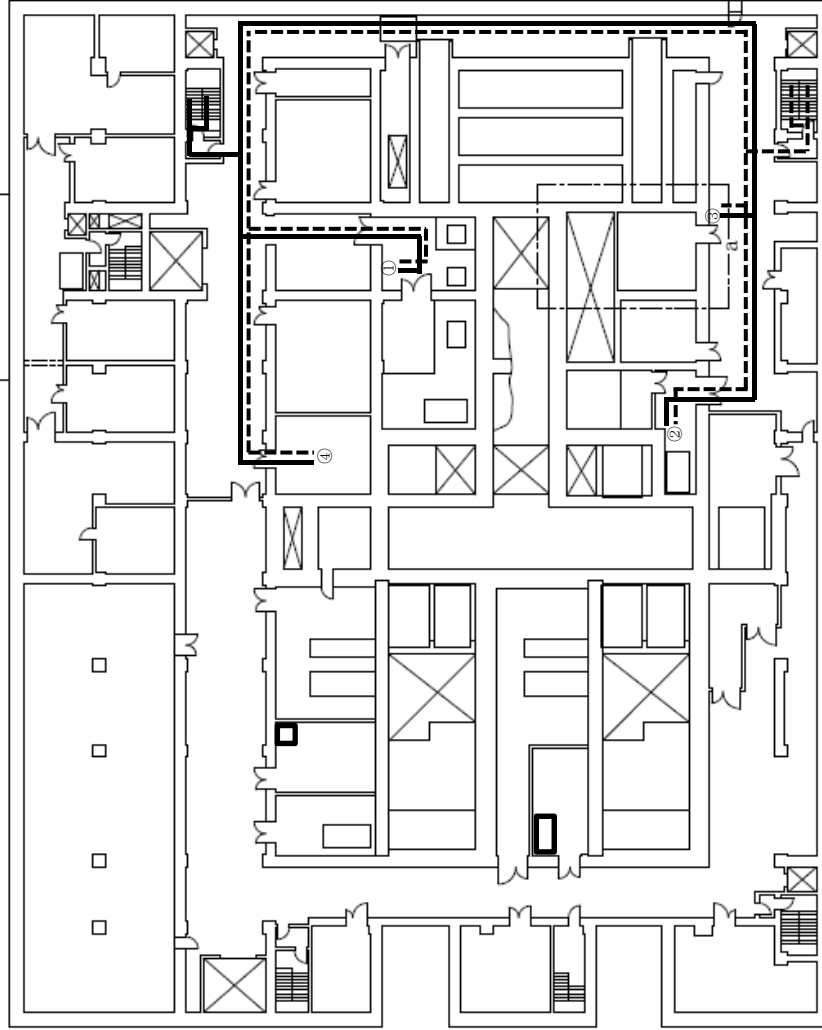
T.M.S.L.約+55,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第1接続口）（地上1階）

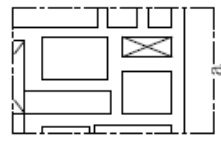




蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
 前処理建屋（第2接続口）（地下3階）



対象貯槽	接続口 (給水口及 ひ排水口)
中継槽 A	①
中継槽 B	②
計量前中間貯槽 A	③
リサイクル槽 A	④
計量前中間貯槽 B	
リサイクル槽 B	
計量・調整槽	
計量補助槽	

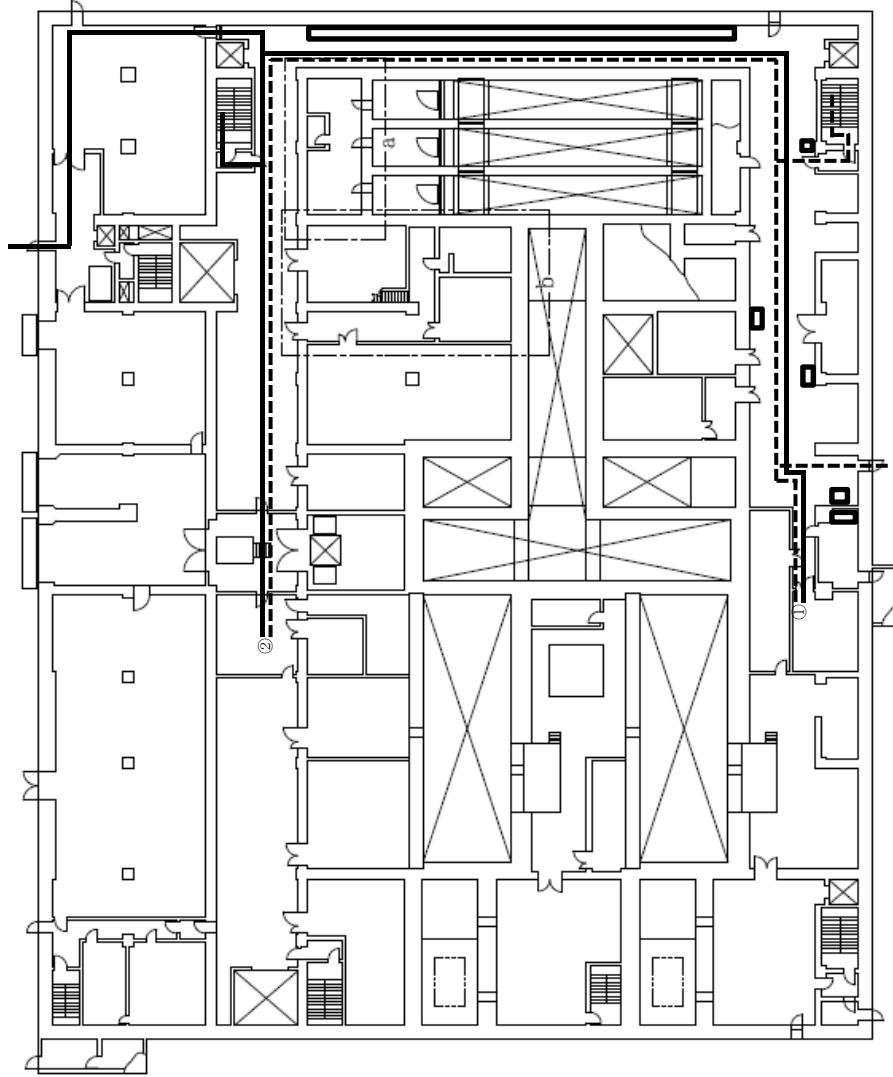
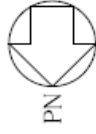


T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

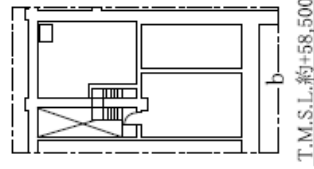
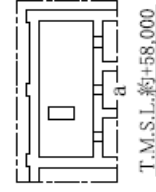
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地下1階）



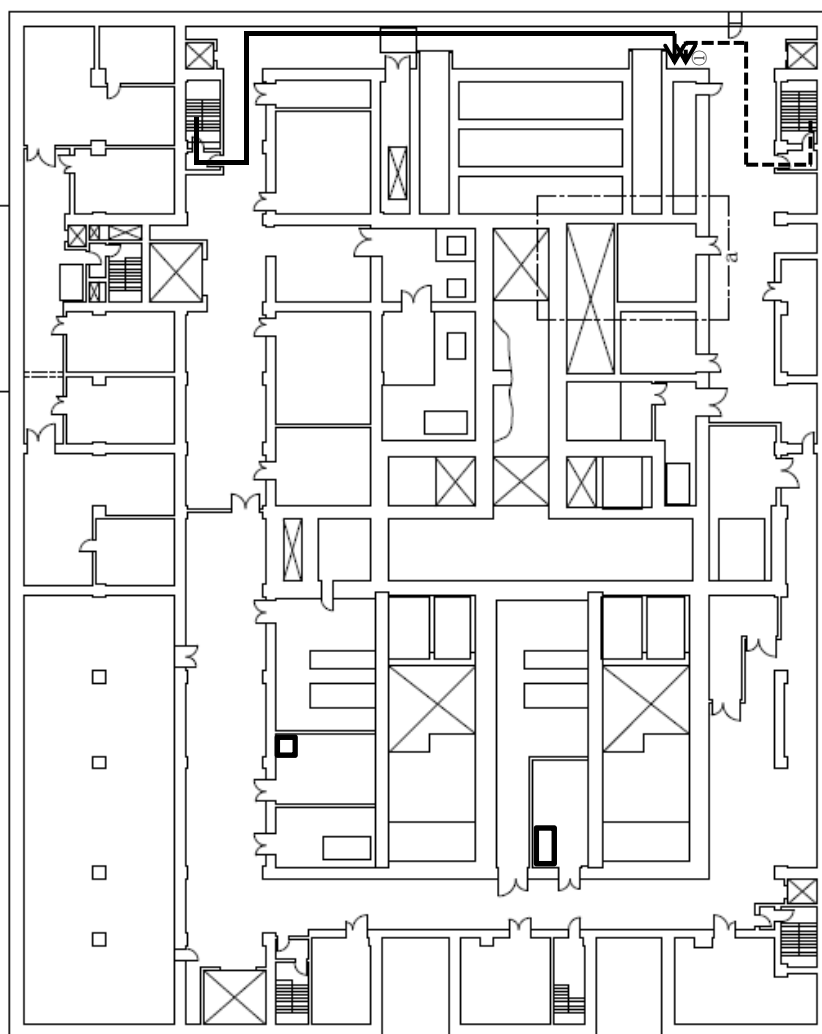
対象貯槽	接続口 (給水口及び排水口)
中間ポットA	①
中間ポットB	②

- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



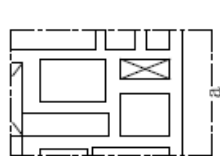
T.M.S.L.約+55,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
前処理建屋（第2接続口）（地上1階）



対象機器	接続口 (給水口及び排水口)
凝縮器	①
予備凝縮器	

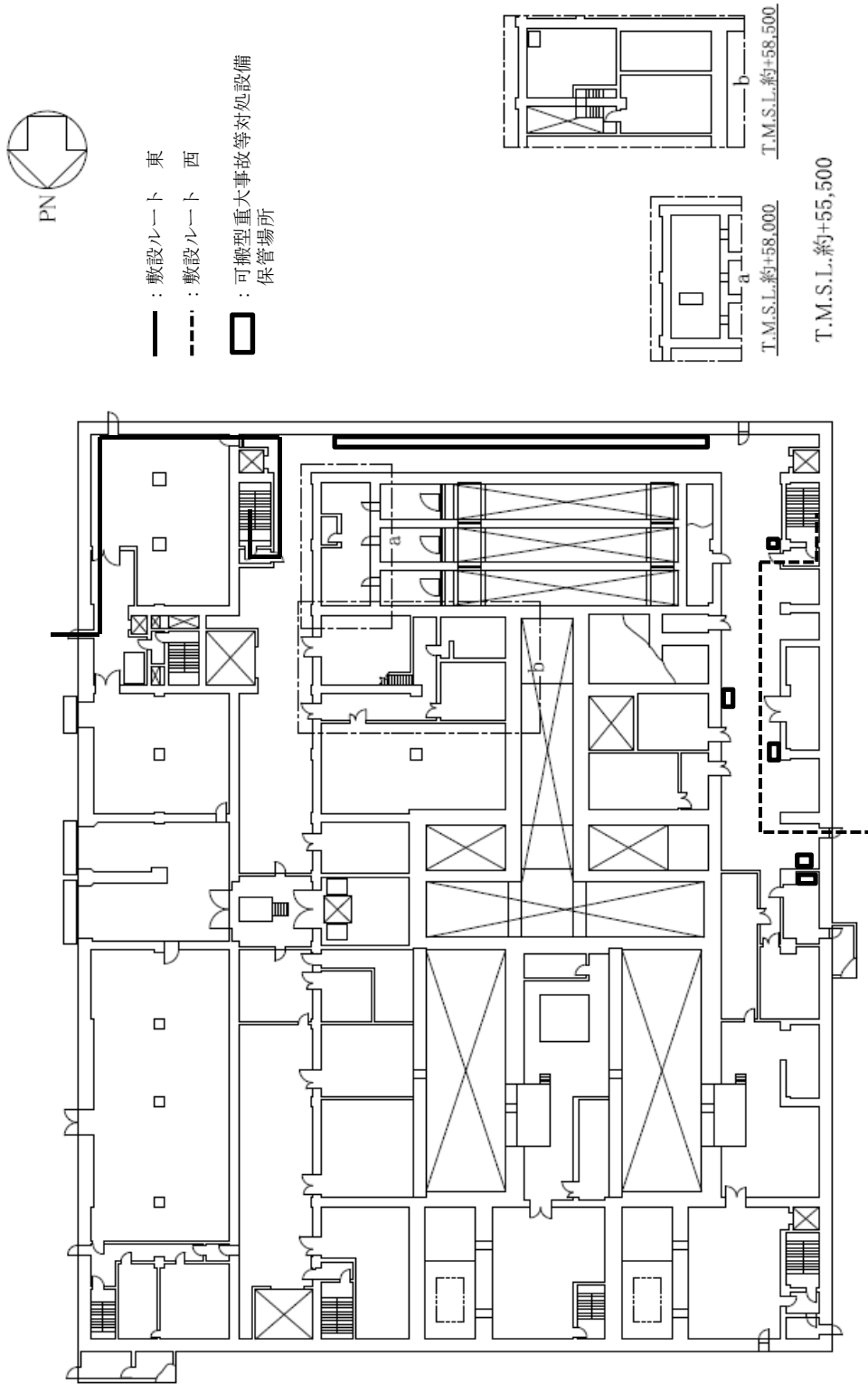
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



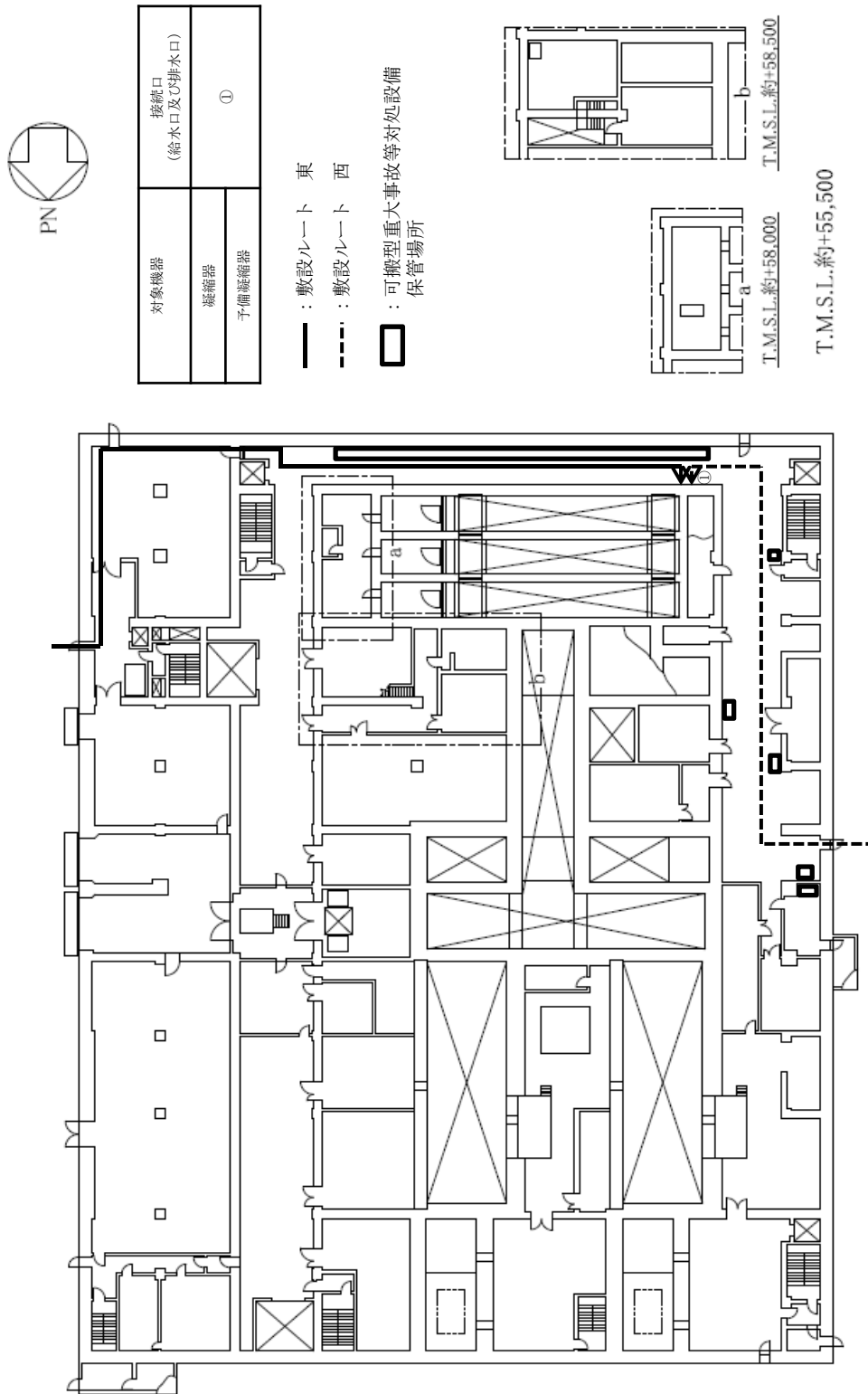
T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

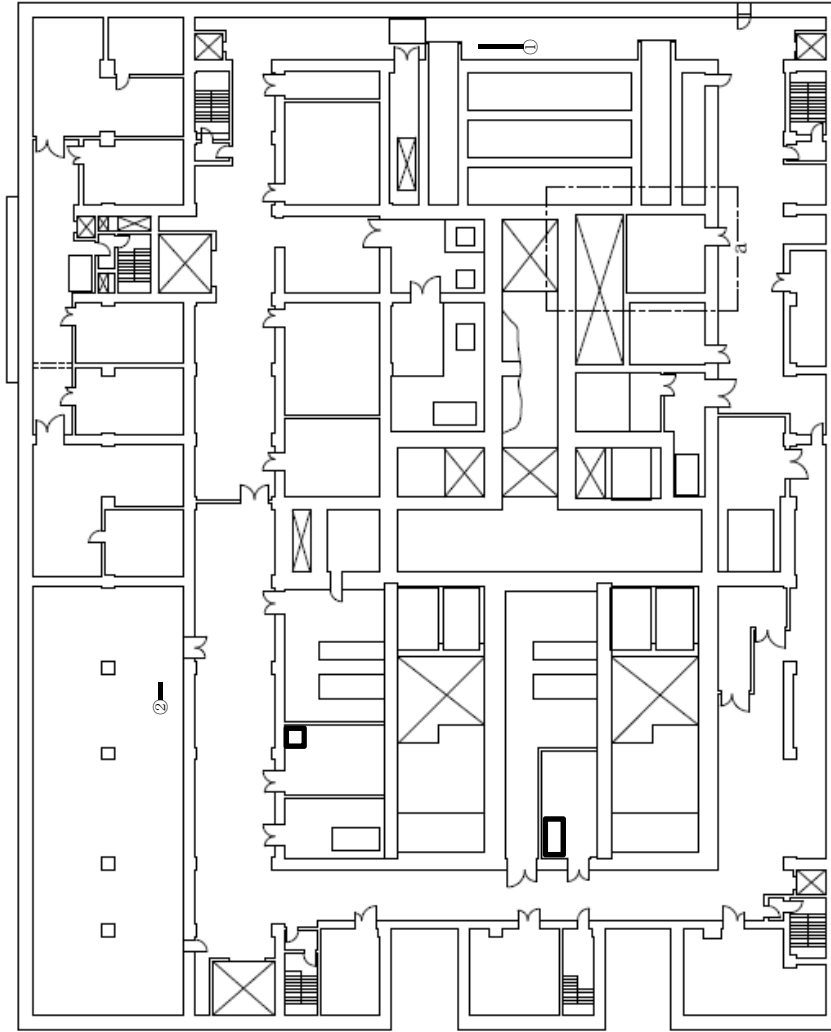
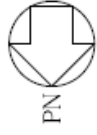
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の  
建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水）前処理建屋（第1接続口）（地下1階）



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の  
 建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水）前処理建屋（第1接続口）（地上1階）

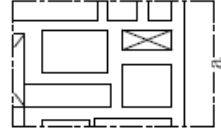


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の  
 建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水）前処理建屋（第2接続口）（地上1階）



対象機器	接続箇所
-	①及び②

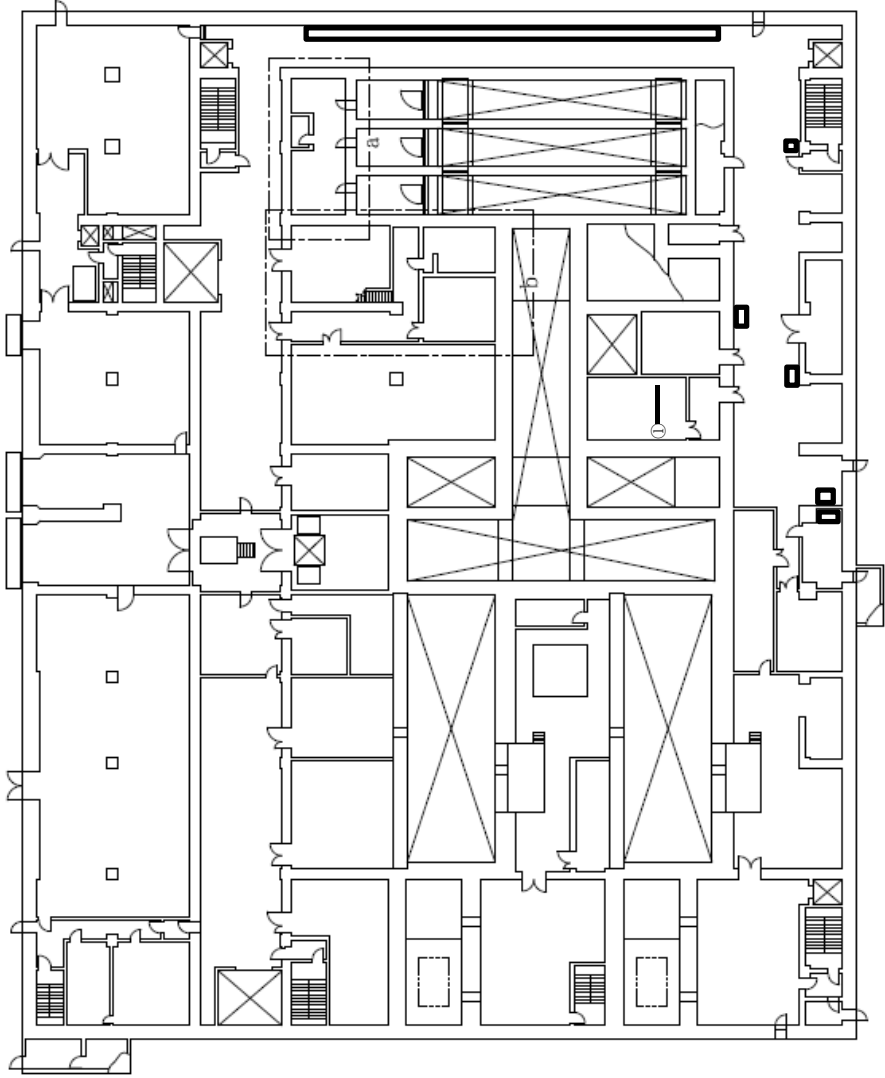
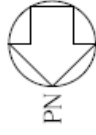
- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+54,000

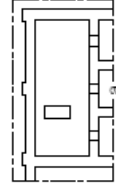
T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の可搬型ダクト敷設ルート 前処理建屋（地下1階）

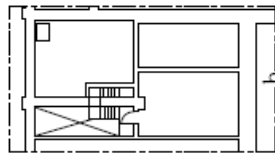


対象機器	接続箇所
-	①

- : 敷設ルート 東
- - - : 敷設ルート 西
- ◻ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+58,000

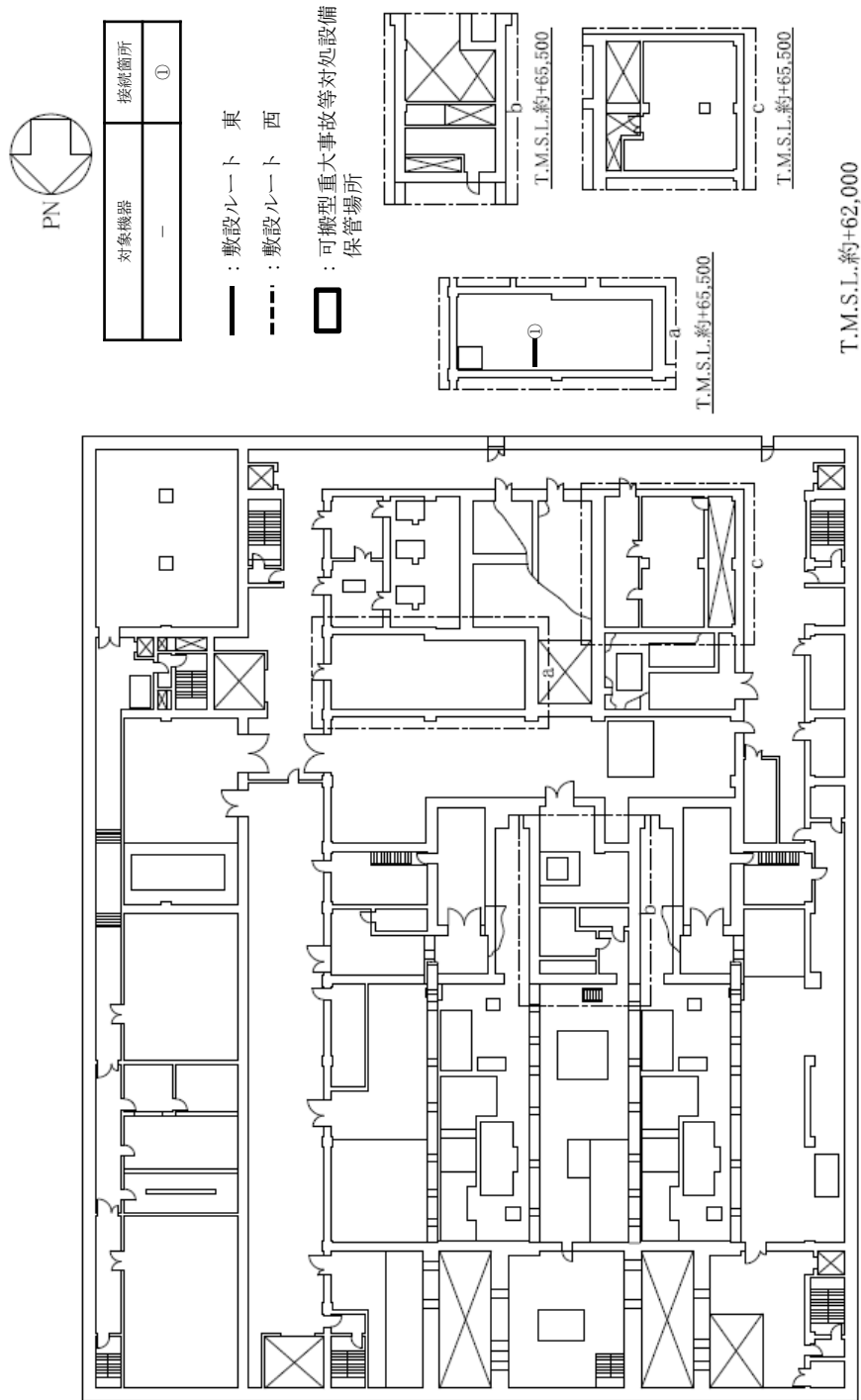


T.M.S.L.約+58,500

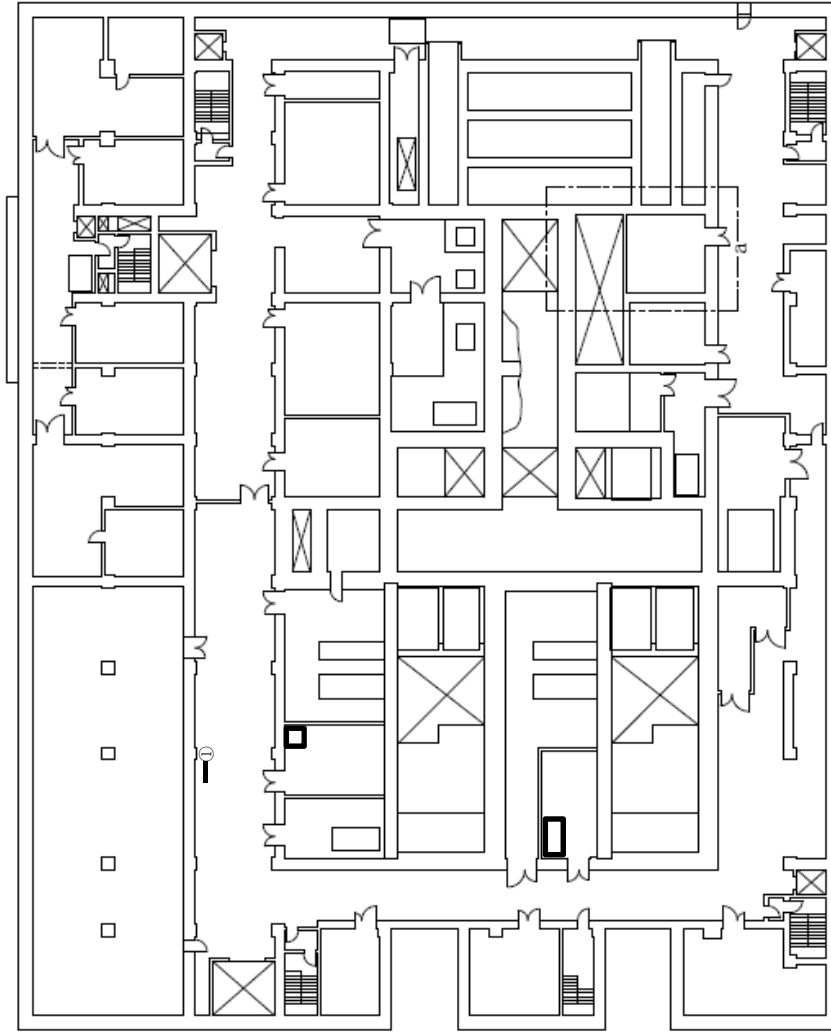
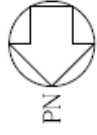
T.M.S.L.約+55,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の可搬型ダクト敷設ルート 前処理建屋（地上1階）



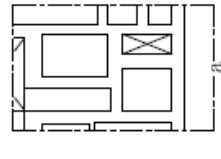


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の可搬型ダクト敷設ルート 前処理建屋（地上2階）の



対象機器	接続口
-	①

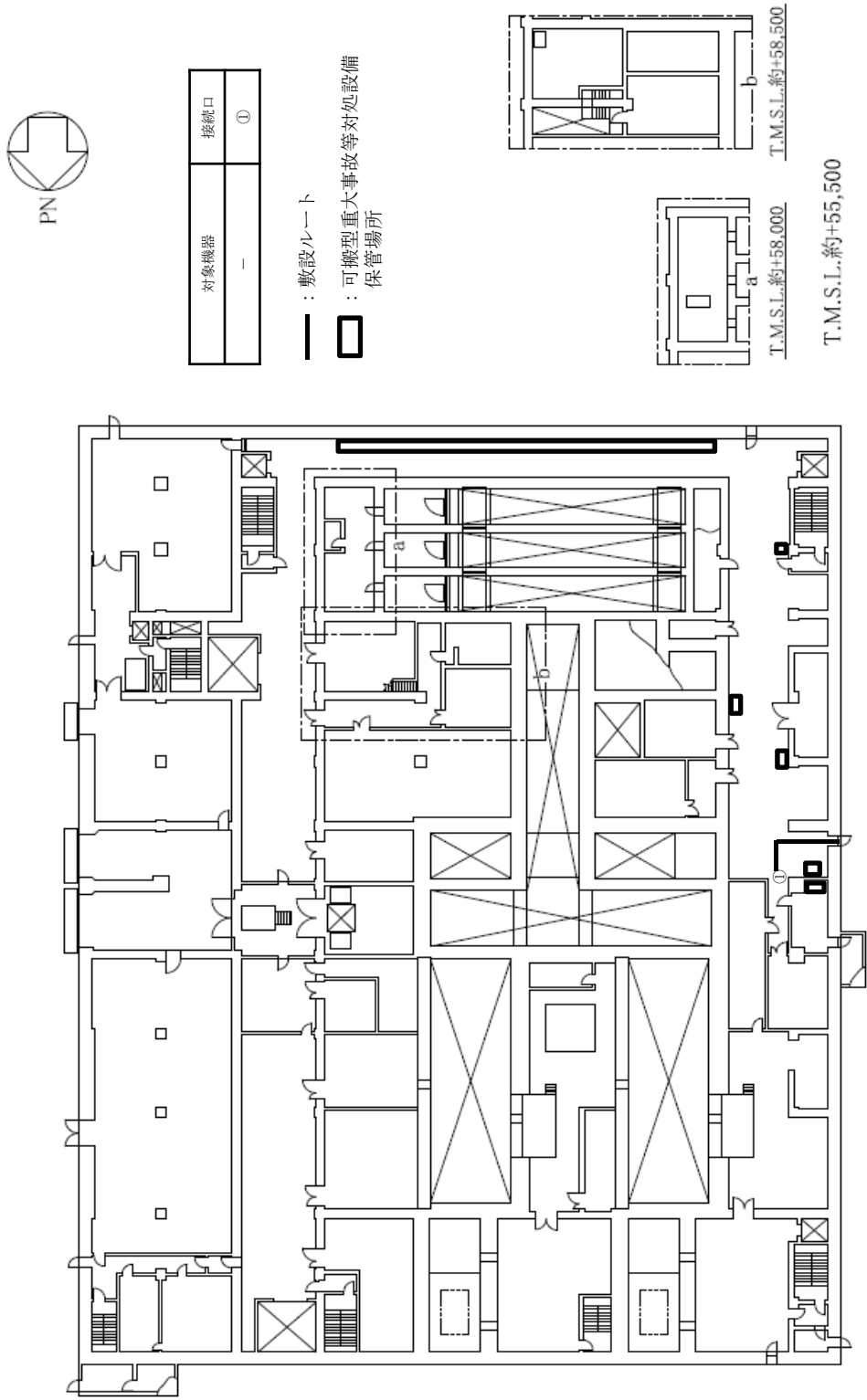
- : 敷設ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



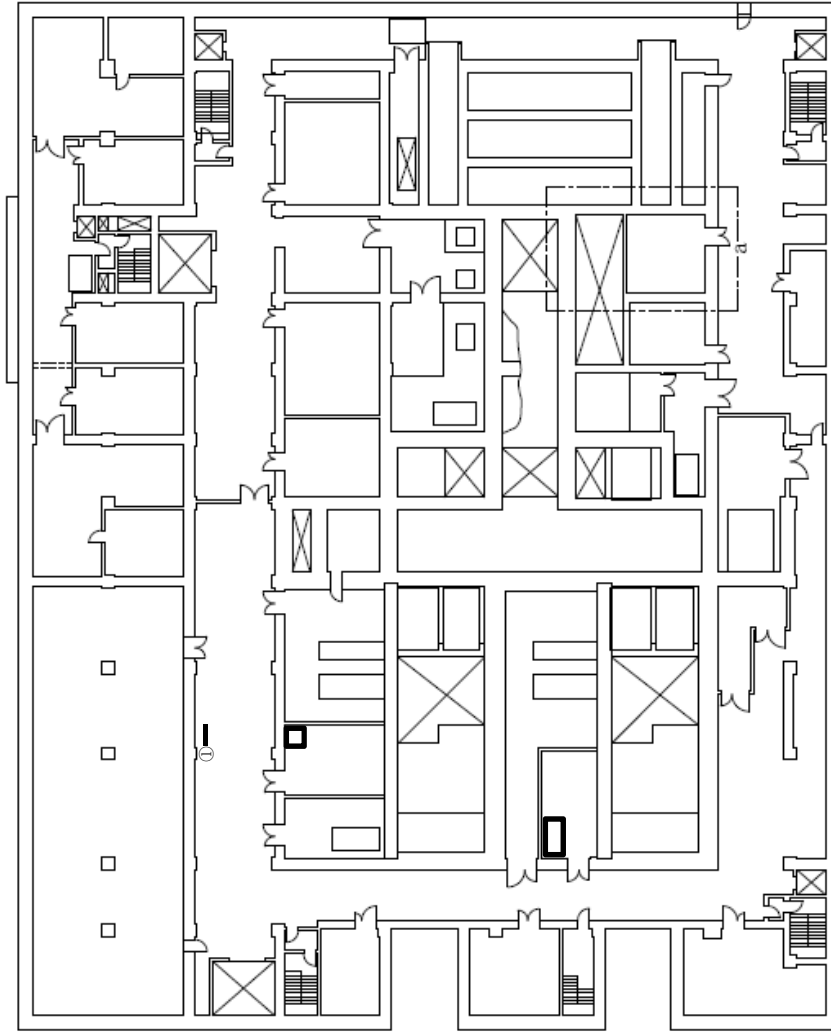
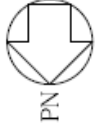
T.M.S.I.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の  
前処理建屋可搬型発電機からの給電に係る前処理建屋内可搬型電源ケーブル敷設ルート（第1接続口）（地下1階）

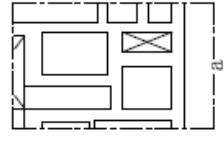


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の前処理建屋可搬型発電機からの給電に係る前処理建屋内可搬型電源ケーブル敷設ルート（第1接続口）（地上1階）



対象機器	接続口
-	①

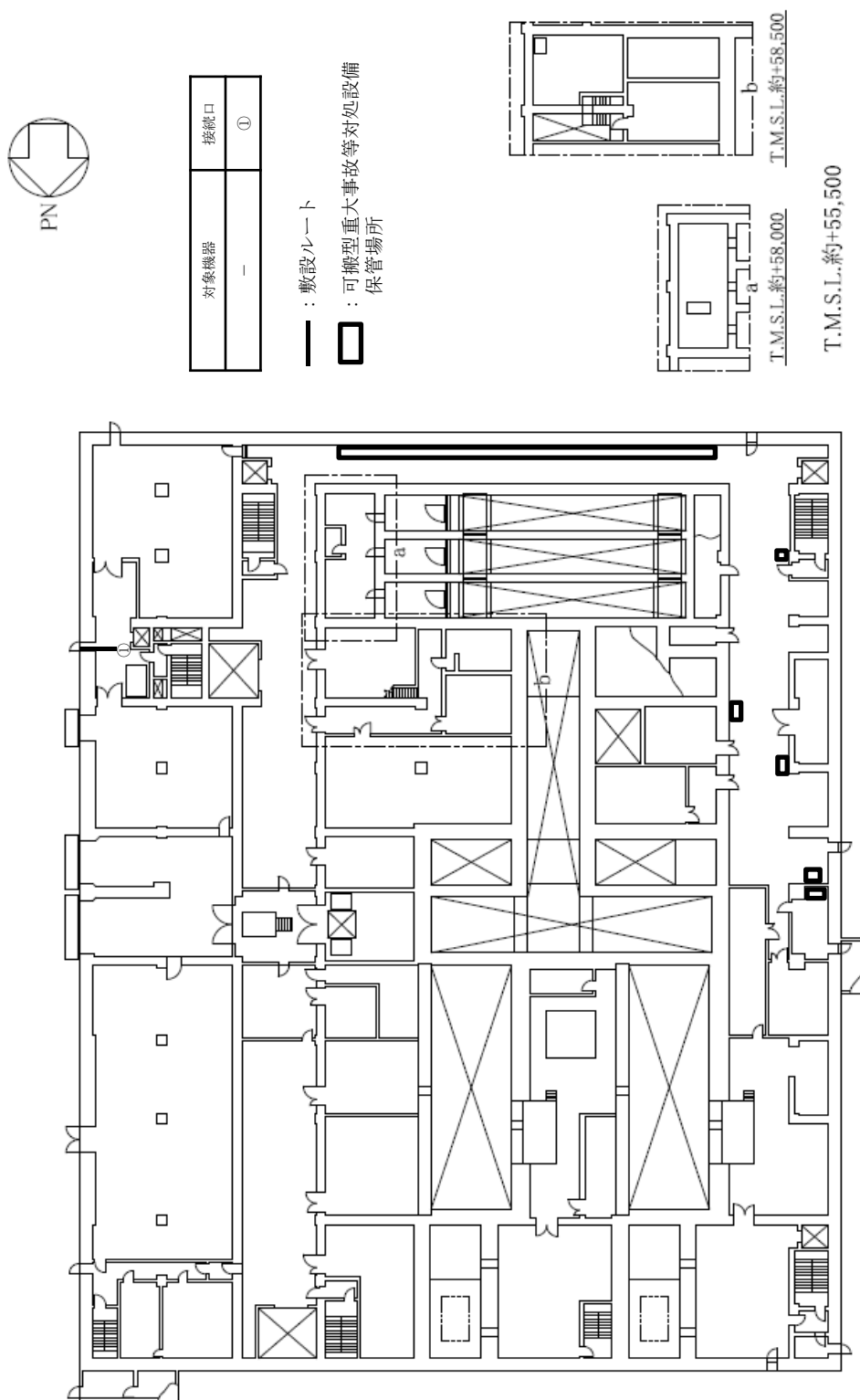
- : 敷設ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の前処理建屋可搬型発電機からの給電に係る前処理建屋内可搬型電源ケーブル敷設ルート（第2接続口）（地下1階）

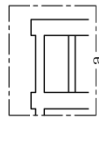
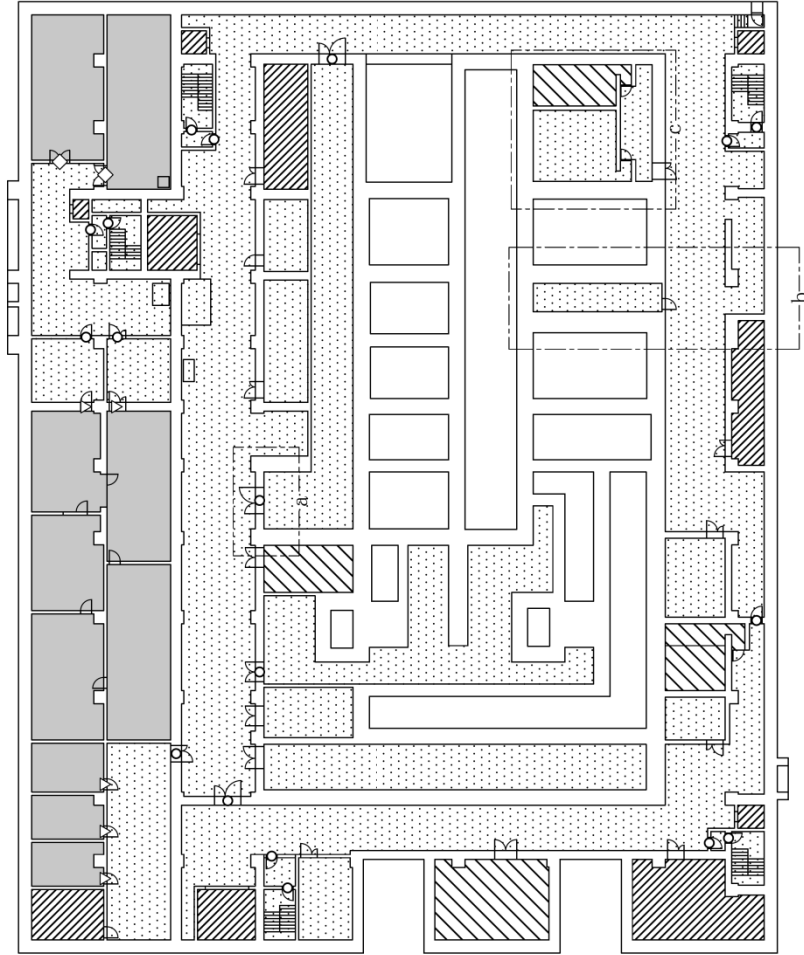


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の  
 前処理建屋可搬型発電機からの給電に係る前処理建屋内可搬型電源ケーブル敷設ルート（第2接続口）（地上1階）

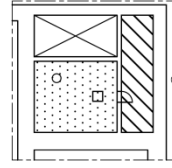


- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- ▨ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- ▧ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- ▩ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。



T.M.S.L.約+40,000



T.M.S.L.約+41,500



T.M.S.L.約+41,000

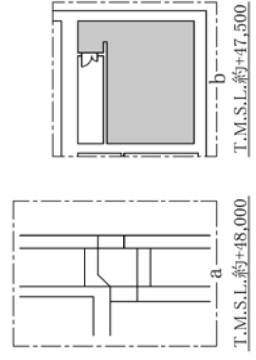
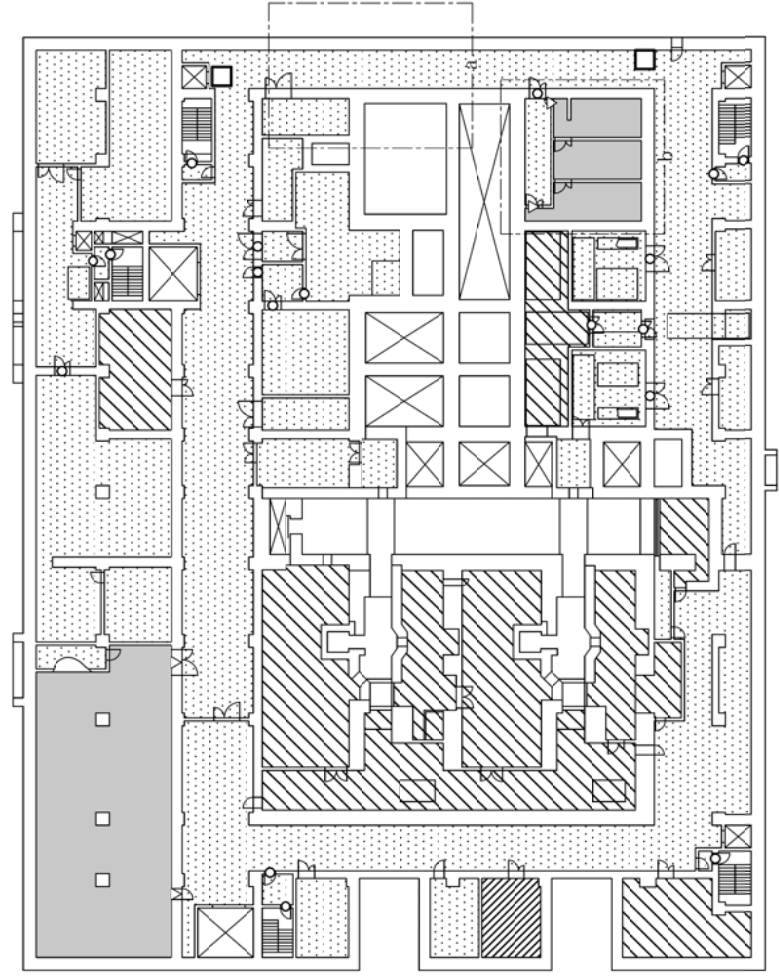
T.M.S.L.約+37,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋（地下4階）



- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アクセスマートの溢水高さは50cm以下である。



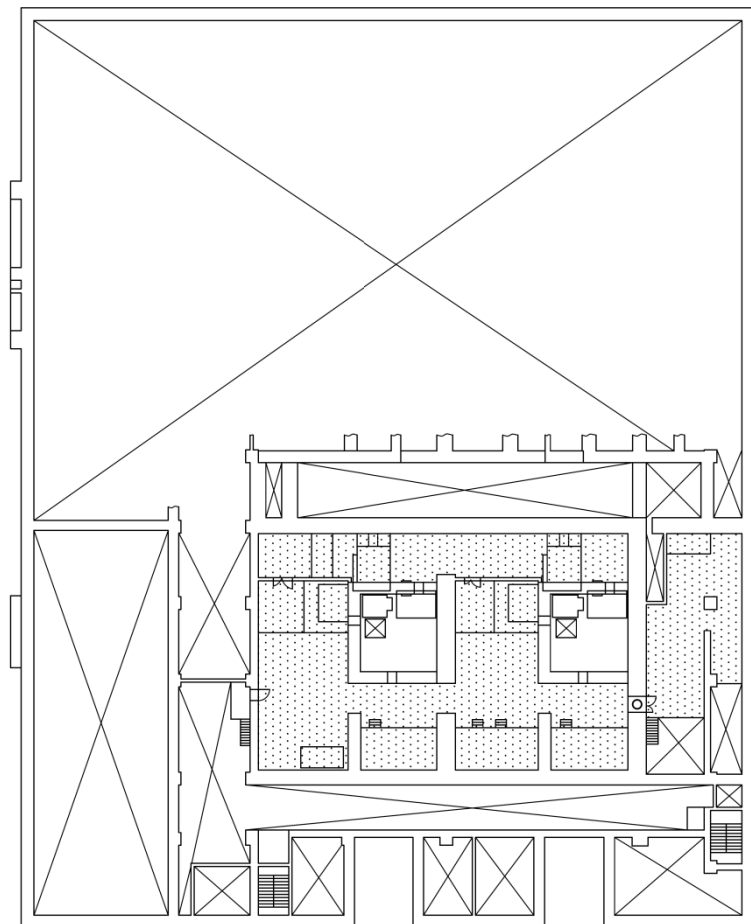
T.M.S.L.約+48,000  
T.M.S.L.約+47,500  
T.M.S.L.約+44,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地下3階)



- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- ▭ : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- (点線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- (縦線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- (横線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アクセスマートの溢水高さは50cm以下である。



T.M.S.L.約+46,500

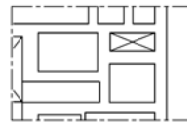
溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地下2階)





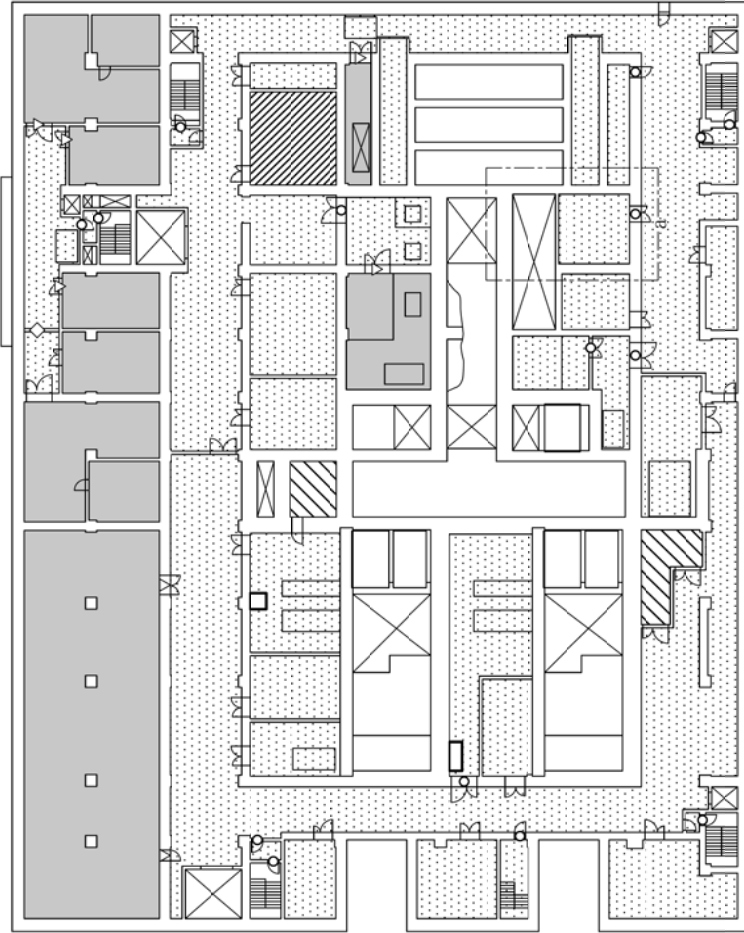
- : 可搬型重大事故等  
対処設備設置場所
- : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- ▨ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- ▧ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- ▩ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)
- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉

アクセスロードの溢水高さは50cm以下である。

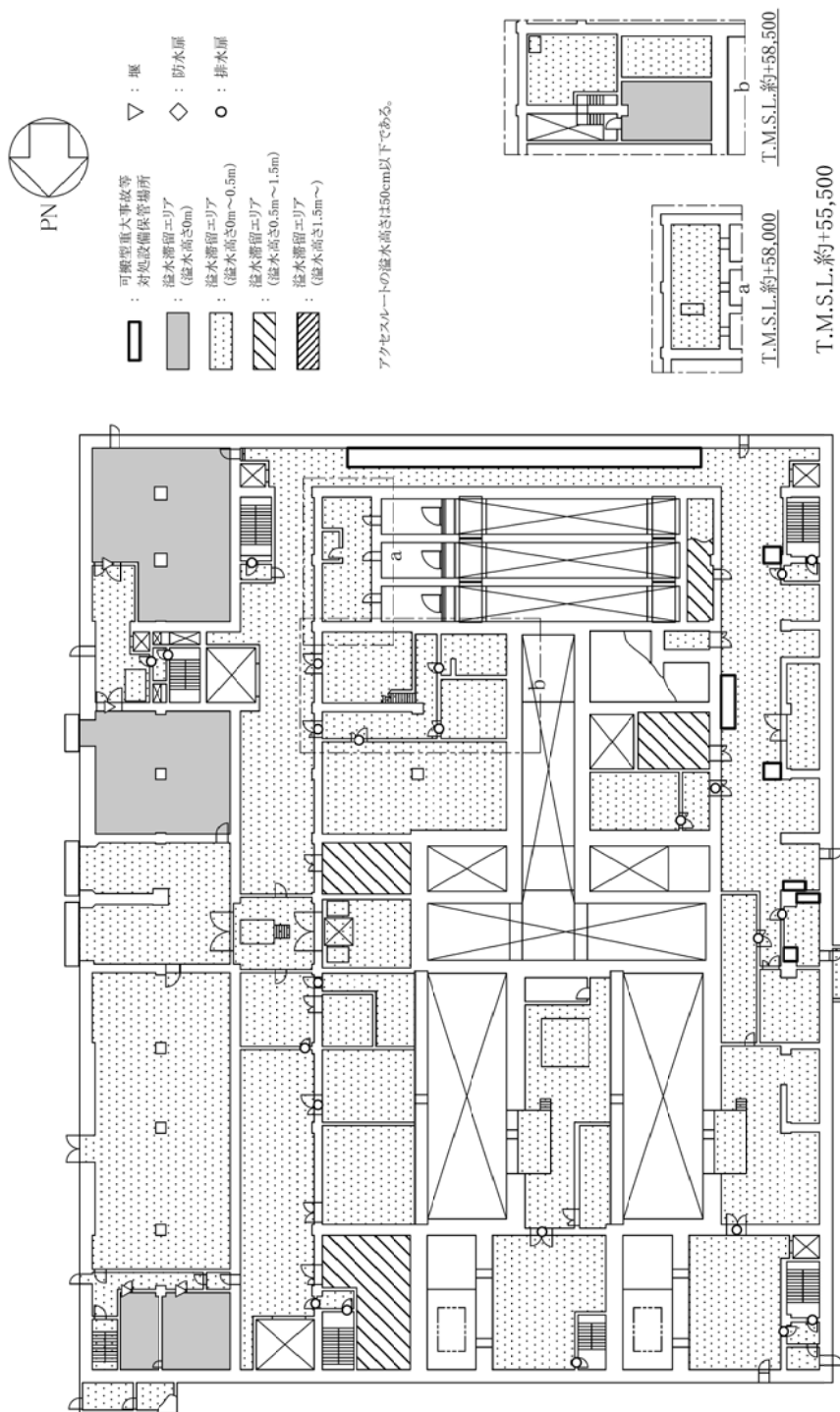


T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000



溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地下1階)

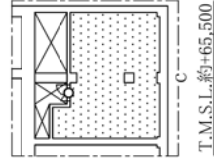
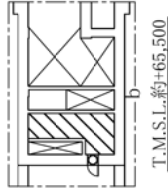
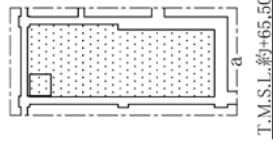
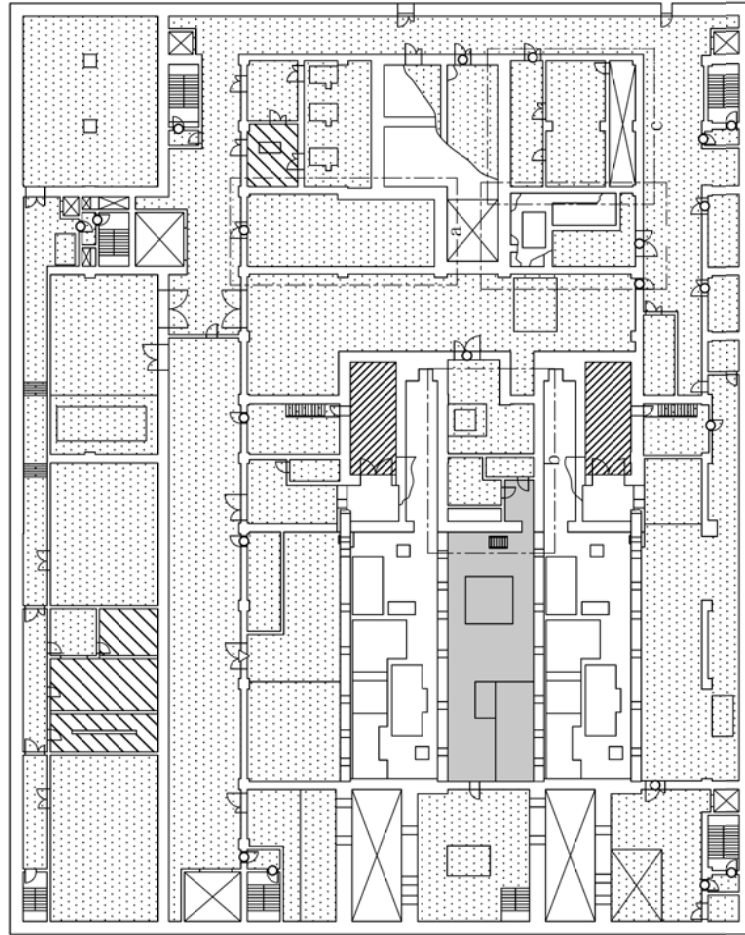


溢水ハザードマップ 前処理建屋（地上1階）



- 可搬型重大事故等  
対処設備設置場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)
- : 排水扉
- ◇ : 防水扉
- ▽ : 扉

アクセスレートの溢水高さは50cm以下である。



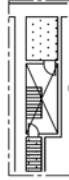
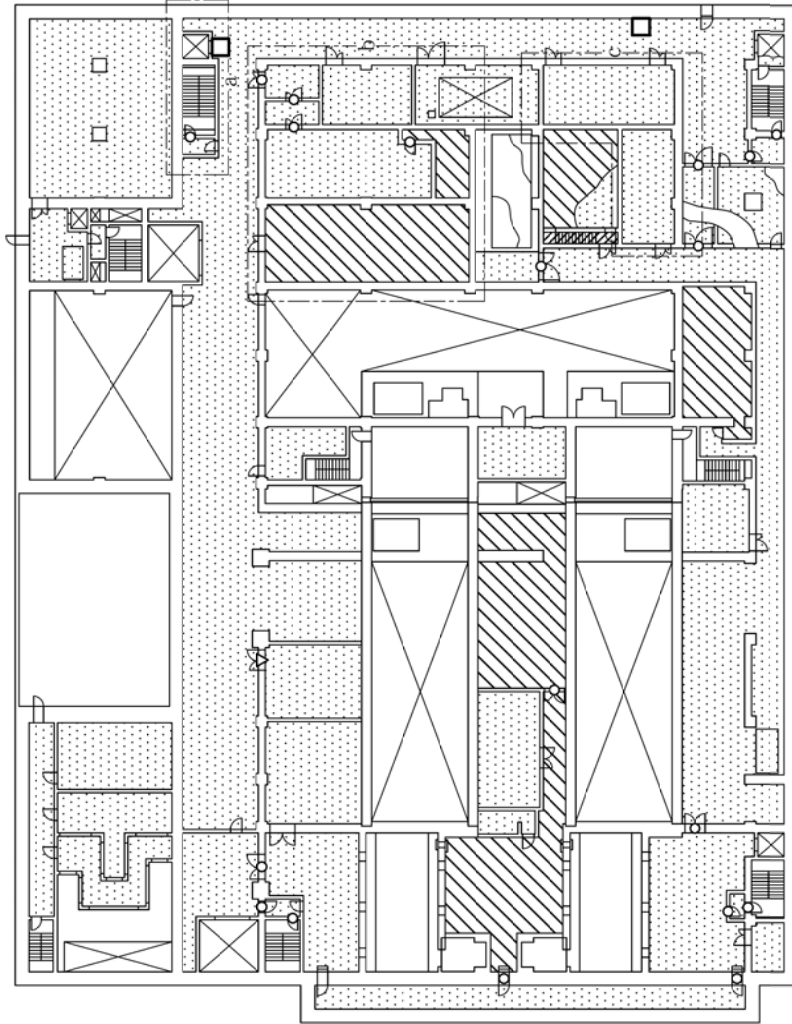
T.M.S.L.約+62,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地上2階)

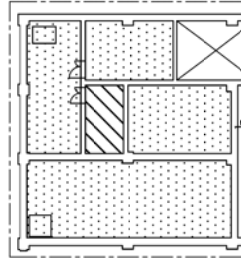


- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

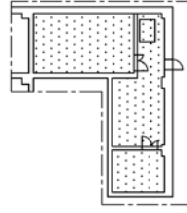
アクセスルート上の溢水高さは50cm以下である。



T.M.S.L.約+74,000



T.M.S.L.約+73,000








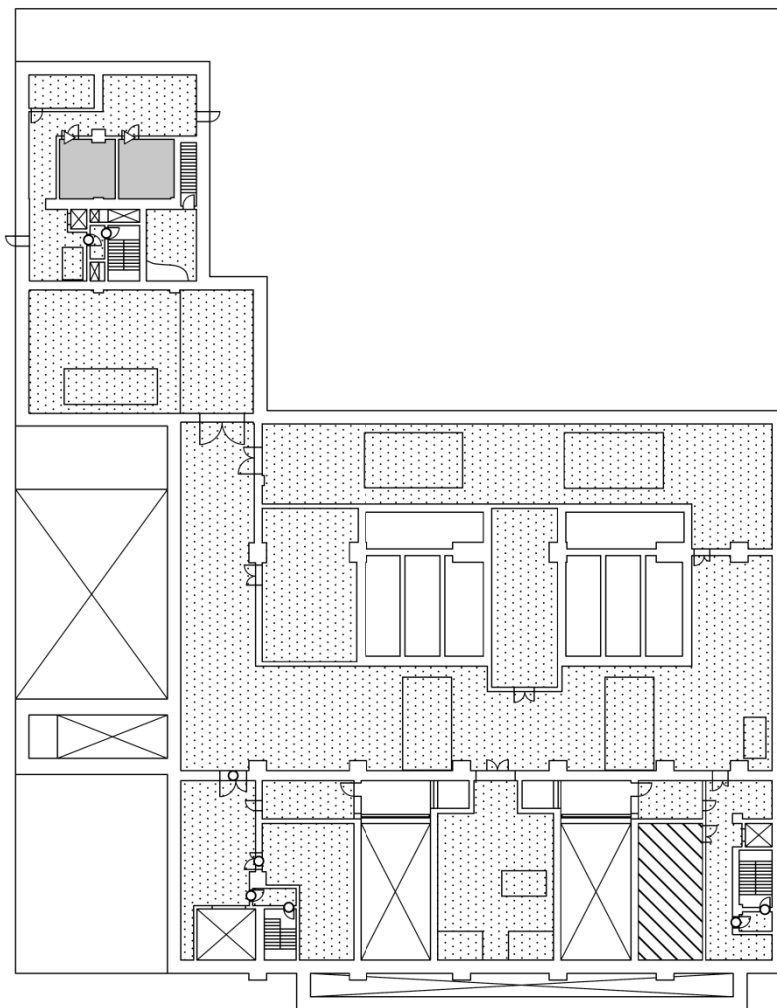
T.M.S.L.約+73,000

T.M.S.L.約+69,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地上3階)



-  : 可搬型重大事故等
-  : 対処設備保管場所
-  : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
-  : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m～0.5m)
-  : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m～1.5m)
-  : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m～)
-  : 堰
-  : 防水扉
-  : 排水扉





アクリルシートでの溢水高さは50cm以下である。

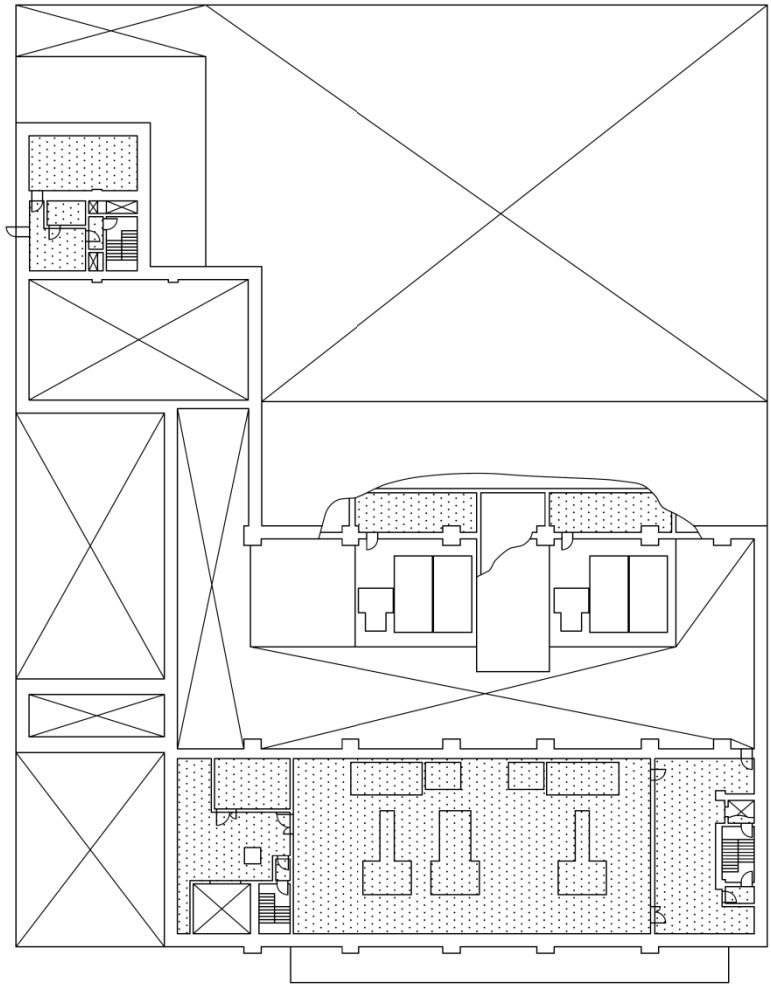
T.M.S.L.約+74,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地上4階)



-  : 可搬型重大事故等
-  : 対処監視保管場所
-  : 溢水滞留エリア (溢水高さ0m)
-  : 溢水滞留エリア (溢水高さ0m～0.5m)
-  : 溢水滞留エリア (溢水高さ0.5m～1.5m)
-  : 溢水滞留エリア (溢水高さ1.5m～)
-  : 堰
-  : 防水扉
-  : 排水扉

アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。

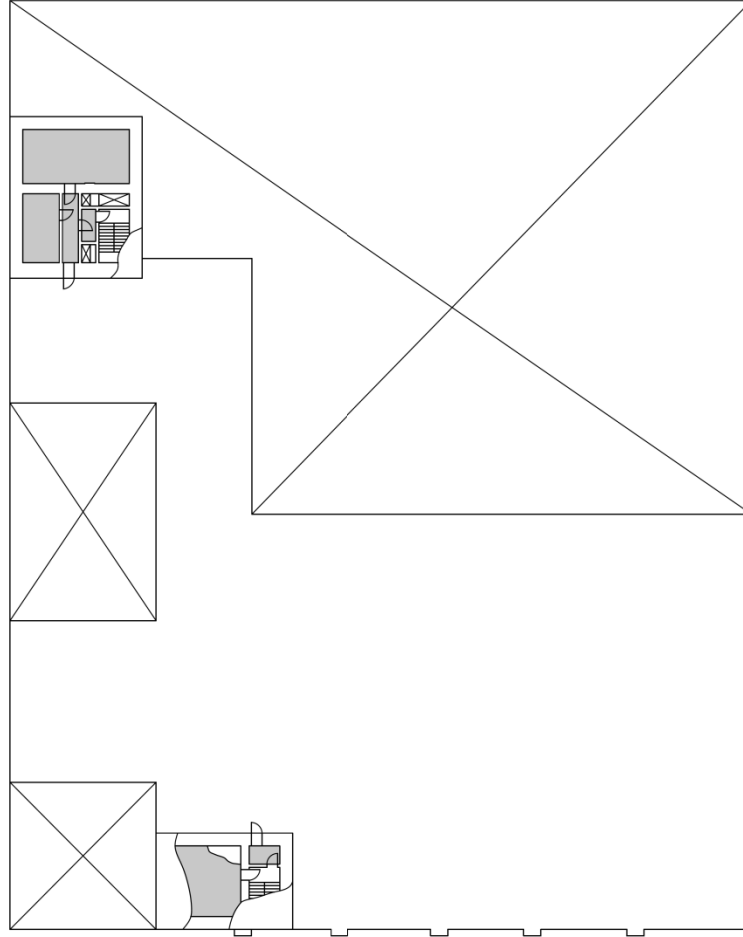


T.M.S.L. 約+80,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地上5階)



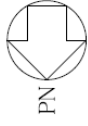
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)
- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉





アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。

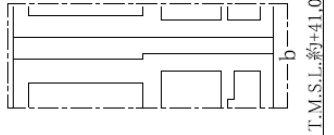
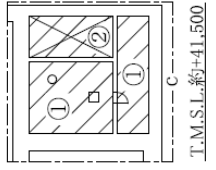
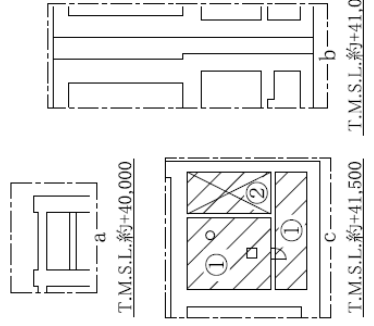
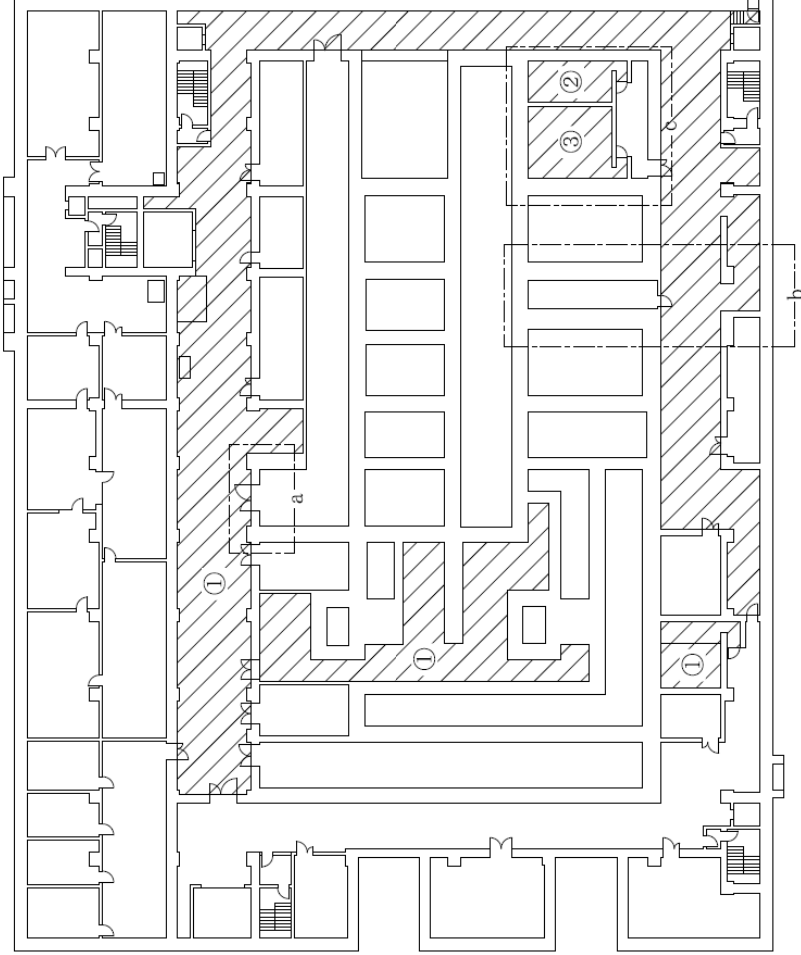
T.M.S.I..約+89,000

溢水ハザードマップ 前処理建屋 (地上6階)



 : 可搬型重大事故等対応設備保管場所  
 : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸
②	硝酸
③	水酸化ナトリウム
④	硝酸ガドリニウム



T.M.S.L.約+37,000

アクセスコートにある化学薬品漏えい時は、基礎地震動による地盤力に対して耐震性を確保する。

化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地下4階）

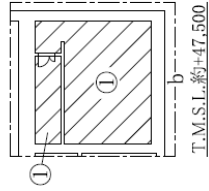
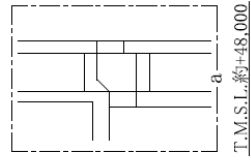
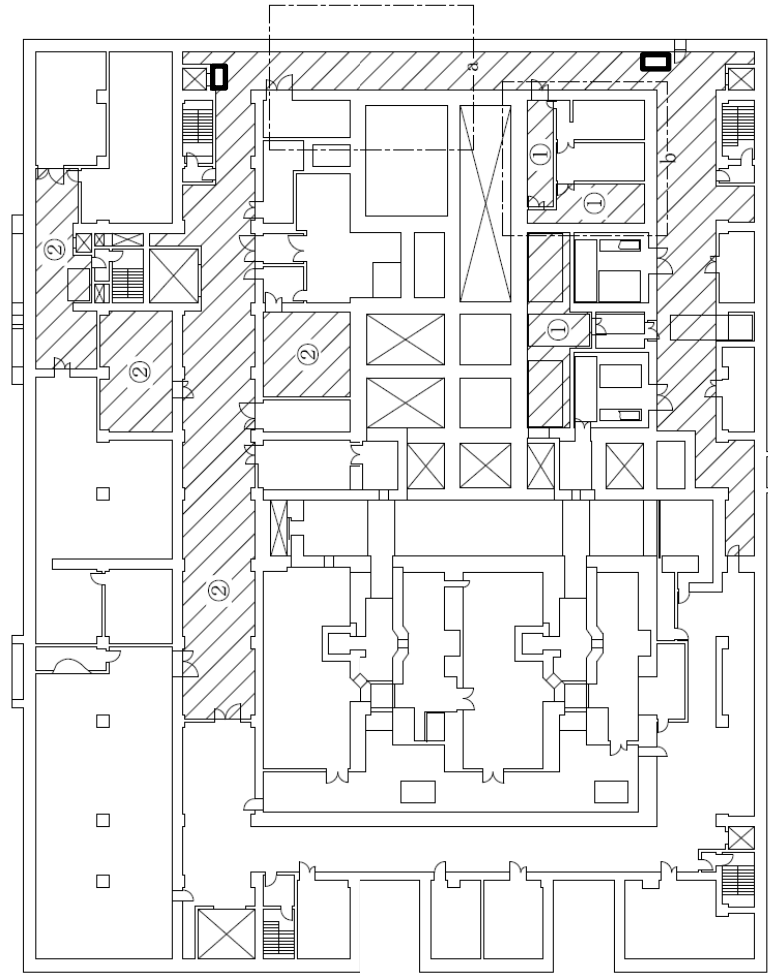




- : 可燃性重大事故等対応改修区画場所
- ▨ : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸
②	水酸化ナトリウム

アタセスルー上にある化学薬品漏えい源は、基準地  
震動による地震力に対して耐震性を確保する。



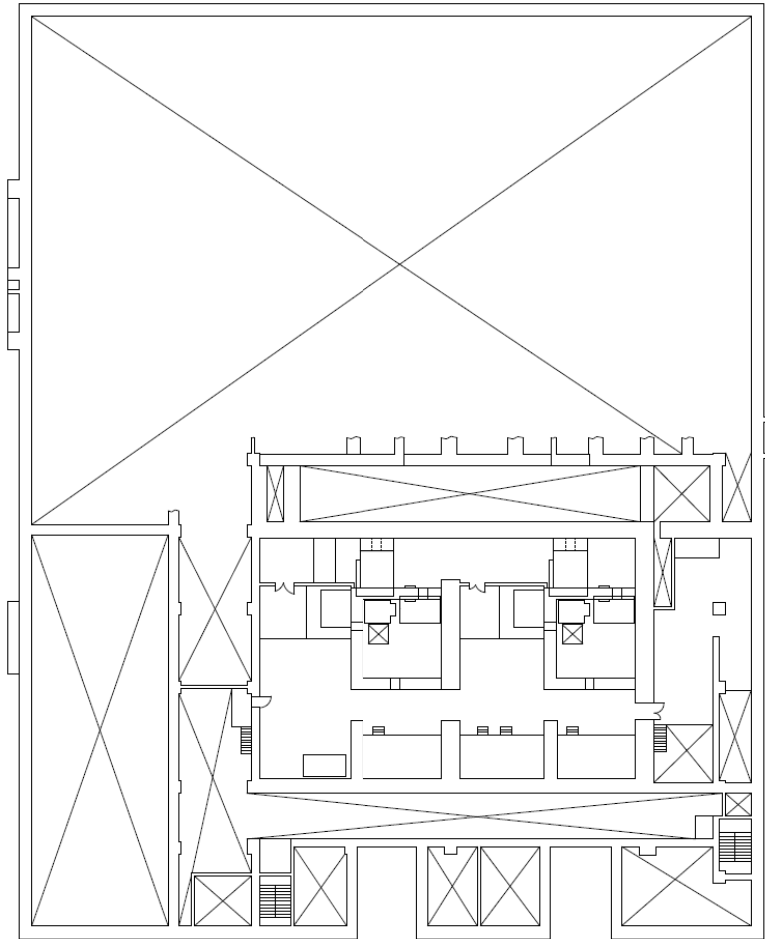
T.M.S.L.約+44,000

化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地下3階）



本フロアに化学薬品ハザードはない。

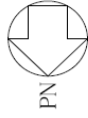
- : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
- ▨ : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋





アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基礎地震動による地震力に対して耐震性を確保する。

T.M.S.L.約+46,500

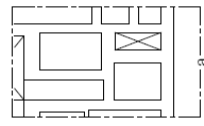
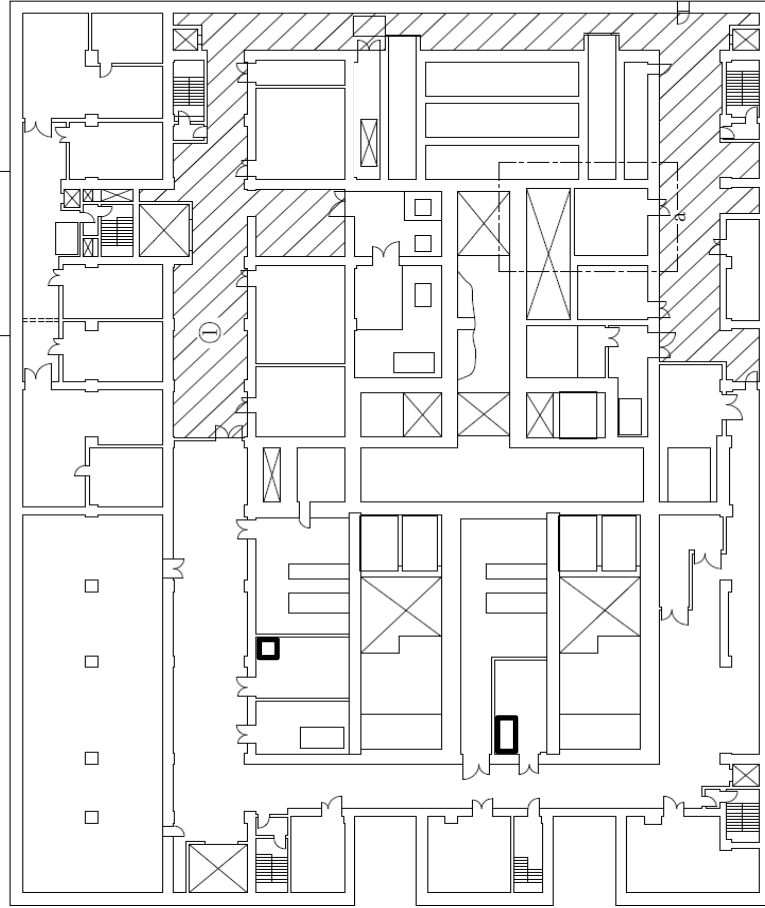
### 化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地下2階）



-  : 可燃型重大事故等対応設備区画場所
-  : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸 水酸化ナトリウム

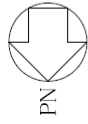
アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。





T.M.S.L.約+54,000

T.M.S.L.約+51,000

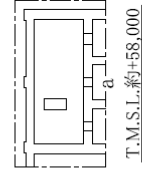
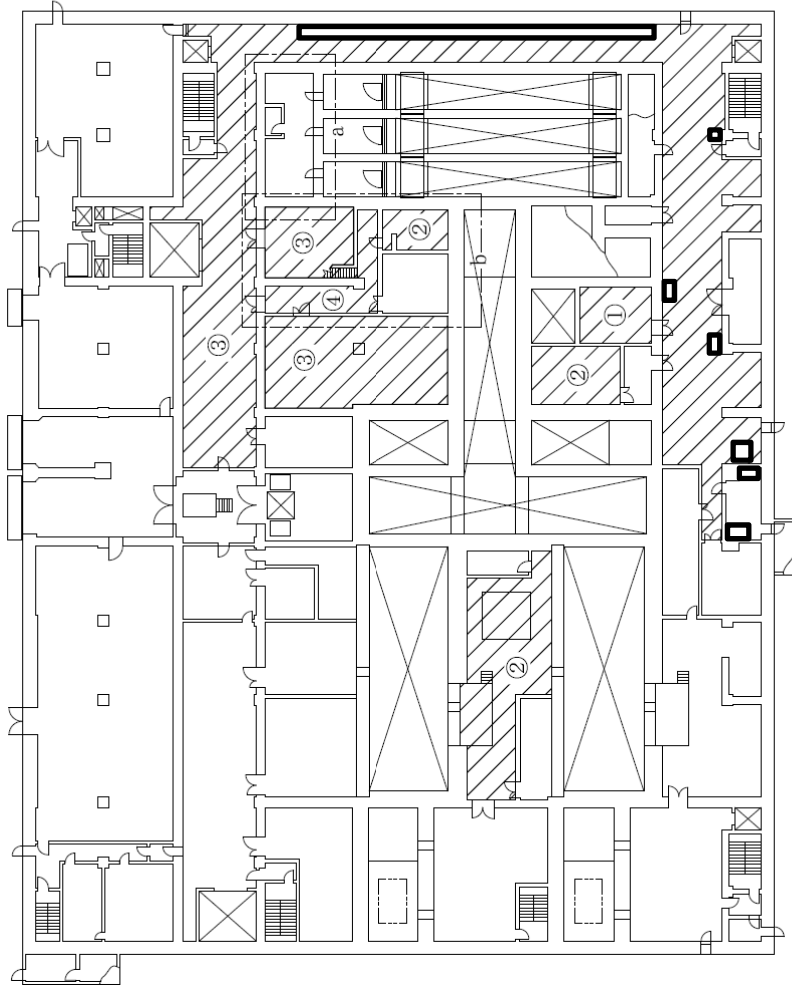
化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地下1階）



 : 可搬型重大事故等対応設備保管場所  
 : 常時化学薬品を内包する機器  
 及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類	番号	化学薬品の種類
①	硝酸	①	硝酸
②	硝酸	②	硝酸/トリニウム
③	硝酸/トリニウム	③	水酸化ナトリウム
④	硝酸	④	水酸化ナトリウム

アクセスマップ上にある化学薬品運搬用扉は、基準地  
 震動による地震力に対して耐震性を確保する。



T.M.S.L.約+58,000

T.M.S.L.約+55,500

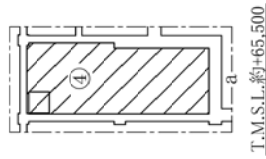
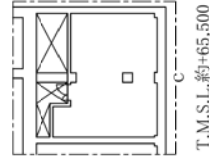
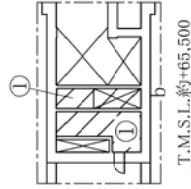
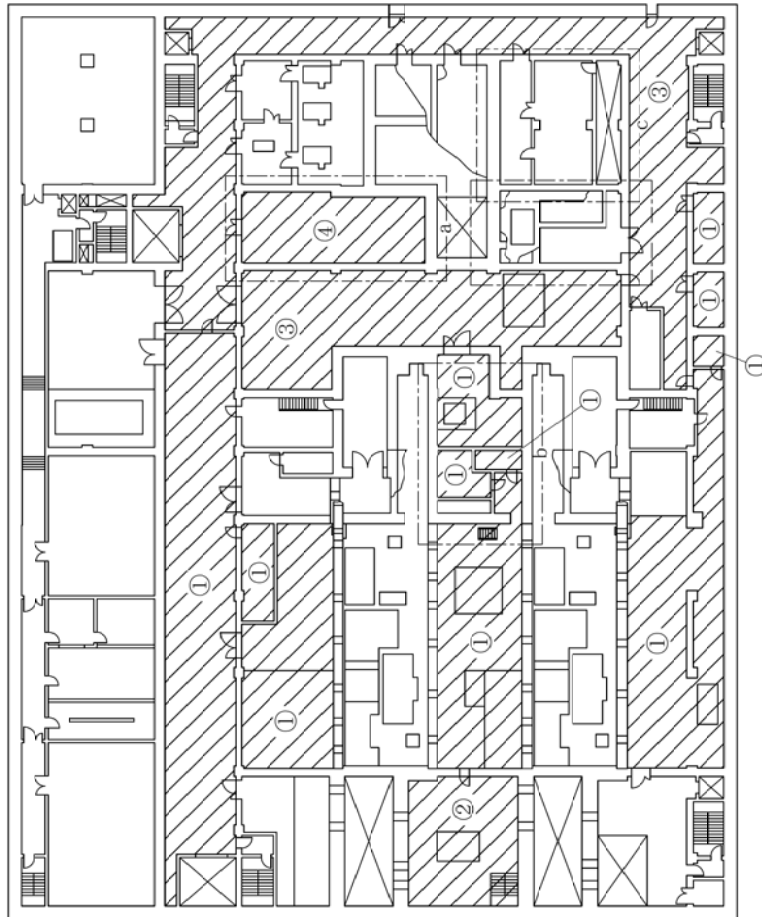
化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地上1階）



 : 可搬型重大事故等対応設備保管場所  
 : 常時化学薬品を内包する機器  
 : 及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸
②	硝酸ガドリニウム
③	硝酸 水酸化ナトリウム
④	硝酸ガドリニウム 水酸化ナトリウム

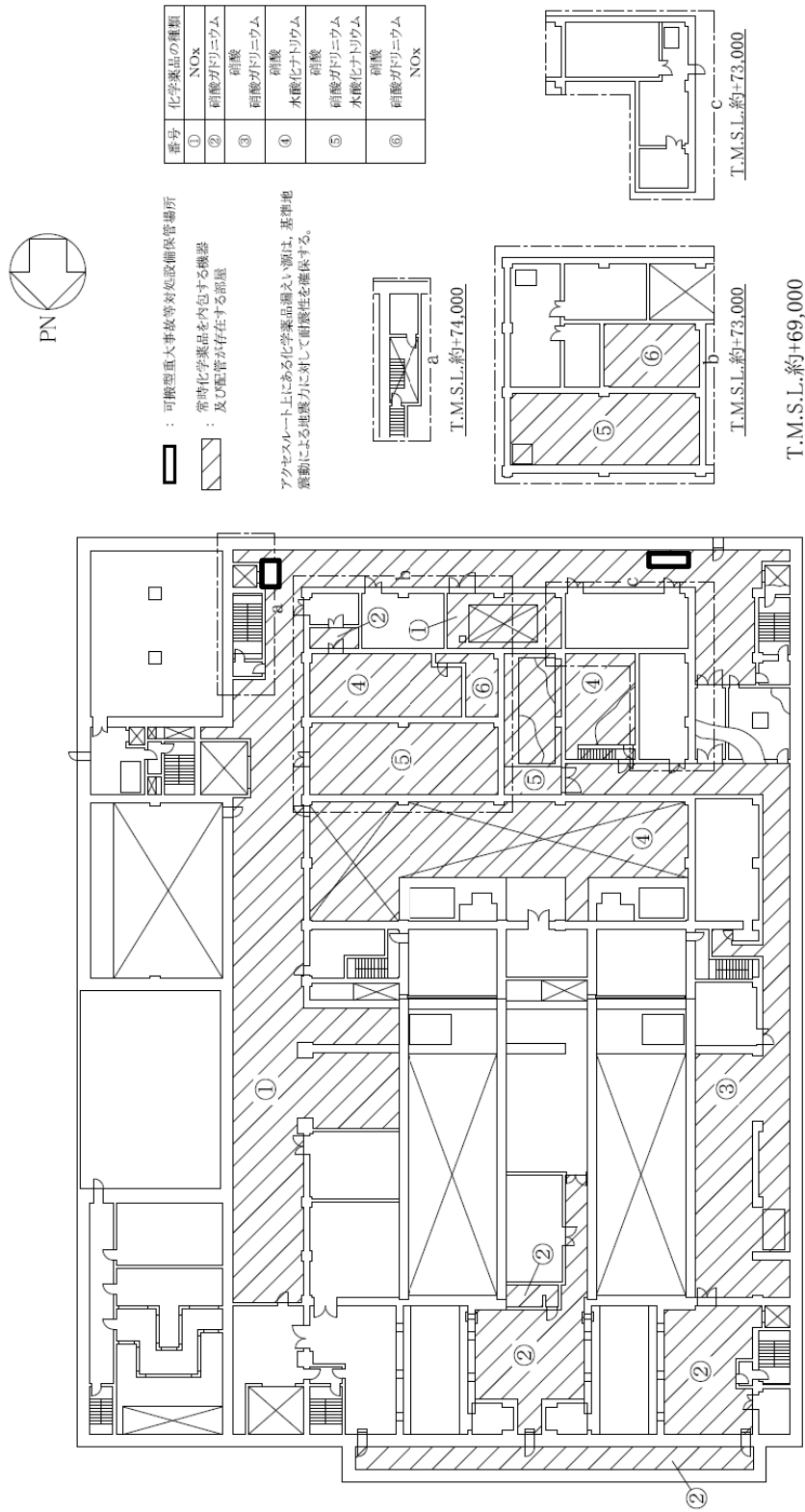
アクチオスレート上にある化学薬品  
 漏えい源は、基準地震動による  
 地震力に対して耐震性を確保する。



T.M.S.L.約+62,000



化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地上2階）

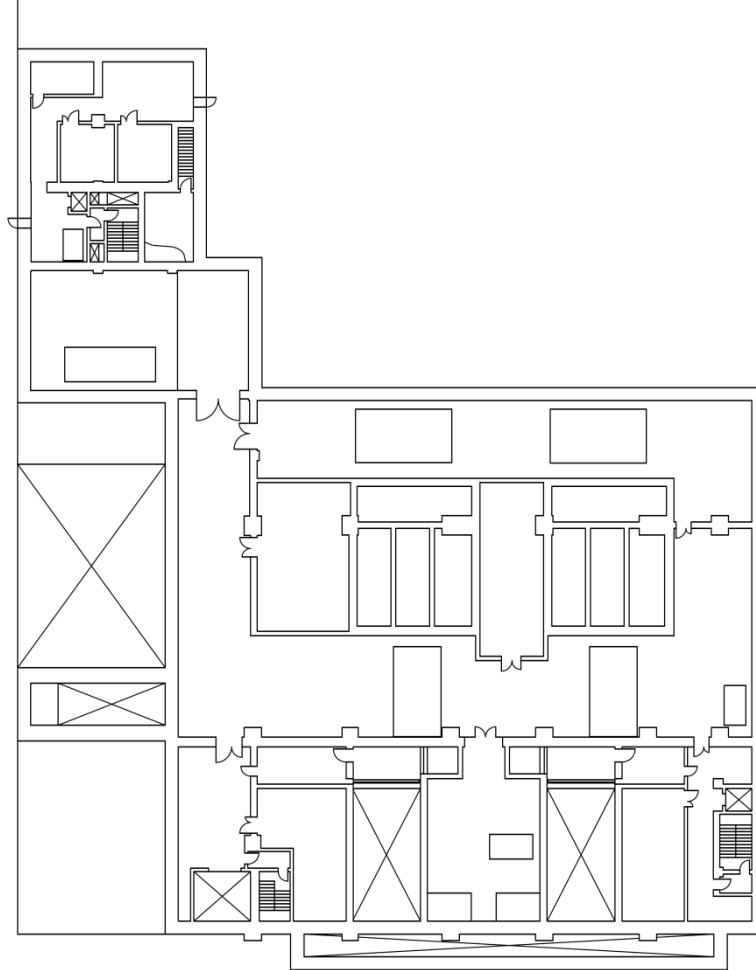
化学薬品ハザードマップ 前処理建屋 (地上3階)





本フロアに化学薬品ハザードはない。

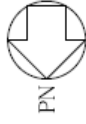
-  : 可搬型重大事故等対処設備稼働場所
-  : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋



アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地  
震動による地震力に対して耐震性を確保する。

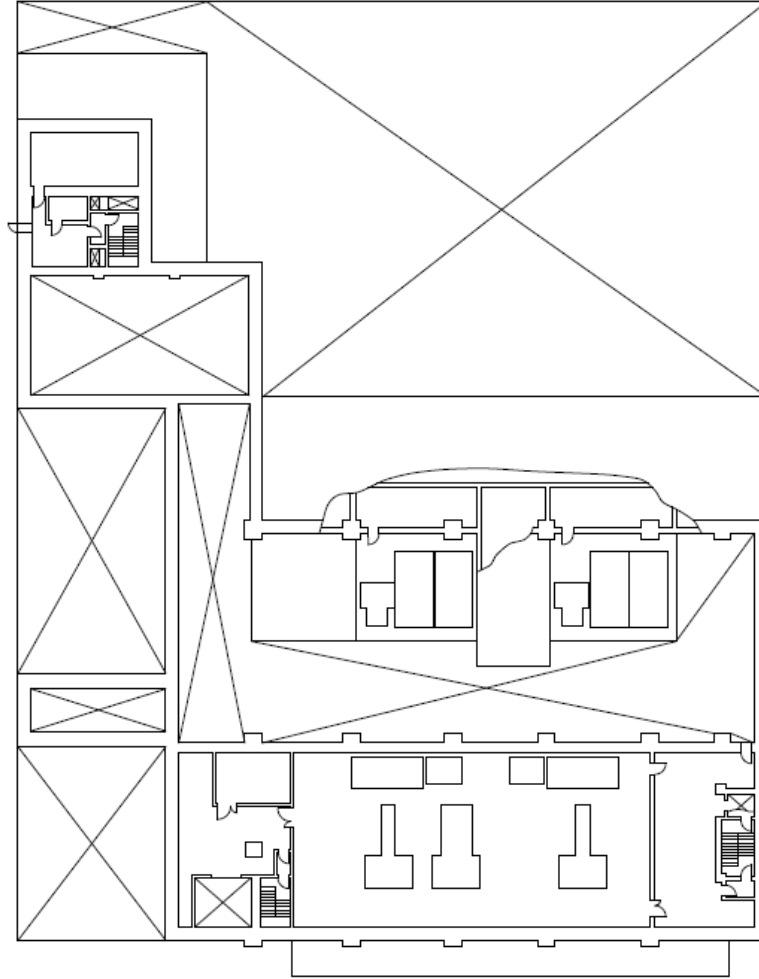
T.M.S.L.約+74,000

### 化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地上4階）



本フロアに化学薬品ハザードはない。

- : 可搬型重大事故等対応設備保管場所
- ▨ : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋



アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地  
震動による地震力に対して耐震性を確保する。

T.M.S.L.約+80,000

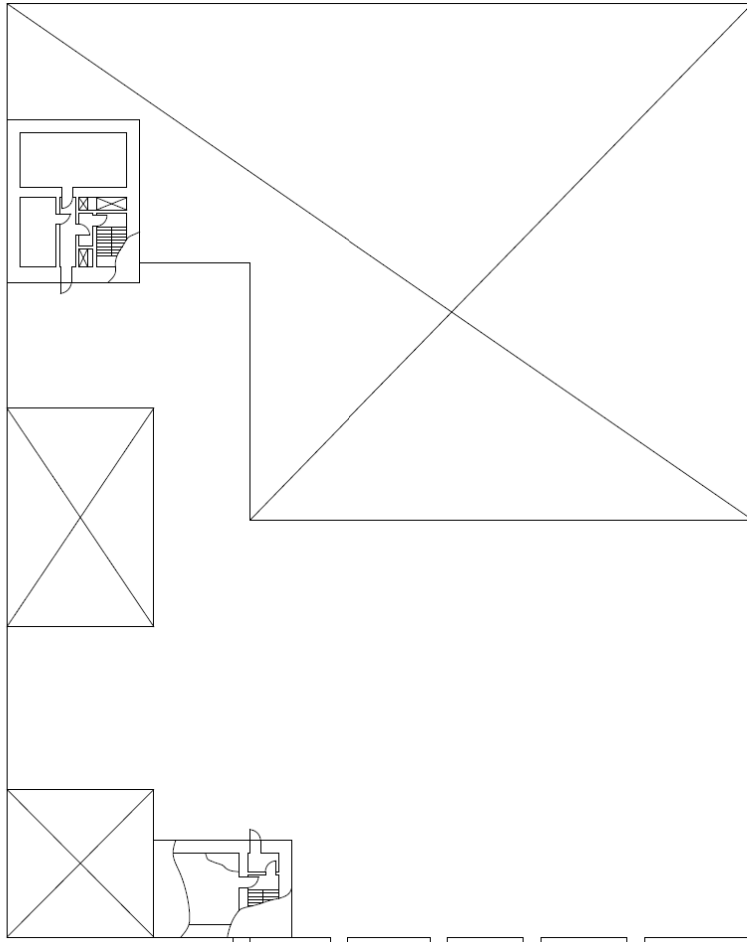
### 化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地上5階）





本フロアに化学薬品ハザードはない。

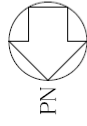
- ◻ : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
- ◻ : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋



アクセスルート上にある化学薬品類をい測は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。

T.M.S.L.約+89,000

### 化学薬品ハザードマップ 前処理建屋（地上6階）



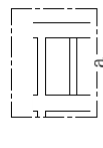
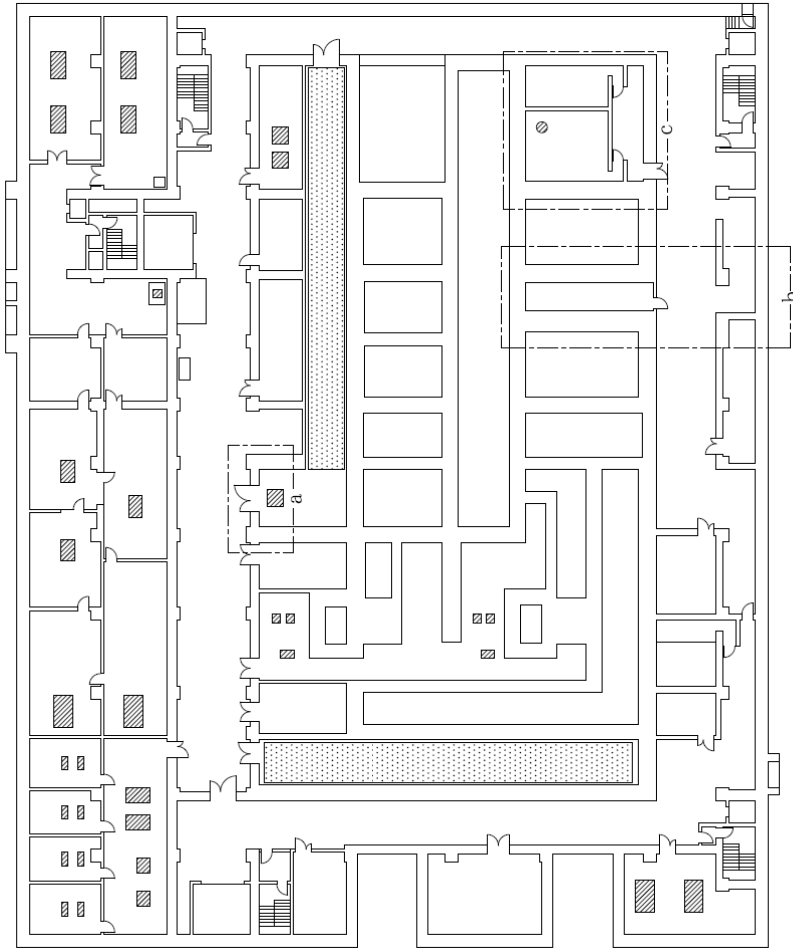
：可搬型重大事故等対応設備保管場所



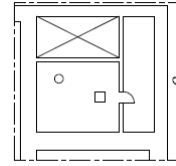
：火表源(可動域)



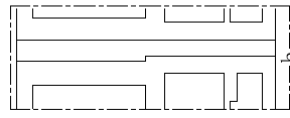
：火炎源



T.M.S.L.約+40,000



T.M.S.L.約+41,500






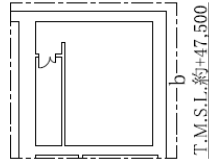
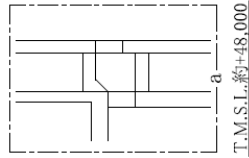
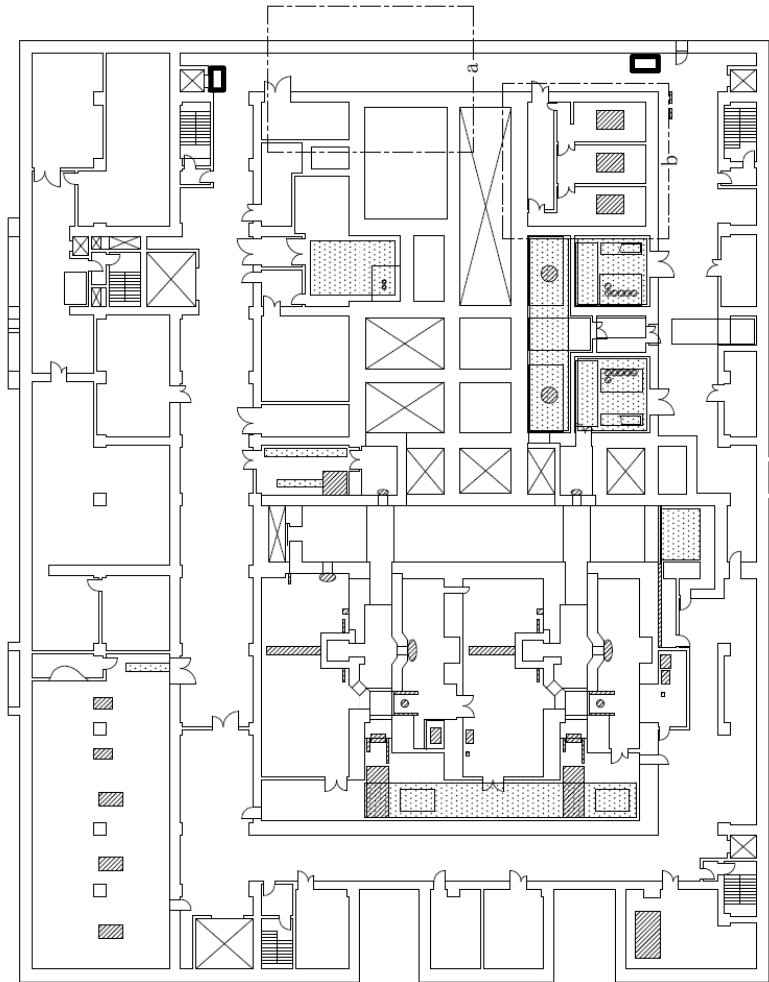
T.M.S.L.約+41,000

T.M.S.L.約+37,000

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地下4階)




-  : 可搬型重大事故等対応設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源

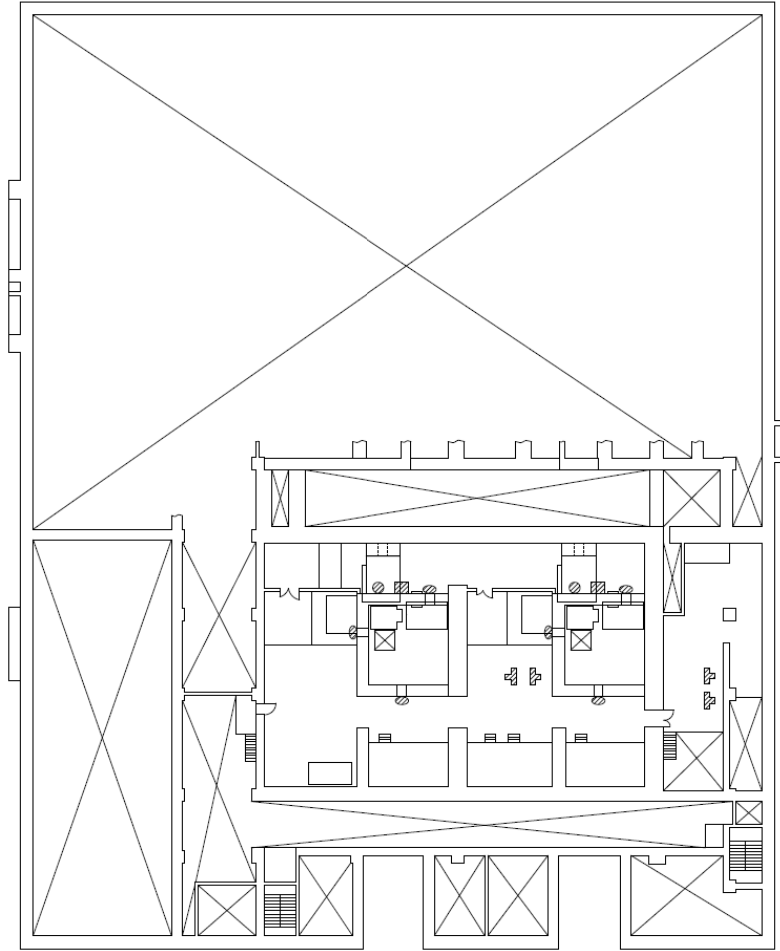


T.M.S.L.約+44,000

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地下3階)



-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源



T.M.S.L.約+46,500

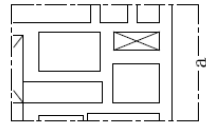
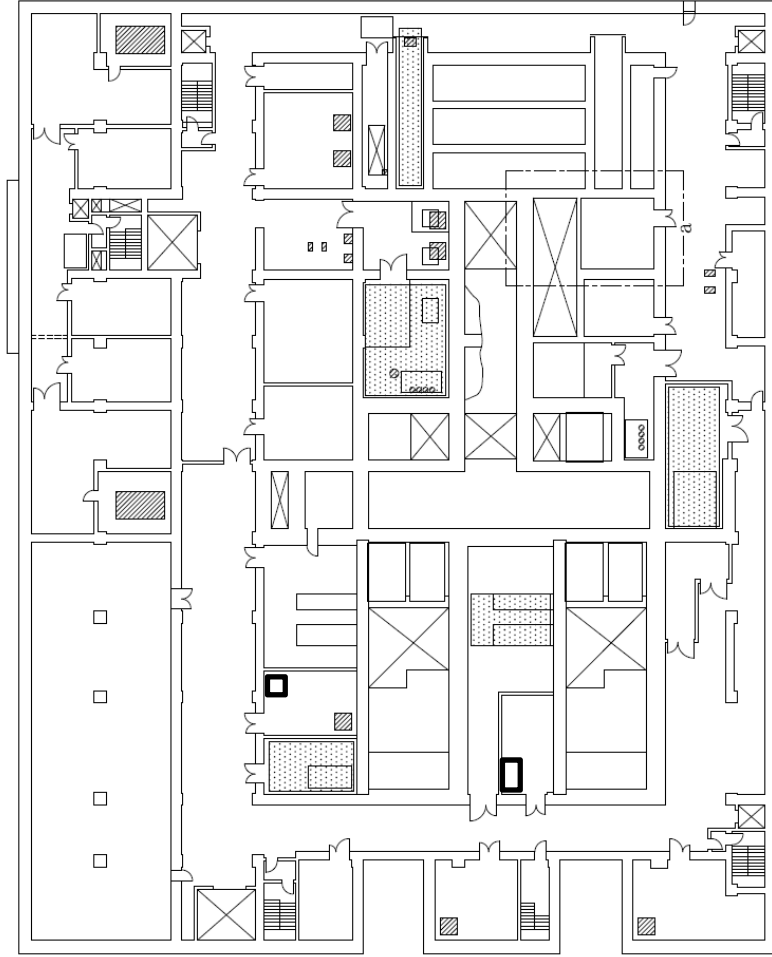
機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地下2階)



□ : 可搬型重大事故等対処設備保管場所

▨ : 火災源(可動域)

▩ : 火災源






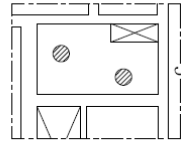
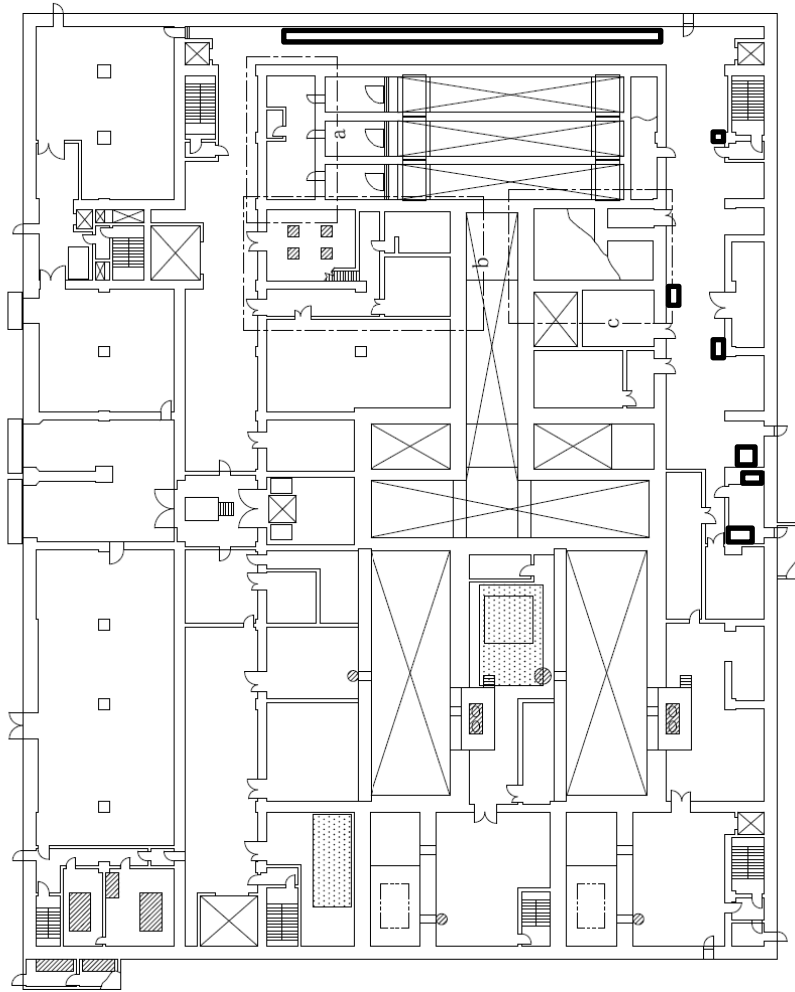
T.M.S.L.約+51,000

T.M.S.L.約+51,000

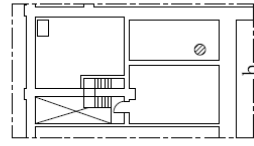
機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地下1階)



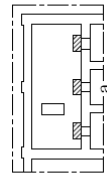
-  : 可搬型重大事故等対応設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源



T.M.S.L.約+59,500



T.M.S.L.約+58,500






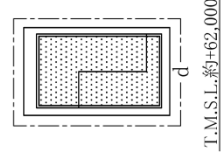
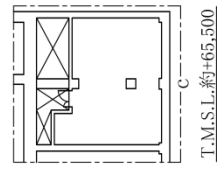
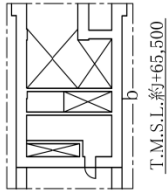
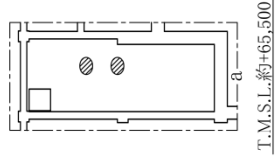
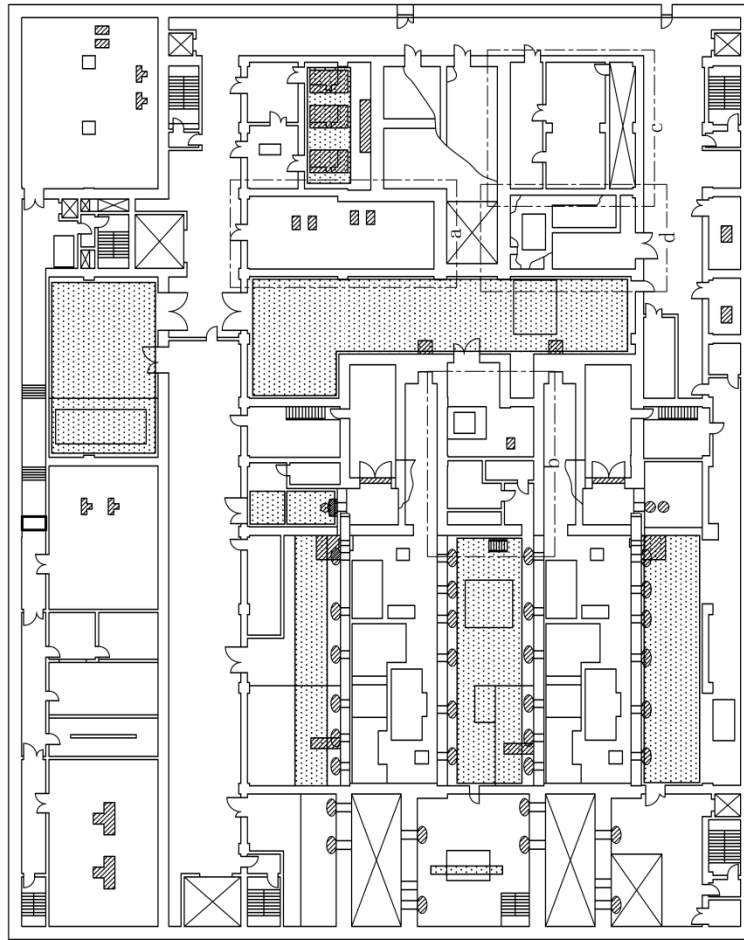
T.M.S.L.約+58,000

T.M.S.L.約+55,500

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上1階)

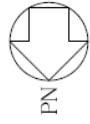


-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源



T.M.S.L.約+62,000

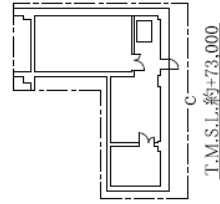
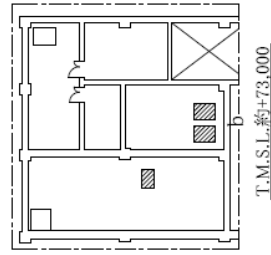
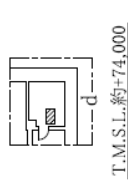
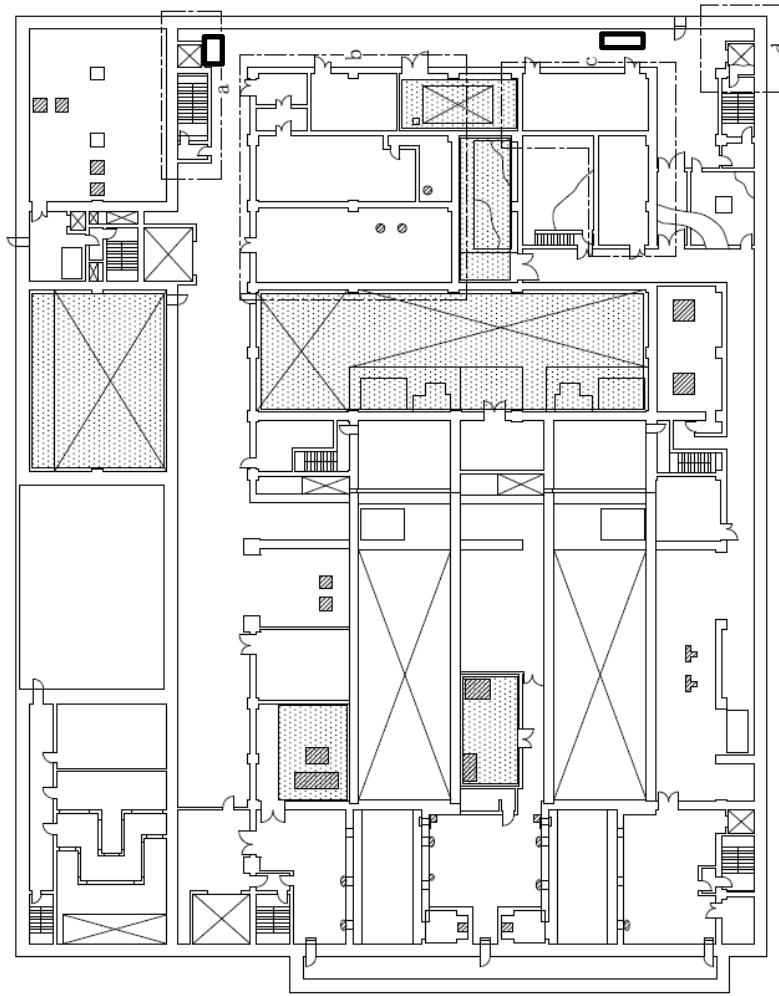
機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上2階)



□ : 可搬型重大事故等対応設備保管場所

▨ : 火災源(可動域)

▩ : 火災源






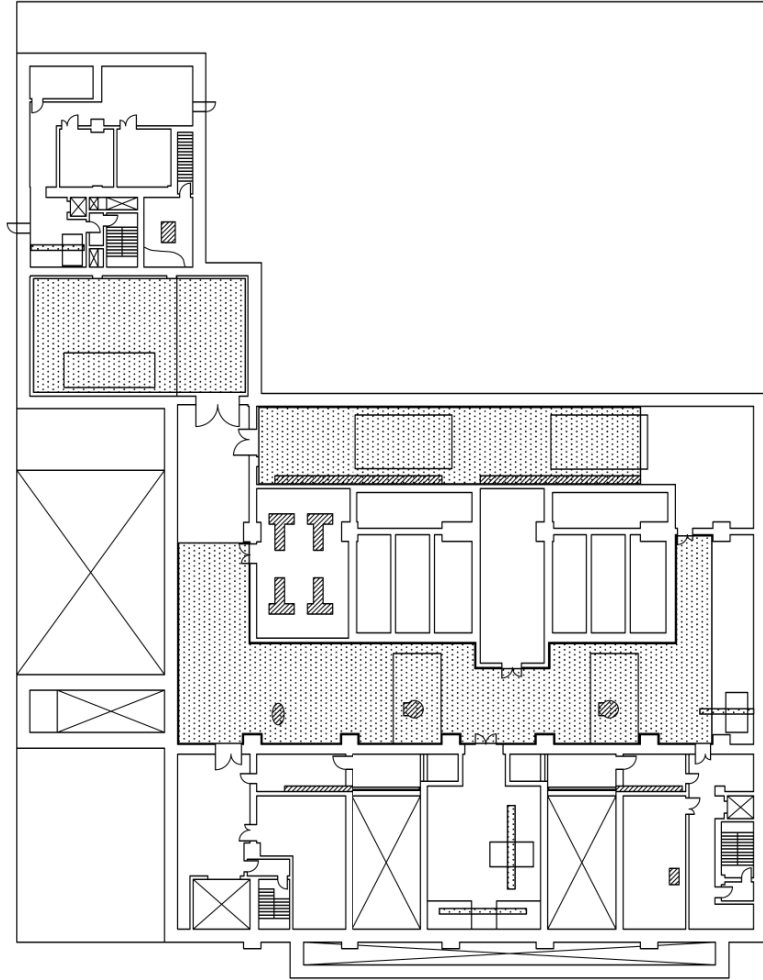
T.M.S.L.約+69,000

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上3階)





-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源

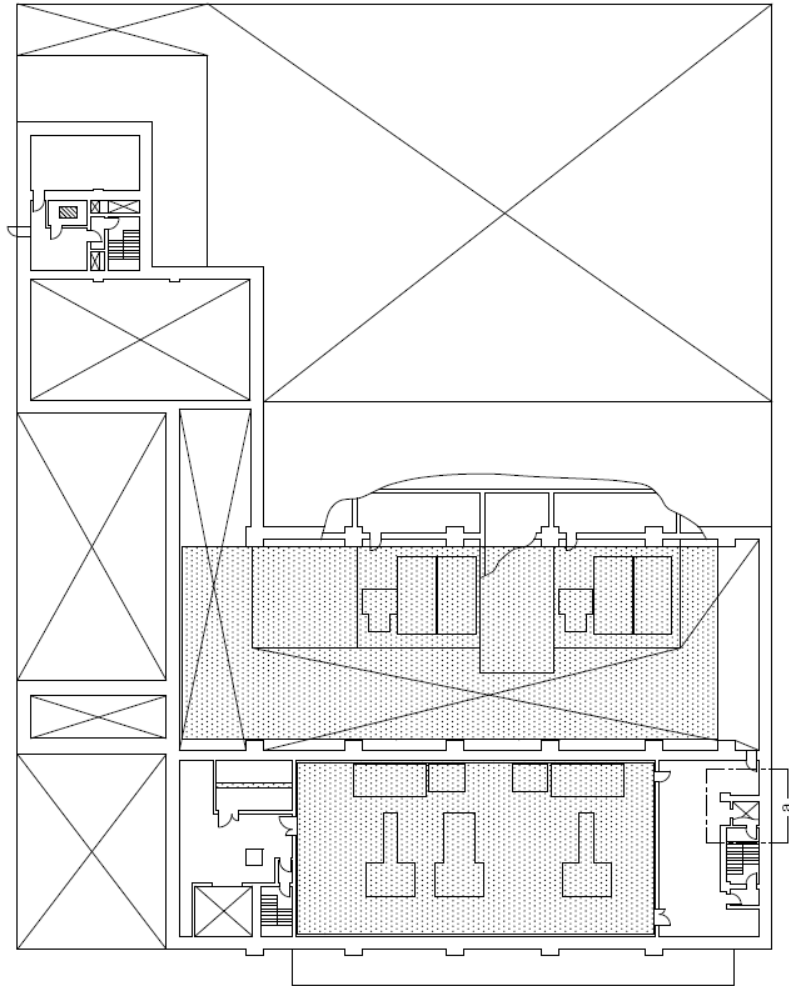


T.M.S.I..約+74,000

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上4階)



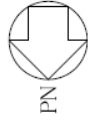
-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源



T.M.S.L.約185,000

T.M.S.L.約+80,000

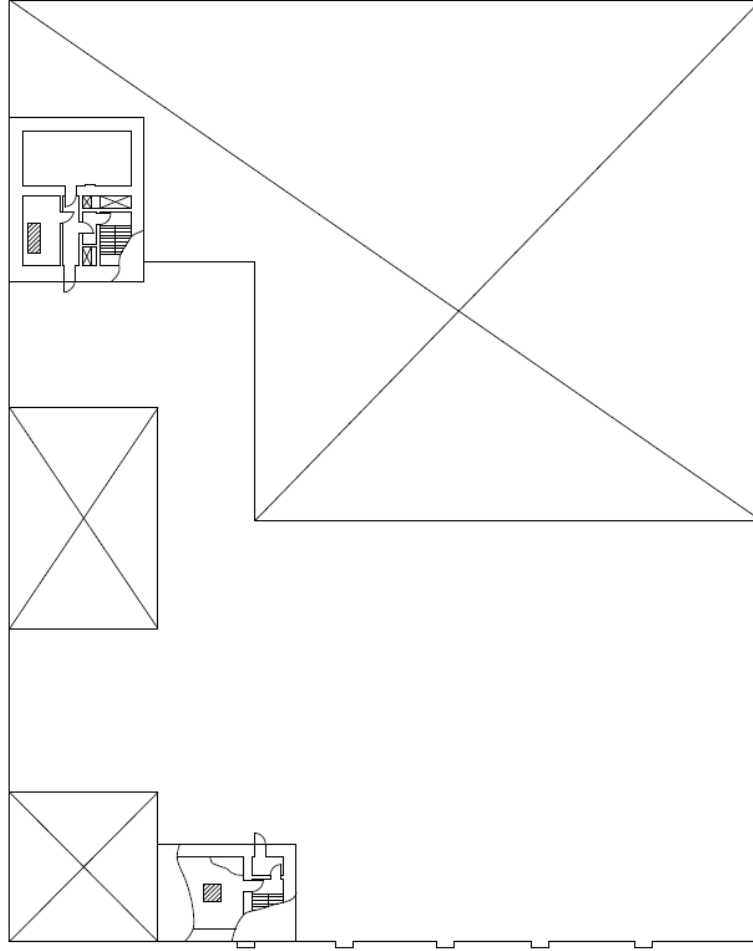
機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上5階)



□ : 可搬型重大事故等対応設備保管場所

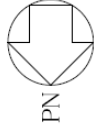
▨ : 火災源(可動域)

▩ : 火災源



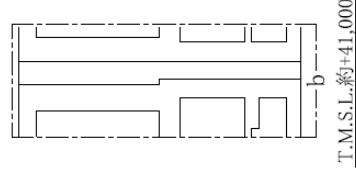
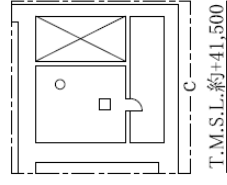
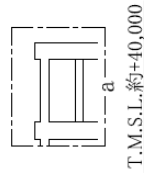
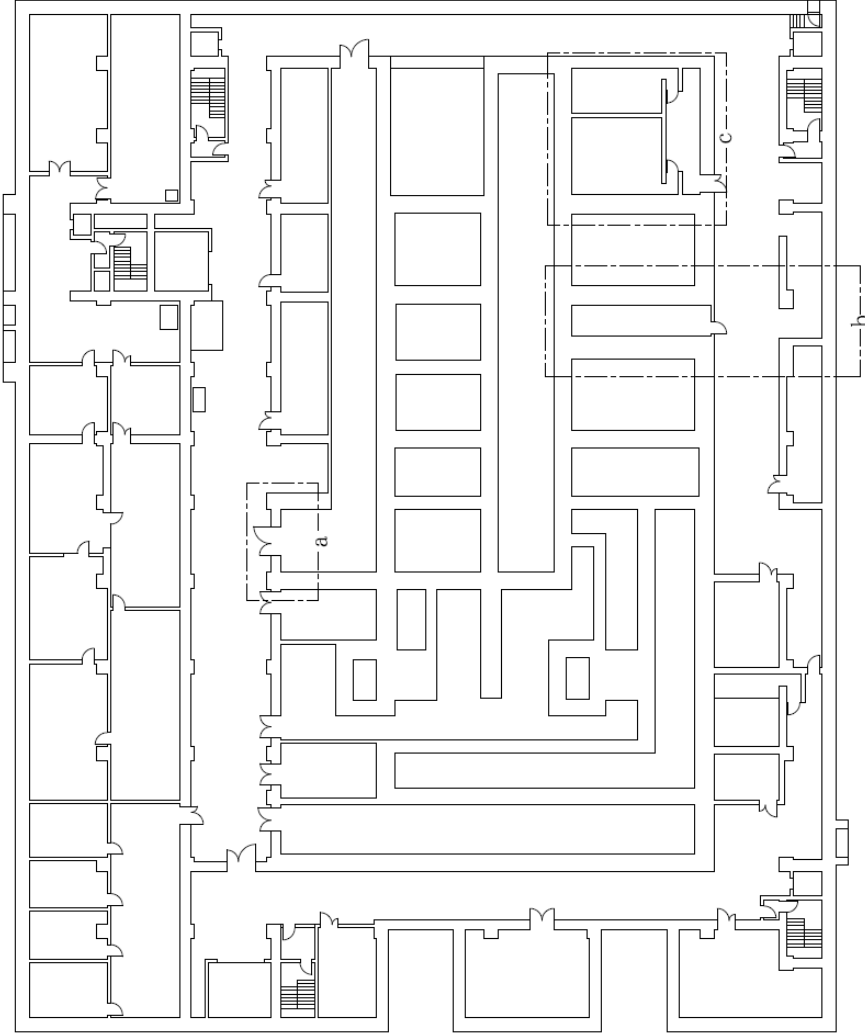
T.M.S.L.約+89,000

機器による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上6階)



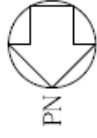
本フロアに火災ハザードはない。

 : 可燃性物質が存在する部屋



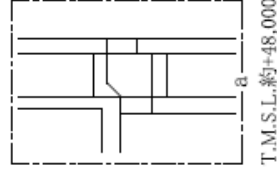
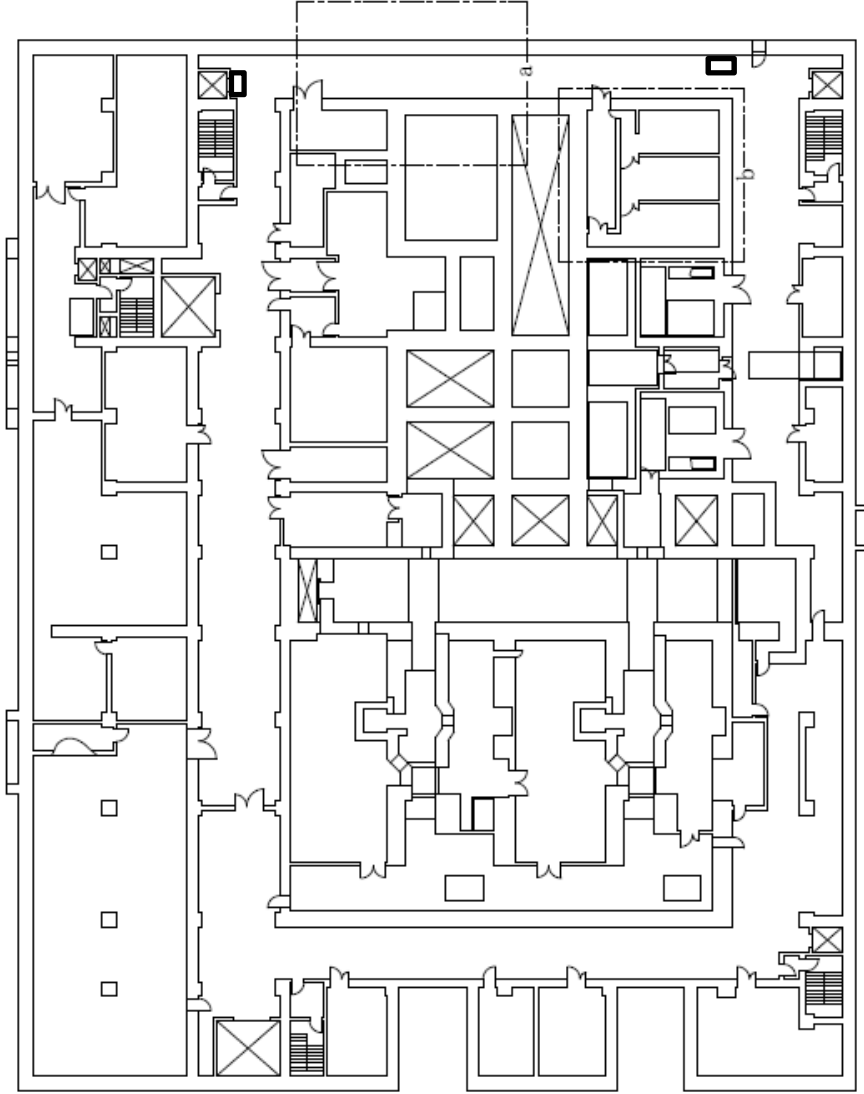
T.M.S.L.約+37,000

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地下4階)

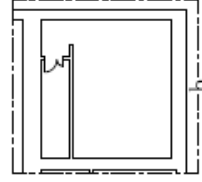


本フロアに火災ハザードはない。

-  : 可燃性物質が存在する部屋
-  : 可燃性重大事故等対策設備保管場所



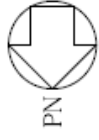
T.M.S.L.約+48,000



T.M.S.L.約+47,500

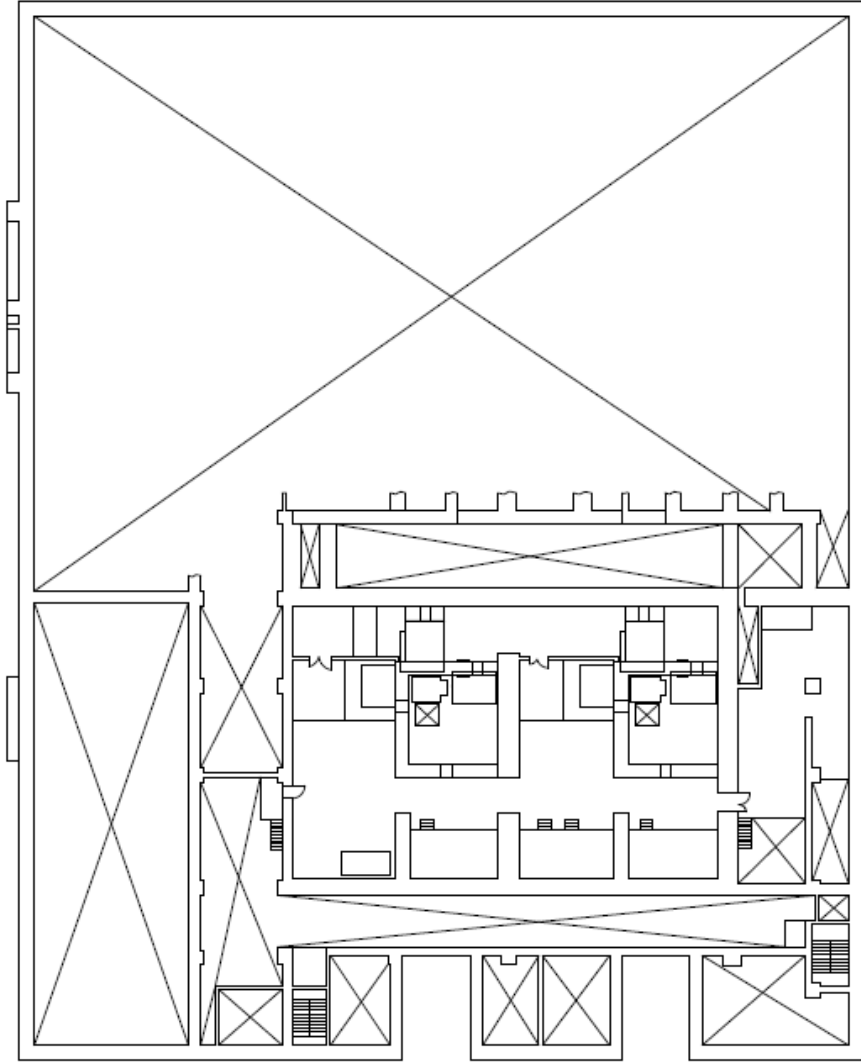
T.M.S.L.約+44,000

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地下3階）



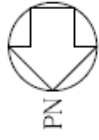
本フロアに火災ハザードはない。

▨ : 可燃性物質が存在する部屋



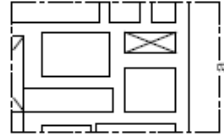
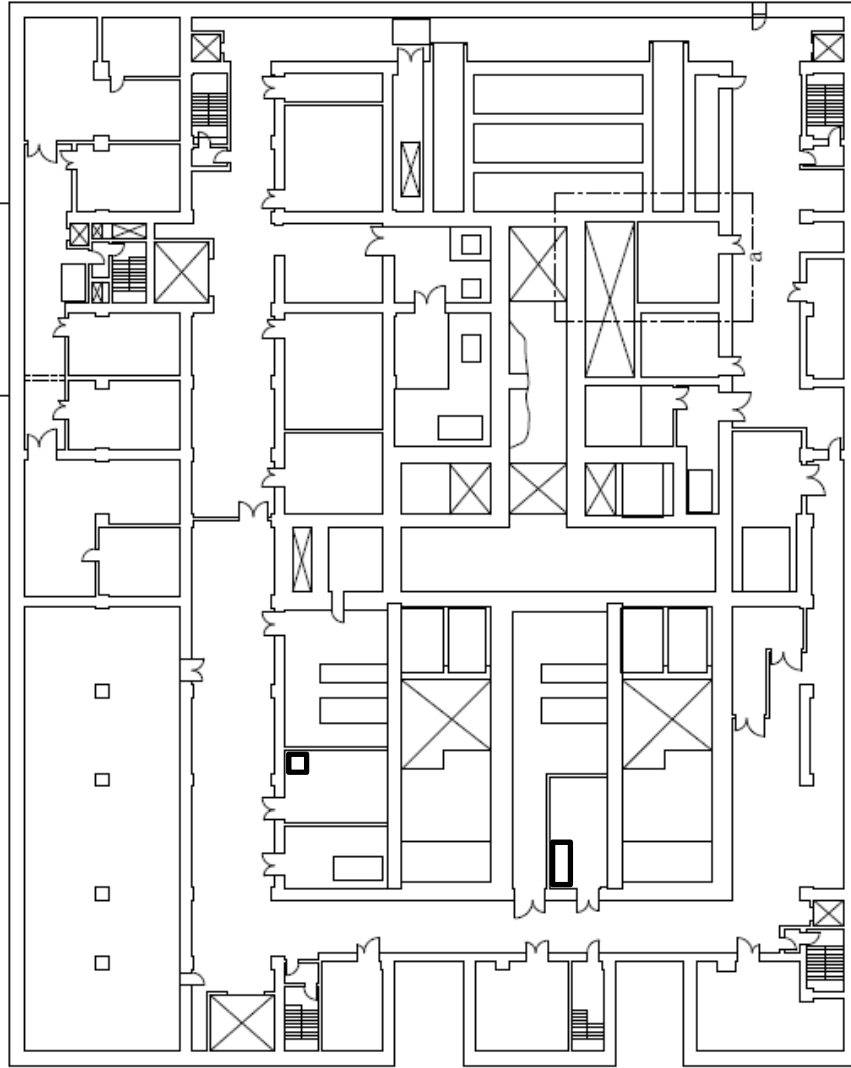
T.M.S.L.約+46,500

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地下2階）



本フロアに火災ハザードはない。

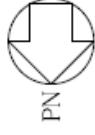
-  : 可燃性物質が存在する部屋
-  : 可燃性重大事故等対策設備保管場所





T.M.S.L.約+54,000

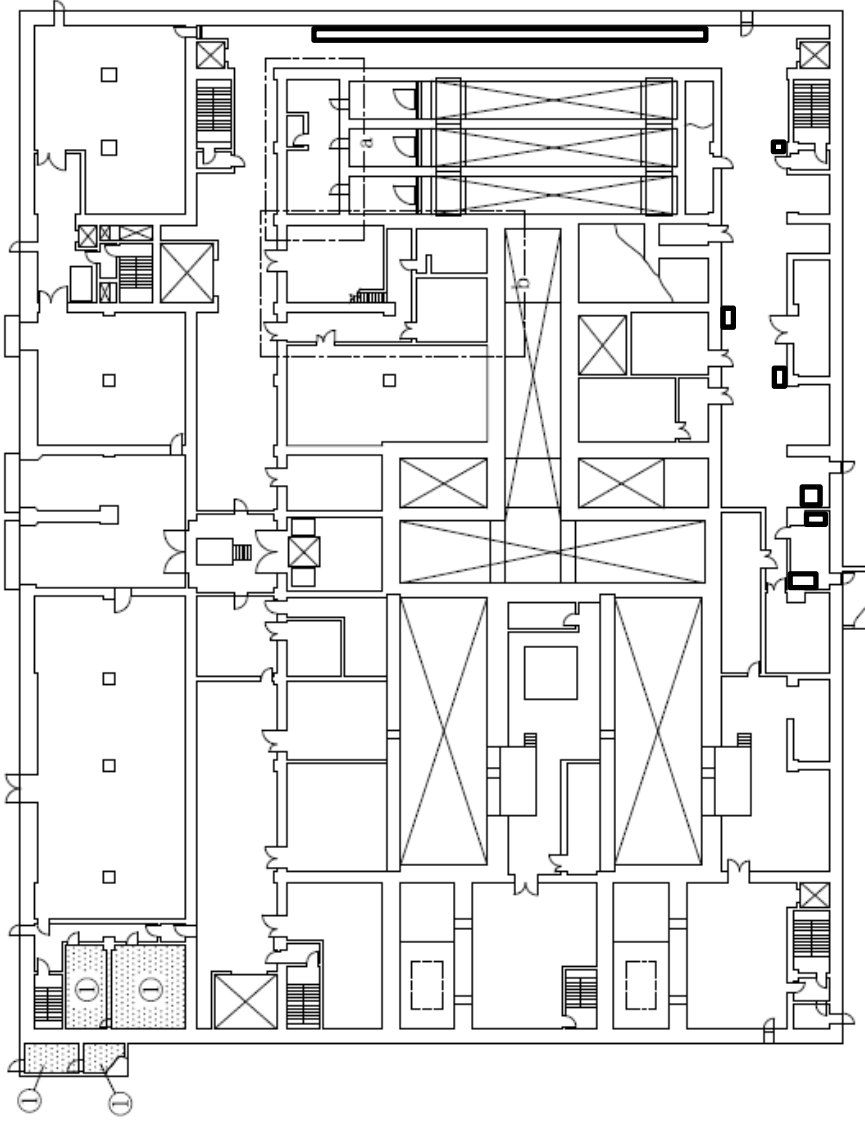
T.M.S.L.約+51,000

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地下1階）

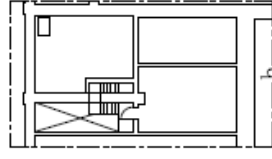


-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 可燃性物質が存在する部屋

番号	可燃性物質の種類
①	プロパン



T.M.S.L.約+58,000

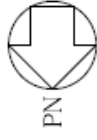


T.M.S.L.約+58,500

T.M.S.L.約+55,500

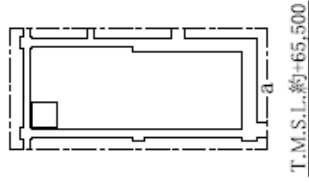
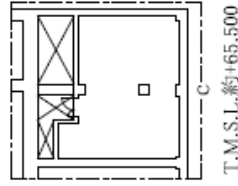
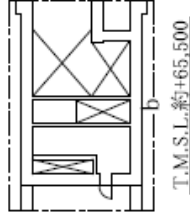
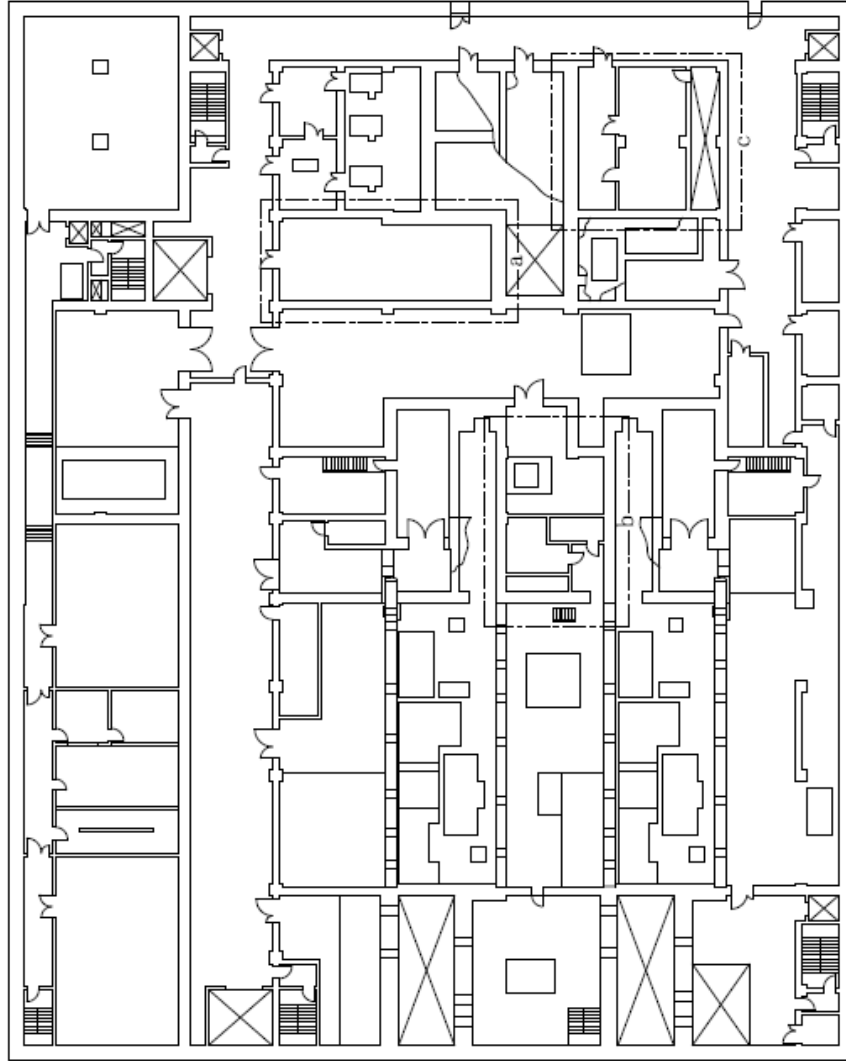
可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地上1階）





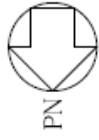
本フロアに火災ハザードはない。

-  : 可燃性物質が存在する部屋
-  : 可燃性重大事故等対処設備保管場所



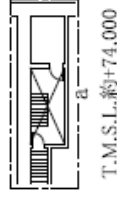
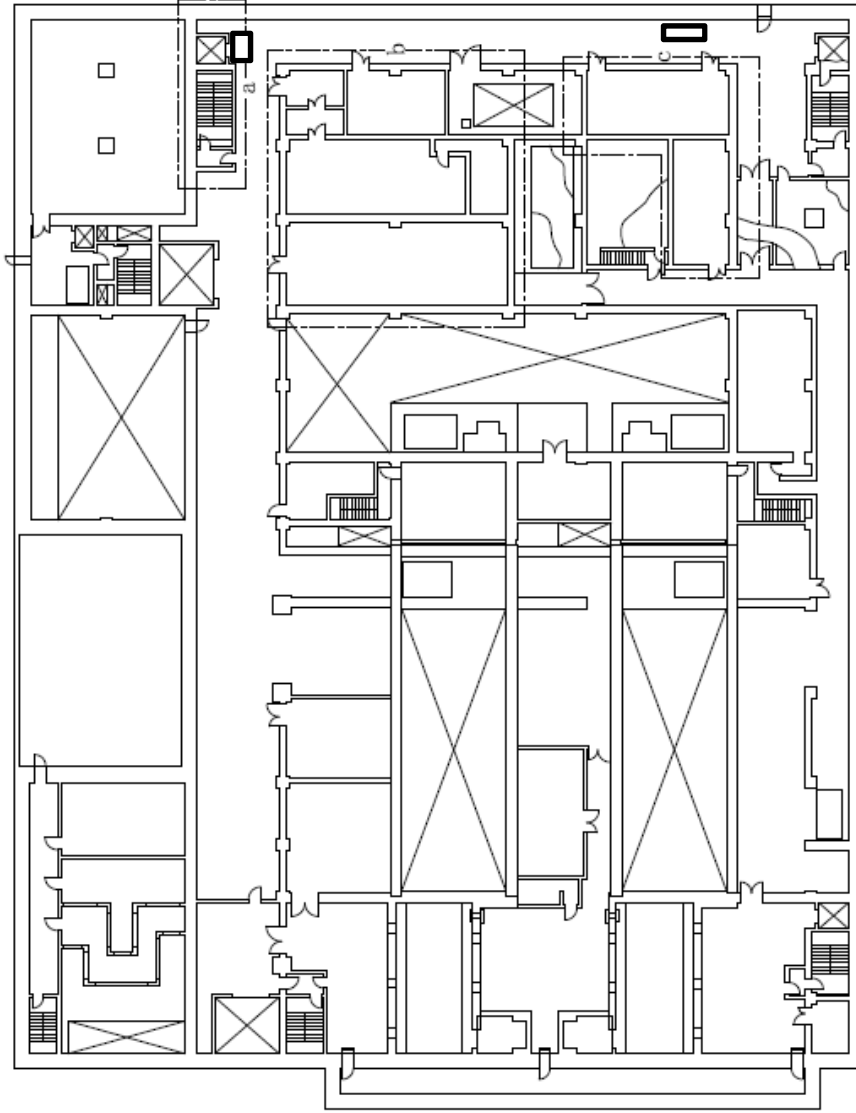
T.M.S.L.約+62,000

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上2階)

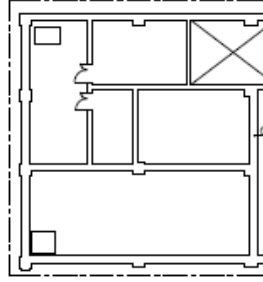


本フロアに火災ハザードはない。

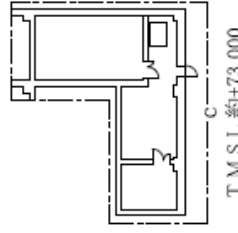
-  : 可燃性物質が存在する部屋
-  : 可燃型重大事故等対策設備保管場所



T.M.S.L.約+74,000



T.M.S.L.約+73,000



T.M.S.L.約+73,000

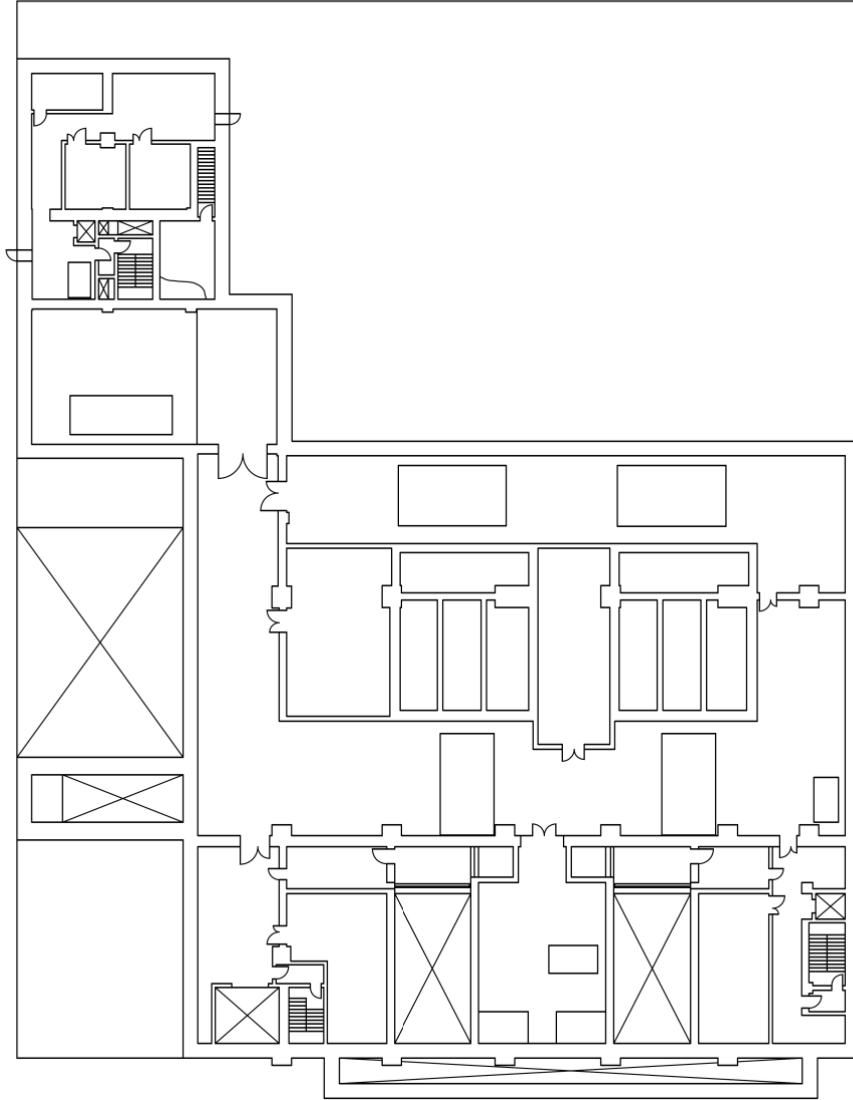
T.M.S.L.約+69,000

可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋 (地上3階)



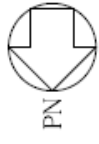
本フロアに火災ハザードはない。

 : 可燃性物質が存在する部屋



T.M.S.L.約+74,000

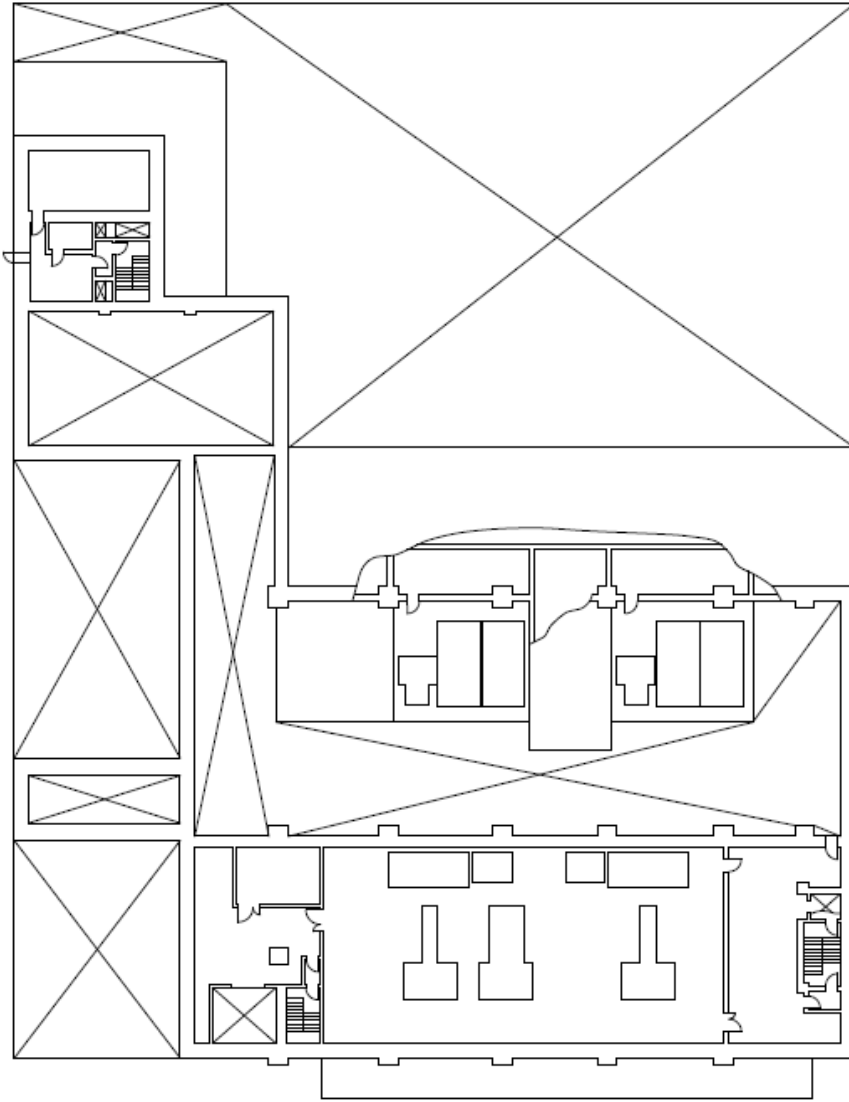
可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地上4階）



PN

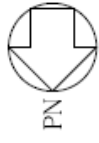
本フロアに火災ハザードはない。

 : 可燃性物質が存在する部屋



T.M.S.L.約+80,000

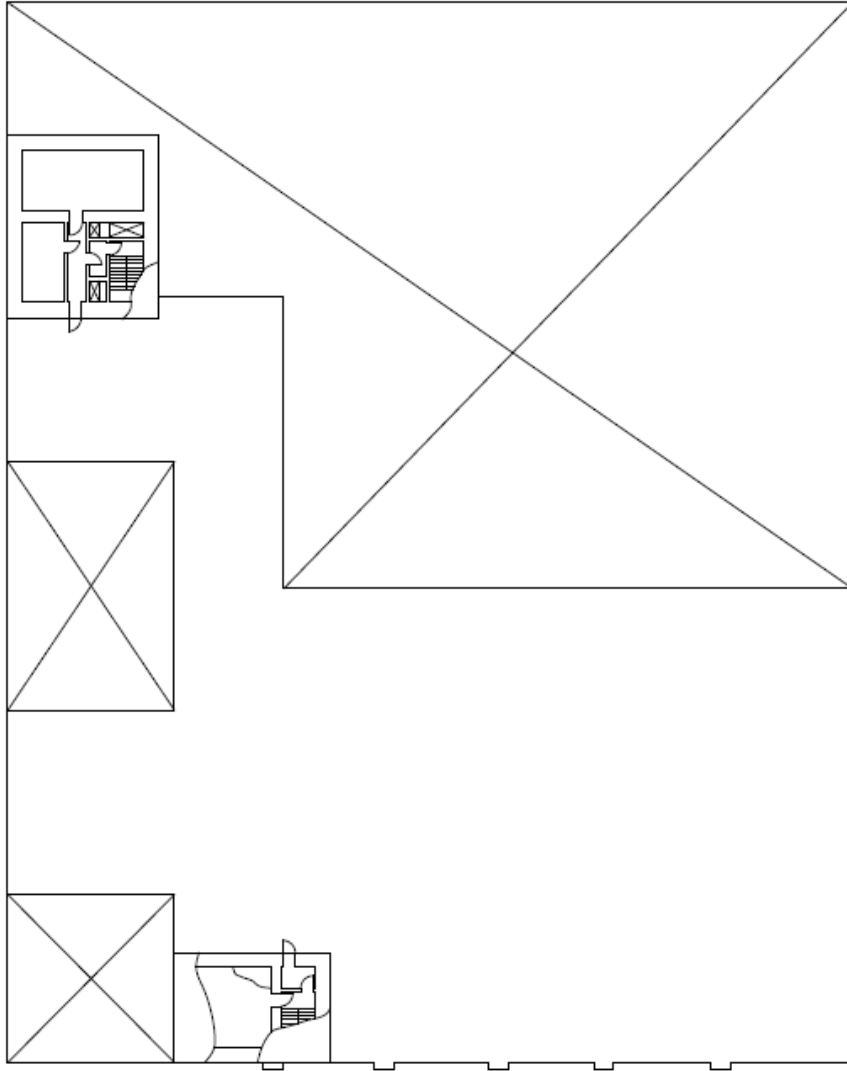
可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地上5階）



PN

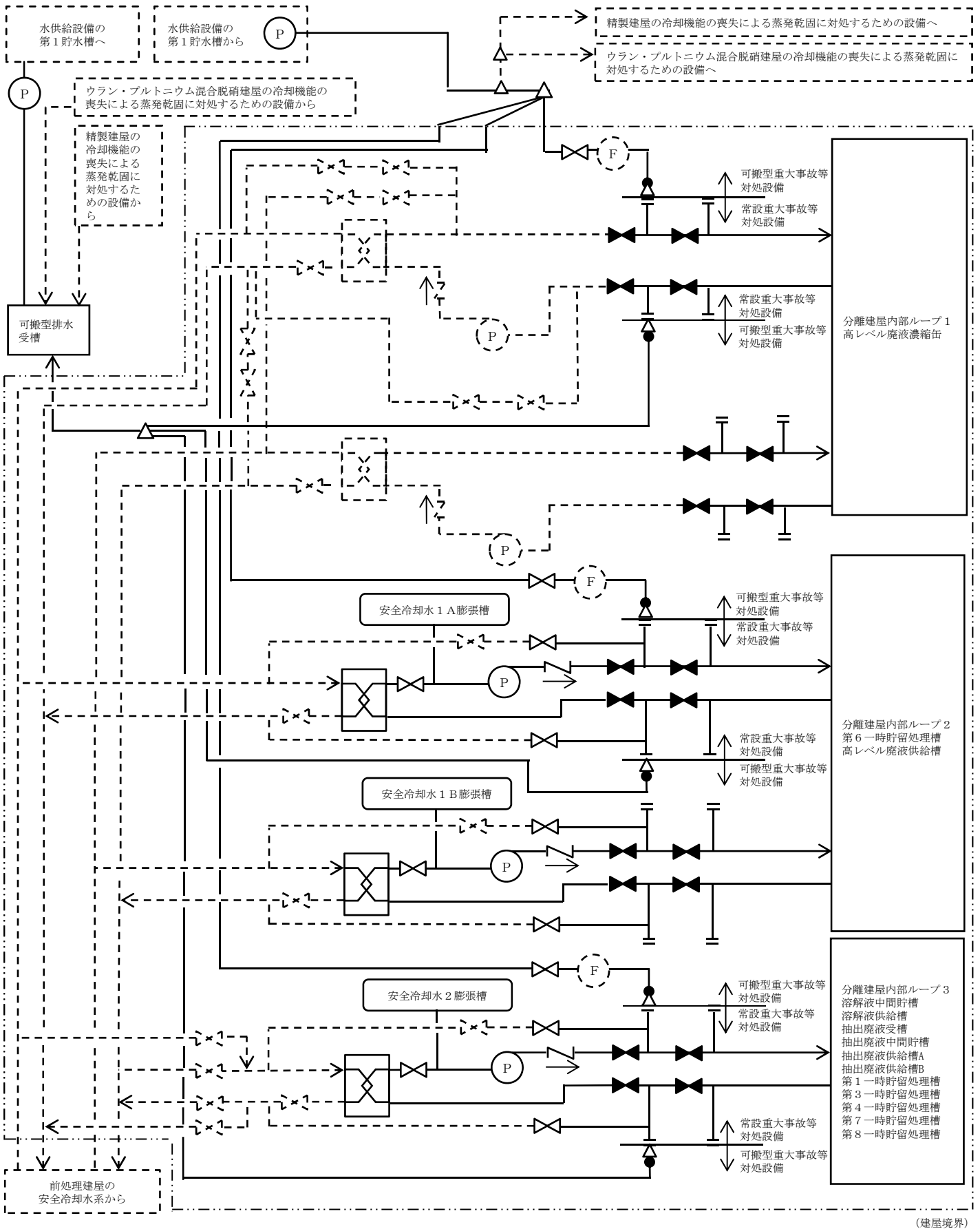
本フロアに火災ハザードはない。

 : 可燃性物質が存在する部屋



T.M.S.L.約+89,000

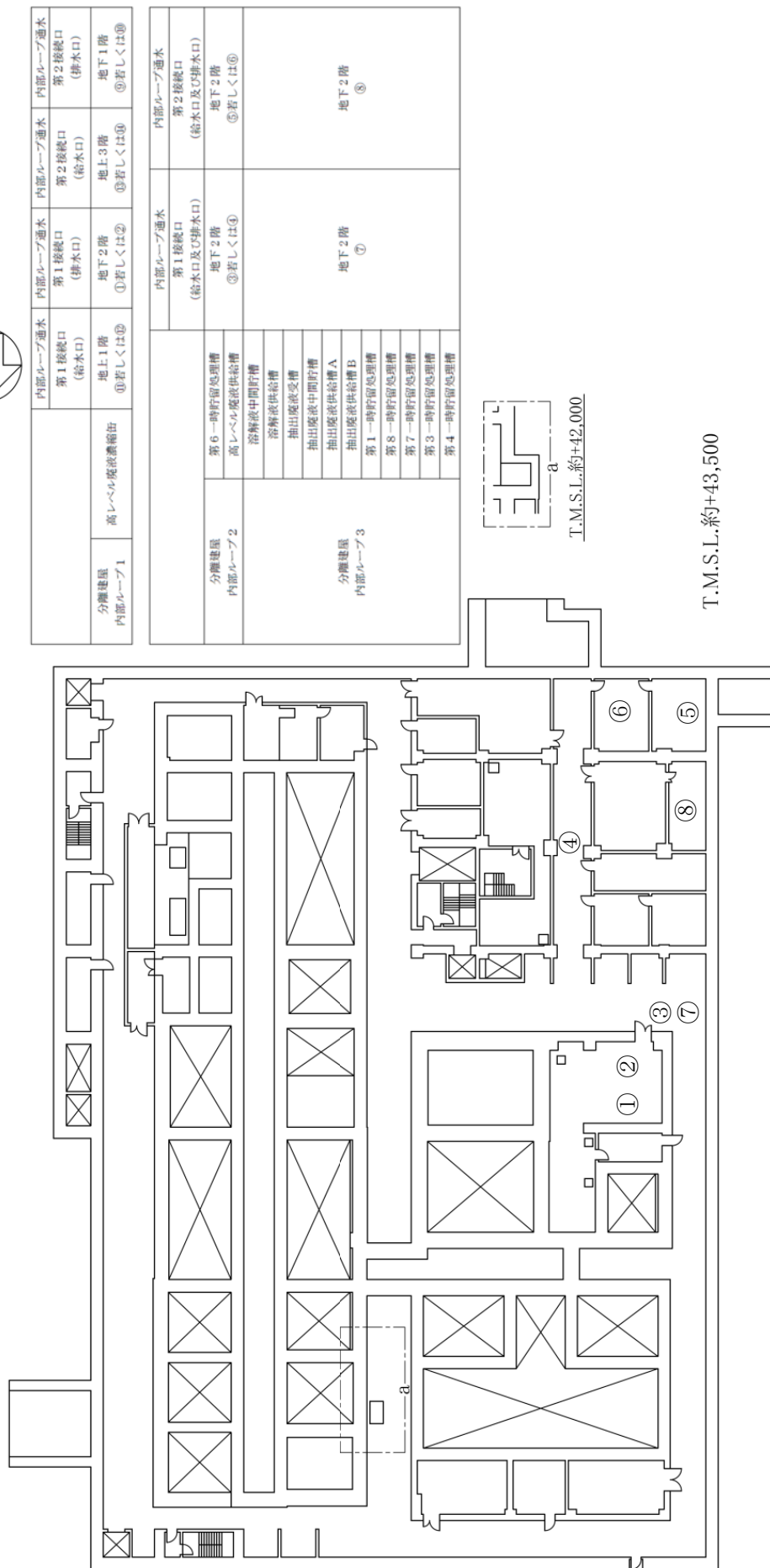
可燃性物質による火災ハザードマップ 前処理建屋（地上6階）



(建屋境界)

本図は、分離建屋内部ループ1の2系統のうち1系統、分離建屋内部ループ2の2系統のうち1系統及び分離建屋内部ループ3の第1接続口の接続例である。分離建屋内部ループ1の他の1系統、分離建屋内部ループ2の他の1系統及び分離建屋内部ループ3並びに第2接続口に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

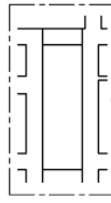
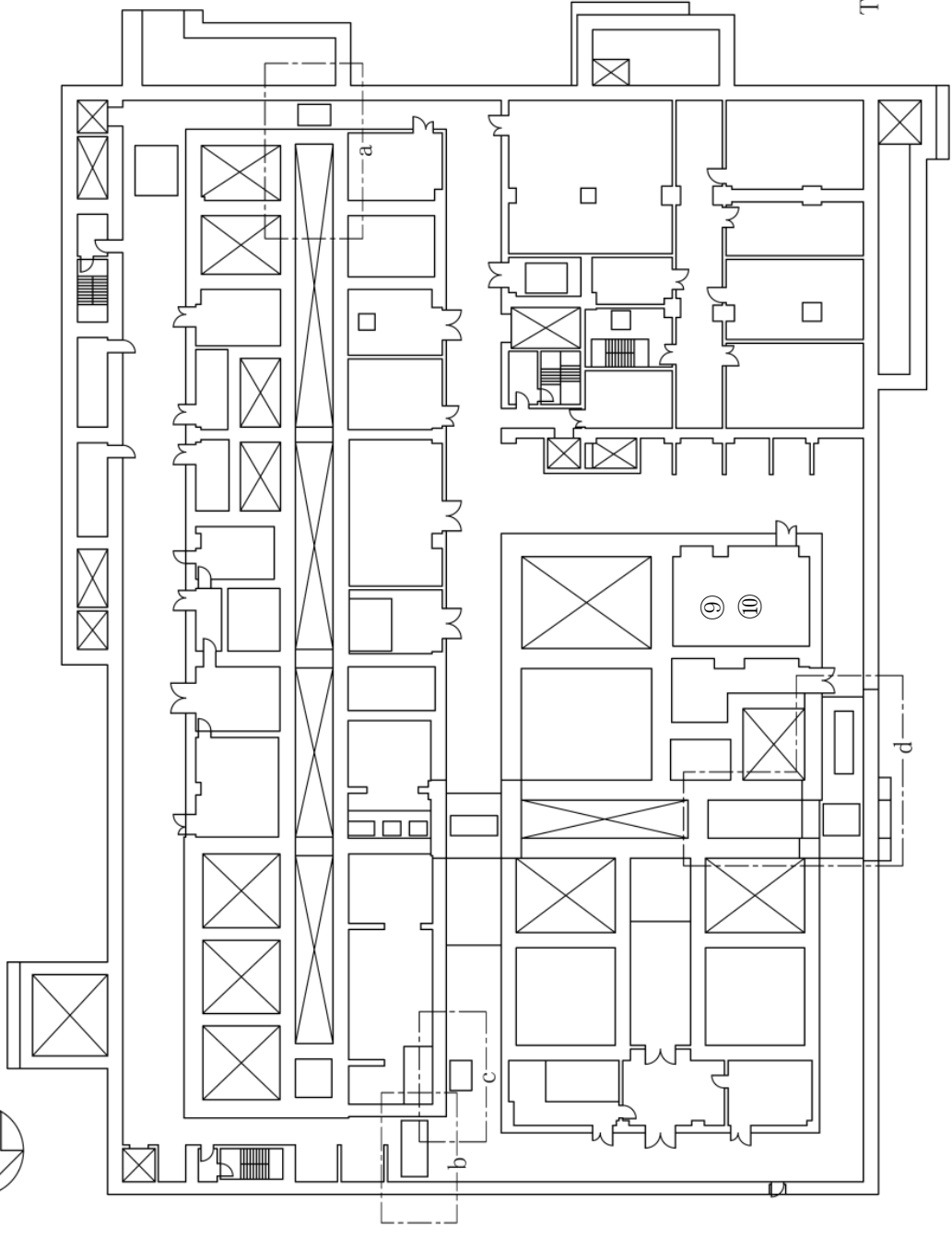
蒸発乾固の発生防止対策(内部ループ通水による冷却)の系統概要図 分離建屋



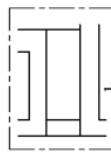
代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 分離建屋（地下2階）



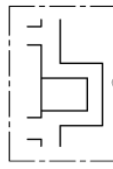
	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水
分離建屋 内部ループ1	第1接続口 (給水口)	第1接続口 (排水口)	第2接続口 (給水口)	第2接続口 (排水口)	第2接続口 (排水口)
	高レベル廃液集積缶 ①若しくは②	高レベル廃液集積缶 ③若しくは④	地上1階 ⑤若しくは⑥	地下2階 ⑦若しくは⑧	地下1階 ⑨若しくは⑩
分離建屋 内部ループ2	内部ループ通水		内部ループ通水		内部ループ通水
	第6—時貯留処理槽 高レベル廃液供給槽		第1接続口 (給水口及び排水口) 地下2階 ③若しくは④		第2接続口 (給水口及び排水口) 地下2階 ⑤若しくは⑥
分離建屋 内部ループ3	除染液中間貯槽		抽出廃液供給槽		地下2階 ⑦
	抽出廃液供給槽		抽出廃液供給槽		
	抽出廃液供給槽A		抽出廃液供給槽B		
	第1—時貯留処理槽		第7—時貯留処理槽		
	第2—時貯留処理槽		第3—時貯留処理槽		
	第4—時貯留処理槽				



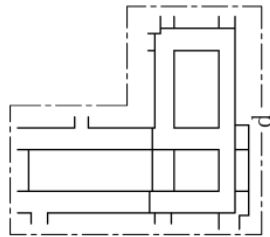
T.M.S.L.約+47,500



T.M.S.L.約+48,000



T.M.S.L.約+48,000



T.M.S.L.約+47,500

T.M.S.L.約+50,500

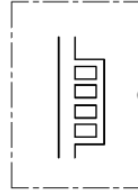
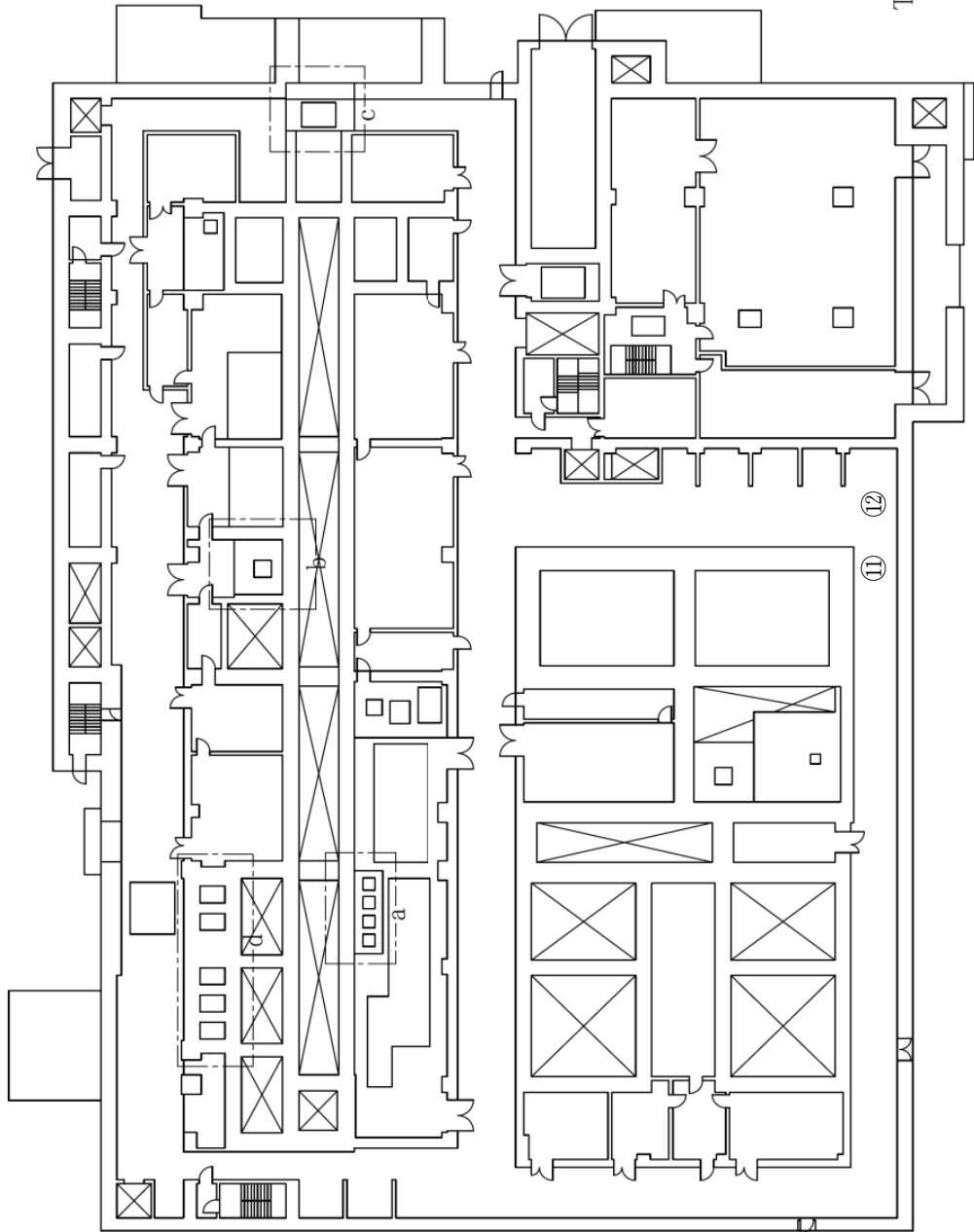
代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地下1階）



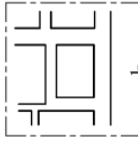


	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水
分離建屋 内部ループ1	第1接続口 (排水口)	第1接続口 (排水口)	第2接続口 (排水口)	第2接続口 (排水口)	第2接続口 (排水口)
	高レベル配水設備	地上1階 ①若しくは②	地下2階 ①若しくは②	地上3階 ①若しくは②	地下1階 ②若しくは③

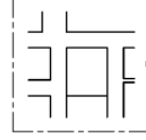
	内部ループ通水	内部ループ通水
分離建屋 内部ループ2	第1接続口 (給水口及び排水口)	第2接続口 (給水口)
	第6-1時野原処理槽 高レベル配水設備 防蟻集中貯留槽 常備配給槽	地下2階 ①若しくは④
分離建屋 内部ループ3	抽出廃液交換槽	地下2階 ⑦
	抽出廃液中間貯留槽	
	抽出廃液供給槽A	
	抽出廃液供給槽B	
	抽出廃液供給槽C	
	第1-1時野原処理槽	
	第7-1時野原処理槽	
	第3-1時野原処理槽	
第4-1時野原処理槽		



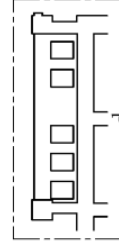
T.M.S.L.約+54,500



T.M.S.L.約+54,500



T.M.S.L.約+53,500



T.M.S.L.約+57,000

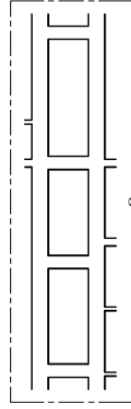
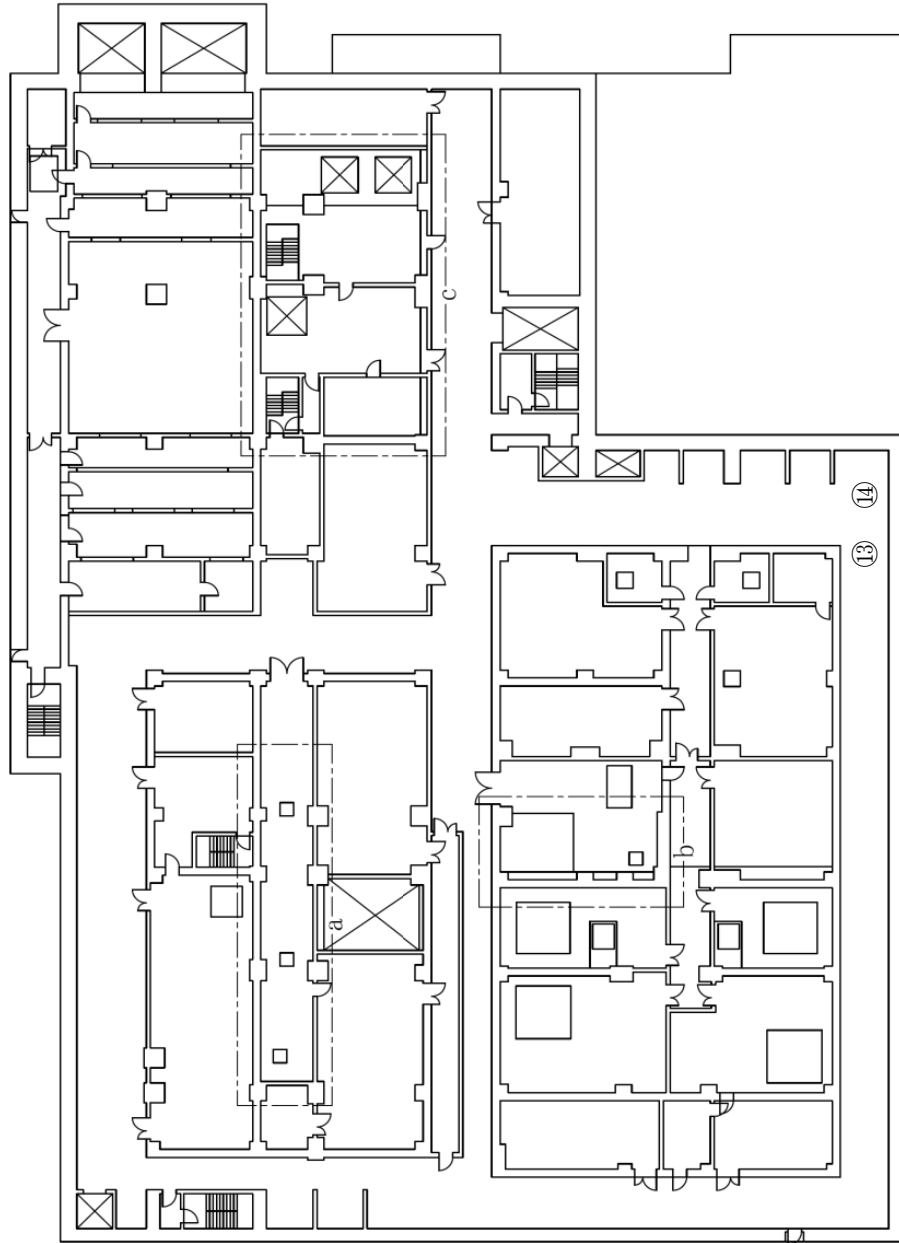
T.M.S.L.約+55,000

代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上1階）

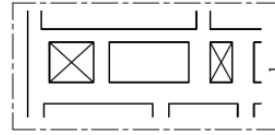


分棟建屋 内部グループ1	高レベル廃液濃縮缶	内部グループ通水 第1接続口 (給水口) 地上1階 ①若しくは②	内部グループ通水 第1接続口 (排水口) 地下2階 ①若しくは②	内部グループ通水 第2接続口 (給水口) 地上3階 ③若しくは④	内部グループ通水 第2接続口 (排水口) 地下1階 ③若しくは④

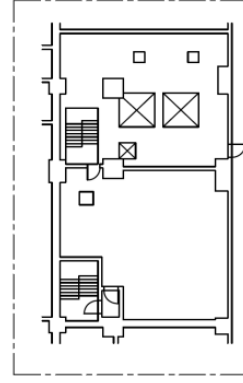
分棟建屋 内部グループ2	第6一時貯留処理槽 高レベル廃液供給槽	内部グループ通水 第1接続口 (給水口及び排水口) 地下2階 ③若しくは④	内部グループ通水 第2接続口 (給水口及び排水口) 地下2階 ⑤若しくは⑥
	溶解液供給槽 抽出廃液中間貯槽 抽出廃液受槽 抽出廃液供給槽A 抽出廃液供給槽B		
分棟建屋 内部グループ3	第1一時貯留処理槽	地下2階 ⑦	地下2階 ⑧
	第8一時貯留処理槽		
	第7一時貯留処理槽		
	第3一時貯留処理槽		
	第4一時貯留処理槽		



T.M.S.L.約+65,000



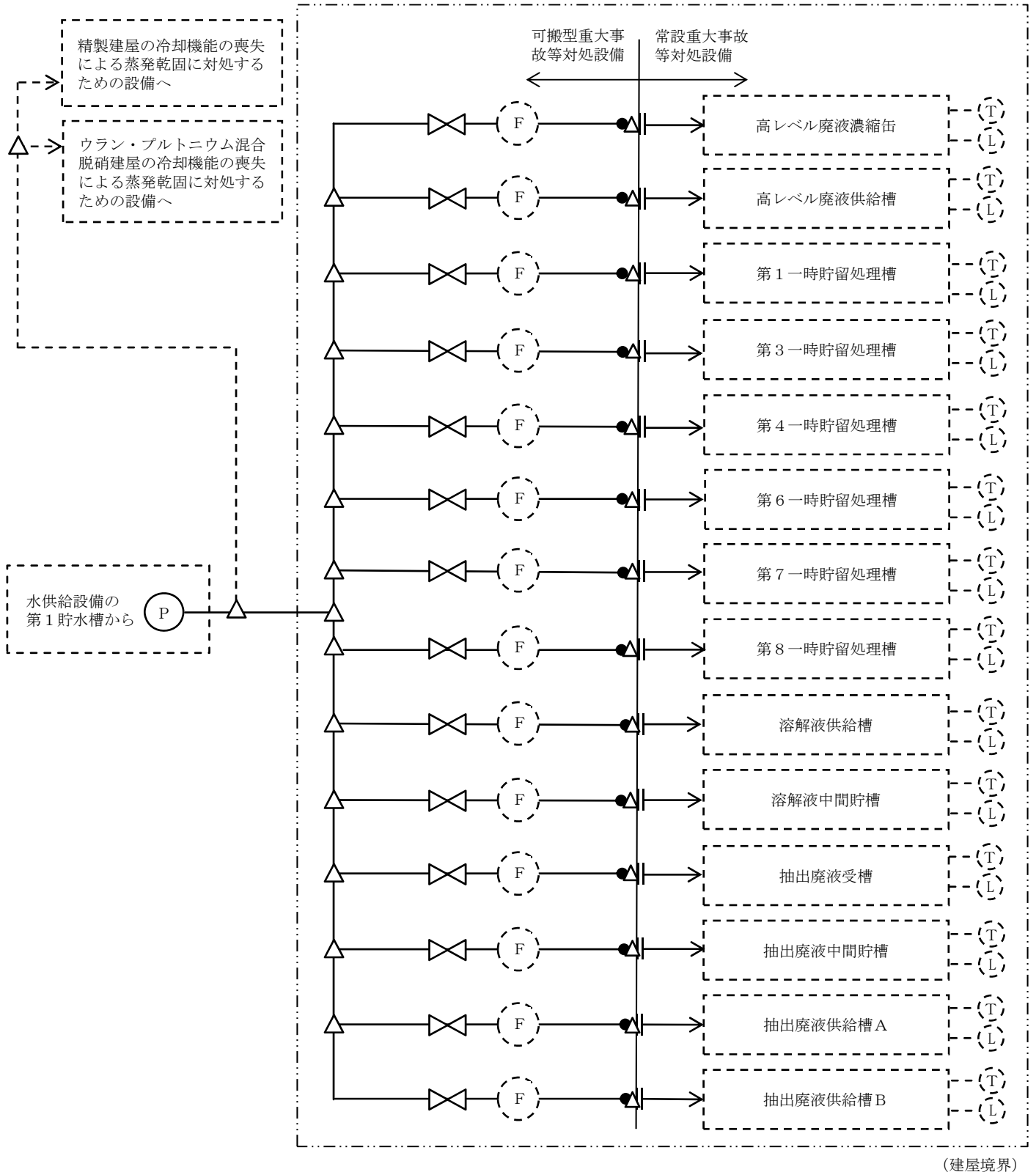
T.M.S.L.約+65,000



T.M.S.L.約+70,500

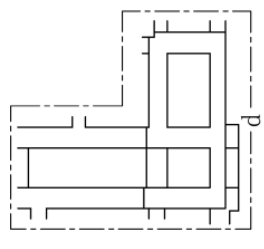
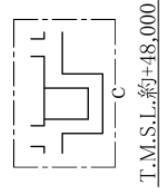
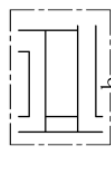
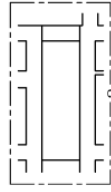
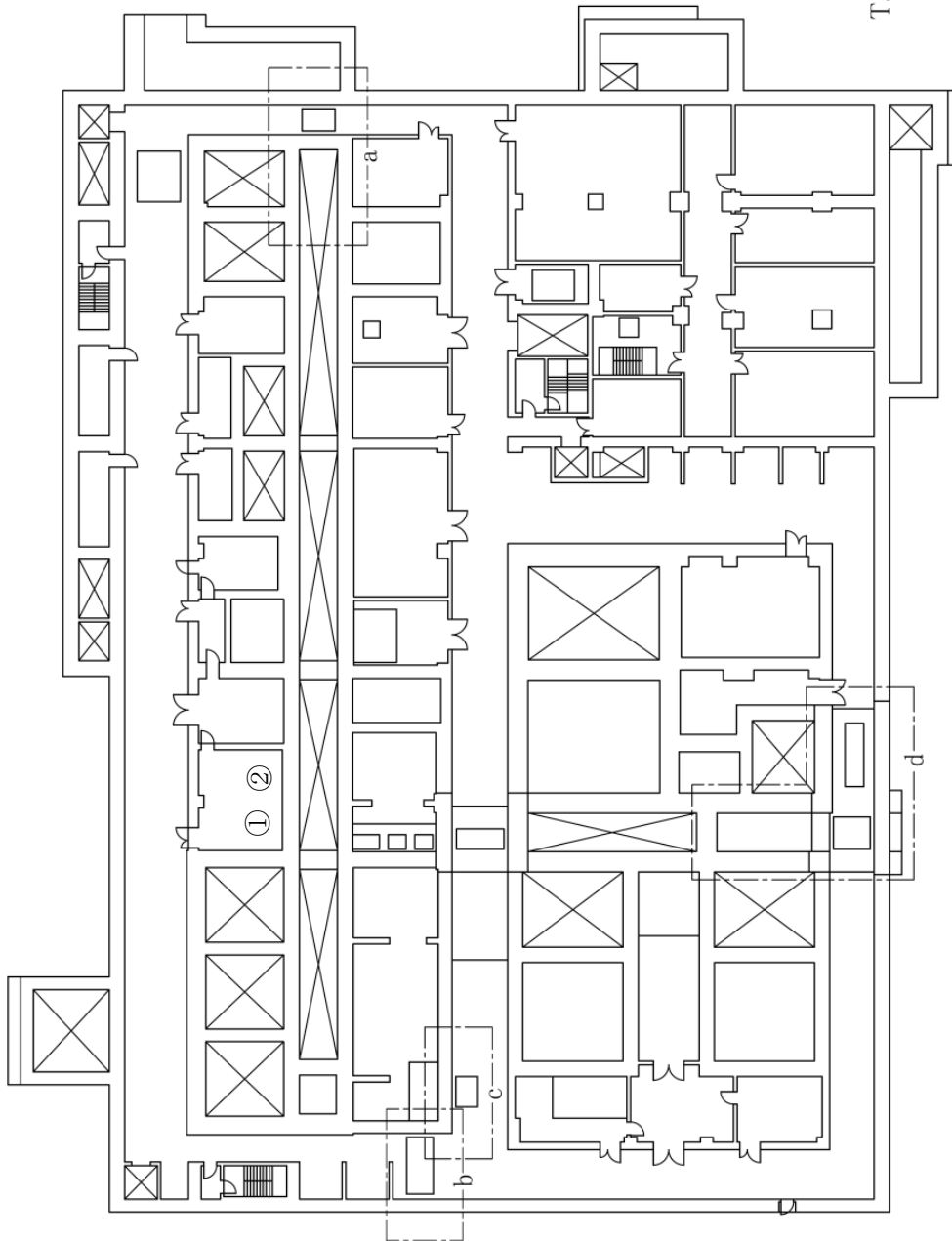
T.M.S.L.約+67,500

代替安全冷却水系（内部グループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上3階）



本図は、第1接続口に接続した場合の例である。接続口毎に機器注水配管が異なるため、第2接続口から第4接続口に接続する場合は系統構成が異なる。また接続金具等の個数及び位置についても、ホース敷設ルートごとに異なる。

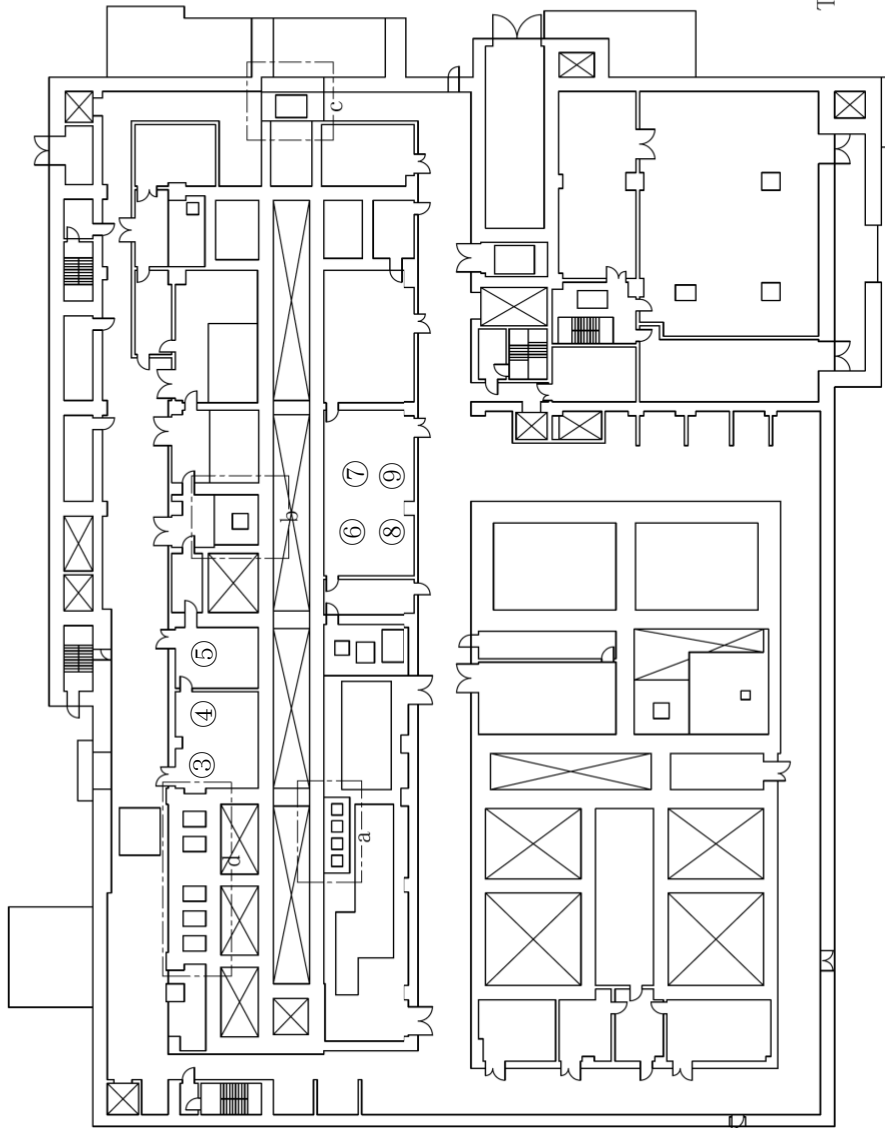
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の系統概要図 分離建屋



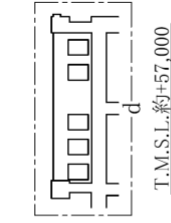
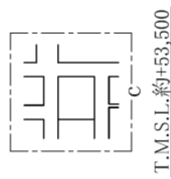
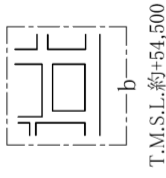
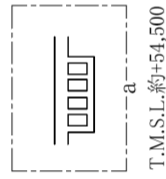
T.M.S.L.約+50,500

T.M.S.L.約+47,500

代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地下1階）



		貯槽等注水	貯槽等注水	貯槽等注水	貯槽等注水
		第1接続口	第2接続口	第3接続口	第4接続口
分離建屋 内部ループ1	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ⑬	地上3階 ⑭	地上3階 ⑮	地上3階 ⑯
	第6-時貯留処理槽	地上1階 ⑥	地上1階 ⑦	地上1階 ⑧	地上1階 ⑨
分離建屋 内部ループ2	高レベル廃液供給槽	地上3階 ⑳	地上3階 ㉑	地上3階 ㉒	地上3階 ㉓
	溶解液中間貯槽	地上1階 ㉔	地上2階 ㉕	地上2階 ㉖	地上2階 ㉗
分離建屋 内部ループ3	溶解液供給槽	地上2階 ㉘	地上3階 ㉙	地上2階 ㉚	地上2階 ㉛
	抽出廃液中間貯槽	地上2階 ㉜	地上1階 ㉝	地下1階 ㉞	地上2階 ㉟
	抽出廃液供給槽A	地上1階 ㊱	地上1階 ㊲	地下1階 ㊳	地上1階 ㊴
	抽出廃液供給槽B	地上1階 ㊵	地上1階 ㊶	地下1階 ㊷	地上1階 ㊸
	第1-時貯留処理槽	地上2階 ㊹	地上1階 ㊺	地下1階 ㊻	地上1階 ㊼
	第8-時貯留処理槽	地上2階 ㊽	地上1階 ㊾	地下1階 ㊿	地上1階 ㋀
	第7-時貯留処理槽	地上2階 ㋁	地上1階 ㋂	地下1階 ㋃	地下1階 ㋄
	第3-時貯留処理槽	地上2階 ㋅	地上2階 ㋆	地下1階 ㋇	地下1階 ㋈
第4-時貯留処理槽	地上2階 ㋉	地上3階 ㋊	地上3階 ㋋	地下1階 ㋌	

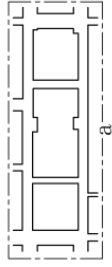
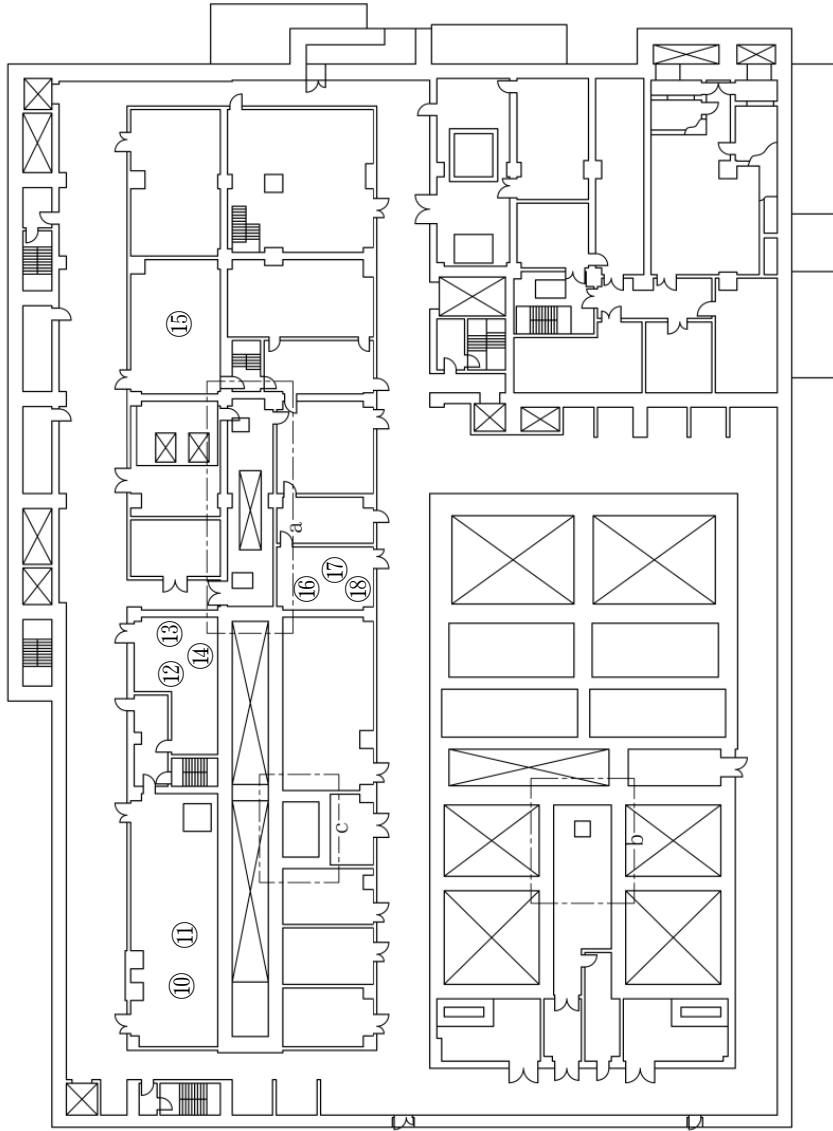


T.M.S.L.約+55,000

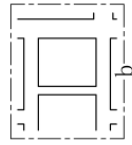
代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上1階）



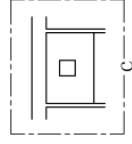
	貯槽等注水		貯槽等注水		貯槽等注水	
	第1接続口	第2接続口	第3接続口	第4接続口	第3接続口	第4接続口
分機建屋 内部ループ1	高レベル廃液濃縮槽	地上3階 ⑬	地上3階 ⑭	地上3階 ⑮	地上3階 ⑯	地上3階 ⑰
分機建屋 内部ループ2	第6一時貯留処理槽	地上1階 ⑱	地上1階 ⑲	地上1階 ⑳	地上1階 ㉑	地上1階 ㉒
	高レベル廃液供給槽	地上3階 ㉓	地上3階 ㉔	地上3階 ㉕	地上3階 ㉖	地上3階 ㉗
	溶解液中間貯槽	地上2階 ㉘	地上2階 ㉙	地上2階 ㉚	地上2階 ㉛	地上2階 ㉜
	溶解液供給槽	地上3階 ㉝	地上3階 ㉞	地上2階 ㉟	地上2階 ㊱	地上2階 ㊲
分機建屋 内部ループ3	抽出廃液受槽	地上2階 ㊳	地上1階 ㊴	地上1階 ㊵	地下1階 ㊶	地上2階 ㊷
	抽出廃液中間貯槽	地上1階 ㊸	地上1階 ㊹	地上1階 ㊺	地下1階 ㊻	地上1階 ㊼
	抽出廃液供給槽A	地上1階 ㊽	地上1階 ㊾	地上1階 ㊿	地上1階 ㋀	地上1階 ㋁
	抽出廃液供給槽B	地上1階 ㋂	地上1階 ㋃	地上1階 ㋄	地下1階 ㋅	地上1階 ㋆
	第1一時貯留処理槽	地上2階 ㋇	地上2階 ㋈	地上1階 ㋉	地下1階 ㋊	地上1階 ㋋
	第8一時貯留処理槽	地上2階 ㋌	地上2階 ㋍	地上1階 ㋎	地下1階 ㋏	地上1階 ㋐
	第7一時貯留処理槽	地上3階 ㋑	地上3階 ㋒	地上3階 ㋓	地下1階 ㋔	地下1階 ㋕
	第3一時貯留処理槽	地上1階 ㋖	地上2階 ㋗	地上2階 ㋘	地上2階 ㋙	地下1階 ㋚
第4一時貯留処理槽	地上2階 ㋛	地上2階 ㋜	地上3階 ㋝	地上3階 ㋞	地下1階 ㋟	



T.M.S.L.約+59,500



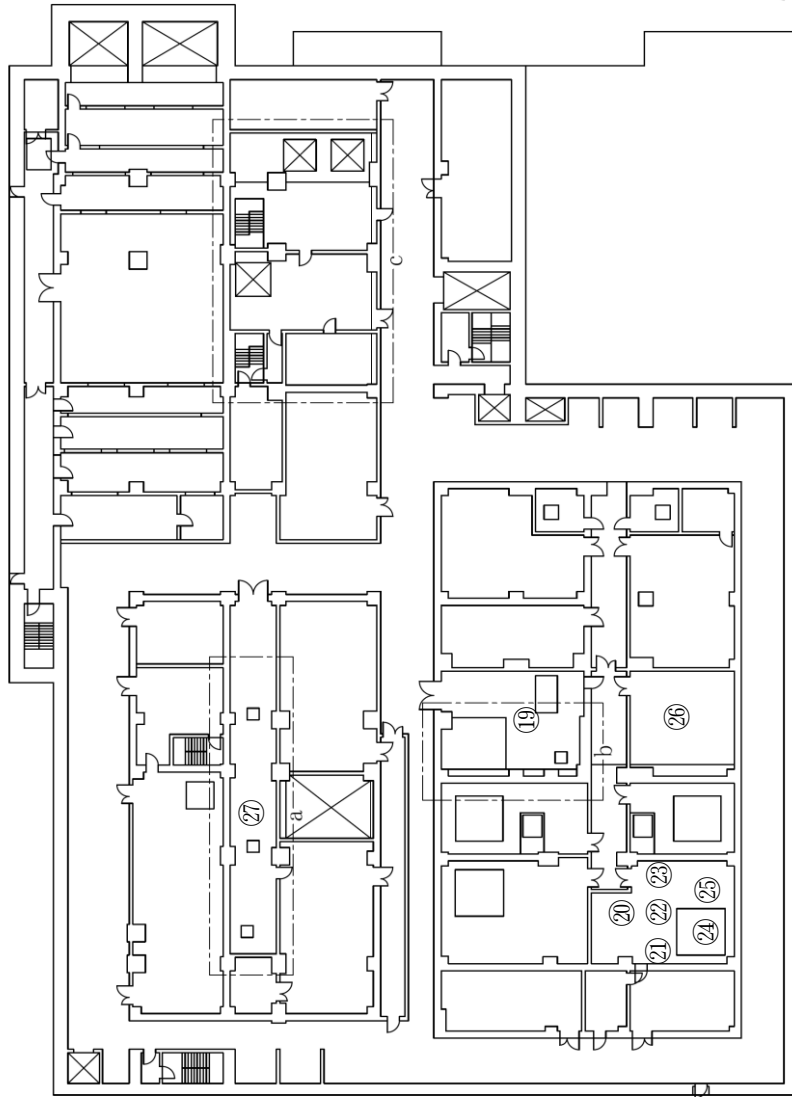
T.M.S.L.約+59,000



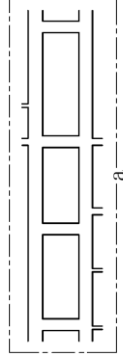
T.M.S.L.約+64,500

T.M.S.L.約+62,000

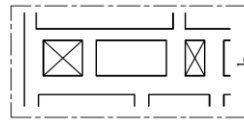
代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上2階）



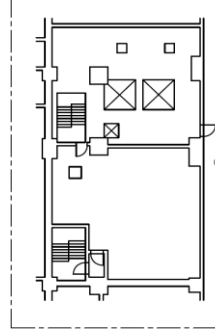
	貯槽等注水		貯槽等注水		貯槽等注水		貯槽等注水	
	第1接続口	第2接続口	第3接続口	第4接続口	第1接続口	第2接続口	第3接続口	第4接続口
分離建屋 内部グループ1	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ⑬	地上3階 ⑮	地上3階 ⑯	地上3階 ⑰	地上3階 ⑱	地上3階 ㉑	地上3階 ㉒
分離建屋 内部グループ2	第6一時貯留処理槽	地上1階 ⑥	地上1階 ④	地上1階 ④	地上1階 ⑦	地上1階 ⑦	地上1階 ⑦	地上1階 ⑦
	高レベル廃液供給槽	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓	地上3階 ㉓
分離建屋 内部グループ3	溶解液中間貯槽	地上1階 ③	地上2階 ①	地上2階 ①	地上2階 ①	地上2階 ①	地上2階 ①	地上2階 ①
	溶解液供給槽	地上2階 ⑫	地上3階 ㉔	地上3階 ㉔	地上2階 ⑩	地上2階 ⑩	地上2階 ⑩	地上2階 ⑩
	抽出廃液受槽	地上2階 ⑩	地上1階 ④	地上1階 ④	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①
	抽出廃液供給槽A	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③
	抽出廃液供給槽B	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③	地上1階 ③
	第1一時貯留処理槽	地上2階 ⑩	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧
	第8一時貯留処理槽	地上2階 ⑩	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧	地上1階 ⑧
	第7一時貯留処理槽	地上2階 ⑥	地上2階 ⑥	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①
	第3一時貯留処理槽	地上1階 ⑤	地上2階 ⑦	地上2階 ⑦	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①	地下1階 ②
	第4一時貯留処理槽	地上1階 ⑤	地上2階 ⑦	地上2階 ⑦	地上1階 ①	地上1階 ①	地上1階 ①	地下1階 ②



T.M.S.L.約+65,000



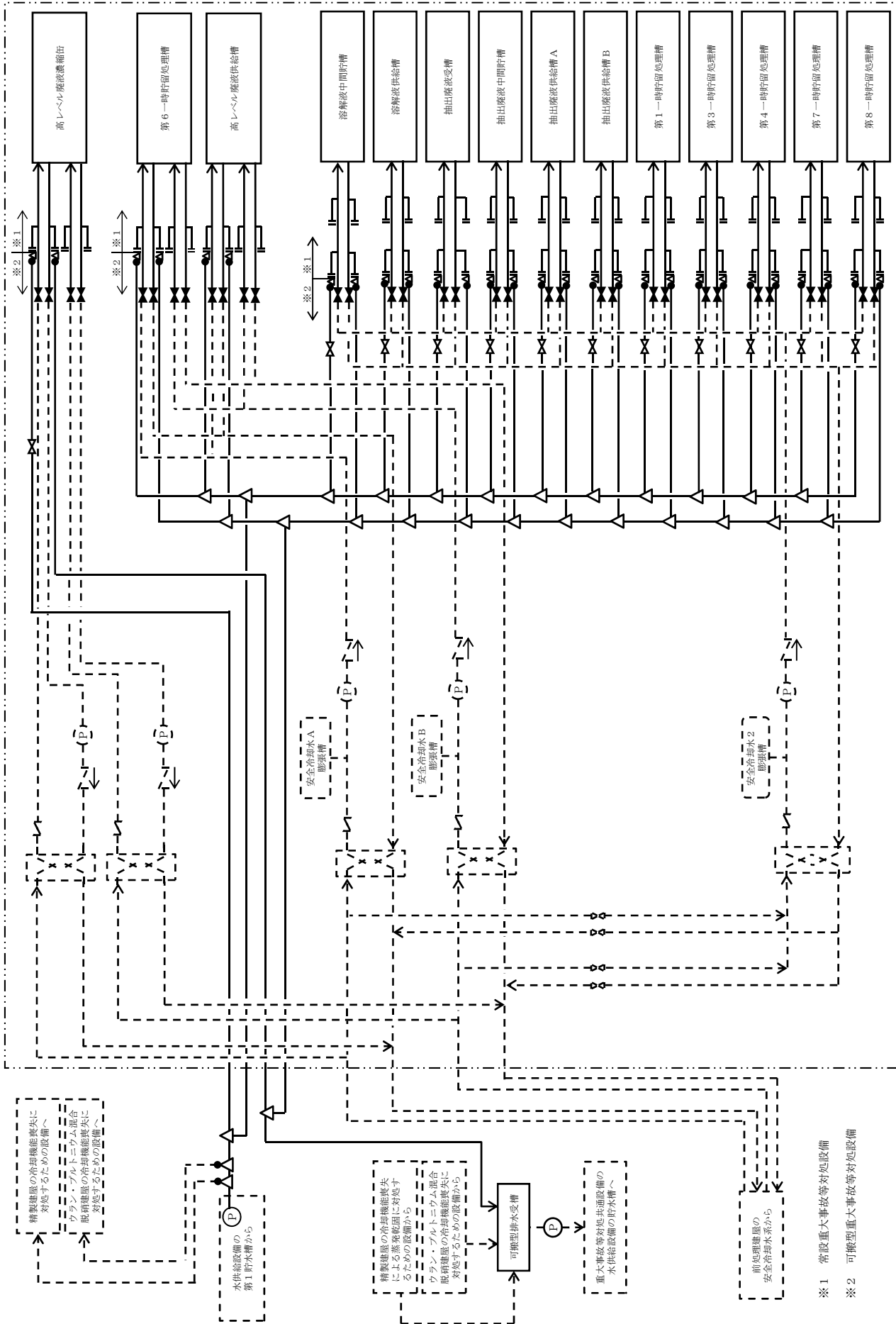
T.M.S.L.約+65,000



T.M.S.L.約+70,500

T.M.S.L.約+67,500

代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覧 分離建屋（地上3階）

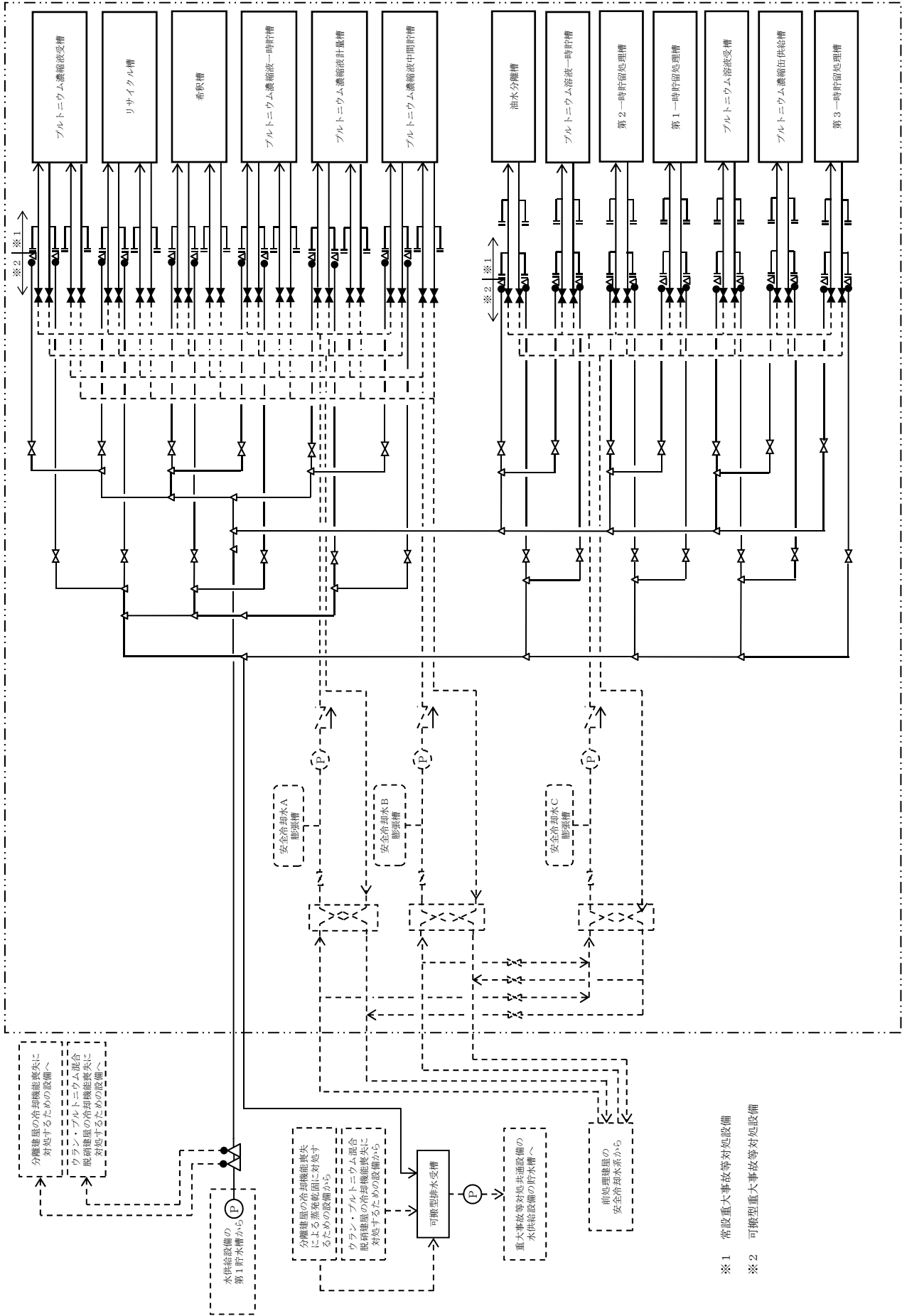


本図は、各貯槽の冷却コイル等の2系統のうち1系統の第1接続口の第1系統の第1接続口及び他の系統等に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の系統概要図 分離建屋

- ※1 常設重大事故等対処設備
- ※2 可搬型重大事故等対処設備

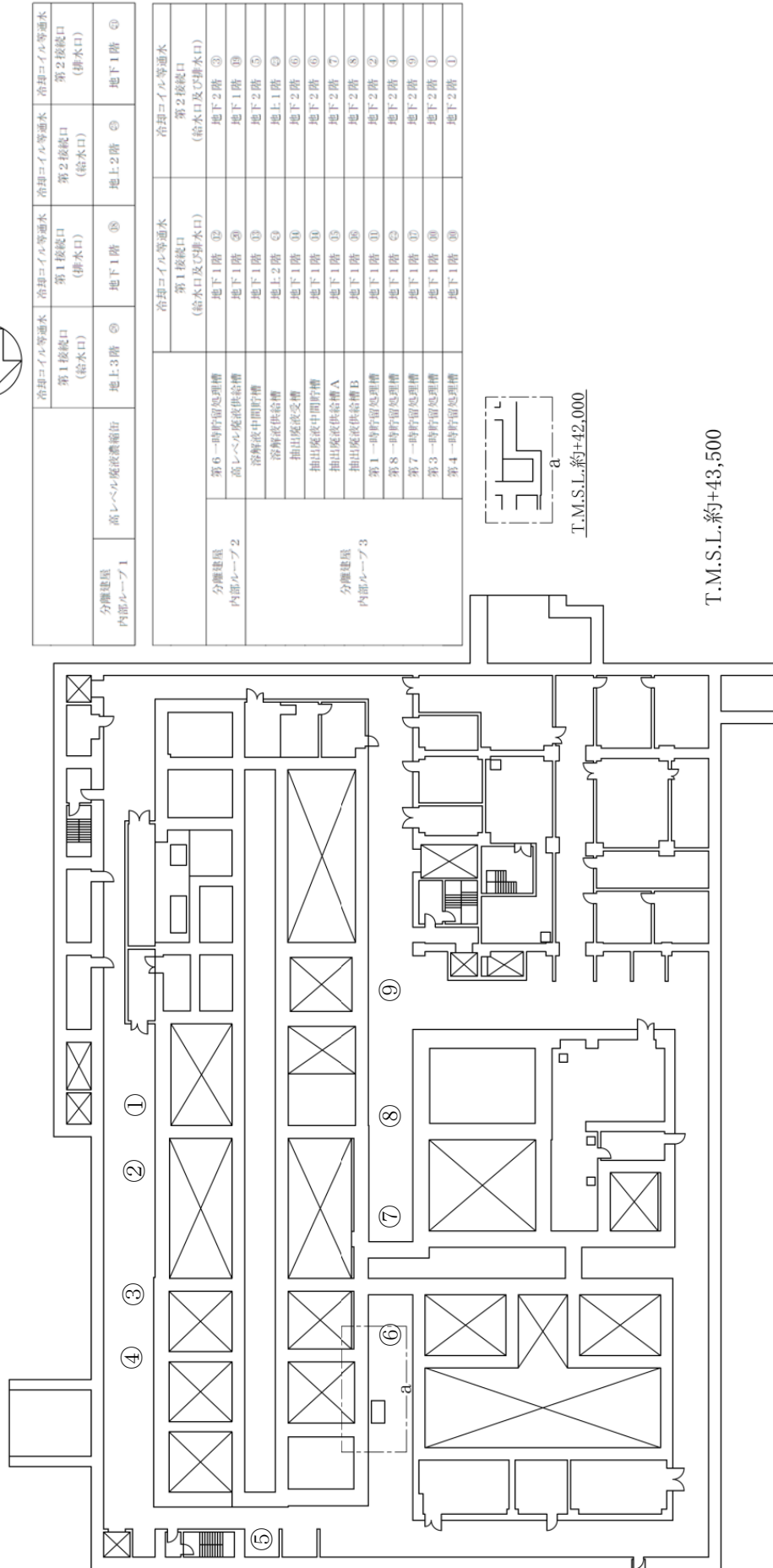




本図は、各貯槽の冷却コイル等の2系統のうち1系統の第1接続口の第1接続例である。第2接続口及び他の系統等に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

- ※1 常設重大事故等対処設備
- ※2 可搬型重大事故等対処設備

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の系統概要図 **精製建屋**



T.M.S.L.約+42,000

T.M.S.L.約+43,500

分機建屋 内部グループ1	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ⑤	地下1階 ⑥	地上2階 ⑦	地下1階 ⑧
	冷却コイル等通水	第1接続口 (給水口)	第1接続口 (排水口)	第2接続口 (給水口)	第2接続口 (排水口)

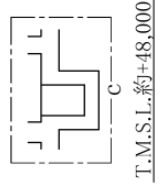
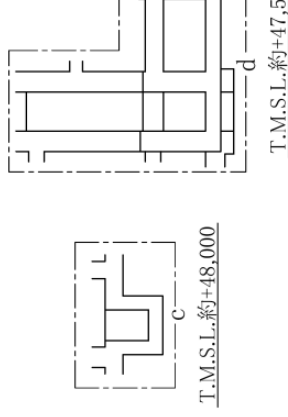
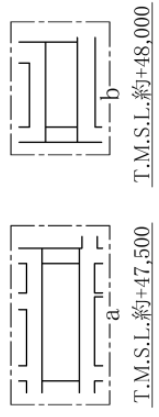
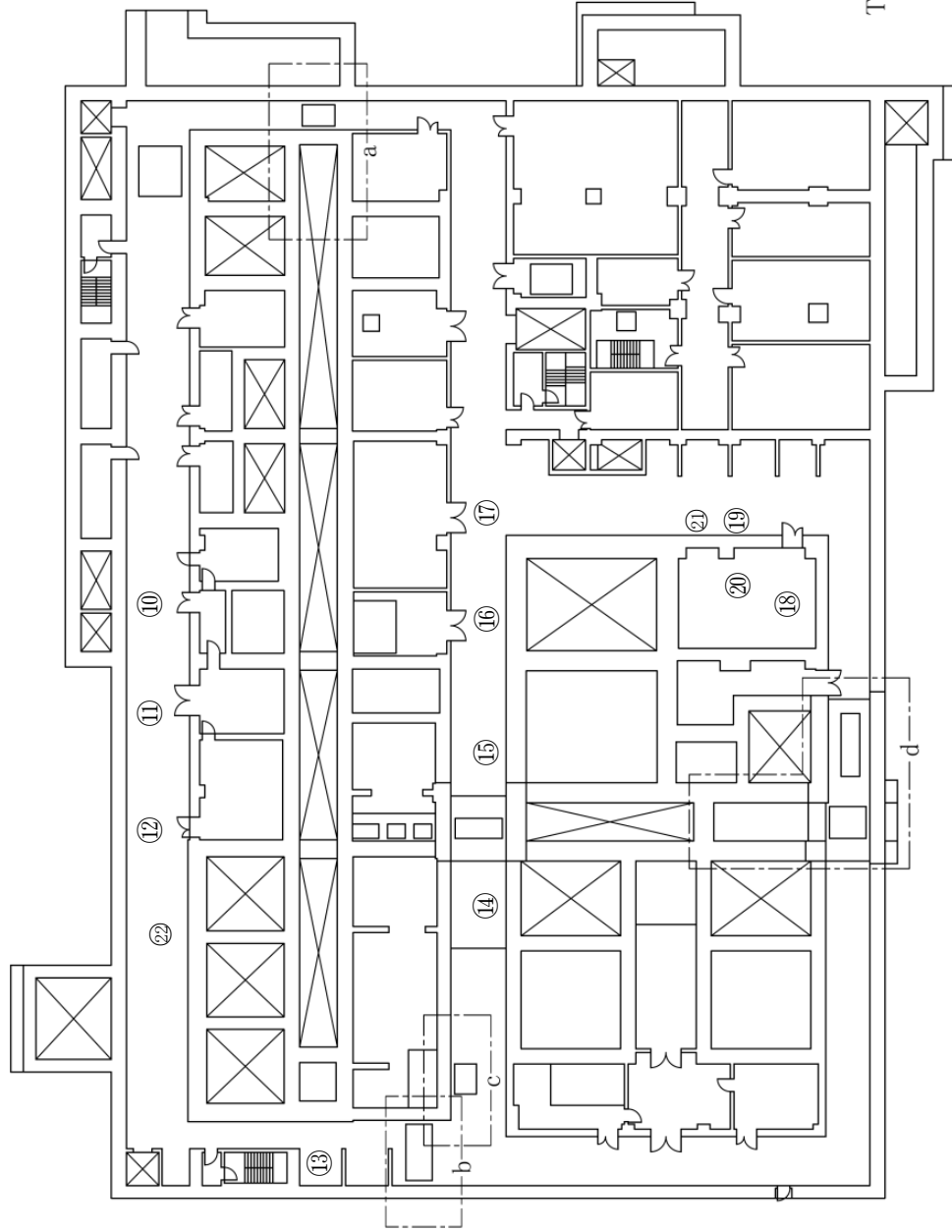
分機建屋 内部グループ2	第6一時貯留処理槽	地下1階 ②	地下2階 ③	地下2階 ④
	高レベル廃液供給槽	地下1階 ⑤	地下2階 ⑥	地下2階 ⑦
	溶解液中間貯槽	地上1階 ⑧	地上1階 ⑨	地上1階 ⑩
	溶解放供給槽	地上2階 ⑪	地上2階 ⑫	地上2階 ⑬
分機建屋 内部グループ3	抽出廃液受槽	地下1階 ⑭	地下2階 ⑮	地下2階 ⑯
	抽出廃液中間貯槽	地下1階 ⑰	地下2階 ⑱	地下2階 ⑲
	抽出廃液供給槽A	地下1階 ⑳	地下2階 ㉑	地下2階 ㉒
	抽出廃液供給槽B	地下1階 ㉓	地下2階 ㉔	地下2階 ㉕
	第1一時貯留処理槽	地下1階 ㉖	地下2階 ㉗	地下2階 ㉘
	第8一時貯留処理槽	地下1階 ㉙	地下2階 ㉚	地下2階 ㉛
	第7一時貯留処理槽	地下1階 ㉜	地下2階 ㉝	地下2階 ㉞
	第4一時貯留処理槽	地下1階 ㉟	地下2階 ㊱	地下2階 ㊲

代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 分離建屋（地下2階）



分機建屋 内部グループ1	高レベル廃液蓄積池	冷却コイル等通水 第1接続口 (排水口)	冷却コイル等通水 第1接続口 (排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
		地上3階 ㊸	地下1階 ㊹	地上2階 ㊺	地下1階 ㊻

分機建屋 内部グループ2	第6-一時貯留処理槽 高レベル廃液供給槽 溶解液供給槽 抽出廃液中間貯槽	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)	
		地下1階 ㊼	地下2階 ㊽	
		地下1階 ㊾	地下1階 ㊿	
		地上2階 ㊻	地上1階 ㊼	
	分機建屋 内部グループ3	抽出廃液供給槽 抽出廃液中間貯槽	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
			地下1階 ㊽	地下2階 ㊾
		抽出廃液供給槽A 抽出廃液供給槽B	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
			地下1階 ㊿	地下2階 ㊻
		第1-一時貯留処理槽 第8-一時貯留処理槽 第7-一時貯留処理槽 第3-一時貯留処理槽	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
			地下1階 ㊼	地下2階 ㊽
			地下1階 ㊾	地下2階 ㊿
			地下1階 ㊿	地下2階 ㊻
		第4-一時貯留処理槽	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
			地下1階 ㊼	地下2階 ㊽



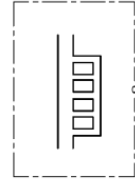
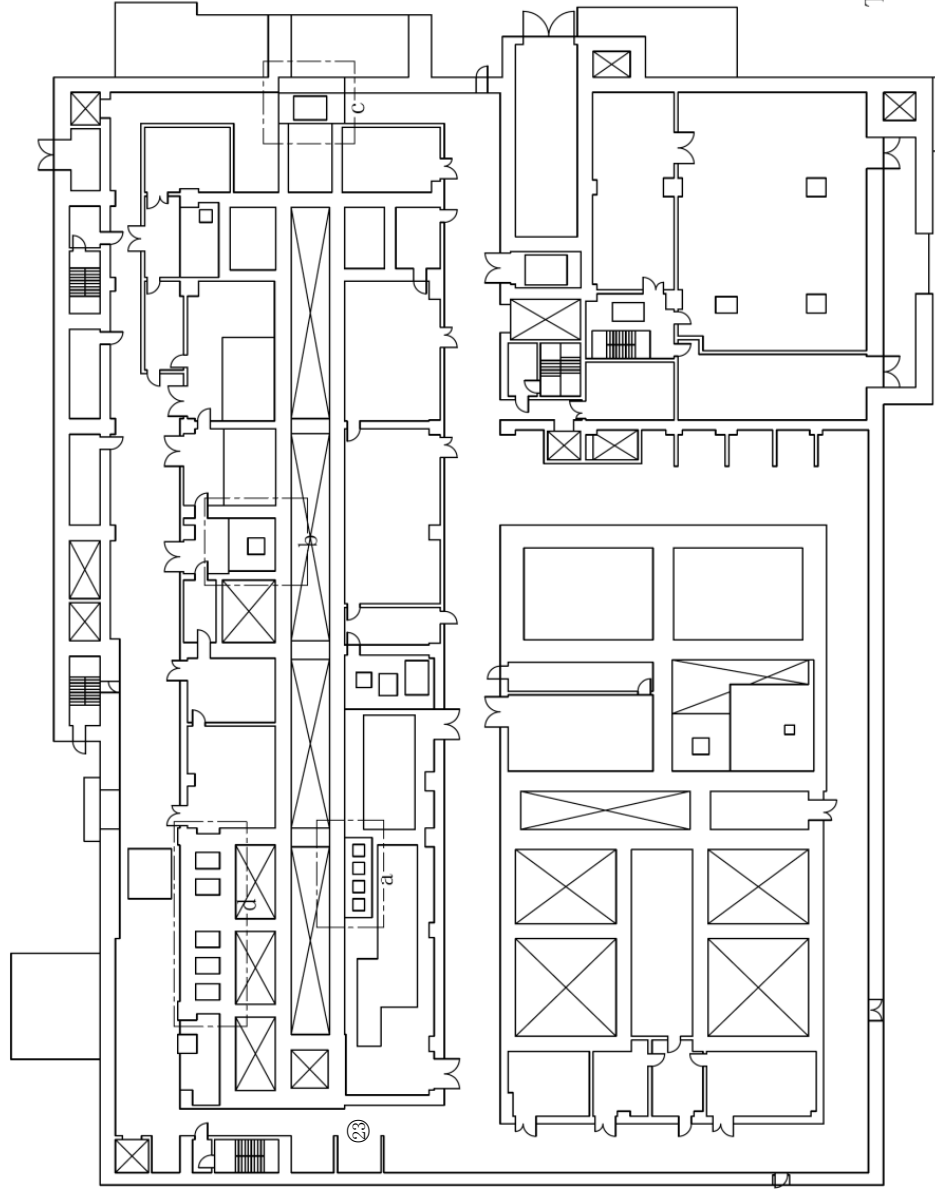
T.M.S.L.約+50,500

代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地下1階）

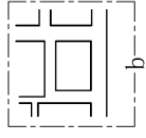


	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第1接続口 (排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)
分棟建屋 内部ループ1	地上3階 ㉔	地下1階 ㉕	地上2階 ㉖	地下1階 ㉗

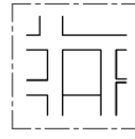
	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)
分棟建屋 内部ループ2	第6-一時野留処理槽 高レベル汚泥供給槽	地下1階 ㉘
	高レベル汚泥供給槽	地下1階 ㉙
	汚泥液受槽	地上1階 ㉚
	抽出廃液受槽	地下1階 ㉛
分棟建屋 内部ループ3	抽出廃液中間貯槽	地下1階 ㉜
	抽出廃液供給槽A	地下1階 ㉝
	抽出廃液供給槽B	地下1階 ㉞
	第1-一時野留処理槽	地下1階 ㉟
	第8-一時野留処理槽	地下1階 ㊱
	第7-一時野留処理槽	地下1階 ㊲
	第3-一時野留処理槽	地下1階 ㊳
	第4-一時野留処理槽	地下1階 ㊴



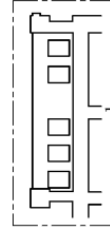
T.M.S.L.約+54,500



T.M.S.L.約+54,500



T.M.S.L.約+53,500



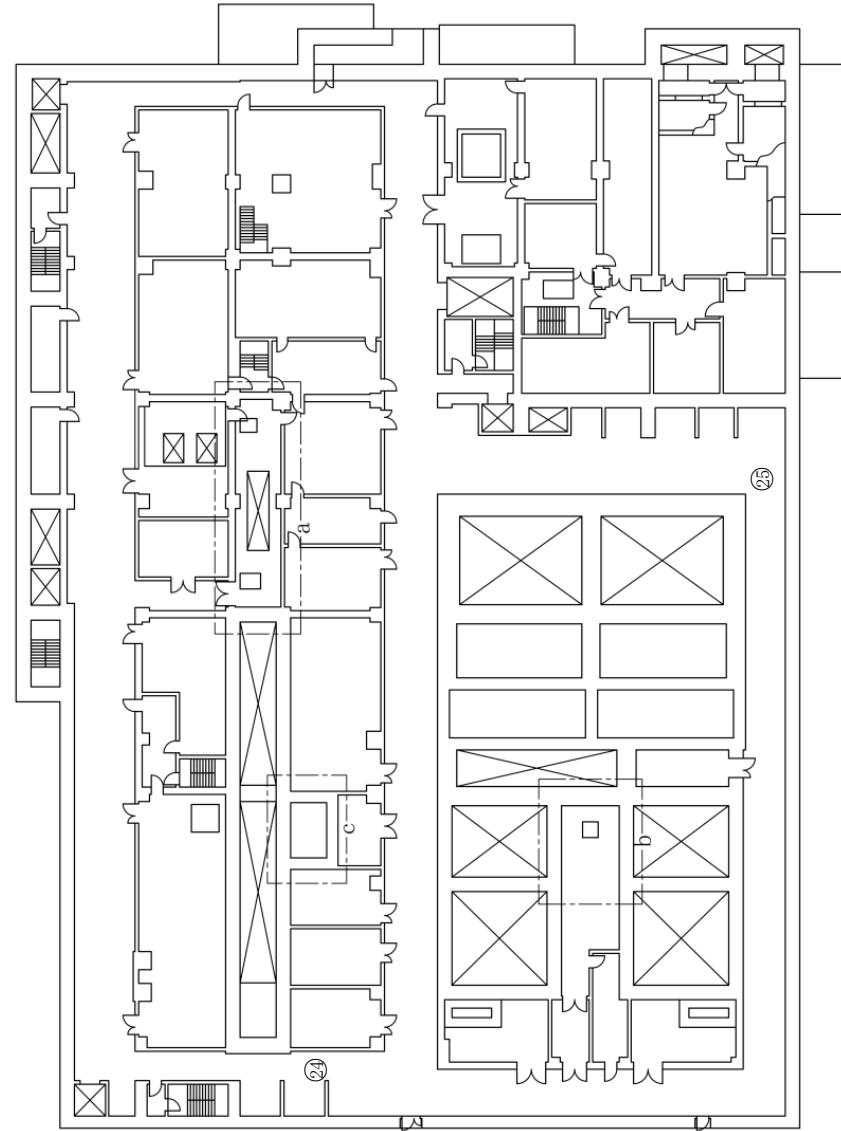
T.M.S.L.約+57,000

T.M.S.L.約+55,000

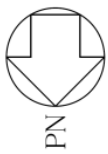
代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上1階）



分棟建屋 内部ループ1	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ㊸	地下1階 ㊹	地上2階 ㊺	地下1階 ㊻
	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ㊸	地下1階 ㊹	地上2階 ㊺	地下1階 ㊻

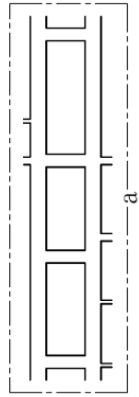
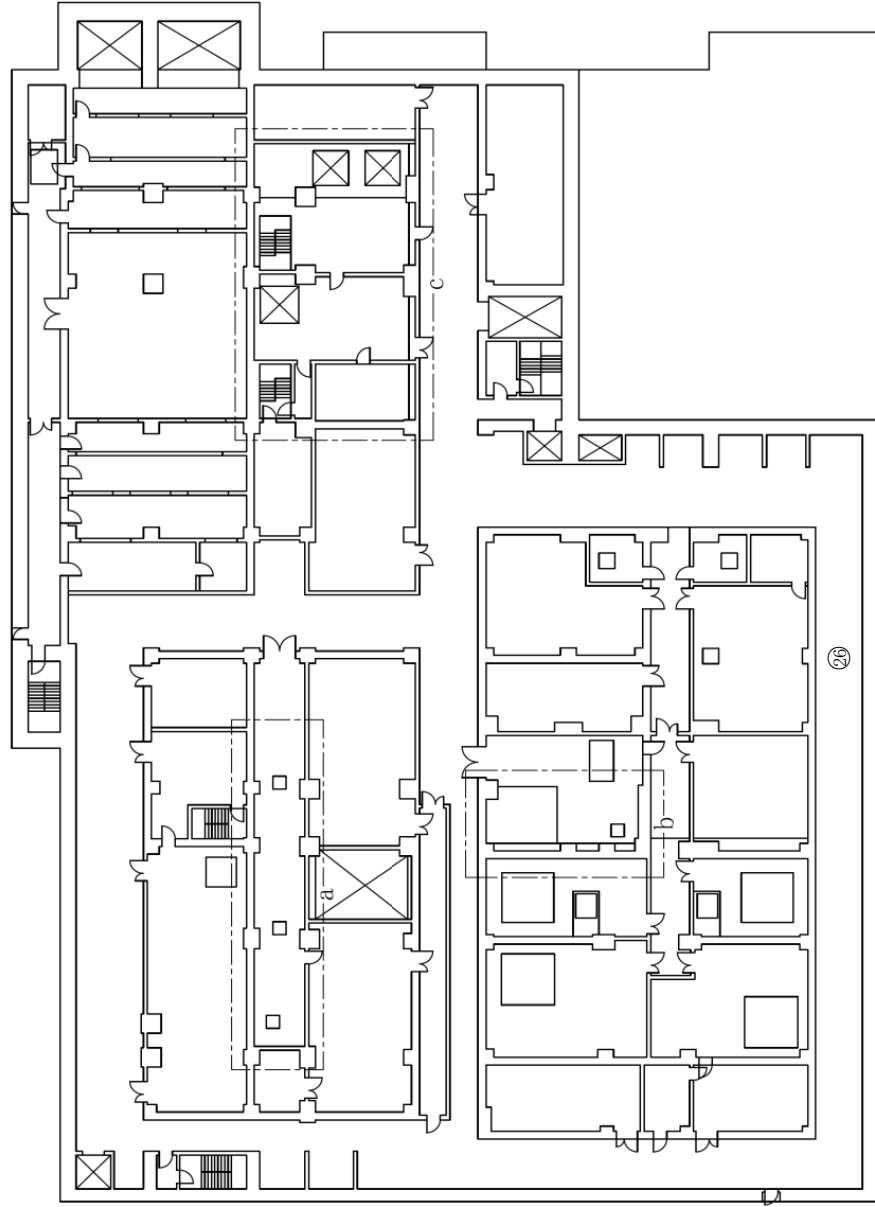


代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上2階）

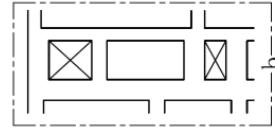


分機建屋 内部グループ1	高レベル廃液濃縮缶	地上3階 ㊦	地下1階 ㊧	地上2階 ㊨	地下1階 ㊩
	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口)	地上3階 ㊦	地下1階 ㊧	地上2階 ㊨	地下1階 ㊩
	冷却コイル等通水 第1接続口 (排水口)				
	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口)				
	冷却コイル等通水 第2接続口 (排水口)				

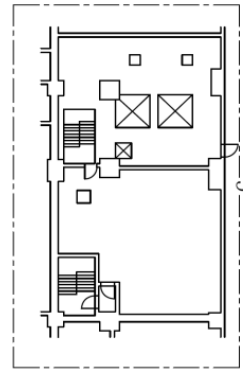
分機建屋 内部グループ2	第6-一時貯留処理槽 高レベル廃液供給槽 溶解液中間貯槽 抽出廃液供給槽 抽出廃液受槽 抽出廃液中間貯槽 抽出廃液供給槽A 抽出廃液供給槽B 抽出廃液供給槽C	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)	地下1階 ㊰	地下2階 ㊱
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
		地下1階 ㊰	地下2階 ㊱	
分機建屋 内部グループ3	第1-一時貯留処理槽 第8-一時貯留処理槽 第7-一時貯留処理槽 第4-一時貯留処理槽	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)	地下1階 ㊲	地下2階 ㊳
		地下1階 ㊲	地下2階 ㊳	
		地下1階 ㊲	地下2階 ㊳	
		地下1階 ㊲	地下2階 ㊳	



T.M.S.L.約+65,000



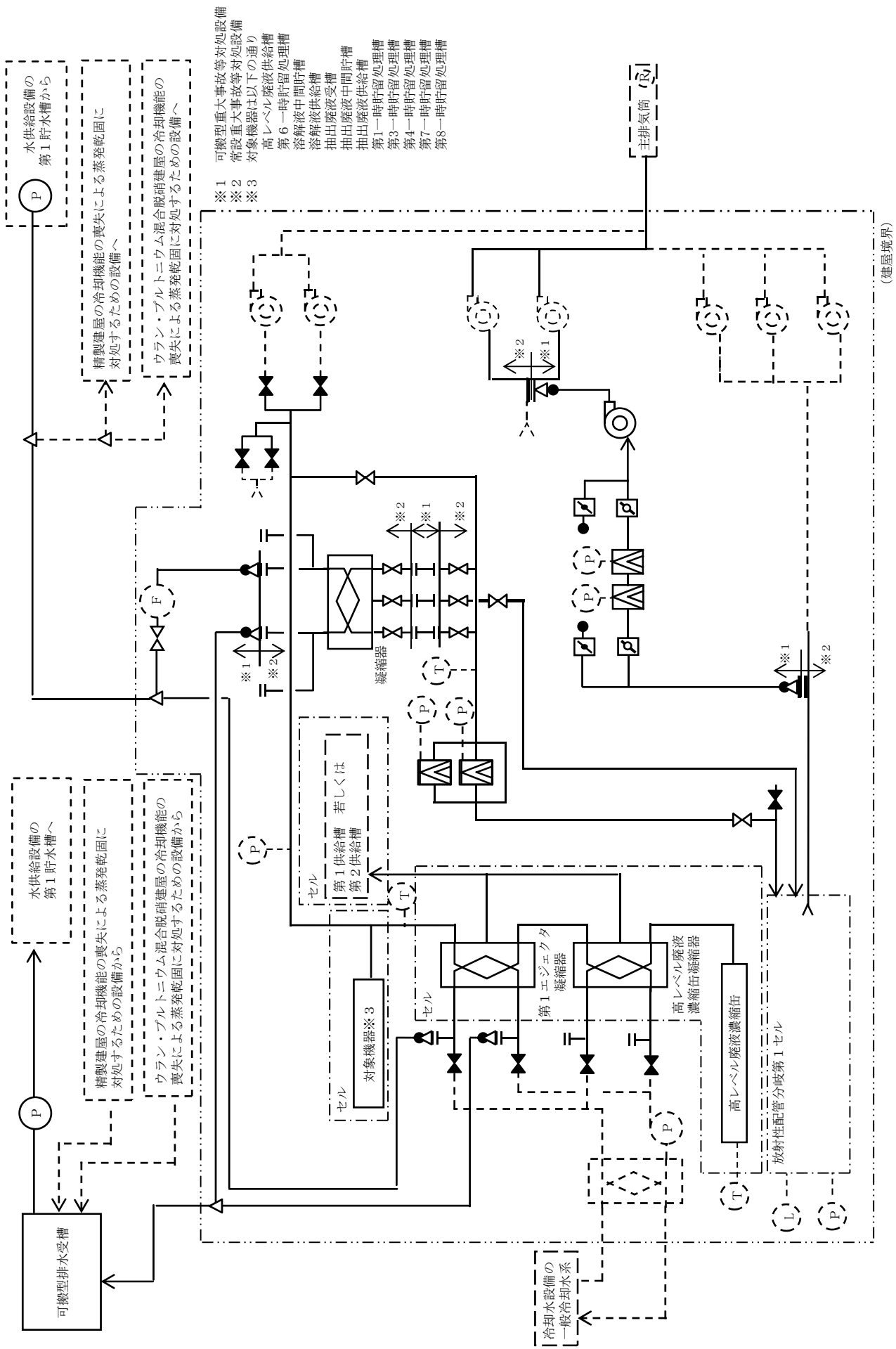
T.M.S.L.約+65,000



T.M.S.L.約+70,500

T.M.S.L.約+67,500

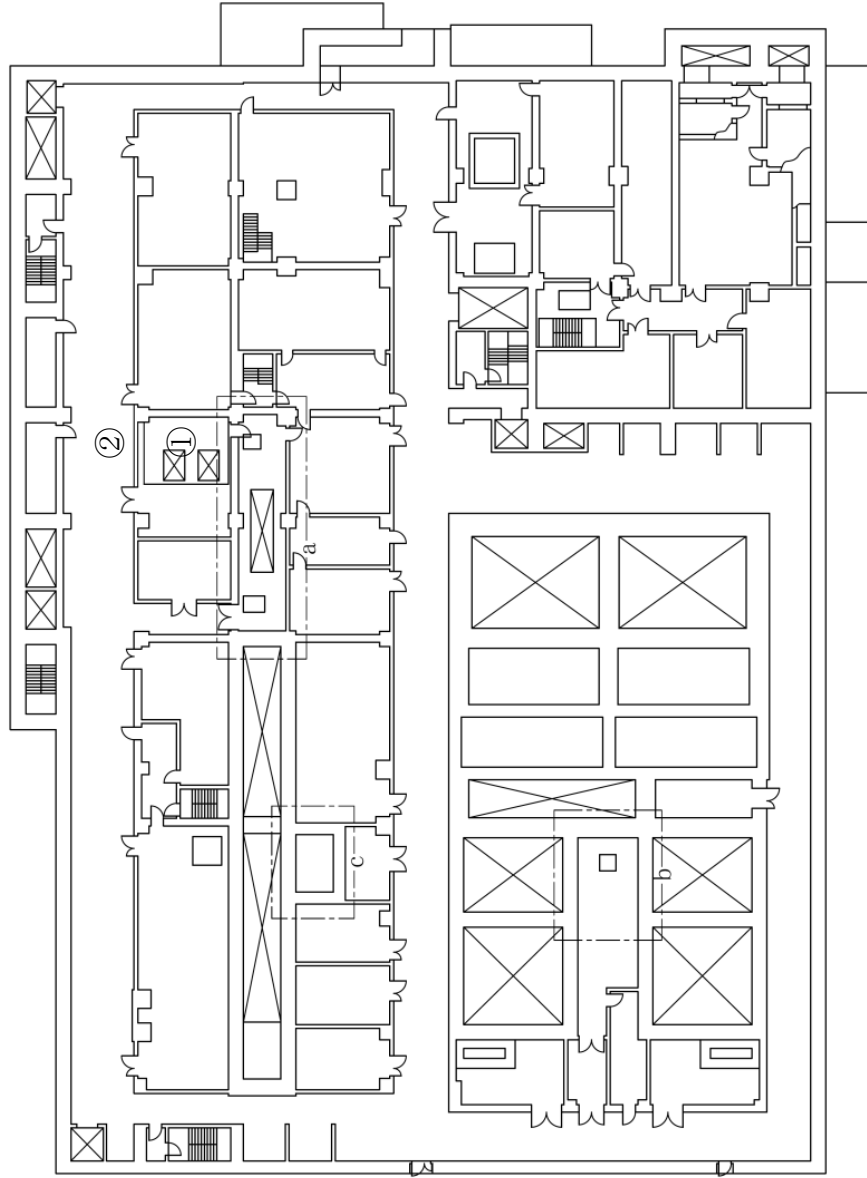
代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 分離建屋（地上3階）



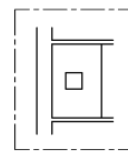
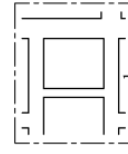
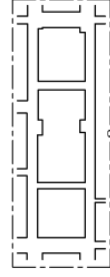
- ※1 可搬型重大事故等対処設備
  - ※2 常設重大事故等対処設備
  - ※3 対象機器は以下の通り
- |           |           |           |           |           |        |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 高レベル廃液供給槽 | 第6一時貯留処理槽 | 溶解液供給槽    | 抽出廃液中間貯槽  | 抽出廃液供給槽   | 抽出廃液受槽 |
| 第1一時貯留処理槽 | 第3一時貯留処理槽 | 第4一時貯留処理槽 | 第7一時貯留処理槽 | 第8一時貯留処理槽 |        |

本図は、セル導出設備の凝縮器の第1接続口の接続例である。セル導出設備の凝縮器の第2接続口及び予備凝縮器に接続した場合も同様の系統である。

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応）の系統概要図  
分離建屋



高レベル廃液溜り凝縮器 第1エージェクタ	高レベル廃液溜り 凝縮器通水 第1接続口 (給水口及び排水口) 地上3階 ③	第1エージェクタ 凝縮器通水 第2接続口 (給水口及び排水口) 地上3階 ④
	高レベル廃液溜り 凝縮器通水 第1接続口 (給水口及び排水口) 地上2階 ①	凝縮器通水 第2接続口 (給水口及び排水口) 地上2階 ②



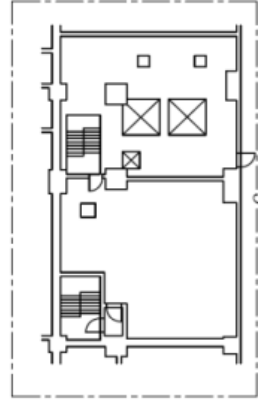
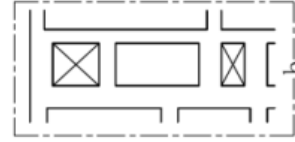
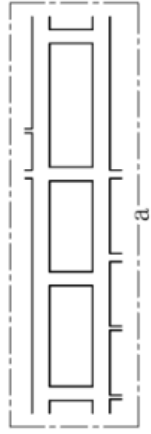
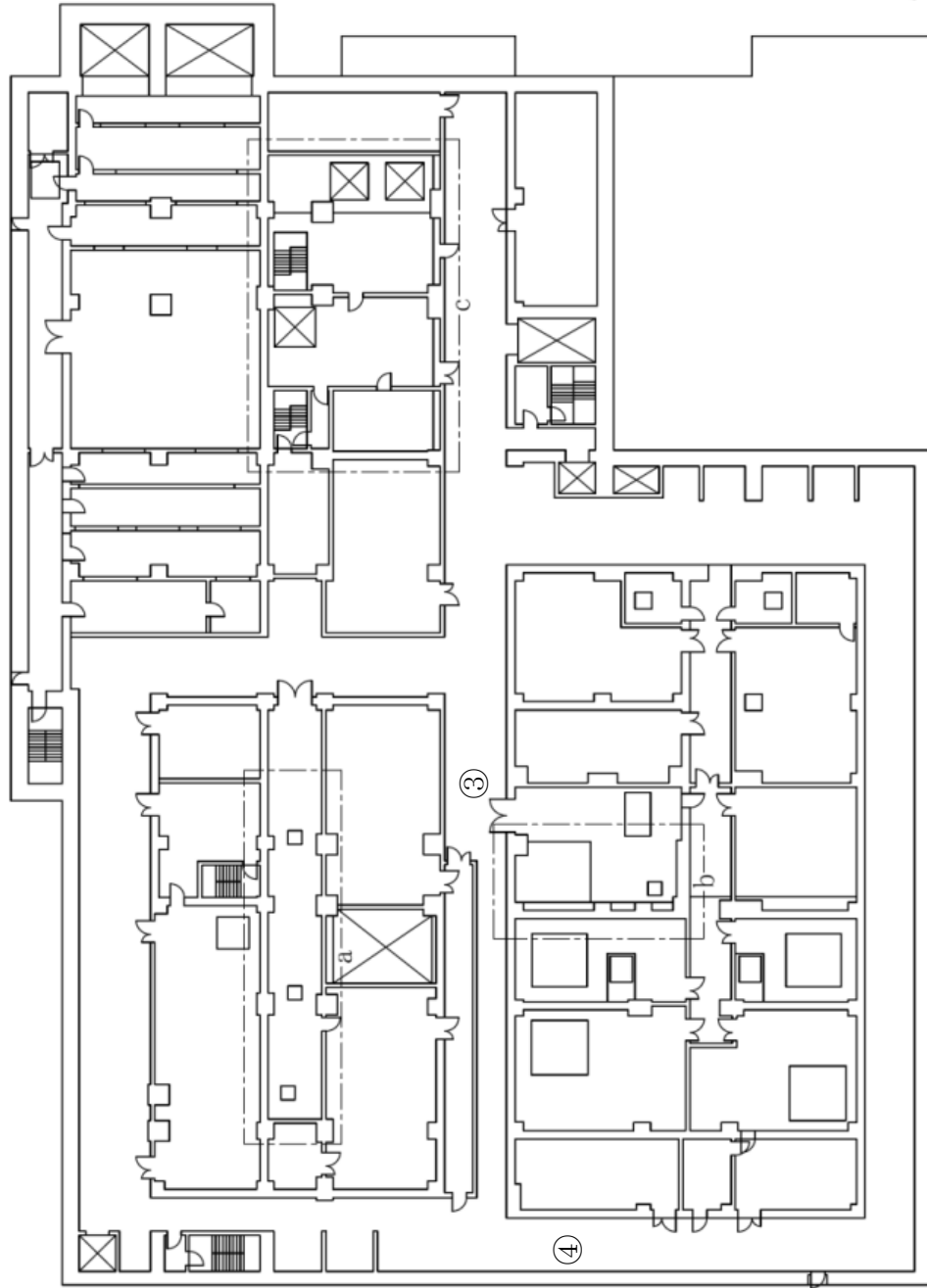
T.M.S.L.約+62,000

代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覧 分離建屋（地上2階）





高レベル廃液濃縮用凝縮器 第1エフェクタ凝縮器	高レベル廃液濃縮用 凝縮器通水 第1接続口 (給水口及び排水口) 地上3階 ③	第1エフェクタ 凝縮器通水 第2接続口 (給水口及び排水口) 地上3階 ④
	凝縮器	凝縮器通水 第1接続口 (給水口及び排水口) 地上2階 ①
		凝縮器通水 第2接続口 (給水口及び排水口) 地上2階 ②



T.M.S.L.約+65,000

T.M.S.L.約+70,500

T.M.S.L.約+67,500

代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覧 分離建屋（地上3階）









作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間※ (時:分)	経過時間(時:分)																																
					0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00
-	・建屋外対応班の作業の補助	建屋外対応班員	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(分離建屋用1台、ウラン・プルトニウム混合脱同位体装置用1台)及びウラン・プルトニウム混合脱同位体装置用1台)	燃料給油3班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(分離建屋用1台、ウラン・プルトニウム混合脱同位体装置用1台、高レベル廃液ガラス固化装置用1台及び排気監視測定装置用1台)	燃料給油3班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(前処理建屋用1台)	燃料給油3班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(前処理建屋用1台)	燃料給油3班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油3班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油3班	2	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	1	2:10	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	1	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	2	0:35	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	2	0:35	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	3	0:10	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
燃	・軽油用タンクローリーから可搬型空気圧縮機用容器(ドラム缶等)への燃料の補給及び軽油用タンクローリーの移動(情報処理建屋用1台)	燃料給油2班	3	3:40	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
外	・第1貯水槽から各建屋までのアクセスルート(北ルート)の確認	燃料給油1班 燃料給油2班	2	0:35	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
外	・第1貯水槽から各建屋までのアクセスルート(南ルート)の確認	燃料給油1班 燃料給油2班	2	0:35	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
外	・ホイールローダの確認	建屋外1班 建屋外5班	3	0:10	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
外	・アクセスルートの整備(ガレキ撤去)	建屋外1班 建屋外5班	3	3:40	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																
外	・アクセスルートの整備(除雪、ガレキ撤去) (対応する作業班の1人ホイルローダにて作業する。)	建屋外1班 建屋外5班 建屋外7班	11	-	[Gantt chart showing activity bars across the timeline]																																

※:各作業内容の系類に必要な時間を示す。(複数回に分けて実施の場合は、作業時間の合計)

分離建屋における地震を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その3)



作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間※ (時:分)	経過時間(時:分)																																
					0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00
外 6	・使用する資機材の確認	建屋外5班 建屋外6班	10	0:20																																	
外 7	・第1貯水槽取水準備	建屋外5班 建屋外6班	10	0:10																																	
外 8	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の運転車で運転する可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型圧力計、可搬型流量計)	建屋外5班	2	0:30																																	
外 9	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の運転車による可搬型建屋外ホースの取組(金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班	2	3:30																																	
外 10	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの設置及び起動確認	建屋外5班	2	0:10																																	
外 11	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの設置及び起動確認	建屋外5班	6	0:30																																	
外 12	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用のホース取組車で運転する可搬型建屋外ホースの準備	建屋外6班	2	0:30																																	
外 13	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用のホース取組車による可搬型建屋外ホースの取組及び接続	建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	8	1:10																																	
外 14	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型中型移送ポンプの試運転	建屋外4班	2	0:30																																	
外 15	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースの取組確認	建屋外5班	6	0:30																																	
外 16	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の運転車による可搬型建屋外ホースの取組及び可搬型建屋外ホースとの接続	建屋外5班 建屋外6班	6	1:30																																	
外 18	・精製建屋用の可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外4班	2	0:10																																	
外 19	・分離建屋用の可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外3班	2	0:10																																	
外 20	・ワラン・フルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外3班	2	0:10																																	
外 21	・精製建屋への水の供給流量及び圧力の調整	建屋外4班	4	0:30																																	
外 22	・分離建屋への水の供給流量及び圧力の調整(必要に応じ精製建屋側も調整)	建屋外4班	4	0:35																																	
外 23	・ワラン・フルトニウム混合脱硝建屋への水の供給流量及び圧力の調整(必要に応じ分離建屋及び精製建屋側も調整)	建屋外5班	4	1:40																																	
外 24	・分離建屋、精製建屋及びワラン・フルトニウム混合脱硝建屋への水の供給及び気密監視(流量、圧力、第1貯水槽の水位)	建屋外1班	2	-																																	
外 25	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプ運転機及び起動確認	建屋外6班	2	0:10																																	
外 26	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプの設置及び起動確認	建屋外3班 建屋外5班	6	0:30																																	
外 27	・高レベル廃液ガラス固化建屋用のホース取組車で運転する可搬型建屋外ホースの準備	建屋外6班	2	0:30																																	
外 28	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型流量計、可搬型圧力計	建屋外3班	2	1:00																																	
外 29	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の運転車による可搬型建屋外ホースの設置(金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班	2	1:30																																	
外 30	・高レベル廃液ガラス固化建屋用のホース取組車による可搬型建屋外ホースの取組及び接続	建屋外4班 建屋外5班 建屋外6班	8	2:00																																	
外 31	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型中型移送ポンプの試運転	建屋外1班	2	0:30																																	
外 32	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの準備	建屋外5班	6	0:30																																	
外 33	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班	6	1:30																																	
外 34	・高レベル廃液ガラス固化建屋用の可搬型建屋外ホースとの接続	建屋外5班	2	0:10																																	
外 35	・高レベル廃液ガラス固化建屋への水の供給流量及び圧力の調整	建屋外1班 建屋外5班	4	0:30																																	
外 36	・高レベル廃液ガラス固化建屋への水の供給及び気密監視(流量、圧力、第1貯水槽の水位)	建屋外1班	2	-																																	

※:各作業内容の取組に必要な時間を示す。(欄数回に分けて取組の場合は、作業時間の合計)

分離建屋における地震を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その4)



















作業番号	作業内容	作業班	所要時間(時:分)	乗人数(時:分)	経路時間(時:分)
外 6	・使用する資材材の確認	建屋外2班, 建屋外3班 建屋外4班, 建屋外5班 建屋外6班	10	0:20	
外 7	・第1貯水槽取水準備	建屋外3班 建屋外4班, 建屋外5班 建屋外6班	10	0:10	
外 8	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の運搬車で運搬する可搬型建屋外ホースの準備(金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外2班	2	0:30	
外 9	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外2班	2	3:30	
外 10	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型圧力計の設置及び給電確認	建屋外3班 建屋外4班, 建屋外5班 建屋外6班	2	0:10	
外 11	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班, 建屋外4班 建屋外5班, 建屋外6班	6	0:30	
外 12	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外6班	2	0:30	
外 13	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外4班, 建屋外5班, 建屋外6班 建屋外7班	8	1:10	
外 14	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外4班	2	0:30	
外 15	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外5班, 建屋外6班 建屋外7班	6	0:30	
外 16	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外5班, 建屋外6班 建屋外7班	6	1:30	
外 18	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外4班	2	0:10	
外 19	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班	2	0:10	
外 20	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班	2	0:10	
外 21	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班, 建屋外4班	4	0:30	
外 22	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班, 建屋外3班	4	0:35	
外 23	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班, 建屋外2班	4	1:40	
外 24	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班	2	-	
外 25	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外6班	2	0:10	
外 26	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班, 建屋外4班 建屋外5班	6	0:30	
外 27	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外6班	2	0:30	
外 28	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班	2	1:00	
外 29	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班	2	1:30	
外 30	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外4班, 建屋外5班 建屋外6班, 建屋外7班	8	2:00	
外 31	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班	2	0:30	
外 32	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外5班, 建屋外6班 建屋外7班	6	0:30	
外 33	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外5班, 建屋外6班 建屋外7班	6	1:30	
外 34	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外3班	2	0:10	
外 35	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班, 建屋外3班	4	0:30	
外 36	・分機建屋、精製建屋及びフラン・ブルトニウム混合脱硝建屋用の可搬型流量計の設置及び給電確認	建屋外1班	2	-	

※:各作業内容の英語に必要の時間を示す。(複数班にわたって実施の場合は、作業時間の合計)

# 分離建屋における火山を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その4)







作業番号	作業内容	作業班	作業時間 (時:分)																				
			21.00	22.00	23.00	24.00	25.00	26.00	27.00	28.00	29.00	30.00	31.00	32.00									
AB 1	・可搬型貯槽底付設置準備 (可搬型建物内ホース敷設、接続)	建物内班	2	0:50																			
AB 7	・可搬型貯槽底付設置準備 (可搬型空気圧機搬送機)	建物内班	2	0:25																			
AB 32	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認	建物内班、建物内班	4	0:45																			
AB 33	・貯槽等監視装置	建物内班	2	0:15																			
AB 34-1	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認	建物内班	2	0:45																			
AB 34-2	・貯槽等への圧水実施	建物内班	2	0:15																			
AB 35	・可搬型貯槽底付設置及び貯槽底付準備	建物内班	2	1:00																			
AB 36	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ)	建物内班、建物内班	4	1:10																			
AB 37-1	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 1)	建物内班、建物内班	4	0:50																			
AB 37-2	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2)	建物内班、建物内班	4	0:20																			
AB 37-3	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 3)	建物内班、建物内班	4	1:10																			
AB 38	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班、建物内班	4	0:50																			
AB 39	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班、建物内班	4	0:20																			
AB 18	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班、建物内班	4	0:20																			
AB 19	・タンク閉止	建物内班	2	0:20																			
AB 21	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認	建物内班	2	0:20																			
AB 22	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認	建物内班	2	1:05																			
AB 23	・可搬型貯槽底付	建物内班	2	1:05																			
AB 24	・可搬型建物内ホース敷設	建物内班、建物内班、建物内班	8	1:30																			
AB 25	・分機建物内ホース敷設準備、可搬型貯槽底付準備	建物内班	2	0:20																			
AB 26	・吐出セッパ圧力確認、可搬型貯槽底付確認	建物内班	2	1:00																			
AB21 1	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 1)	建物内班、建物内班、建物内班	6	0:50																			
AB21 2	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 1)	建物内班、建物内班	4	0:25																			
AB21 3	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 1)	建物内班、建物内班	4	0:20																			
AB22 1	・可搬型建物内ホース敷設 (分機建物内部グループ 2)	建物内班、建物内班	6	0:40																			
AB22 2	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 2)	建物内班、建物内班、建物内班	6	1:40																			
AB22 3	・冷却コイル等の総合性確認 (分機建物内部グループ 2)	建物内班、建物内班	4	1:10																			
AB22 4	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 2)	建物内班、建物内班	4	0:40																			
AB23 1	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 3)	建物内班、建物内班	6	0:40																			
AB23 2	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 3)	建物内班、建物内班、建物内班	12	9:10																			
AB23 3	・冷却コイル等の総合性確認 (分機建物内部グループ 3)	建物内班、建物内班	8	6:25																			
AB23 4	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建物内ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力調整) (分機建物内部グループ 3)	建物内班、建物内班、建物内班	8	3:40																			
AB24 1	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班、建物内班	4	9:45																			
AB24 2	・可搬型建物内ホース敷設、接続、巻戻し確認 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班、建物内班	4	1:30																			
AB24 3	・可搬型貯槽底付設置及び貯槽底付準備 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班	2	1:00																			
AB24 4	・貯槽等への圧水実施 (分機建物内部グループ 2、3)	建物内班	2	0:15																			
AB 38	・非冷却型貯槽底付、貯槽等圧水実施、冷却コイル等への通水準備、貯槽等圧水実施、冷却コイル圧力調整、冷却コイル総合性確認、可搬型貯槽底付準備、可搬型貯槽底付準備及び可搬型貯槽底付準備等の準備	建物内班、建物内班	4	-																			

分機建物

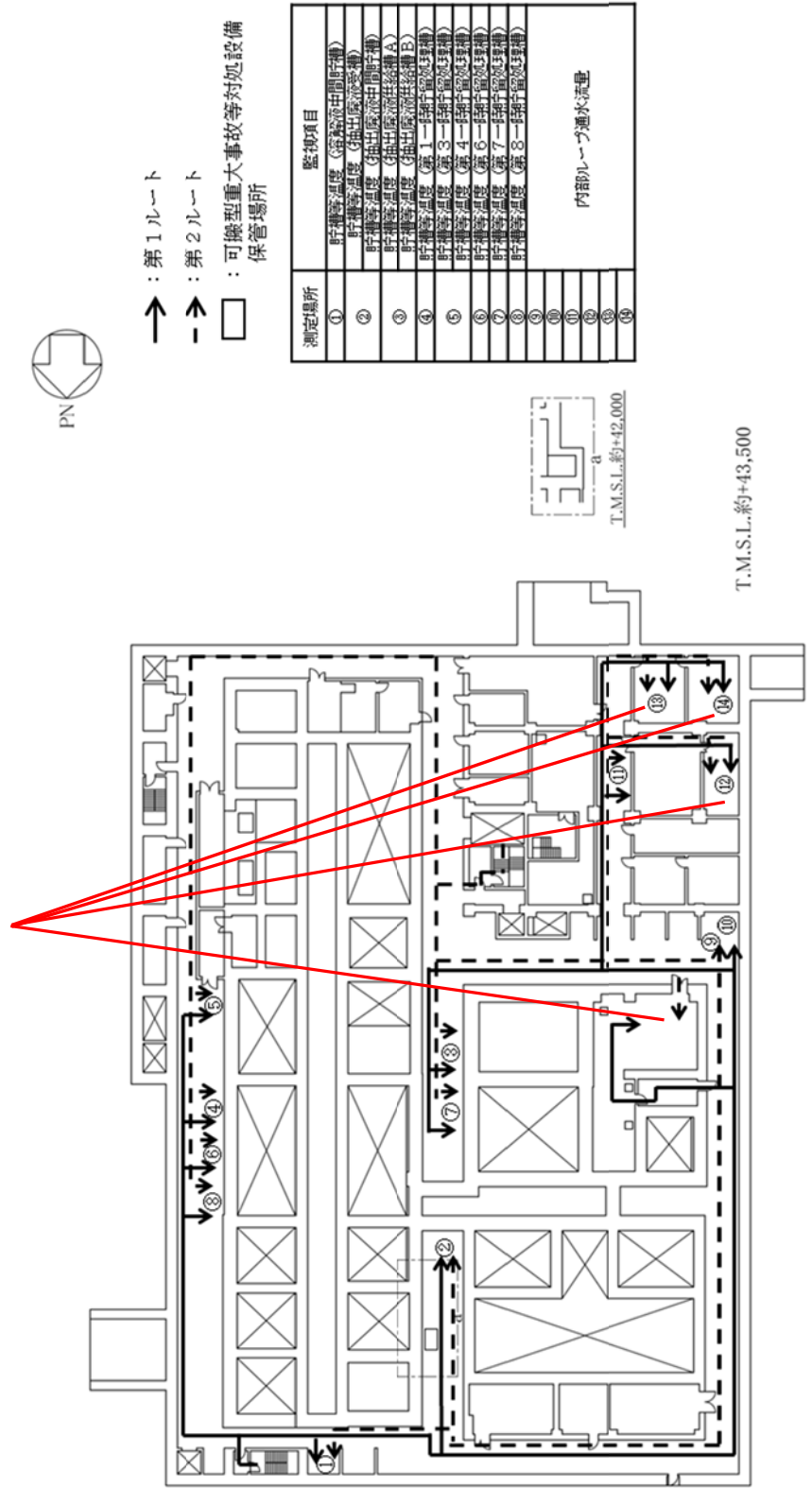
分機建物における地震又は火山を想定した場合の非冷却型貯槽等への注水、冷却コイル等への通水、セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その2)

作業番号	作業内容	作業班	要員数 (人・分)	所要時間 (分)	0.00	0.05	0.10	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40	0.45	0.50	0.55	0.60	0.65	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00
Ab 1	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続)	建組内班	2	0:50																					
Ab 7	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続)	建組内班	2	0:25																					
Ab 32	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:45																					
Ab 33	・貯槽等塩化計測	建組内班	2	0:15																					
Ab 34-1	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	0:45																					
Ab 34-2	・貯槽等への注水実施	建組内班	2	0:15																					
Ab 35	・可搬型貯槽水位調整機構及び貯槽水位計測	建組内班	2	1:00																					
Ab 36	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	1:10																					
Ab 37-1	・挿入い確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:50																					
Ab 37-2	・挿入い確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:20																					
Ab 38-1	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	1:10																					
Ab 38-2	・挿入い確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:50																					
Ab 39	・挿入い確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:20																					
Ab 19	・タンク閉止	建組内班	2	0:50																					
Ab 21	・可搬型挿入先セル圧力計設置	建組内班	2	0:20																					
Ab 22	・可搬型データ記録	建組内班	2	1:05																					
Ab 23	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	1:05																					
Ab 24	・可搬型貯槽水位調整機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	8	1:30																					
Ab 25	・分搬型可搬型塩化計測機構 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	0:20																					
Ab 26	・挿入先セル圧力確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	1:00																					
Ab 27	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	6	0:50																					
Ab 28	・冷却コイル等の健全性確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:35																					
Ab 29	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:20																					
Ab 30	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	6	0:40																					
Ab 31	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	6	1:40																					
Ab 32	・冷却コイル等の健全性確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	1:10																					
Ab 33	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:40																					
Ab 34	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	4	0:40																					
Ab 35	・可搬型建組内ホース等調整 (分搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	6	0:40																					
Ab 36	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	12	0:10																					
Ab 37	・冷却コイル等の健全性確認 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	8	0:25																					
Ab 38	・冷却コイル等への通水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	8	3:40																					
Ab 39	・可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認	建組内班	4	0:45																					
Ab 40	・可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認	建組内班	4	1:20																					
Ab 41	・可搬型貯槽水位調整機構及び貯槽水位計測 (分搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	1:00																					
Ab 42	・貯槽等への注水実施 (可搬型建組内ホース敷設、接続、挿入、確認)	建組内班	2	0:15																					
Ab 38	・計測監視 (貯槽等塩化、貯槽水位、貯槽等注水流量、冷却コイル等注水流量、冷却コイル等注水温度、冷却コイル等注水圧力、可搬型塩化計測機構及び可搬型塩化注水機等へのデータの補給)	建組内班	4	—																					

分搬建屋における地震又は火山を想定した場合の非稼働等の注水、冷却コイル等への通水、セルへの導出管路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その3)



4B. A= 4B 元

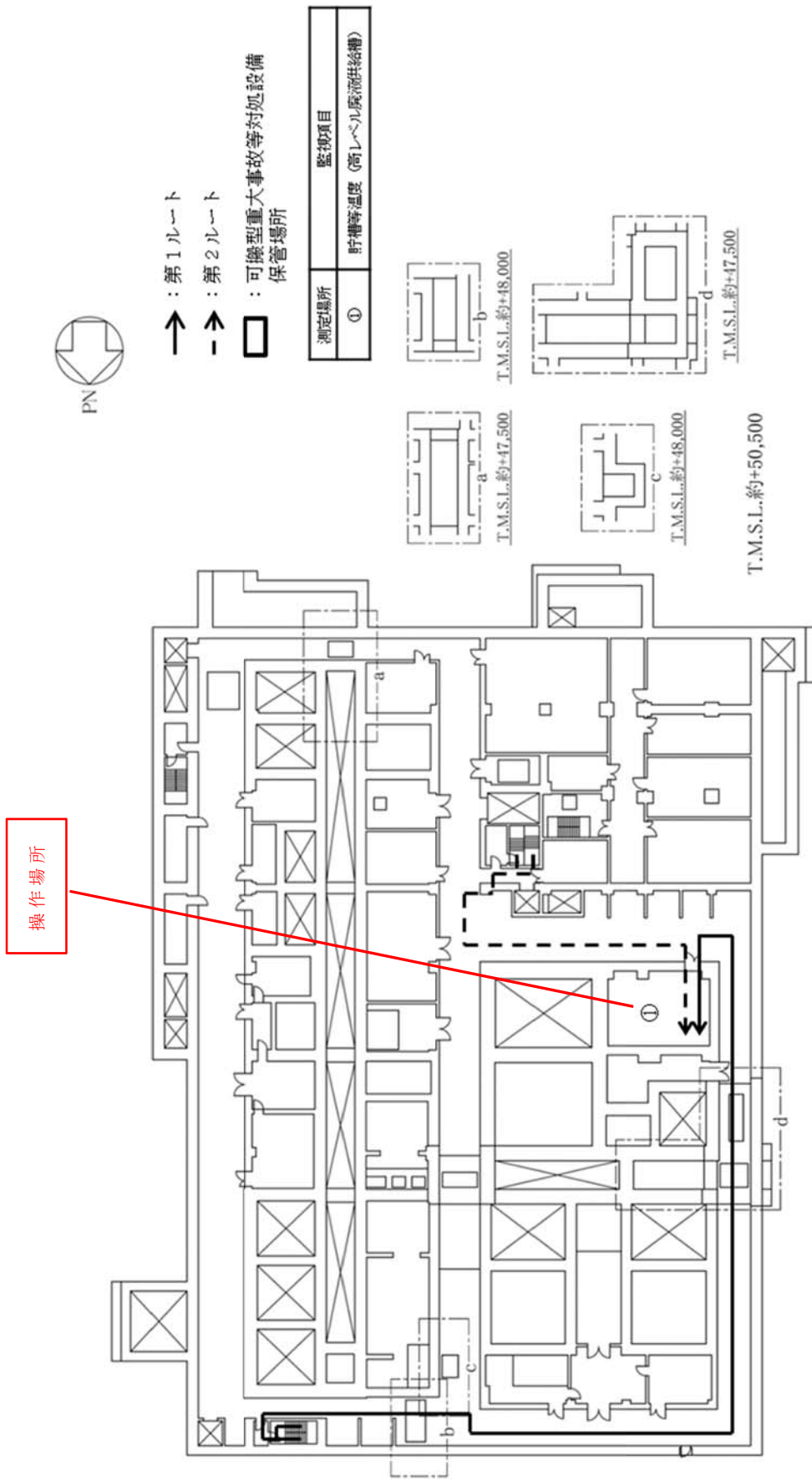


- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

測定場所	監視項目
①	貯槽等温度 (送給途中貯槽)
②	貯槽等温度 (抽出戻り貯槽)
③	貯槽等温度 (抽出戻り途中貯槽 A)
④	貯槽等温度 (抽出戻り貯槽 B)
⑤	貯槽等温度 (第1-1排貯槽処理槽)
⑥	貯槽等温度 (第3-1排貯槽処理槽)
⑦	貯槽等温度 (第4-1排貯槽処理槽)
⑧	貯槽等温度 (第6-1排貯槽処理槽)
⑨	貯槽等温度 (第7-1排貯槽処理槽)
⑩	貯槽等温度 (第8-1排貯槽処理槽)
⑪	
⑫	
⑬	
⑭	内部ループ通水流量

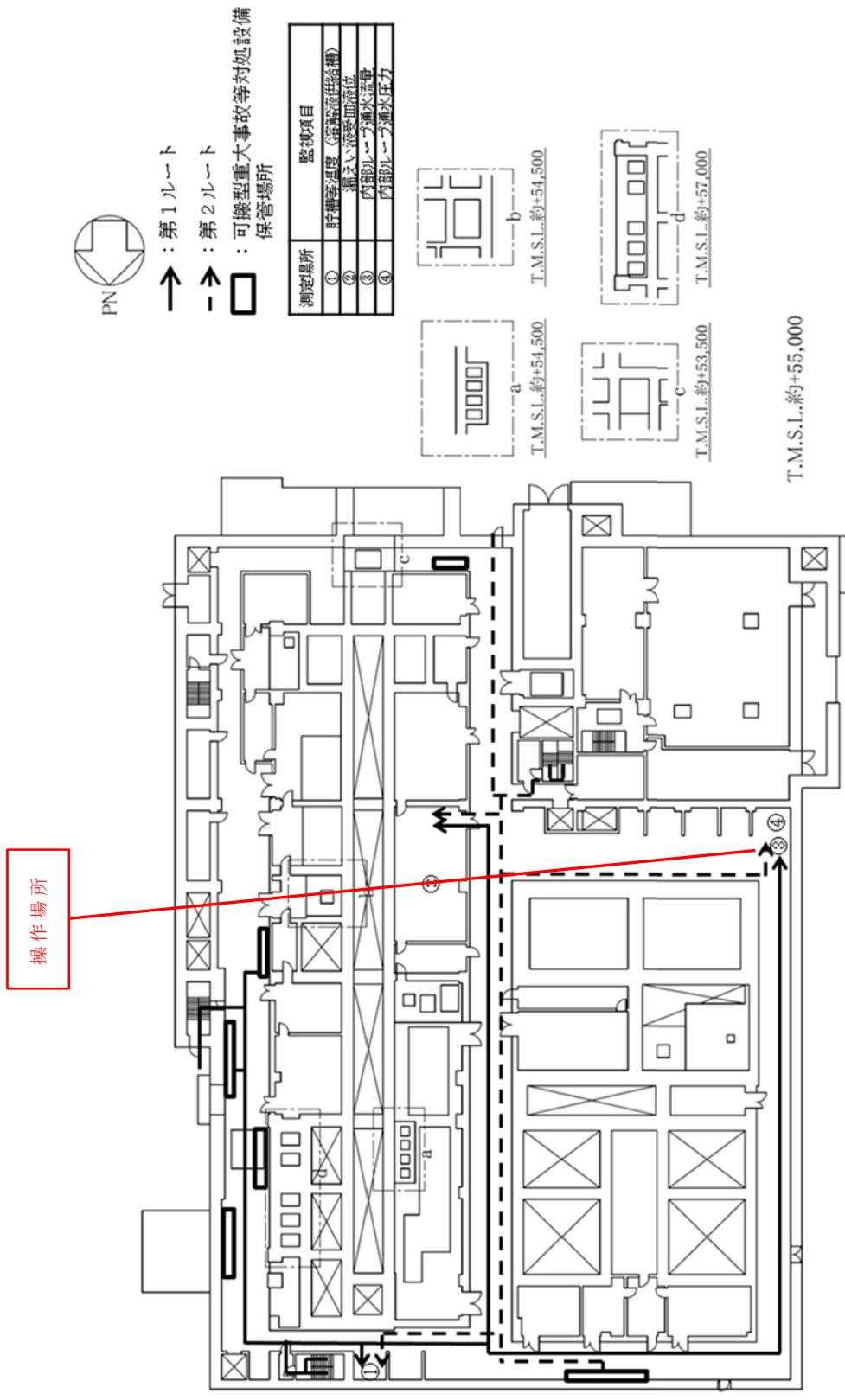
T.M.S.L.約+43,500

蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地下2階)



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 分離建屋（地下1階）



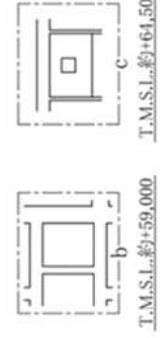
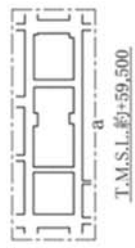
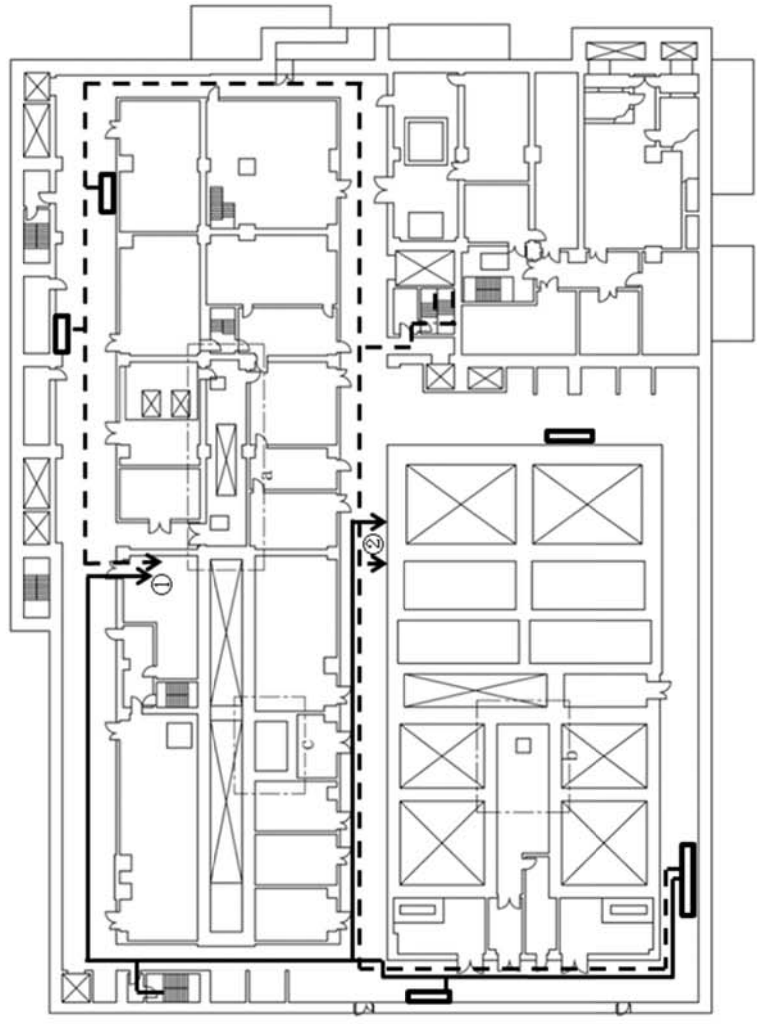


蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地上1階)



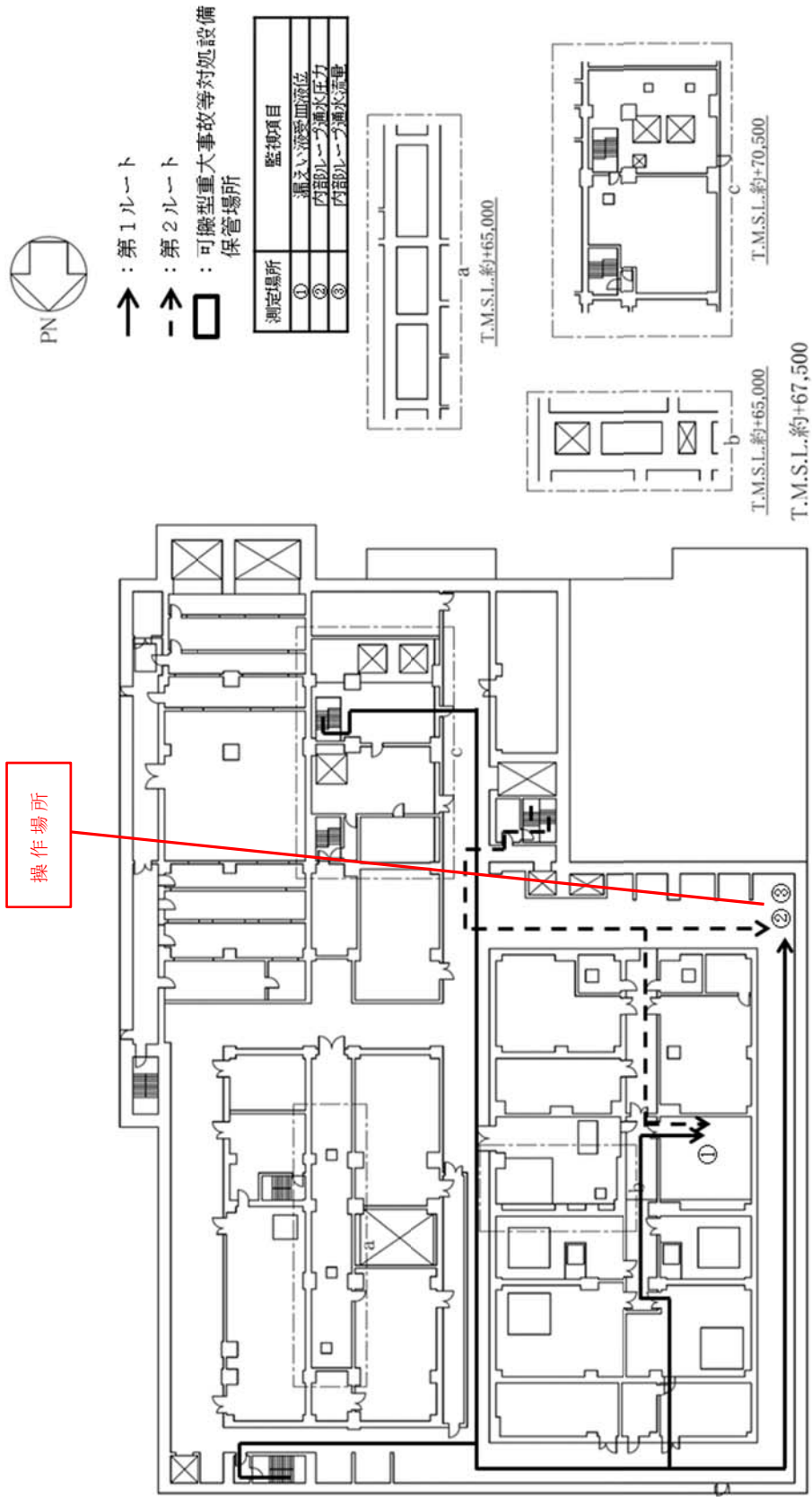
- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

測定場所	監視項目
①	漏えい液受皿液位
②	貯槽等温度 (高レベル液体漏出時)



T.M.S.L.約+62,000

蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地上2階)



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 分離建屋（地上3階）

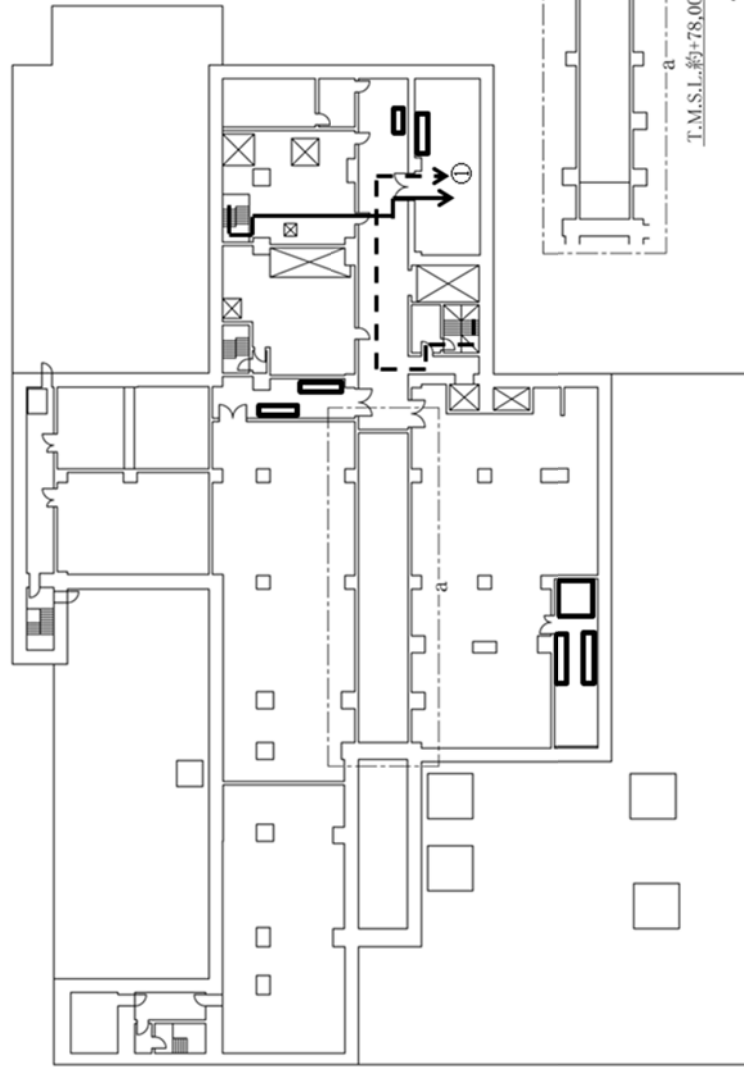


↑ : 第1ルート

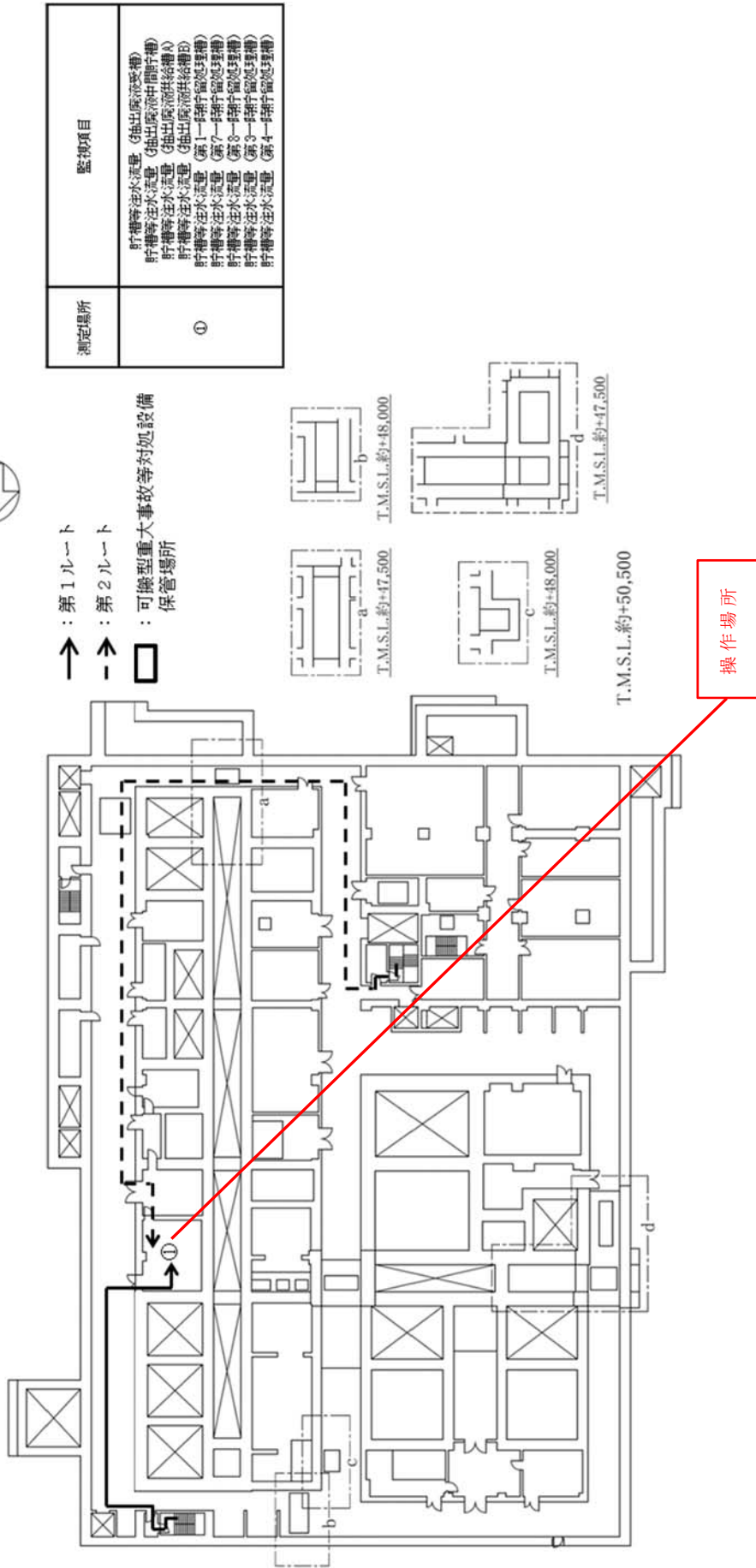
-> : 第2ルート

□ : 可機重大事故等対処設備  
保管場所

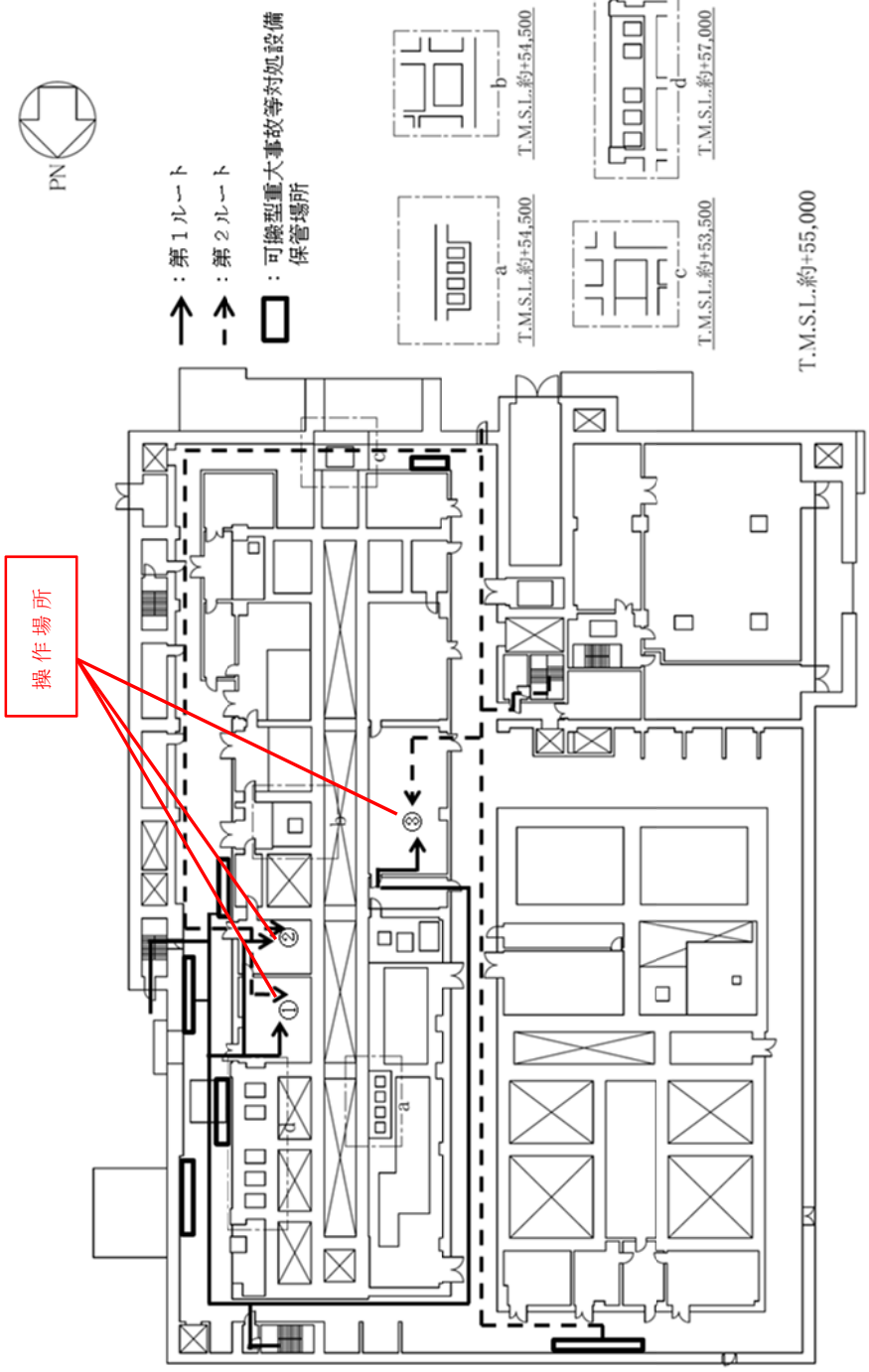
計測場所	監視項目
①	膨張槽液位



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 分離建屋（地上4階）



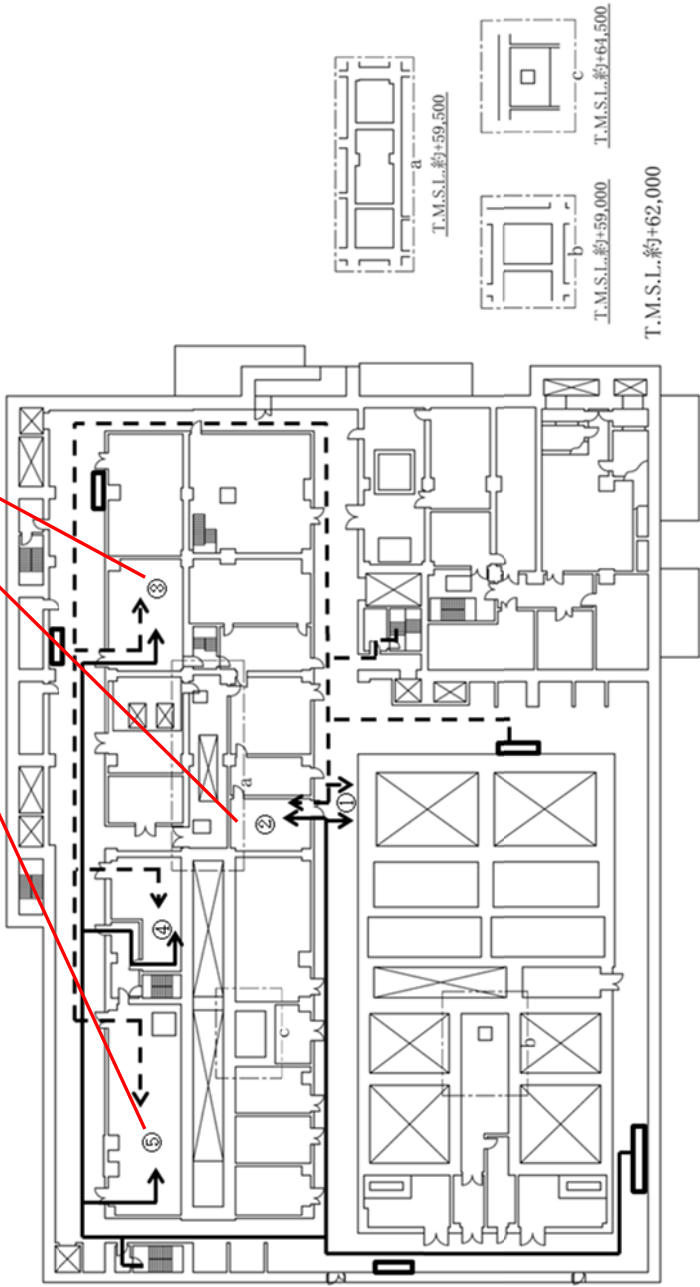
蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 分離建屋 (地下1階)



測定場所	監視項目
①	貯槽等注水流量 (常運転中間貯槽) 貯槽等注水流量 (抽出戻液受槽)
②	貯槽等注水流量 (第 3 号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第 1 号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第 8 号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第 6 号貯留処理槽) 貯槽等液位 (抽出戻液受槽)
③	貯槽等液位 (抽出戻液中間貯槽) 貯槽等液位 (抽出戻液供給槽A) 貯槽等液位 (抽出戻液供給槽B) 貯槽等液位 (第 1 号貯留処理槽) 貯槽等液位 (第 8 号貯留処理槽) 貯槽等液位 (第 3 号貯留処理槽) 貯槽等液位 (第 7 号貯留処理槽) 貯槽等液位 (第 4 号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第 6 号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (抽出戻液中間貯槽) 貯槽等注水流量 (抽出戻液供給槽A) 貯槽等注水流量 (抽出戻液供給槽B)
① 若しくは ③	

蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 分離建屋 (地上1階)

操作場所



- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

測定場所	監視項目
①	貯槽等温度 (高レベル廃液濃縮釜)
②	貯槽等注水流量 (第7-1号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第3-1号貯留処理槽)
③	貯槽等注水流量 (第4-1号貯留処理槽)
④	貯槽等液位 (溶融液中間貯槽) 貯槽等液位 (溶融液供給槽)
⑤	貯槽等注水流量 (第1-1号貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第8-1号貯留処理槽)
② 若しくは ④ 若しくは ③	貯槽等注水流量 (溶融液中間貯槽)
④ 若しくは ③	貯槽等注水流量 (溶融液供給槽)
② 若しくは ⑤	貯槽等注水流量 (抽出廃液受槽)

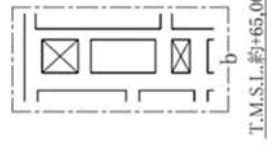
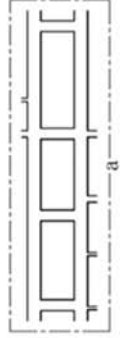
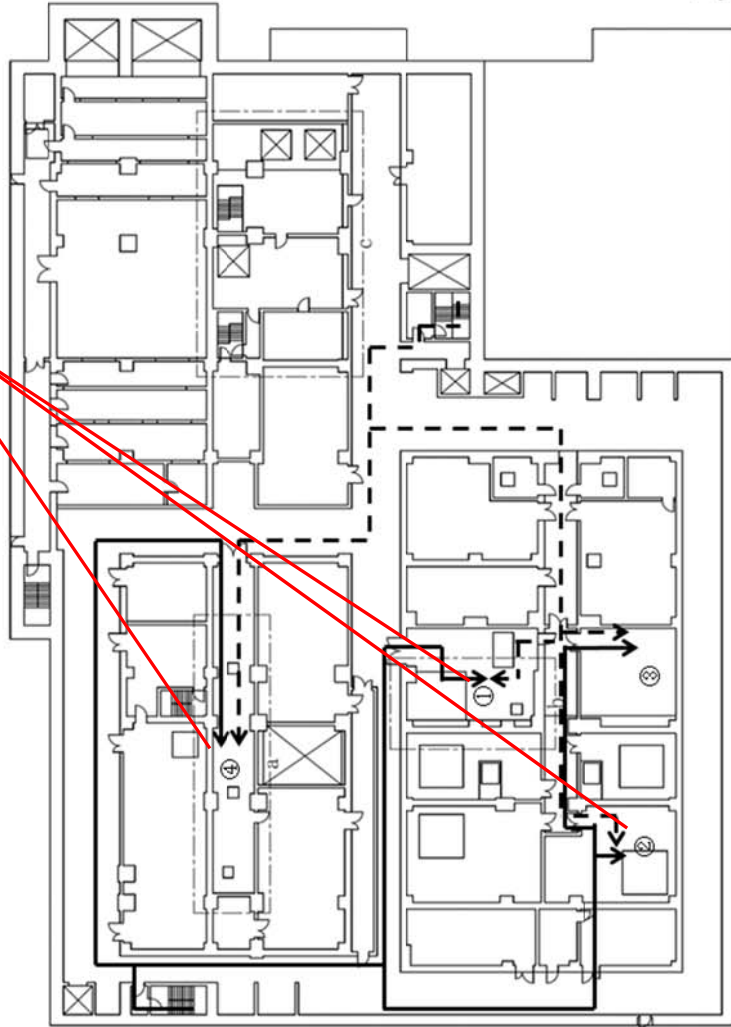
蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 分離建屋 (地上2階)

操作場所



- ↑ : 第1ルート
- ↑- : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

測定場所	監視項目
① 若しくは ②	貯槽等注水流量 (高レベル廃液供給槽)
② 若しくは ③	貯槽等注水流量 (高レベル廃液供給槽)
③	貯槽等液位 (高レベル廃液供給槽) 貯槽等液位 (高レベル廃液供給槽)
④	貯槽等注水流量 (溶解液供給槽) 貯槽等注水流量 (第7一時貯留処理槽) 貯槽等注水流量 (第4一時貯留処理槽)



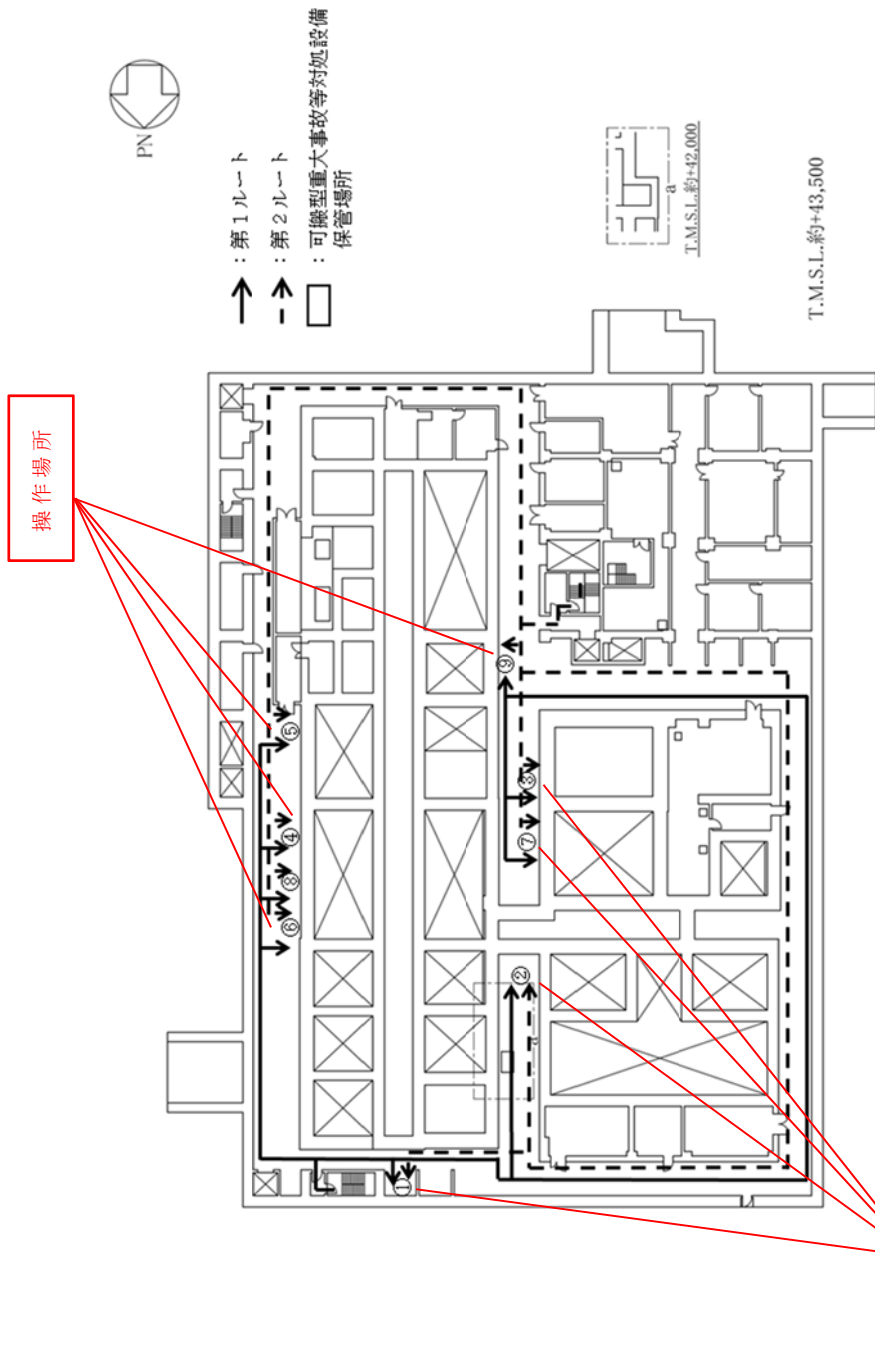
T.M.S.L.約+65,000  
T.M.S.L.約+67,500

蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 分離建屋 (地上3階)

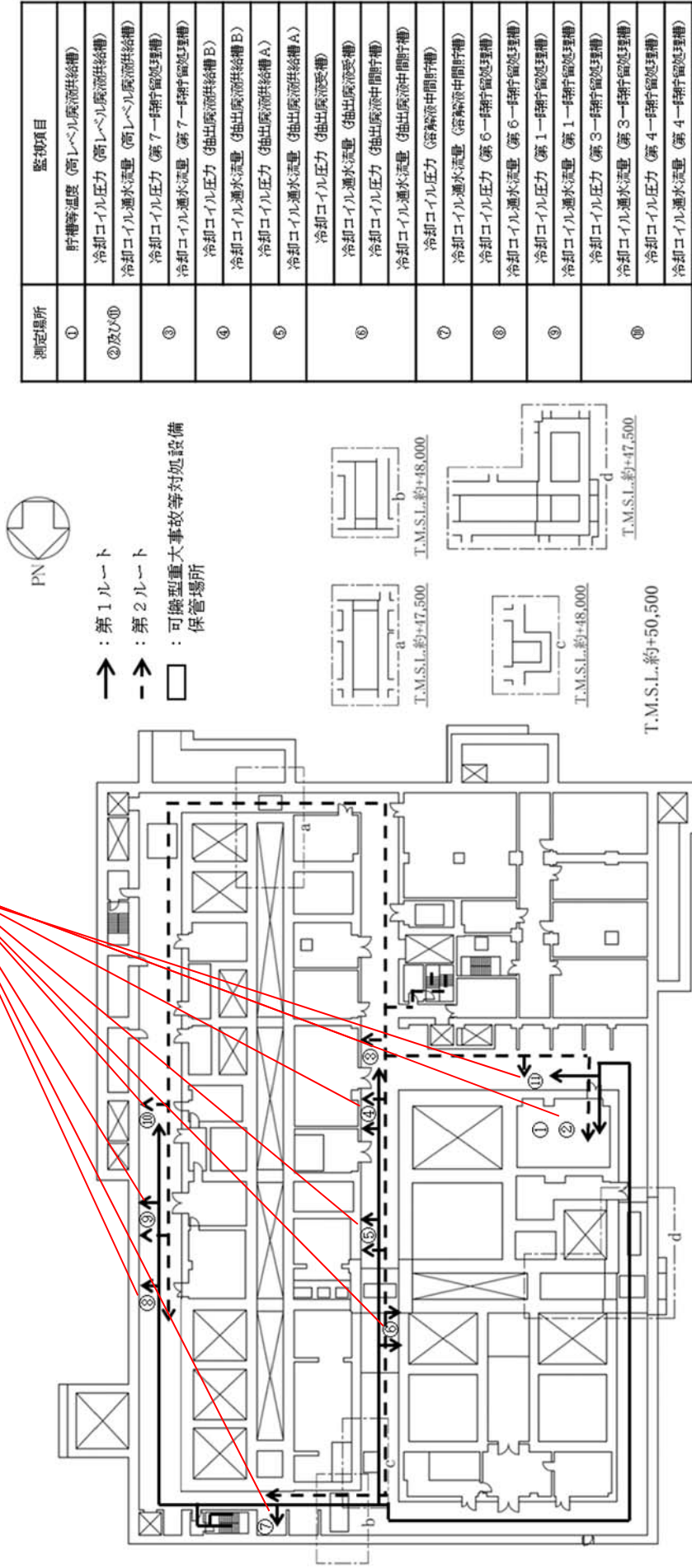


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル通水による冷却）のアクセスルート 分離建屋（地下2階）

測定場所	監視項目
①	貯槽等温度（溶融液中間貯槽）
	冷却コイル圧力（溶融液中間貯槽）
	冷却コイル通水流量（溶融液中間貯槽）
②	貯槽等温度（抽出廃液受槽）
	貯槽等温度（抽出廃液中間貯槽）
	冷却コイル圧力（抽出廃液受槽）
	冷却コイル通水流量（抽出廃液受槽）
	冷却コイル圧力（抽出廃液中間貯槽）
	冷却コイル通水流量（抽出廃液中間貯槽）
③	貯槽等温度（抽出廃液供給槽A）
	貯槽等温度（抽出廃液供給槽B）
	冷却コイル圧力（抽出廃液供給槽B）
④	貯槽等温度（第1一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（抽出廃液供給槽B）
	冷却コイル圧力（第1一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第1一時貯留処理槽）
	貯槽等温度（第3一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第3一時貯留処理槽）
⑤	冷却コイル圧力（第3一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第3一時貯留処理槽）
	冷却コイル圧力（第4一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第4一時貯留処理槽）
	貯槽等温度（第6一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第6一時貯留処理槽）
⑥	冷却コイル圧力（第8一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第8一時貯留処理槽）
	貯槽等温度（第7一時貯留処理槽）
	冷却コイル圧力（抽出廃液供給槽A）
	冷却コイル通水流量（抽出廃液供給槽A）
	貯槽等温度（第8一時貯留処理槽）
⑦	冷却コイル圧力（第6一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第6一時貯留処理槽）
	冷却コイル圧力（第7一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第7一時貯留処理槽）
	冷却コイル圧力（第7一時貯留処理槽）
	冷却コイル通水流量（第7一時貯留処理槽）



操作場所

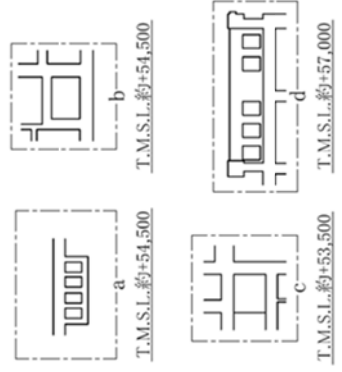
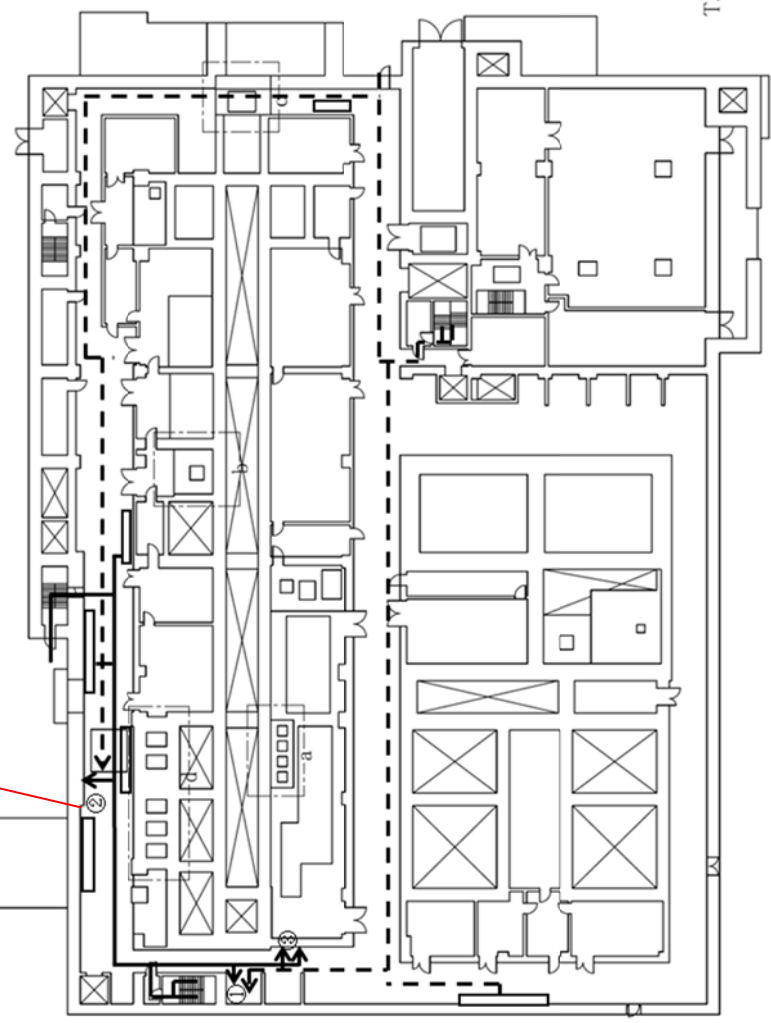


蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地下1階)

操作場所



- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+55,000

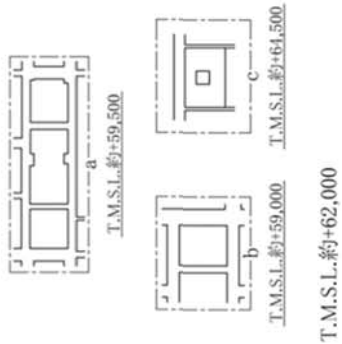
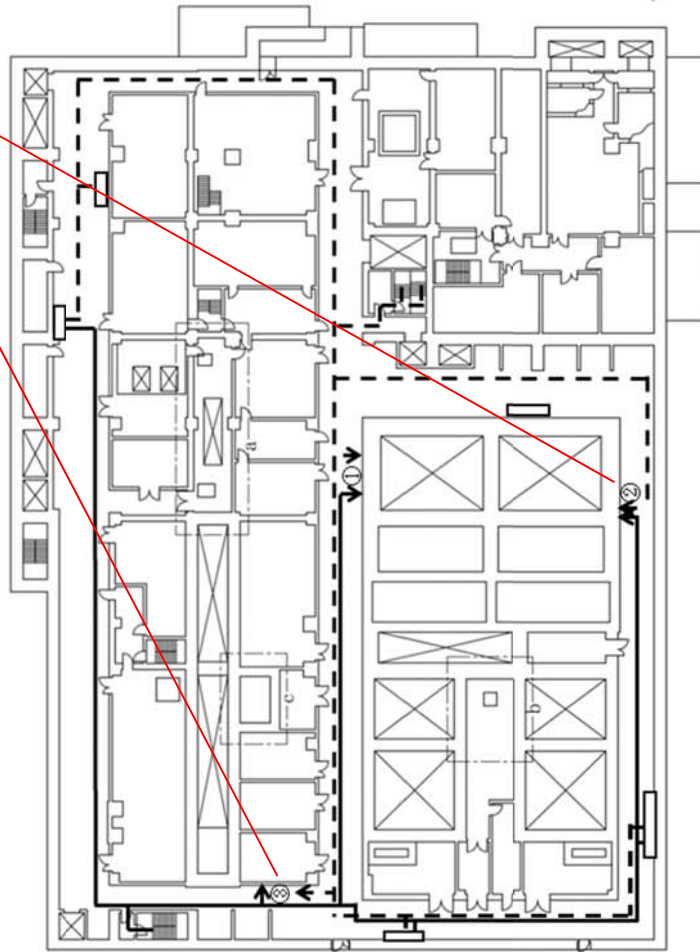
測定場所	監視項目
①	貯槽等温度 (密閉供給槽)
②	冷却コイル圧力 (第8-1号貯留処理槽) 冷却コイル通水流量 (第8-1号貯留処理槽)
③	冷却コイル圧力 (密閉供給槽) 冷却コイル通水流量 (密閉供給槽)

蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地上1階)

操作場所



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



測定場所	監視項目
①	貯槽等温度 (高レベル廃液濃縮缶)
②	冷却コイル圧力 (高レベル廃液濃縮缶)
③	冷却コイル通水流量 (高レベル廃液濃縮缶)
	冷却コイル圧力 (溶解液供給槽)
	冷却コイル通水流量 (溶解液供給槽)

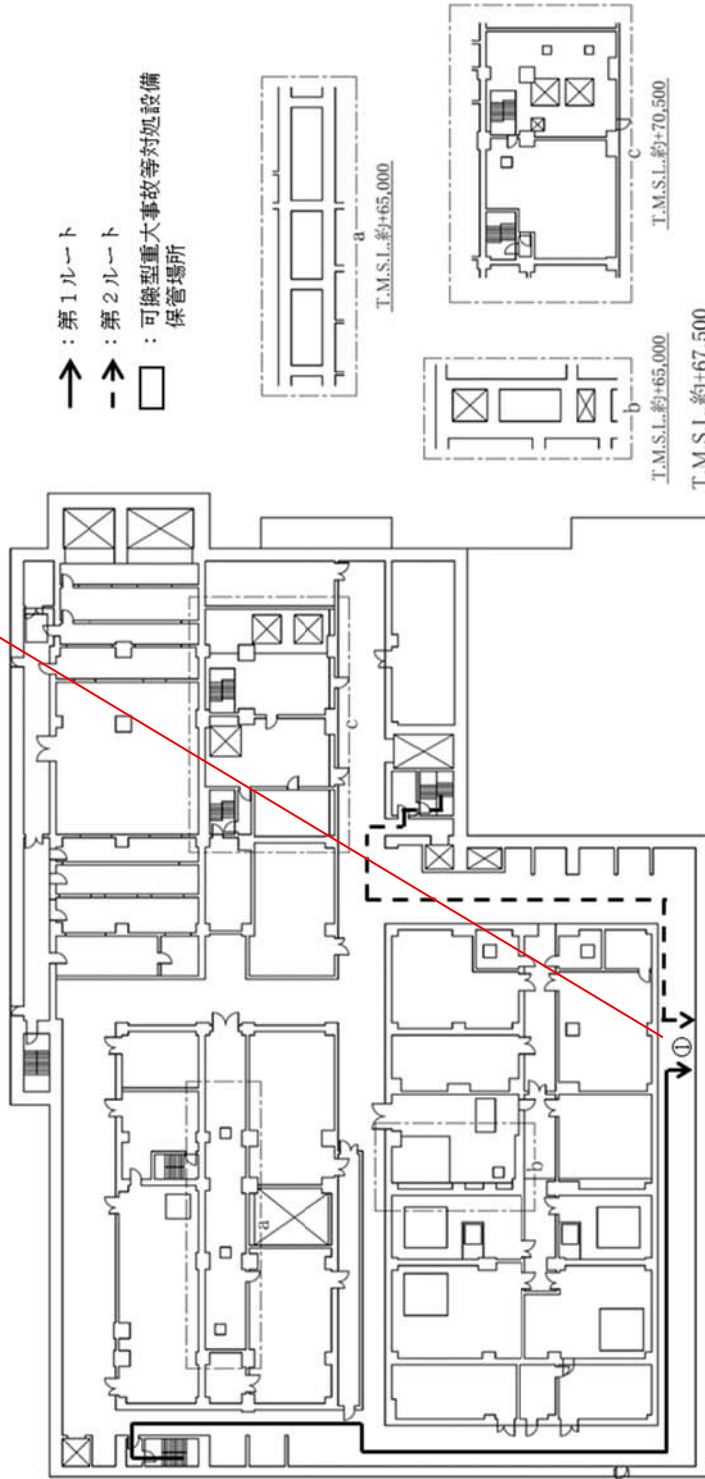
蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地上2階)

操作場所

測定場所	監視項目
①	冷却コイル圧力 (高レベル液体漏れ防止)
	冷却コイル通水流量 (高レベル液体漏れ防止)



- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可憐型重大事故等対応設備  
保管場所



蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル通水による冷却) のアクセスルート 分離建屋 (地上3階)

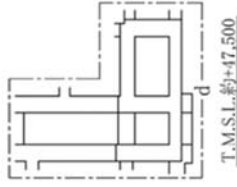
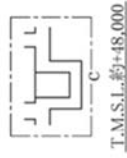
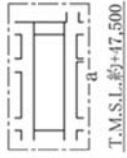
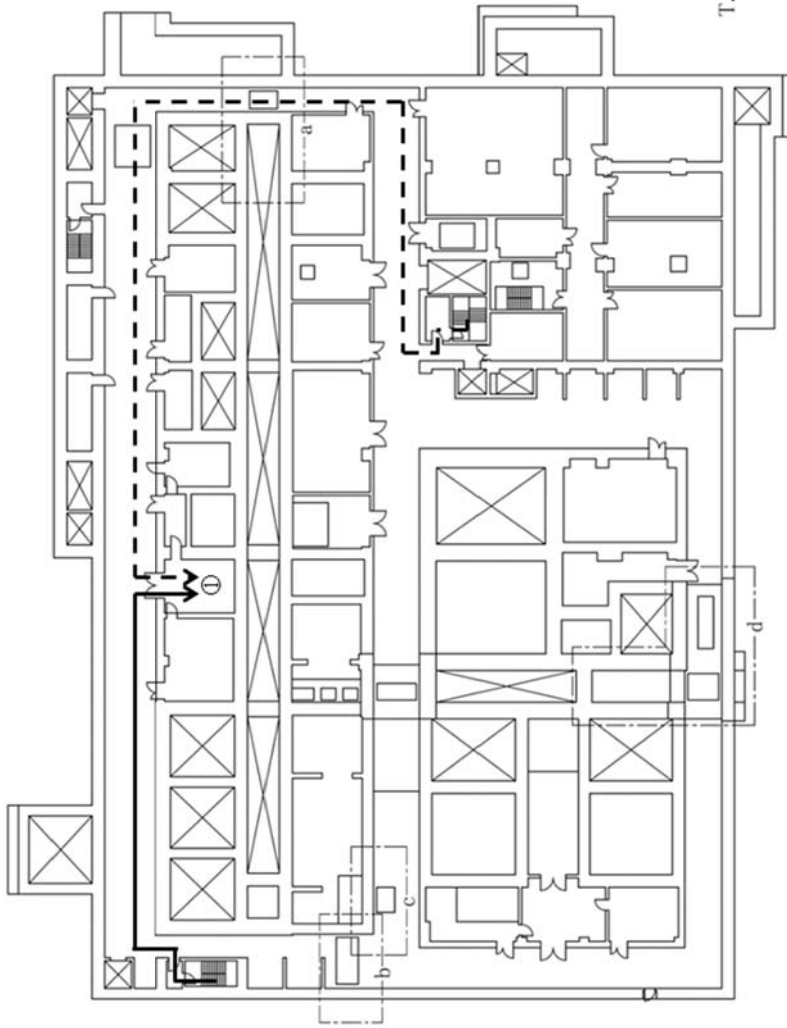


→ : 第1ルート

- -> : 第2ルート

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

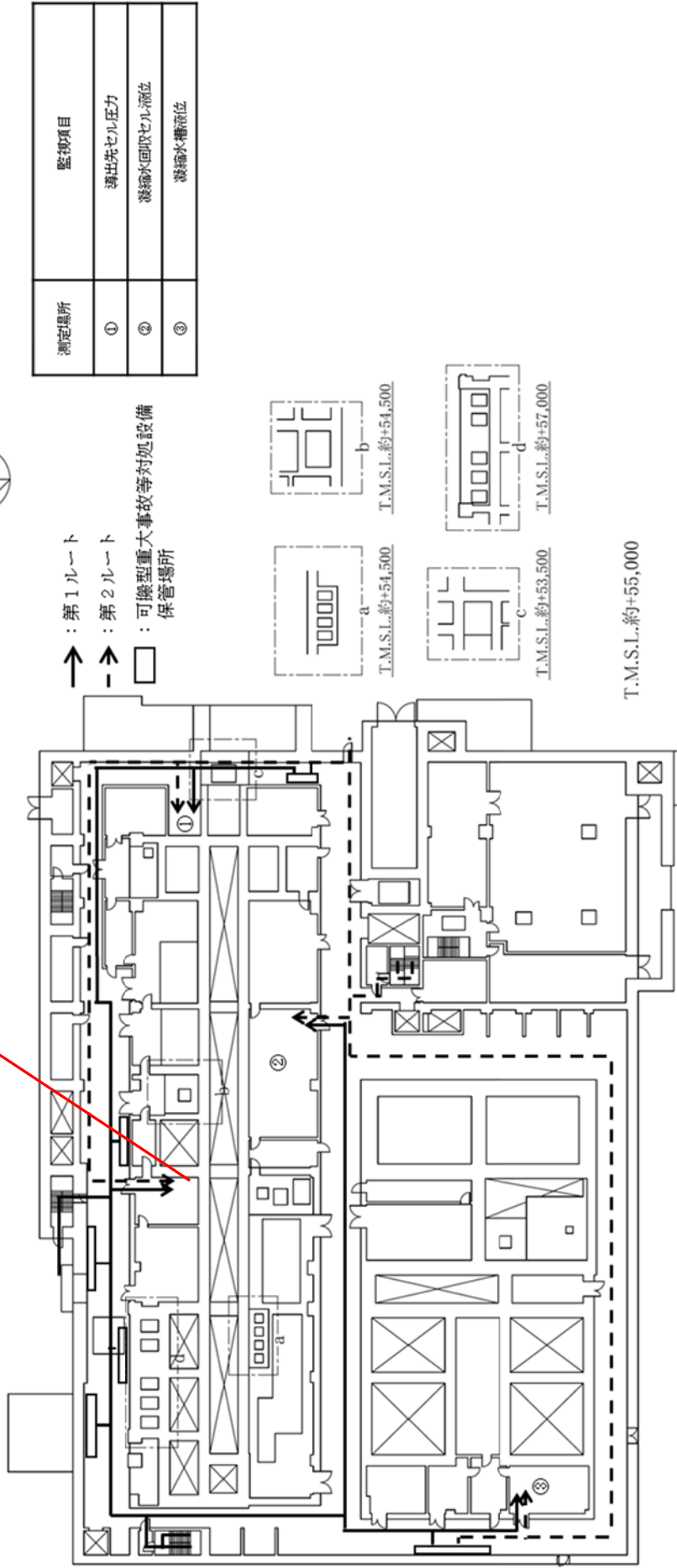
測定場所	監視項目
①	導出セル圧力



T.M.S.L.約+50,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート  
分離建屋（地下1階）

操作場所

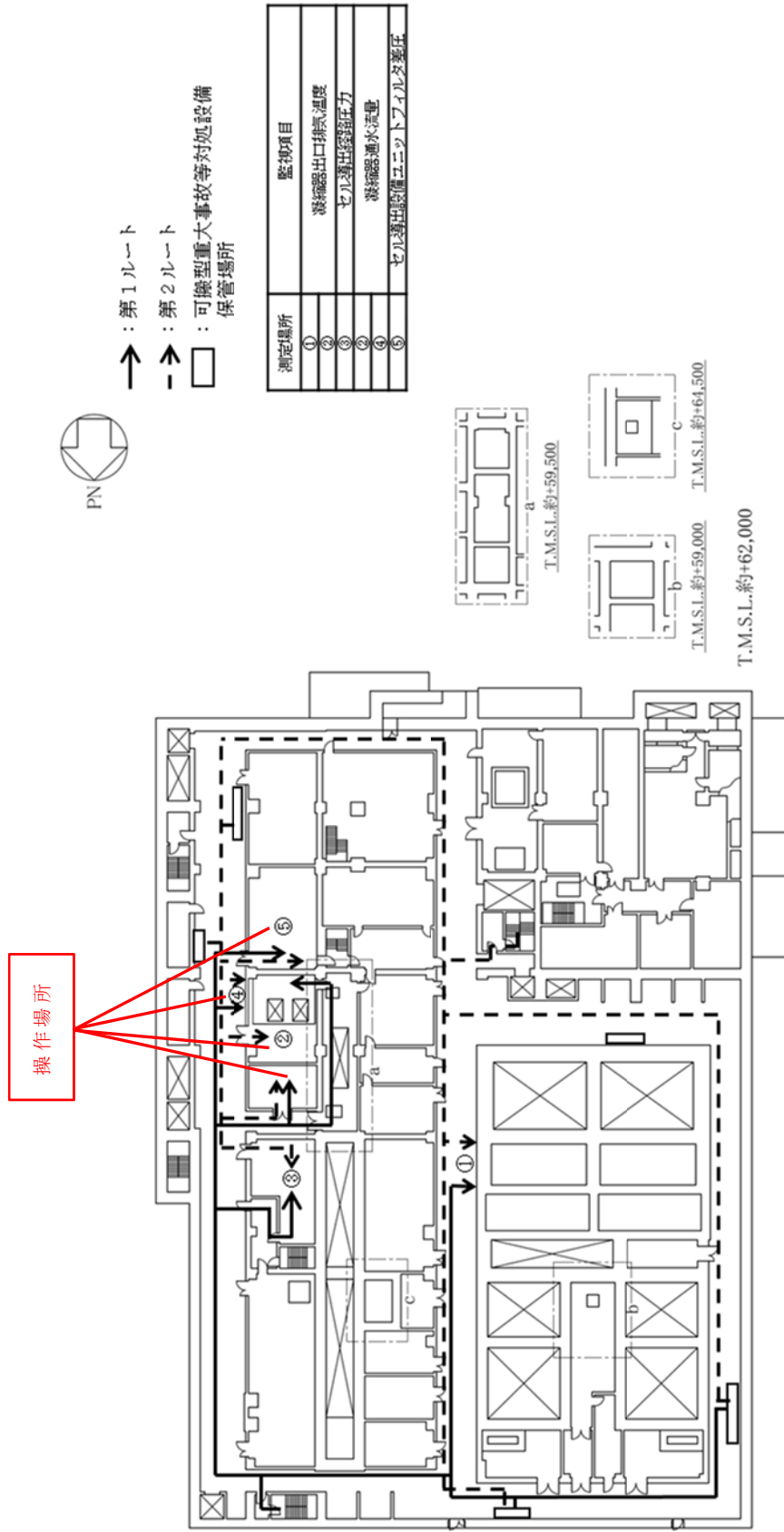


- : 第1ルート
- -> : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

測定場所	監視項目
①	導出先セル圧力
②	凝縮水回収セル液位
③	凝縮水槽液位

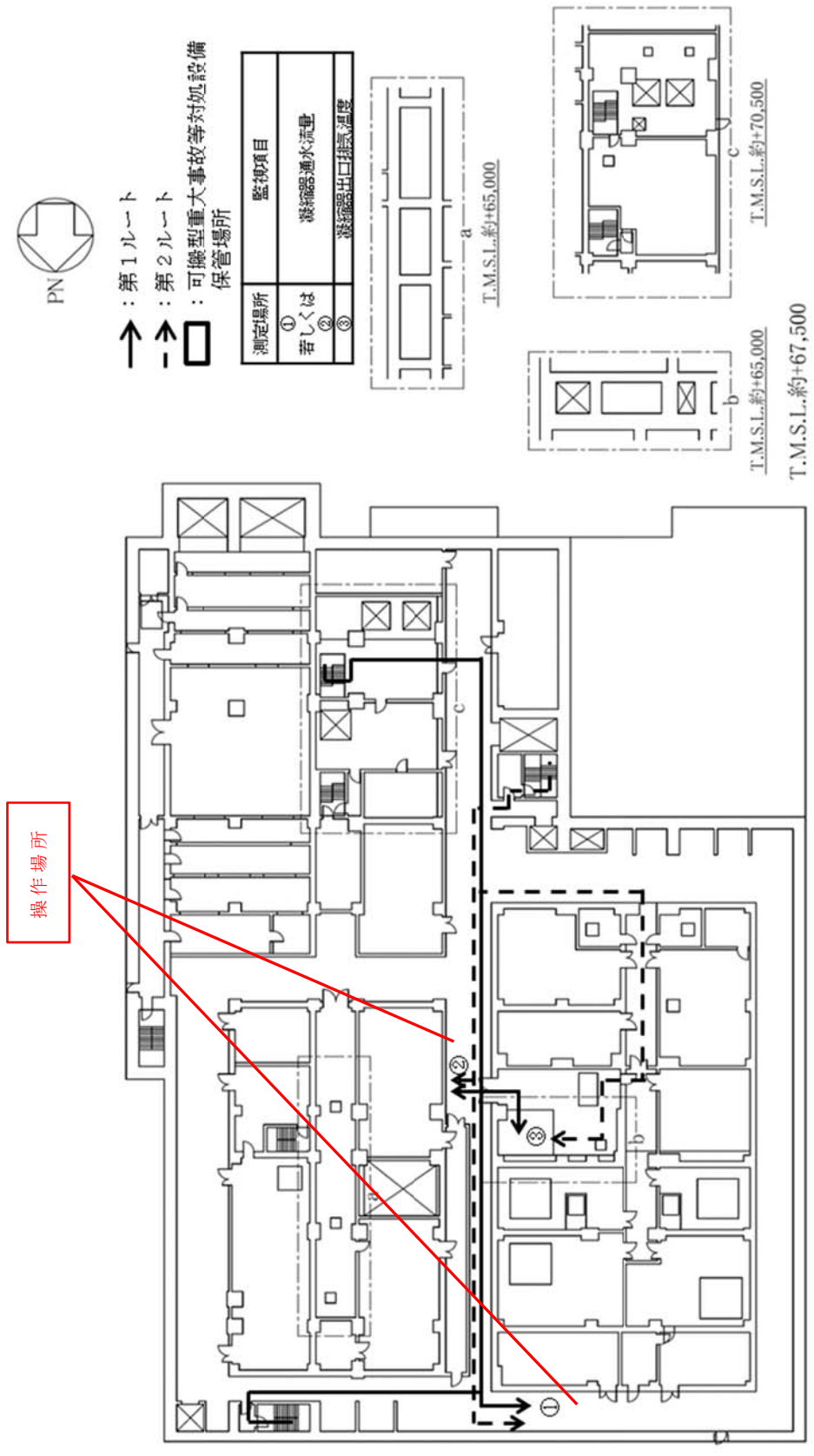
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート  
分離建屋（地上1階）



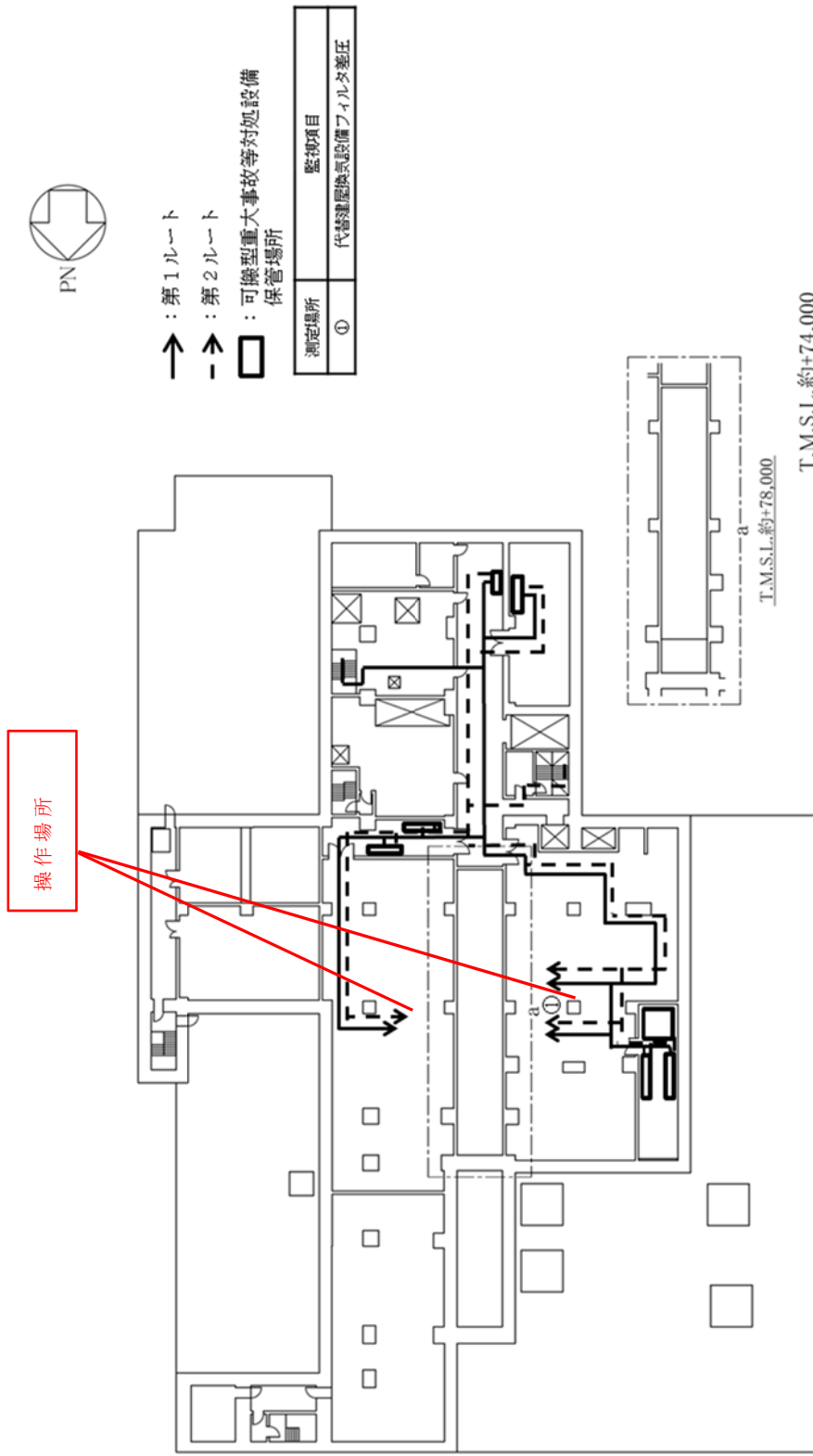


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート  
 分離建屋（地上2階）





蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート  
 分離建屋（地上3階）

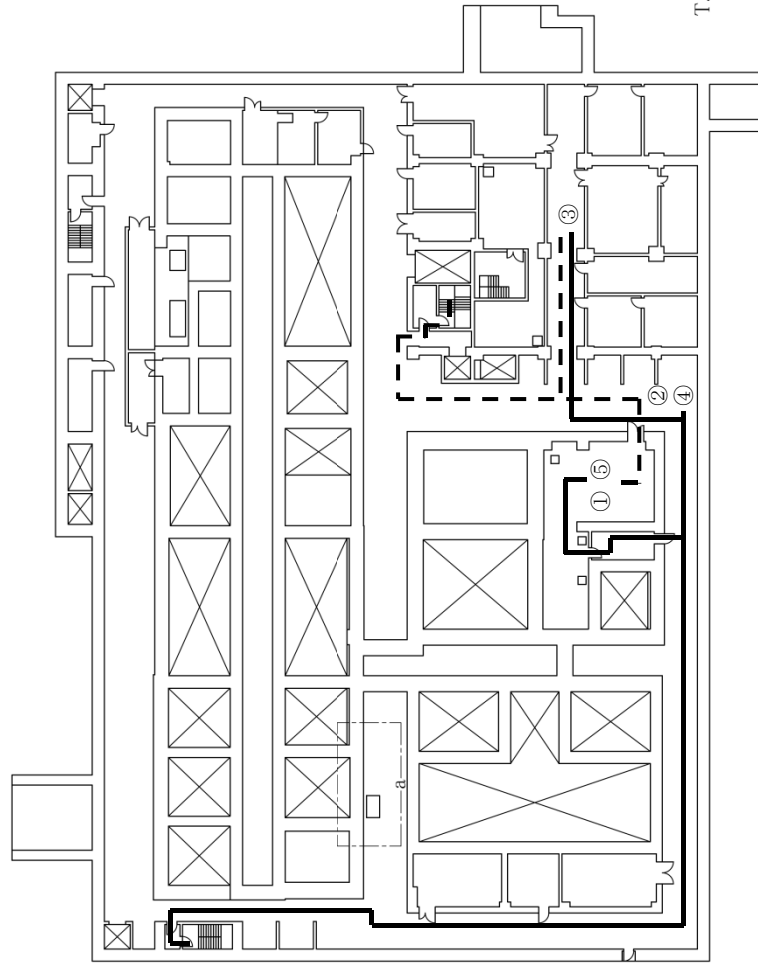


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）のアクセスルート  
 分離建屋（地上4階）



— : 第1ルート  
 - - : 第2ルート

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所



T.M.S.L.約+42,000

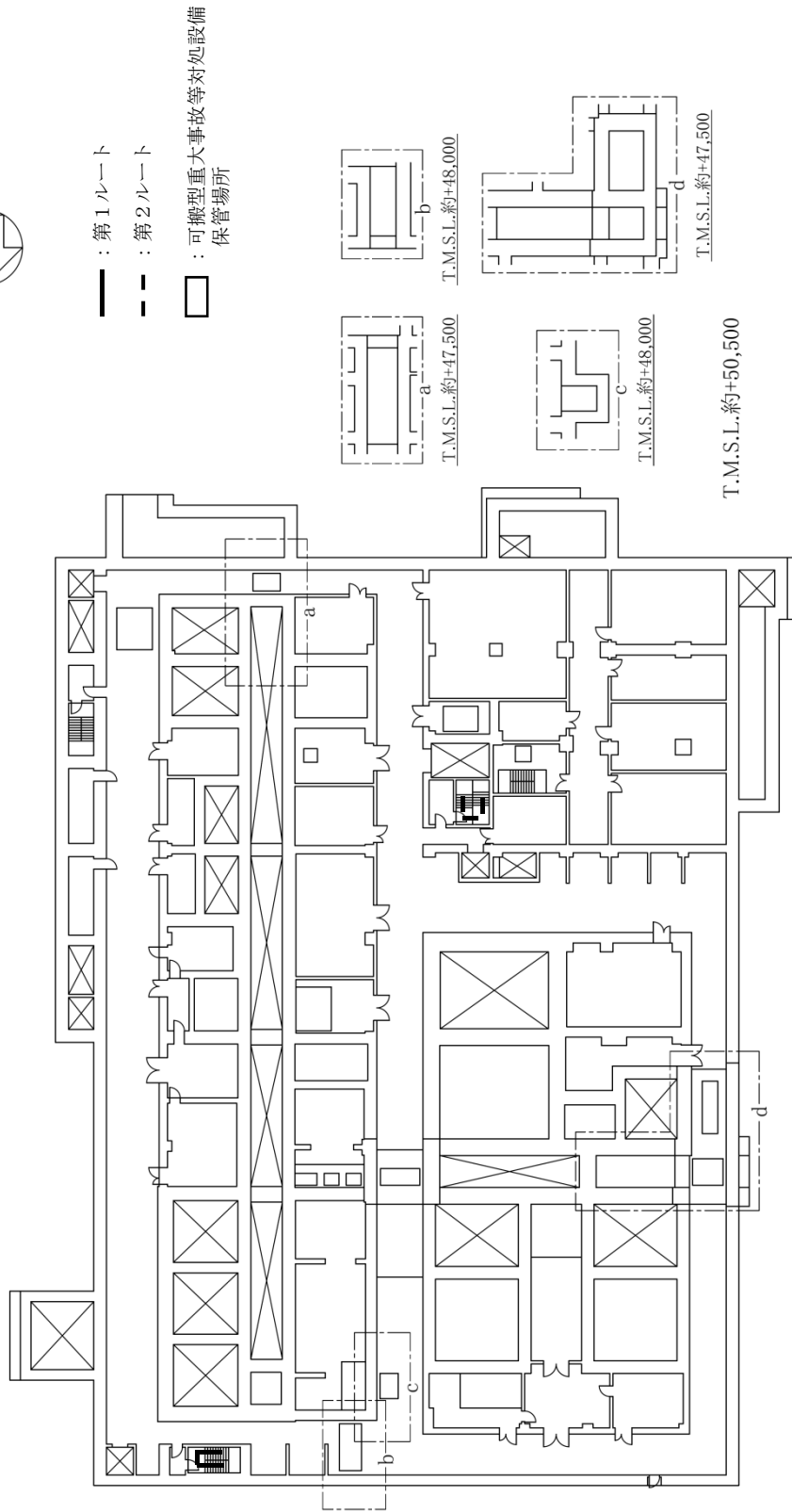
T.M.S.L.約+43,500

対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	① 若しくは ⑤
高レベル廃液係結槽	②
第6一時貯留処理槽	若しくは ③
溶解液中間貯槽	④
溶解液係結槽	
抽出廃液受槽	
抽出廃液中間貯槽	
抽出廃液係結槽A	
抽出廃液係結槽B	
第1一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	
第4一時貯留処理槽	④
第7一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	④

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
 （地下2階）



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

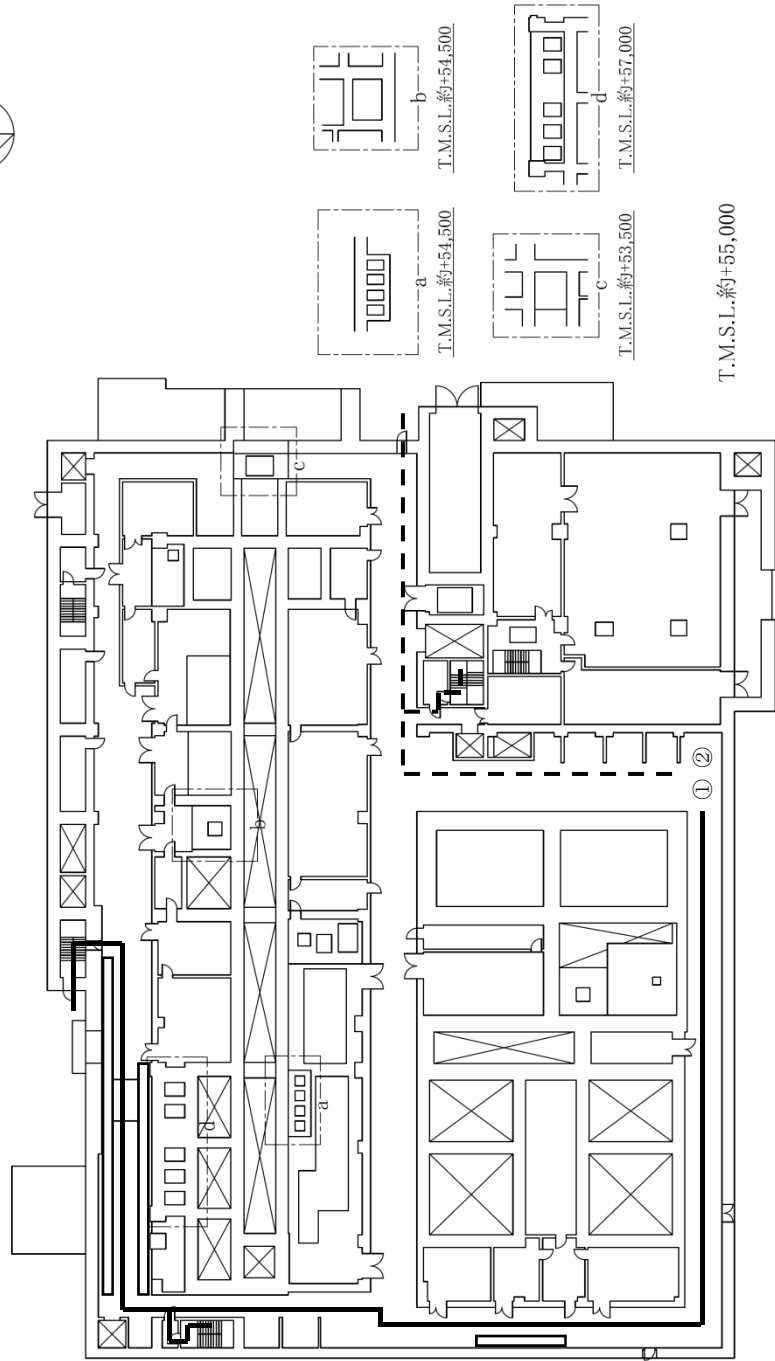


蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
（地下1階）



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

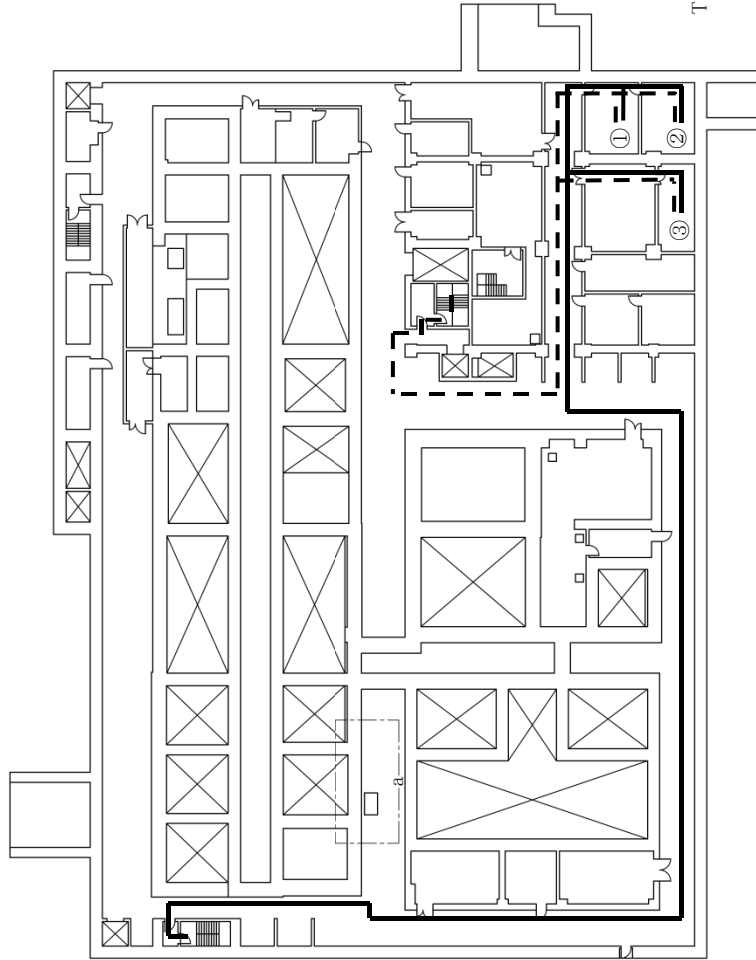
対象貯槽 高レベル廃液濃縮缶	接続口 ① 若しくは ②
-------------------	-----------------------



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
 （地上1階）



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+43,500

対象貯槽	接続口
高レベル廃液供給槽	① 若しくは ②
第6一時貯留処理槽	
溶解液中間貯槽	③
溶解液供給槽	
抽出廃液受槽	
抽出廃液中間貯槽	
抽出廃液供給槽A	
抽出廃液供給槽B	
第3一時貯留処理槽	
第4一時貯留処理槽	
第7一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	

T.M.S.L.約+42,000

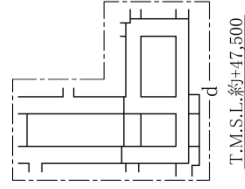
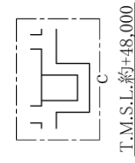
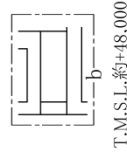
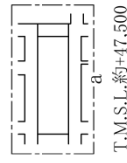
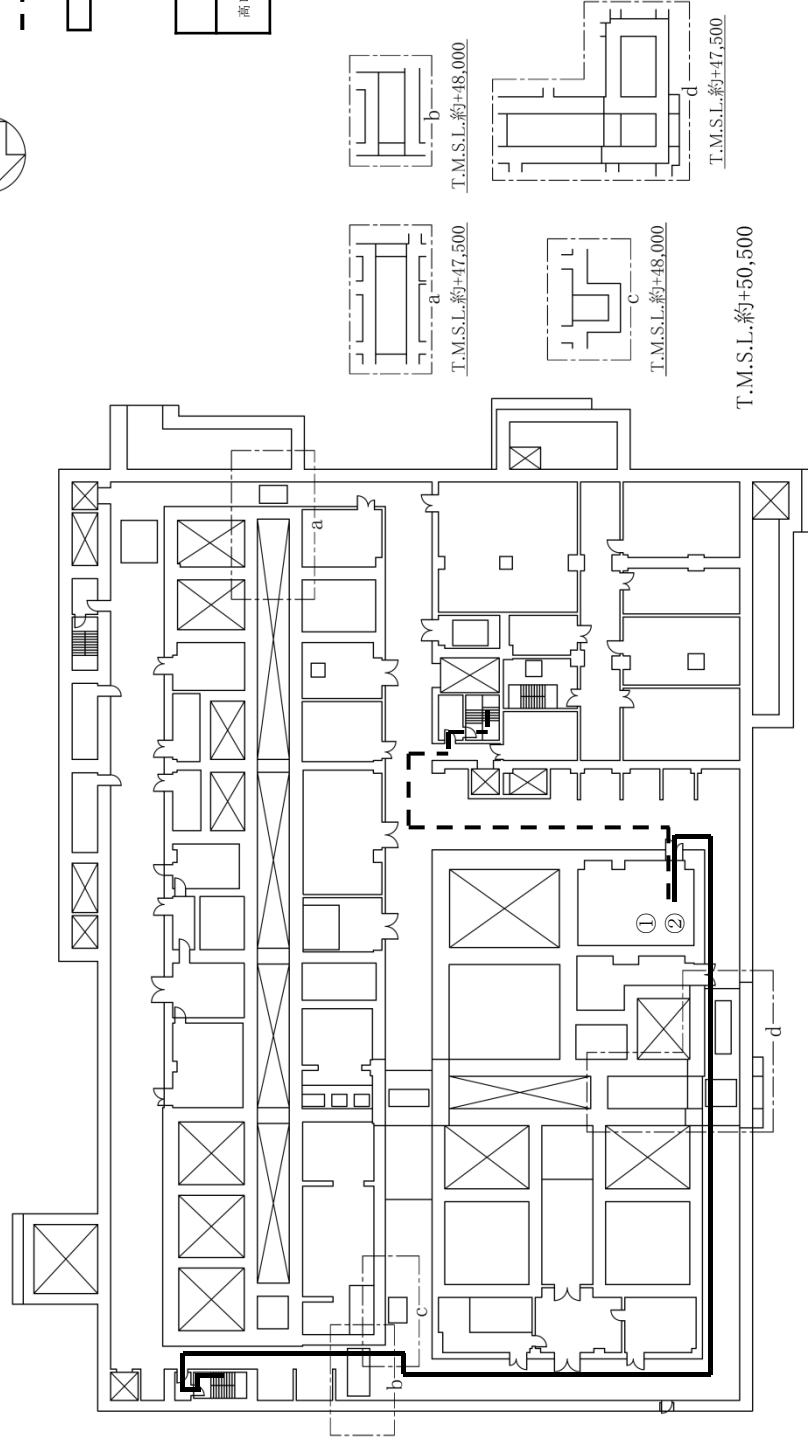
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地下2階）



— : 第1ルート  
 - - : 第2ルート

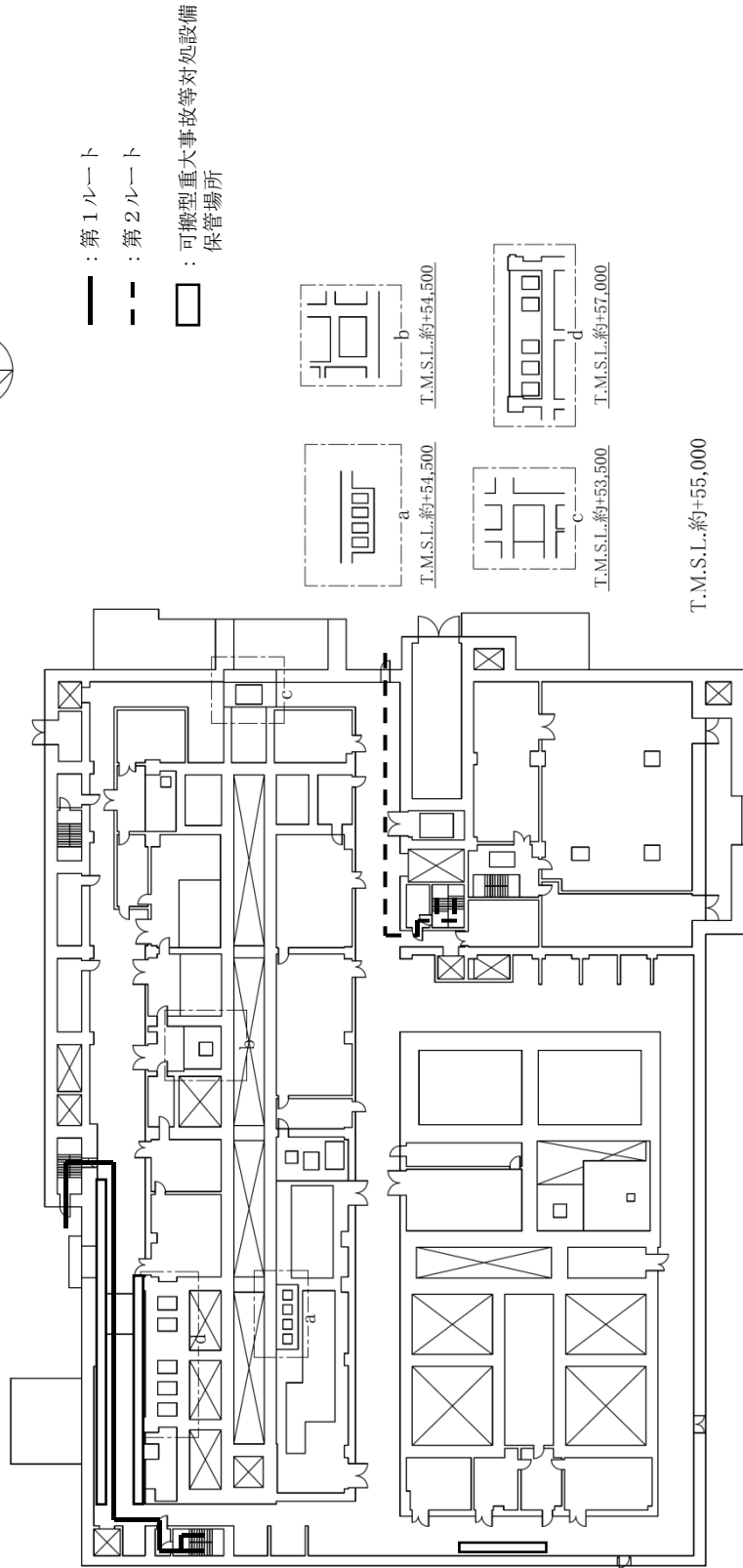
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所

対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	① 若しくは ②



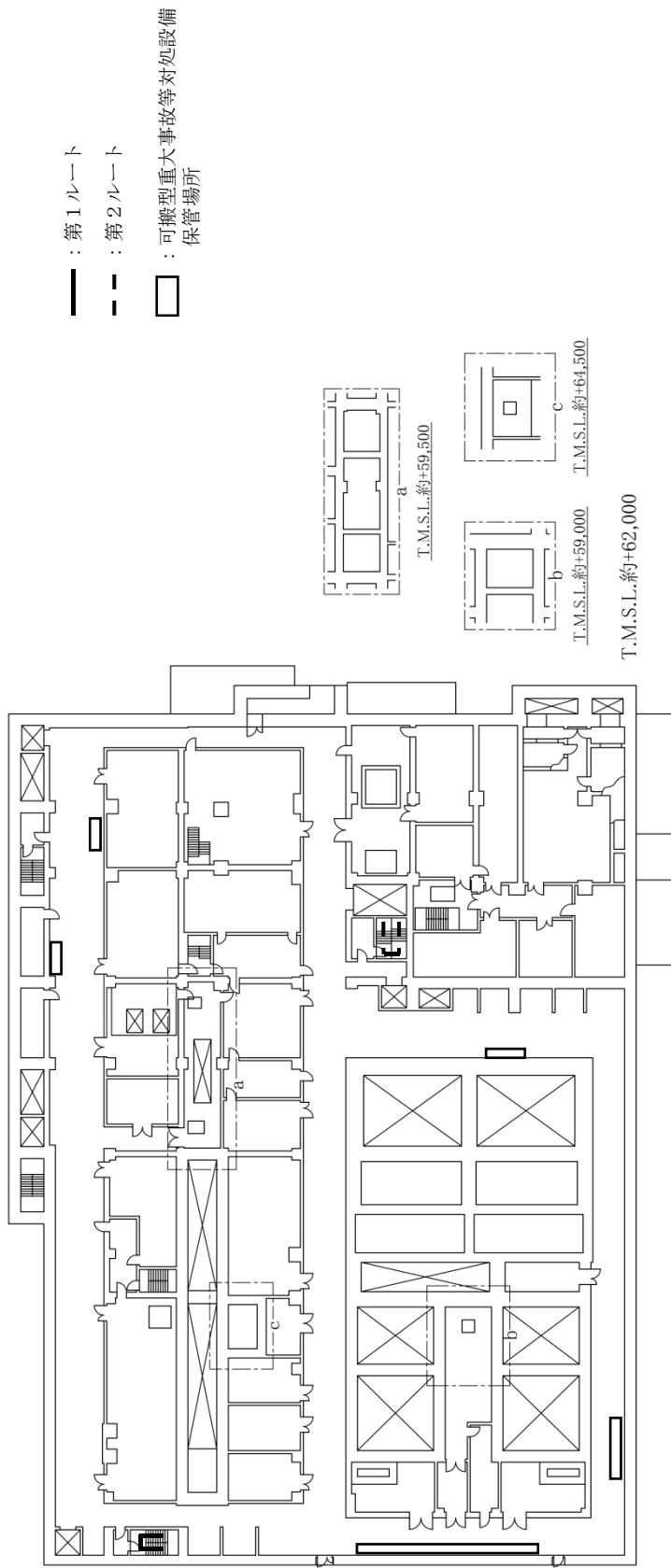
T.M.S.L.約+50,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
 （地下1階）



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地上1階）





蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地上2階）

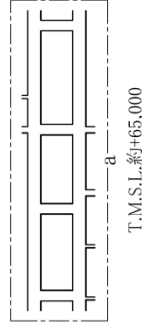
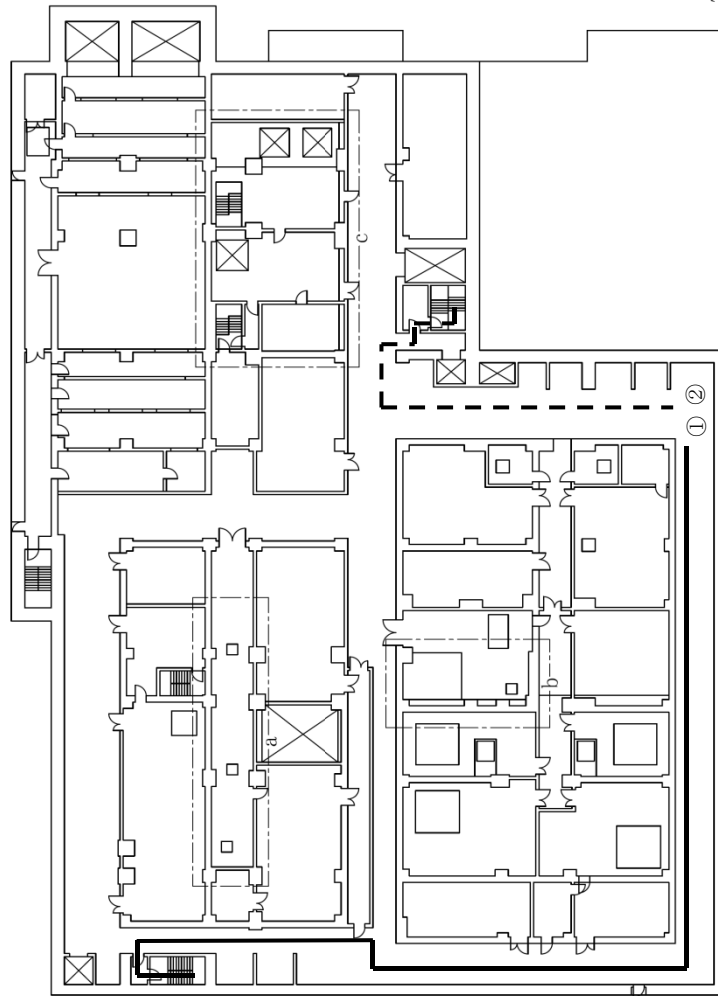


— : 第1ルート

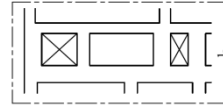
- - : 第2ルート

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

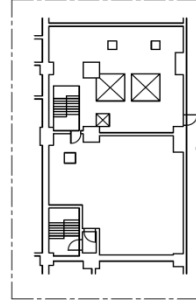
対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	① 若しくは ②



T.M.S.L.約+65,000



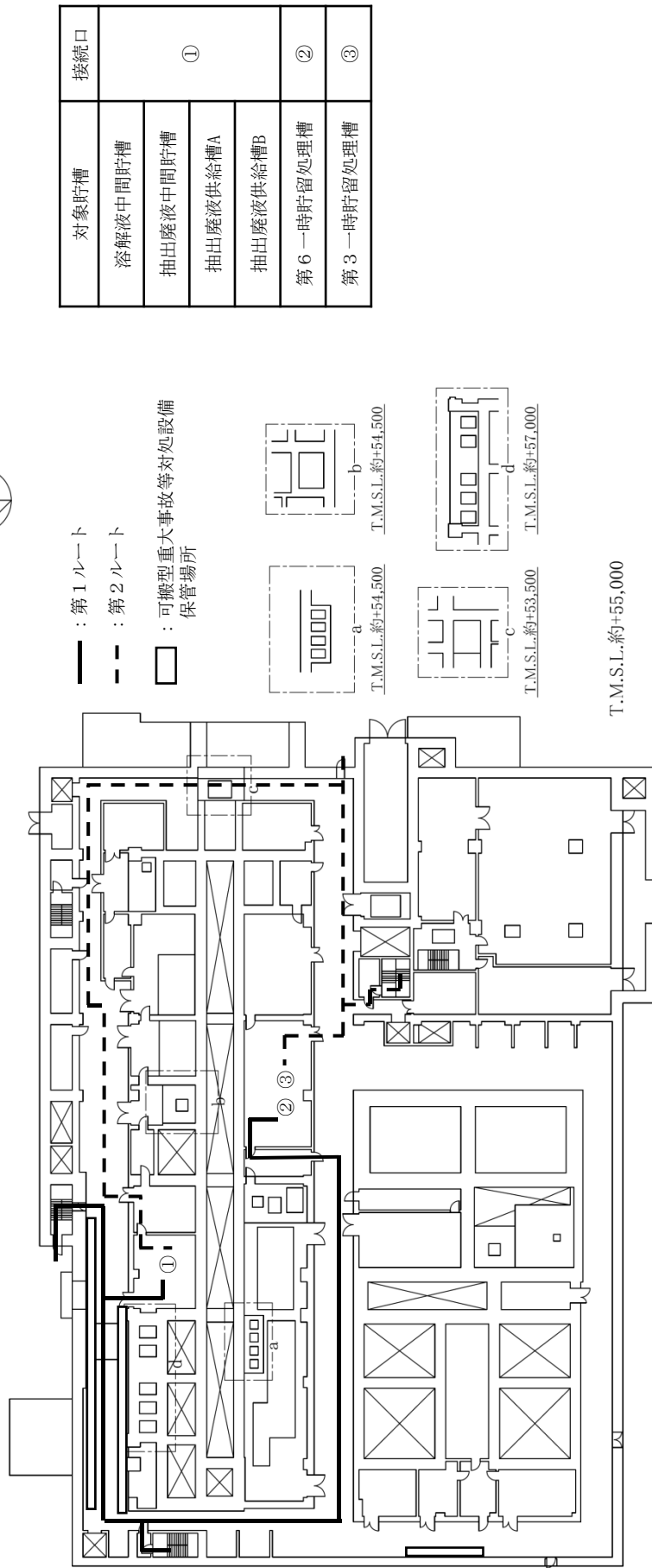
T.M.S.L.約+65,000



T.M.S.L.約+70,500

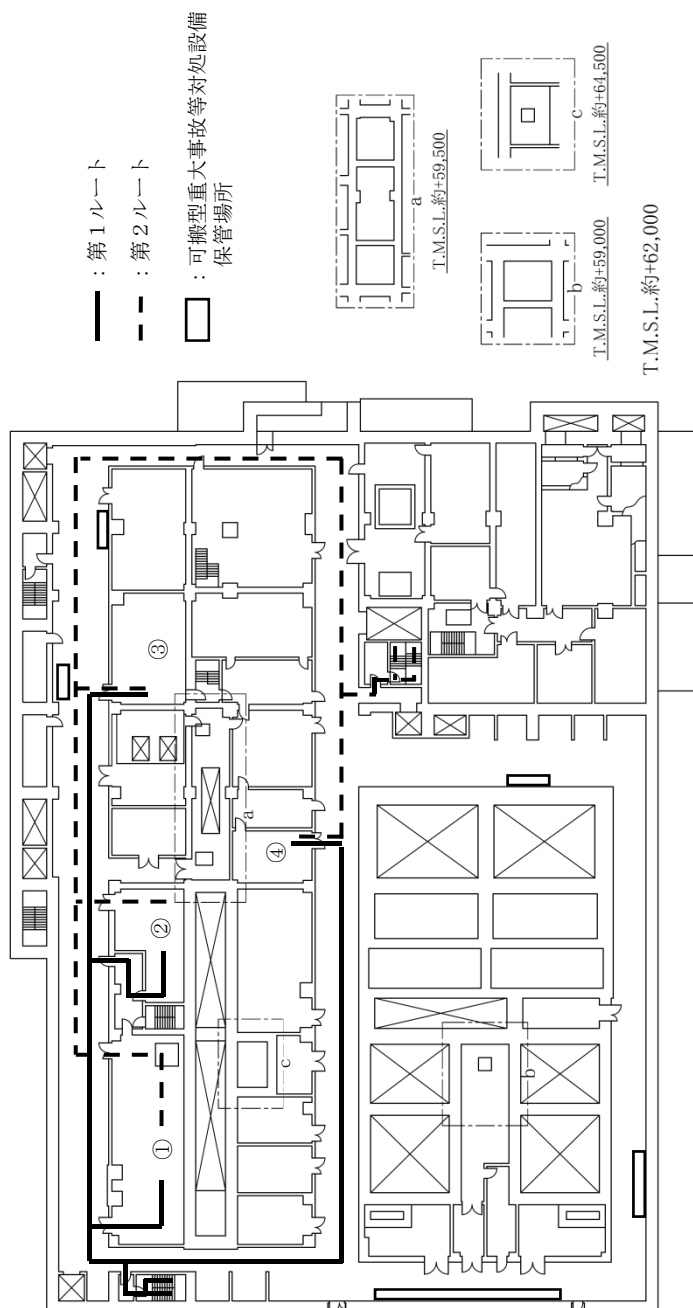
T.M.S.L.約+67,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地上3階）



対象貯槽	接続口
溶解液中間貯槽	①
抽出廃液中間貯槽	
抽出廃液供給槽A	
抽出廃液供給槽B	②
第6一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	③

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）（地上1階）



対象貯槽	接続口
抽出廃液受槽	
第1一時貯留処理槽	①
第8一時貯留処理槽	
溶解液供給槽	②
第4一時貯留処理槽	③
第7一時貯留処理槽	④

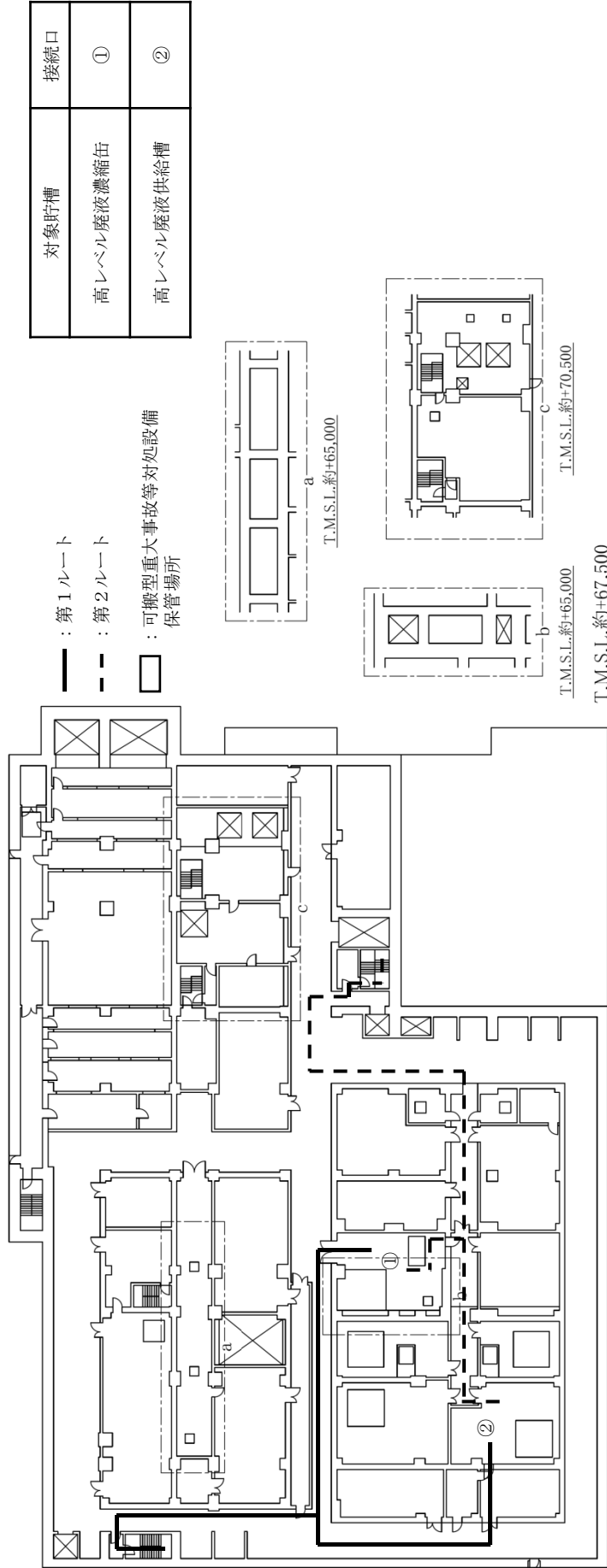
- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

T.M.S.L.L.約+59,500

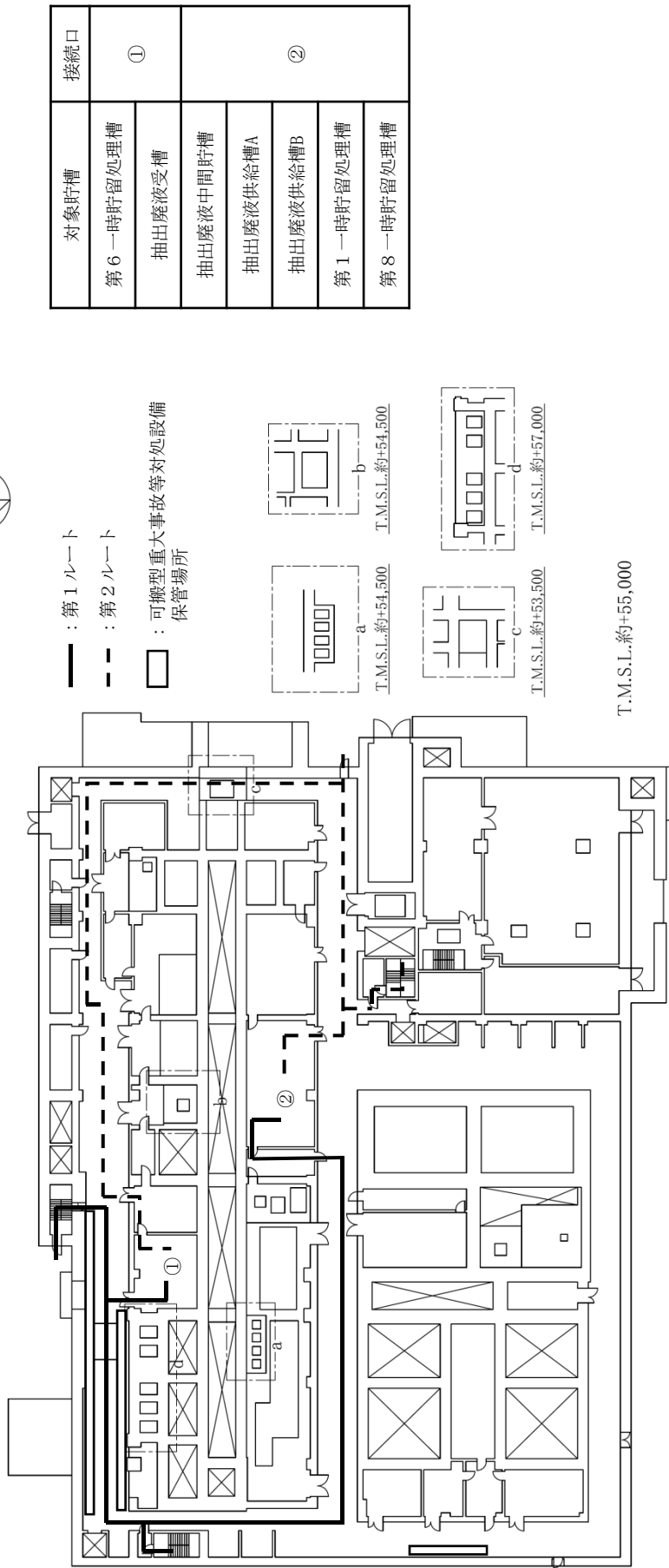
T.M.S.L.L.約+59,000

T.M.S.L.L.約+64,500

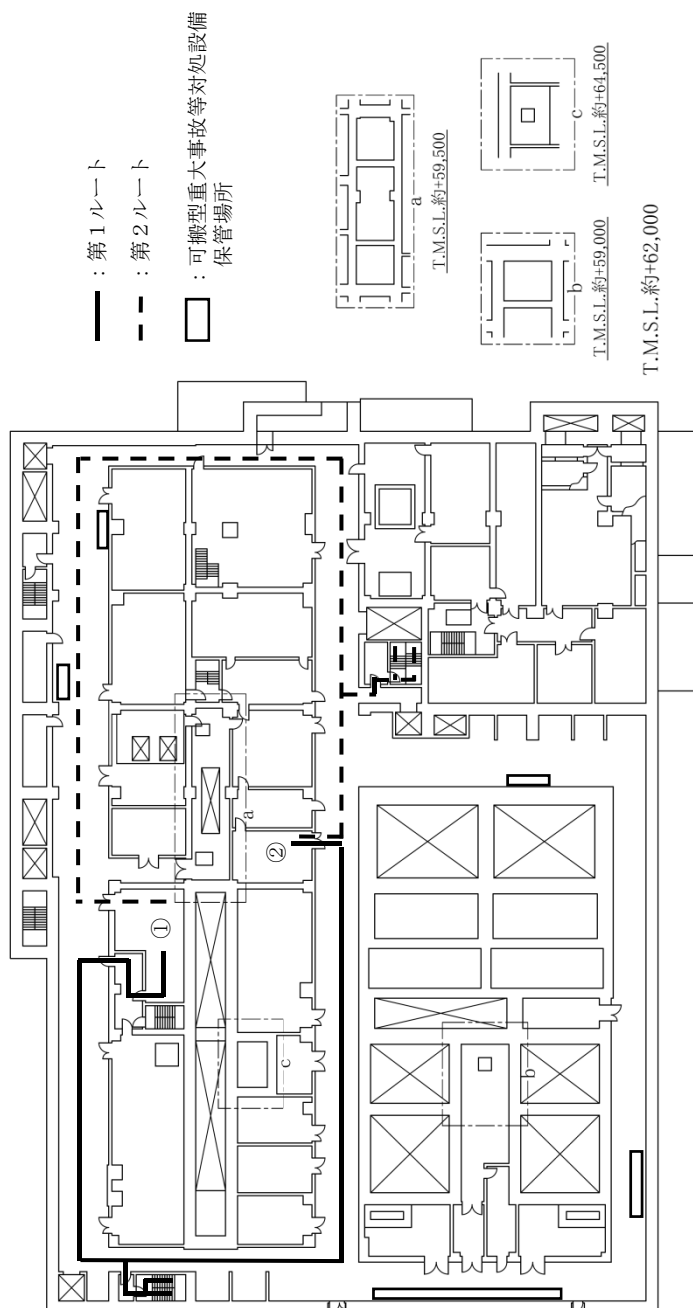
T.M.S.L.L.約+62,000



蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）（地上3階）



蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）（地上1階）



— : 第1ルート

- - : 第2ルート

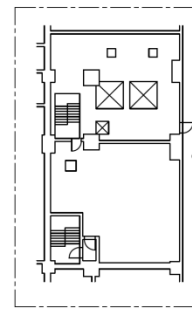
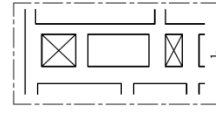
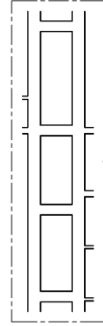
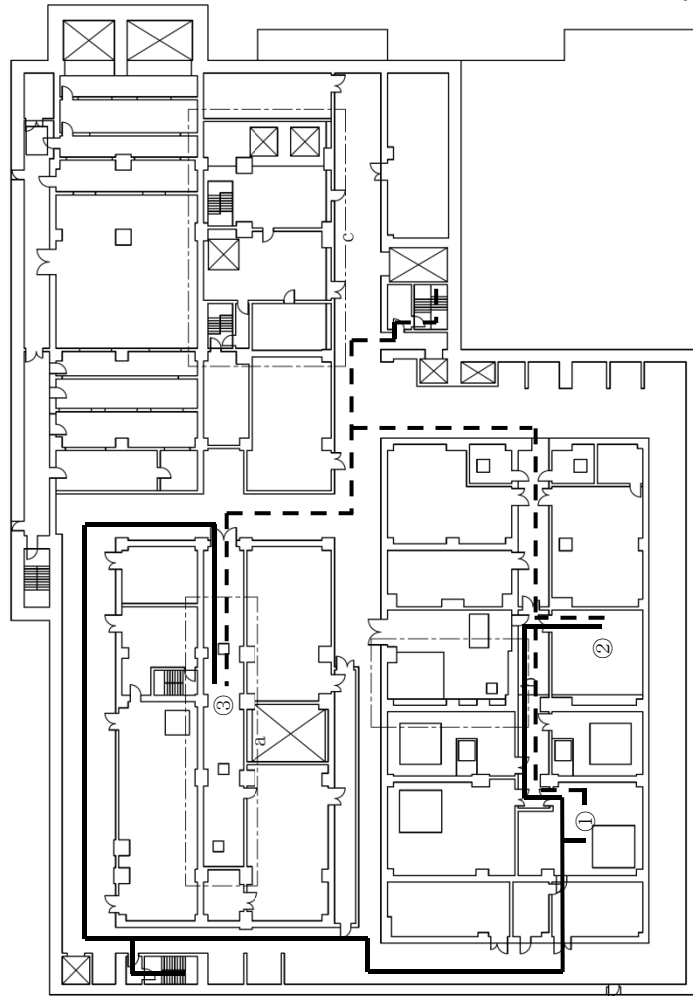
— : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
溶解液中間貯槽	①
第3一時貯留処理槽	②

- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



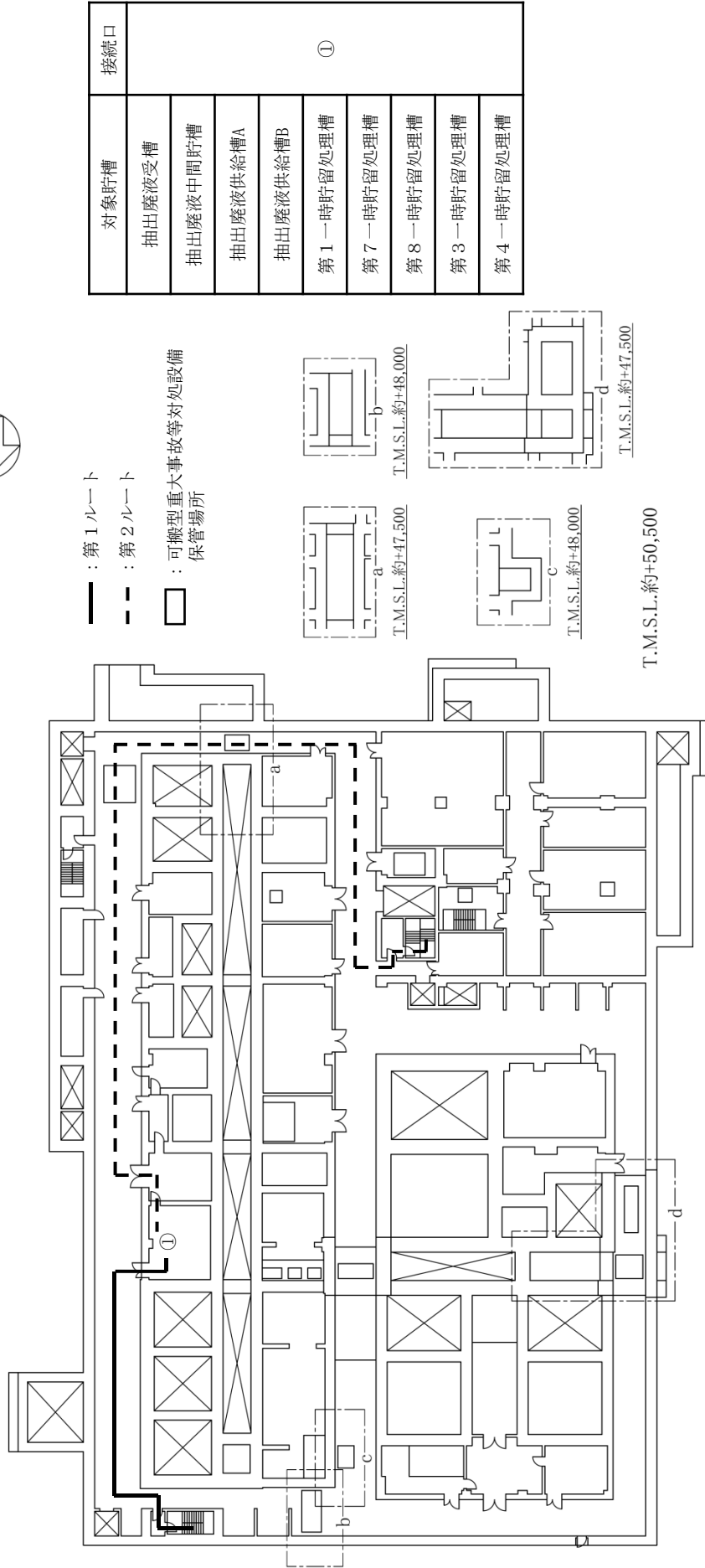
対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	①
高レベル廃液供給槽	②
溶解液供給槽	③
第7一時貯留処理槽	
第4一時貯留処理槽	



T.M.S.L.約+67,500

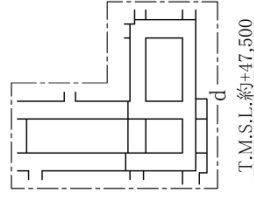
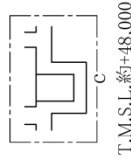
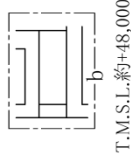
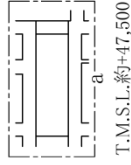
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）（地上3階）





- : 第1ルート
- - - : 第2ルート

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+50,500

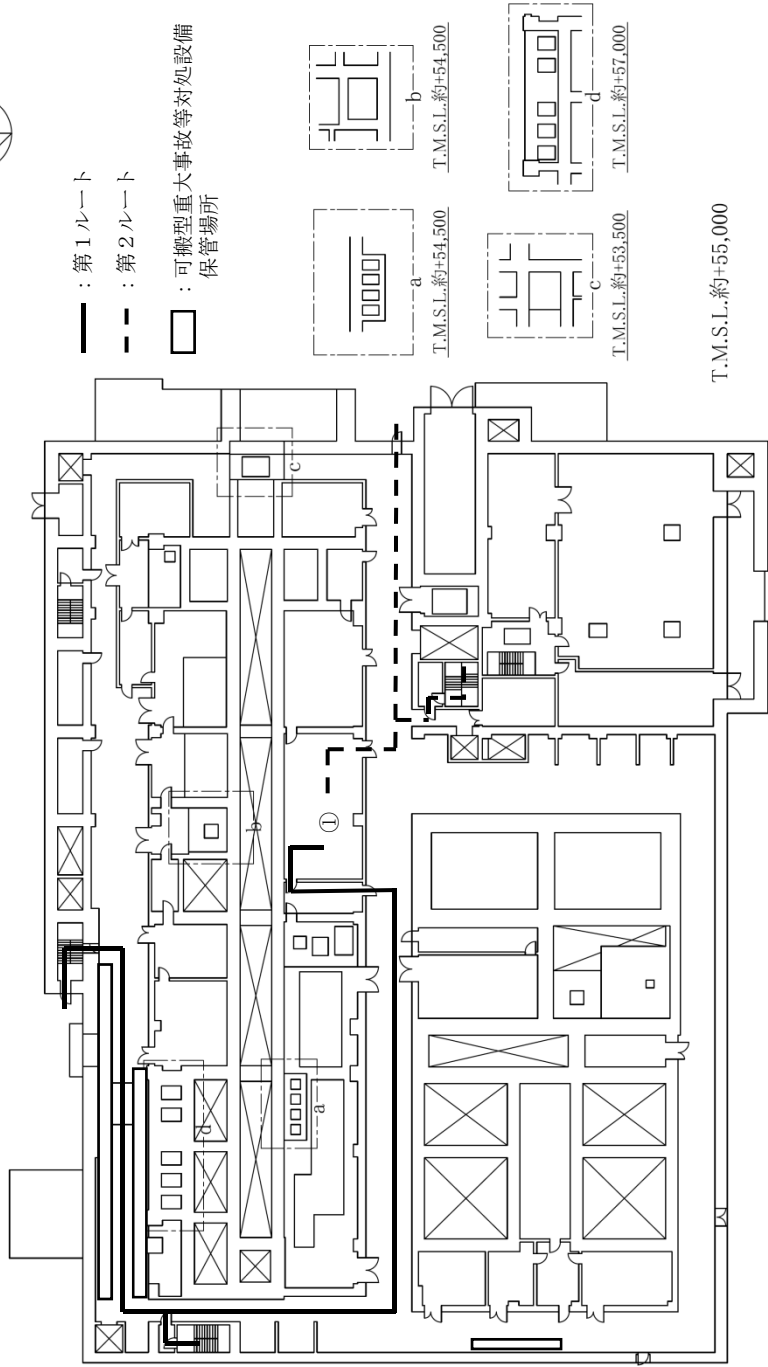
対象貯槽	接続口
抽出廃液受槽	①
抽出廃液中間貯槽	
抽出廃液供給槽A	
抽出廃液供給槽B	
第1一時貯留処理槽	
第7一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	
第4一時貯留処理槽	

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第3接続口）（地下1階）

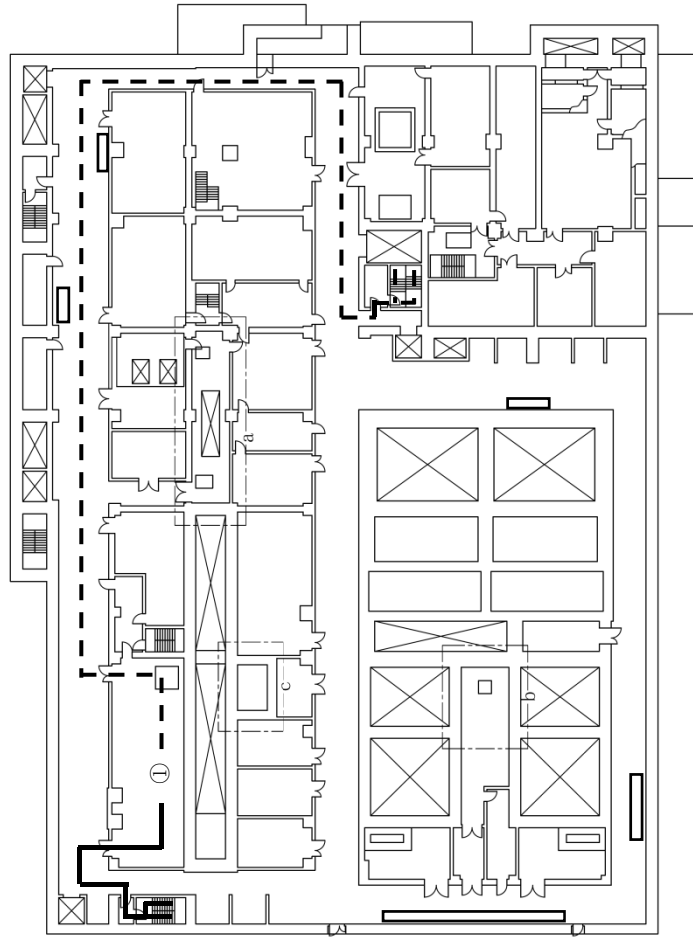


対象貯槽	接続口
第6一時貯留処理槽	①

- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



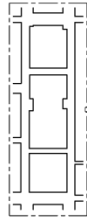
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第3接続口）（地上1階）



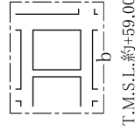
— : 第1ルート

- - : 第2ルート

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+59,500



T.M.S.L.約+59,000



T.M.S.L.約+64,500

T.M.S.L.約+62,000

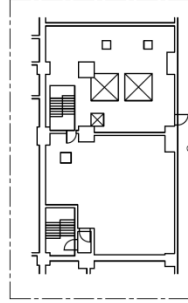
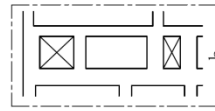
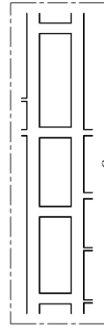
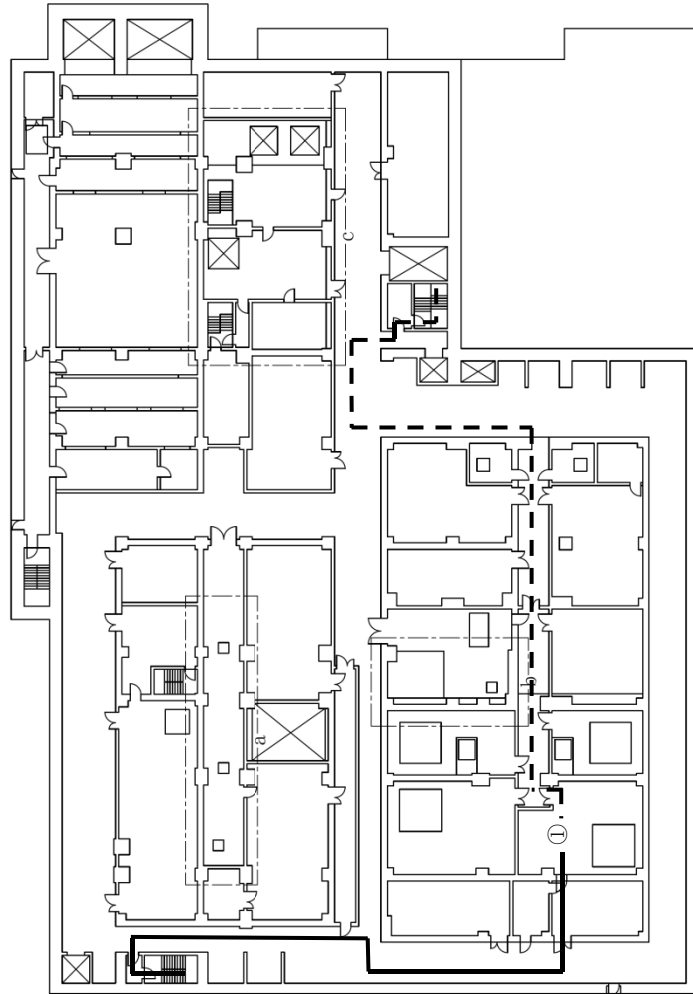
対象貯槽	接続口
抽出廃液中間貯槽	①
抽出廃液受槽	

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第3接続口）（地上2階）



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

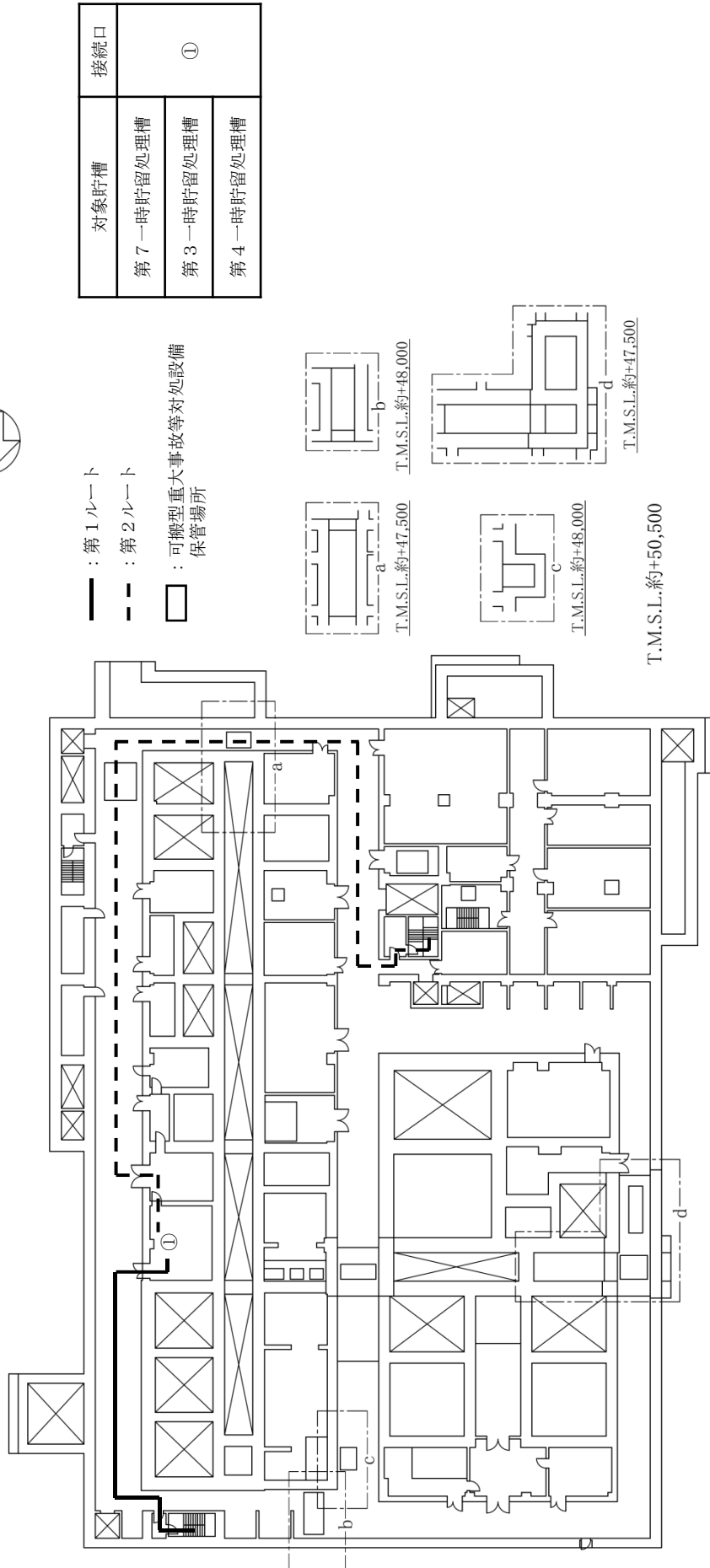
対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	①
高レベル廃液供給槽	



T.M.S.L.約+65,000

T.M.S.L.約+67,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第3接続口）（地上3階）

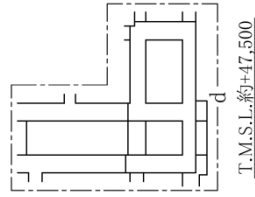
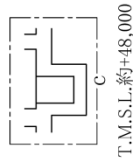
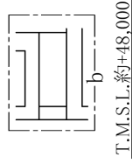
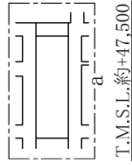


— : 第1ルート

- - - : 第2ルート

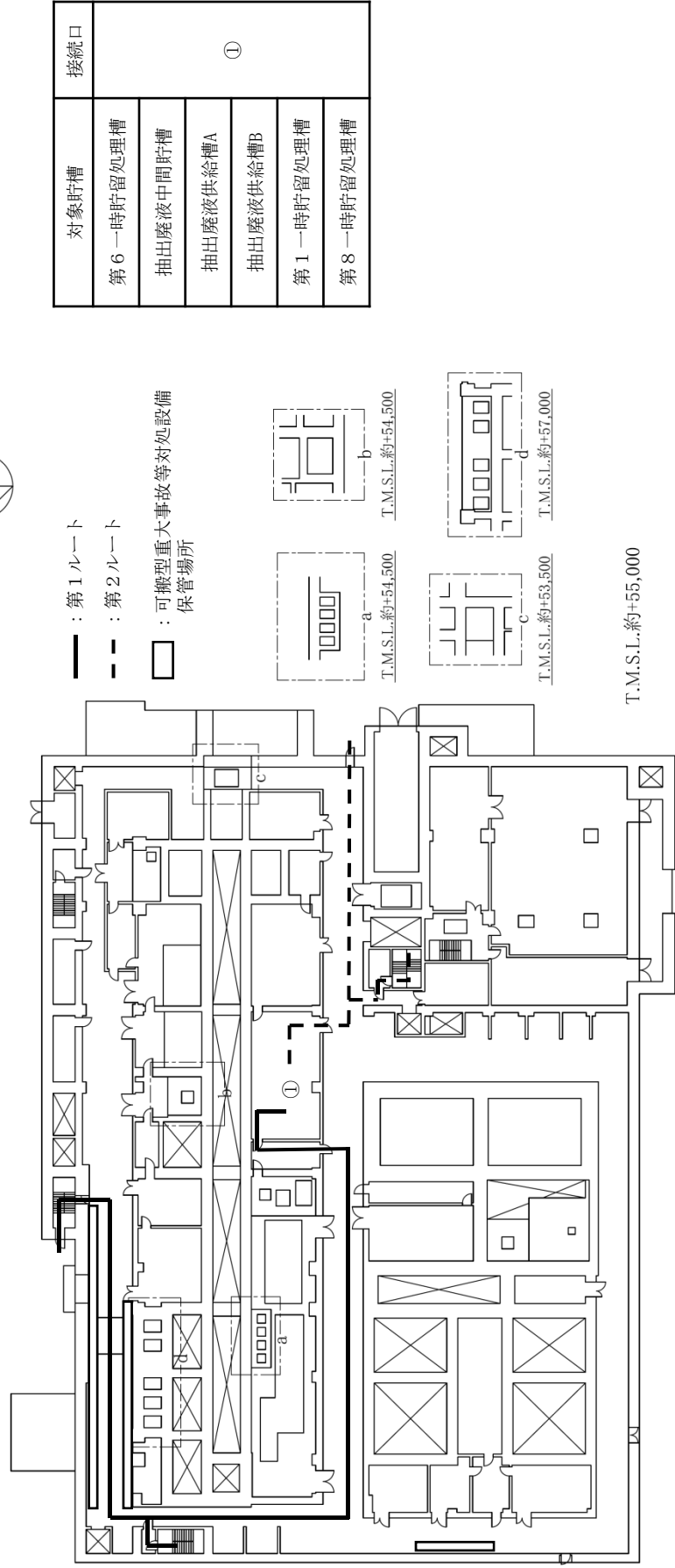
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
第7一時貯留処理槽	①
第3一時貯留処理槽	
第4一時貯留処理槽	



T.M.S.L.約+50,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第4接続口）（地下1階）

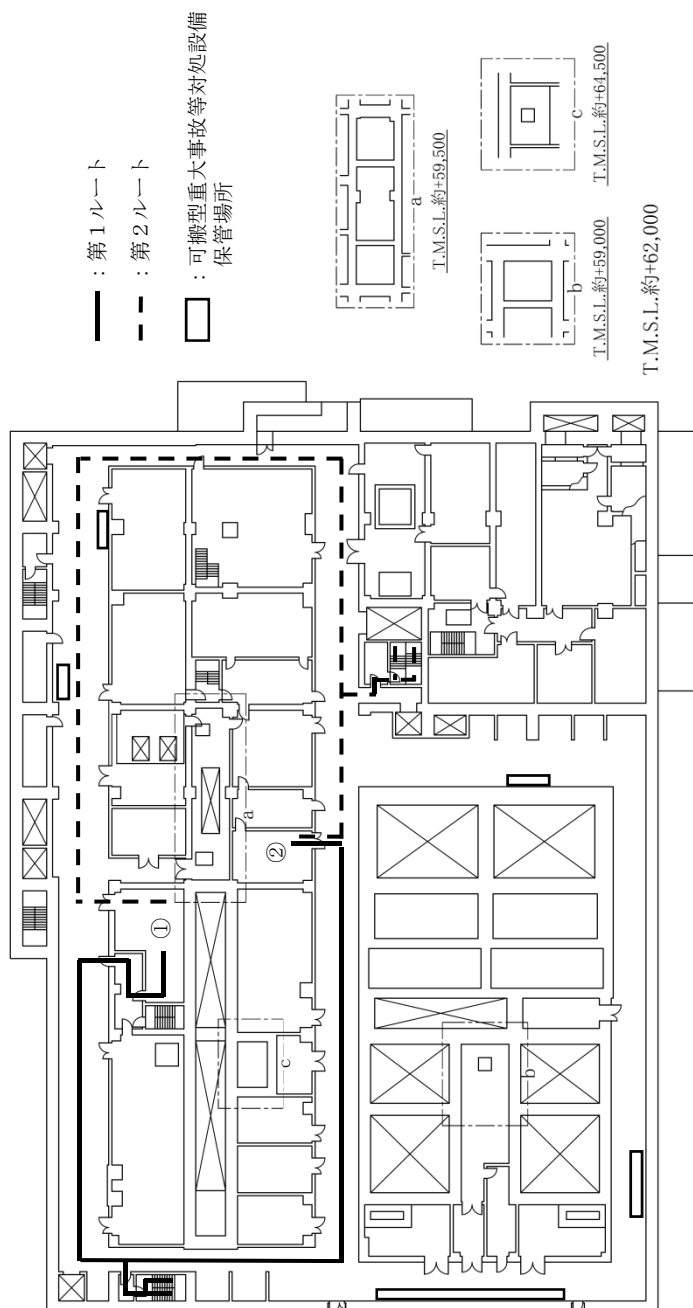


- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
第6一時貯留処理槽	①
抽出廃液中間貯槽	
抽出廃液供給槽A	
抽出廃液供給槽B	
第1一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	

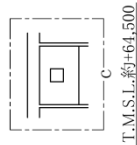
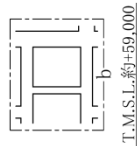
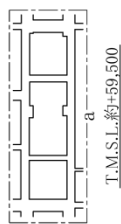
T.M.S.L.約+55,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第4接続口）（地上1階）



- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
溶解液供給槽	①
抽出廃液中間貯槽	②
抽出廃液受槽	

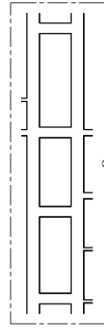
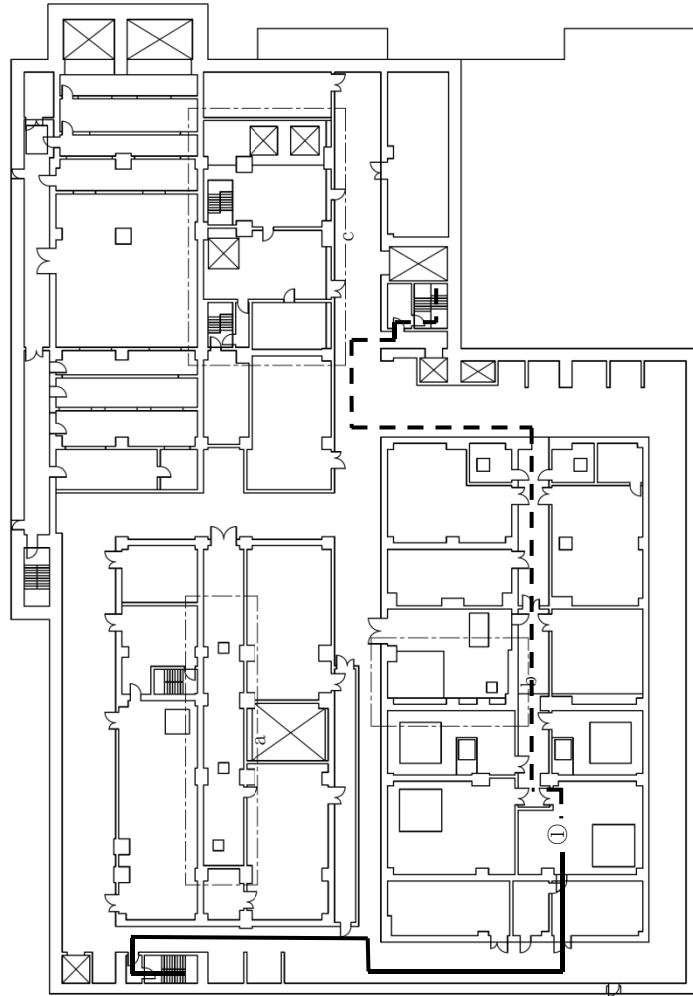


T.M.S.L.約+62,000

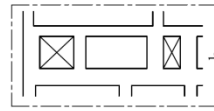


- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

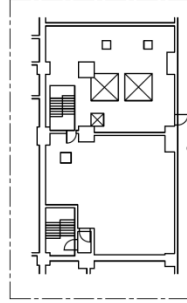
対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮缶	①
高レベル廃液供給槽	



T.M.S.L.約+65,000



T.M.S.L.約+65,000



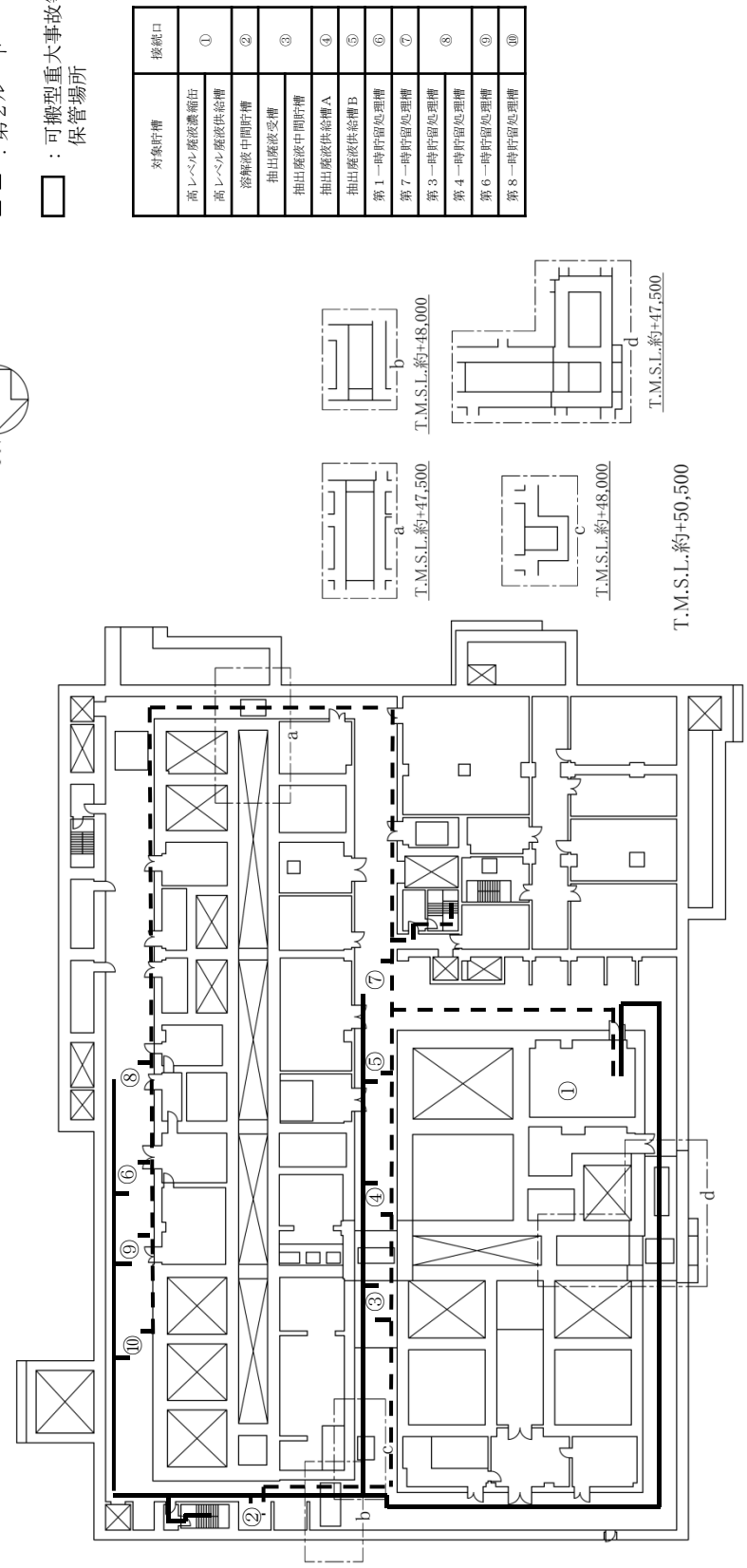
T.M.S.L.約+70,500

T.M.S.L.約+67,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第4接続口）（地上3階）

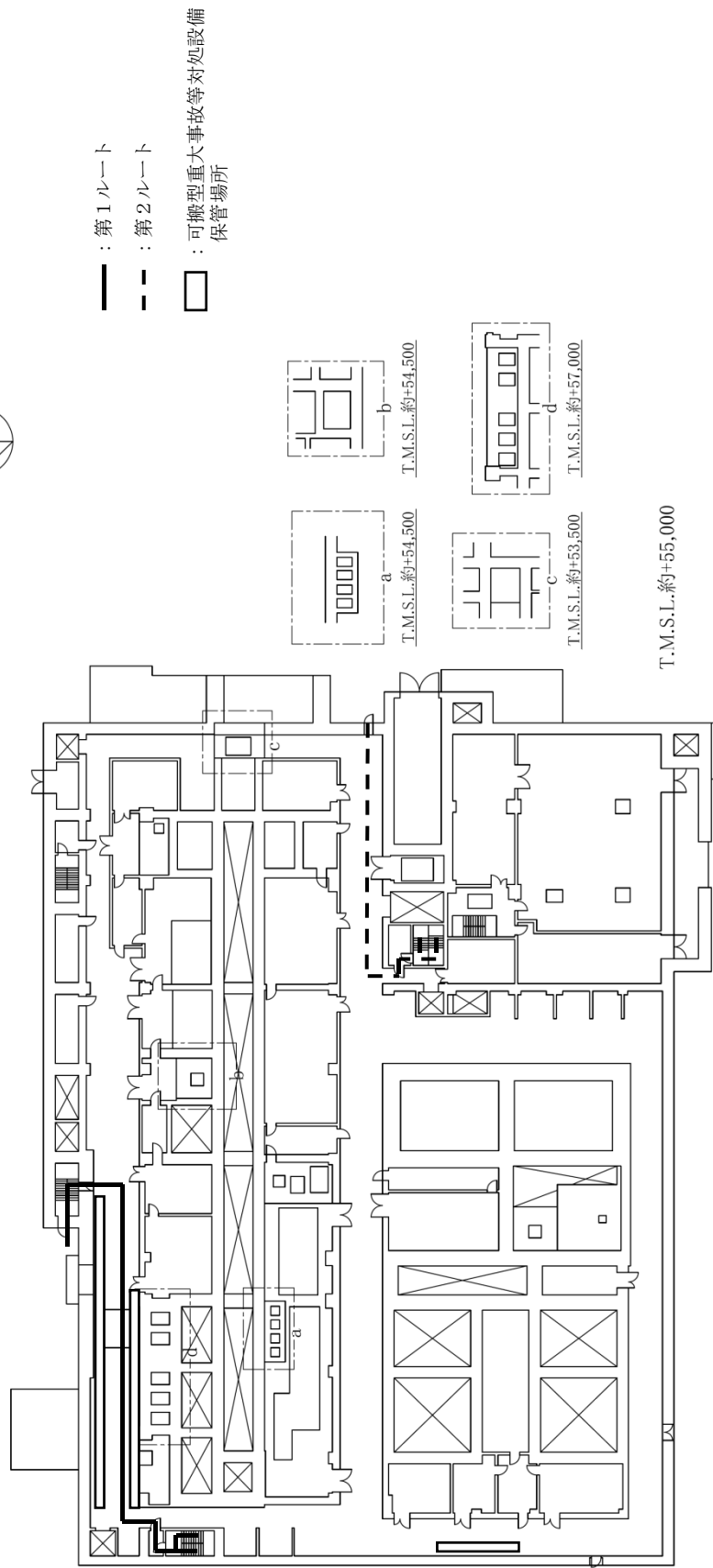


- : 第1ルート
- - - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



対象貯槽	接続口
高レベル廃液濃縮槽	①
高レベル廃液供給槽	②
溶解液中間貯槽	③
抽出廃液受槽	④
抽出廃液中間貯槽	⑤
抽出廃液供給槽A	⑥
抽出廃液供給槽B	⑦
第1一時貯留処理槽	⑧
第7一時貯留処理槽	⑨
第3一時貯留処理槽	⑩
第4一時貯留処理槽	
第6一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
（地下1階）



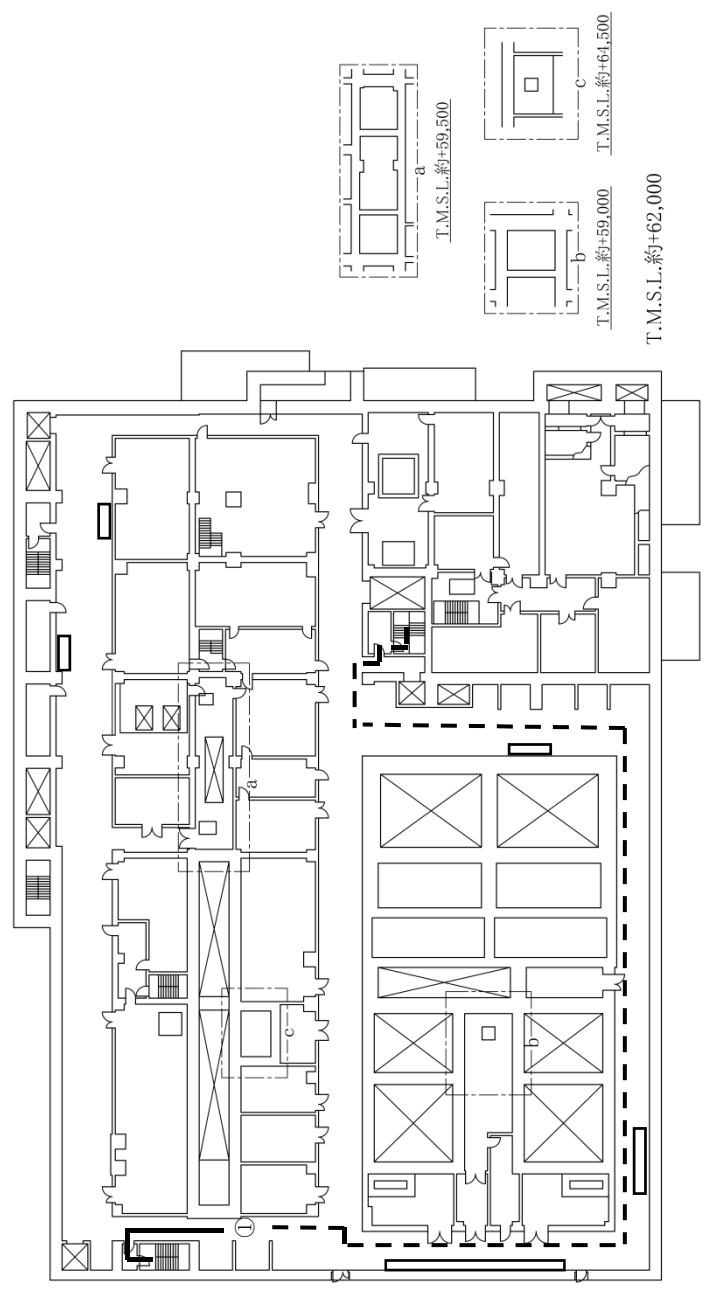
- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
（地上1階）



- : 第1ルーフ
- - : 第2ルーフ
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

避難貯槽 溶解供給槽	接続箇所 ①
---------------	-----------

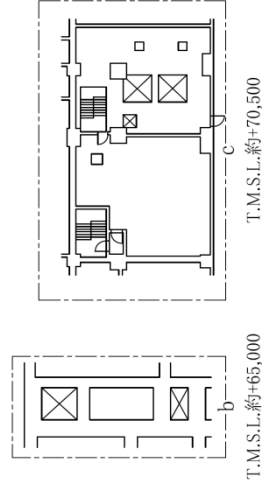
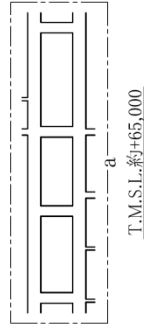
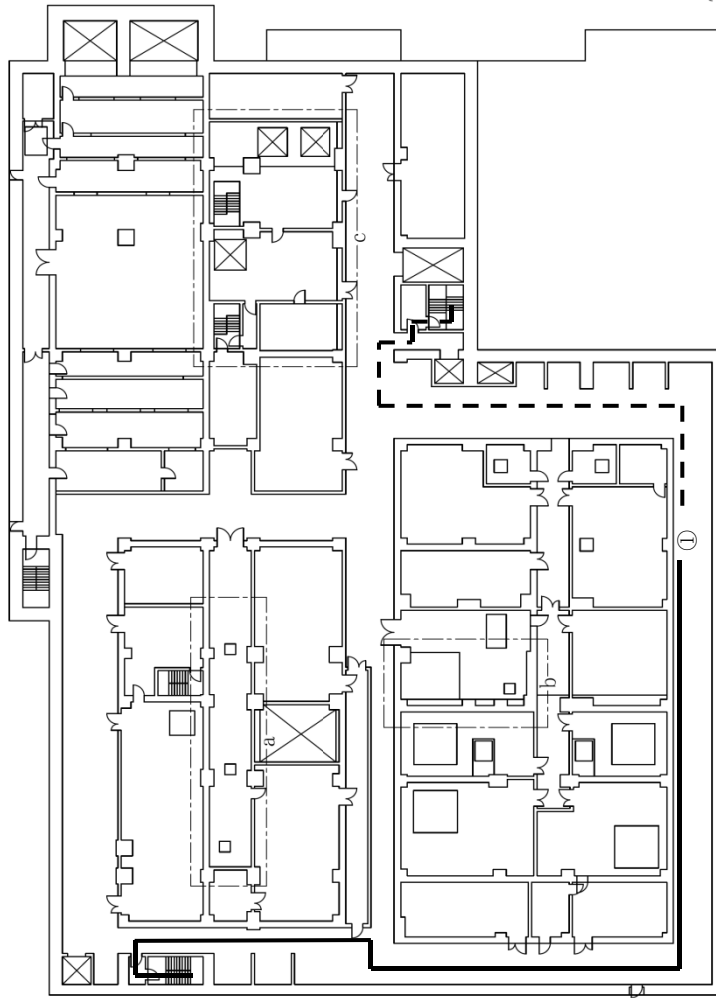


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルーフ（地上2階）  
 分離建屋（第1接続口）



対表貯槽	接続口
高レベル酸液濃縮缶	①

- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



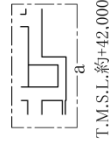
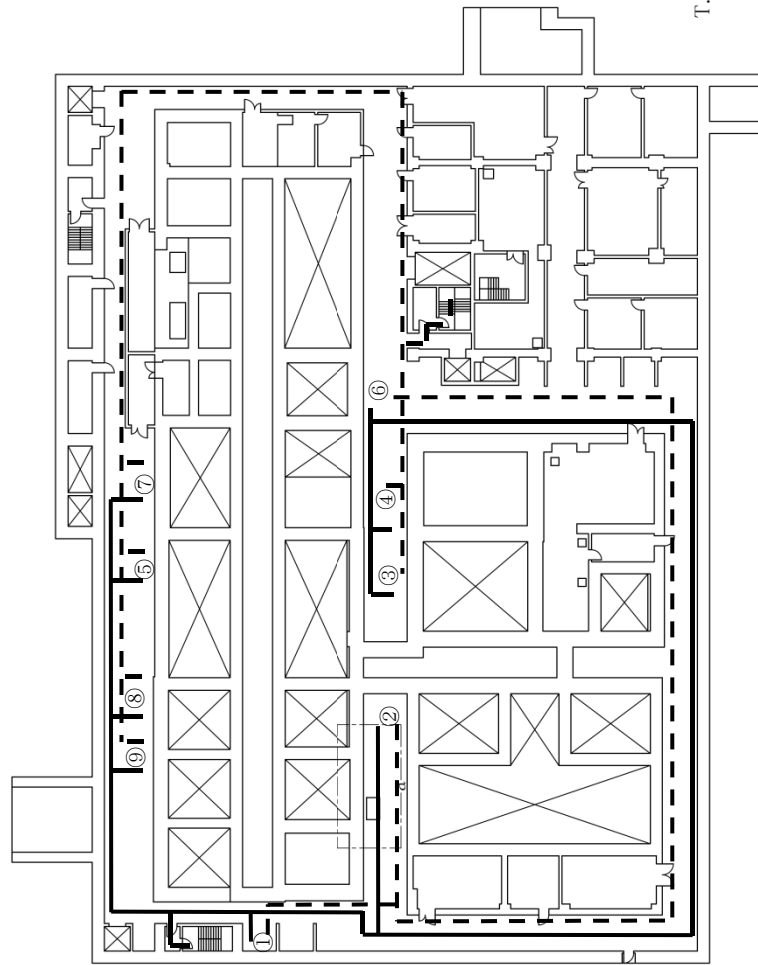
T.M.S.L.約+67,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第1接続口）  
（地上3階）



- : 第1ルート
- - - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
溶解液中間貯槽	①
抽出廃液受槽	②
抽出廃液中間貯槽	③
抽出廃液体給槽A	④
抽出廃液体給槽B	⑤
第1一時貯留処理槽	⑥
第7一時貯留処理槽	⑦
第3一時貯留処理槽	⑧
第4一時貯留処理槽	⑨
第6一時貯留処理槽	
第8一時貯留処理槽	



T.M.S.L.約+42,000

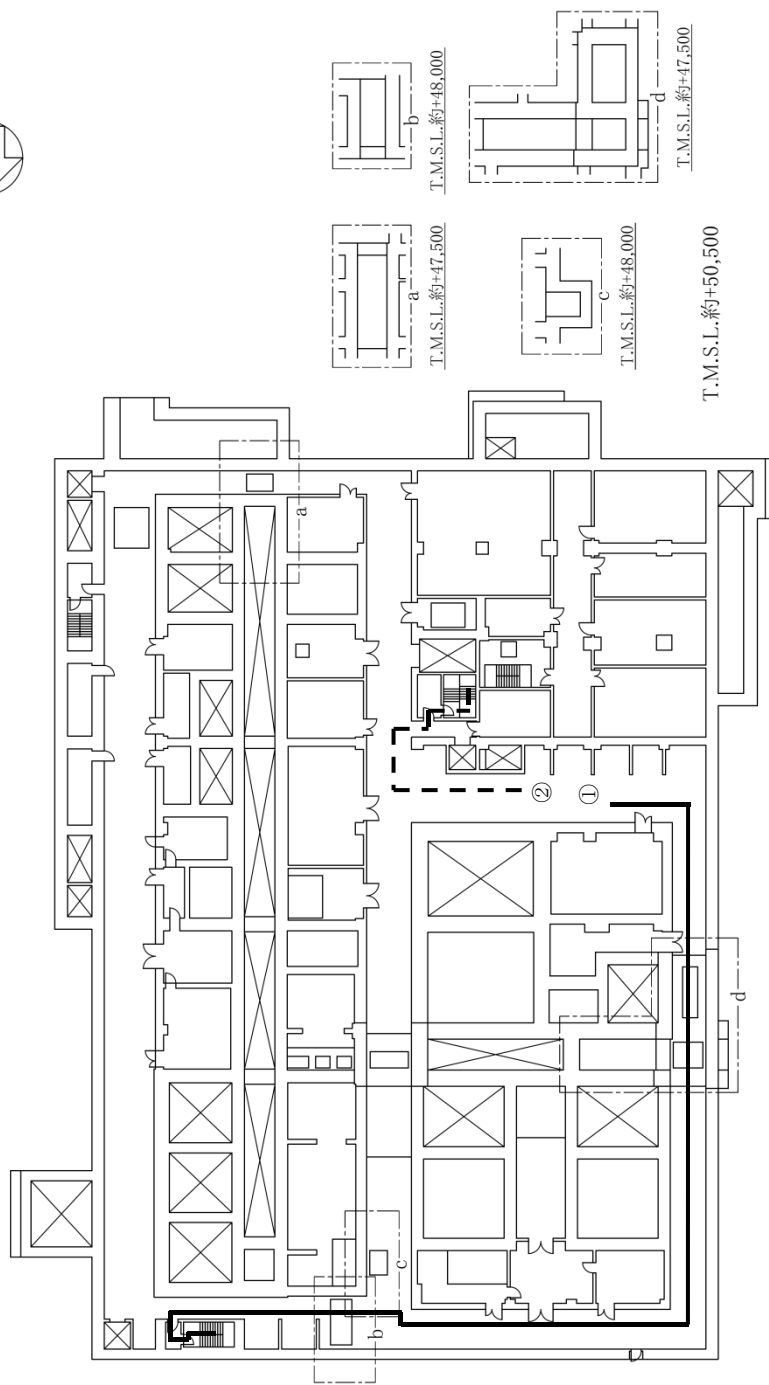
T.M.S.L.約+43,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地下2階）

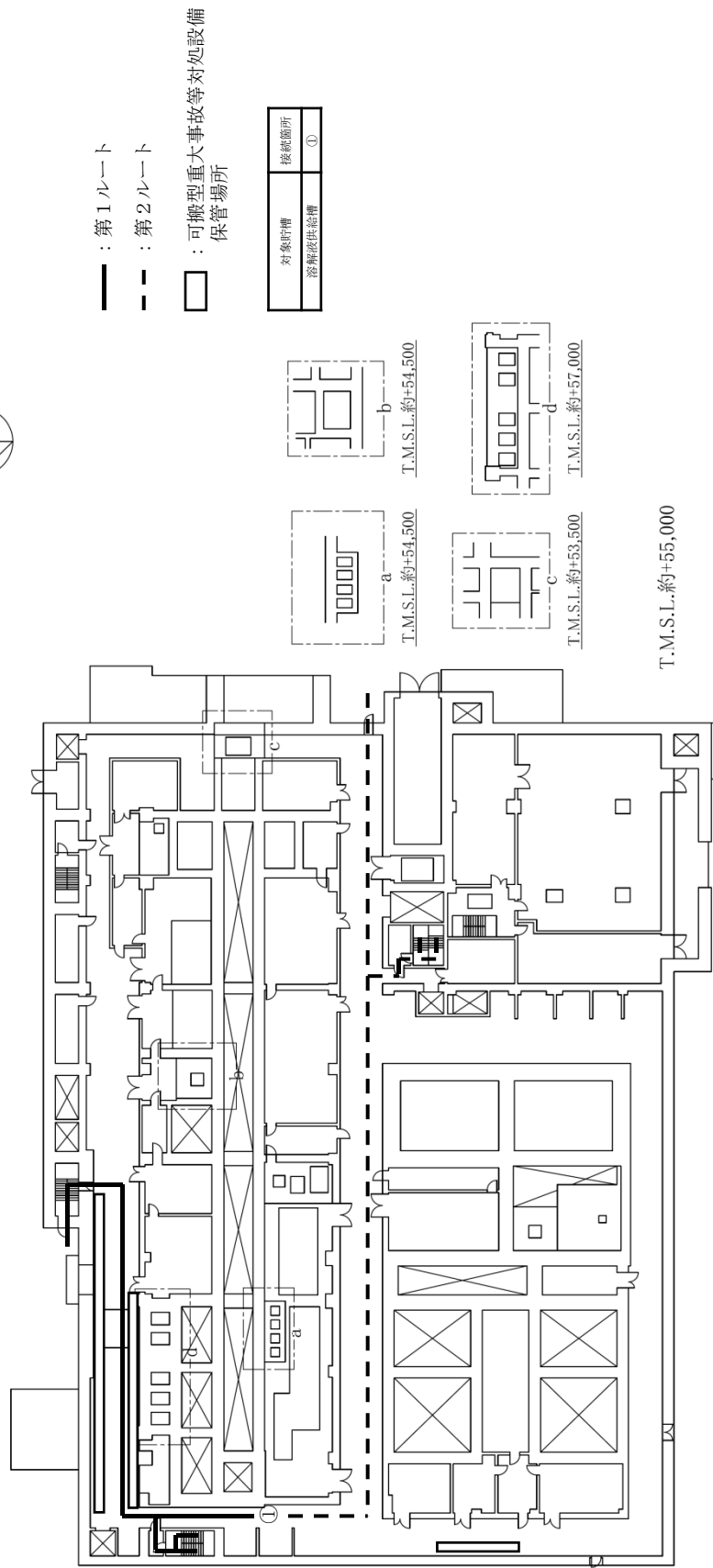


- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象設備	接続口
高レベル廃液濃縮缶	①
高レベル廃液供給槽	②



蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
（地下1階）

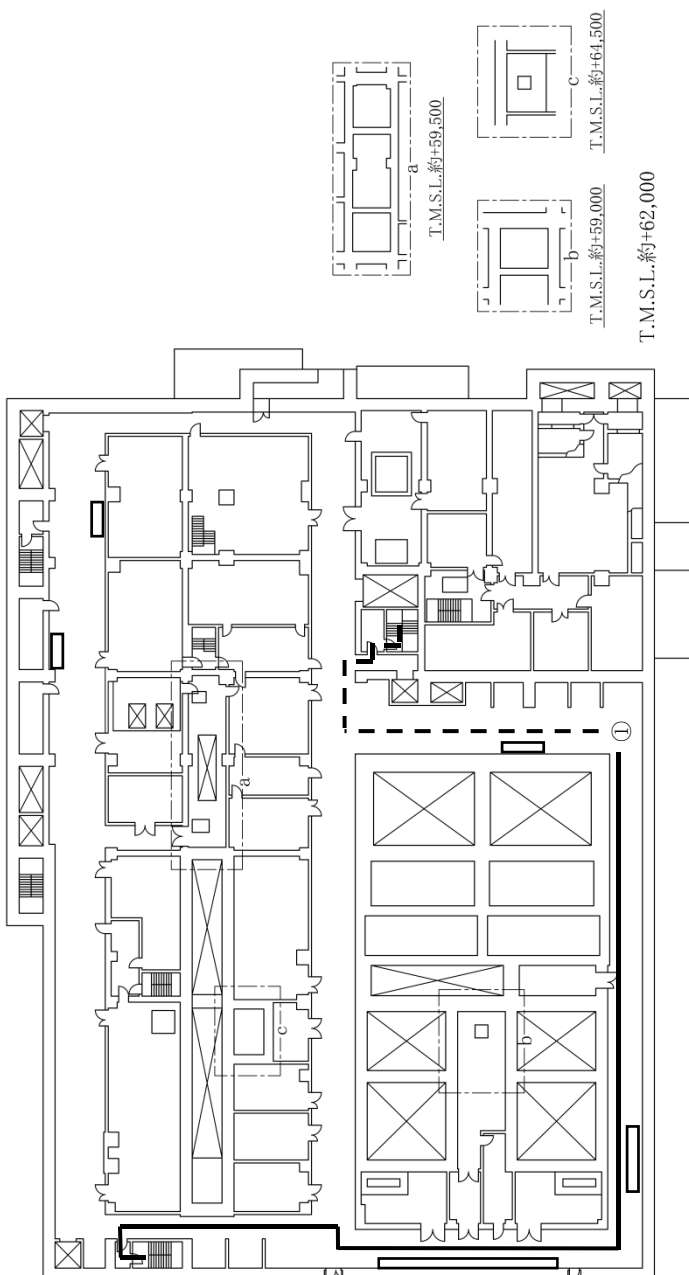


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート 分離建屋（第2接続口）  
 （地上1階）



- : 第1ルーフ
- - : 第2ルーフ
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

避難貯槽 高レベル液液濃縮缶	接縮箇所 ①
-------------------	-----------

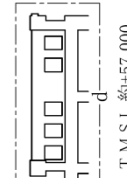
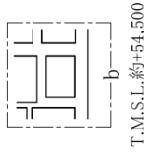
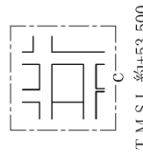
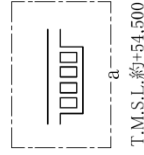
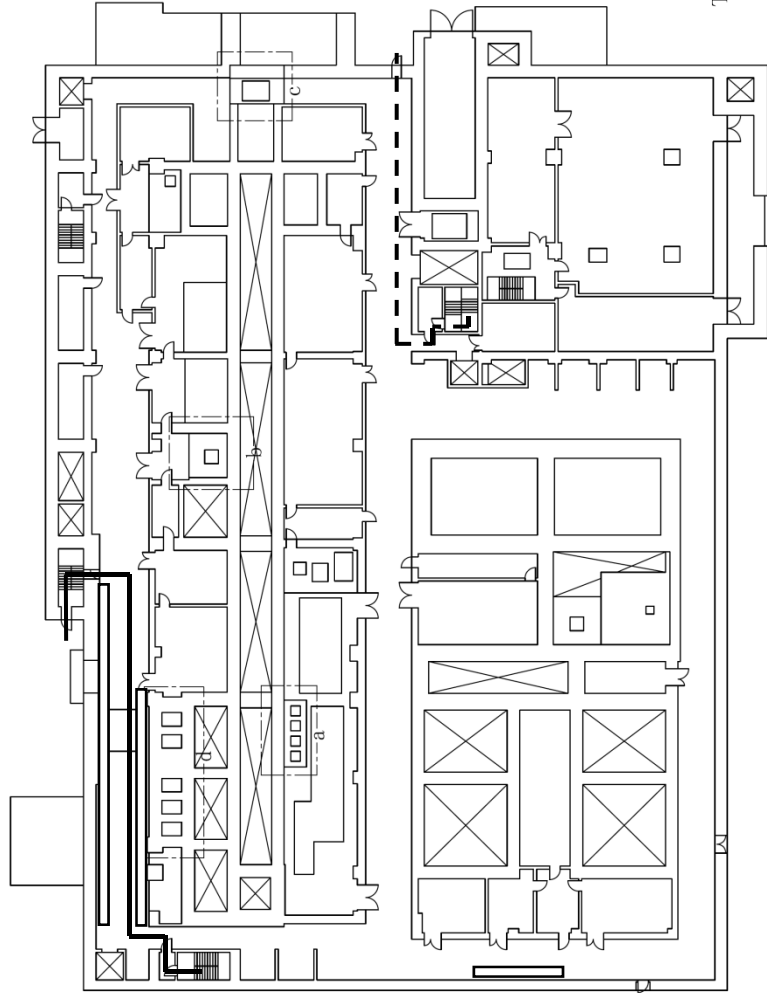


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルーフ（地上2階）  
分離建屋（第2接続口）





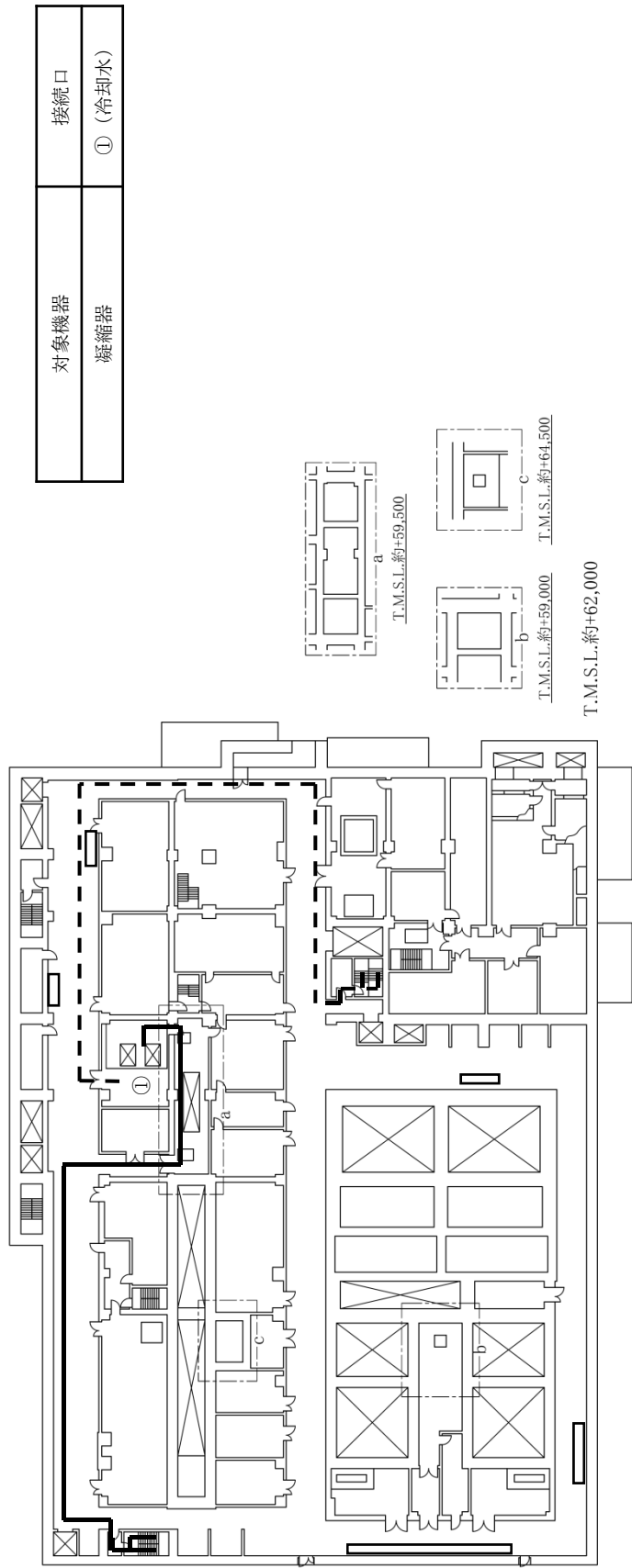
- : 第1ルート
- - - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



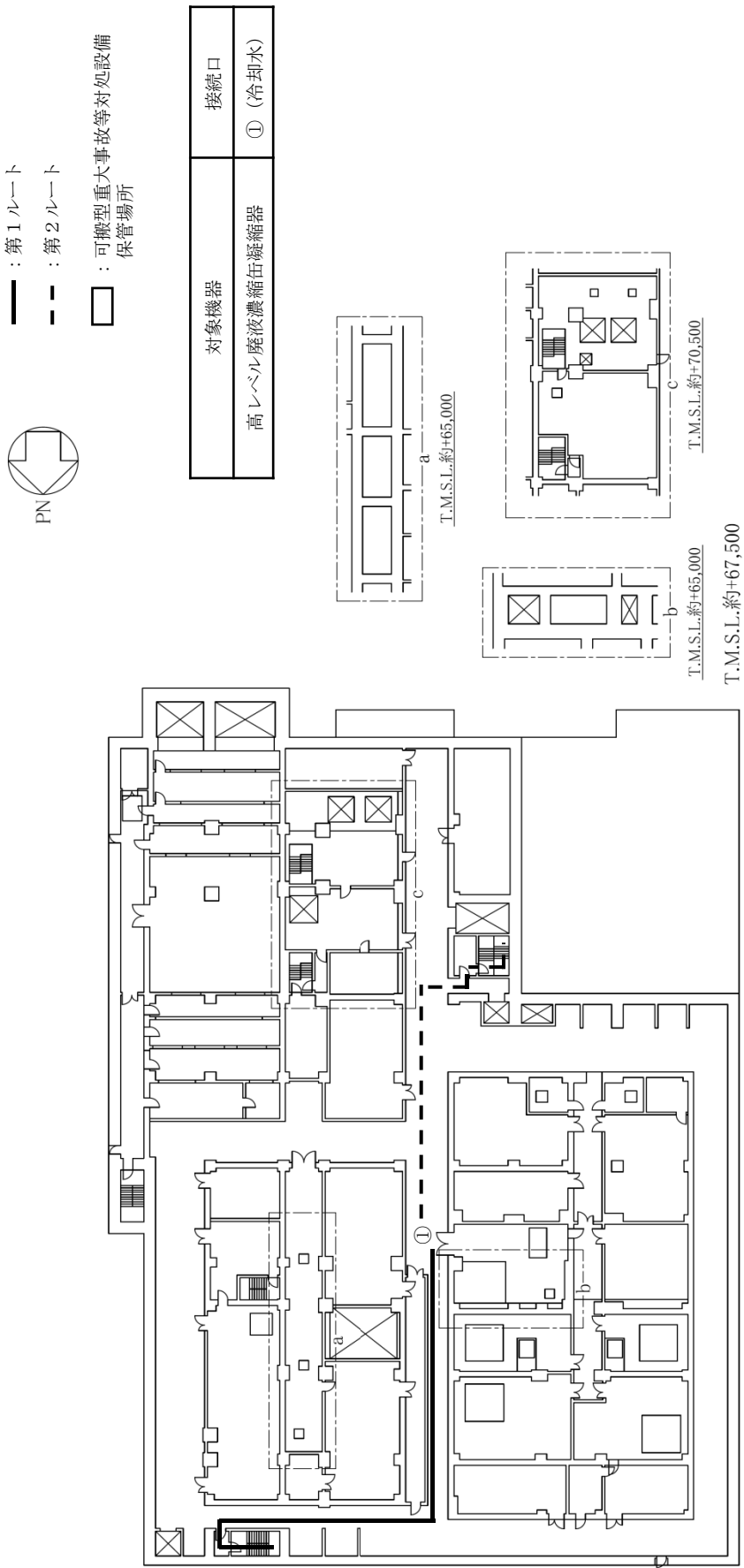
T.M.S.L.約+55,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第1接続口）（地上1階）

- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



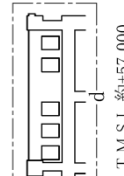
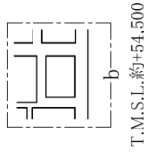
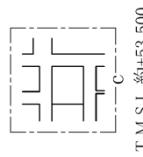
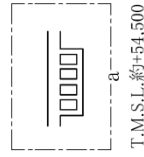
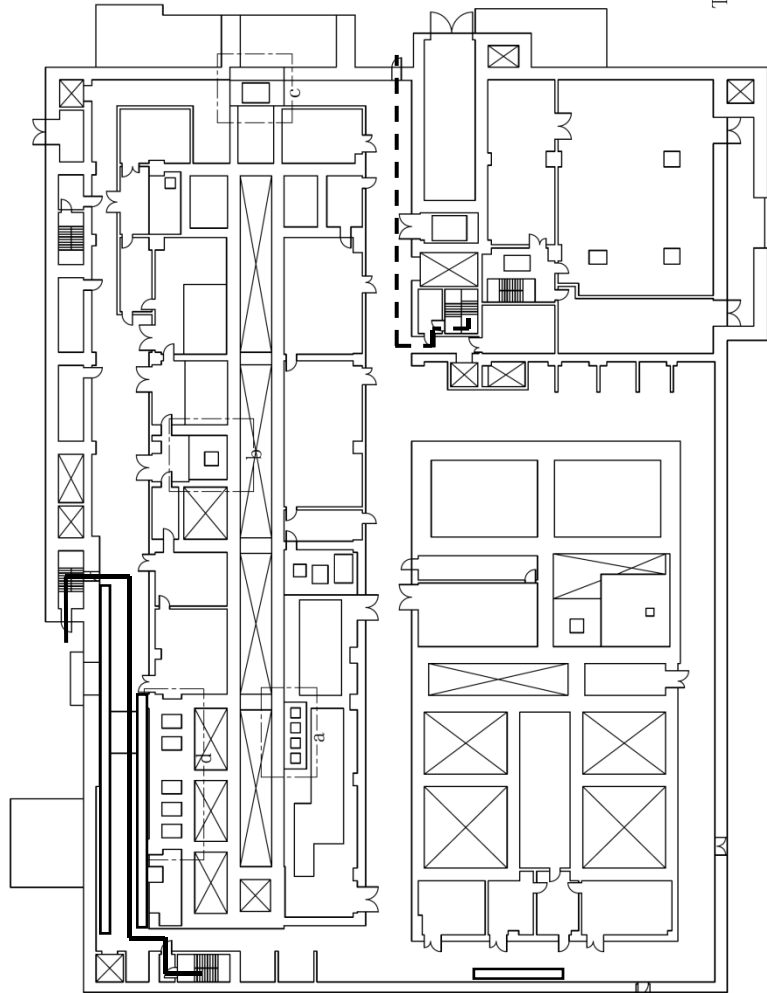
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第1接続口）（地上2階）



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第1接続口）（地上3階）



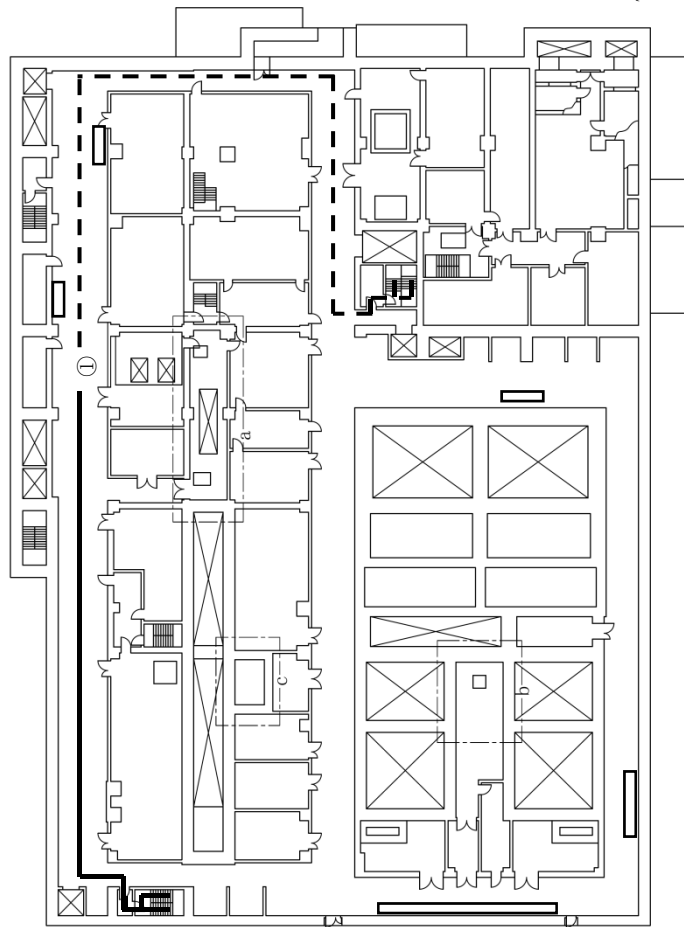
- : 第1ルート
- - - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



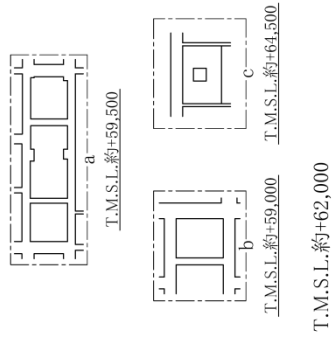
T.M.S.L.約+55,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第2接続口）（地上1階）

- : 第1ルート
- - - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

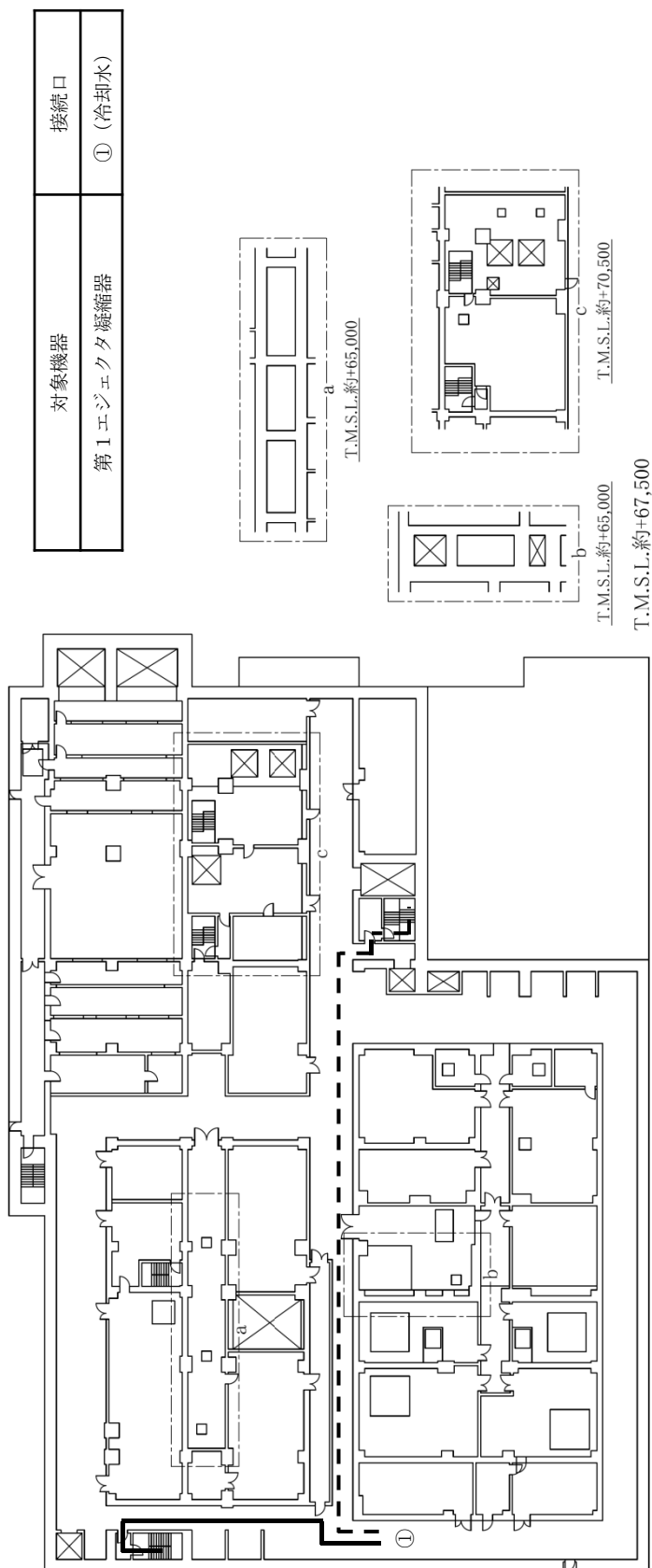


対象機器	接続口
凝縮器	① (冷却水)



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第2接続口）（地上2階）

- : 第1ルート
- - : 第2ルート
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所
- PN

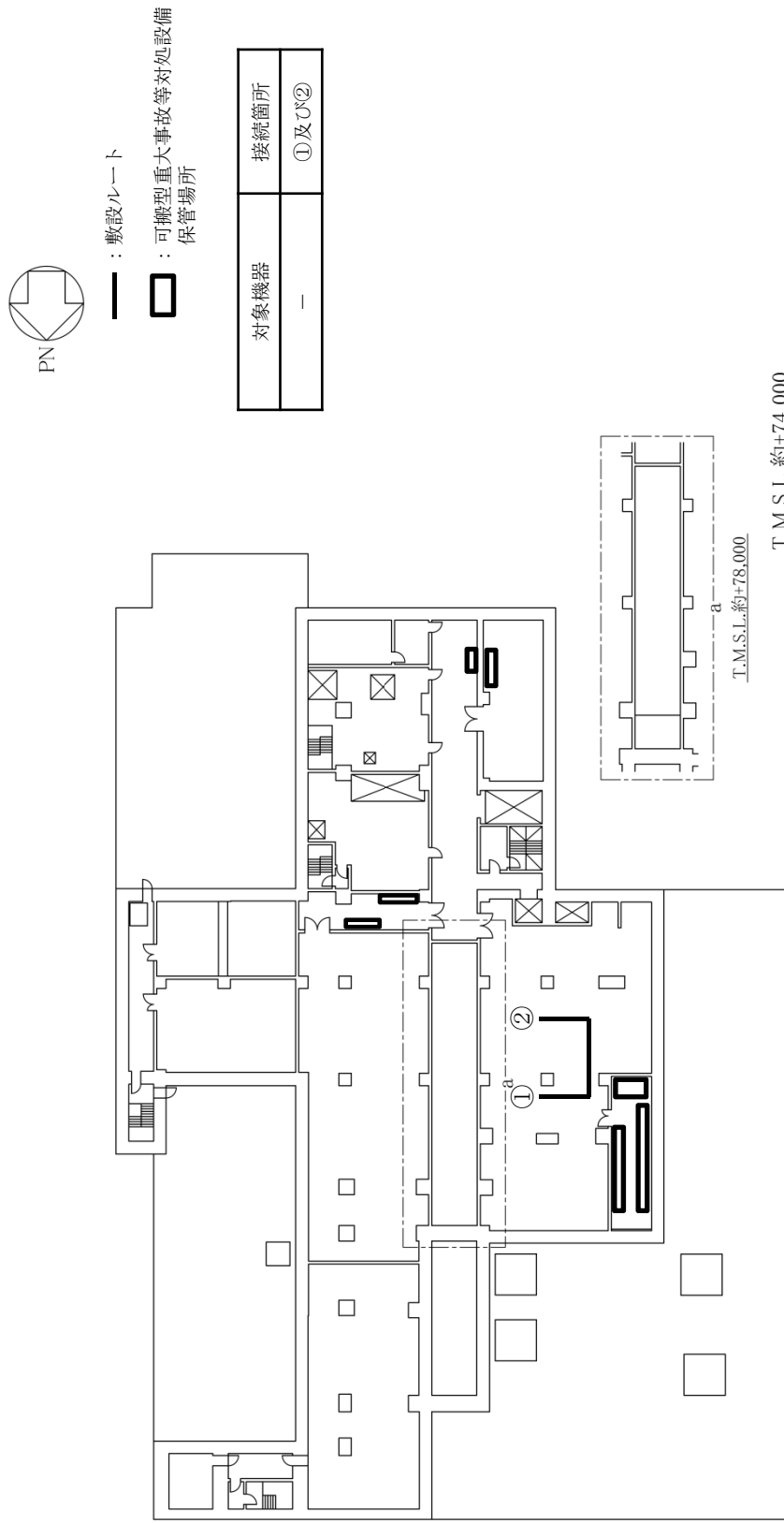


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 分離建屋（第2接続口）（地上3階）

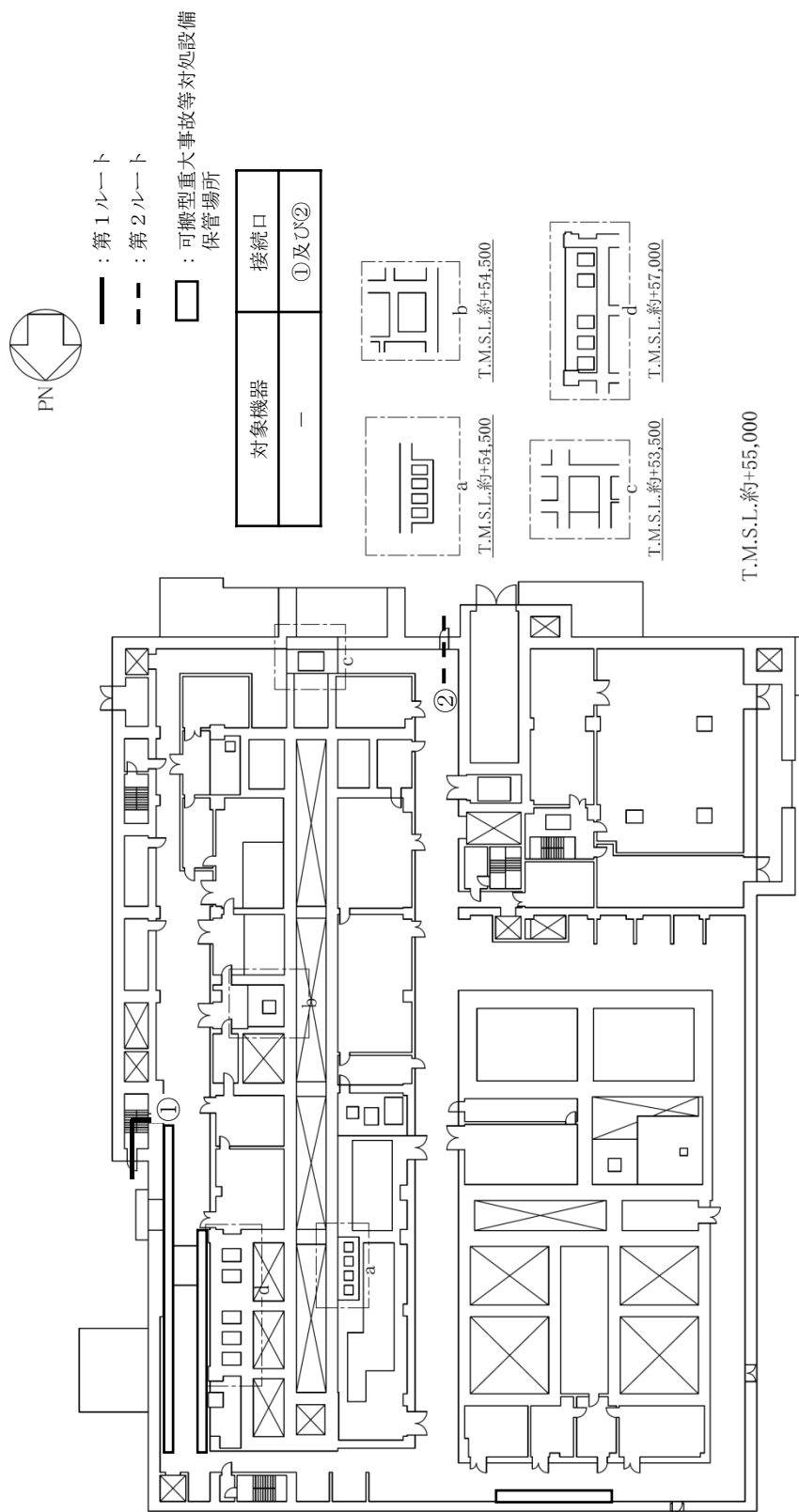
NOTE :

↓ 不破さんのリストに書かれていたもの。ダクトに第1 / 第2 接続口は無いのでは？

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の可搬型ダクト敷設ルート 高レベル廃液  
 ラス固化建屋（第0接続口）（地下2階）

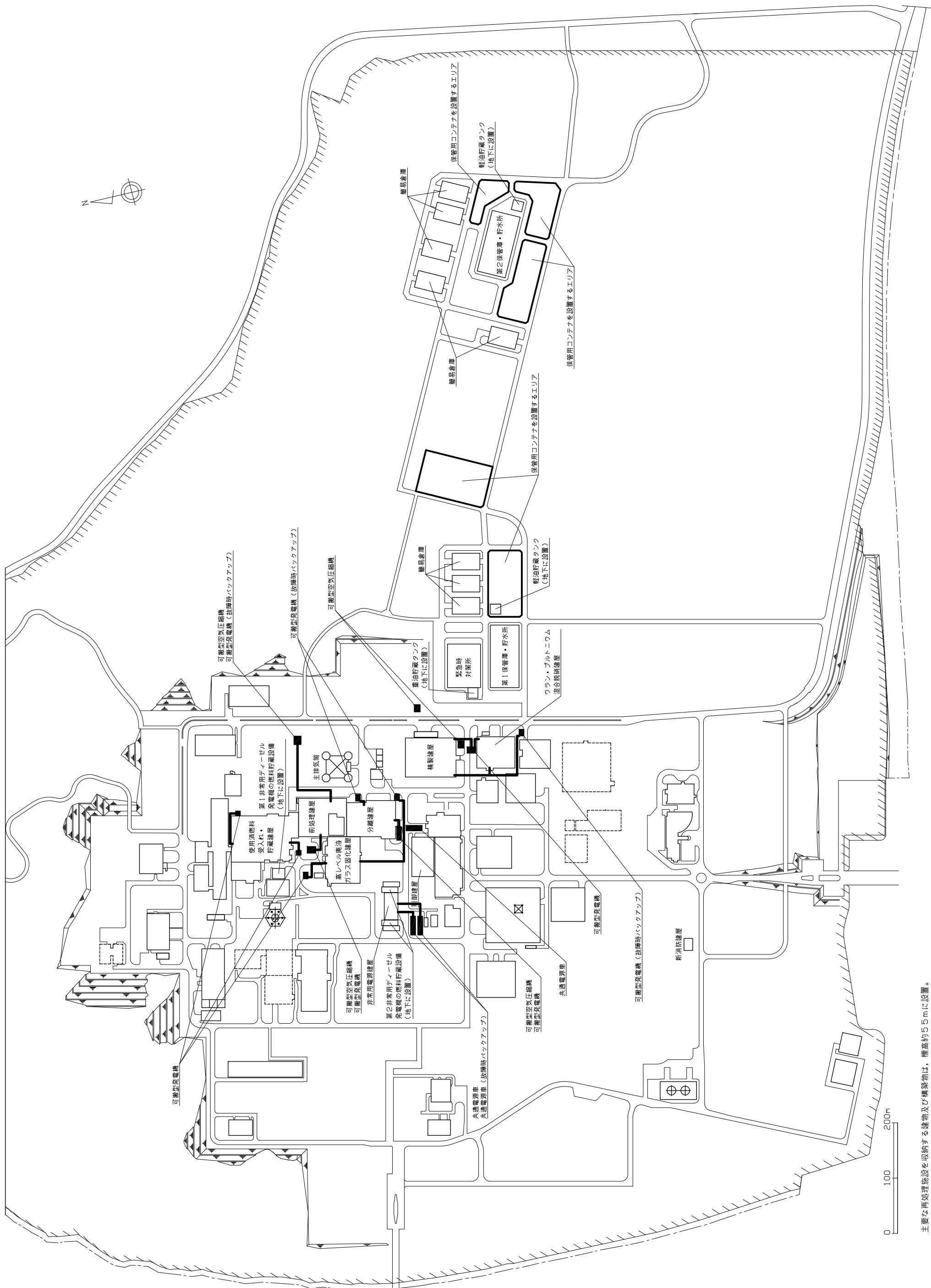


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の可搬型ダクト  
 敷設ルート 分離建屋（地上4階）



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の分離建屋可搬型発電機からの給電に係る分離建屋内可搬型電源ケーブル敷設ルート（地上1階）

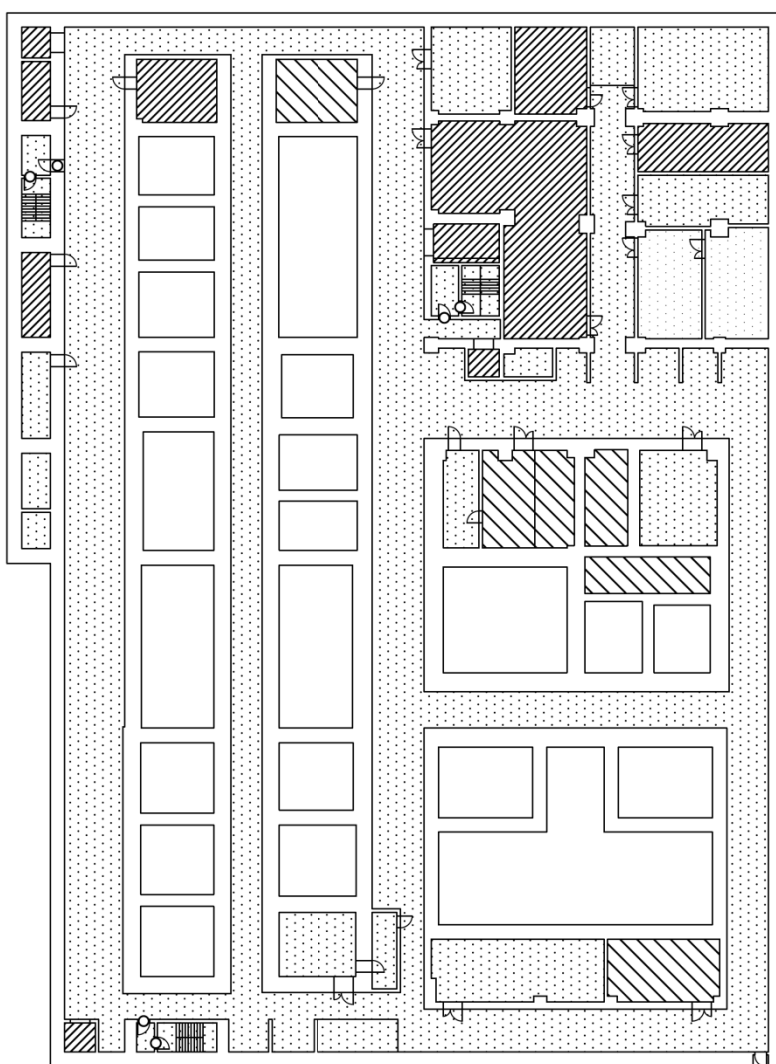




主要な再処理施設を取納する建物及び構築物は、標高約5 mに設置。



- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)



アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。

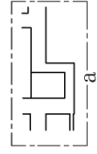
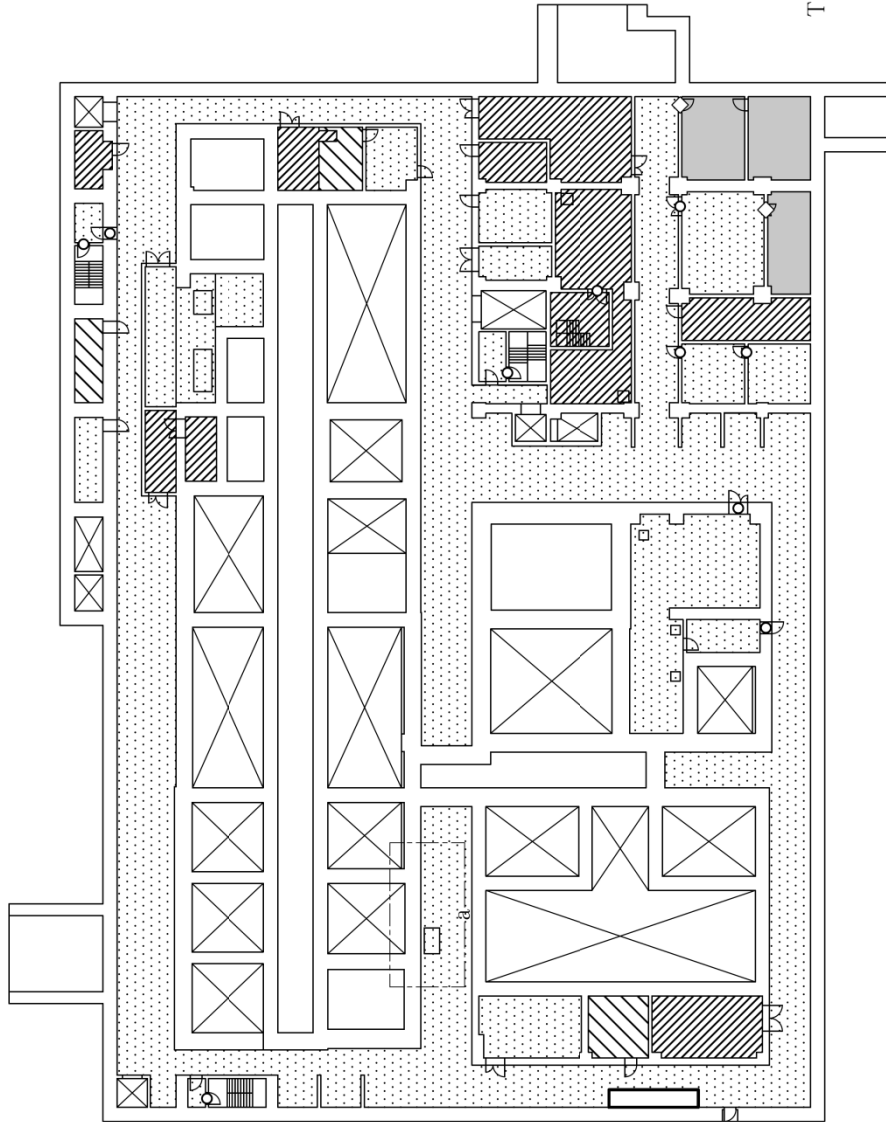
T.M.S.L.約+38,500

溢水ハザードマップ 分離建屋 (地下3階)



- ▽ : 堰
- ◇ : 防水層
- : 排水層
- (白) : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- (点線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アクセシブルートの溢水高さは50cm以下である。



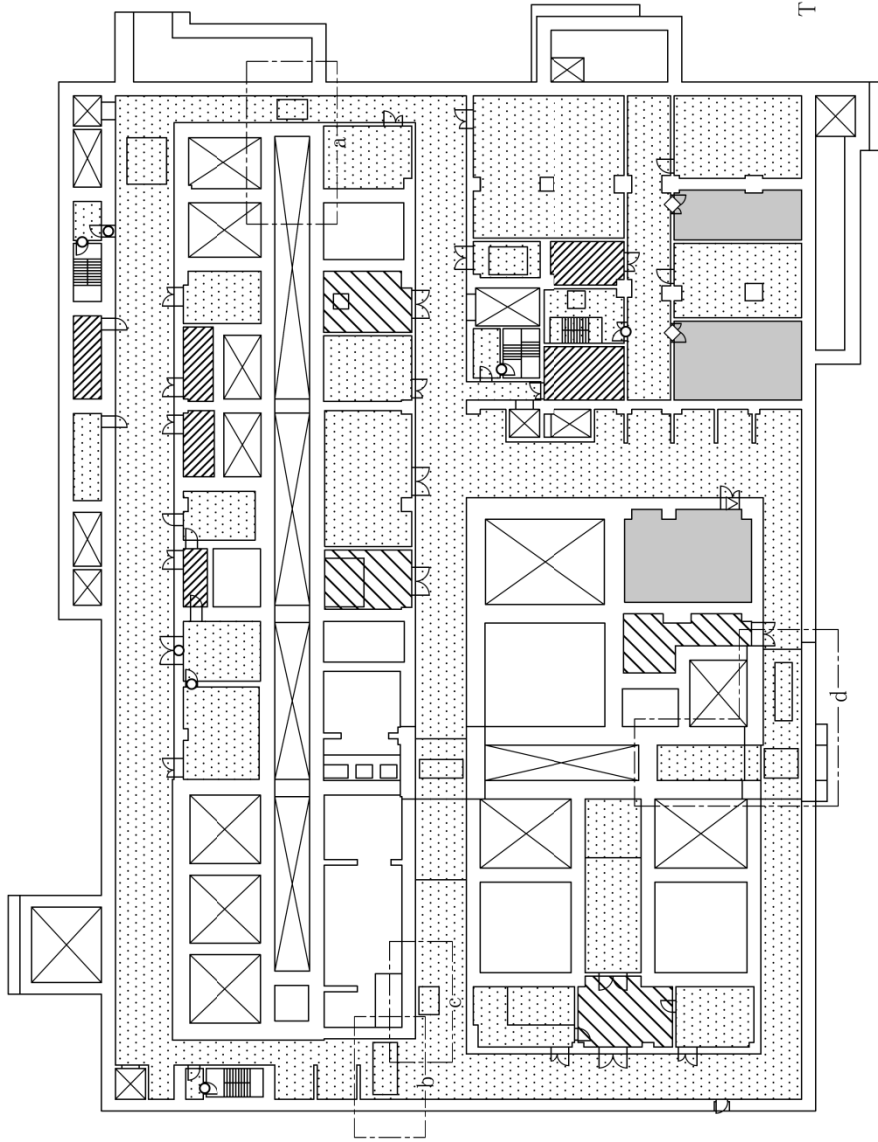
T.M.S.L.約+42,000

T.M.S.L.約+43,500

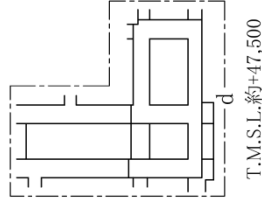
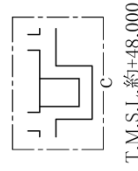
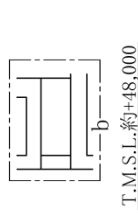
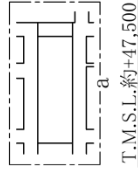
溢水ハザードマップ 分離建屋 (地下2階)



- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- ▭ : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- ▨ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- ▧ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- ▩ : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

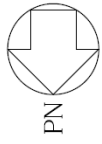


アクセスルート上の溢水高さは50cm以下である。



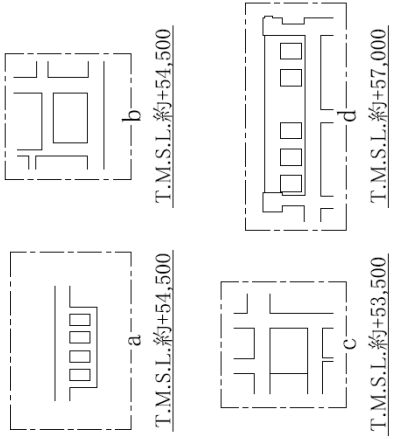
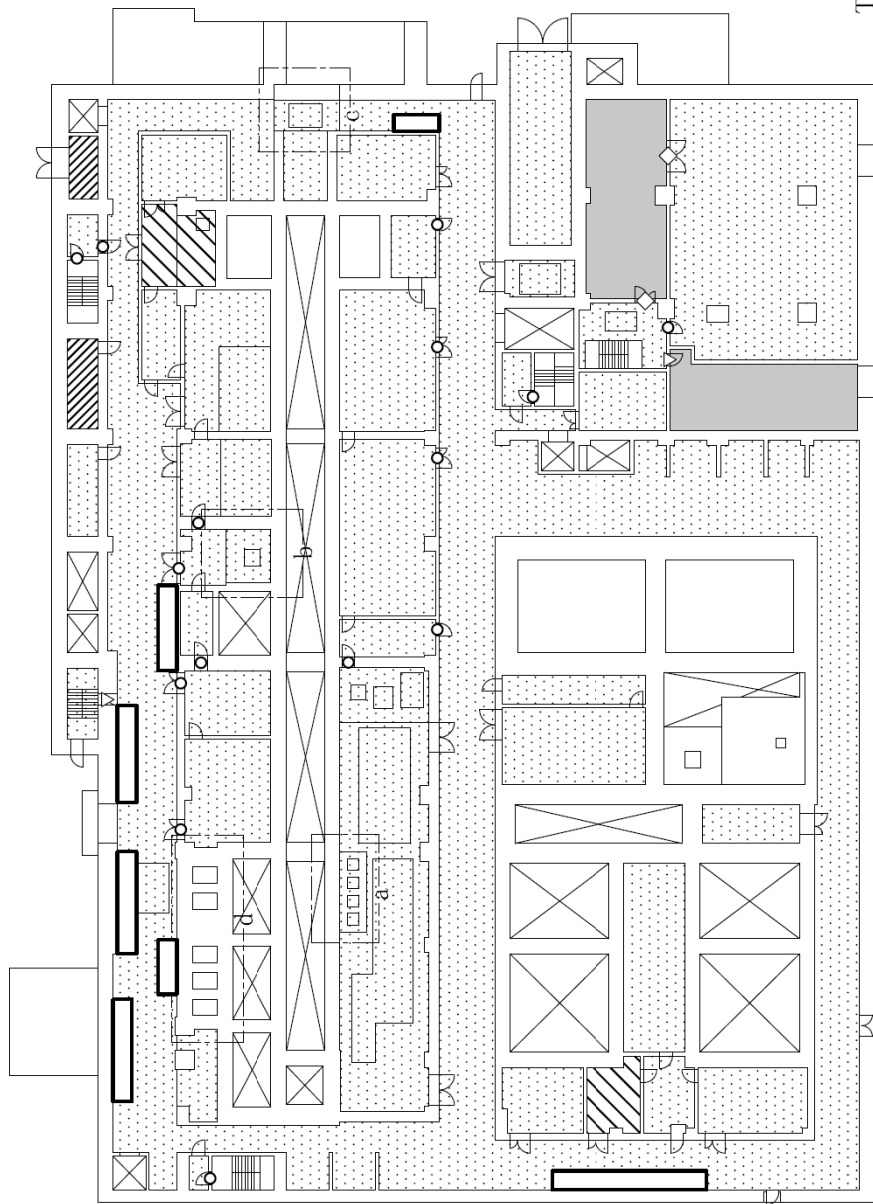
T.M.S.L.約+50,500

溢水ハザードマップ 分離建屋 (地下1階)



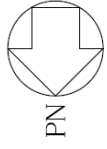
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- ▽ : 風
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- (白) : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- (黒) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- ▨ (点線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- ▧ (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- ▩ (縦線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アクセスマートの溢水高さは50cm以下である。



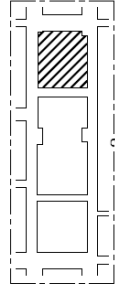
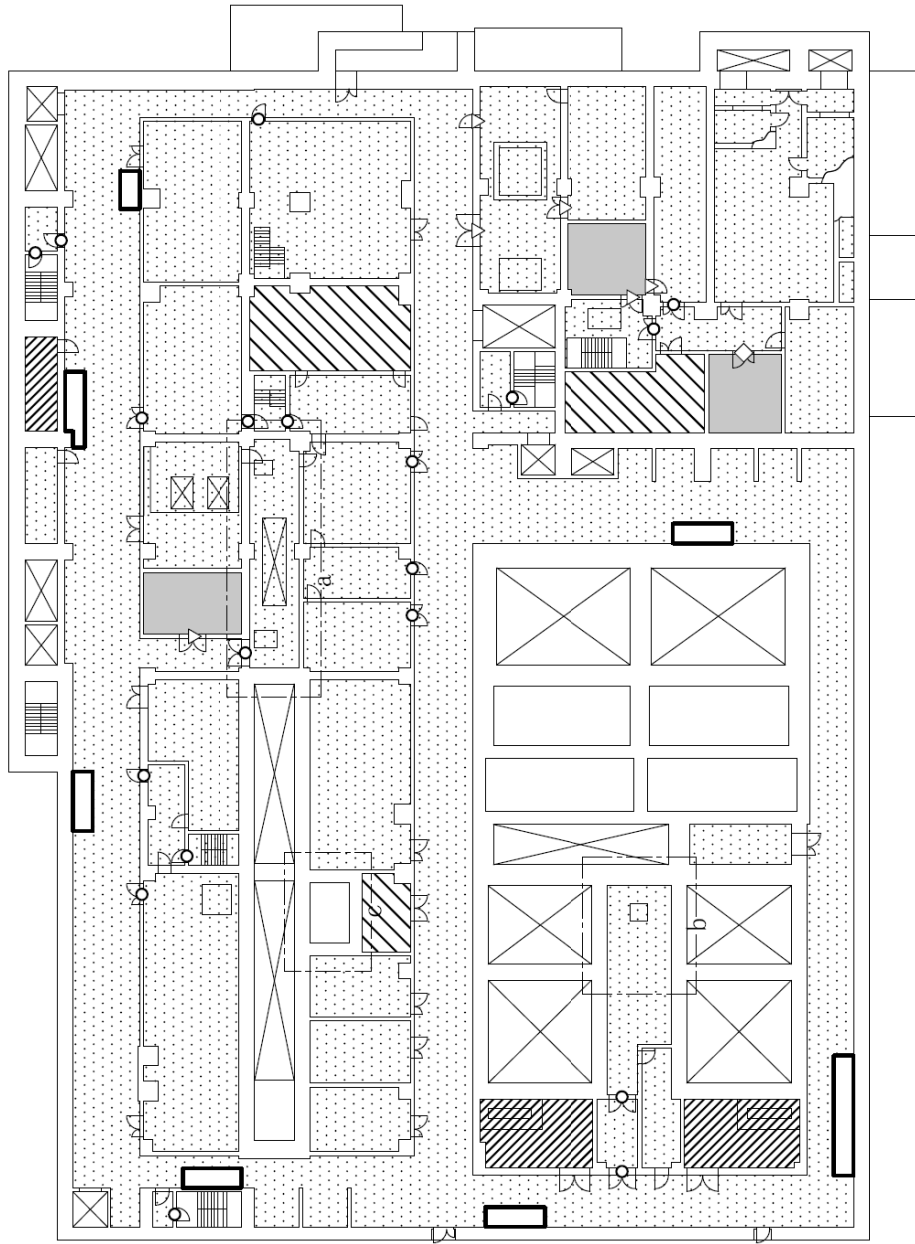
T.M.S.L.約+55,000

溢水ハザードマップ 分離建屋 (地上1階)

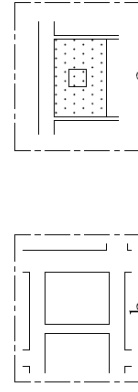


- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所 : : 堰
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m) : : 防水扉
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m) : : 排水扉
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m) : : 排水扉
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~) : : 排水扉

アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。



T.M.S.L.約+59,500

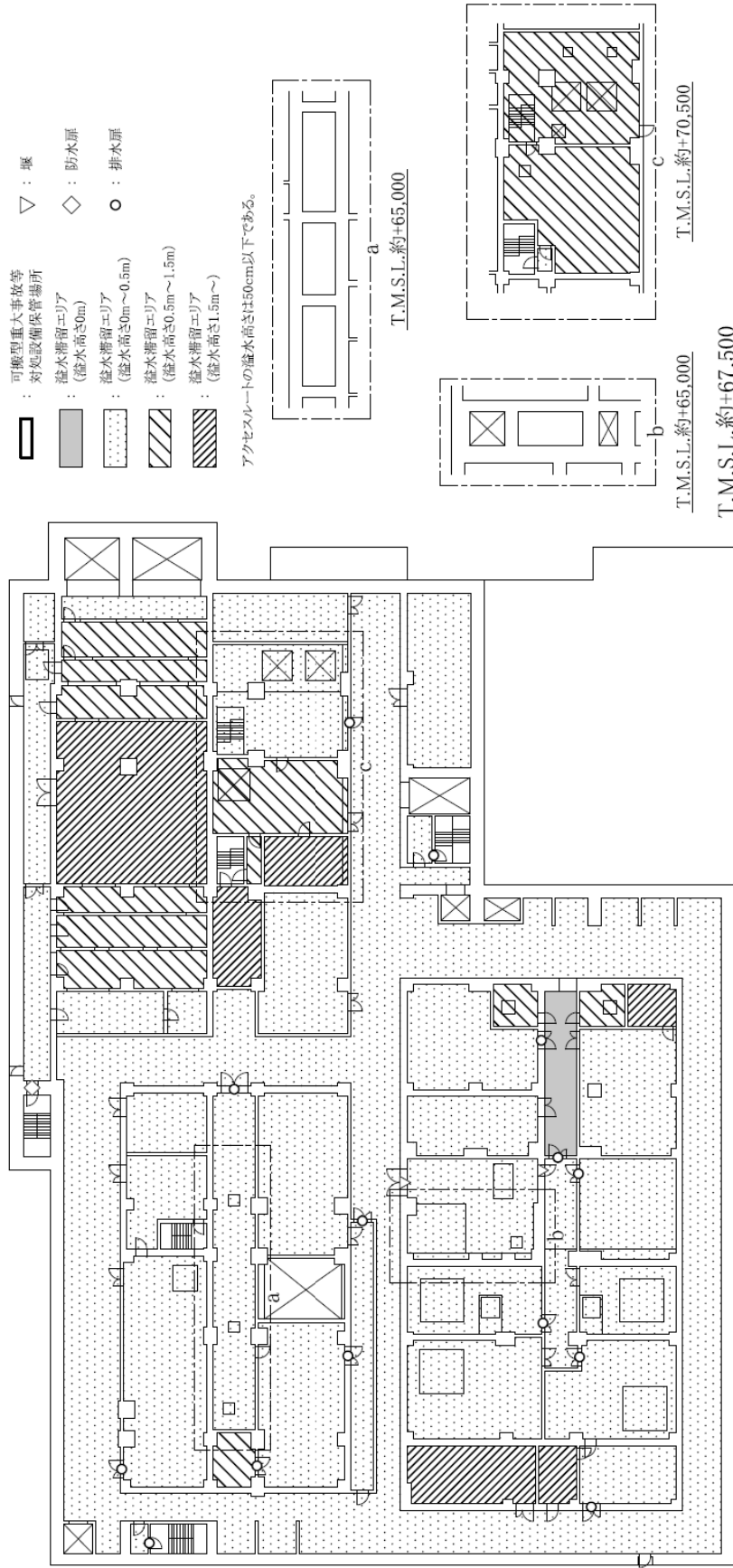
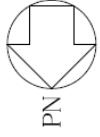


T.M.S.L.約+59,000

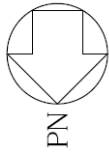
T.M.S.L.約+64,500

T.M.S.L.約+62,000

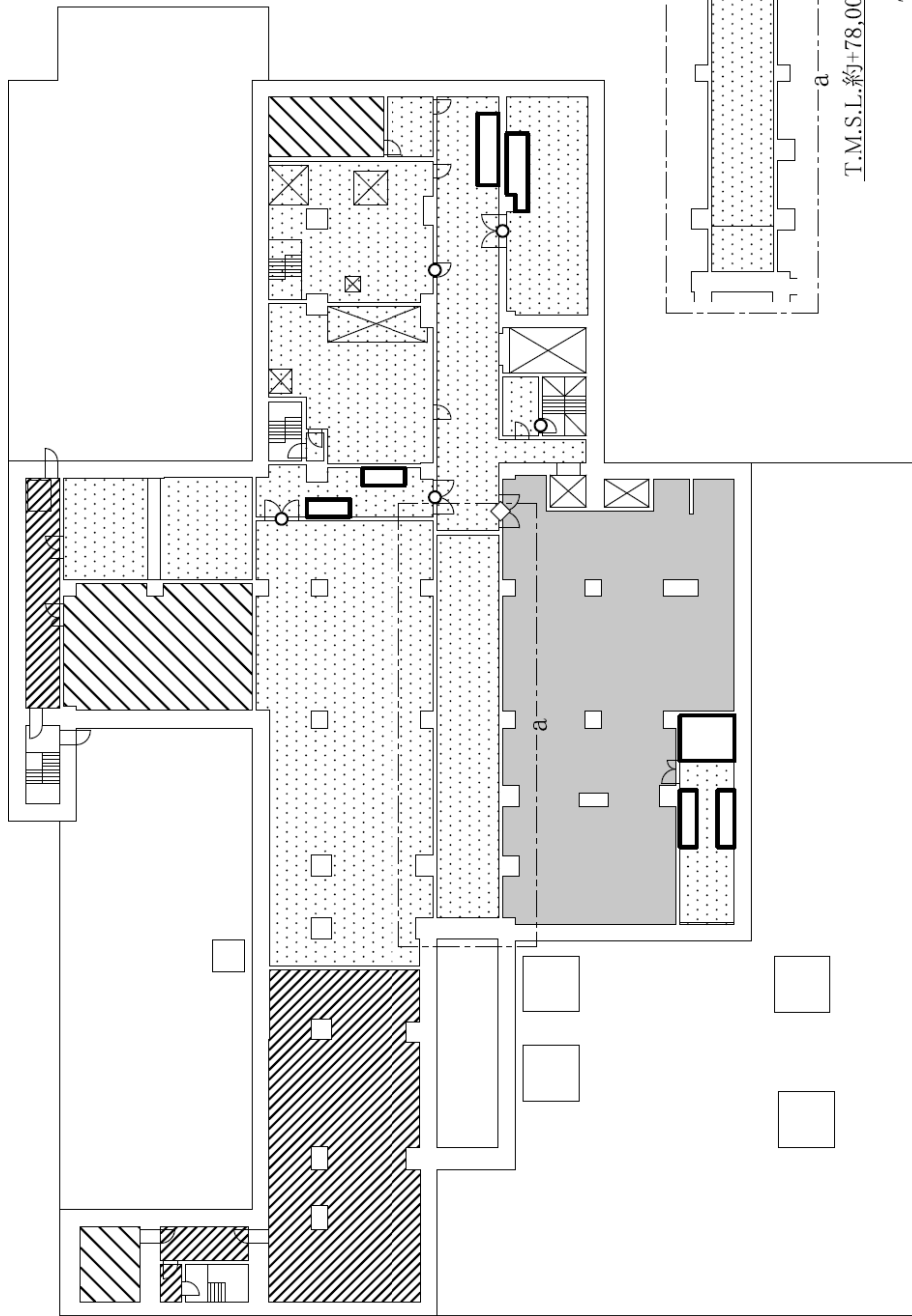
溢水ハザードマップ 分離建屋 (地上2階)



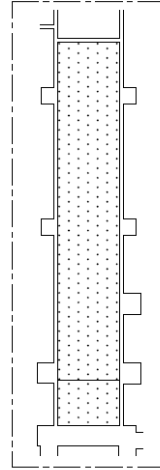
溢水ハザードマップ 分離建屋 (地上3階)



- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)



アクセスルートの溢水高さは50cm以下である。



T.M.S.L.約+78,000

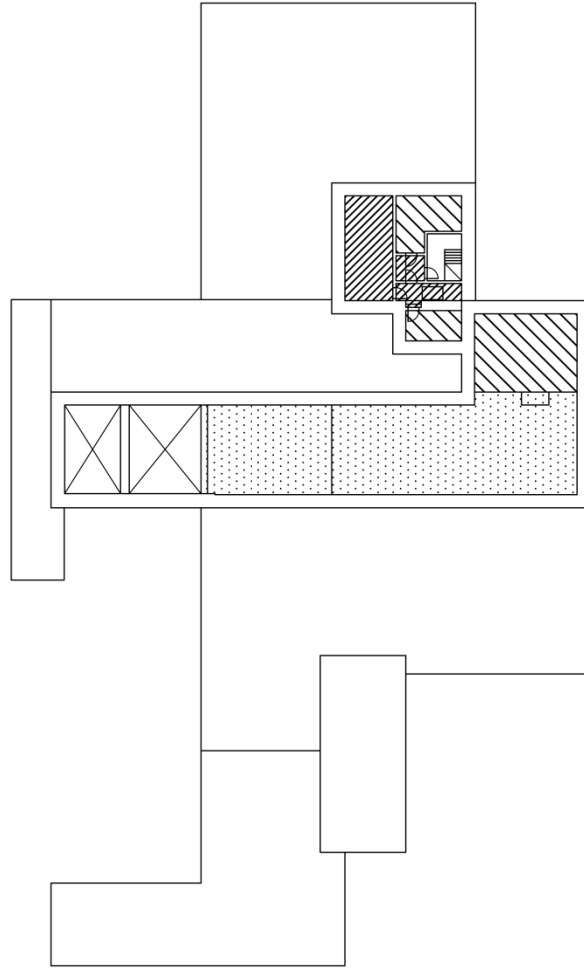
T.M.S.L.約+74,000

溢水ハザードマップ 分離建屋 (地上4階)





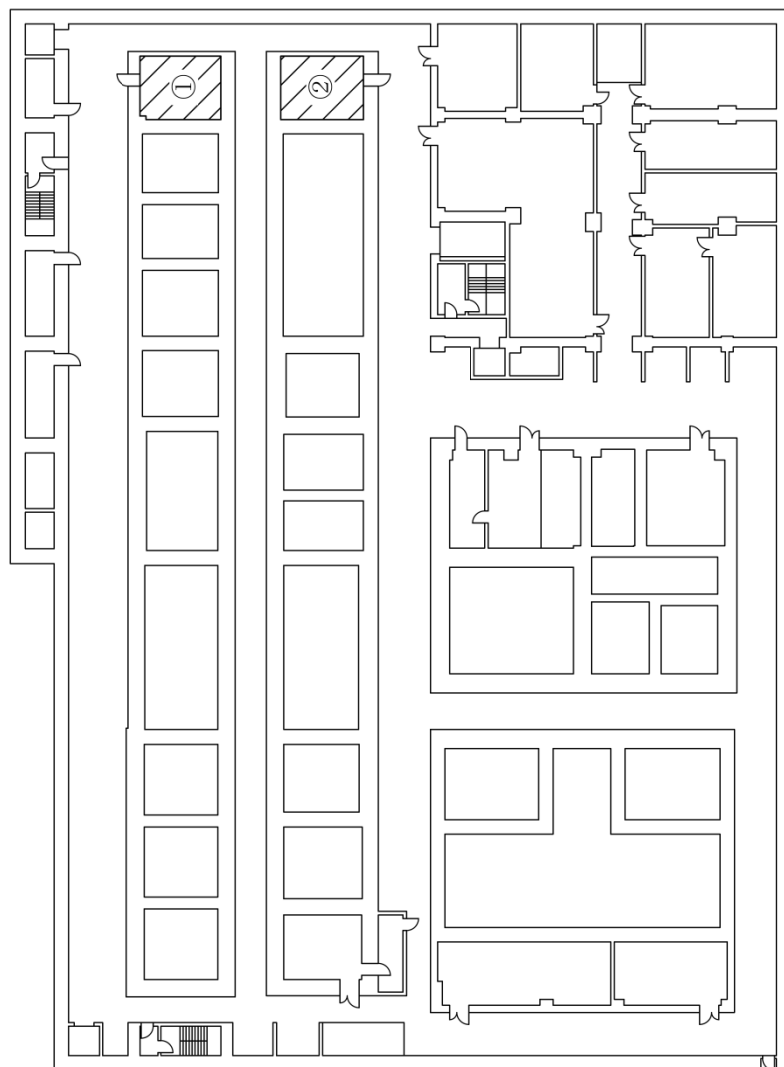
- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- : 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- (点線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- (斜線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- (縦線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- (横線) : 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)



アケスルーの溢水高さは50cm以下である。

T.M.S.L.約+81,000

溢水ハザードマップ 分離建屋（屋上階）



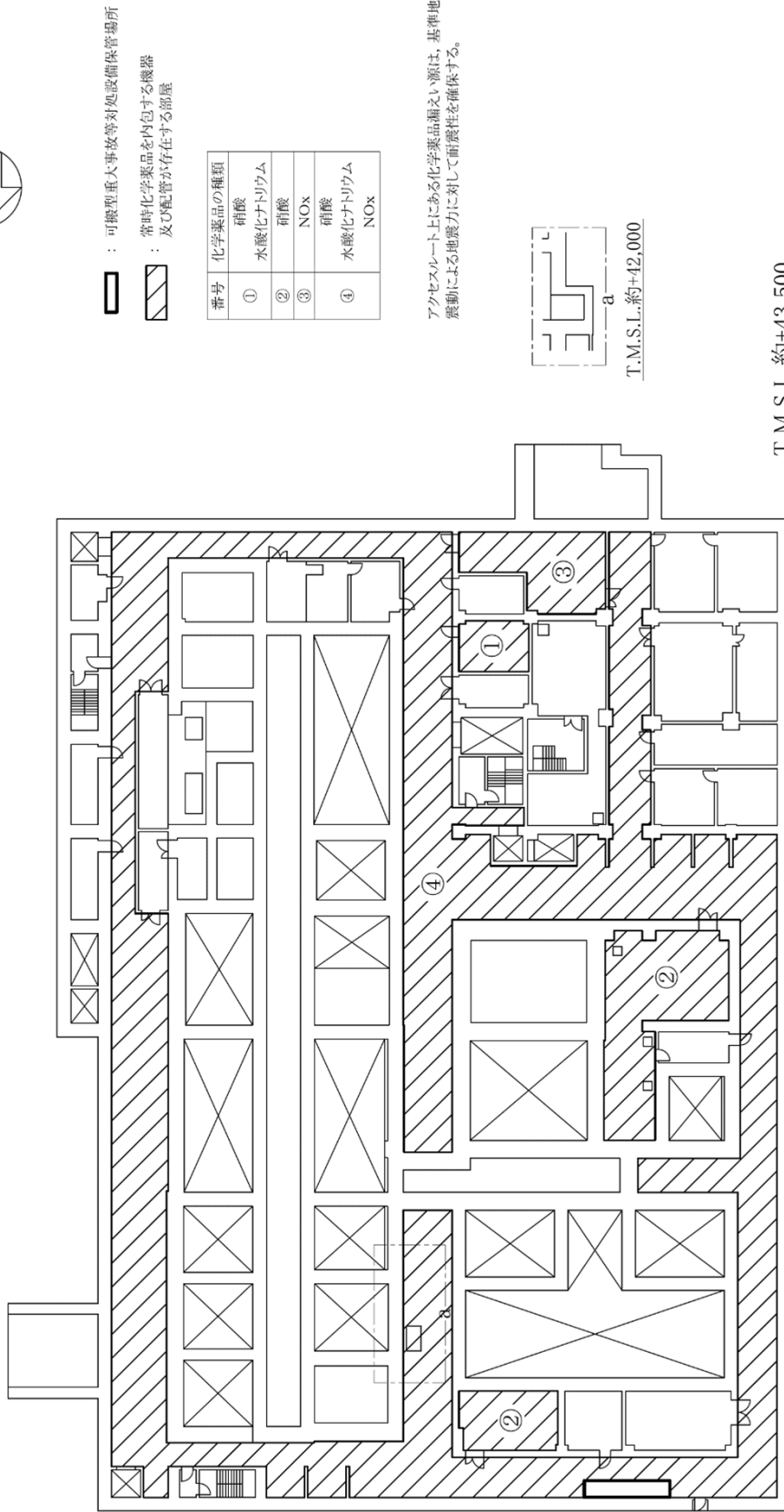
- : 可搬型重大事故等対応設備保管場所
- : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸 水酸化ナトリウム
②	硝酸

アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。

T.M.S.L.約+38,500

化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地下3階）



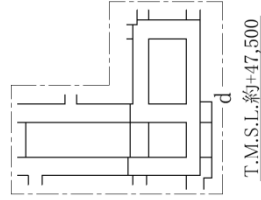
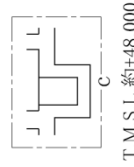
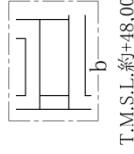
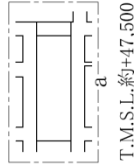
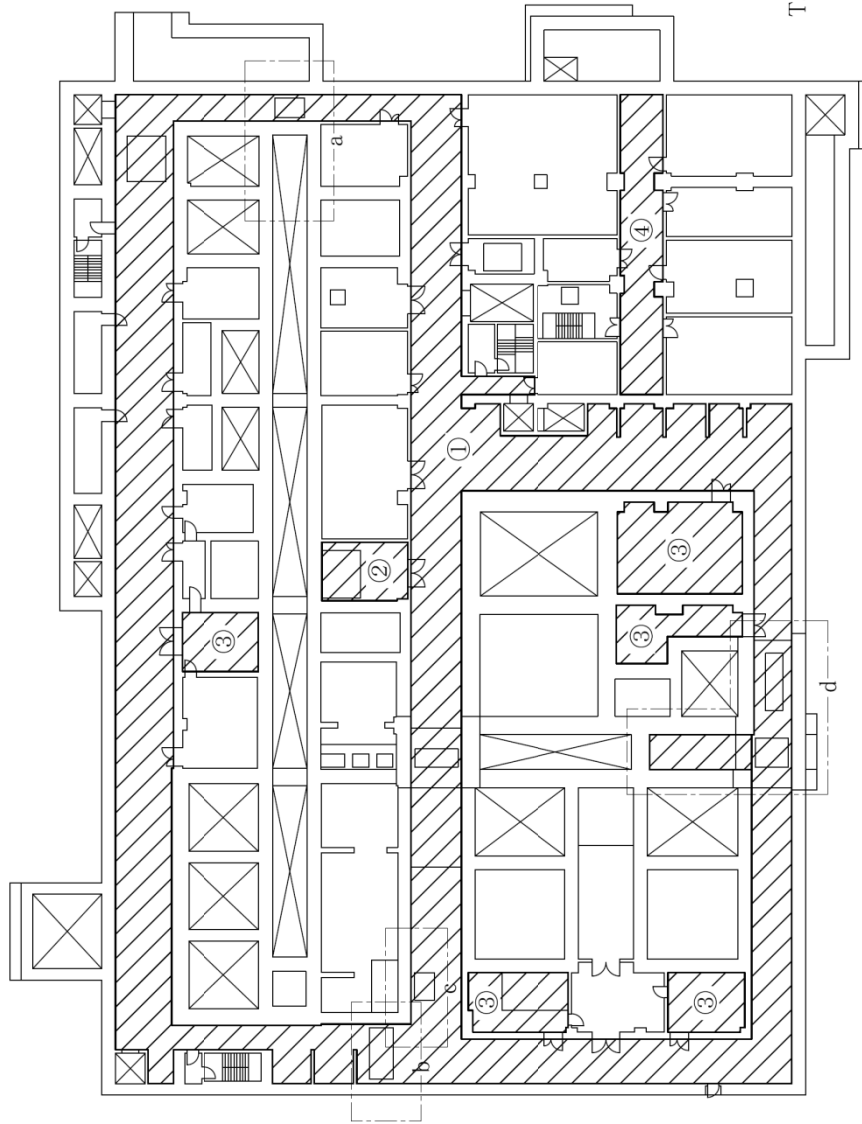
化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地下2階）



- : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
- : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類	番号	化学薬品の種類
①	NOx	②	硝酸
	n-ドデカリン	③	水酸化ナトリウム
	りん酸三ブチル	④	硝酸
	硝酸ヒドrazin		硝酸ヒドrazin
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム

アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。



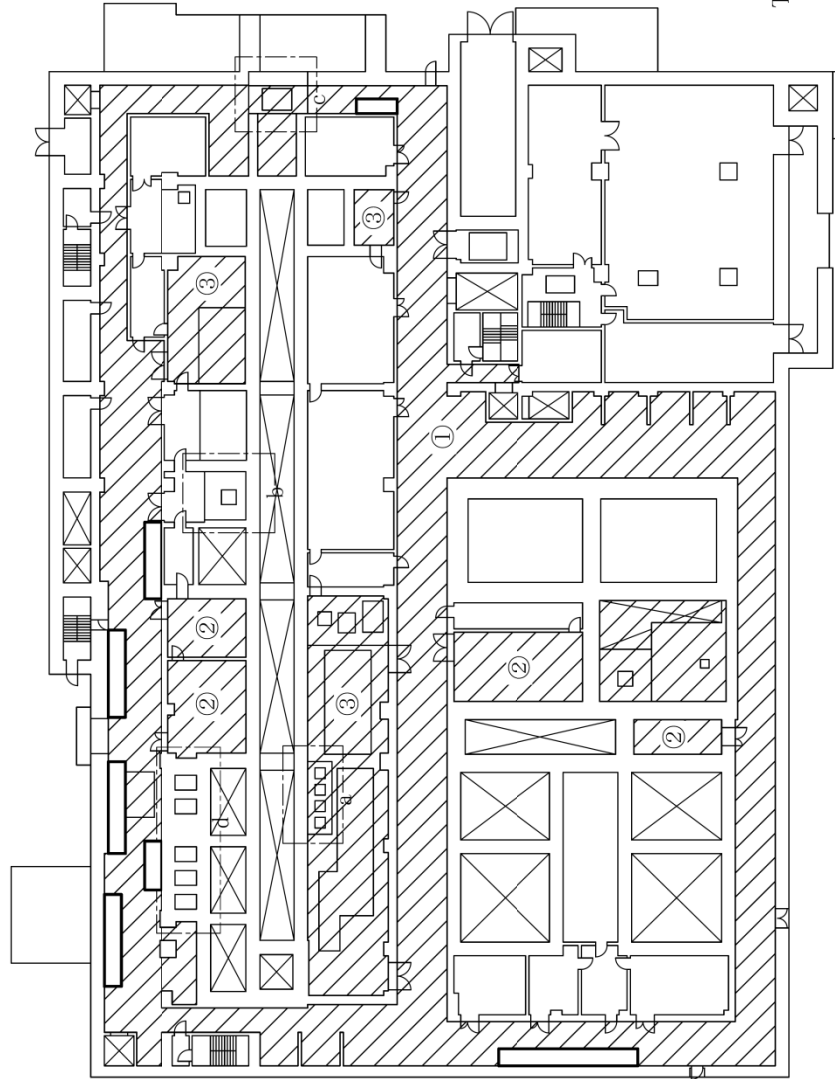
T.M.S.L.約+50,500

化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地下1階）



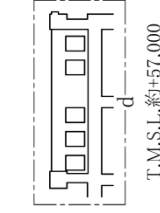
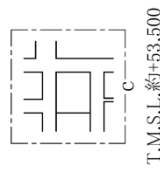
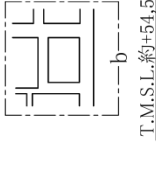
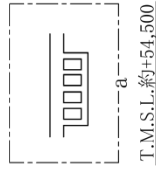
□ : 可搬型重大事故等対応施設備置場所

▨ : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋



番号	化学薬品の種類	番号	化学薬品の種類
①	NOx	②	硝酸
	n-ドデカン		硝酸
	りん酸ニブチル	③	水酸化ナトリウム
	硝酸ヒドrazin		硝酸
	水酸化ナトリウム		

アクセラレート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。

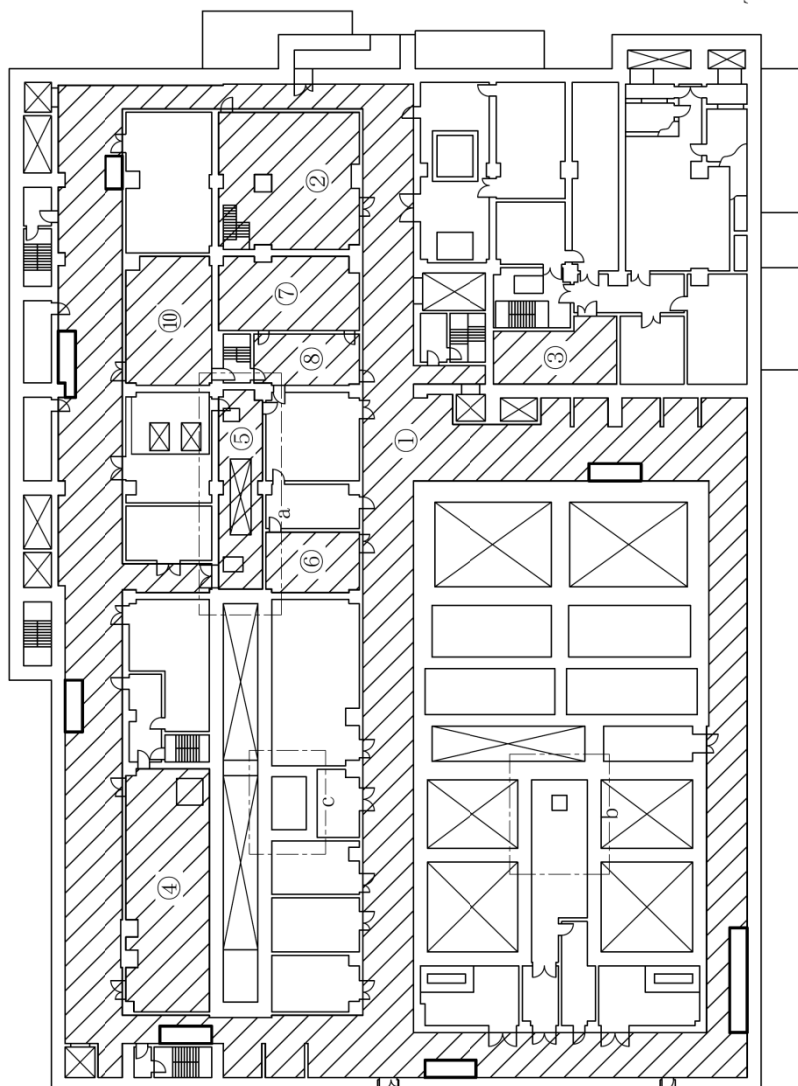


T.M.S.L.約+55,000

化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地上1階）



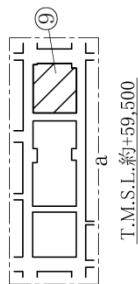
- : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
- : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋



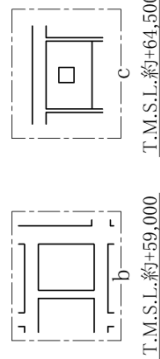
番号	化学薬品の種類
①	NOx n-ドデカン りん酸三ブチル 硝酸ヒドラン 硝酸
②	NOx 硝酸ヒドラン 硝酸 水酸化ナトリウム

番号	化学薬品の種類
③	硝酸ヒドラン 硝酸 水酸化ナトリウム
④	n-ドデカン りん酸三ブチル ウラナス 硝酸ヒドラン 硝酸
⑤	硝酸 水酸化ナトリウム
⑥	硝酸 水酸化ナトリウム

番号	化学薬品の種類
⑦	NOx りん酸三ブチル ウラナス 硝酸ウラニル 硝酸 水酸化ナトリウム
⑧	りん酸三ブチル ウラナス 硝酸ウラニル 硝酸 水酸化ナトリウム
⑨	硝酸 水酸化ナトリウム
⑩	硝酸 水酸化ナトリウム 硝酸ガドリニウム



アグセスルーフ上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。



T.M.S.L.約+62,000

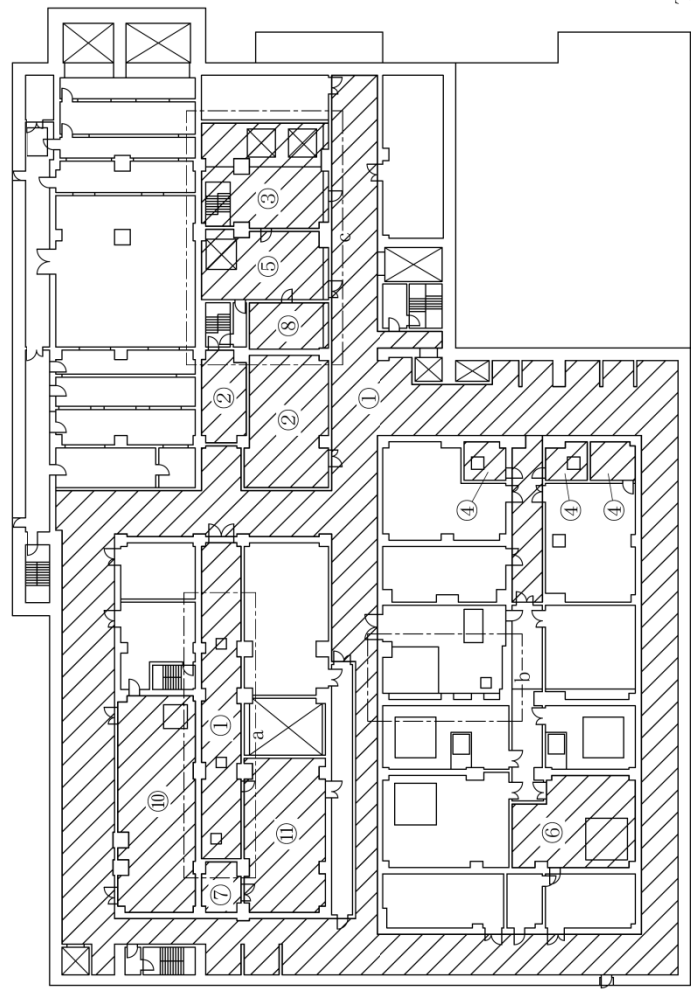
T.M.S.L.約+64,500

### 化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地上2階）

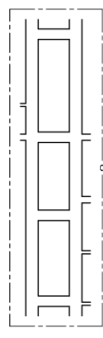
可燃物重大事故等  
 対処設備保管場所

常時化学薬品を内包する機器  
 及び配管が存在する部屋

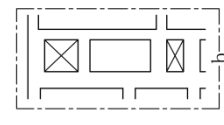
番号	化学薬品の種類	番号	化学薬品の種類
①	NOX	⑥	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
②	硝酸ヒドラン	⑦	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
③	n-ドデカン	⑧	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
④	NOX	⑨	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑤	硝酸ヒドラン	⑩	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
⑥	n-ドデカン	⑪	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
⑦	NOX	⑫	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑧	硝酸ヒドラン	⑬	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
⑨	n-ドデカン	⑭	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
⑩	NOX	⑮	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑪	硝酸ヒドラン	⑯	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
⑫	n-ドデカン	⑰	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
⑬	NOX	⑱	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑭	硝酸ヒドラン	⑲	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
⑮	n-ドデカン	⑳	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
⑯	NOX	㉑	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑰	硝酸ヒドラン	㉒	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
⑱	n-ドデカン	㉓	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
⑲	NOX	㉔	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
⑳	硝酸ヒドラン	㉕	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㉑	n-ドデカン	㉖	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㉒	NOX	㉗	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㉓	硝酸ヒドラン	㉘	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㉔	n-ドデカン	㉙	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㉕	NOX	㉚	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㉖	硝酸ヒドラン	㉛	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㉗	n-ドデカン	㉜	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㉘	NOX	㉝	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㉙	硝酸ヒドラン	㉞	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㉚	n-ドデカン	㉟	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㉛	NOX	㊱	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㉜	硝酸ヒドラン	㊲	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㉝	n-ドデカン	㊳	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㉞	NOX	㊴	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㉟	硝酸ヒドラン	㊵	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㊱	n-ドデカン	㊶	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㊲	NOX	㊷	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㊳	硝酸ヒドラン	㊸	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㊴	n-ドデカン	㊹	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㊵	NOX	㊺	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㊶	硝酸ヒドラン	㊻	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㊷	n-ドデカン	㊼	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㊸	NOX	㊽	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㊹	硝酸ヒドラン	㊾	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㊺	n-ドデカン	㊿	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㊻	NOX	㉑	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㊼	硝酸ヒドラン	㉒	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX
㊽	n-ドデカン	㉓	n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
	硝酸ヒドラン		硝酸ヒドラン
㊾	NOX	㉔	NOX
	n-ドデカン		n-ドデカン
	りん酸三ブチル		りん酸三ブチル
	ウラナス		ウラナス
㊿	硝酸ヒドラン	㉕	硝酸
	硝酸		硝酸
	水酸化ナトリウム		水酸化ナトリウム
	NOX		NOX



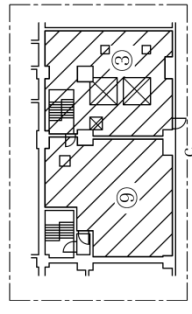
アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地  
 震動による地震力に対して耐震性を確保する。



T.M.S.L.約+65,000



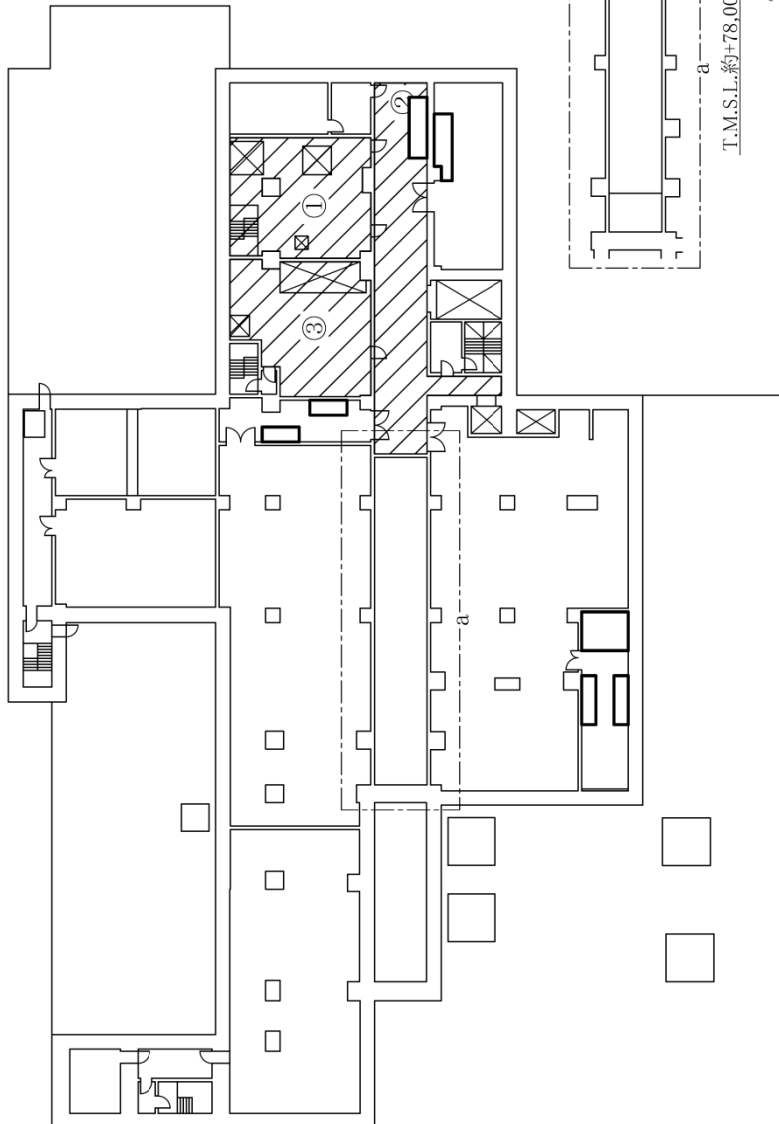
T.M.S.L.約+65,000





T.M.S.L.約+70,500

T.M.S.L.約+67,500

化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地上3階）



 : 可搬型重大事故等対処設備保管場所  
 : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

番号	化学薬品の種類
①	硝酸ヒドラジン
	硝酸
②	水酸化ナトリウム
	硝酸
③	ノードテカン
	りん酸三ブチル
	ウラナス
	硝酸ウラニル
	硝酸
	水酸化ナトリウム
	硝酸ガドリニウム

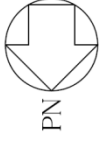
アカセルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。



T.M.S.L.約+78,000

T.M.S.L.約+74,000

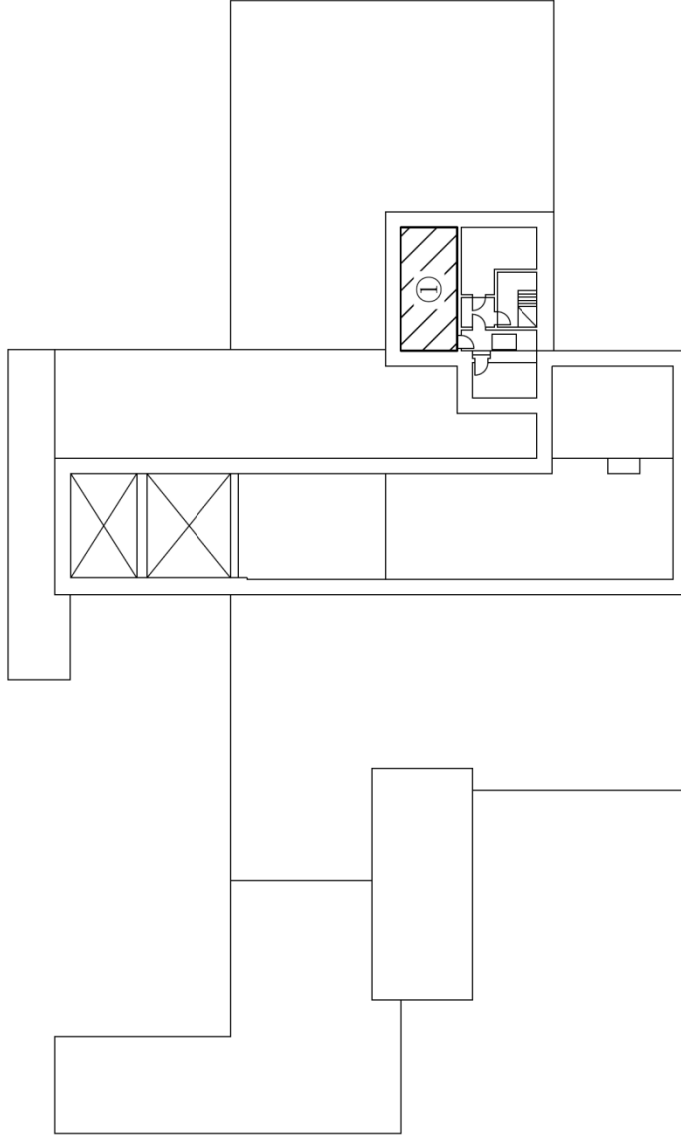
化学薬品ハザードマップ 分離建屋（地上4階）





-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 常時化学薬品を内包する機器及び配管が存在する部屋

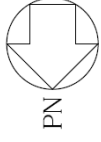
番号	化学薬品の種類
①	硝酸



アクセスルート上にある化学薬品漏えい源は、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する。

T.M.S.L.約+81,000

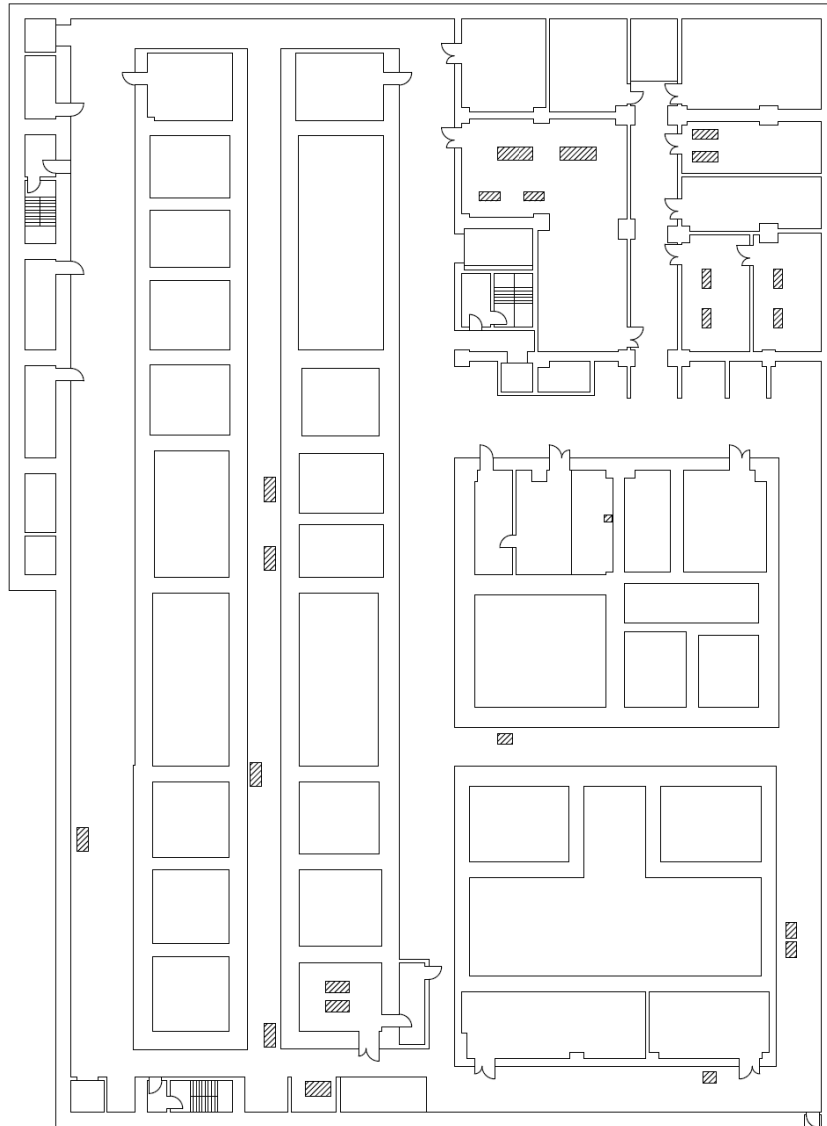
化学薬品ハザードマップ 分離建屋（屋上階）



□ : 可搬型重大事故等対処設備保管場所

▤ : 火災源(可動域)




▨ : 火災源

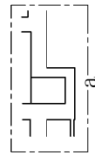
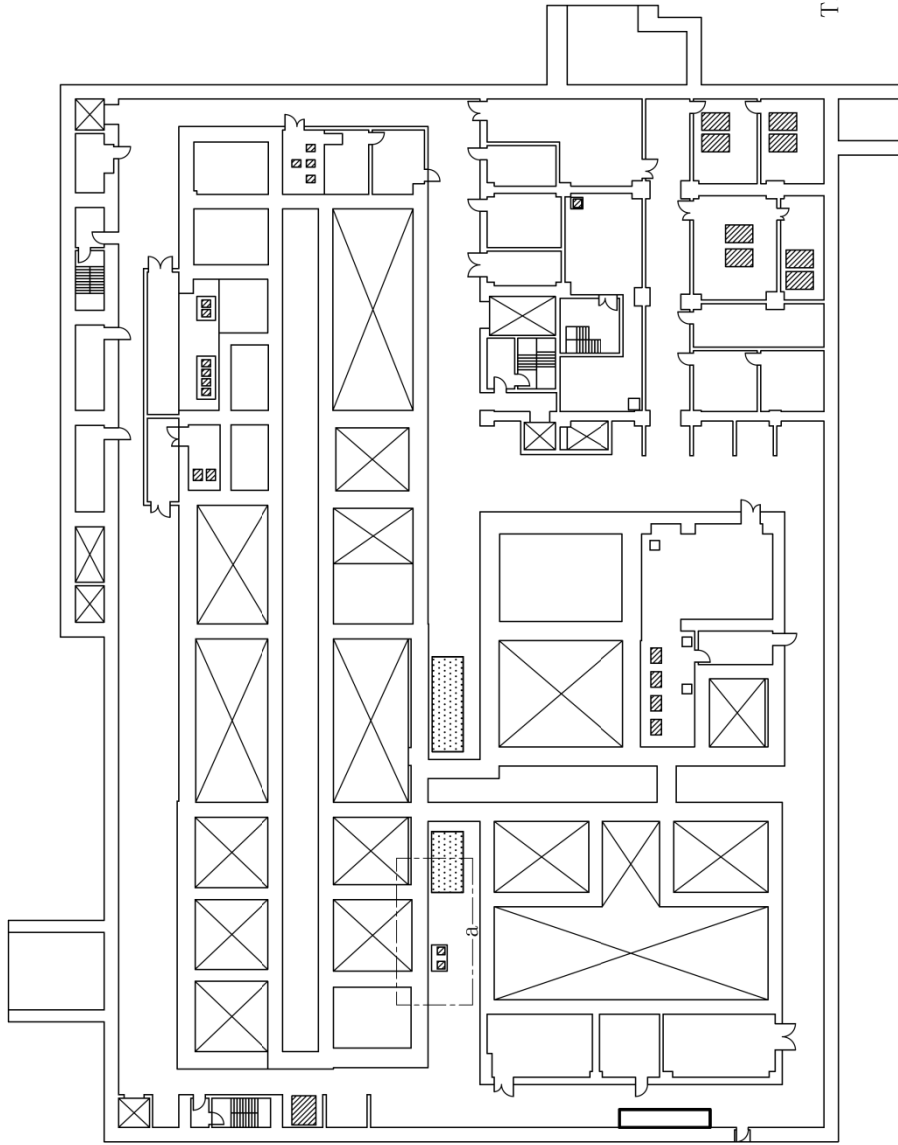


T.M.S.L.約+38,500

### 機器による火災ハザードマップ 分離建屋 (地下3階)



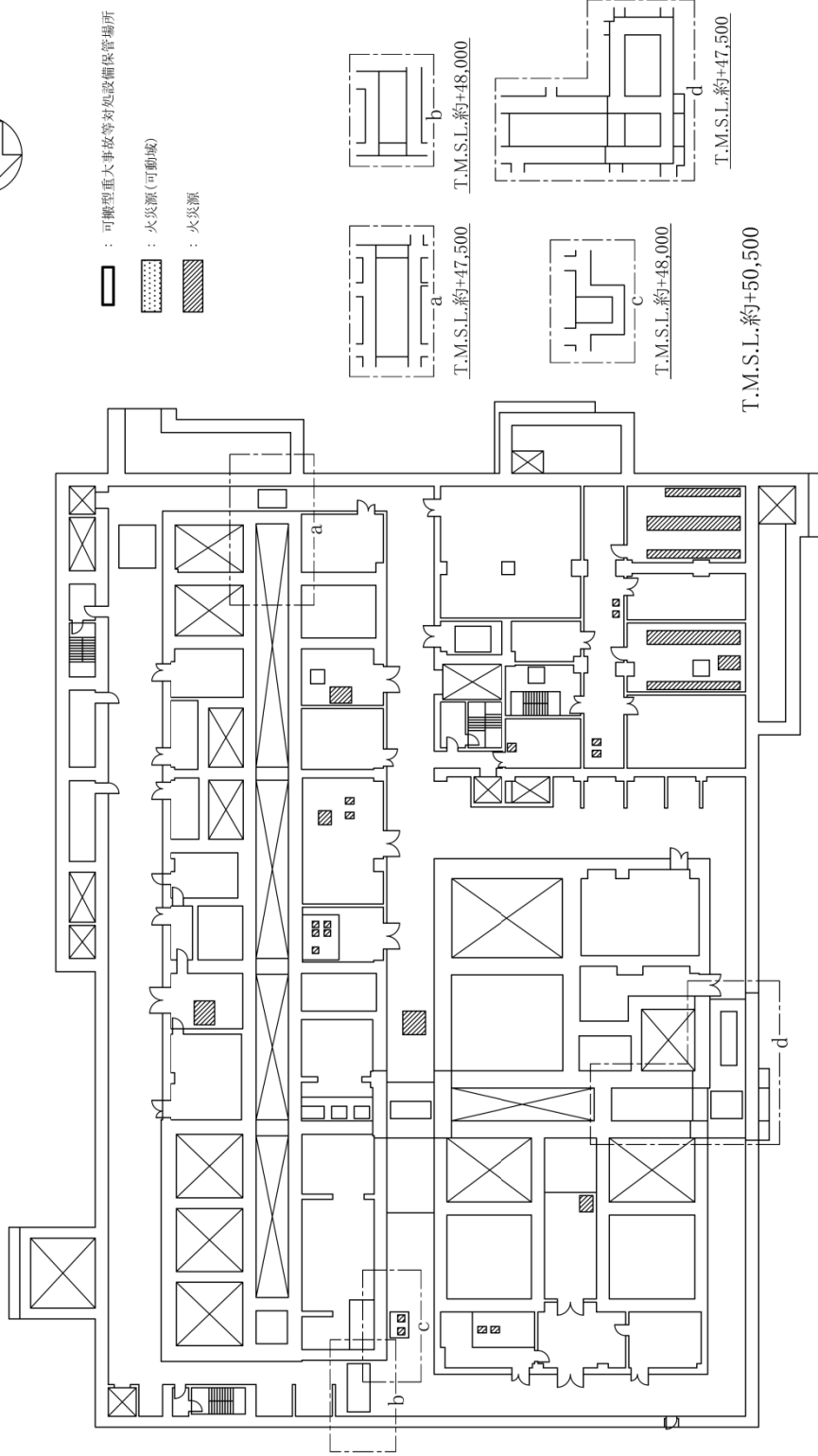
-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 火災源



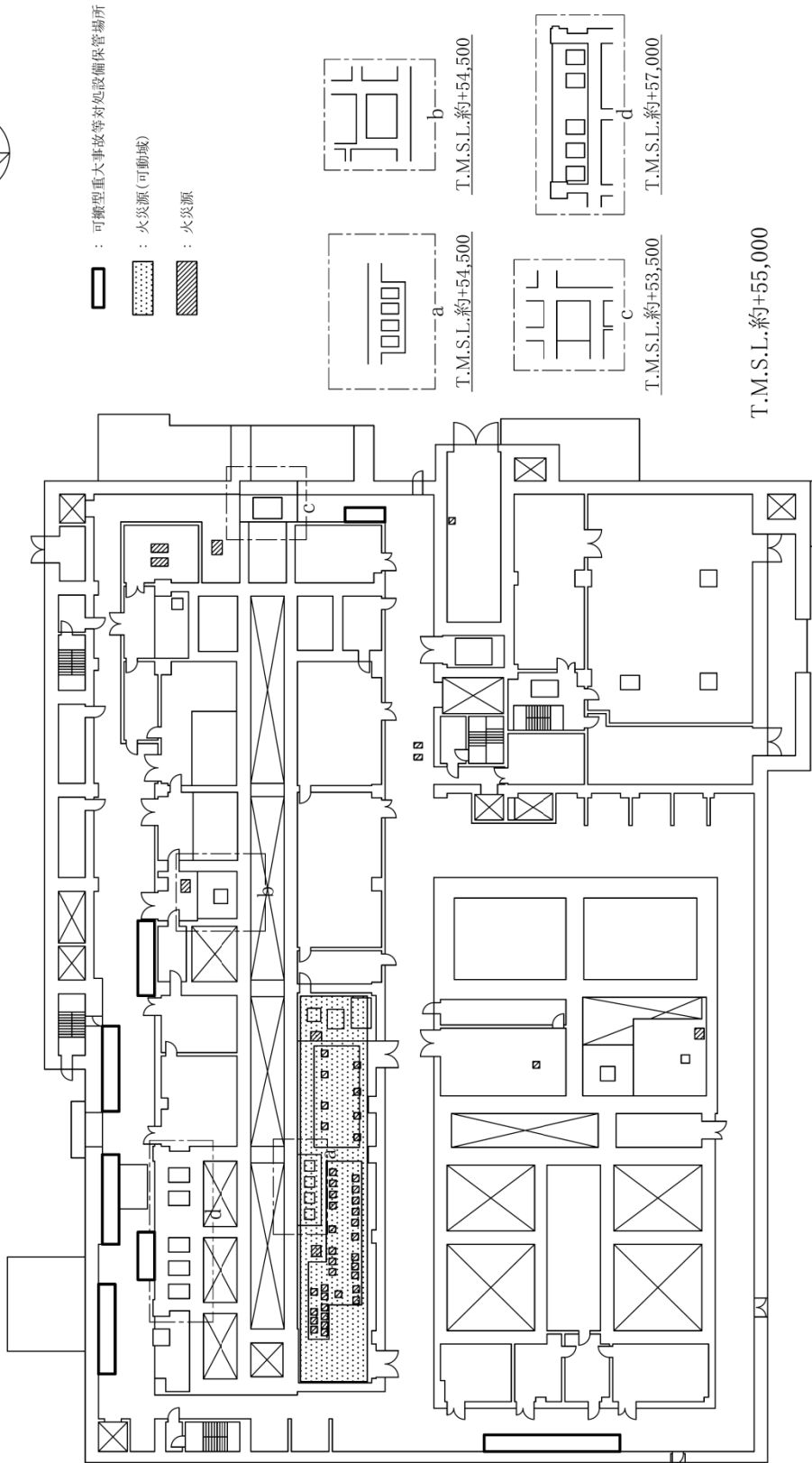
T.M.S.L.約+42,000

T.M.S.L.約+43,500

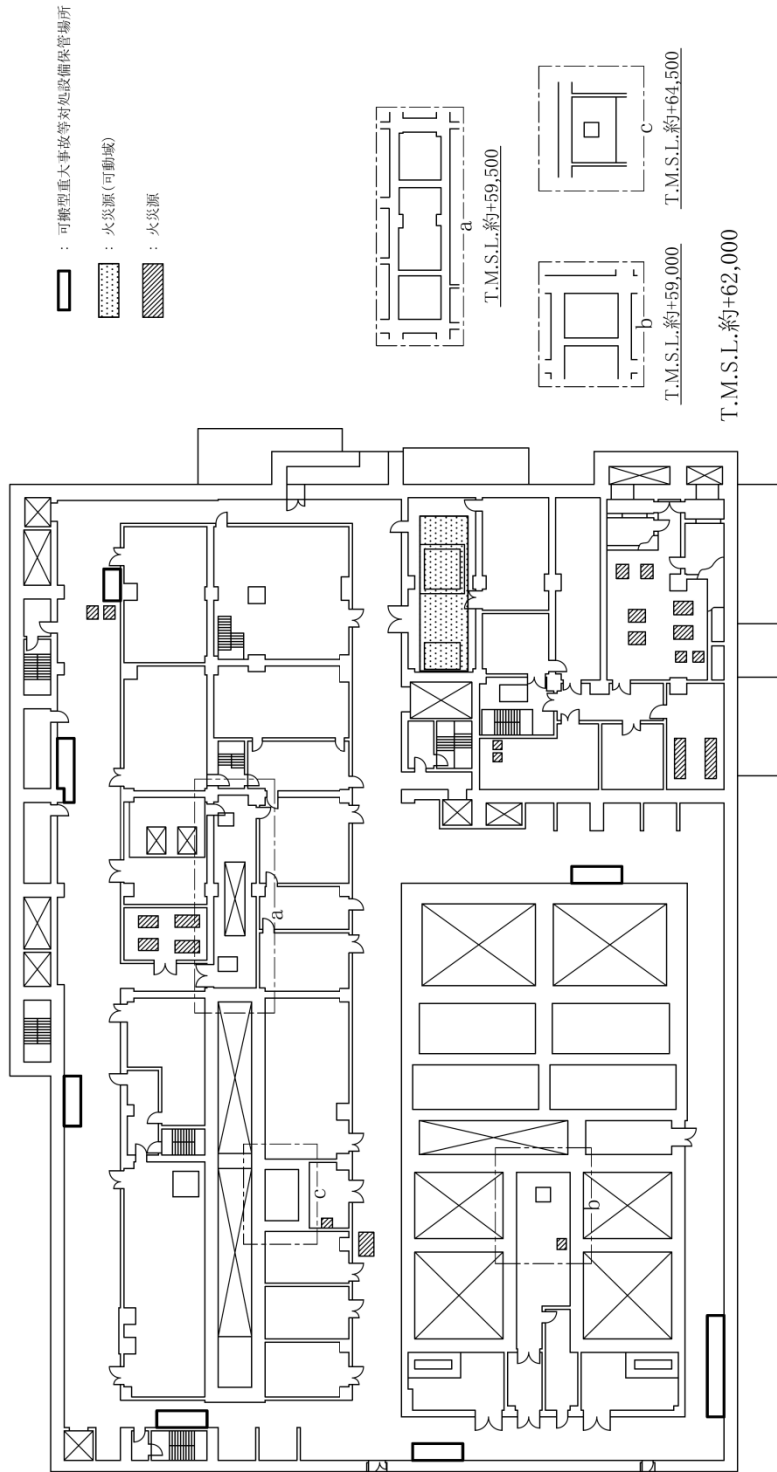
機器による火災ハザードマップ 分離建屋 (地下2階)



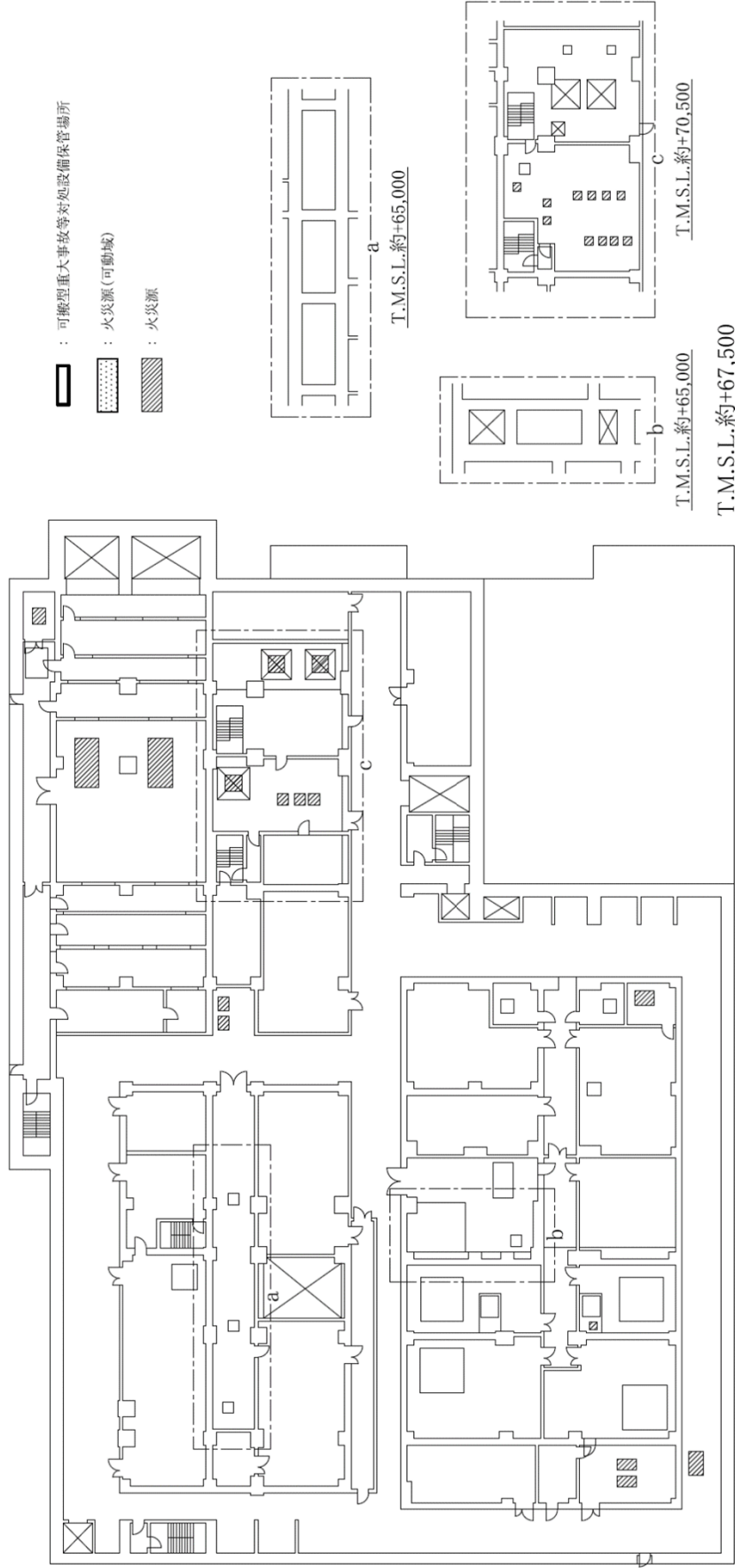
機器による火災ハザードマップ 分離建屋（地下1階）



機器による火災ハザードマップ 分離建屋 (地上1階)



機器による火災ハザードマップ 分離建屋（地上2階）



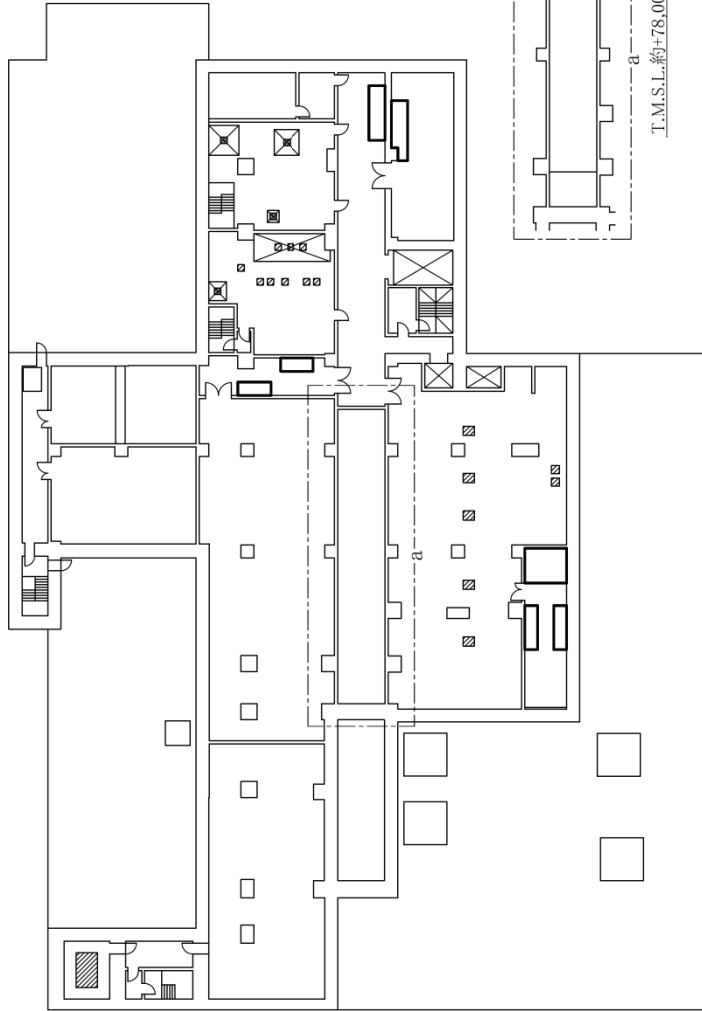
機器による火災ハザードマップ 分離建屋（地上3階）



□ : 可搬型重大事故等対処設備保管場所

▨ : 火災源(可動域)




▩ : 火災源

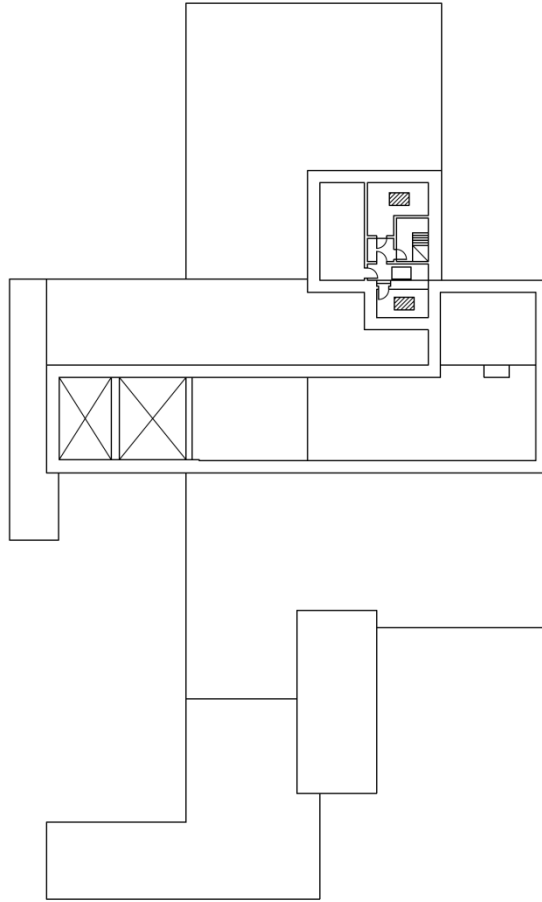


機器による火災ハザードマップ 分離建屋（地上4階）



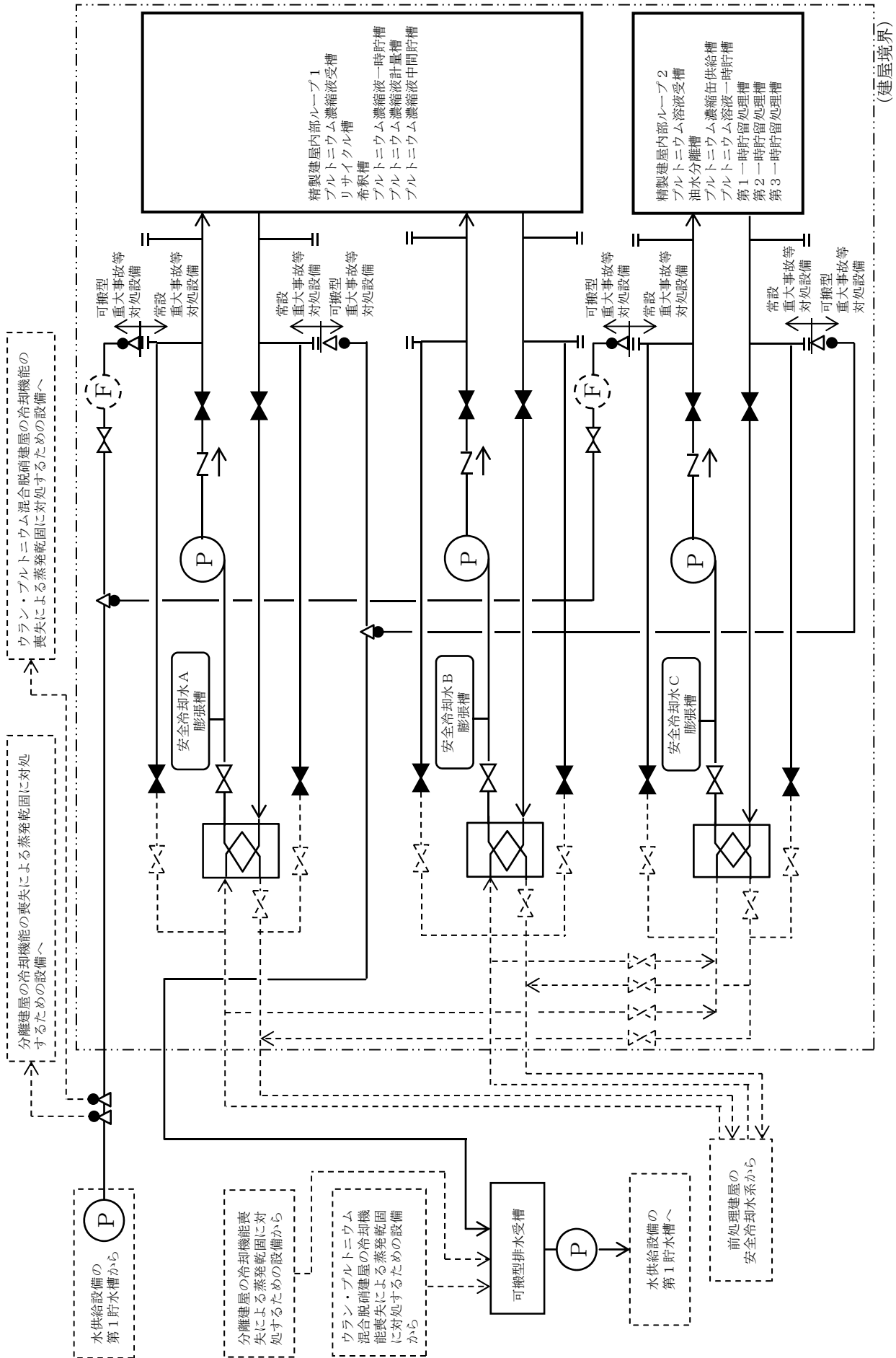


-  : 可搬型重大事故等対処設備保管場所
-  : 火災源(可動域)
-  : 水災源



T.M.S.L.約+81,000

### 機器による火災ハザードマップ 分離建屋（屋上階）

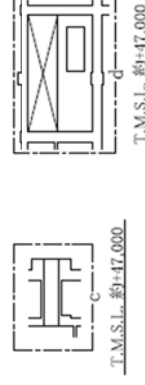
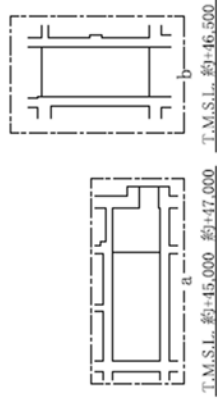
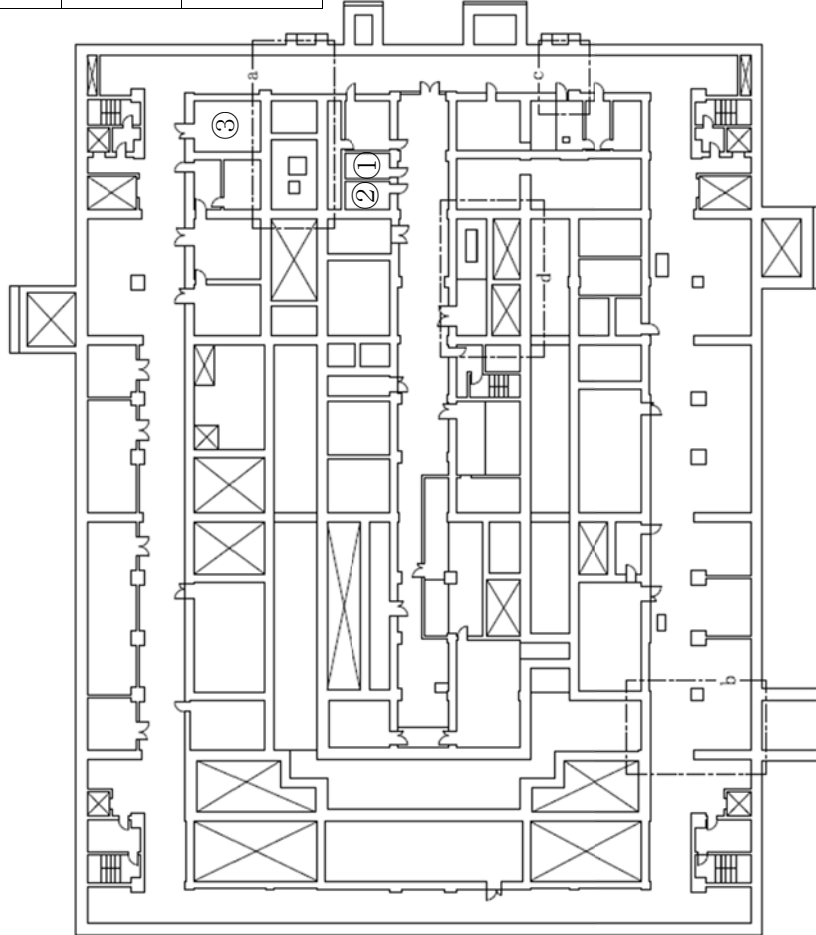


本図は、精製建屋内部ループ1の2系統のうち1系統及び精製建屋内部ループ2の第1接続口に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の系統概要図 精製建屋



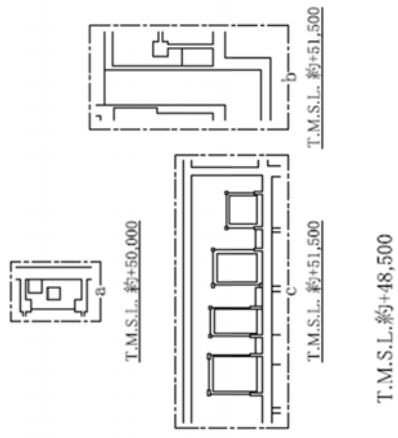
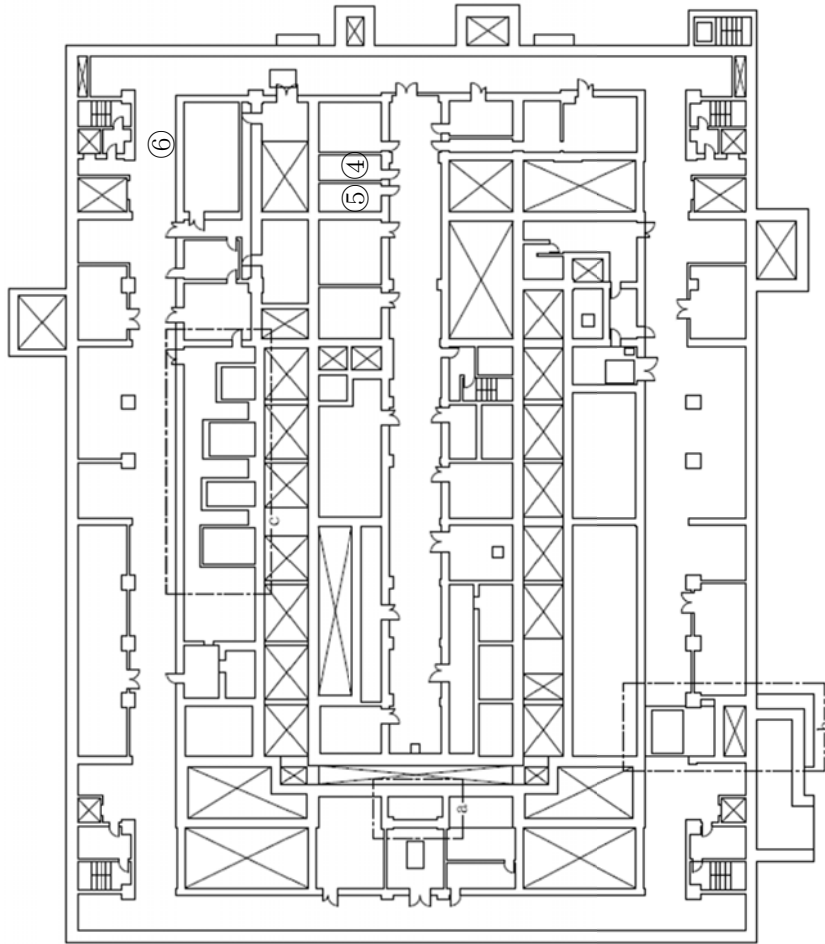
内部ループ1	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水
	第1接続口 (給水口及び排水口)	第2接続口 (給水口及び排水口)	第3接続口 (給水口及び排水口)	第4接続口 (給水口及び排水口)	第4接続口 (給水口及び排水口)
精製建屋 内部ループ1	地下2階 ①	地下2階 ②	地下1階 ④	地下1階 ⑤	
	フルトニウム濃縮液受槽	リサイクル槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	
	加水分置槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	
	フルトニウム濃縮液中間貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	
	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	フルトニウム濃縮液一時貯槽	
精製建屋 内部ループ2	地下2階 ③	地下2階 ⑤			
	第1一時貯留処理槽	第2一時貯留処理槽	第3一時貯留処理槽		



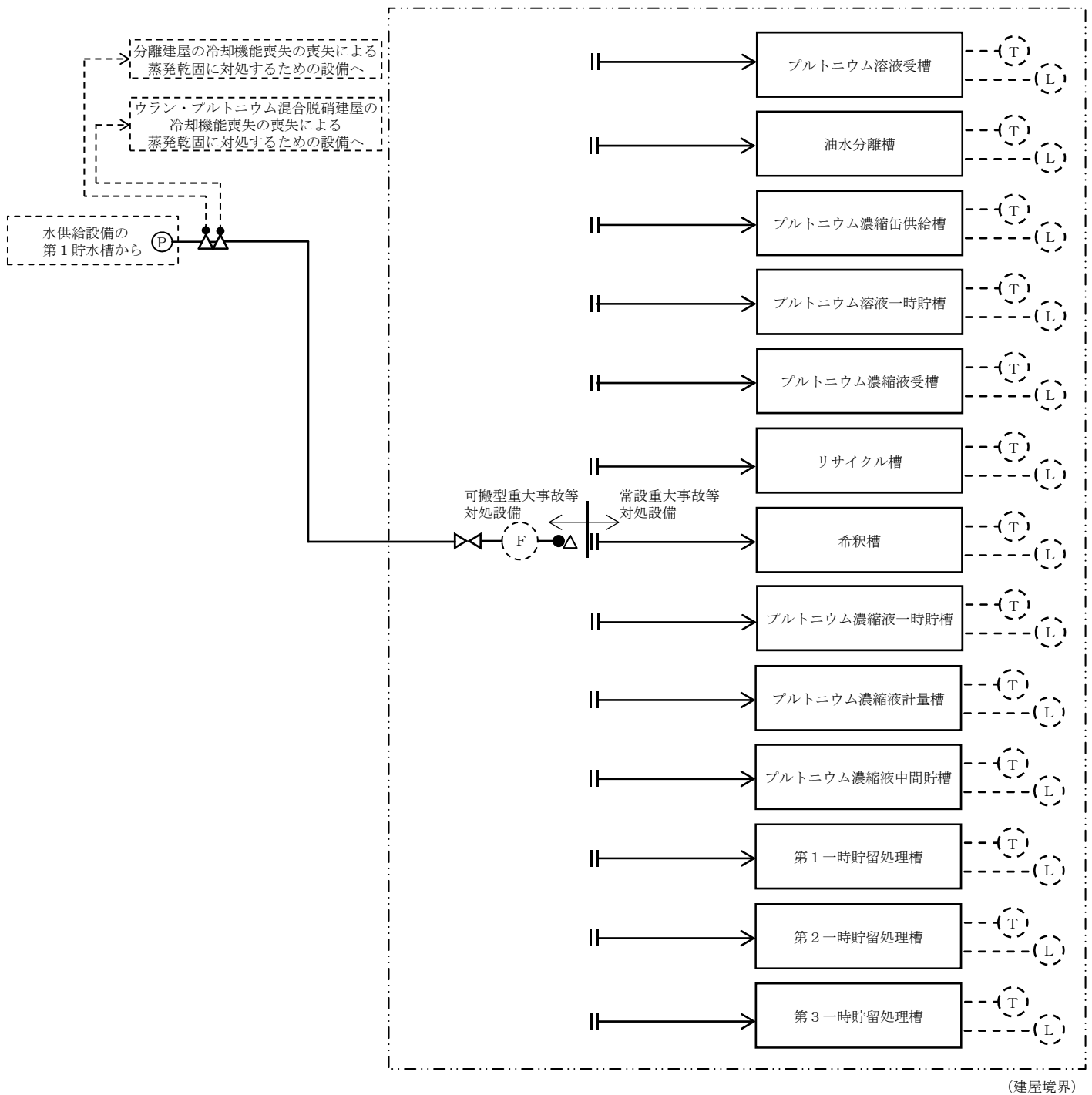
代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地下2階）



内部ループ通水		内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水	内部ループ通水
第1接続口 (給水口及び排水口)		第2接続口 (給水口及び排水口)	第3接続口 (給水口及び排水口)	第4接続口 (給水口及び排水口)	内部ループ通水
精製建屋 内部ループ1	フルトニウム濃縮液受槽	地下2階	地下2階	地下1階	地下1階
	リサイクル槽	①	②	④	⑤
	希釈槽				
	フルトニウム濃縮液一時貯槽				
	フルトニウム濃縮液計量槽				
精製建屋 内部ループ2	フルトニウム濃縮液計量貯槽	地下2階	地下2階		
	フルトニウム濃縮液計量貯槽	③	⑤		
	フルトニウム濃縮液受槽				
	油水分離槽				
	フルトニウム濃縮液供給槽				
		第1一時貯留処理槽			
		第2一時貯留処理槽			
		第3一時貯留処理槽			



代替安全冷却水系（内部ループへの通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地下1階）

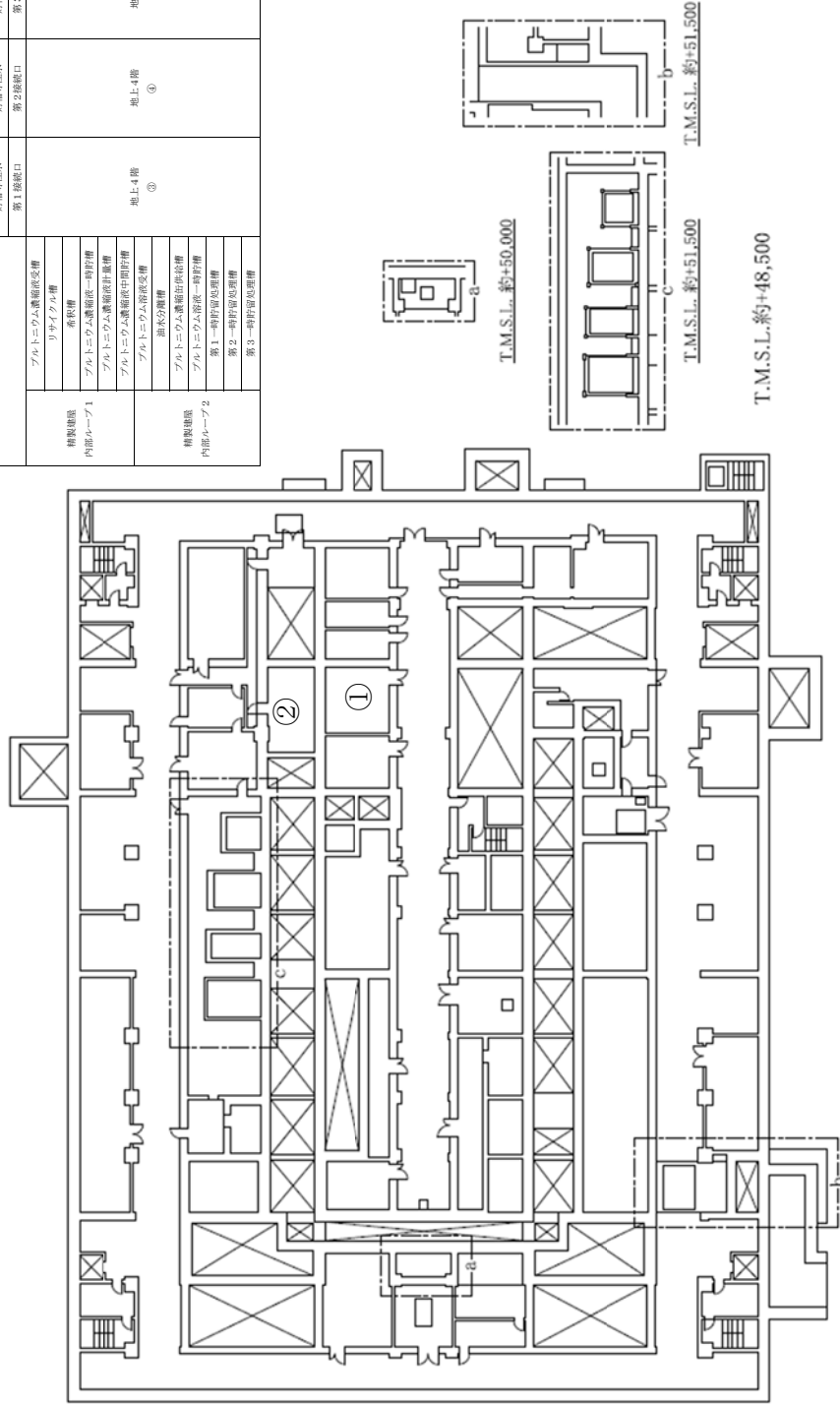


本図は、第1接続口に接続した場合の例である。接続口毎に貯槽注水配管が異なるため、第2接続口から第4接続口に接続する場合は系統構成が異なる。また接続金具等の個数及び位置についても、ホース敷設ルートごとに異なる。

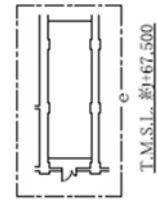
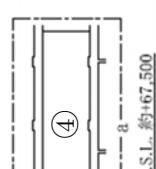
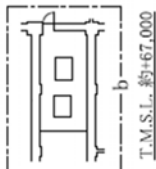
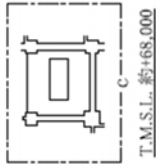
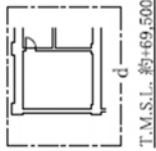
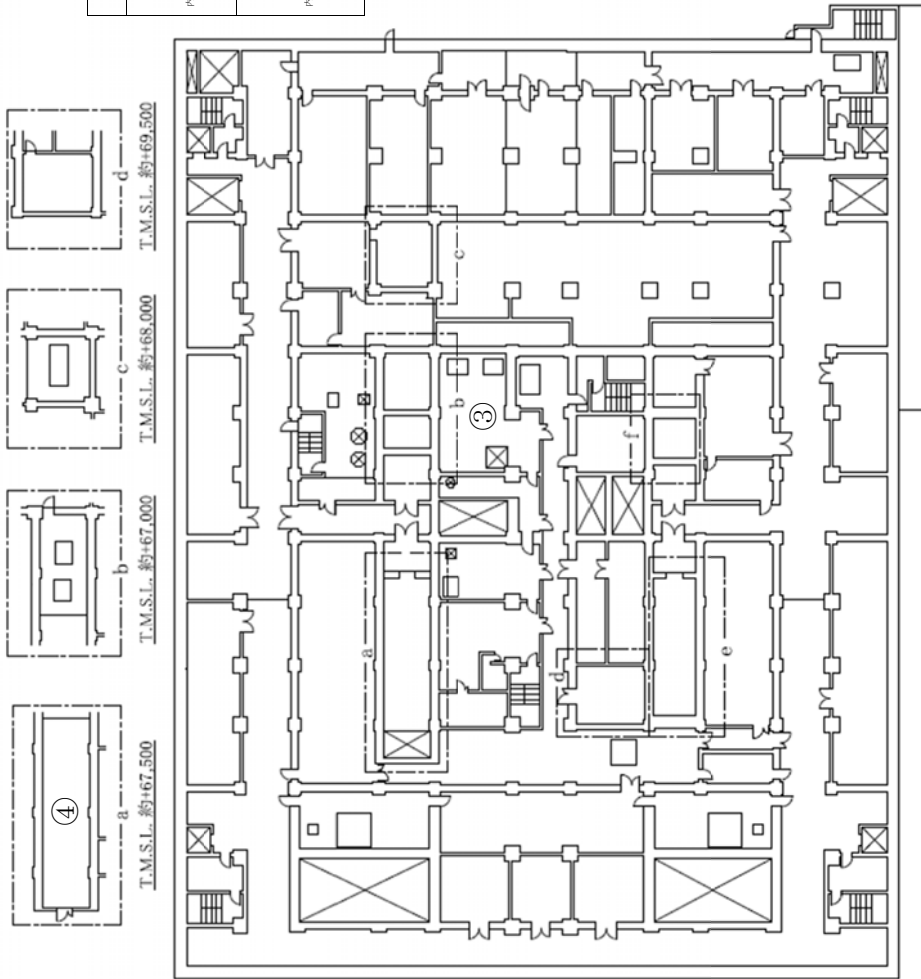
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の系統概要図 精製建屋



		貯槽等注水 第1接続口	貯槽等注水 第2接続口	貯槽等注水 第3接続口	貯槽等注水 第4接続口
精製塩蔵 内部グループ1	フルトニウム濃縮液受槽	地上4階 ④	地上4階 ④	地下1階 ①	地下1階 ②
	リサイクル槽				
	フルトニウム濃縮液二次貯槽				
	フルトニウム濃縮液計量槽				
	フルトニウム濃縮液圧入貯槽				
精製塩蔵 内部グループ2	フルトニウム濃縮液受槽	地上4階 ④	地上4階 ④	地下1階 ①	地下1階 ②
	排水分溜槽				
	フルトニウム濃縮液供給槽				
	フルトニウム濃縮液一時貯槽				
	第1一時貯留処理槽				
第2一時貯留処理槽					
第3一時貯留処理槽					



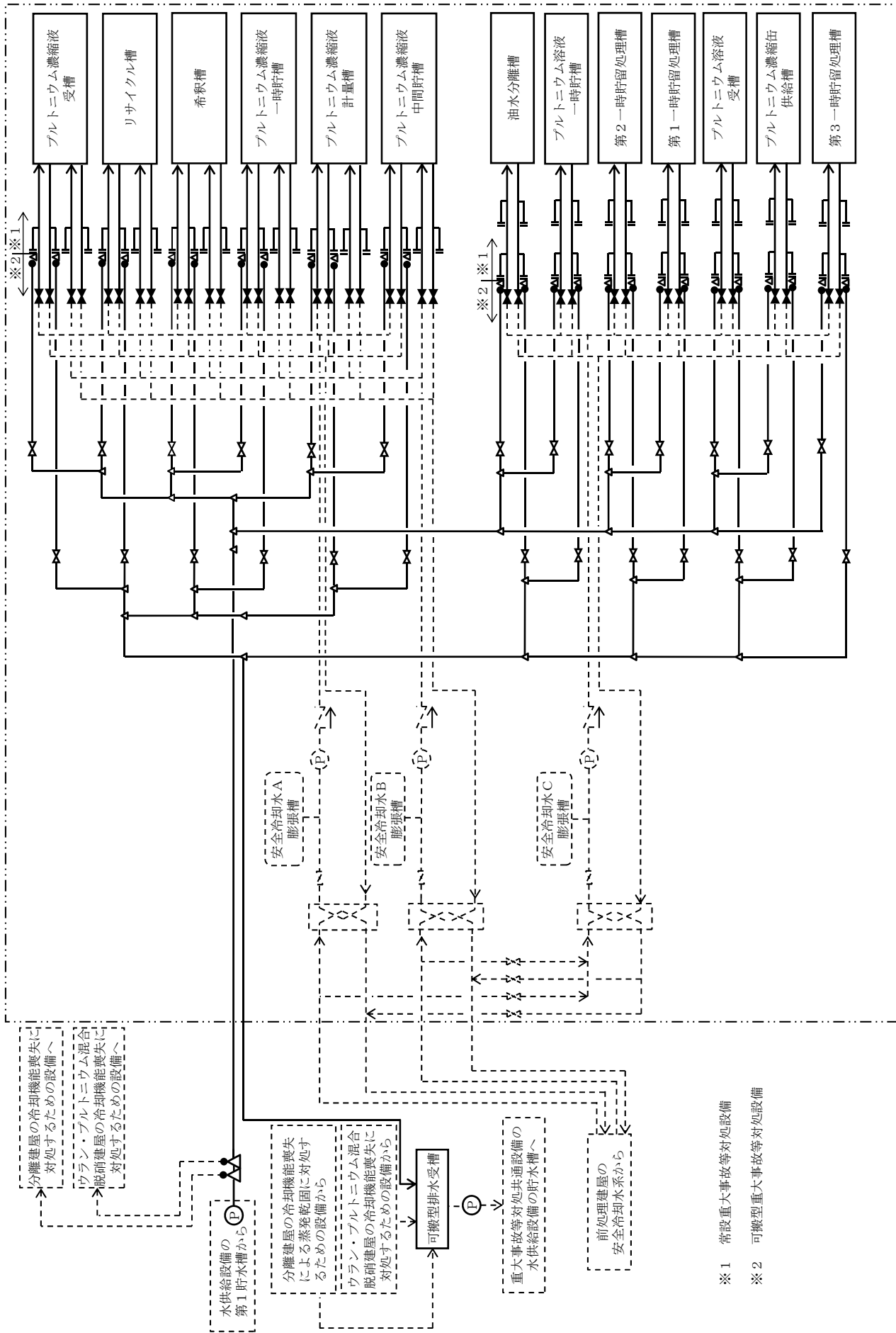
代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地上1階）



T.M.S.L. 約+65,500

貯槽等注水	貯槽等注水	貯槽等注水	貯槽等注水	貯槽等注水
第1接続口	第2接続口	第3接続口	第4接続口	第4接続口
精製建屋 内部グループ1	精製建屋 内部グループ2	精製建屋 内部グループ1	精製建屋 内部グループ2	精製建屋 内部グループ1
フルトニウム濃縮液受槽	フルトニウム濃縮液受槽	フルトニウム濃縮液受槽	フルトニウム濃縮液受槽	フルトニウム濃縮液受槽
リサイクル槽	リサイクル槽	リサイクル槽	リサイクル槽	リサイクル槽
系液槽	系液槽	系液槽	系液槽	系液槽
フルトニウム濃縮液一時的貯槽	フルトニウム濃縮液一時的貯槽	フルトニウム濃縮液一時的貯槽	フルトニウム濃縮液一時的貯槽	フルトニウム濃縮液一時的貯槽
フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽
フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽	フルトニウム濃縮液貯槽
細水分離槽	細水分離槽	細水分離槽	細水分離槽	細水分離槽
フルトニウム濃縮液供給槽	フルトニウム濃縮液供給槽	フルトニウム濃縮液供給槽	フルトニウム濃縮液供給槽	フルトニウム濃縮液供給槽
第1一時貯留及処理槽	第1一時貯留及処理槽	第1一時貯留及処理槽	第1一時貯留及処理槽	第1一時貯留及処理槽
第2一時貯留及処理槽	第2一時貯留及処理槽	第2一時貯留及処理槽	第2一時貯留及処理槽	第2一時貯留及処理槽
第3一時貯留及処理槽	第3一時貯留及処理槽	第3一時貯留及処理槽	第3一時貯留及処理槽	第3一時貯留及処理槽
地上4階 ④	地上4階 ④	地上4階 ④	地上4階 ④	地上4階 ④
地下1階 ①	地下1階 ①	地下1階 ①	地下1階 ①	地下1階 ①
地下4階 ②	地下4階 ②	地下4階 ②	地下4階 ②	地下4階 ②

代替安全冷却水系（貯槽等への注水）の注水接続口配置図及び接続口一覽 精製建屋（地上4階）



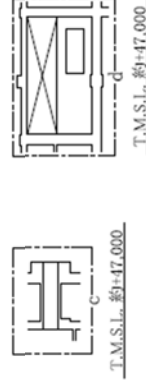
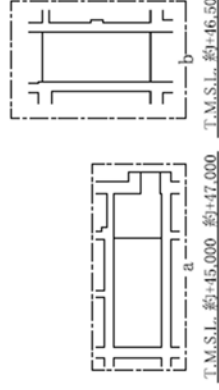
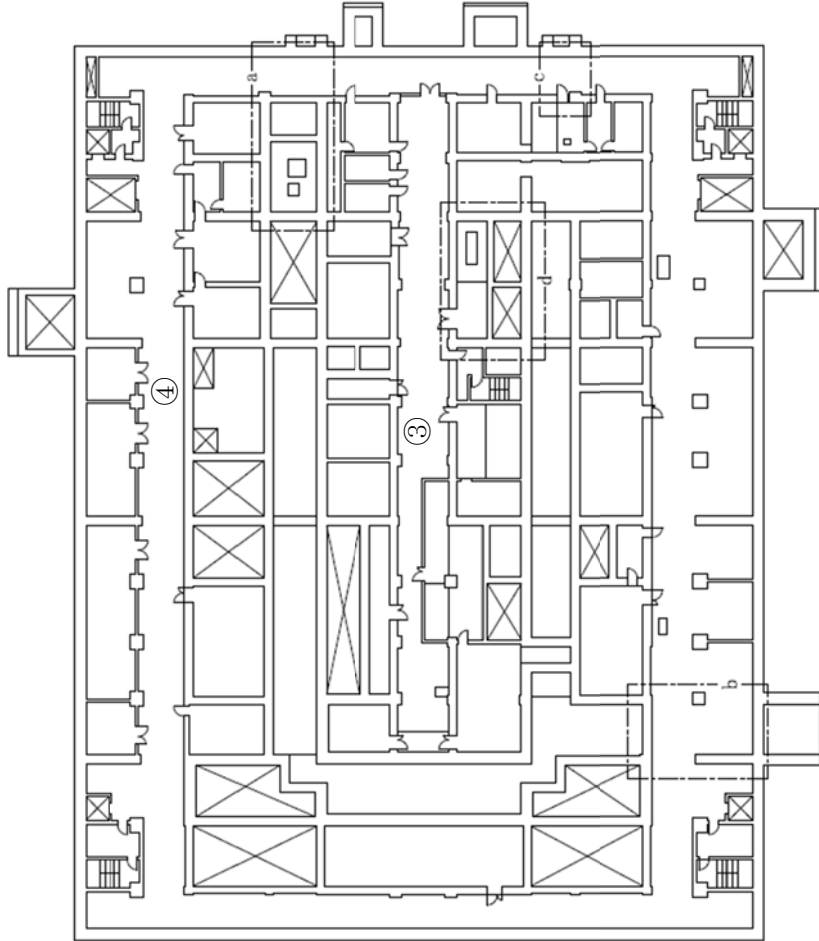
本図は、各貯槽の冷却コイル等の2系統のうち1系統の第1接続口の第1接続例である。第2接続口及び他の系統等に接続した場合も同様の系統である。ただし、接続金具等の個数及び位置は、ホース敷設ルートごとに異なる。

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の系統概要図 精製建屋





精製建屋 内部ループ1	フルトニウム濃縮液受槽	冷却コイル等通水 第2接続口 (給水口及び排水口)	冷却コイル等通水 第1接続口 (給水口及び排水口)
	リサイクル槽		
精製建屋 内部ループ2	冷却槽		
	フルトニウム濃縮液一時貯槽		地下1階 ⑤
	フルトニウム濃縮液貯集槽		
	フルトニウム濃縮液中間貯槽		
	フルトニウム濃縮液受槽		地下2階 ①
	雨水分溜槽		地下1階 ⑦
	フルトニウム濃縮液貯集槽		地下2階 ②
	フルトニウム濃縮液一時貯槽		地下1階 ⑧
	フルトニウム濃縮液貯集槽		地下2階 ③
	第1一時貯留処理槽		地下1階 ④
第2一時貯留処理槽		地下2階 ④	
第3一時貯留処理槽		地下2階 ②	

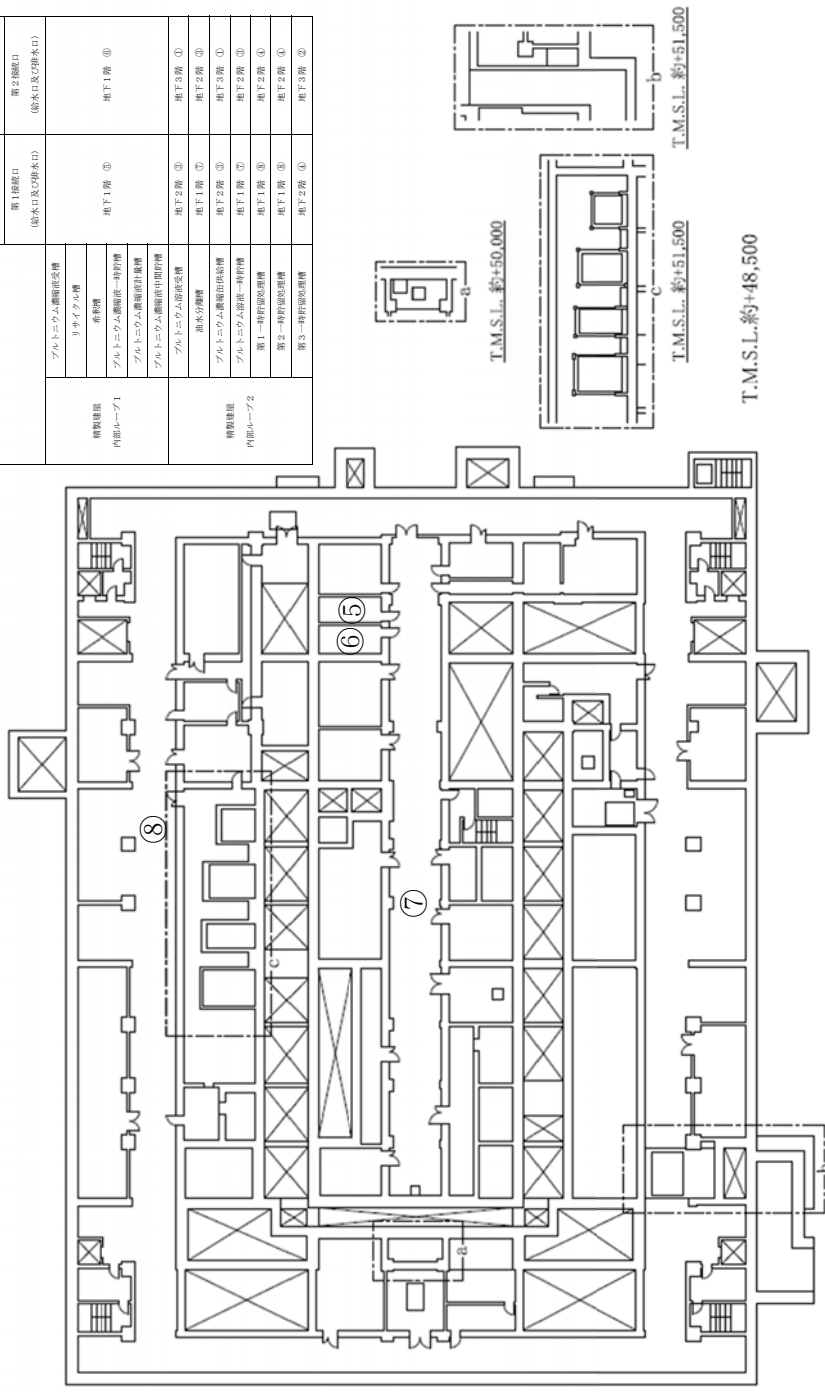


T.M.S.L. 約+43,500

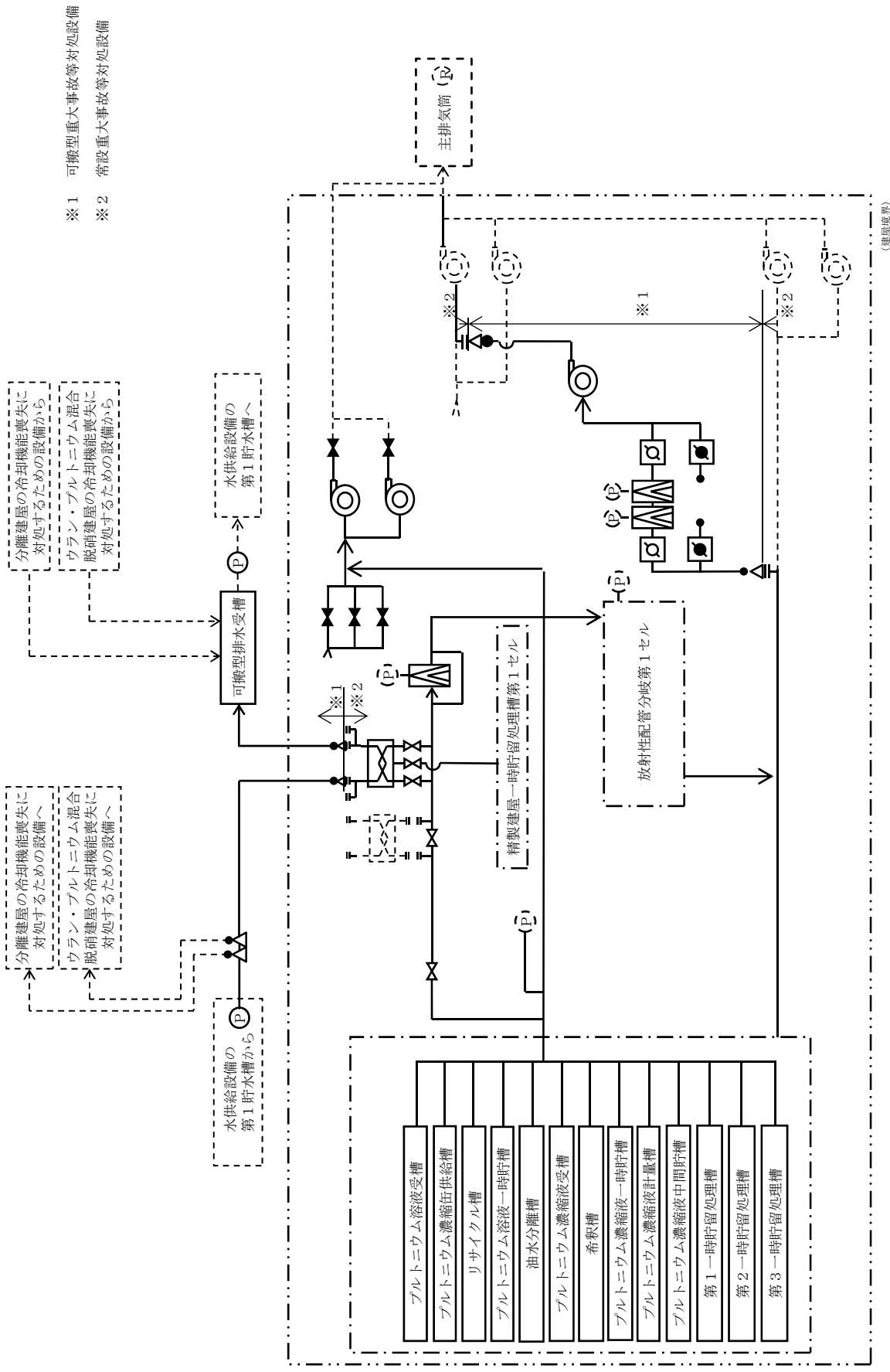
代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地下2階）



精製建屋 内部レイアウト	冷却コイル等通水	
	第1接続口 (他水口及び排水口)	第2接続口 (他水口及び排水口)
精製建屋 内部レイアウト1	プレトニウム製暖房設備	地下1階 ⑤
	リボイタル機	
	集塵機	
	プレトニウム製暖房設備一時貯槽	
	プレトニウム製暖房設計設備	
精製建屋 内部レイアウト2	プレトニウム製暖房設備一時貯槽	地下1階 ④
	プレトニウム製暖房設備	地下2階 ①
	雨水分排機	地下1階 ⑦
	プレトニウム製暖房設備	地下2階 ②
	プレトニウム製暖房一時貯槽	地下1階 ⑥
	第1一時貯留設備	地下2階 ③
	第2一時貯留設備	地下1階 ⑧
	第3一時貯留設備	地下2階 ②



代替安全冷却水系（冷却コイル等への通水による冷却）の通水接続口配置図及び接続口一覽 精製建屋（地下1階）



(継ぎ足)

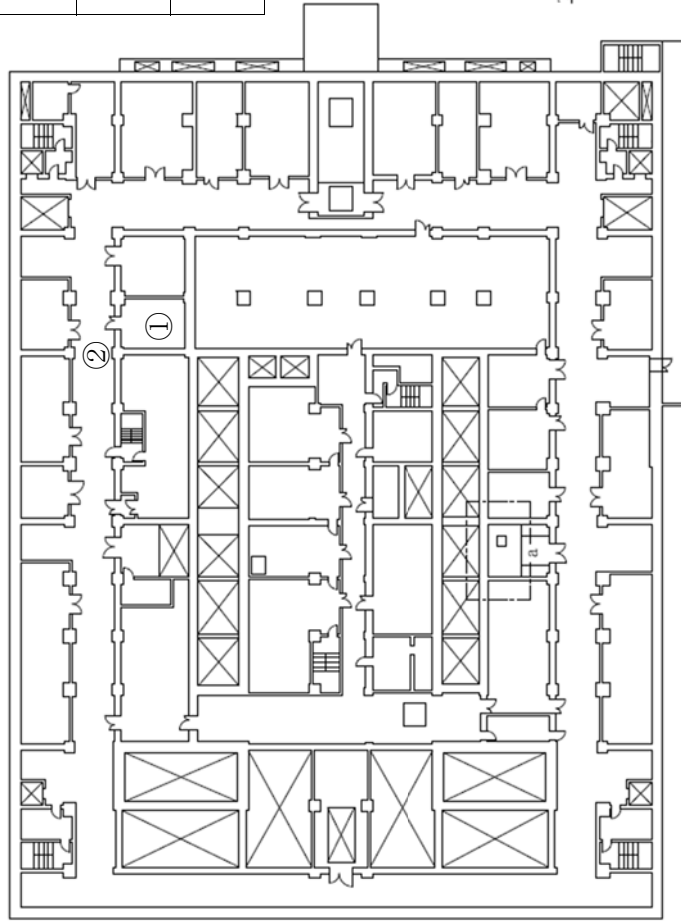
本図は、セル導出設備の凝縮器の第1接続口の接続例である。セル導出設備の凝縮器の第2接続口及び予備凝縮器に接続した場合も同様の系統である。

- ※1 可搬型重大事故等対処設備
- ※2 常設重大事故等対処設備

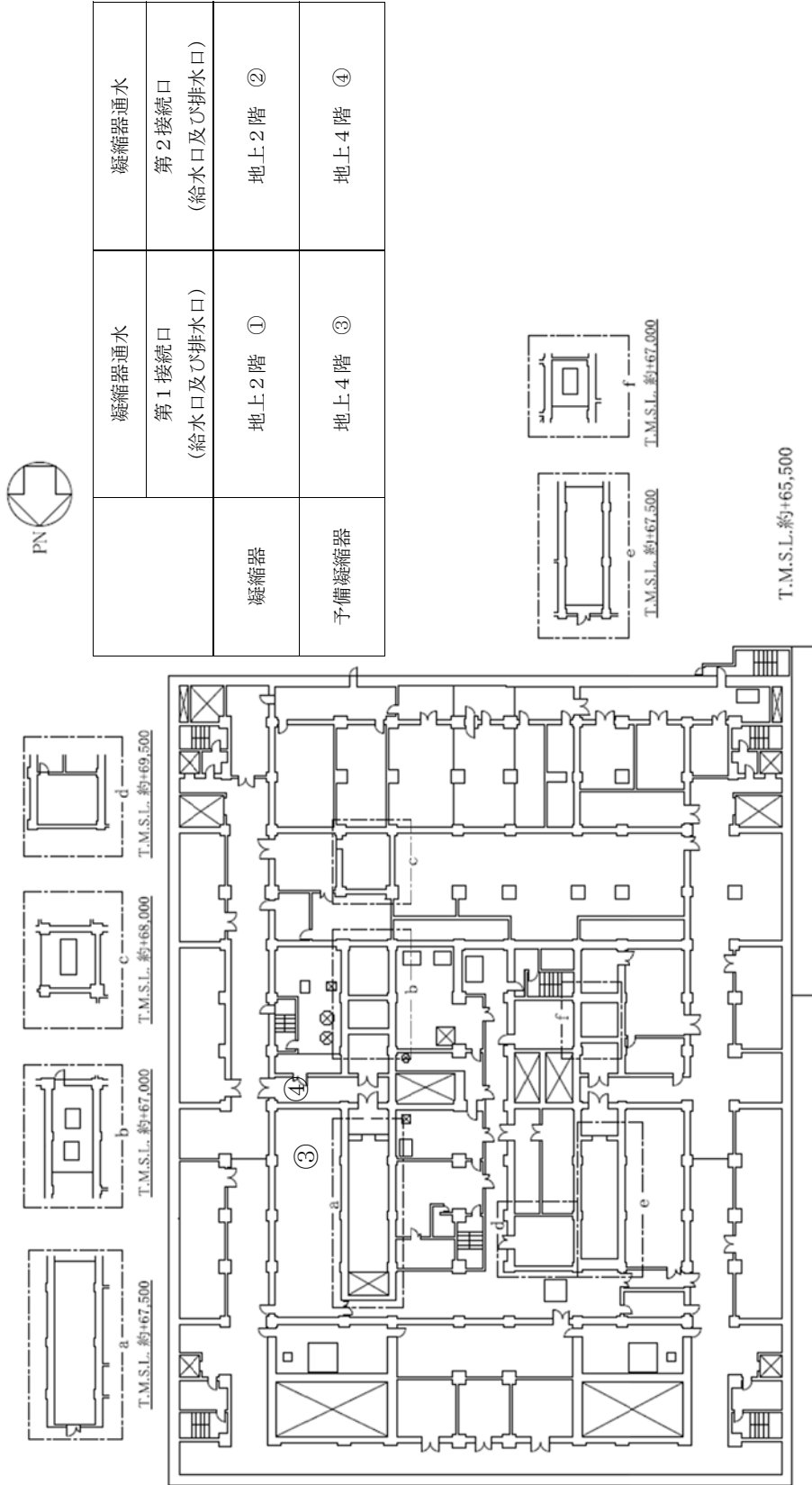
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応）の系統概要図  
精製建物



	凝縮器通水	凝縮器通水
	第1接続口 (給水口及び排水口)	第2接続口 (給水口及び排水口)
凝縮器	地上2階 ①	地上2階 ②
予備凝縮器	地上4階 ③	地上4階 ④



代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地上2階）



代替安全冷却水系（凝縮器への通水）の通水接続口配置図及び接続口一覧 精製建屋（地上4階）

















作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間(時:分)	経過時間(時:分)																																
					0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00
1	・ 実施責任者	作業班	1	-	[Gantt Chart showing task 1 from 0:00 to 1:00]																																
2	・ 作業計画・人員管理、現場準備確認(初稼対応)を行う ・ 作業班の交代の対応作業員への指示補助	作業班	2	0:20	[Gantt Chart showing task 2 from 0:00 to 0:20]																																
3	・ 可燃型排気モニタリング設備設置(主排気筒管理棟)	放射班	2	1:00	[Gantt Chart showing task 3 from 0:00 to 1:00]																																
4	・ 放射性希薄ガスの指示値確認	放射1班, 放射2班, 放射3班, 放射4班	8	2:10	[Gantt Chart showing task 4 from 0:00 to 2:10]																																
5	・ 捕集した排気材料の放射能測定	放射1班, 放射2班, 放射3班, 放射4班	8	3:10	[Gantt Chart showing task 5 from 0:00 to 3:10]																																
7	・ 出入管理区画設置(中央制御室)	放射班, 放射2班, 放射3班, 放射4班	6	1:00	[Gantt Chart showing task 7 from 0:00 to 1:00]																																
8	・ 中央制御室及び緊急時作業所へのデータ伝送装置の設置 ・ 中央制御室モニタリング 対策成立時に影響しない項目: (可燃型ガスマニピ) ・ 放射性希薄ガスの放出係数(11:00以降を想定)	放射班, 放射2班, 放射3班, 放射4班	6	-	[Gantt Chart showing task 8 from 0:00 to 1:00]																																
14	・ 緊急時排気モニタリング 対策成立時に影響しない項目: (可燃型ガスマニピ) ・ 放射性希薄ガスの放出係数(11:00以降を想定)	放射班	2	1:30	[Gantt Chart showing task 14 from 0:00 to 1:30]																																
16	・ 車両移動	放射班	2	-	[Gantt Chart showing task 16 from 0:00 to 1:00]																																
20	・ 貯槽水位確認	作業班	4	0:10	[Gantt Chart showing task 20 from 0:00 to 0:10]																																
21	・ 可燃型貯槽温度監視装置及び貯槽等温度計測	作業班	4	0:05	[Gantt Chart showing task 21 from 0:00 to 0:05]																																
22	・ 内部ループへの排水準備(可燃型建屋内ホース敷設、接続、弁開閉)	作業班	4	0:50	[Gantt Chart showing task 22 from 0:00 to 0:50]																																
23	・ 内部ループへの排水表板(弁操作、漏えい確認、内部ループ排水電流確認)	作業班	2	0:30	[Gantt Chart showing task 23 from 0:00 to 0:30]																																
24	・ 貯槽等温度計測	作業班	2	0:30	[Gantt Chart showing task 24 from 0:00 to 0:30]																																
25	・ 可燃型漏えい検出監視装置(漏えい検出監視装置)	作業班	6	1:20	[Gantt Chart showing task 25 from 0:00 to 1:20]																																
31	・ 貯槽等温度計測 ・ 可燃型排気モニタリング設備設置(主排気筒管理棟) ・ 可燃型排気モニタリング設備設置(主排気筒管理棟)	作業班	4	-	[Gantt Chart showing task 31 from 0:00 to 1:00]																																

※: 各作業内容の実績は必要に応じて記載を要する。(複数班に分けて実施の場合は、作業時間の合計)

### 精製建屋における火山を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その1)







作業番号	作業内容	作業班	要員数 (時：分)	所要時間表 (時：分)																																	
				0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	25:00	26:00	27:00	28:00	29:00	30:00	31:00	32:00	33:00
外	・使用する買入れ材の確認	建屋外2班, 建屋外3班 建屋外4班, 建屋外5班	10	0:20																																	
外	・精製水機取付準備	建屋外5班, 建屋外6班 建屋外3班, 建屋外4班 建屋外5班	10	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外2班	2	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外2班	2	3:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外3班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外4班, 建屋外5班	6	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外6班	2	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外4班, 建屋外5班, 建屋外7班	8	1:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外4班	2	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班	6	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班, 建屋外6班	6	1:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外4班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外5班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外3班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外4班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外1班, 建屋外4班	4	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外1班, 建屋外5班	4	0:35																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外1班, 建屋外2班	4	1:40																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外1班	2	-																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外6班	2	0:10																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外3班, 建屋外4班, 建屋外5班	6	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外5班	2	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外6班	2	0:30																																	
外	・分棟建屋、精製建屋及びワラン・プレトニウム混合配管確認 原用の運転率で運転する可搬型建屋外ホースと可搬型建屋内ホースとの接続	建屋外3班	2	1:00																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外3班	2	1:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外3班	2	1:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外4班, 建屋外5班, 建屋外7班	8	2:00																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外1班	2	0:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外5班, 建屋外7班	6	0:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外4班, 建屋外5班, 建屋外7班	6	1:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外3班	2	0:10																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外1班, 建屋外3班	4	0:30																																	
外	・高レベル廃液ガスを固液分離槽へ搬送する可搬型建屋外ホースの準備 (金具類、可搬型流量計、可搬型圧力計)	建屋外1班	2	-																																	

※：各作業内容の要員に必要時間を示す。(欄頭に於いて接続の場合は、作業時間の合計)

精製建屋における火山を想定した場合の内部ループへの通水に必要な要員及び作業項目 (その3)





作業番号	作業内容	作業班	要員数 (時：分)	経過時間 (時：分)																							
				0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
AC 2	可搬型貯槽水位計設置準備 (可搬型建屋内外ホース及び可搬型建屋内外ホース敷設、接続)	建屋内27班	2	0:00	→ AC16 (北大防止 (放出防止))																						
AC 5	可搬型貯槽水位計設置準備 (可搬型空圧圧縮機起動)	建屋内27班	2	0:20	→ AC15 (北大防止 (放出防止))																						
AC 25	可搬型建屋内外ホース敷設、接続、漏えい確認	建屋内19班、建屋内19班	4	0:45	→ AC14 (北大防止 (放出防止))																						
AC 26	可搬型貯槽水位計設置及び貯槽水位計測	建屋内18班、建屋内17班、建屋内20班	6	1:30	→ AC14 (北大防止 (放出防止)) → CA14 (北大防止 (放出防止)) → CA14 (建屋内15、17班) (北大防止 (放出防止)) → CA30 (建屋内20班) (北大防止 (放出防止))																						
AC 27	貯槽等への注水実施	建屋内48班	2	0:30																							
AC 28	貯槽水位測定	建屋内48班	2	0:30																							
AC 29	可搬型建屋内外ホース敷設、接続、可搬型送風器出口静気圧測定	建屋内11班、建屋内12班	4	1:00																							
AC 30	漏えい確認等、送風器への注水実施	建屋内11班、建屋内12班	4	0:20																							
AC 12	送風器の動作、可搬型セル吐出ユニット流量計設置、可搬型セル吐出ユニット流量計設置	建屋内14班	2	0:45																							
AC 13	可搬型送風器セル圧力計設置	建屋内14班	2	0:15																							
AC 14	タンク閉止	建屋内15班	2	0:50																							
AC 16	可搬型ダクト、可搬型排風機、可搬型フィルタの設置	建屋内19班、建屋内20班、建屋内21班、建屋内25班	12	2:15	→ AC19 (送風器発生防止) → AC20 (送風器発生防止) → AC21 (送風器発生防止) → AC22 (送風器発生防止) → AC23 (送風器発生防止) → AC24 (送風器発生防止)																						
AC 17	可搬型排風機起動準備	建屋内13班	2	0:25																							
AC 18	導出先セル圧力確認、可搬型排風機起動	建屋内13班	2	1:00																							
AC 19	可搬型電源ケーブル敷設	建屋内11班、建屋内12班	4	1:30																							
AC=1 1	可搬型建屋内外ホース等運搬 (精製建屋内部ループ 1)	建屋内20班、建屋内22班	6	0:40																							
AC=1 2	冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内外ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力計設置) (精製建屋内部ループ 1)	建屋内20班、建屋内22班	6	0:40																							
AC=1 3	冷却コイル等の健全性確認 (弁操作、漏えい確認、冷却コイル圧力確認) (精製建屋内部ループ 1)	建屋内21班、建屋内22班	4	5:00																							
AC=1 4	冷却コイル等への通水実施 (弁操作、漏えい確認) (精製建屋内部ループ 1)	建屋内22班	2	0:20																							
AC=2 1	可搬型建屋内外ホース等運搬 (精製建屋内部ループ 2)	建屋内22班、建屋内25班	6	0:40																							
AC=2 2	冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内外ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力計設置) (精製建屋内部ループ 2)	建屋内22班、建屋内24班、建屋内25班	6	0:50																							
AC=2 3	冷却コイル等の健全性確認 (弁操作、漏えい確認、冷却コイル圧力確認) (精製建屋内部ループ 2)	建屋内20班、建屋内21班	4	6:00																							
AC=2 4	冷却コイル等への通水実施 (弁操作、漏えい確認) (精製建屋内部ループ 2)	建屋内20班	2	0:30																							
AC 31	計測監視 (貯槽等水位、貯槽等注水流量、冷却コイル送水流量、送風器出口静気圧測定、送風器通水流量、送風器出口セル圧力測定) (精製建屋内部ループ 2)	建屋内26班、建屋内27班	4	-																							

※：各作業内容の実施に必要な時間を示す。(横線に付して基盤の場合は、作業時間の合計)

精製建屋における地震又は火山を想定した場合の貯槽等への注水、冷却コイル等への通水、セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その1)

Table with columns: 作業番号 (Job No.), 作業内容 (Job Content), 作業班 (Work Class), 要員数 (Personnel Count), 所要時間※ (Required Time), 経通時間 (Through Time), 竣工 (Completion). Includes detailed job descriptions for construction tasks like piping and equipment installation, and a Gantt chart showing construction progress from 24:00 to 47:00.

※: 各作業内容の実施に必要な時間を示す。(横軸に於いて工期の場合は、作業時間の合計)

精製建屋における地震又は火山を想定した場合の貯槽等への注水、冷却コイル等への注水、セルへの導出経路の構築及び代替セル排気系による対応に必要な要員及び作業項目 (その2)

作業番号	作業内容	作業班	要員数	所要時間※ (時：分)	経過時間 (時：分)																							
					48:00	49:00	50:00	51:00	52:00	53:00	54:00	55:00	56:00	57:00	58:00	59:00	60:00	61:00	62:00	63:00	64:00	65:00	66:00	67:00	68:00	69:00	70:00	71:00
AC 2	・可搬型貯槽水位計設置準備 (可搬型建屋内外ホース及び可搬型建屋内外ホース敷設、接続) ・可搬型貯槽水位計設置準備 (可搬型空圧圧縮機起動)	建屋内27班 建屋内27班	2	0:30																								
AC 5	・可搬型貯槽水位計設置準備 (可搬型空圧圧縮機起動)	建屋内27班	2	0:20																								
AC 25	・可搬型建屋内外ホース敷設、接続、漏えい確認	建屋内19班、建屋内19班	4	0:45																								
AC 26	・可搬型貯槽水位計設置及び貯槽水位計測	建屋内14班、建屋内17班 建屋内20班	6	1:30																								
AC 27	・貯槽等への注水実施	建屋内14班	2	0:30																								
AC 28	・貯槽水位測定	建屋内14班	2	0:30																								
AC 29	・可搬型建屋内外ホース敷設、接続、可搬型圧縮機出口排気温度計設置	建屋内11班、建屋内12班	4	1:00																								
AC 30	・漏えい確認等、接続部への通水実施	建屋内11班、建屋内12班	4	0:20																								
AC 12	・可搬型建屋内外ホース敷設、接続、可搬型圧縮機出口排気温度計設置、可搬型セル液モニタ出力電源スイッチ設置	建屋内14班	2	0:45																								
AC 13	・可搬型建屋内外ホース敷設、接続、可搬型圧縮機出口排気温度計設置	建屋内14班	2	0:15																								
AC 14	・タンク閉止	建屋内13班	2	0:50																								
AC 16	・可搬型ダクト、可搬型排気機、可搬型フィルタの設置	建屋内19班、建屋内20班 建屋内21班、建屋内24班 建屋内25班、建屋内26班	12	2:15																								
AC 17	・可搬型排気機起動準備	建屋内13班	2	0:25																								
AC 18	・導出先セル圧力確認、可搬型排気機起動	建屋内13班	2	1:00																								
AC 19	・可搬型電源ケーブル敷設	建屋内11班、建屋内12班	4	1:30																								
ACコ1 1	・可搬型建屋内外ホース等運搬 (精製建屋内部グループ1)	建屋内20班、建屋内22班 建屋内23班	6	0:40																								
ACコ1 2	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内外ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力計設置) (精製建屋内部グループ1)	建屋内20班、建屋内22班 建屋内23班	6	0:40																								
ACコ1 3	・冷却コイル等の健全確認 (非操作、漏えい確認、冷却コイル圧力確認) (精製建屋内部グループ1)	建屋内21班、建屋内22班	4	5:00																								
ACコ1 4	・冷却コイル等への通水実施 (非操作、漏えい確認) (精製建屋内部グループ1)	建屋内22班	2	0:20																								
ACコ2 1	・可搬型建屋内外ホース等運搬 (精製建屋内部グループ2)	建屋内22班、建屋内24班 建屋内25班	6	0:40																								
ACコ2 2	・冷却コイル等への通水準備 (可搬型建屋内外ホース敷設、可搬型冷却コイル圧力計設置) (精製建屋内部グループ2)	建屋内23班、建屋内24班 建屋内25班	6	0:50																								
ACコ2 3	・冷却コイル等の健全確認 (非操作、漏えい確認、冷却コイル圧力確認) (精製建屋内部グループ2)	建屋内20班、建屋内21班	4	6:00																								
ACコ2 4	・冷却コイル等への通水実施 (非操作、漏えい確認) (精製建屋内部グループ2)	建屋内20班	2	0:30																								
AC 31	・計測監視 (貯槽等液位、貯槽等注水流量、冷却コイル注水流量、導出先出口排気温度、圧縮機出口排気温度、可搬型圧縮機出口排気温度、導出先セル圧力確認、可搬型空圧圧縮機等への燃料の補給)	建屋内26班、建屋内27班 建屋内28班	4	-																								

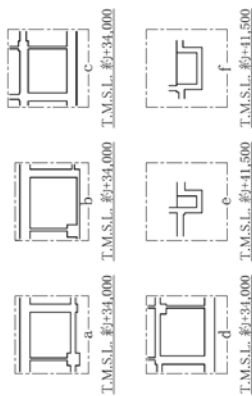
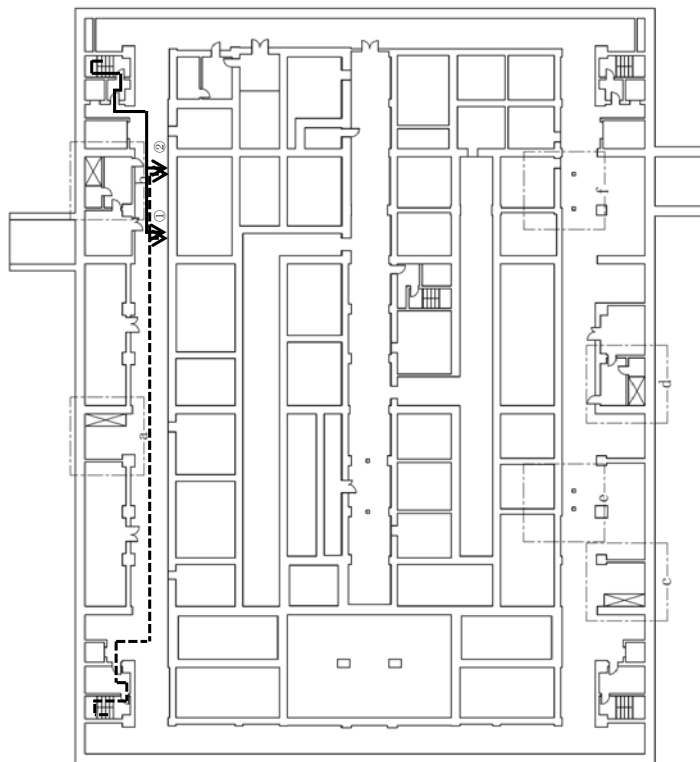
※：各作業内容の実施に必要な時間を示す。(複数回に分けて実施の場合は、作業時間の合計)



- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



計測場所	監視項目
①	貯槽等温度 (希釈槽)
②	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)



T.M.S.L. 約+38,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地下3階）

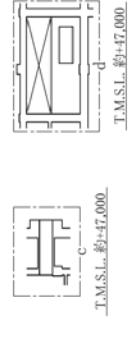
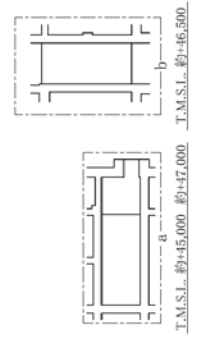
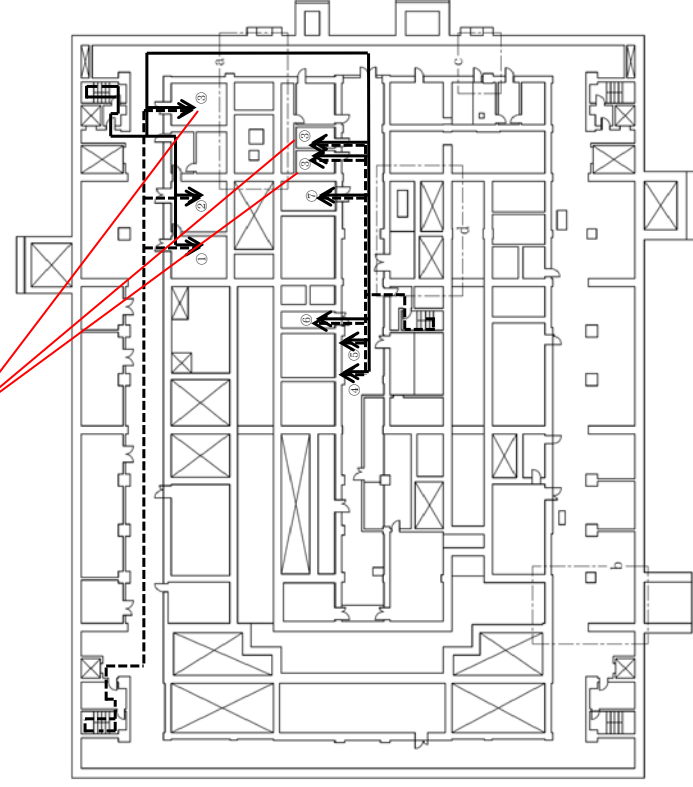


↑ : アクセスルート 南1  
 ↑ : アクセスルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
 保管場所

計測場所	監視項目
①	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
②	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液計量槽)
③	内部ループ通水流量
④	貯槽等温度 (油水分離槽)
⑤	貯槽等温度 (フルトニウム溶液受槽)
⑥	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮品供給槽)
⑦	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液受槽)
⑦	貯槽等温度 (リサイクル槽)

操作場所

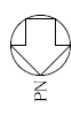


T.M.S.L. 約+43,500

蒸発乾固の発生防止対策 (内部ループへの通水による冷却) のアクセスルート 精製建屋 (地下2階)

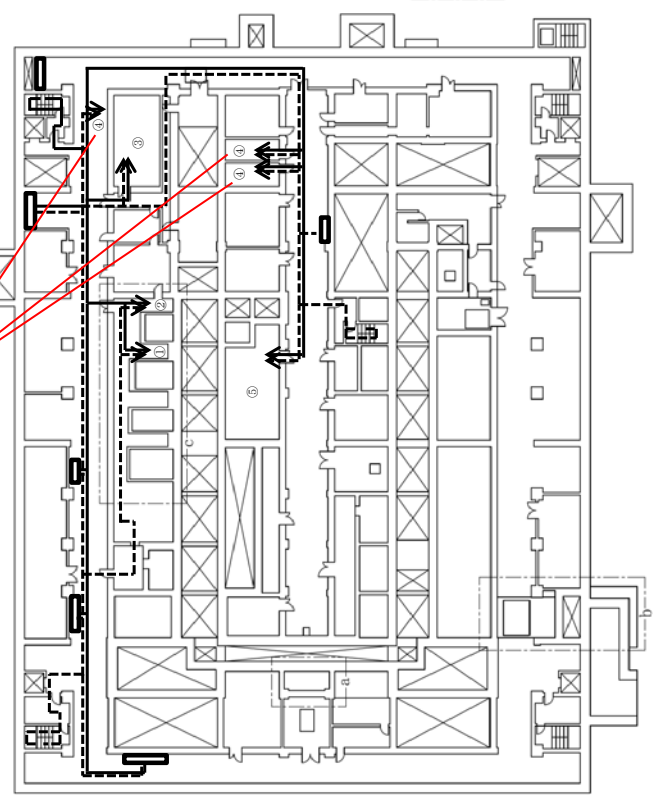
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート（精製建屋（地下1階））

- : アクセスルート 南1
- -> : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

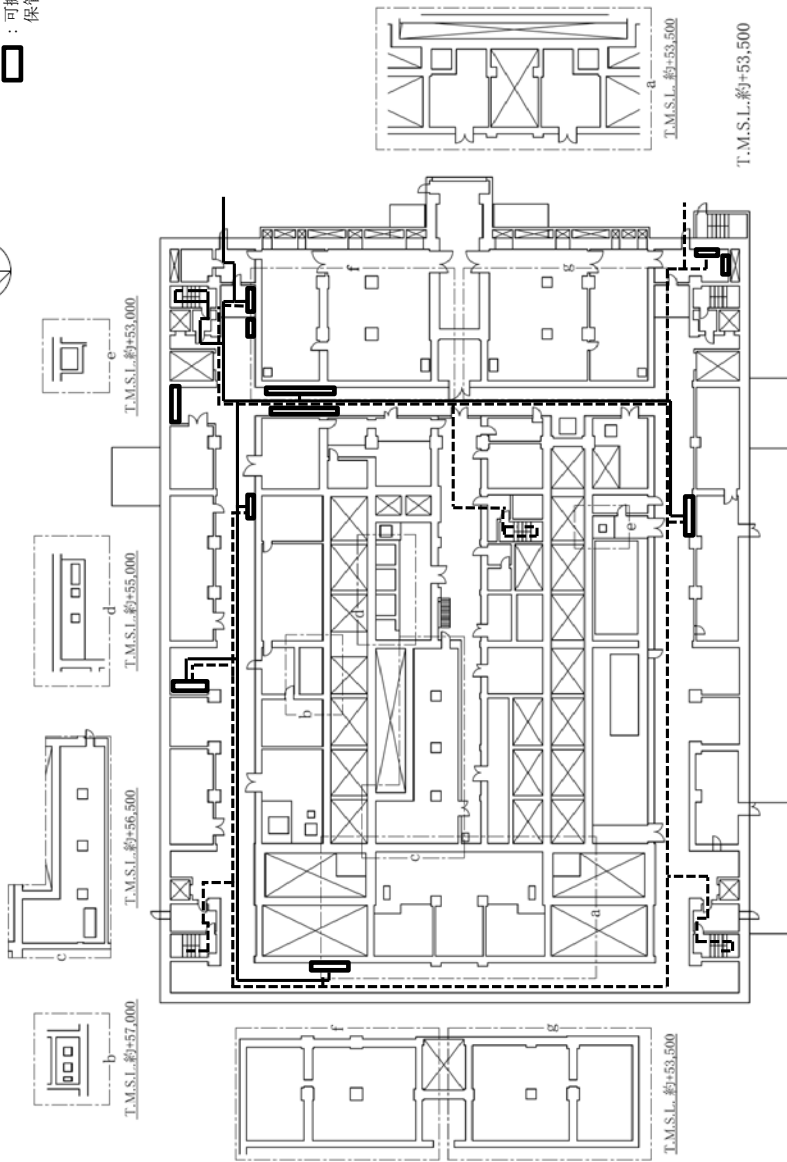


計測場所	監視項目
①	貯槽等温度（第1一時貯留処理槽）
②	貯槽等温度（第2一時貯留処理槽）
③	貯槽等温度（第3一時貯留処理槽）
④	漏えい液受血液位 内部ループ通水流量
⑤	貯槽等温度（フルユニットウム溶液一時貯槽）

操作場所



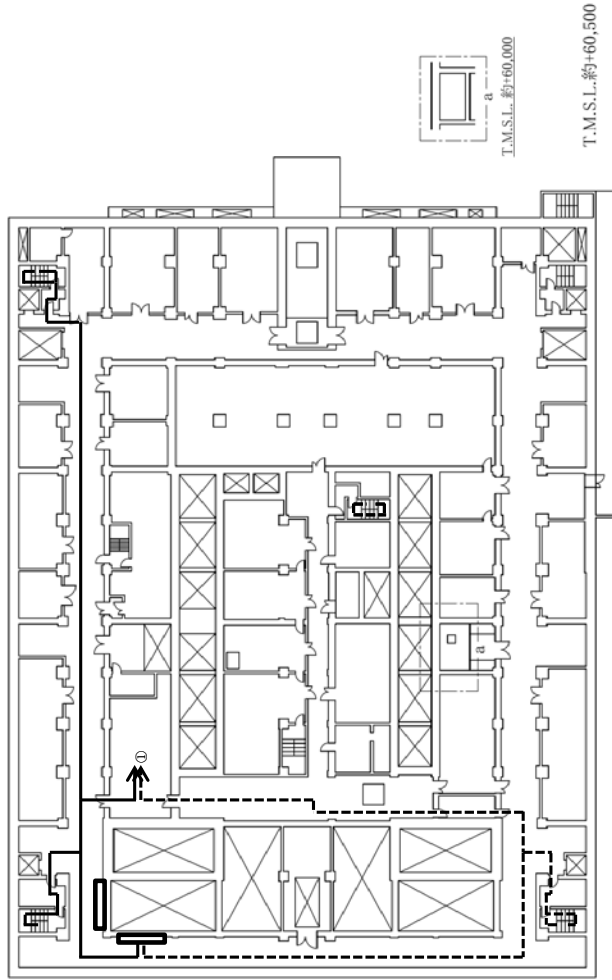
- ↑ : アクセスルート 南1
- ⇨ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上1階）

- PN
- ↑ : アクセスルート 南1
  - ↑ : アクセスルート 南2
  - : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

計測場所	監視項目
①	漏えい液受皿液位

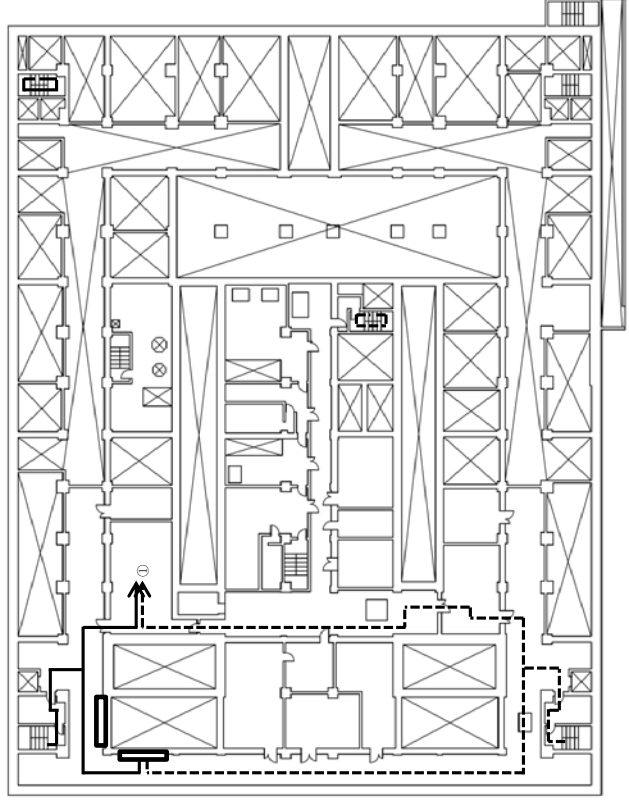


蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上2階）

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



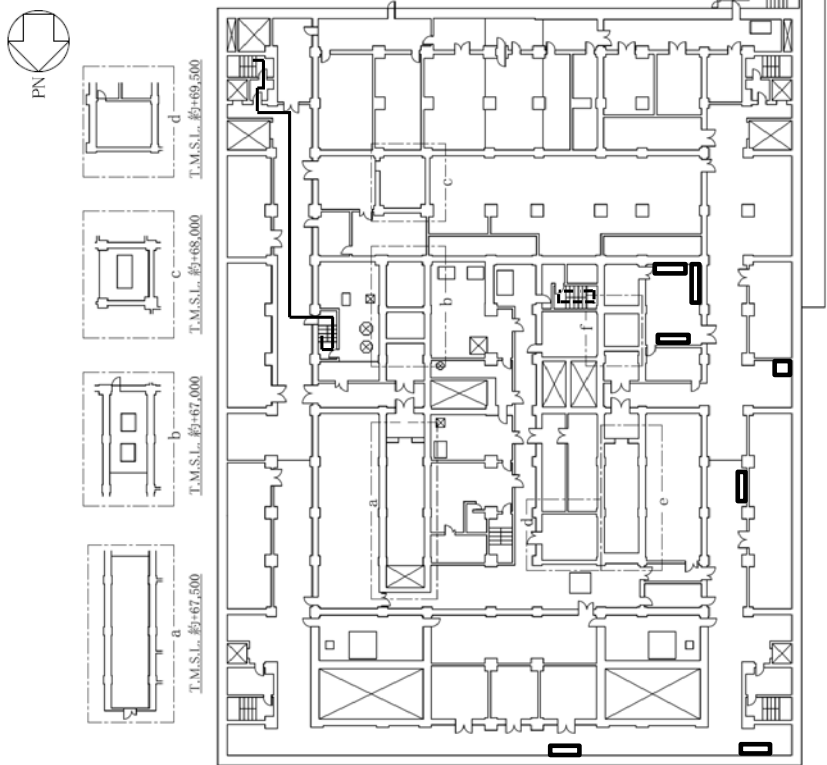
計測場所 ①	監視項目 漏えい液受血液位
-----------	------------------



T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上3階）

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

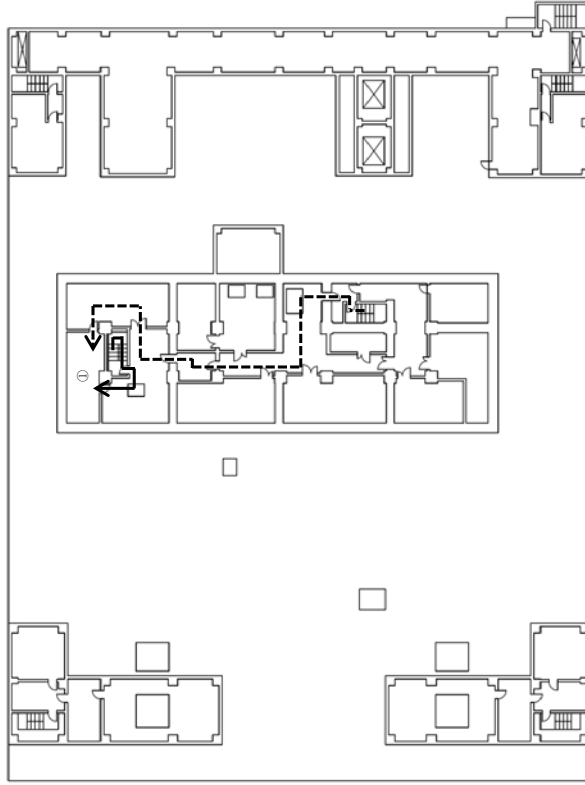


蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上4階）



- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

計測場所	監視項目
①	膨張液位



T.M.S.L.約+73,500

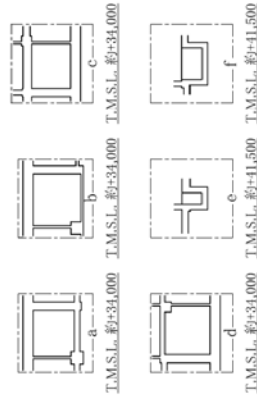
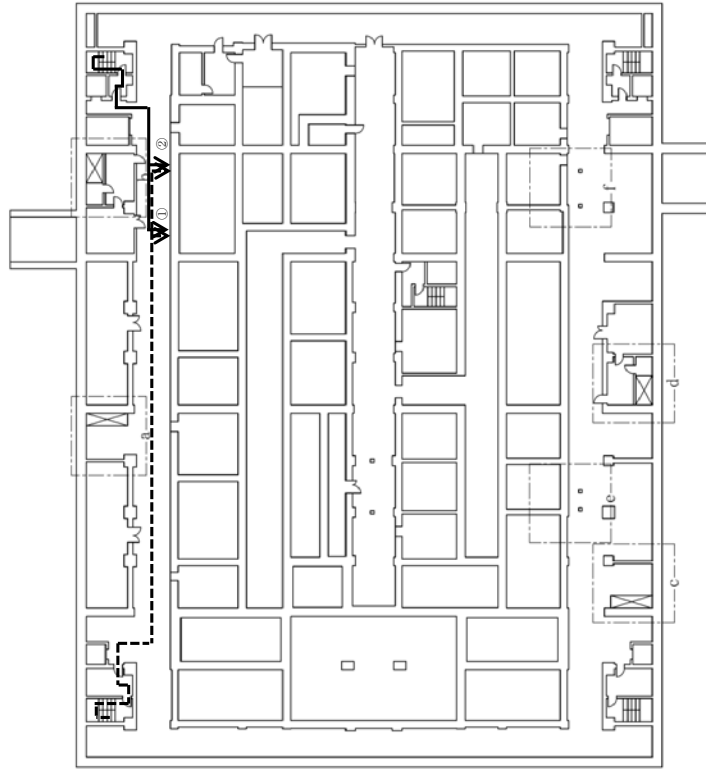
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上5階）



- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



計測場所	監視項目
①	貯槽等温度 (希釈槽)
②	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)



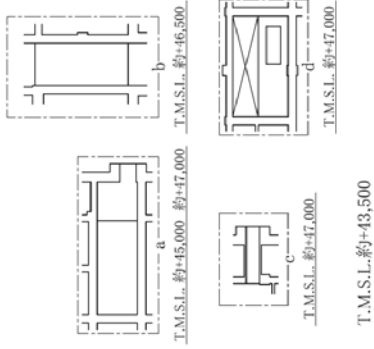
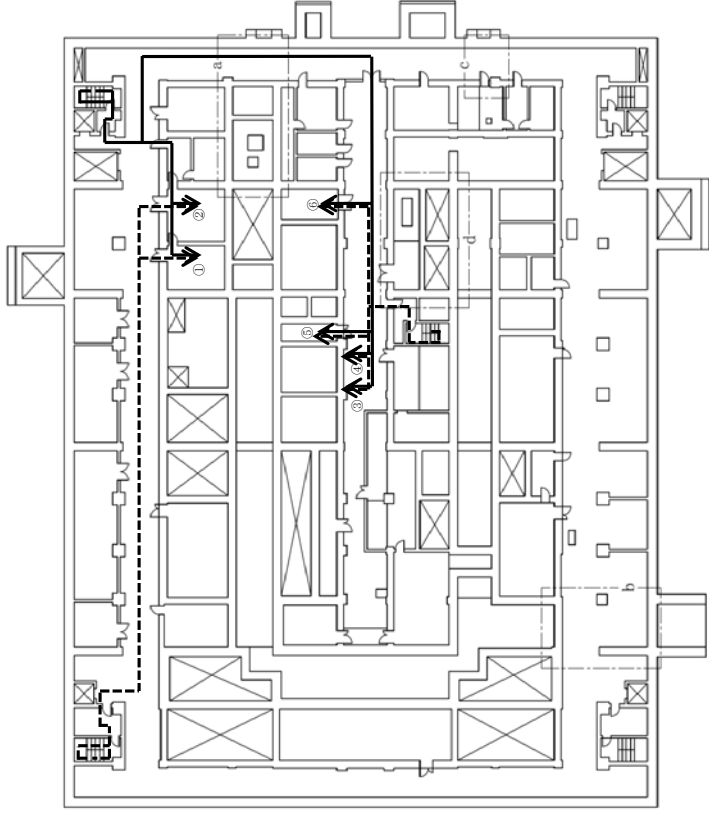
T.M.S.L.約+38,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）のアクセスルート 精製建屋（地下3階）

- : アクセスルート 南1
- : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



計測場所	監視項目
①	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
②	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液計量槽)
③	貯槽等温度 (油水分離槽)
④	貯槽等温度 (フルトニウム溶液受槽)
⑤	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液供給槽)
⑥	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液受槽)



蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 精製建屋 (地下2階)

↑ : アクセスルート 南1  
 ↑ : アクセスルート 南2

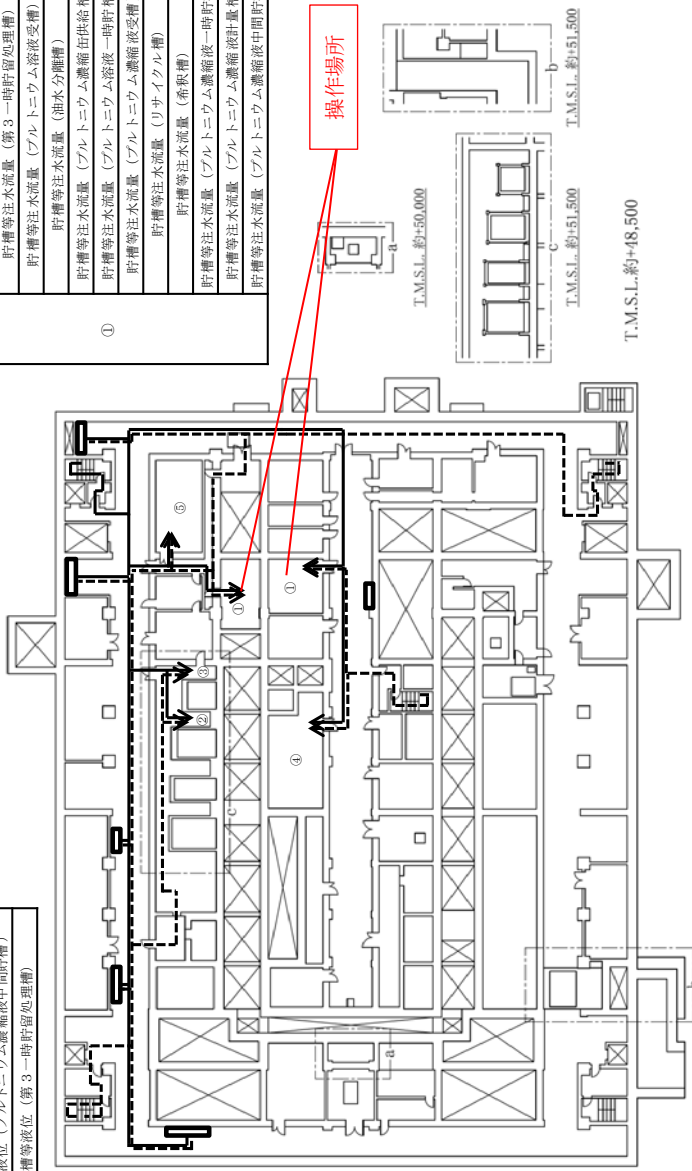


計測場所	監視項目
②	貯槽等温度 (第1一時貯留処理槽)
③	貯槽等温度 (第2一時貯留処理槽)
④	貯槽等温度 (第3一時貯留処理槽)

計測場所	監視項目
⑤	貯槽等液位 (リサイクル槽)
	貯槽等液位 (希釈槽)
	貯槽等液位 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)
	貯槽等液位 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
	貯槽等液位 (第3一時貯留処理槽)

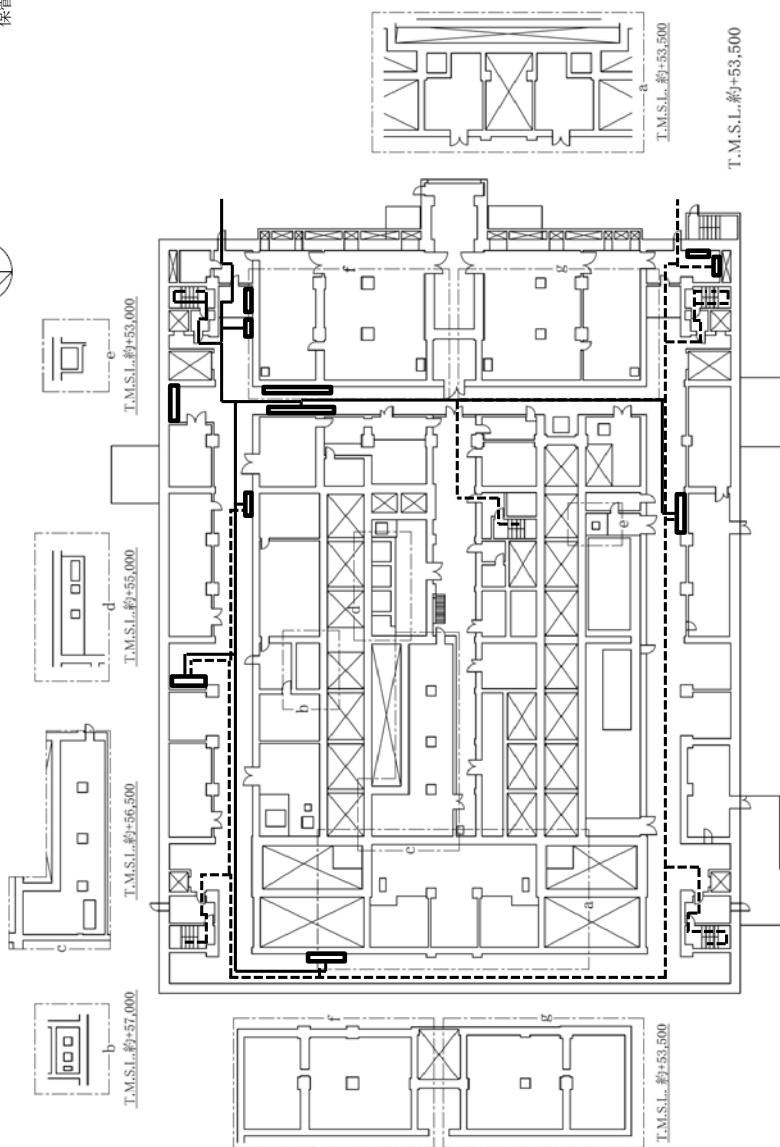
□ : 可搬型重大事故等対応設備  
 保管場所

計測場所	監視項目
①	貯槽等注水流量 (第1一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (第2一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (第3一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム溶液受槽)
	貯槽等注水流量 (油水分離槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液供給槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム溶液一時貯槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液受槽)
	貯槽等注水流量 (リサイクル槽)
	貯槽等注水流量 (希釈槽)
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)	
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液計量槽)	
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)	



蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 精製建屋 (地下1階)

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

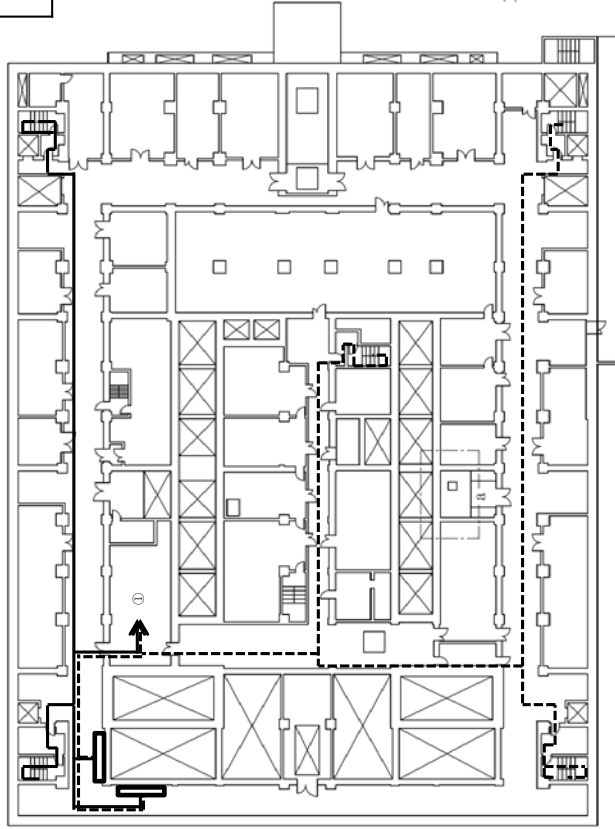


蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）のアクセスルート 精製建屋（地上1階）

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

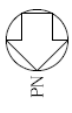


計測場所	監視項目
①	貯槽等液位 (フルトニウム溶液受槽)
	貯槽等液位 (油水分離槽)
	貯槽等液位 (フルトニウム濃縮缶供給槽)
	貯槽等液位 (第1一時貯留処理槽) 貯槽等液位 (第2一時貯留処理槽)

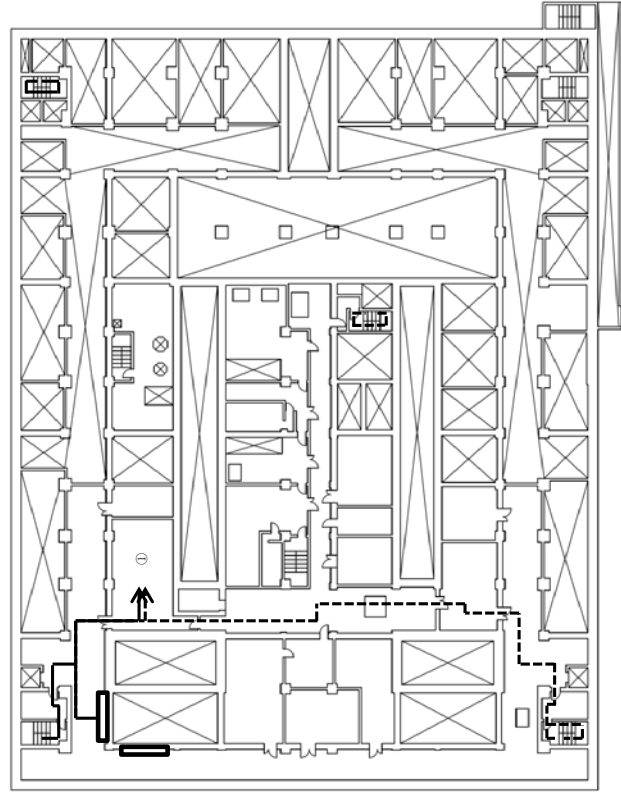


蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 精製建屋 (地上2階)

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



貯槽場所 ①	監視項目 貯槽等液位 (フルトニウム溶液一時貯槽)
-----------	------------------------------

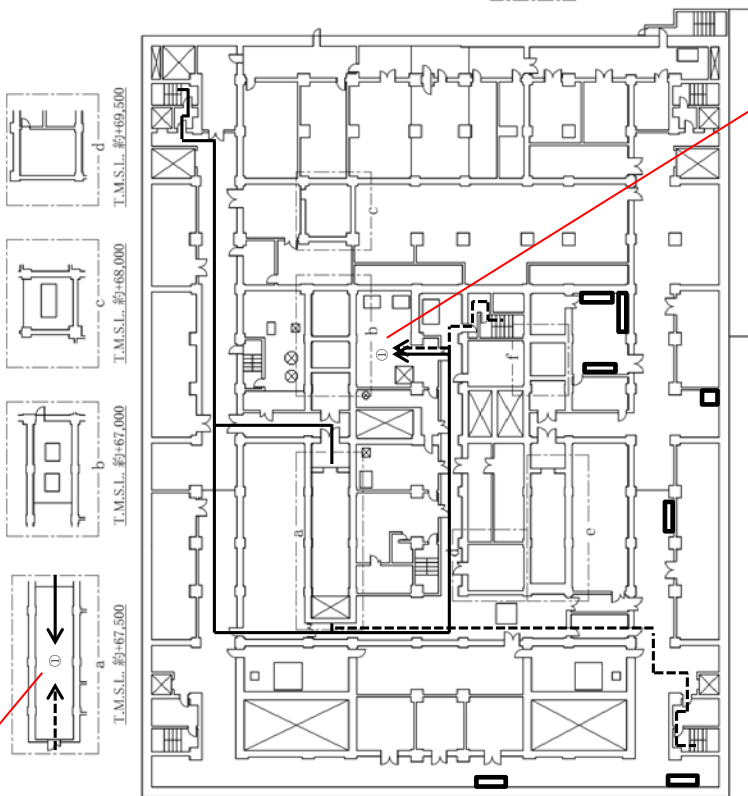


T.M.S.L.約+64,000

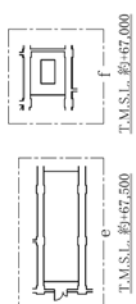
蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 精製建屋 (地上3階)

→ : アクセスルート 南1  
 - -> : アクセスルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対応設備  
 保管場所



貯槽場所	監視項目
①	貯槽等注水流量 (第1一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (第2一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (第3一時貯留処理槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム溶液受槽)
	貯槽等注水流量 (油水分離槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮圧供給槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム溶液一時貯槽)
	貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液受槽)
	貯槽等注水流量 (リサイクル槽)
	貯槽等注水流量 (希釈槽)
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)	
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液計量槽)	
貯槽等注水流量 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)	

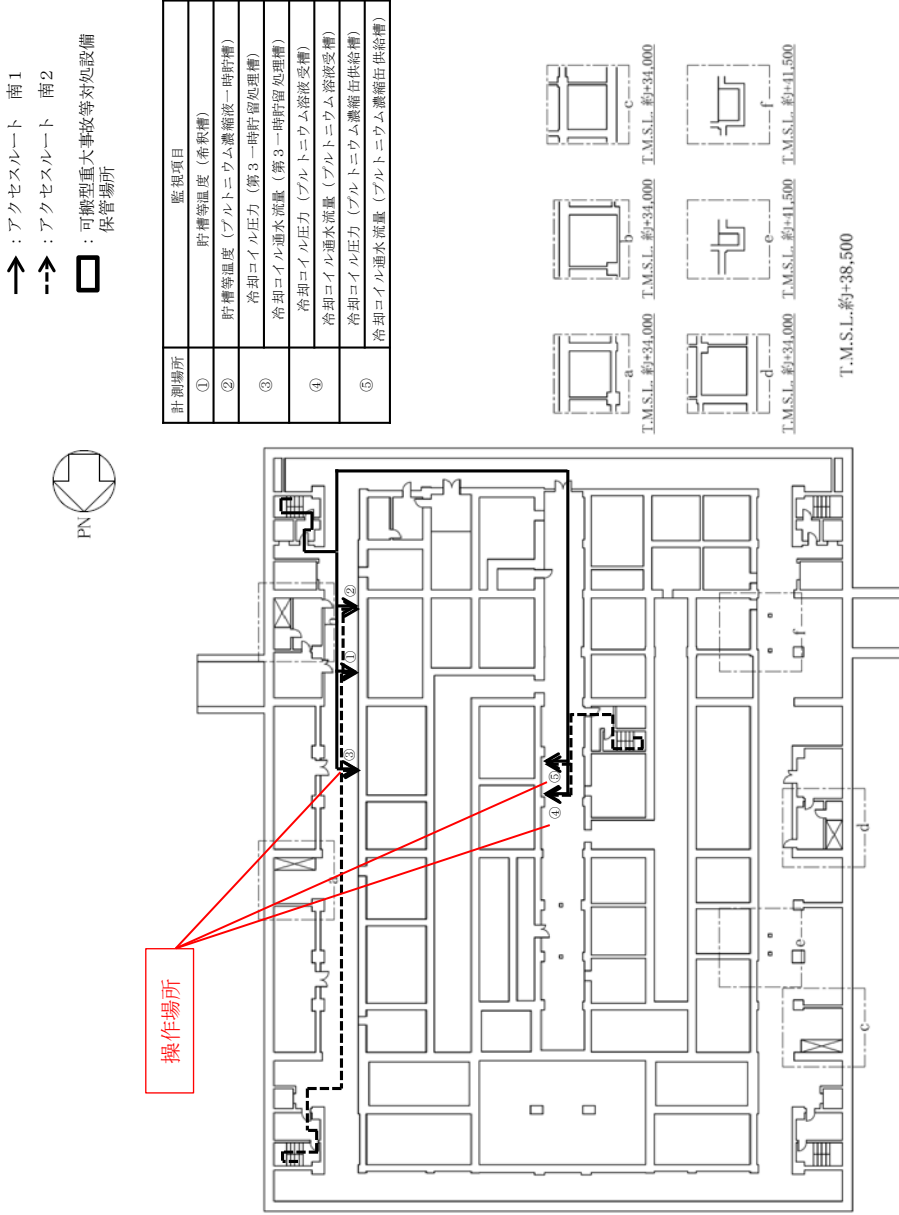


T.M.S.L. 約+65,500

操作場所

蒸発乾固の拡大防止対策 (貯槽等への注水) のアクセスルート 精製建屋 (地上4階)

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地下3階）



操作場所



- : アクセスルート 南1
- -> : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備 保管場所

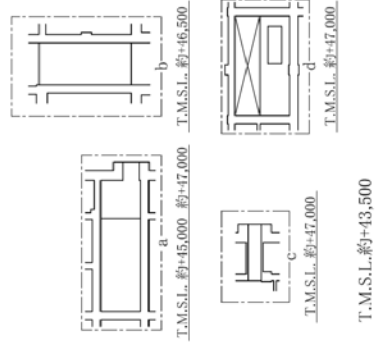
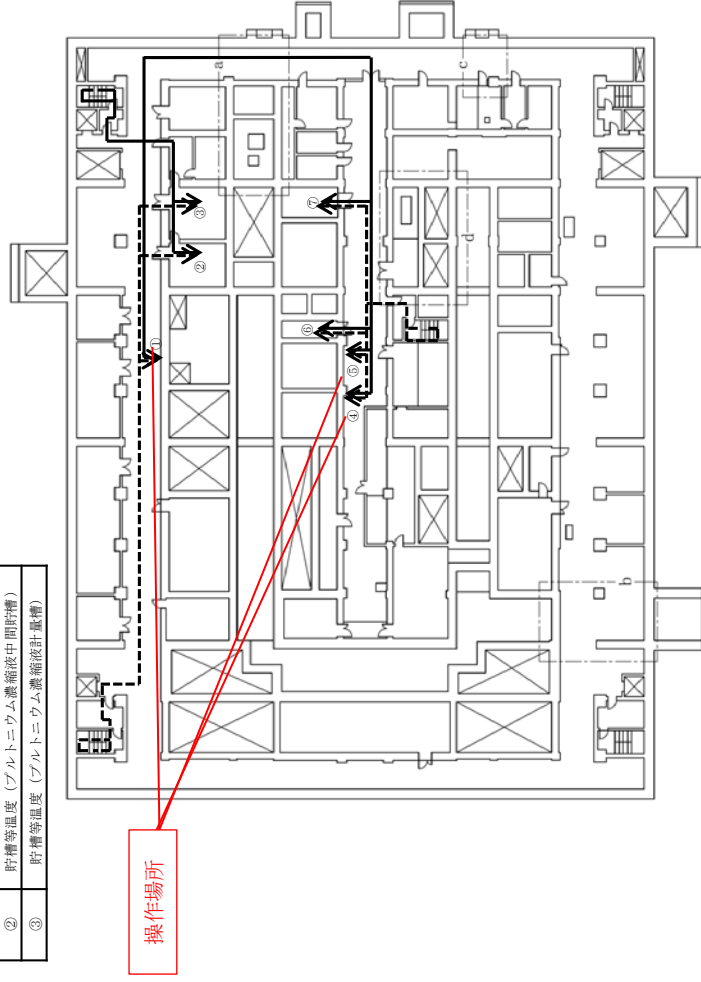


→ : アクセスルート 南1  
 - -> : アクセスルート 南2  
 □ : 可搬型重大事故等対応設備  
 保管場所

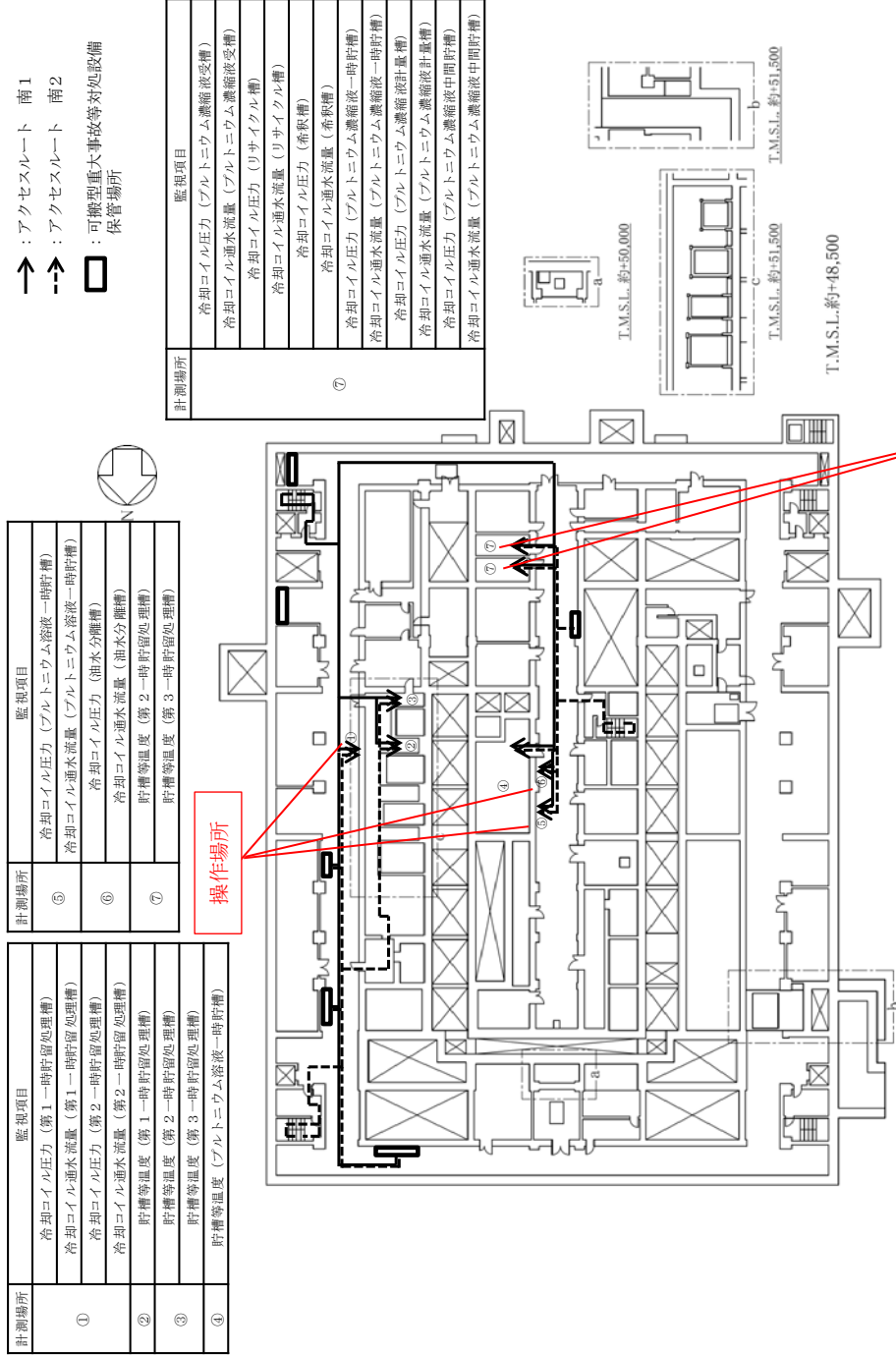
計測場所	監視項目
④	貯槽等温度 (油水分離槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム溶液受槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム溶液受槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム溶液一時貯槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム溶液一時貯槽)

計測場所	監視項目
①	冷却コイル圧力 (第1一時貯留処理槽)
	冷却コイル通水流量 (第1一時貯留処理槽)
	冷却コイル圧力 (第2一時貯留処理槽)
②	冷却コイル通水流量 (第2一時貯留処理槽)
	冷却コイル圧力 (第3一時貯留処理槽)
	冷却コイル通水流量 (第3一時貯留処理槽)
③	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液中貯槽)
	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液計量槽)

計測場所	監視項目
⑤	貯槽等温度 (フルトニウム溶液受槽)
	冷却コイル圧力 (油水分離槽)
	冷却コイル通水流量 (油水分離槽)
⑥	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮缶供給槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮缶供給槽)
⑦	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮缶供給槽)
	貯槽等温度 (フルトニウム濃縮液受槽)



蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル等への通水による冷却) のアクセスルート 精製建屋 (地下2階)



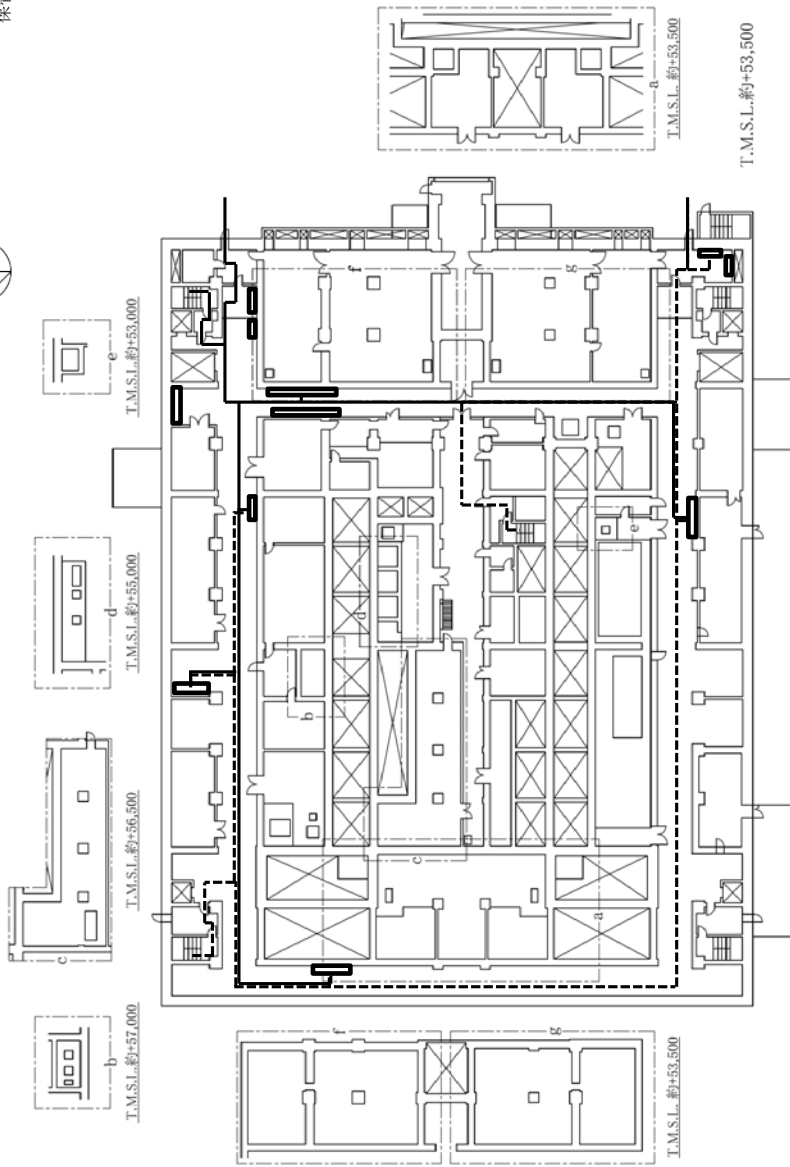
- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑↓ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

計測場所	監視項目	計測場所	監視項目	
①	冷却コイル圧力 (第1一時貯留処理槽)	⑤	冷却コイル圧力 (フルトニウム溶液一時貯槽)	
	冷却コイル通水流量 (第1一時貯留処理槽)		冷却コイル通水流量 (フルトニウム溶液一時貯槽)	
	冷却コイル圧力 (第2一時貯留処理槽)		⑥	冷却コイル圧力 (油水分離槽)
	冷却コイル通水流量 (第2一時貯留処理槽)			冷却コイル通水流量 (油水分離槽)
②	貯槽等温度 (第1一時貯留処理槽)	⑦	貯槽等温度 (第2一時貯留処理槽)	
	貯槽等温度 (第2一時貯留処理槽)		貯槽等温度 (第3一時貯留処理槽)	
③	貯槽等温度 (第1一時貯留処理槽)			
	貯槽等温度 (第3一時貯留処理槽)			
④	貯槽等温度 (フルトニウム溶液一時貯槽)			

計測場所	監視項目
⑦	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮液受槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮液受槽)
	冷却コイル圧力 (リサイクル槽)
	冷却コイル通水流量 (リサイクル槽)
	冷却コイル圧力 (希釈槽)
	冷却コイル通水流量 (希釈槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮液一時貯槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮液計量槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮液計量槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
	冷却コイル圧力 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)
	冷却コイル通水流量 (フルトニウム濃縮液中間貯槽)

蒸発乾固の拡大防止対策 (冷却コイル等への通水による冷却) のアクセスルート 精製建屋 (地下1階)

- ↑ : アクセスルート 南1
- ⇄ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



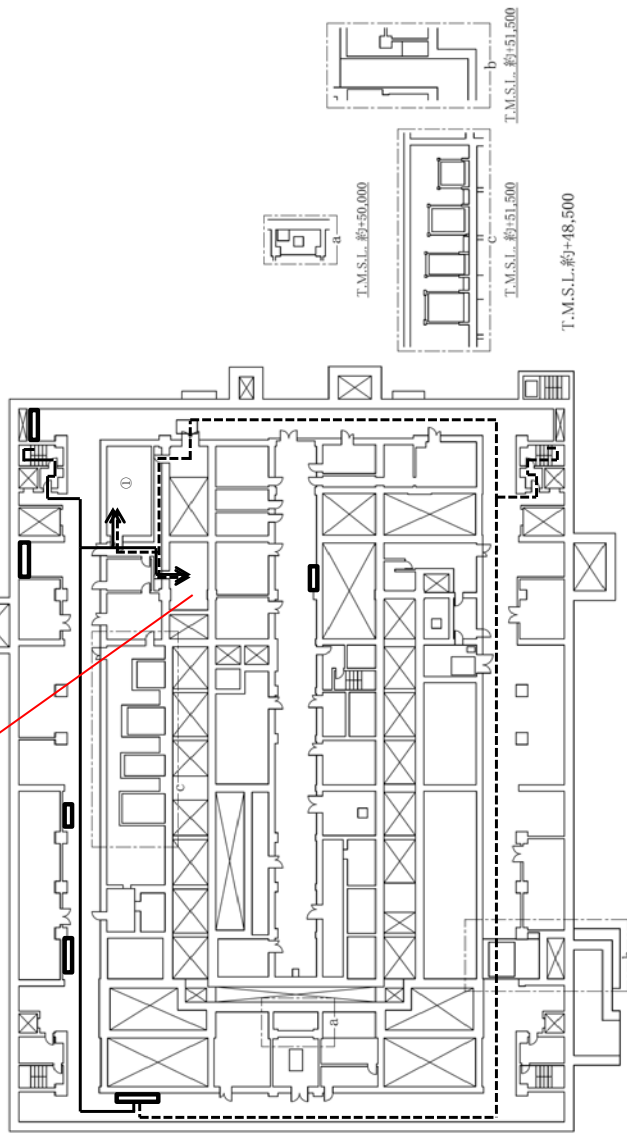
蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）のアクセスルート 精製建屋（地上1階）

- : アクセスルート 南1
- : アクセスルート 南2
- : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

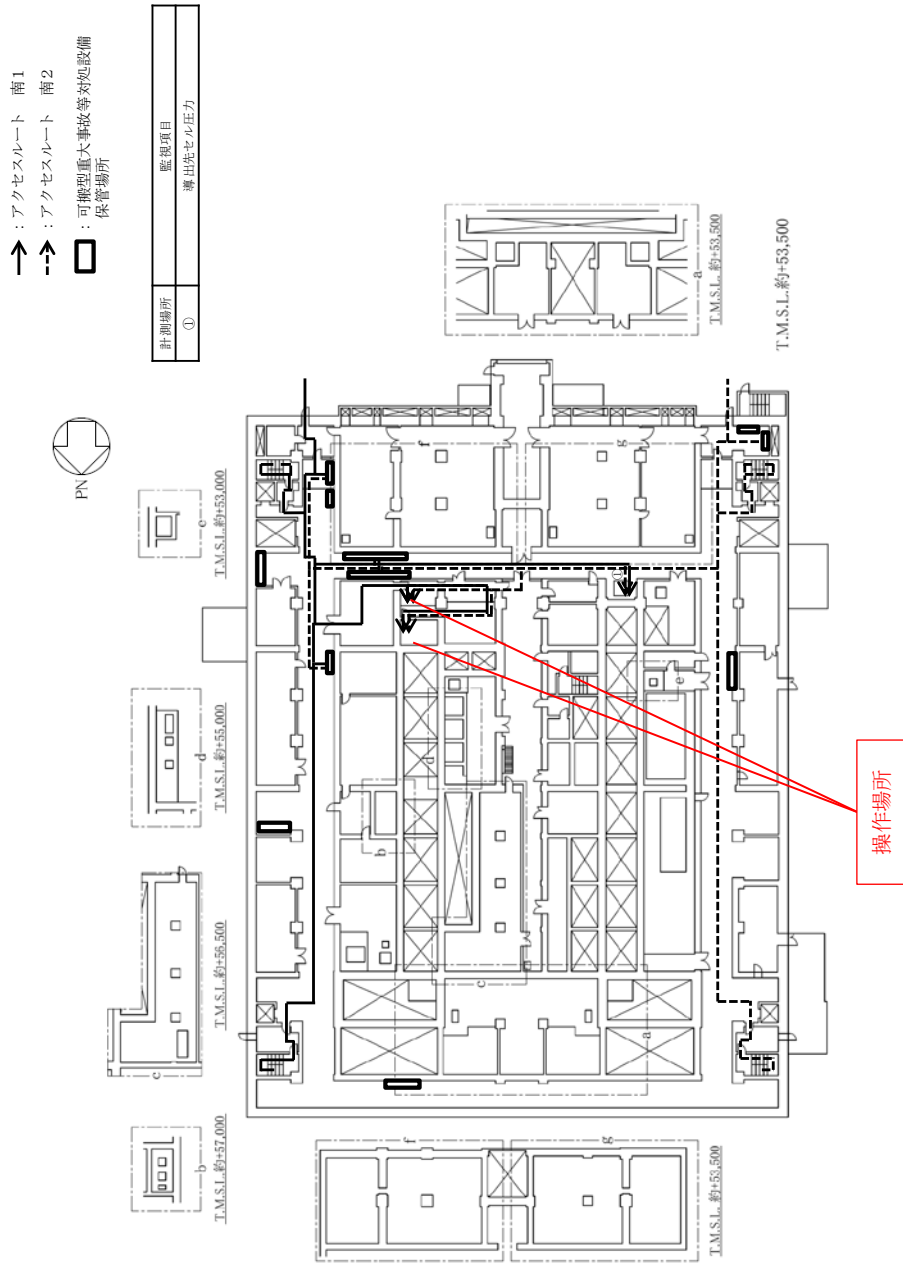


操作場所

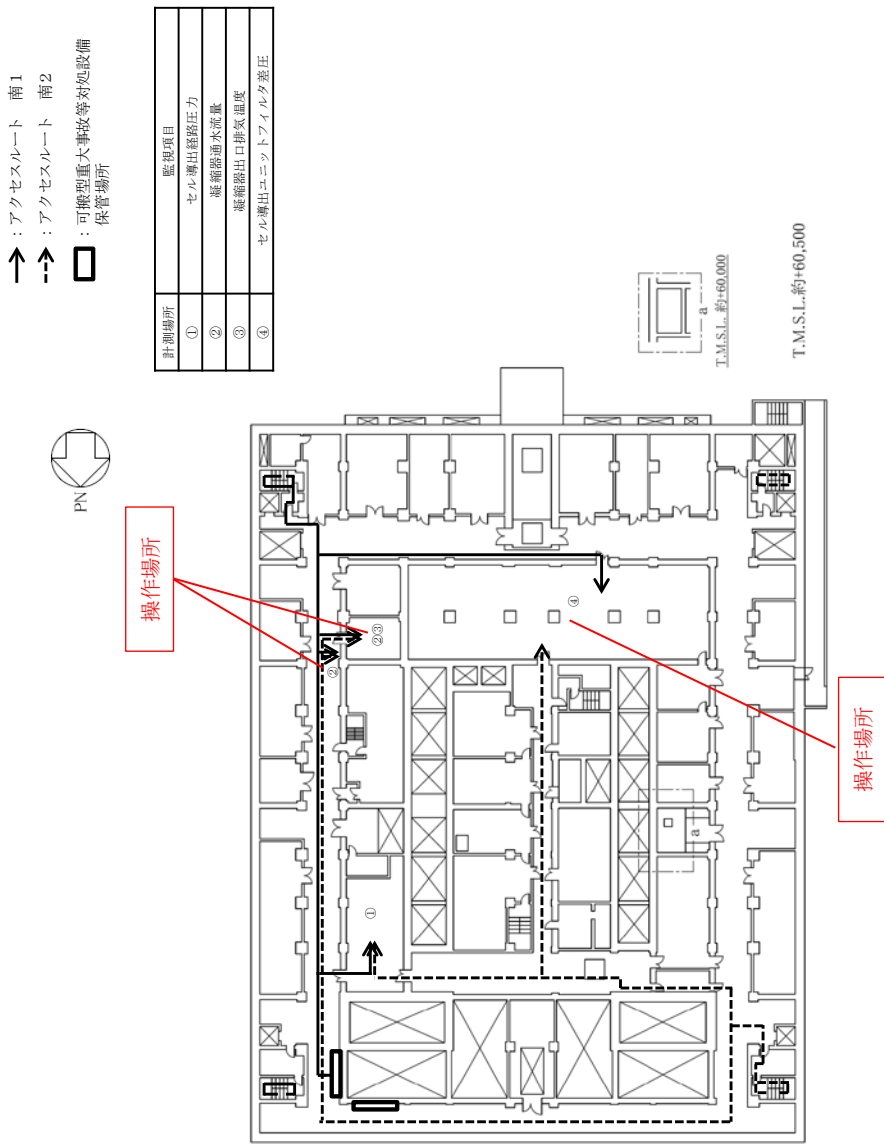
計測場所	監視項目
①	凝縮水回収セル液位



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 精製建屋（地下1階）

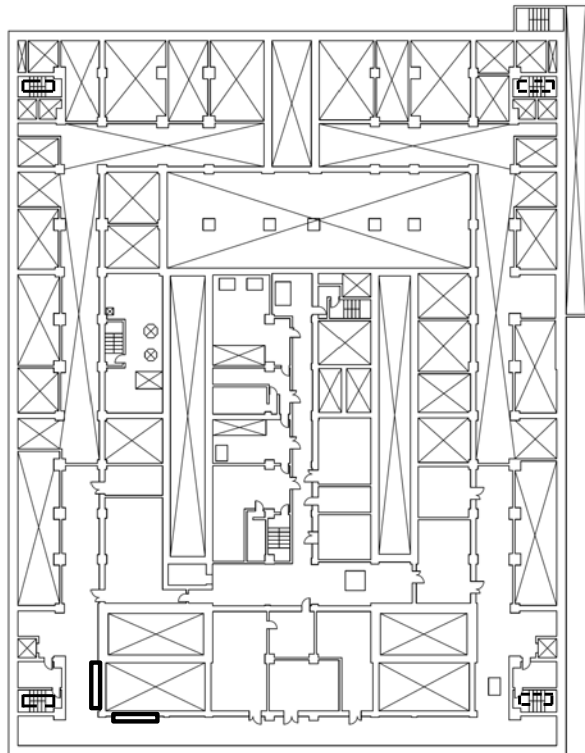


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 のアクセスルート 精製建屋（地上1階）



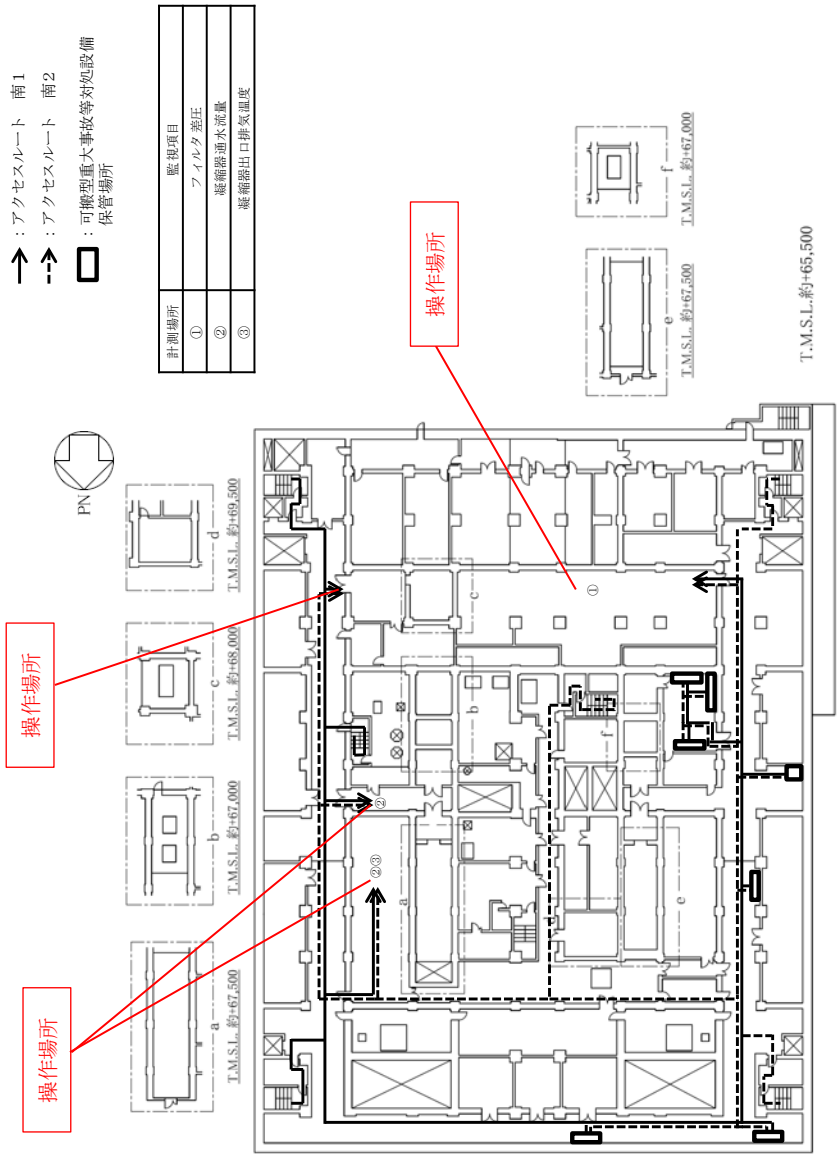
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 のアクセスルート 精製建屋（地上2階）

- ↑ : アクセスルート 南1
- ↑↑ : アクセスルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルート 精製建屋（地上3階）



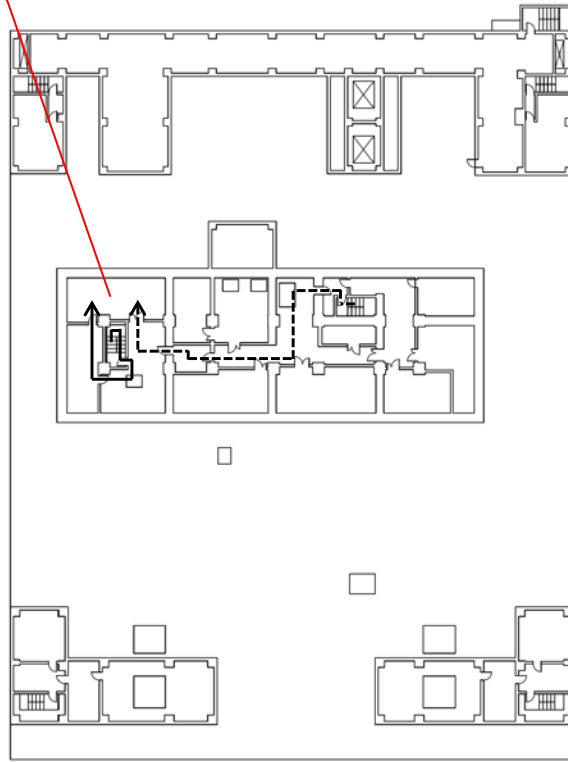
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 のアクセスルート 精製建屋（地上4階）



- ↑ : アクセスルーフ 南1
- ↑ : アクセスルーフ 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所



操作場所



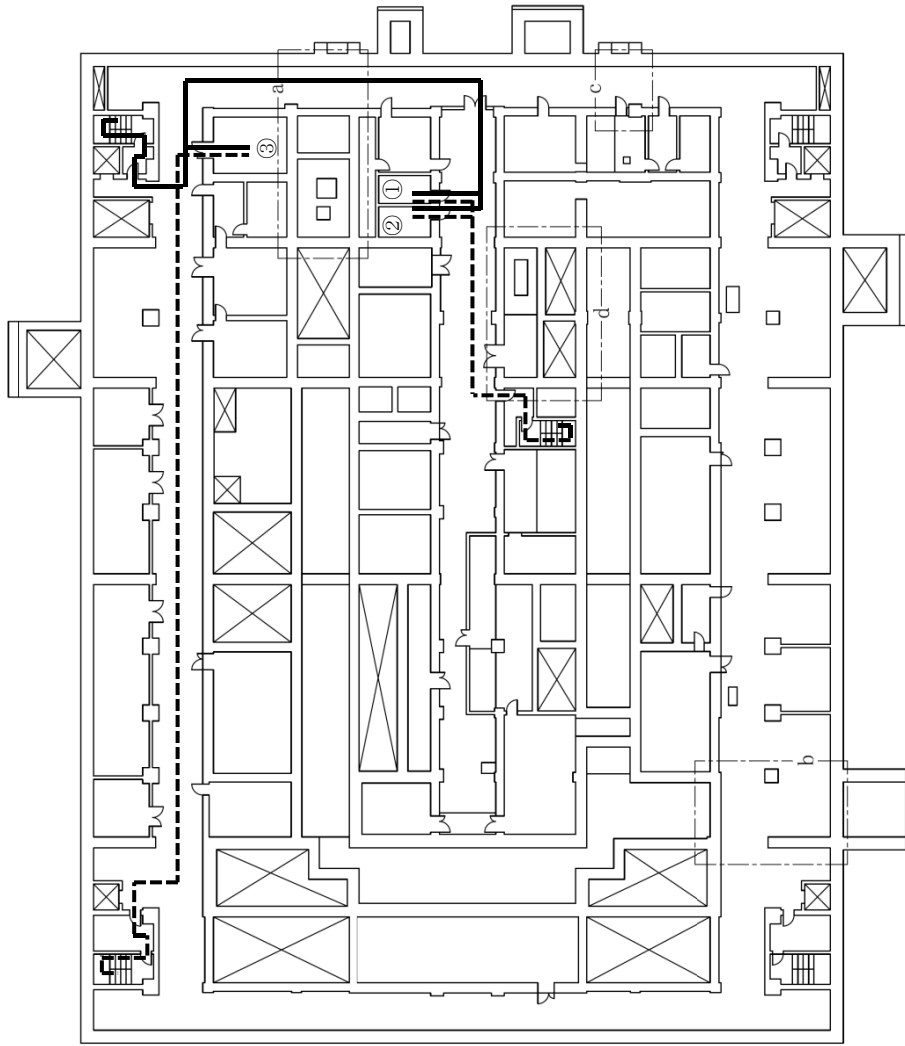
T.M.S.L.約+73,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のアクセスルーフ 精製建屋（地上5階）

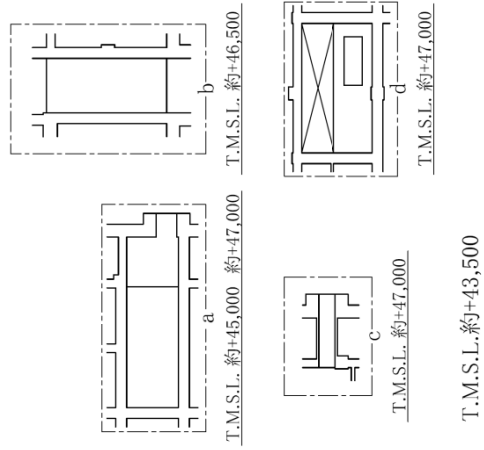
— : 敷設ルート 南1

- - - : 敷設ルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
ブルトニウム濃縮液受槽	① 若しくは ②
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	③
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	③
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮缶供給槽	
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	

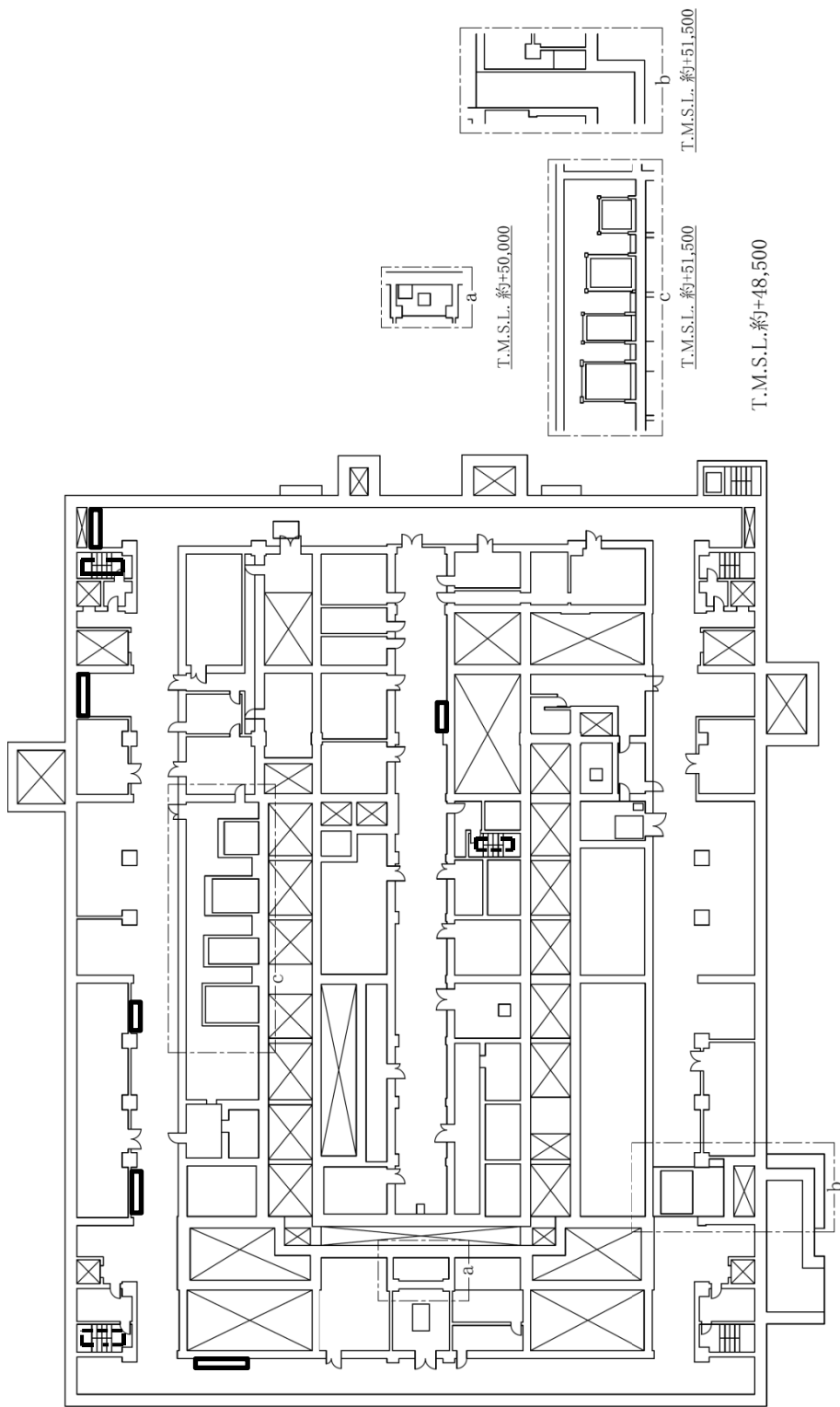


蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地下2階）

— : 敷設ルート 南1

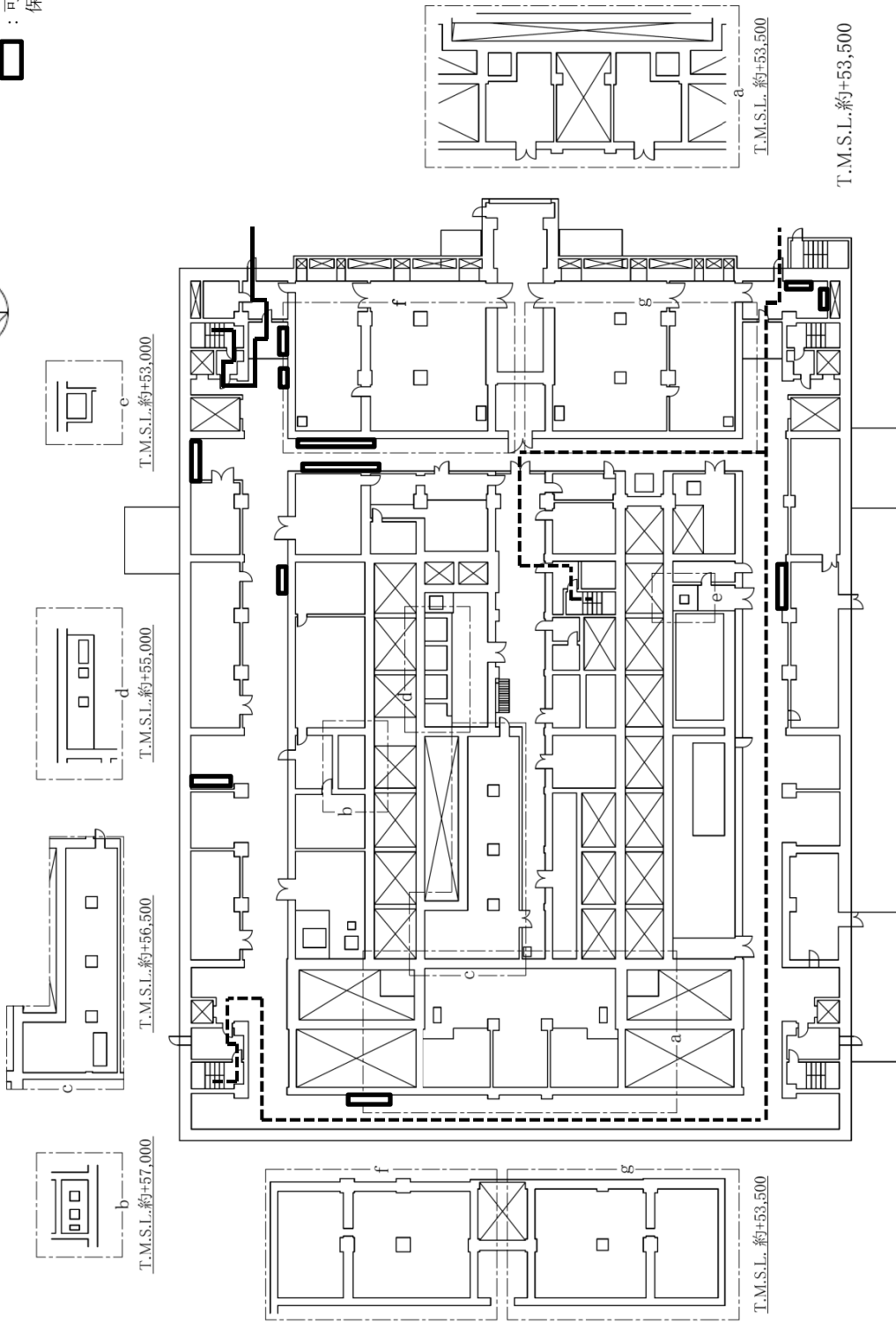
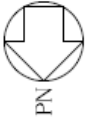
- - - : 敷設ルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地下1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



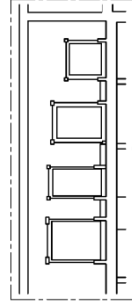
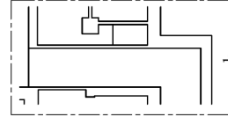
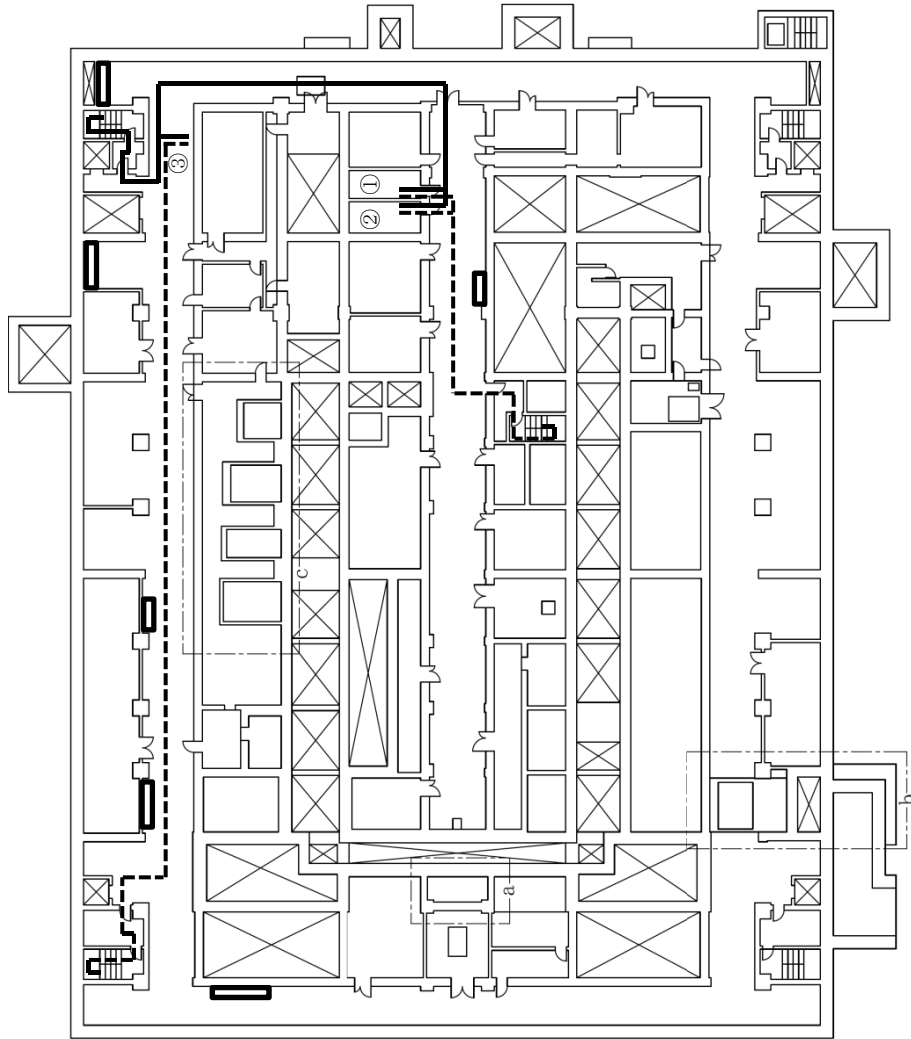
蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
 精製建屋（第1接続口）（地上1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



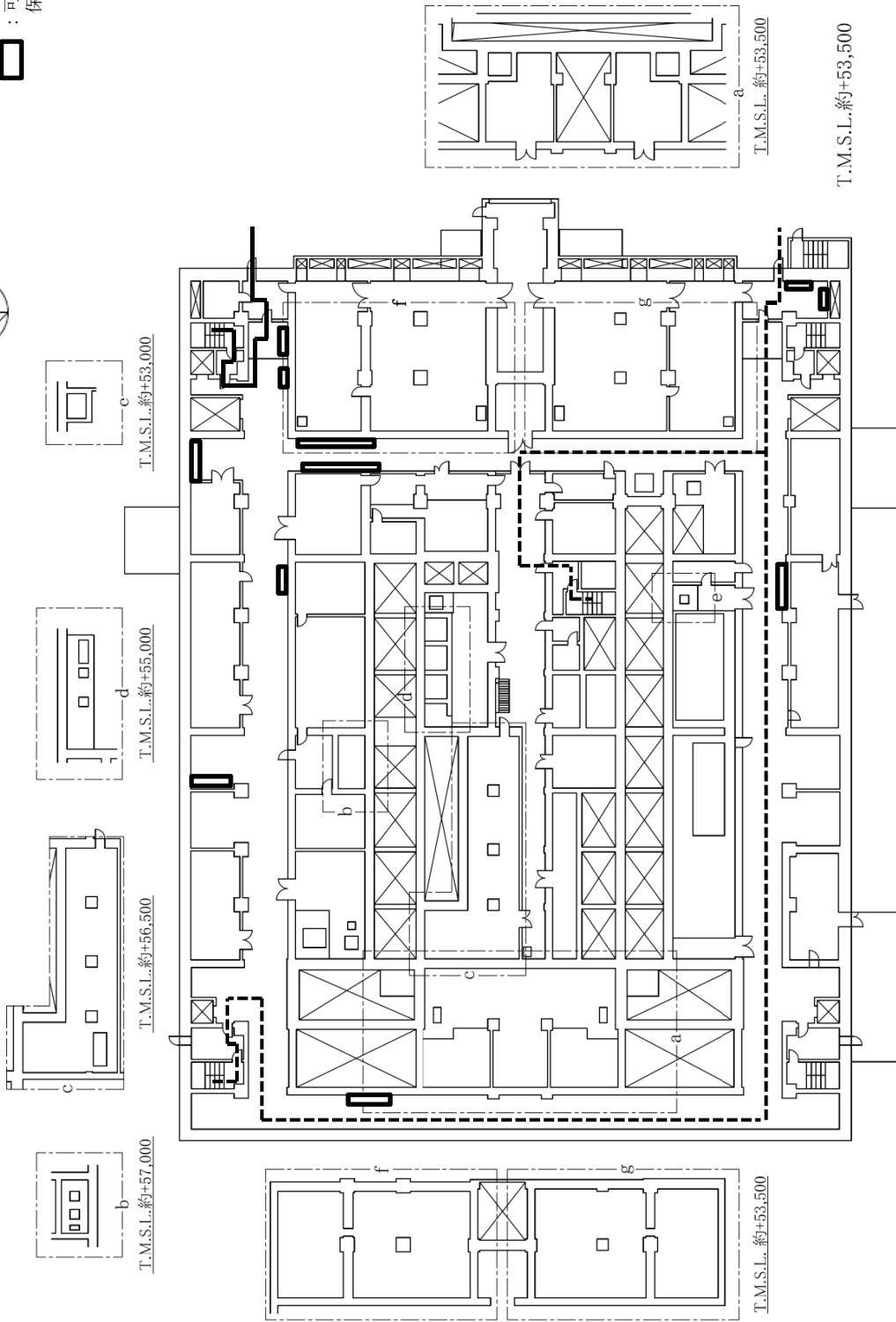
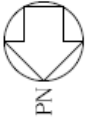
対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
ブルトニウム濃縮液受槽	① 若しくは ②
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	③
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮液供給槽	③
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	③
第3一時貯留処理槽	



T.M.S.L.約+48,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地下1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+53,000

T.M.S.L. 約+55,000

T.M.S.L. 約+56,500

T.M.S.L. 約+57,000

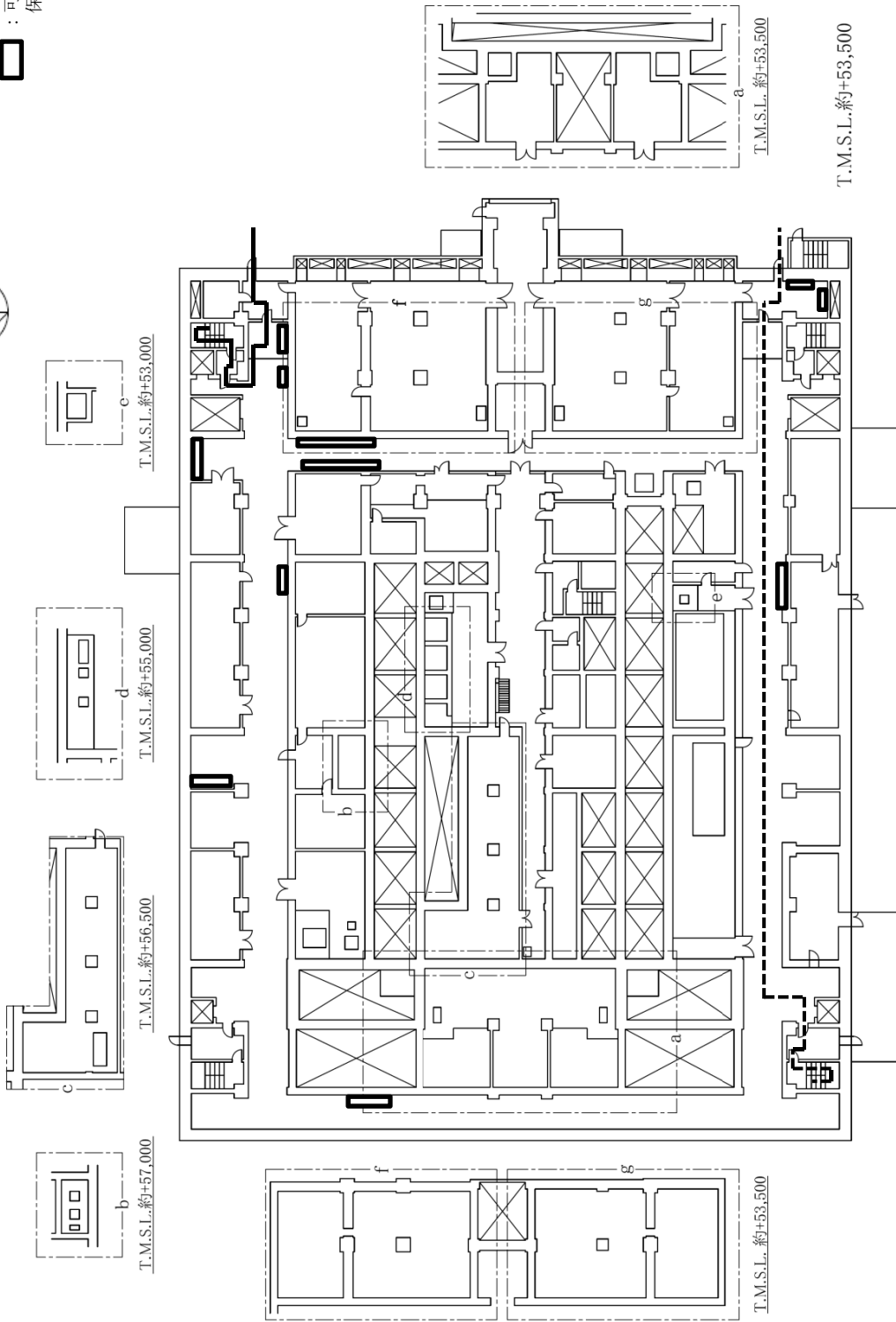
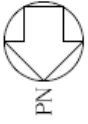
T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

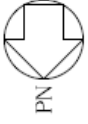
T.M.S.L. 約+53,500

蒸発乾固の発生防止対策（内部ループへの通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上1階）

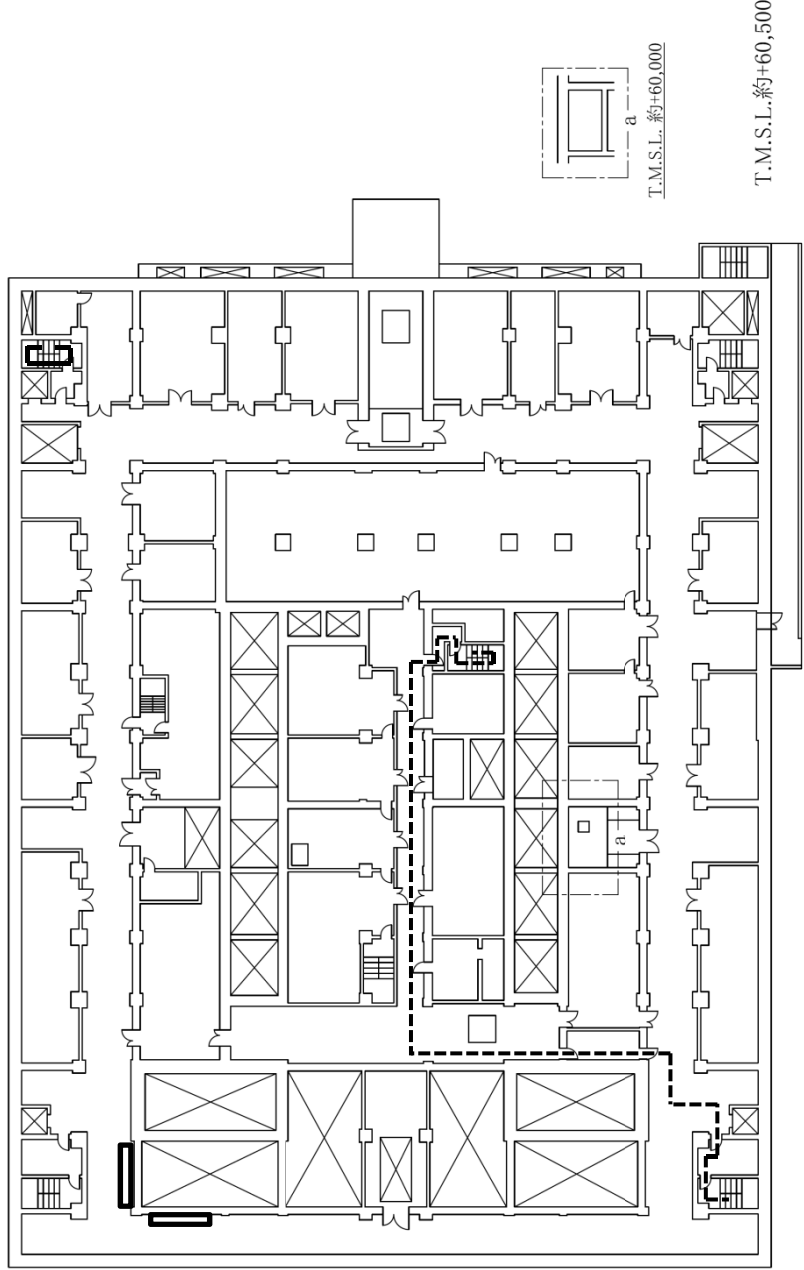
- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地上1階）

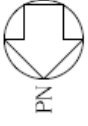


- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

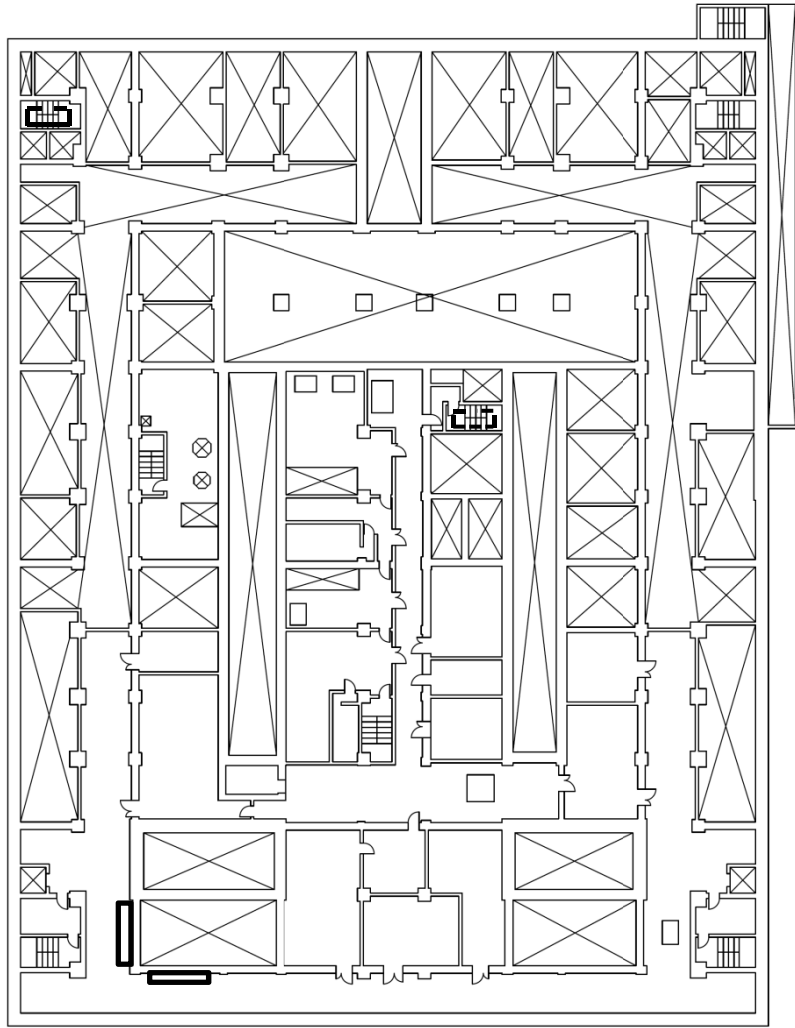


蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地上2階）





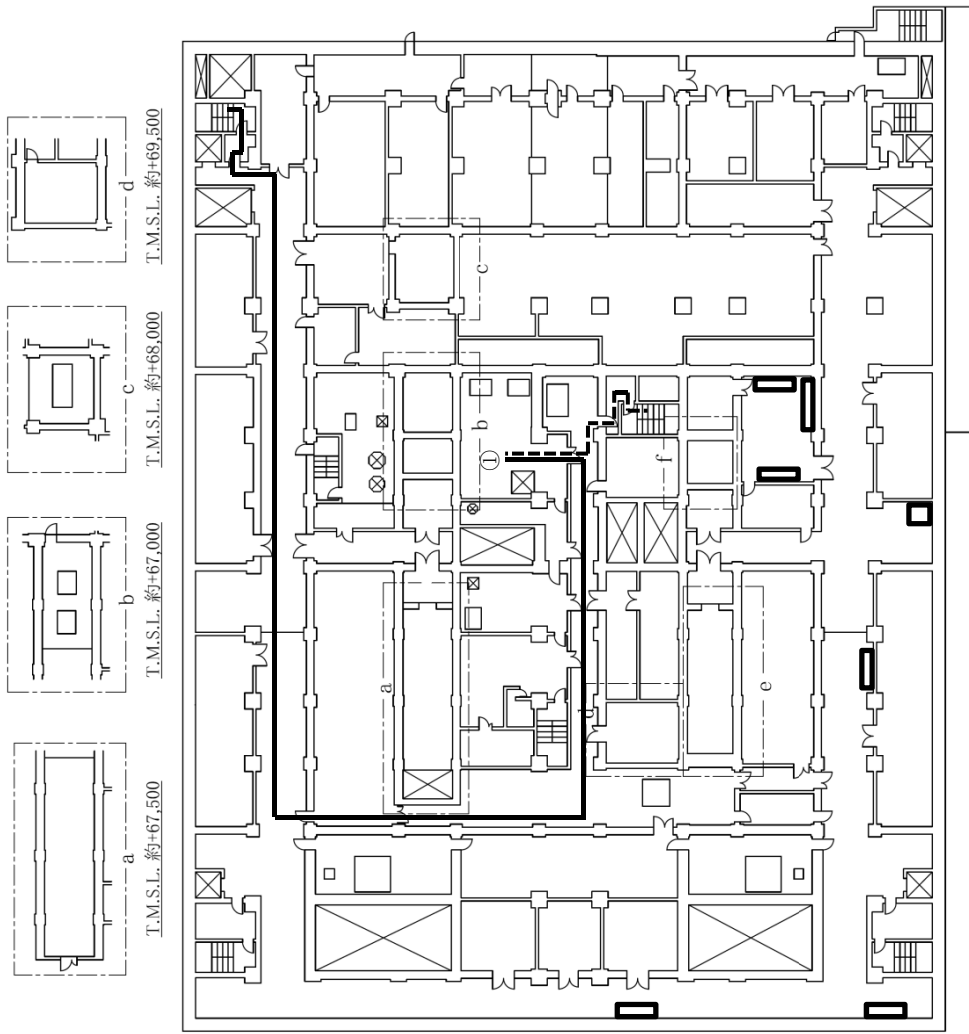
- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



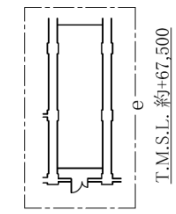
T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地上3階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



対象貯槽	接続口
ブルトニウム濃縮液受槽	①
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮缶供給槽	
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	



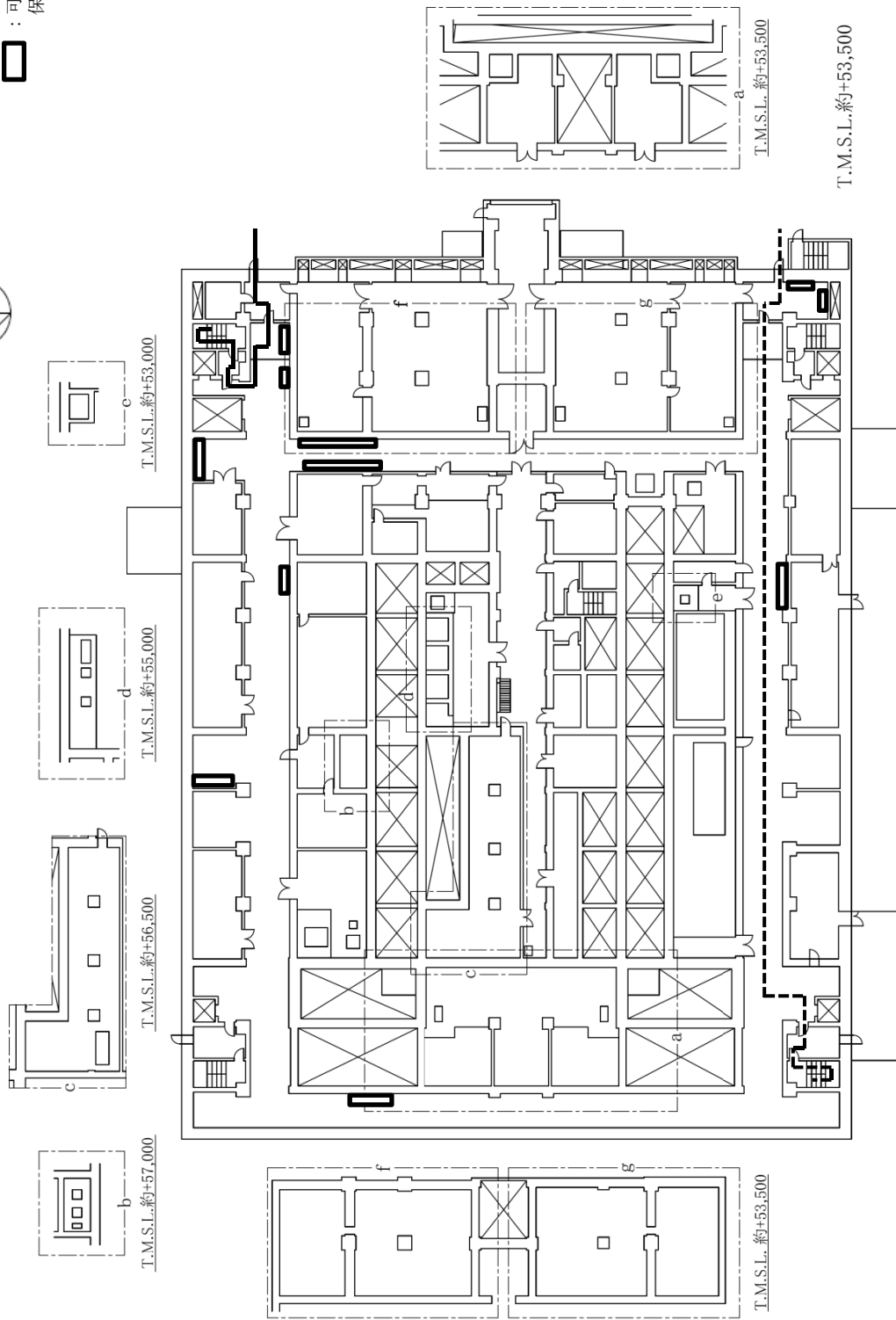
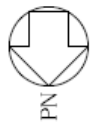
T.M.S.L.約+65,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地上4階）

— : 敷設ルート 南1

- - - : 敷設ルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+53,000

T.M.S.L. 約+55,000

T.M.S.L. 約+56,500

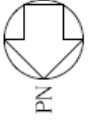
T.M.S.L. 約+57,000

T.M.S.L. 約+53,500

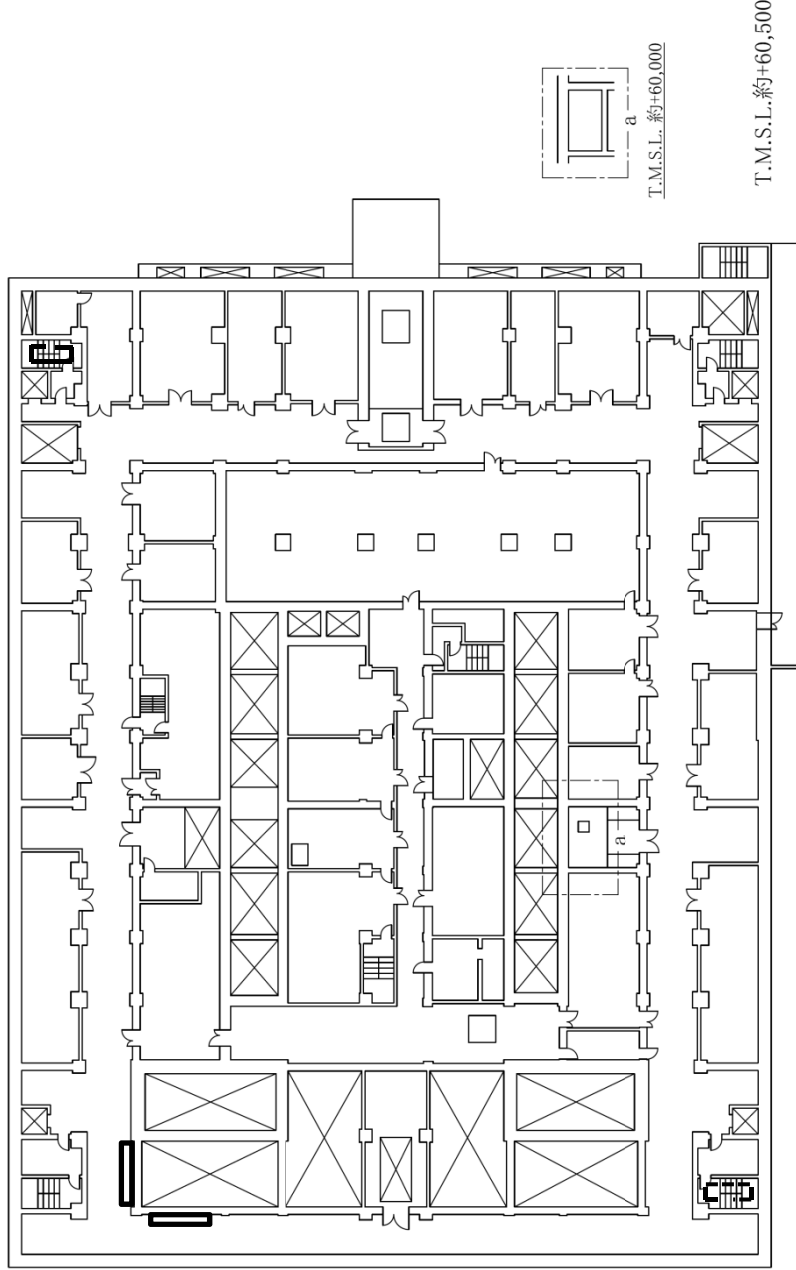
T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

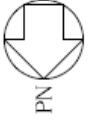
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上1階）



- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



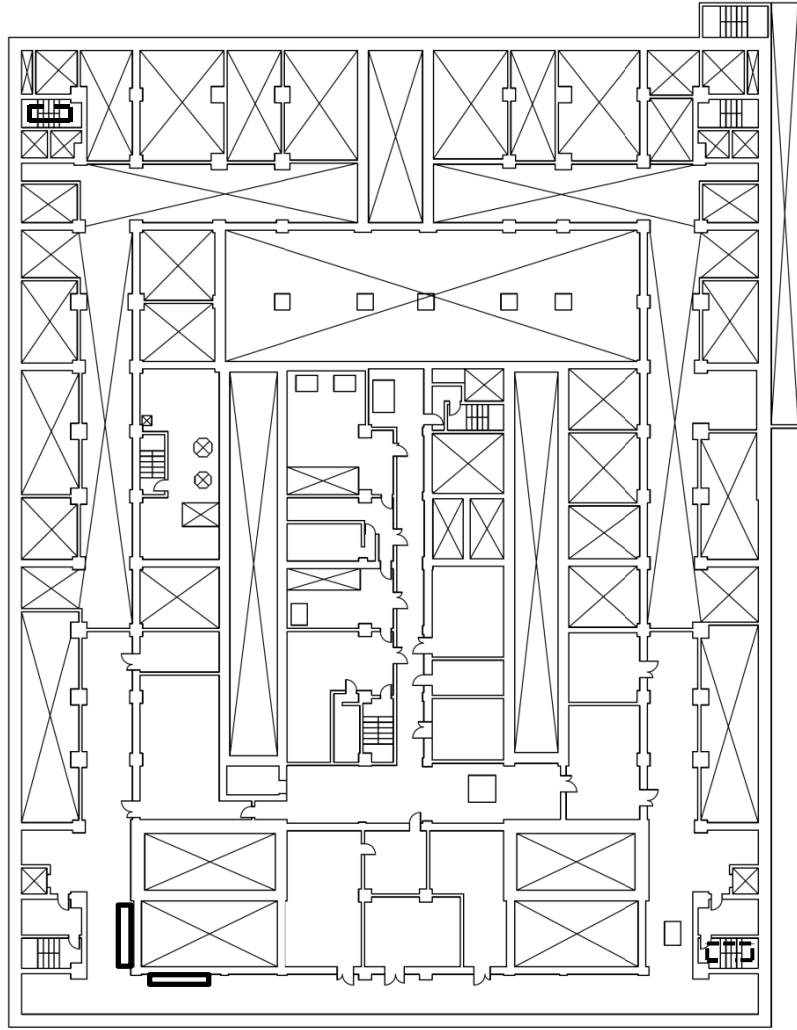
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上2階）



— : 敷設ルート 南1

- - - : 敷設ルート 南2

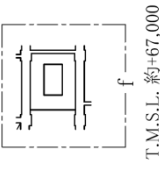
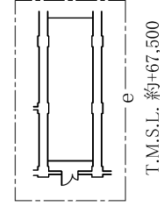
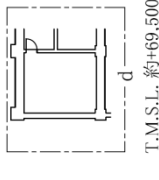
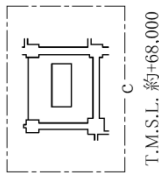
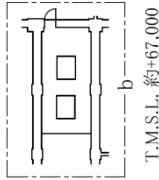
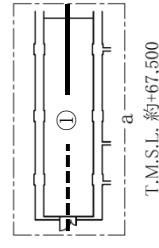
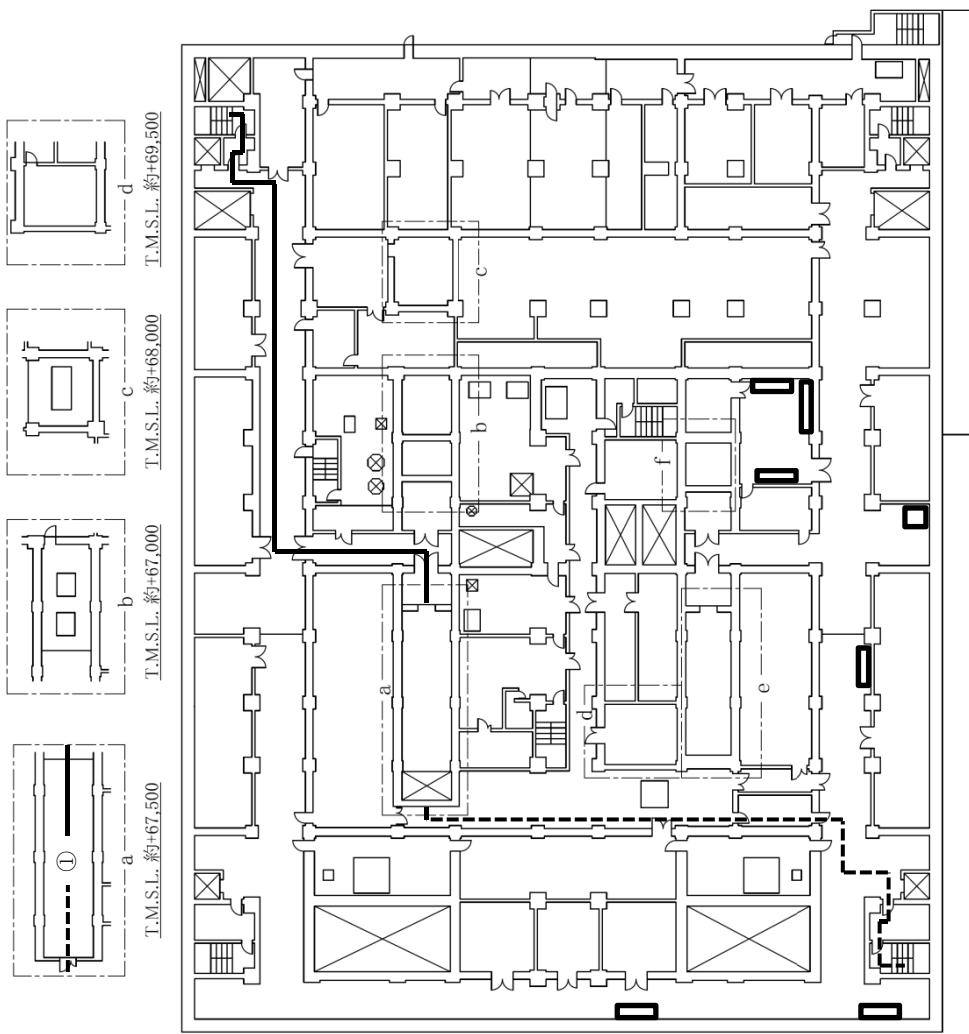
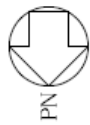
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上3階）

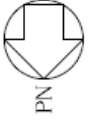
- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



対象貯槽	接続口
ブルトニウム濃縮液受槽	①
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮缶供給槽	
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	

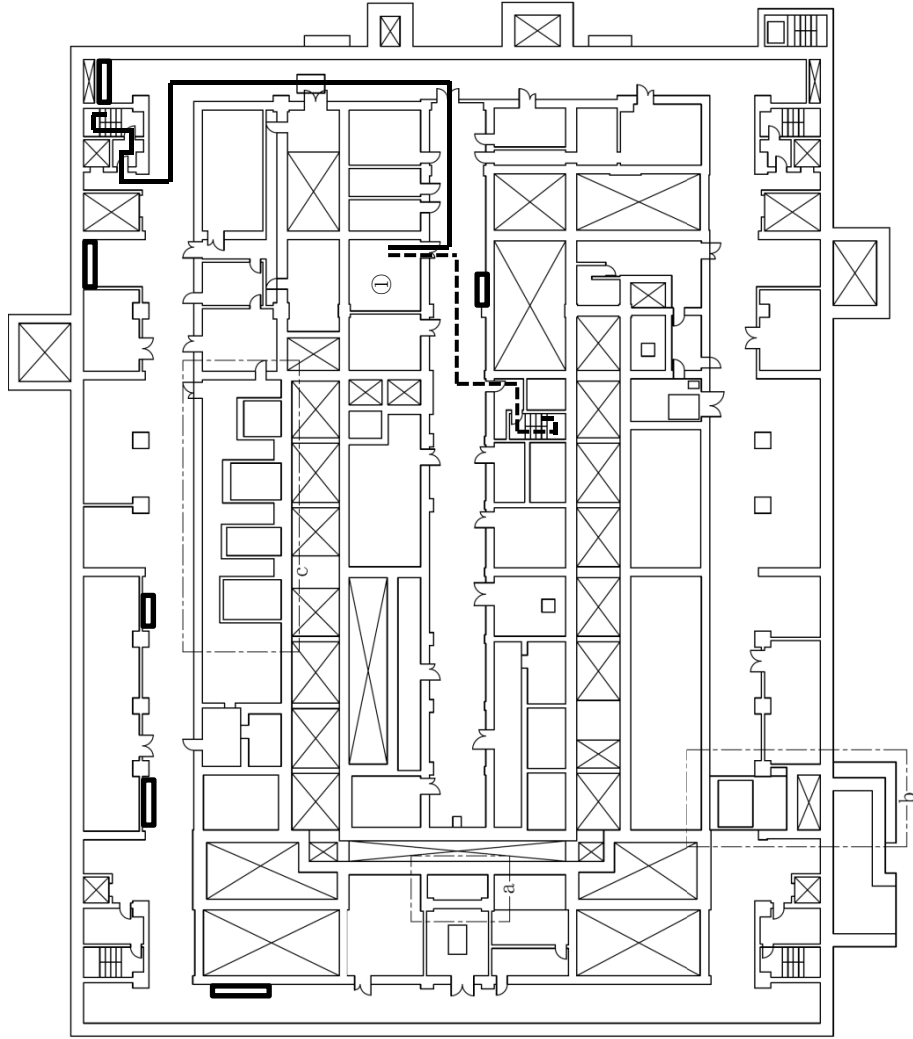
T.M.S.L. 約+65,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上4階）

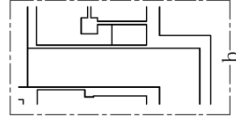


- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

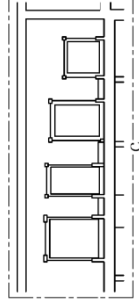
対象貯槽	接続口
ブルトニウム濃縮液受槽	
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	①
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮缶供給槽	
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	



T.M.S.L. 約+50,000



T.M.S.L. 約+51,500

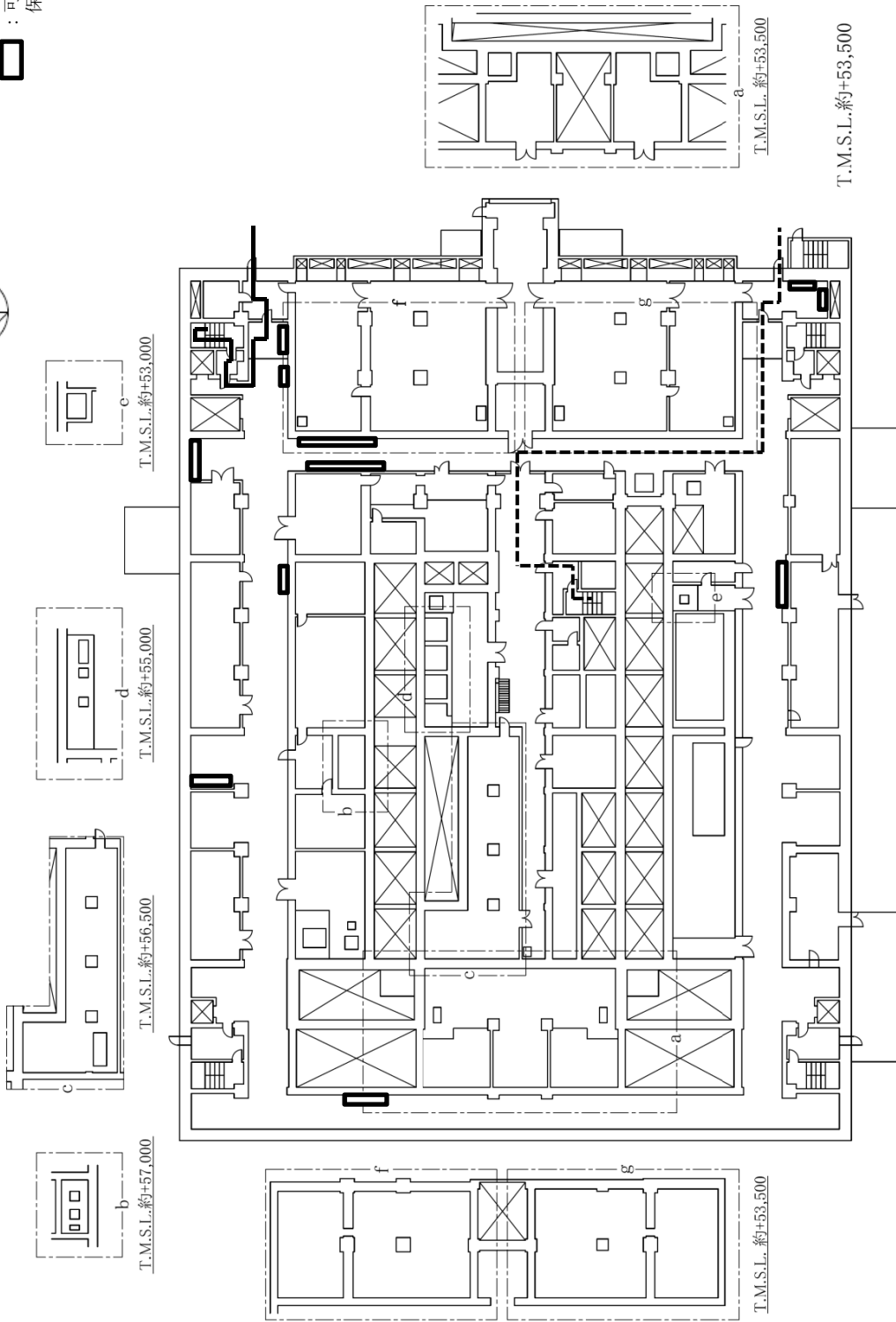
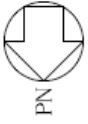


T.M.S.L. 約+51,500

T.M.S.L. 約+48,500

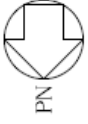
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第3接続口）（地下1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



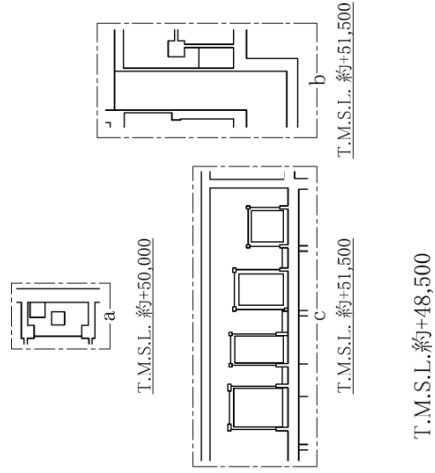
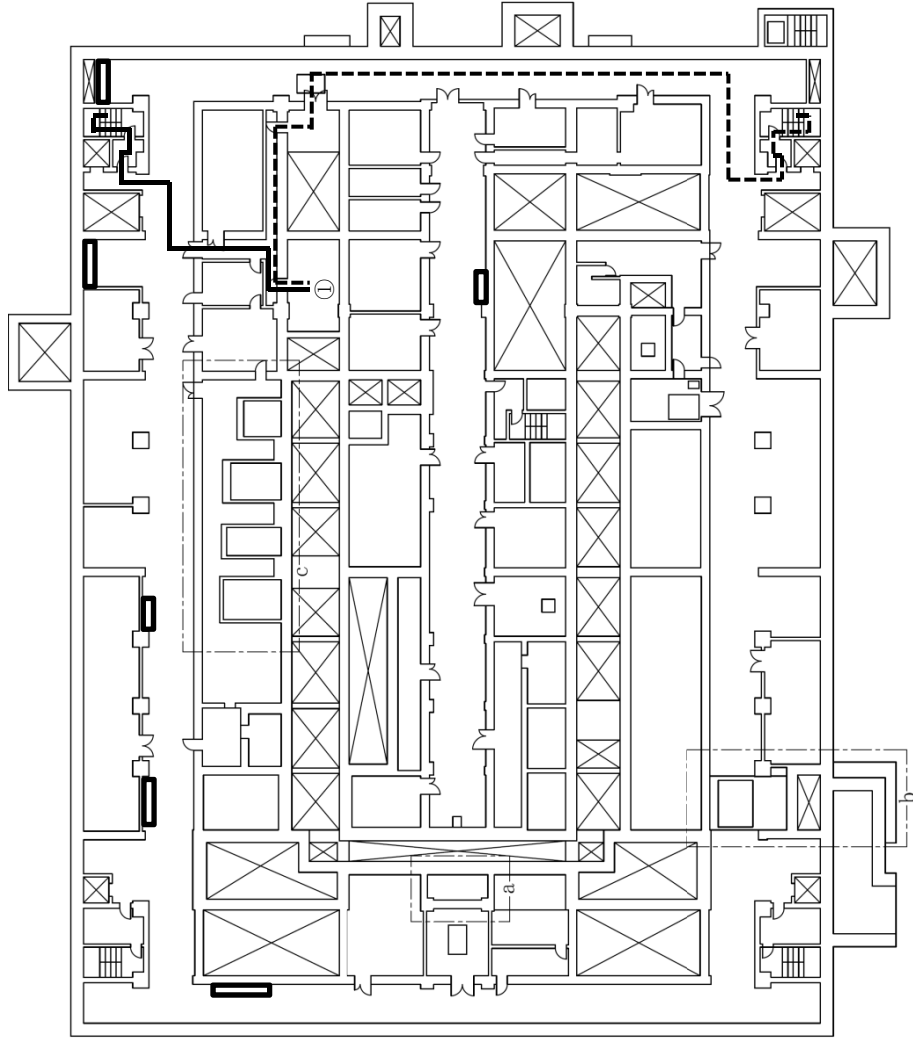
蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第3接続口）（地上1階）





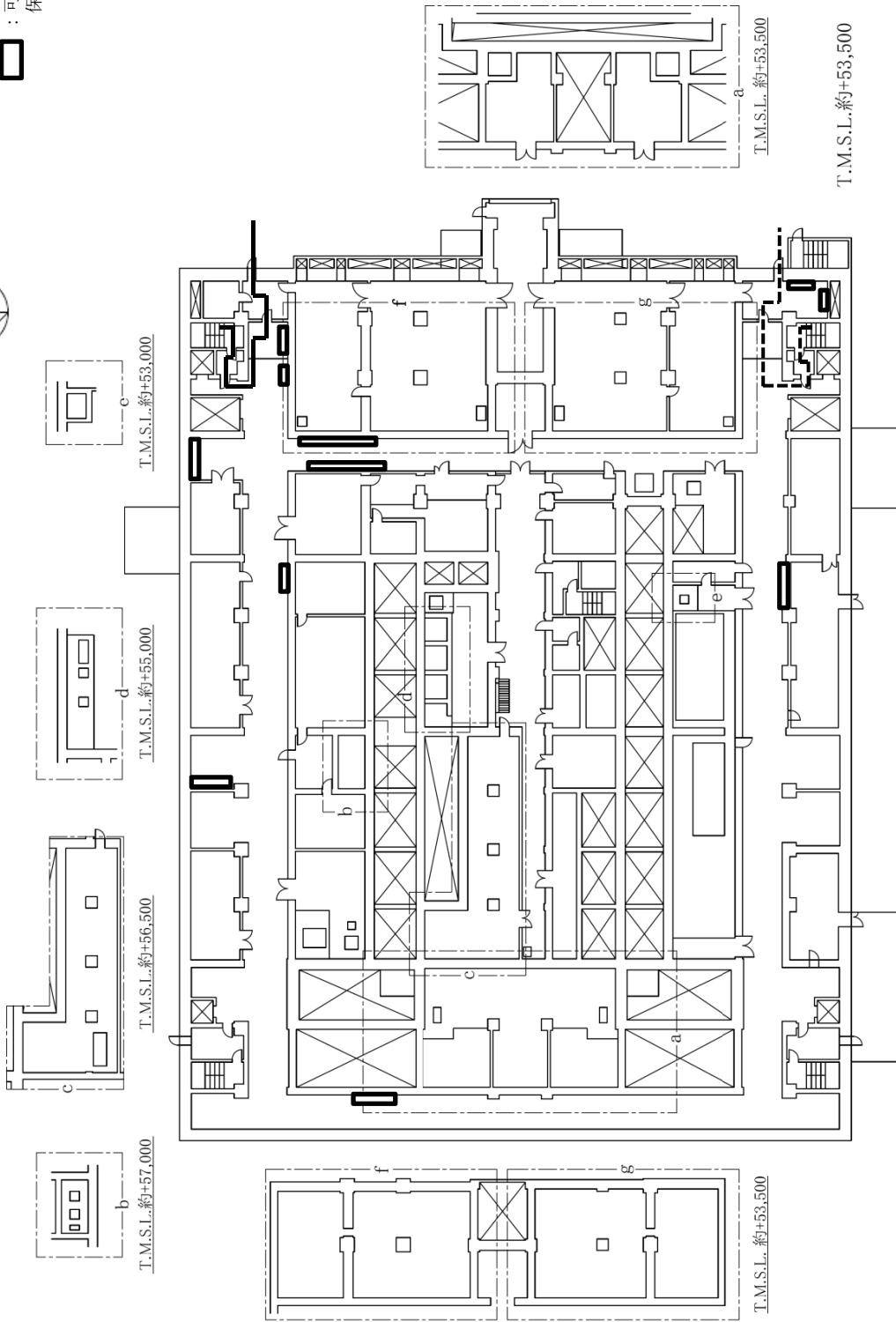
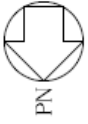
- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

対象貯槽	接続口
ブルトニウム濃縮液受槽	①
リサイクル槽	
希釈槽	
ブルトニウム濃縮液一時貯槽	
ブルトニウム濃縮液計量槽	
ブルトニウム濃縮液中間貯槽	
ブルトニウム溶液受槽	
油水分離槽	
ブルトニウム濃縮液供給槽	
ブルトニウム溶液一時貯槽	
第1一時貯留処理槽	
第2一時貯留処理槽	
第3一時貯留処理槽	



蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第4接続口）（地下1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+53,000

T.M.S.L. 約+55,000

T.M.S.L. 約+56,500

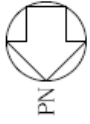
T.M.S.L. 約+57,000

T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

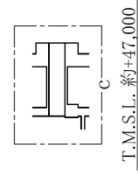
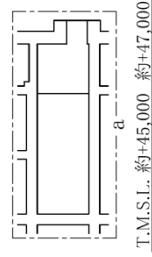
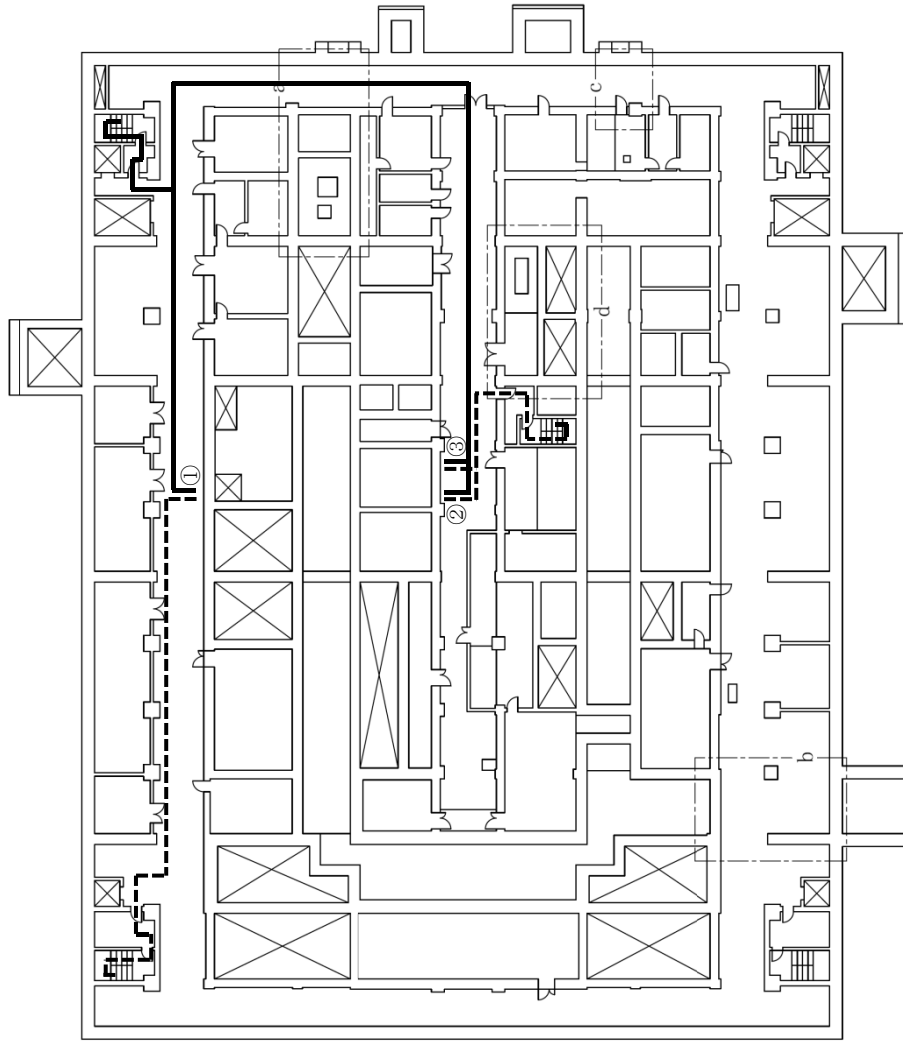
T.M.S.L. 約+53,500

蒸発乾固の拡大防止対策（貯槽等への注水）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第4接続口）（地上1階）

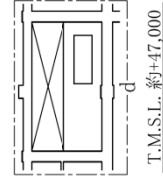
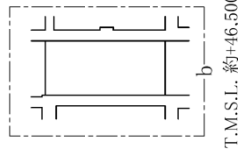


- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所

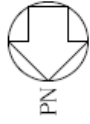
対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
第3一時貯留処理槽	①
プルトリウム溶液受槽	②
プルトリウム濃縮缶供給槽	③



T.M.S.L. 約+43,500



蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地下2階）

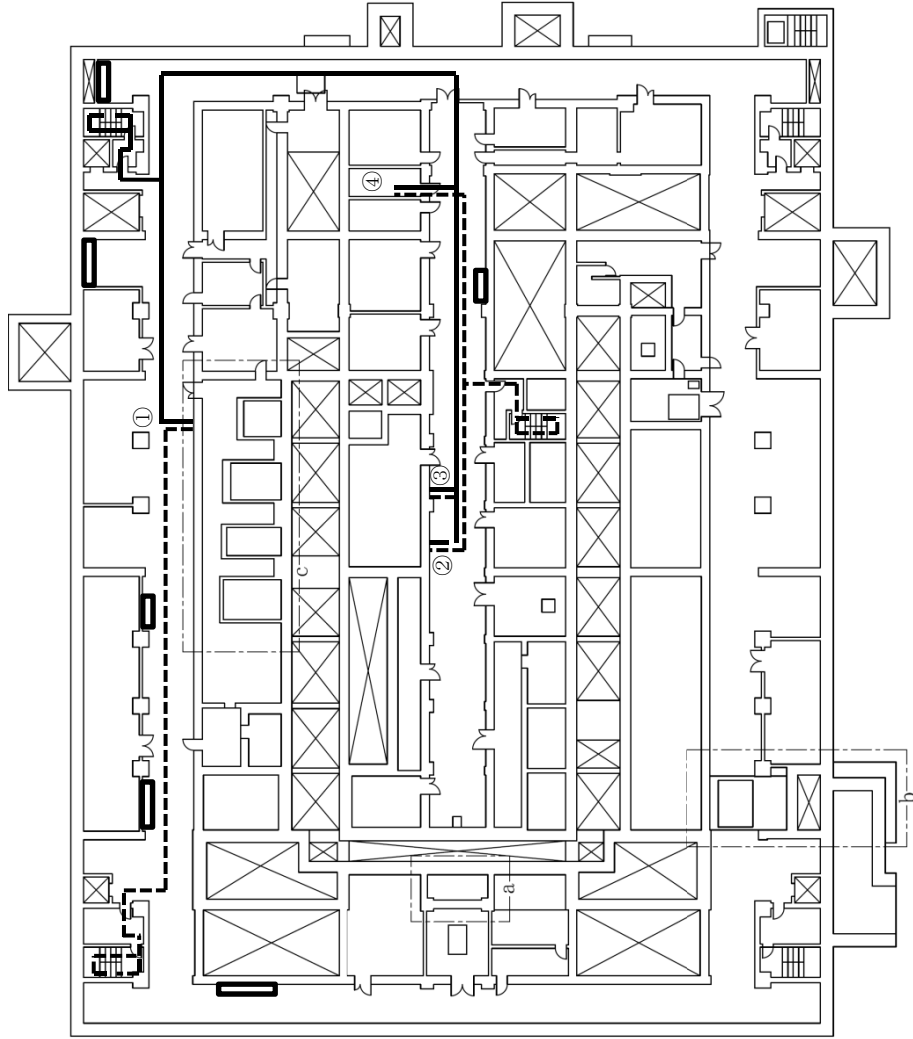


— : 敷設ルート 南1

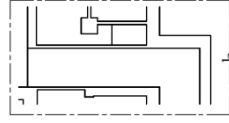
- - - : 敷設ルート 南2

□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

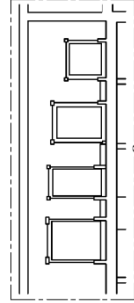
対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
第1一時貯留処理槽	①
第2一時貯留処理槽	②
フルトニウム溶液一時受槽 油水分離槽	③
フルトニウム濃縮液受槽 リサイクル槽 希釈槽	④
フルトニウム濃縮液一時貯槽	
フルトニウム濃縮液計量槽	
フルトニウム濃縮液中間貯槽	



T.M.S.L. 約+50,000



T.M.S.L. 約+51,500

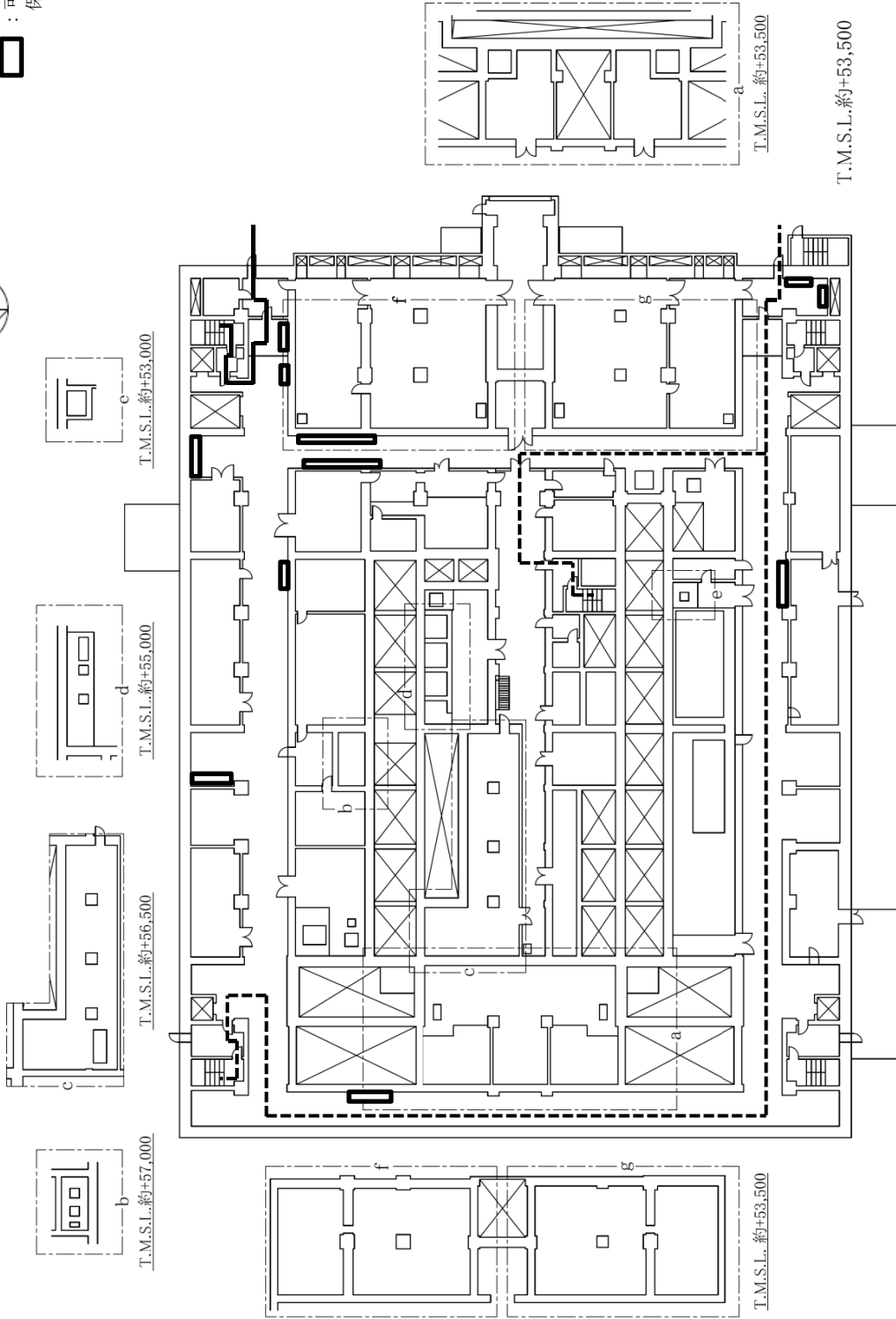
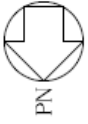


T.M.S.L. 約+51,500

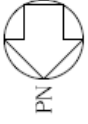
T.M.S.L. 約+48,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地下1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

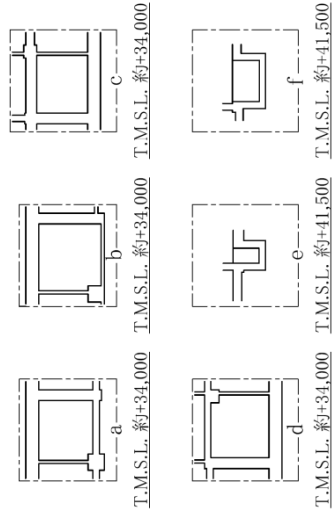
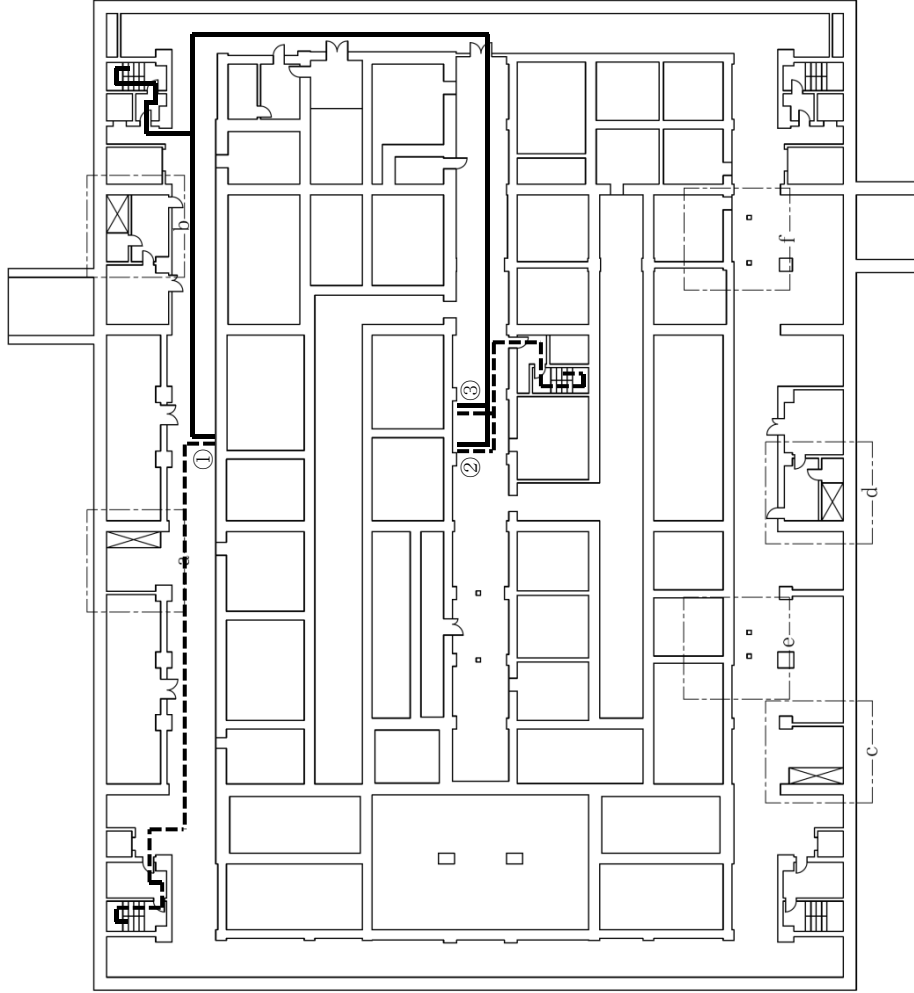


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第1接続口）（地上1階）



- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
第3一時貯留処理槽	①
プルトニウム溶液受槽	②
プルトニウム濃縮缶供給槽	③



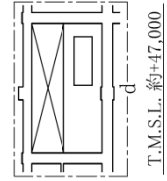
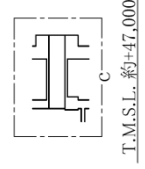
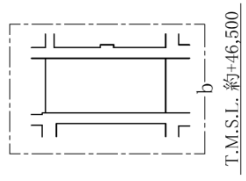
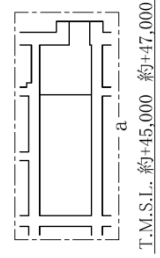
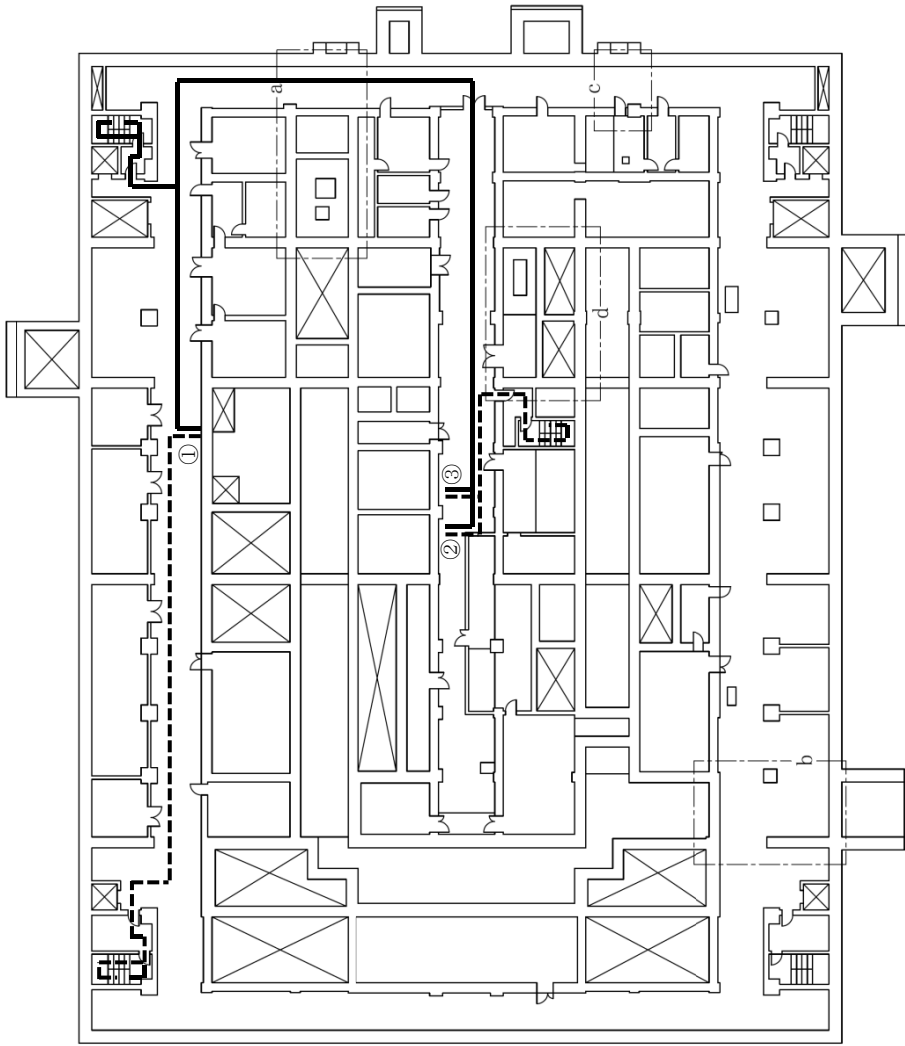
T.M.S.L.約+38,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地下3階）



- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所

対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
第1一時貯留処理槽	①
第2一時貯留処理槽	②
ブルトニウム溶液一時受槽	③
油水分離槽	



T.M.S.L. 約+43,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地下2階）

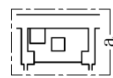
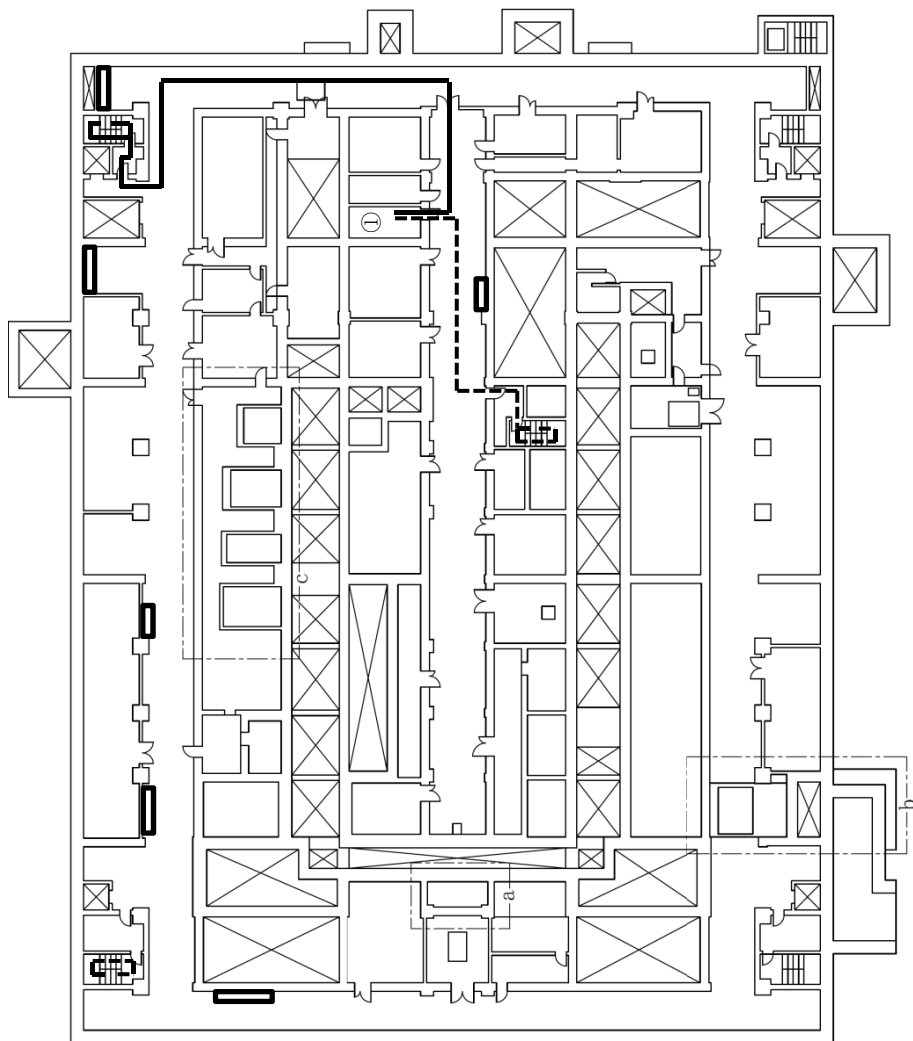
— : 敷設ルート 南1

- - - : 敷設ルート 南2

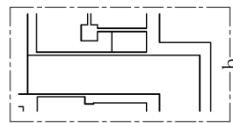
□ : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所



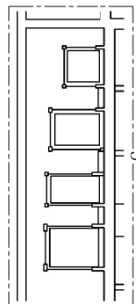
対象貯槽	接続口 (給水口及び 排水口)
フルトニウム濃縮液受槽	①
リサイクル槽	
希釈槽	
フルトニウム濃縮液一時貯槽	
フルトニウム濃縮液計量槽	
フルトニウム濃縮液中間貯槽	



T.M.S.L. 約+50,000



T.M.S.L. 約+51,500



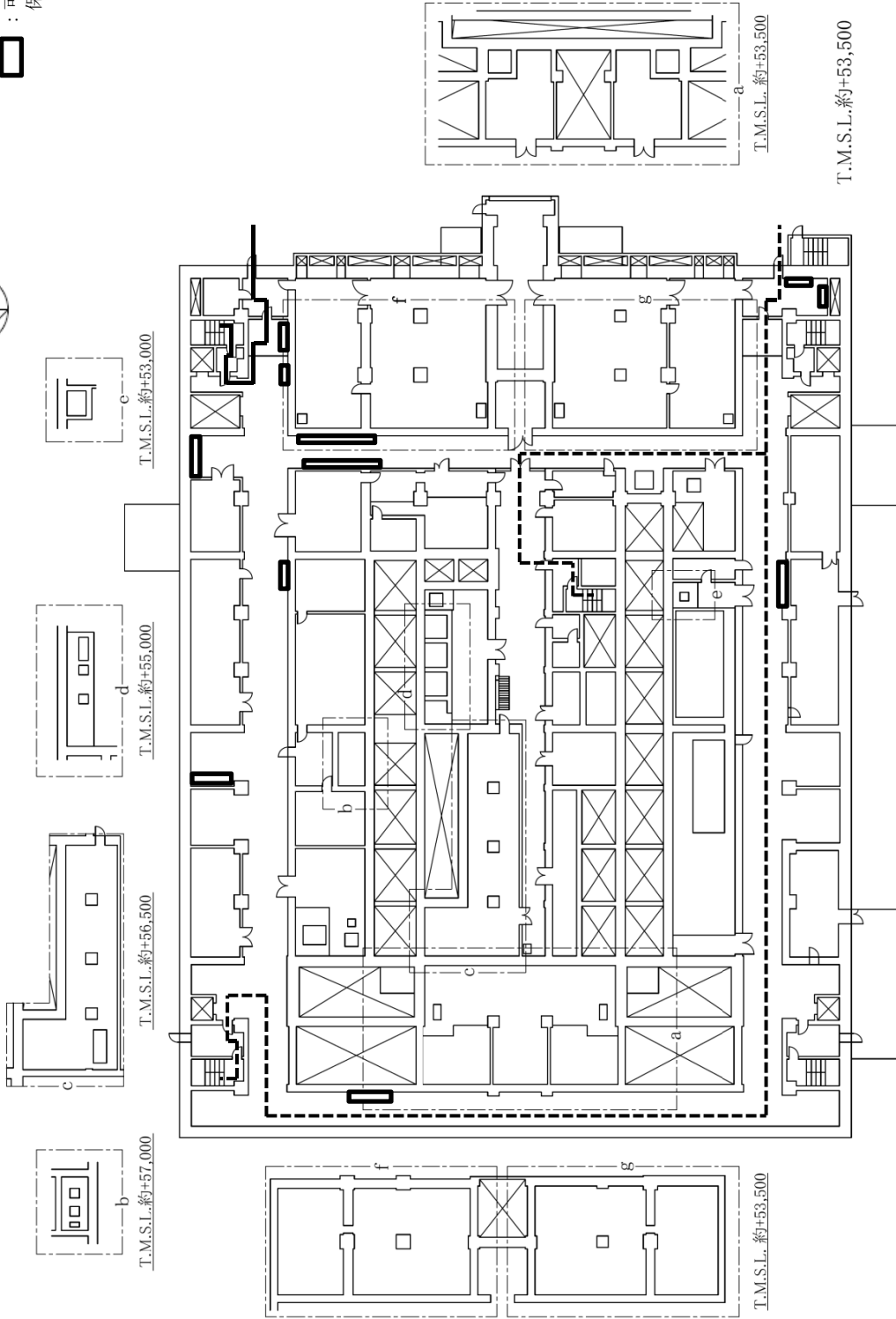
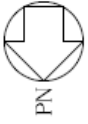
T.M.S.L. 約+51,500

T.M.S.L. 約+48,500

蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地下1階）

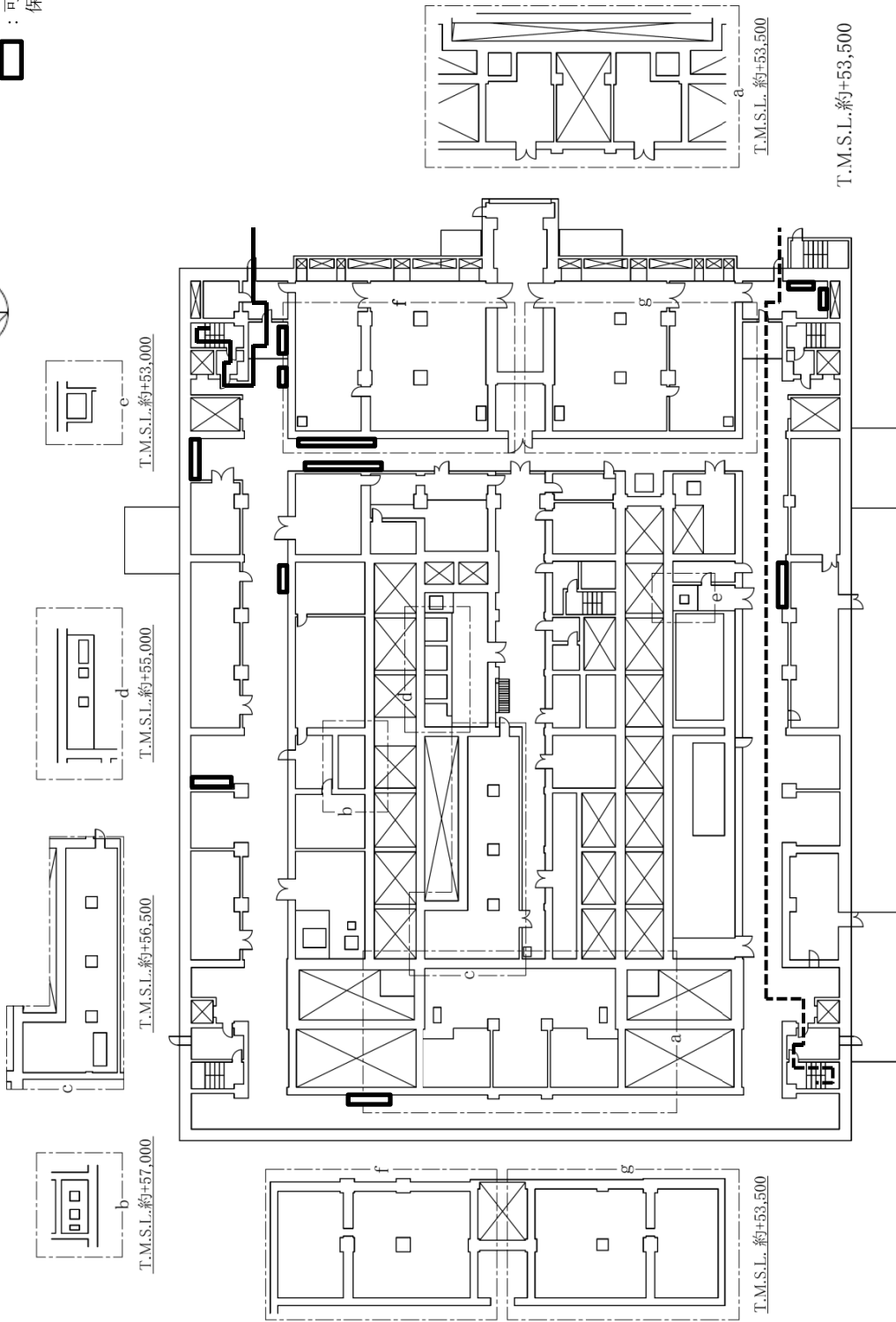
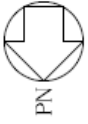


- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

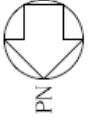


蒸発乾固の拡大防止対策（冷却コイル等への通水による冷却）の建屋内ホース敷設ルート  
精製建屋（第2接続口）（地上1階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

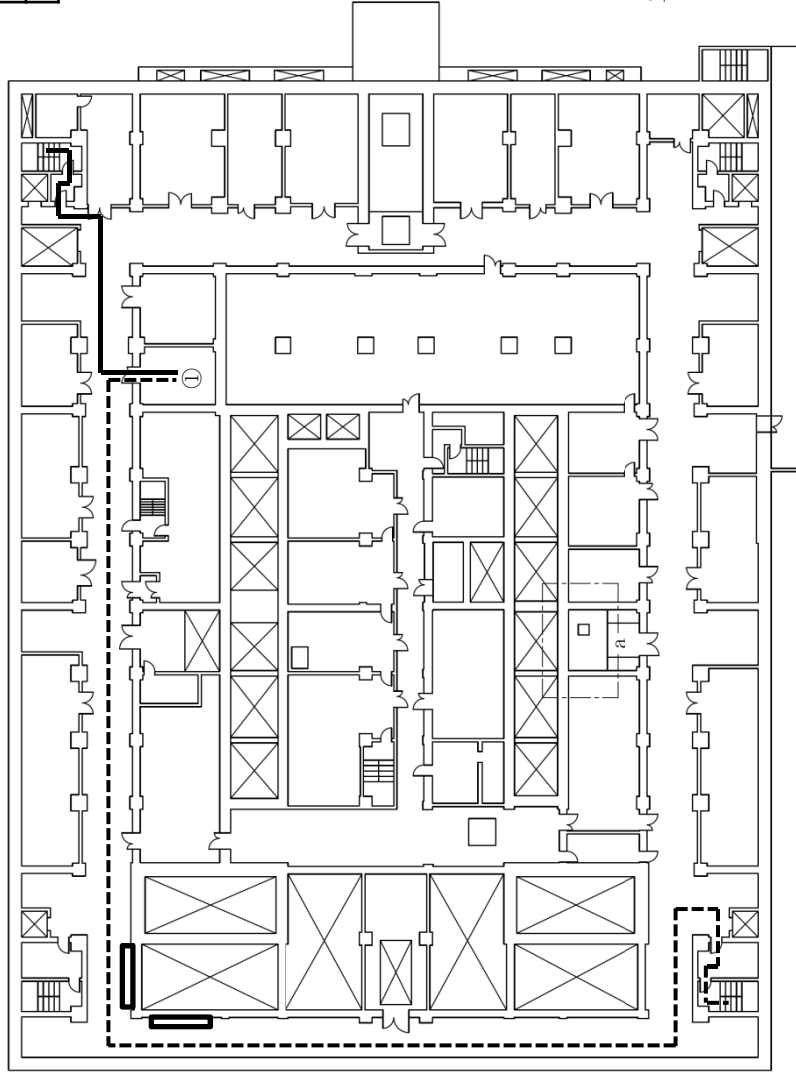


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上1階）



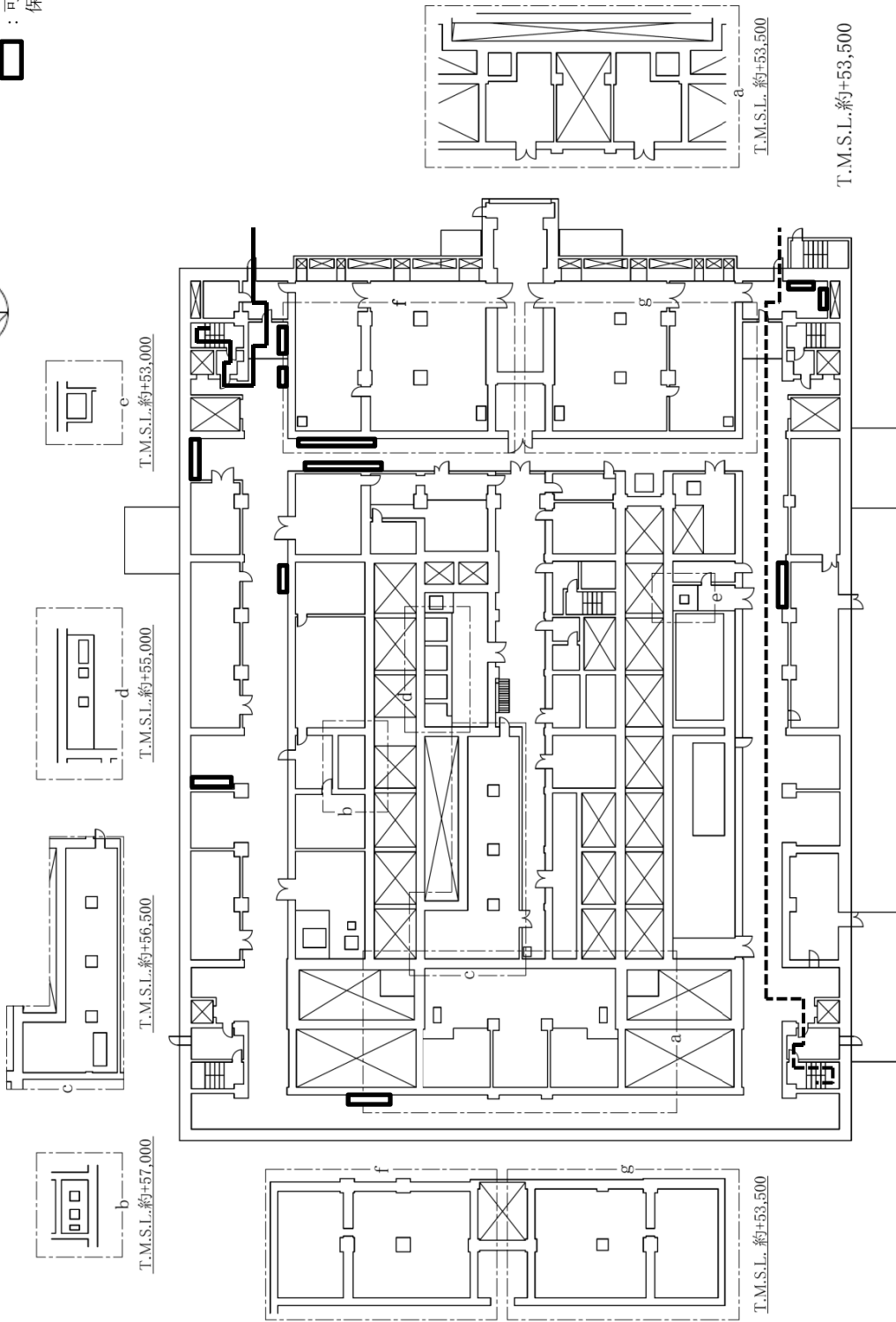
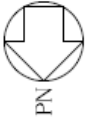
- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象機器	接続口 (給水口及び 排水口)
凝縮器	①



蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上2階）

- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+53,000

T.M.S.L. 約+55,000

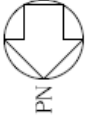
T.M.S.L. 約+56,500

T.M.S.L. 約+57,000

T.M.S.L. 約+53,500

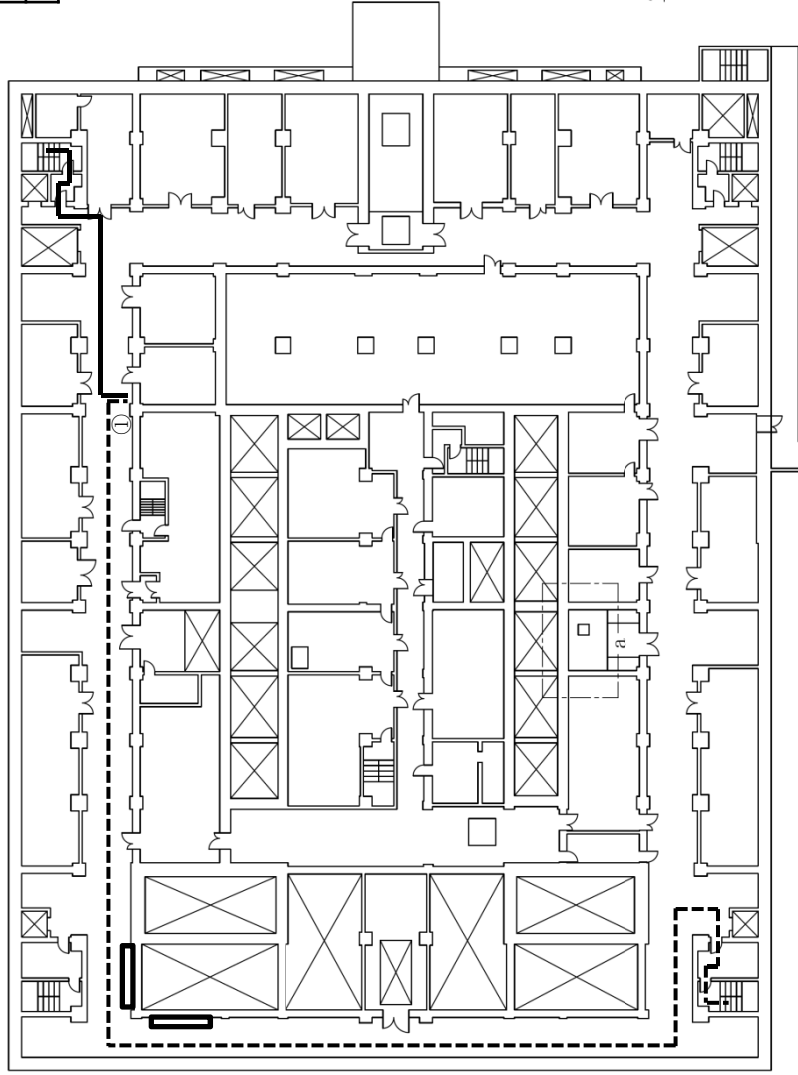
T.M.S.L. 約+53,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上1階）



- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

対象機器	接続口 (給水口及び 排水口)
凝縮器	①

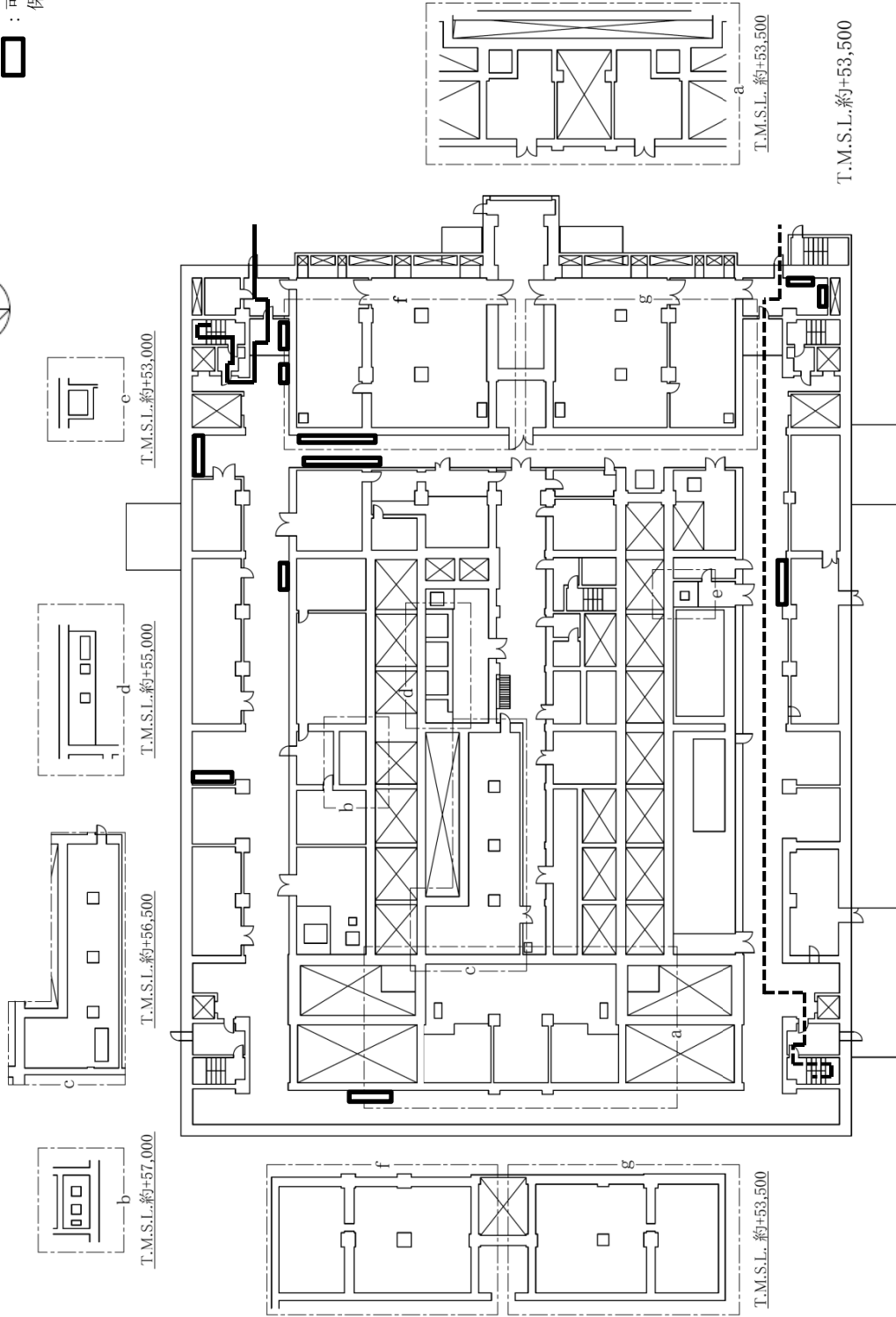
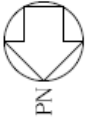


T.M.S.L. 約+60,000

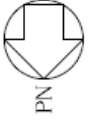
T.M.S.L. 約+60,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上2階）

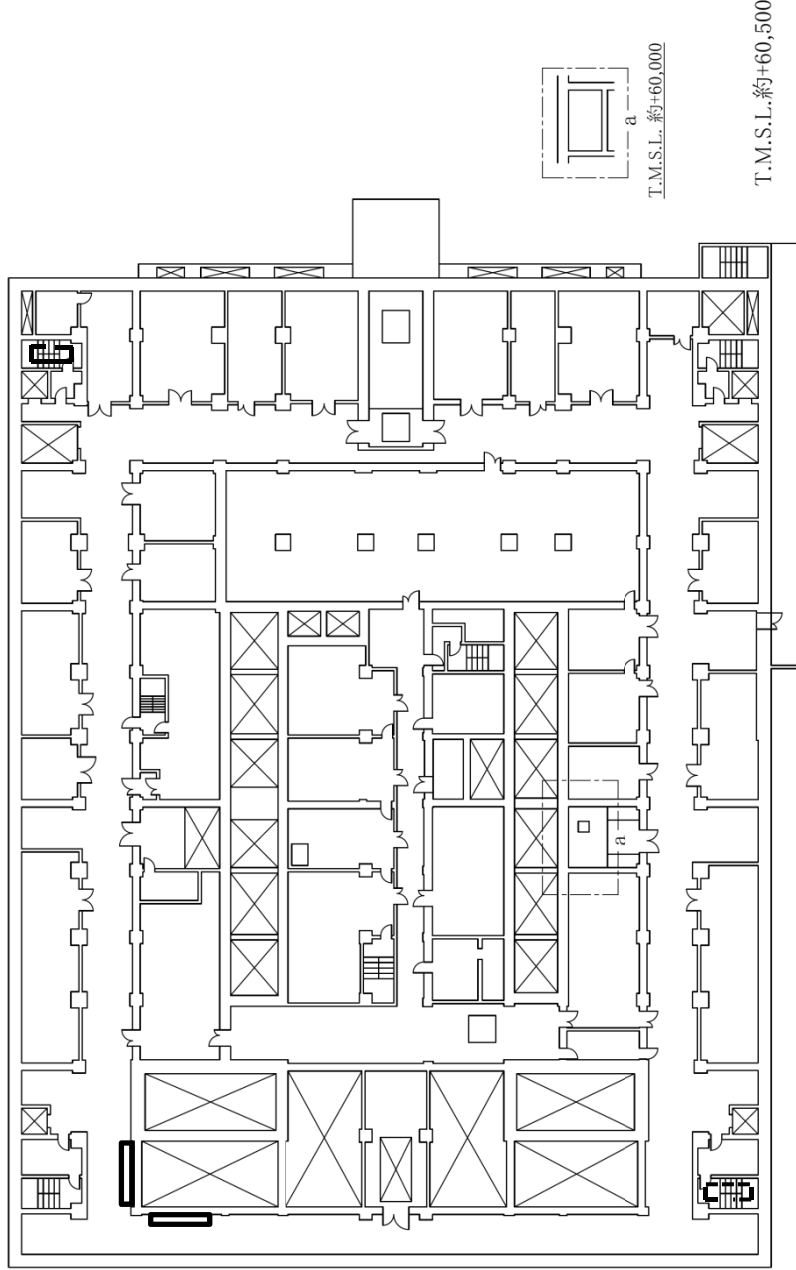
- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



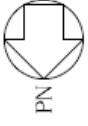
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上1階）



- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



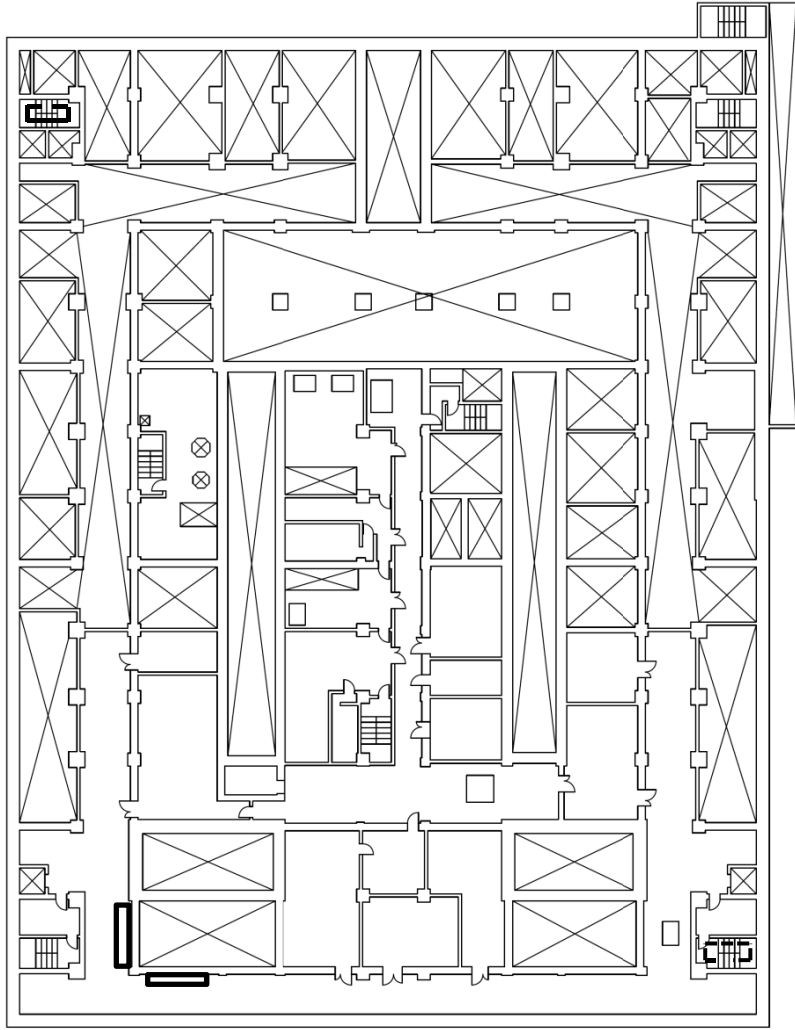
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上2階）



— : 敷設ルート 南 1

- - - : 敷設ルート 南 2

□ : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所

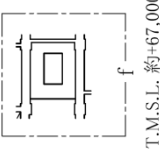
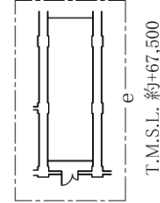
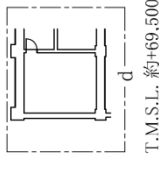
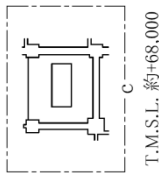
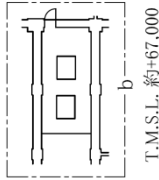
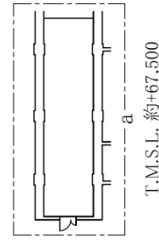
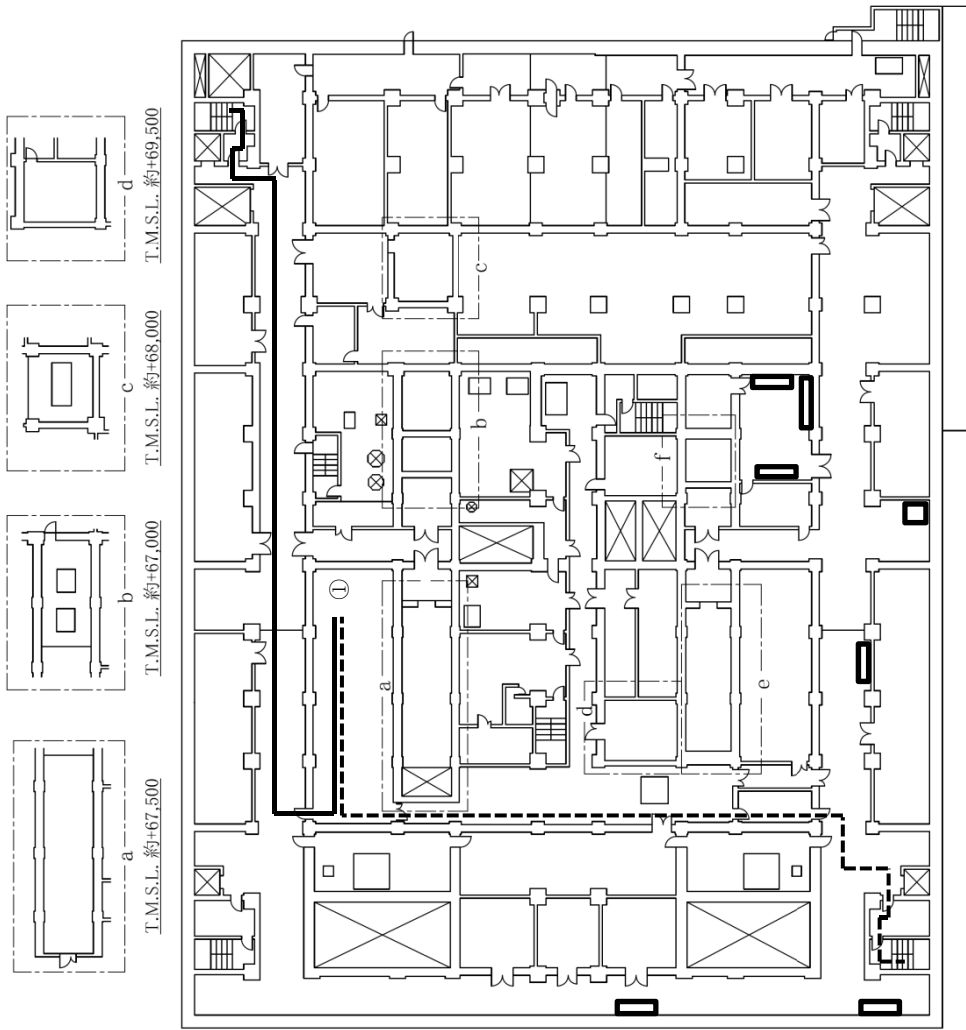


T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上3階）



- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故等対処設備  
保管場所

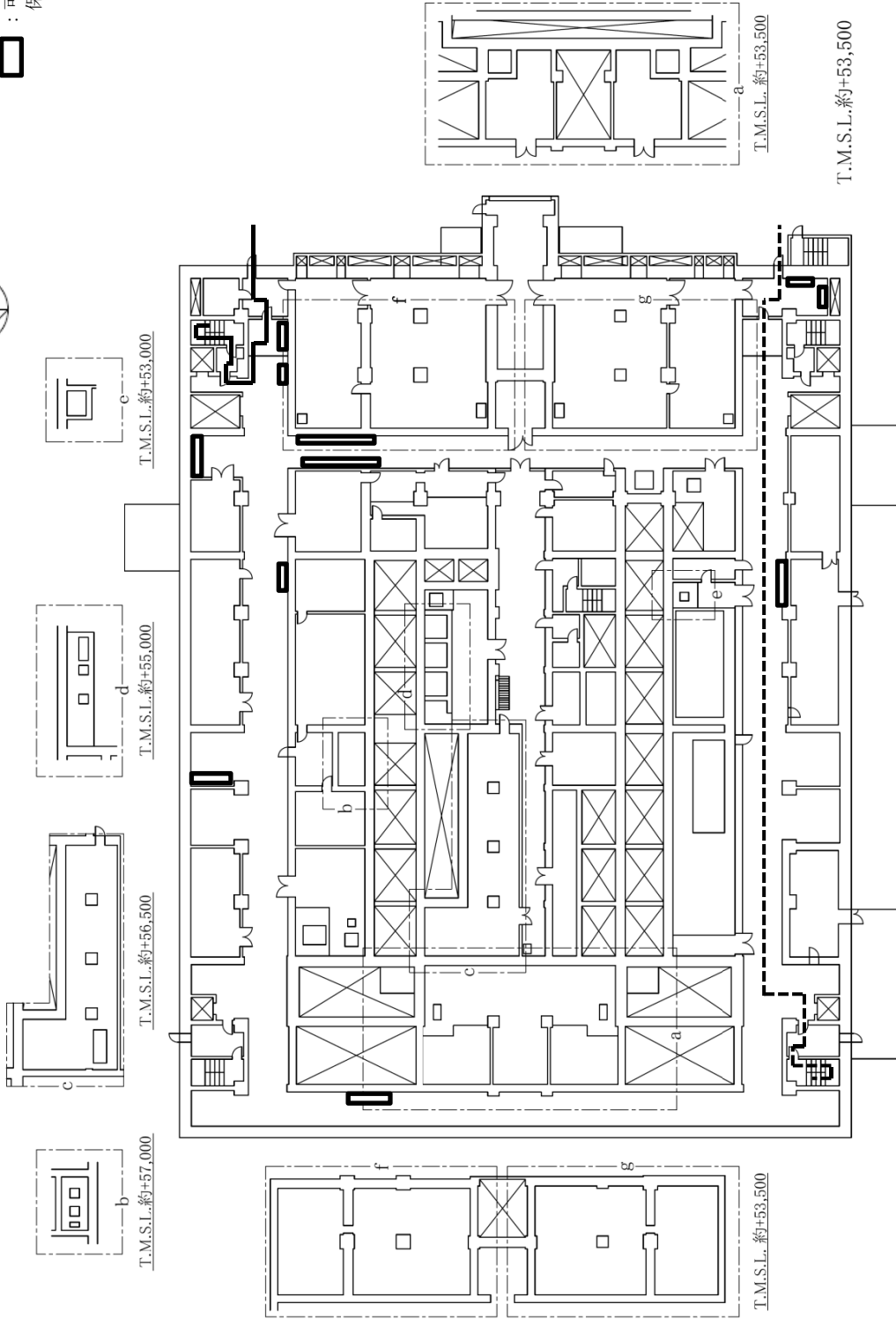
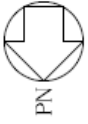


対象機器	接続口 (給水口及び 排水口)
予備凝縮器	①

T.M.S.L. 約+65,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第1接続口）（地上4階）

- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



T.M.S.L. 約+53,000

T.M.S.L. 約+55,000

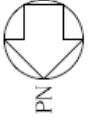
T.M.S.L. 約+56,500

T.M.S.L. 約+57,000

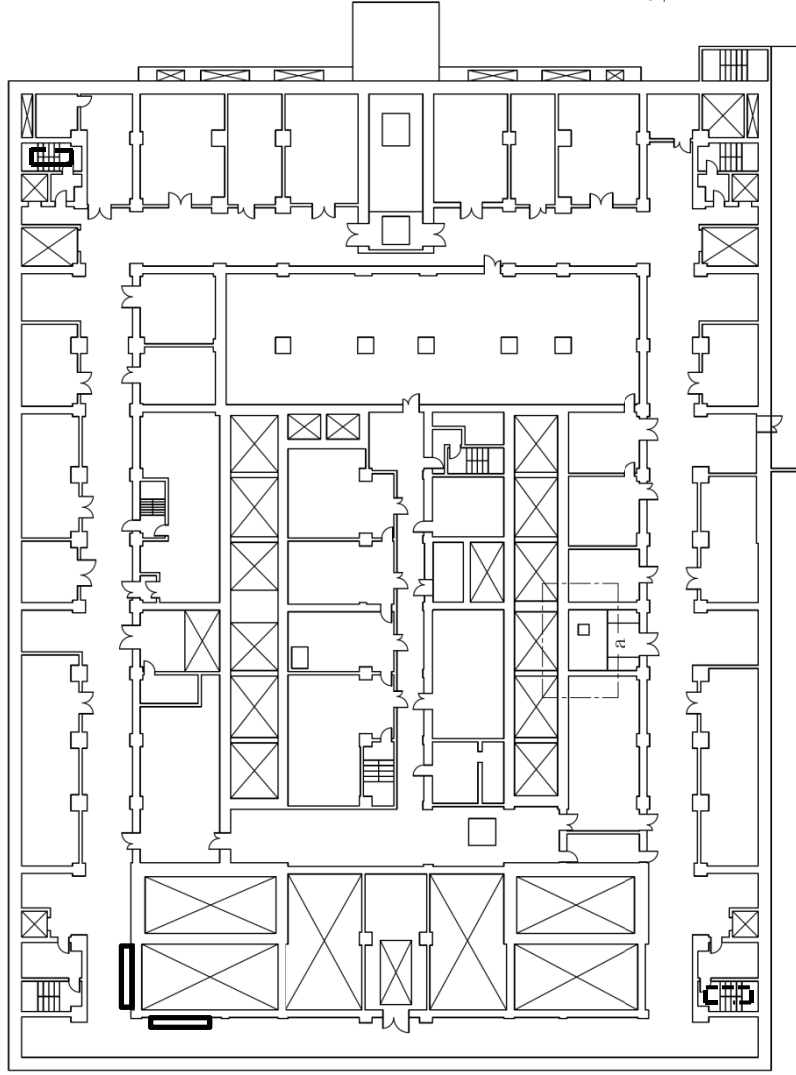
T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

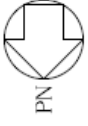
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上1階）



- : 敷設ルート 南 1
- - - : 敷設ルート 南 2
- : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



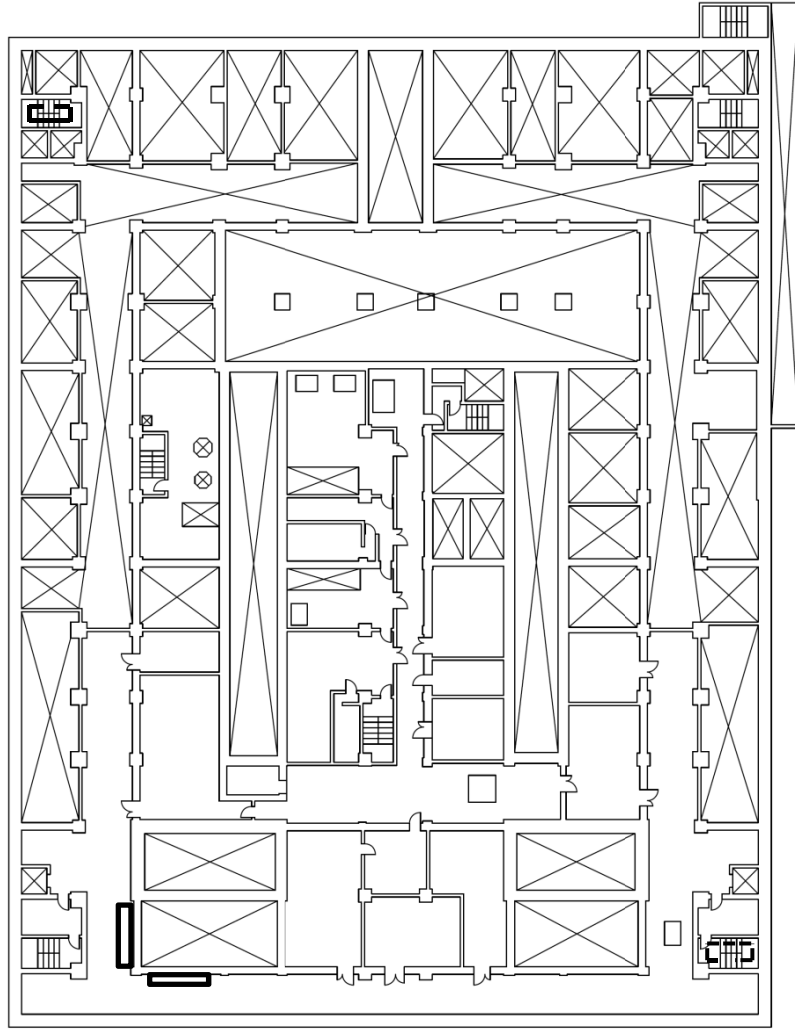
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上2階）



— : 敷設ルート 南 1

- - - : 敷設ルート 南 2

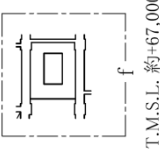
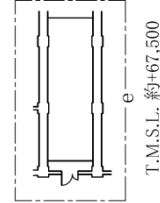
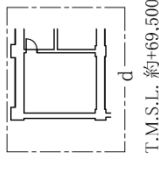
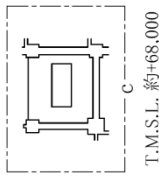
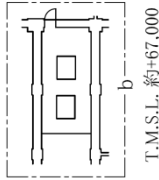
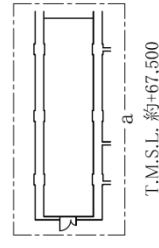
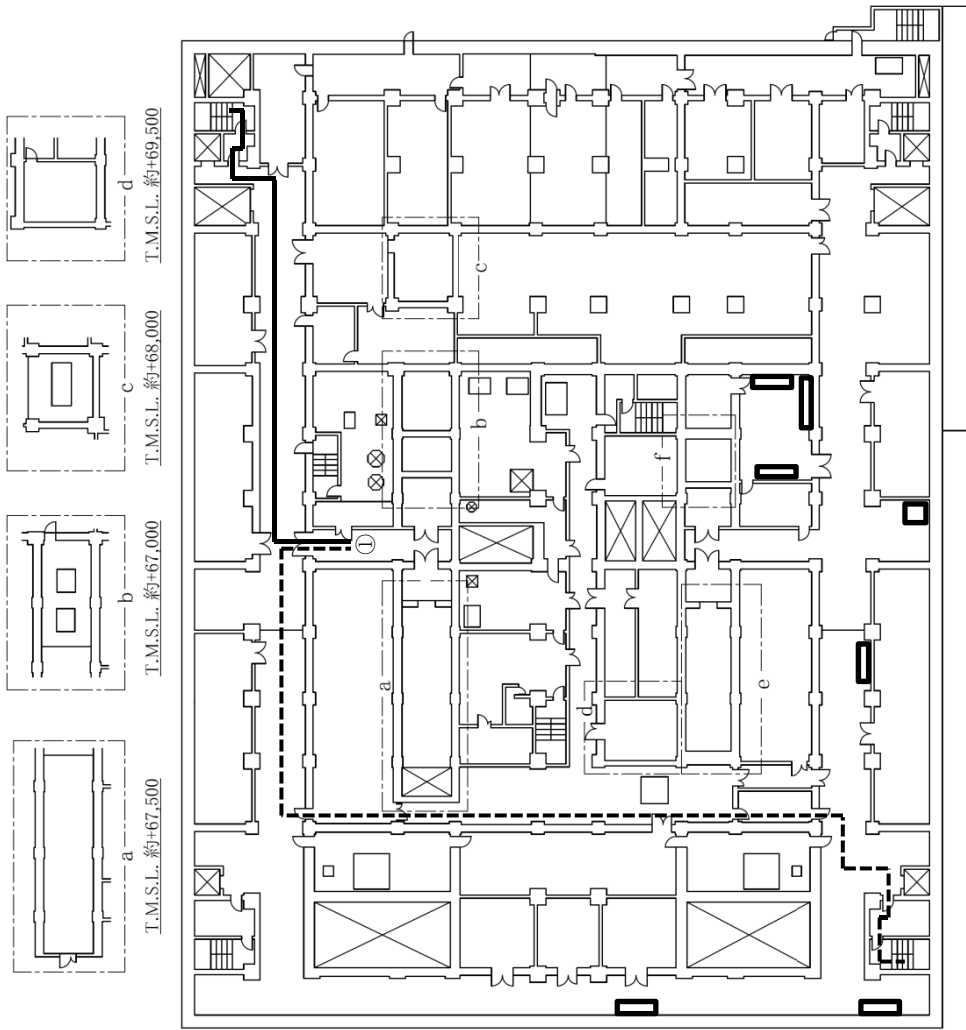
□ : 可搬型重大事故等対応処設備  
保管場所



T.M.S.L.約+64,000

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上3階）

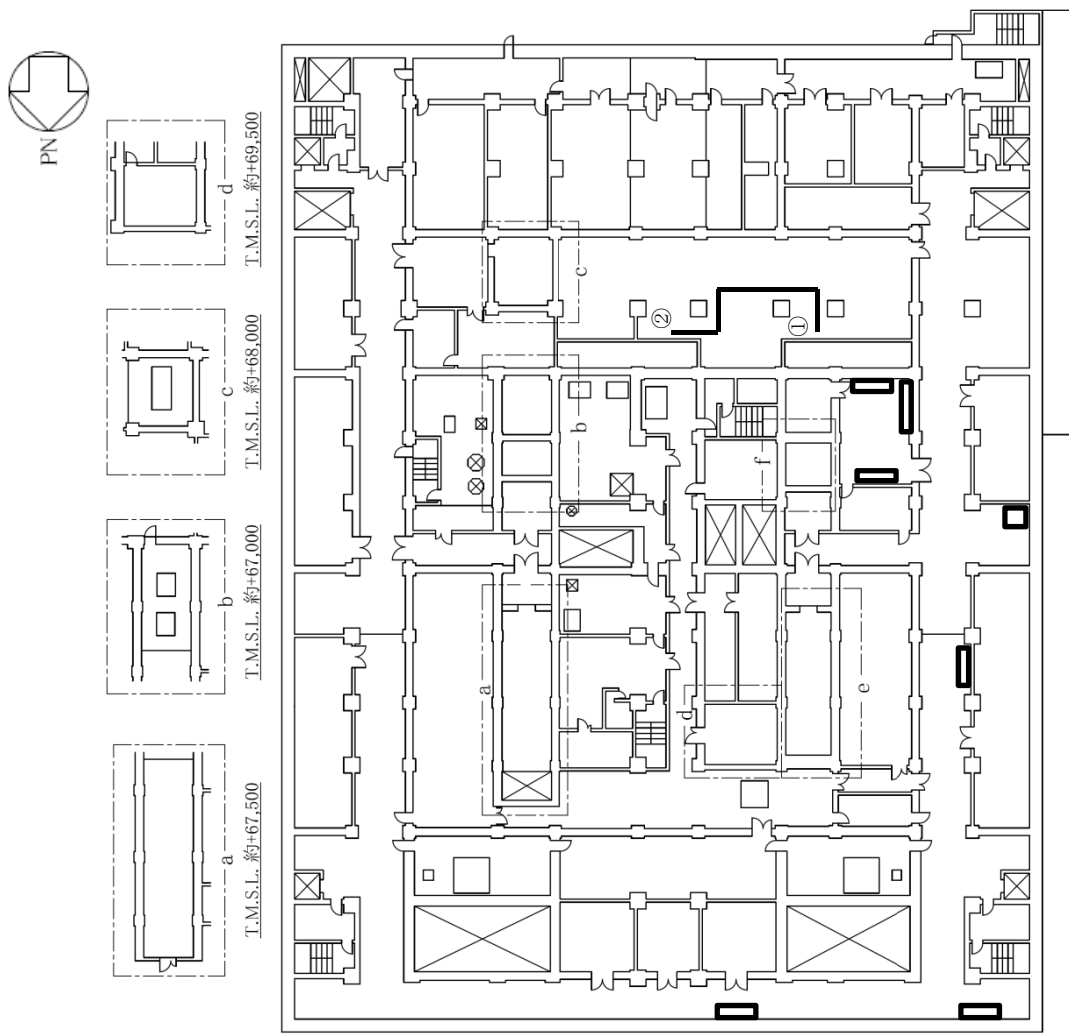
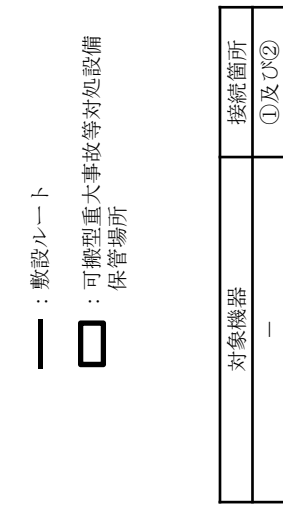
- : 敷設ルート 南1
- - - : 敷設ルート 南2
- : 可搬型重大事故対応処設備  
保管場所



対象機器	接続口 (給水口及び 排水口)
予備凝縮器	①

T.M.S.L.約+65,500

蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
の建屋内ホース敷設ルート（予備凝縮器への通水） 精製建屋（第2接続口）（地上4階）



T.M.S.L.約+65,500

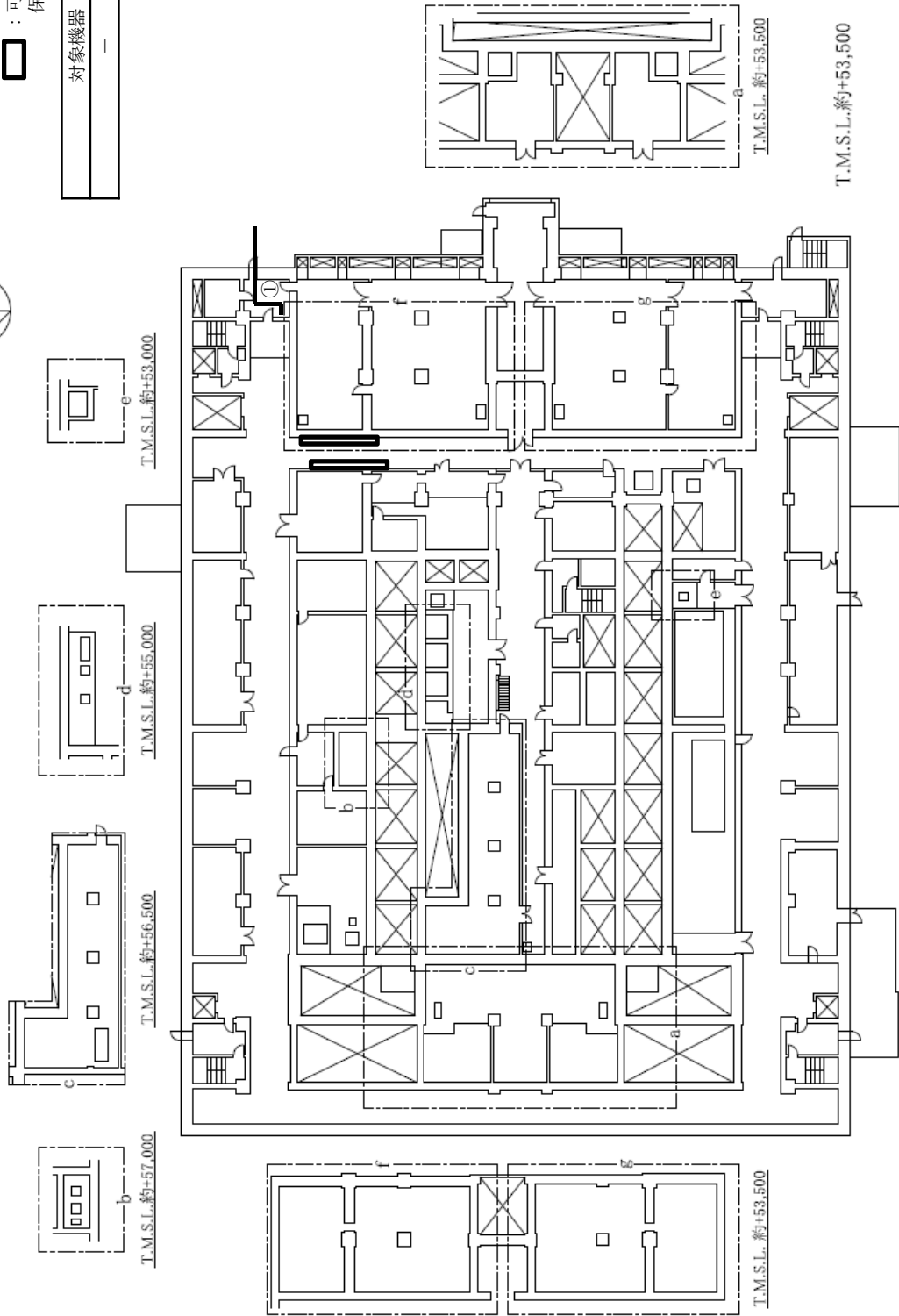
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
 の可搬型ダクト敷設ルート 精製建屋（地上4階）

— : 敷設ルート



□ : 可搬型重大事故等対応設備  
保管場所

対象機器	接続口
—	①



T.M.S.L. 約+57,000

T.M.S.L. 約+56,500

T.M.S.L. 約+55,000

T.M.S.L. 約+53,000

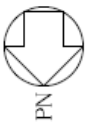
T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

T.M.S.L. 約+53,500

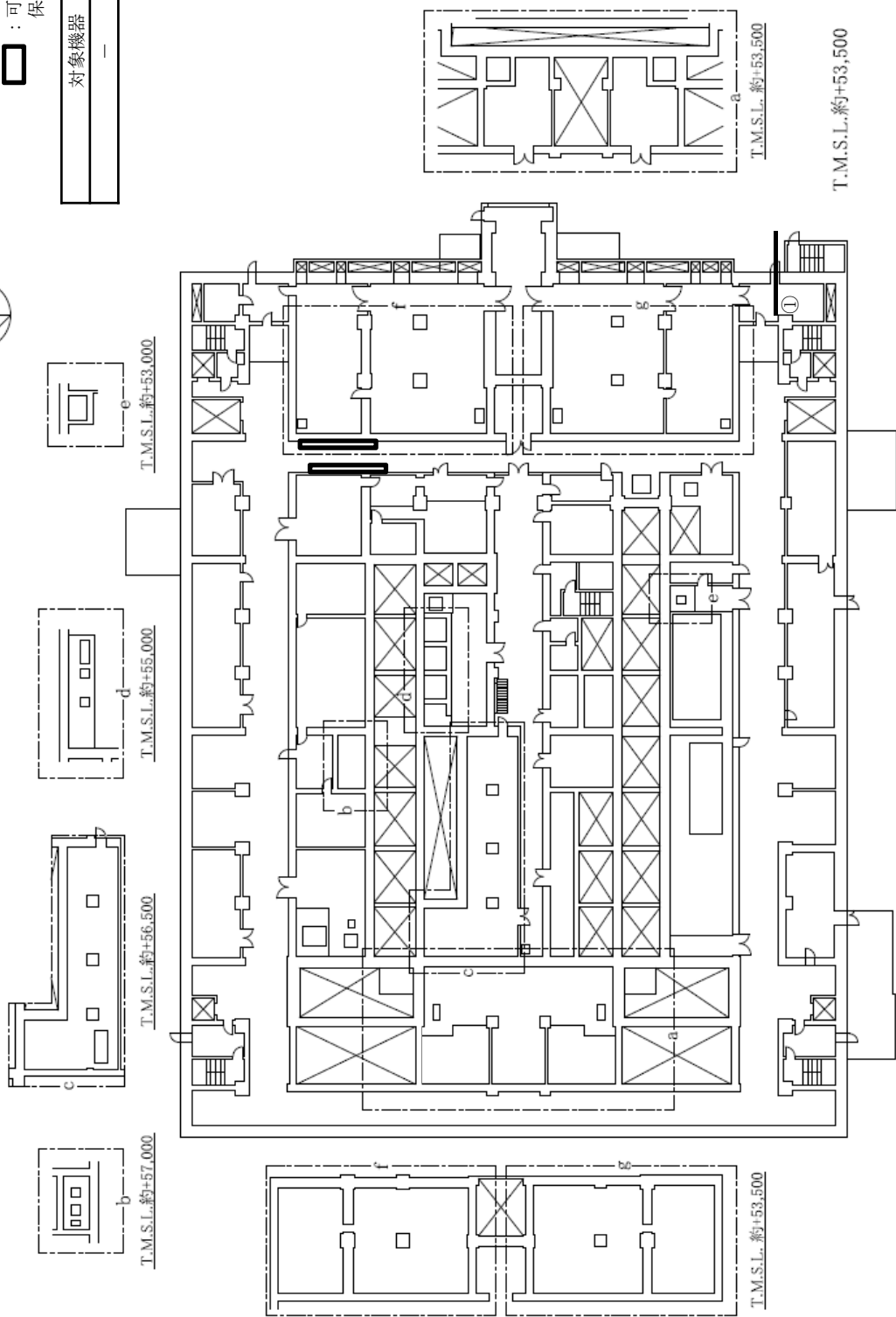
蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のウラン・プルトニウム混合脱硝建屋可搬型発電機からの給電に係る精製建屋内可搬型電源ケーブル  
敷設ルート（第1接続口）（地上1階）

— : 敷設ルート



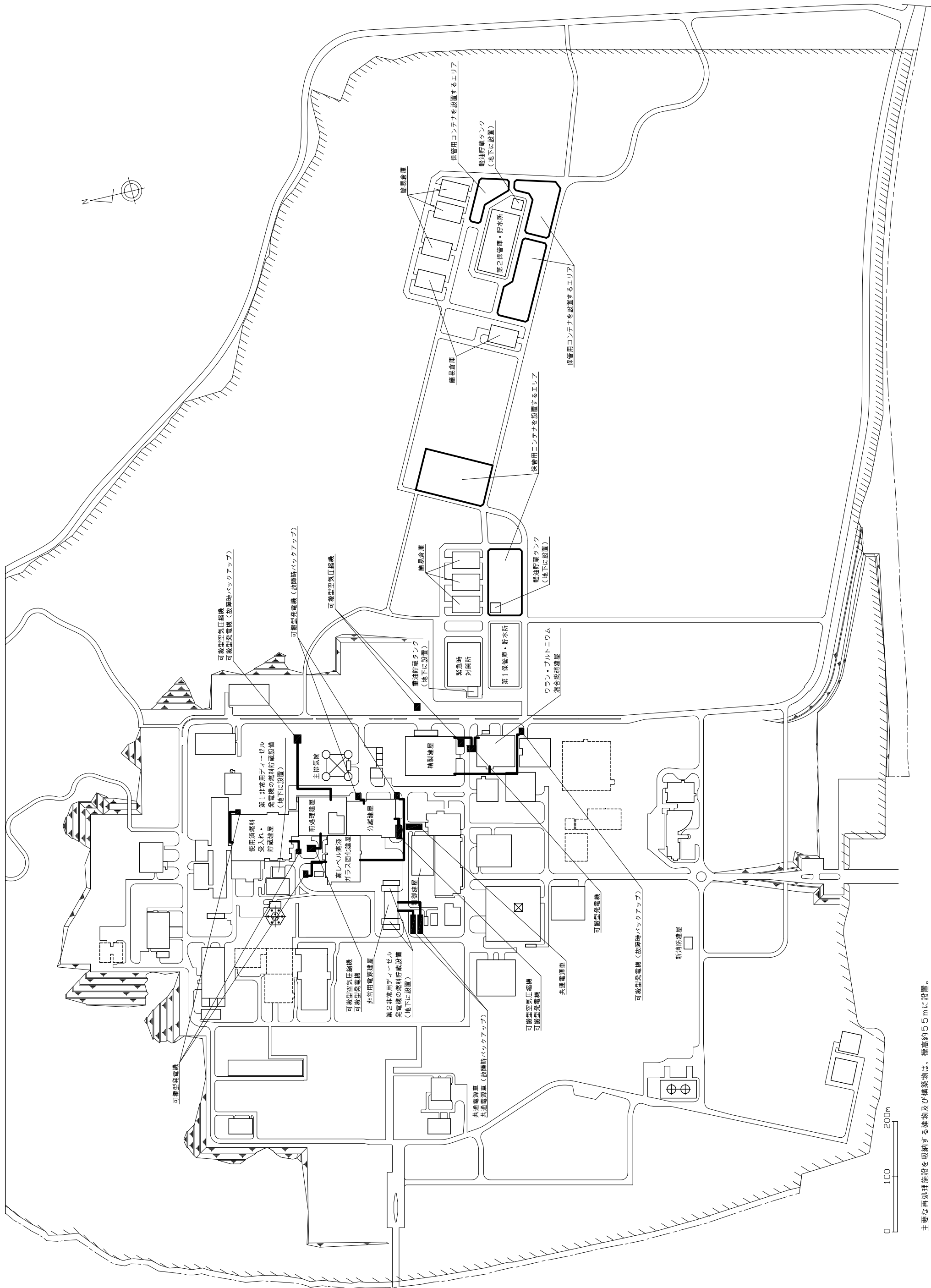
□ : 可搬型重大事故対応処設備  
保管場所

対象機器	接続口
—	①

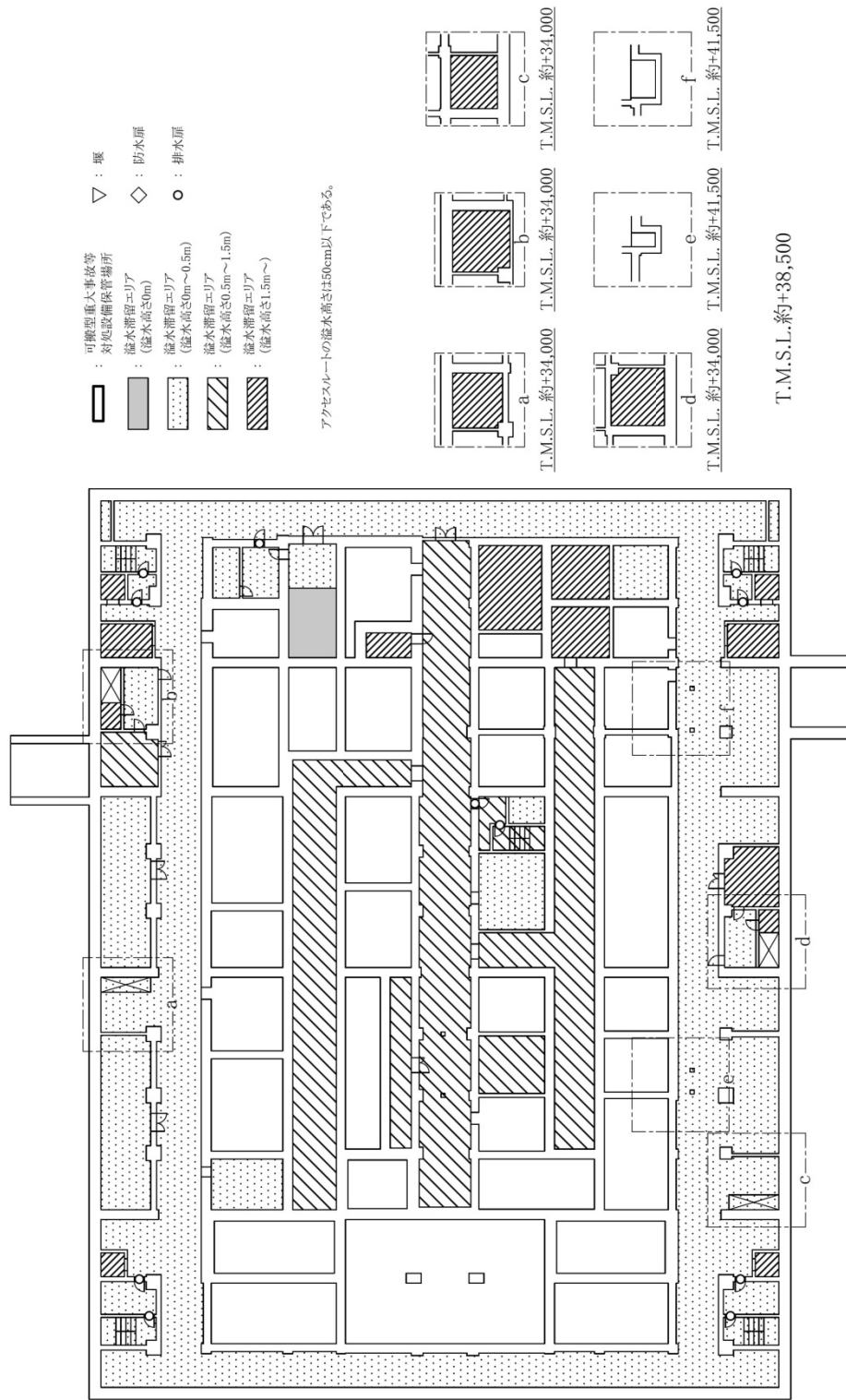


蒸発乾固の拡大防止対策（セルへの導出経路の構築及びセル排気系を代替する排気系による対応）  
のウラン・プルトニウム混合脱硝建屋可搬型発電機からの給電に係る精製建屋内可搬型電源ケーブル  
敷設ルート（第2接続口）（地上1階）



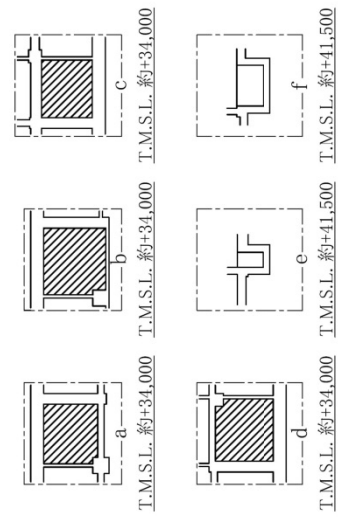


主要な再処理施設を取納する建物及び構築物は、標高約5mに設置。

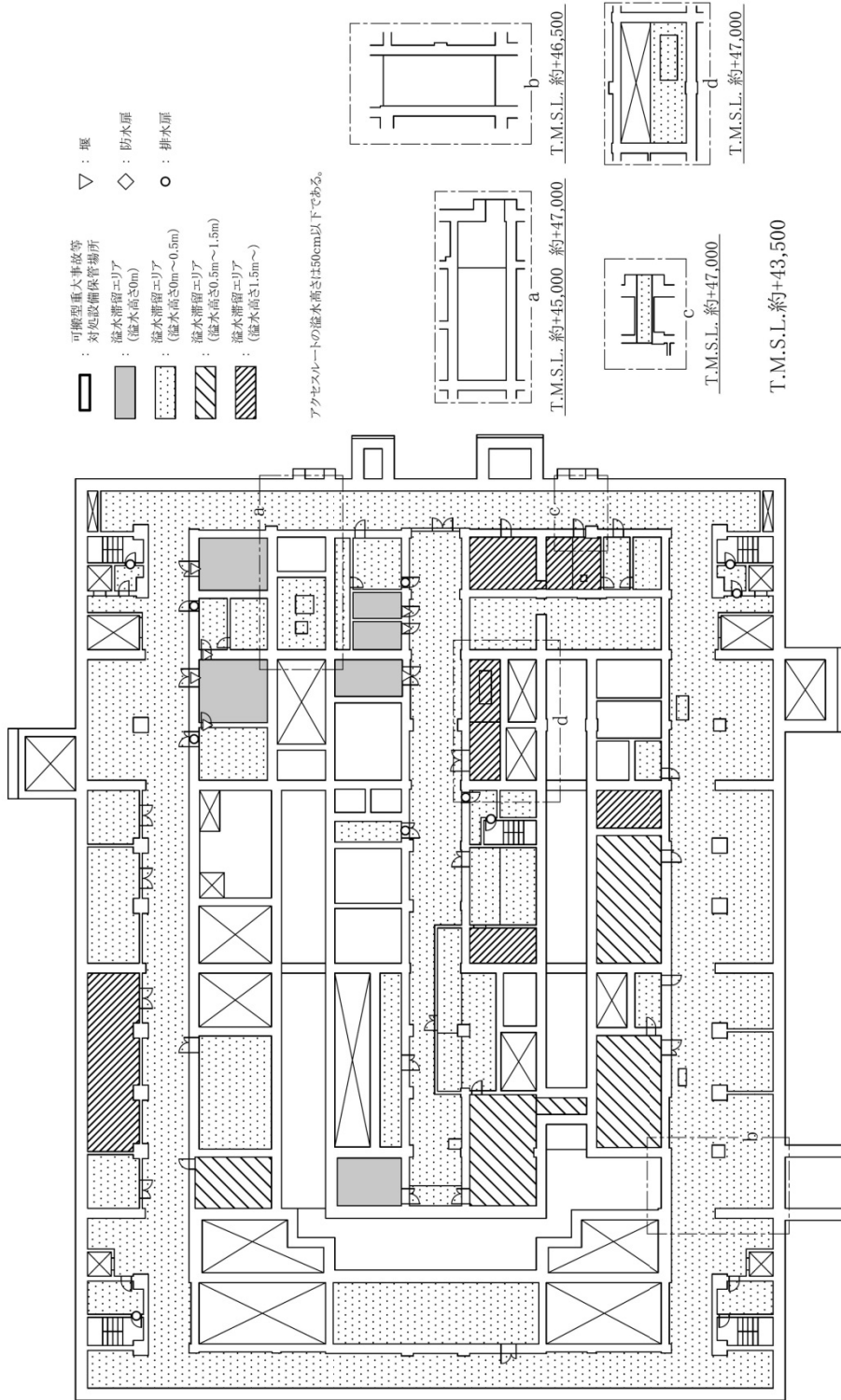


- ▽ : 堰
- ◇ : 防水扉
- : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
- 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アケスルーの溢水高さは50cm以下である。



溢水ハザードマップ 精製建屋 (地下3階)



- ▽ : 堰
  - ◇ : 防水扉
  - : 排水扉
- 可搬型重大事故等  
対処設備保管場所
  - 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m)
  - 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0m~0.5m)
  - 溢水滞留エリア  
(溢水高さ0.5m~1.5m)
  - 溢水滞留エリア  
(溢水高さ1.5m~)

アケレスルートの溢水高さは50cm以下である。

T.M.S.L. 約+45,000 約+47,000  
T.M.S.L. 約+46,500  
T.M.S.L. 約+47,000  
T.M.S.L. 約+47,000  
T.M.S.L. 約+43,500

溢水ハザードマップ 精製建屋 (地下2階)